特報!! 皇帝ヒョードル、ボードッグ強行出撃!

kamipro 紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING M

enterbrain MOOK

2007
110
880yen





KAMIKAZE吹き荒れる
桜庭PRIDE電撃復帰を追う!!

田村潔司
榊原信行
谷川貞治

セレブとは何か?
デヴィ夫人

ついに実現!? 桜庭和志vs田村潔司が
PRIDEvsK-1の壁をブチ壊す!!

田村さん! 夢の懸け橋、必要ですよ!!

PRIDE新世界を
新オーナーが独占激白!

ロレンゾ・フェティータ
ソクジュ
青木真也

さらば我らがボヤキング!!
あと一試合で引退スペシャル!!
金原弘光

ついに実現!! 国民注目の対ケツ!
越中詩郎×ケンドーコバヤシ

kamipro 110 夢の懸け橋、必要ですよ!!

印刷・製本／図書印刷株式会社

enterbrain


超アニメヒーローズ　魁!! 男塾　フィギュア登場!!
怒涛のラインナップ 28種類＋α　一挙に発売!!
送料は全国一律315円(税込)!!
CHARAZO.Jp
キャラZO
超アニメヒーローズ
MINI BIG HEAD FIGURE
全国のコンビニエンスストア
サークルK・サンクスで好評発売中！
※一部お取り扱いのない店舗があります。
CHARAZO.Jp キャラクターグッズサイト【キャラZO】ではBOX販売のみを行います。
【ラインナップ】 全28種類＋α
全28種類＋α　315円(税込)/個 ブラインドBOX仕様
確保数量に達した場合は完売となります。予めご了承ください。
全28種＋α
剣　桃太郎
富樫源次
虎丸龍次
J
伊達臣人
雷電
飛燕
月光
赤石剛次
大豪院邪鬼
影慶
羅刹
卍丸
センクウ
男爵ディーノ
独眼鉄
蝙翔鬼
江田島平八
鬼ヒゲ
王　大人
森田大器
藤堂兵衛
藤堂豪毅
スパルタカス
紫蘭
洪　礼明
劉　菘肱
ラジャ・マハール
???
???
魁!!男塾
© 宮下あきら／集英社・東映アニメーション
超アニメヒーローズ 魁！男塾
20個入りBOX
商品番号: 107001
6,300円 (税込)
■ 商品素材: PVC　■ 商品本体: 全高約5cm前後
※中身はどのキャラクターかは選べません、またランダムに入っております
全国のコンビニエンスストアサークルK・サンクスで好評発売！
※一部お取り扱いのない店舗があります。
CHARAZO.Jp キャラZO
キャラクターグッズサイト【キャラZO】ではBOX販売のみを行います。
国内最大級、約20の団体・事務所のグッズが丸ごと買える！
[RING SIDE]でも発売中!!
アニメヒーローズ
MINI BIG HEAD FIGURE
ミニビッグヘッドフィギュア
タイガーマスク
【ラインナップ】 全24種類＋α
全24種類＋α 263円 (税込) /個 ブラインドBOX仕様
確保数量に達した場合は完売となります。予めご了承ください。
タイガーマスク
伊達直人
ミスターX
獣人ゴリラマン
スカルスター
ザ・ドラキュラ
ザ・ゴールデンマスク
ミスター・ノー
キング・サタン
ザ・エジプト・ミイラ
ザ・ライオンマン
ザ・グレートゼブラ
ザ・ピラニアン
デビル・スパイダー
ミスター・クエスチョン
ザ・レッドデスマスク
ミスター・カミカゼ
ミスター不動
虎の穴の支配者
???
ブラック・タイガー
ビッグ・タイガー
キング・タイガー
ミラクル3
タイガー・ザ・グレート
アニメヒーローズ
タイガーマスクが登場！
24種類＋α 強力ラインナップで登場！
© 梶原一騎・辻なおき／講談社・東映アニメーション
アニメヒーローズ
「タイガーマスク」
20個入りBOX
商品番号: 107002
5,250円 (税込)
■ 商品素材: PVC　■ 商品本体: 全高約4cm前後
※中身はどのキャラクターかは選べません、またランダムに入っております。
CHARAZO.Jp
キャラZO
ご注文の際のご注意
・配送料について　表示価格は商品のみの税込み価格です。配送料が別途発生いたします。配送料金は全国一律315円(税込)。これは、ご購入金額・商品数の多少にかかわらず一律です。
・代金の支払方法について　すべての商品は代金前払いとなっております。「お電話」、「携帯電話サイト」からのご注文は、代金引換払い(配達時に現金でお支払い)のみとさせていただきます。「パソコンサイト」からのご注文は、クレジットカード、コンビニエンスストアからのお支払い、代金引換払いからお選びいただけます。代金引換払いの場合は送料の他、315円(税込)が必要となります。
・ご注文受付から、商品到着までの期間について　お支払方法により異なります。
カード払い・代金引換払いの場合…ご注文確定より3～7日コンビニエンスストア支払いの場合…お支払いただいてから3～7日
※在庫切れの場合は別途ご連絡いたします。※お取り寄せ商品については、お時間をいただくことがございます。
・ご返品に対する対応について　不良品の返品について…弊社送料負担
お客様のご都合による返品は原則としてお受けしておりませんが、商品到着後8日以内で未開封のものに限り、お問合せ先へのメールまたはときめきモールカスタマーセンターまでご連絡をいただいた上、返品をお受けいたします。(送料はお客様負担)
＜お問合せ＞・メール　inquiry@toki-meki.com までお問合せください。・電話　ときめきモールカスタマーセンターTEL0120-215-621までお問合せください。(受付時間　10:00～17:00　月～金(祝日を除く))
※詳細につきましては、弊社ホームページ(http://tokimekimall.jp)の「ご利用ガイド」をご参照ください。
ご注文は、下記要領で　パソコンサイト以外からのご注文は、代金引換払いのみとなります。
お電話からは
FreeDial 0120-215-621　受付時間10:00～17:00 月～金(祝日を除く)
IP電話等からは03-5637-0239へ
パソコン・ケータイからは
http://charazo.jp
FAXからは
03-5637-0238　お手持ちの白紙に、住所・氏名・年齢・性別・職業・電話番号・FAX番号・Eメールアドレスと、ご注文の商品名・商品番号・数量をご記入頂き、上記のFAXまでお送りください。ご注文は24時間受付けております。
[CHARAZO] 運営会社 ： ときめきドットコム株式会社　〒130-0004　東京都墨田区本所1-4-18　ときめきドットコム(株)は、(株)サークルKサンクスの関連会社です。

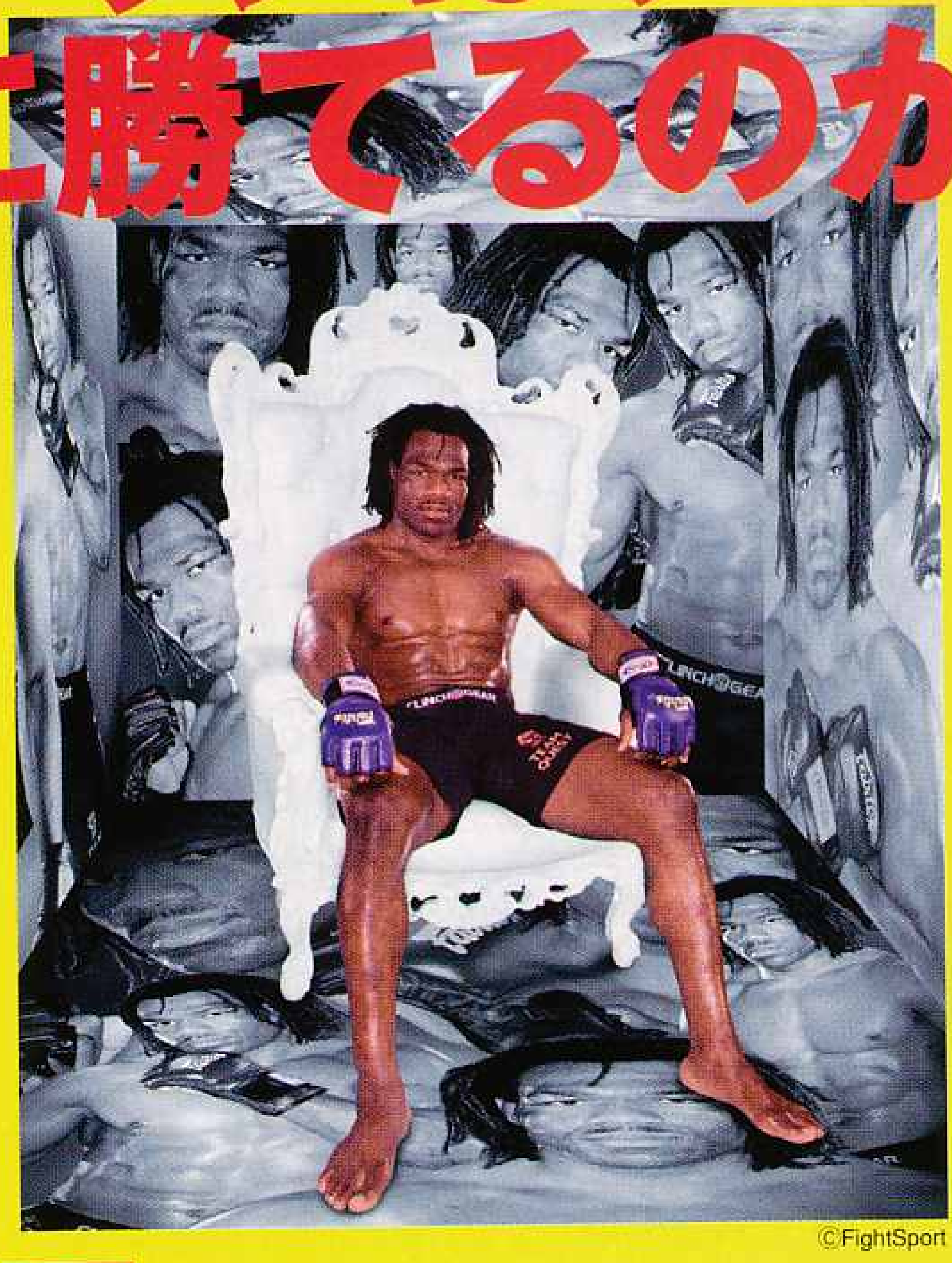
2007 No.110 CONTENTS

kamipro

表紙写真／乾晋也


本当に国家規模のMMA大戦争勃発!!

キリンはプーチンに勝てるのか?



©FightSport

PRIDEに吹き荒れた
桜庭vs田村というKAMIKAZE



大津波を押し返す
ジャパニーズ・スタイル
守れんのか!?

文／ジャン斉藤　撮影／乾晋也

DSE体制〝最後の夜〟となった、4月8日『PRIDE・34 KAMIKAZE』――。

やけに意味深なそのサブタイトルどおり、会場のさいたまスーパーアリーナには、とてつもない〝神風〟が吹き荒れた。

いつもと変わらない『PRIDE』の純白のリングに、信じられないスリーショットが実現していた。今大会をもって勇退する榊原信行DSE代表を挟んで、因縁の二人の男が並び立つ。

一人はスーパー・タイガーの覆面越しに涙を見せる、桜庭和志！ もう一人はとうとう重い腰を上げた、田村潔司!!

榊原代表が前日に予告したビッグサプライズは、この二人の顔合わせだった。

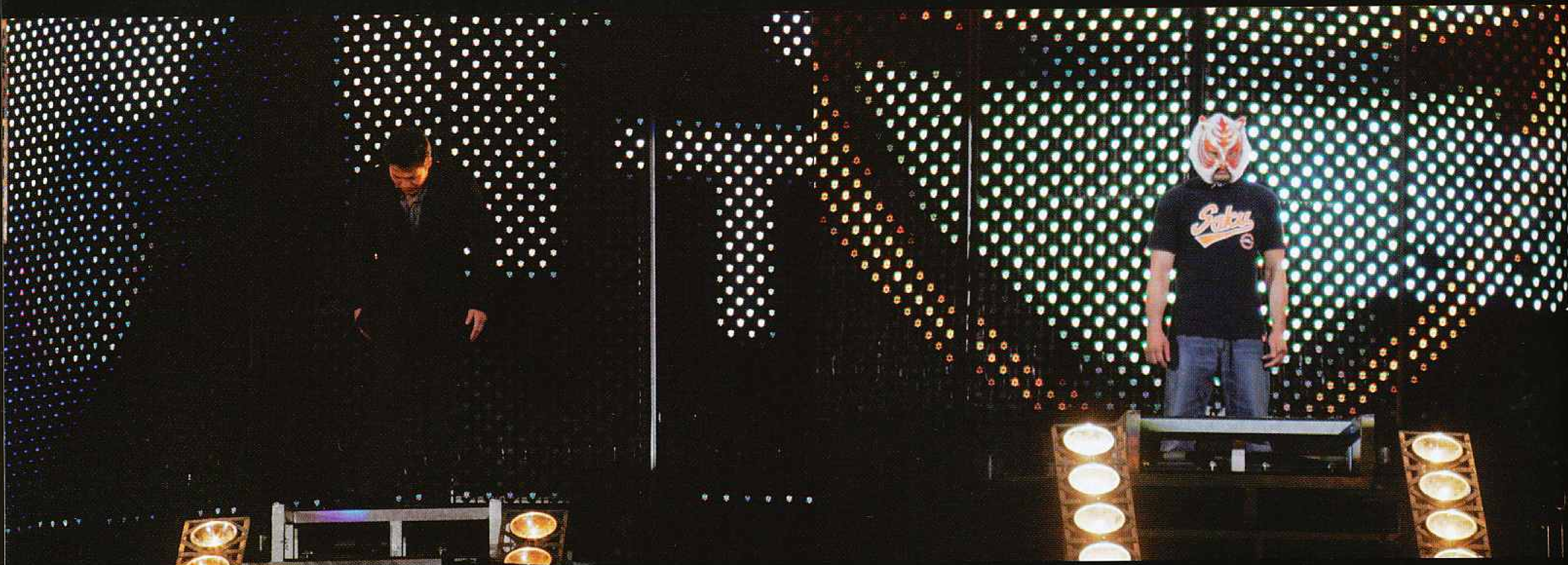
それにしても、この奇跡的な風景。あらためて振り返ってみると、桜庭和志はむしろ挨拶だけの登場のほうが、〝一瞬の美しさ〟を表現できたのかもしれない。

〝ミスター・PRIDE〟と呼ばれた男が、『PRIDE』10周年の節目に、そしてDSE最終興行に花を添え、再び去っていく。そうすれば、桜庭和志やDSEは美しい思い出として、ファンや関係者の胸の中に刻み込まれていくだろう。

しかし――『PRIDE』も、桜庭和志も、田村潔司も、そして桜庭を快く送り出したK―1も、〝思い出〟という枠に妥協することはなく、あえて困難ともいえる未来への拡がりにこだわった。

「挨拶だけなら行かない」

『PRIDE・34』のリングで本当に試合をするつもりだった桜庭和志は、ただ足跡を残すことを拒否したという。また、DSEサイドは大会前日の深夜、つまり当日まで田村潔司の説得にあたっていた。ある関係者は「当日の昼まで説得する!!」と語気



桜庭vs田村が重要なのではない。桜庭vs田村的価値観が必要なのだ。

を強めてビッグサプライズ実現へ向けて動いていた。

ビジネスという視点だけで見れば、これらの行為はまったくの無駄である。チケット&PPVの売れゆきにつながるわけではない。この先、実現する確証も何一つない。世界のMMAシーンに対しても、まるで不必要のいきすぎた情熱だ。

だが、プロレス興行の価値観を原点に持ち、K―1という格闘文化を通過して育まれた『PRIDE』というリングは、ビジネスを超えたところでの表現方法にずっとこだわってやってきた。そうすることで舞台を大きくしてきた。

ただ表現するだけでは大きな波紋は起きない。表現を過剰にぶちまけることでようやく渦が起き、それが拡がることが問題提起となって、やがて議論がなされ、未来を案じたり、もしくは心躍らせたりする。無駄で余計な情熱があふれ出したとき、ようやく周囲に伝わっていくのだ。

運命の対決実現の予感に熱狂する人。まさかの桜庭和志のカムバックに涙した『PRIDE』ファン。田村潔司のテーマ曲に手拍子を合わせた頑固なU信者。歓喜すると同時に「せめてこれが3年早かったら……」と、感情が相反する関係者もいただろう。もちろん、このカードにまったくピンとこないファンもいたはずだ。

また、『PRIDE』を出ていった桜庭和志が今回リングに上がると聞いて、露骨に嫌悪感を示した選手がいたと耳にした。実況席の髙田本部長は、神妙な面持ちで、かつての愛弟子、桜庭と固い握手を交わした。一方では、「ボクの株が上がってるんだよねぇ～！」と喜ぶ、ダイナマイト級に器の大きい大男もいる。んあ～！

桜庭vs田村戦がいいか、悪いかではない。こうやって人々の感情を大きく揺さぶることが一番、大切なのだ。

桜庭和志や田村潔司にとっても、この一戦にテーマを見据えることがプラスなのか、マイナスになるのか、じつはわからない。実現させるためには一筋縄ではいかない障害があるだろう。アドバルーンで終わってしまう可能性を考えたら、サプライズ登場を断ることだってできた。それなのに、なぜ〝余計なもの〟を背負いこんだのか――？

〝余計なもの〟を背負うという精神は、選手本人たち、作り手、観る側にとっても、本当に根気がいる作業だ。その面倒くさい作業を通り越さなければ、伝えられないことがあるし、伝わらないこともある。

UFCにボードッグ。今後のMMAシーンは、これらの巨大な外資が中心となる。いずれは、いたってストレートな表現をもって、スポーツライクな方向に寄せられていくだろう。そのとき、これまで我々の心を動かした〝余計なもの〟が詰まったドラマは観られるのだろうか。いや、作り手はそれを届けるために、我々はそれを観るために、面倒くさくて根気がいる作業を続けていくべきだ。

この運命的な邂逅は、単なるノスタルジーに浸る顔合わせではない。日本をついに襲ったMMAバブルの〝大津波〟の中で、新体制となる『PRIDE』が、そして日本のマット界が今後も守られなければならない価値観を端的に示したといえる。

『PRIDE・34』で実現した桜庭和志vs田村潔司は、まさに外敵から日本を守る神風が吹いた〝一戦〟だったのだ。



潔司

赤いパンツの頑固者、ついに動く!
“夢の懸け橋”かけられんのか!?

4.8『PRIDE.34』にサプライズ登場をはたし、桜庭和志との“夢の懸け橋”を宣言した田村潔司。これまで決して実現することのなかった二人の顔合わせが、このタイミングで実現した背景には、田村の中にどういった心境の変化があったのだろうか。本誌は大会の3日前と大会2日後、二度にわたり田村にインタビュー。“頑固者”の真意に迫った。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也



田村

俺と桜庭にしかできないことがきっとある

じつは今回、本誌は『PRIDE・34』の3日前と2日前、田村潔司に二度インタビューをしている。そして3日前の段階では〝サプライズ〟は決定しておらず、田村も桜庭との〝夢の懸け橋〟へ踏み出すのかどうか決めかねている状況だった。

そんな中で行なわれたインタビューをあらためて読み返すと、田村がどのようなことを考え、そしてどんな思いから、桜庭とのサプライズ実現への決意を固めていったのかが、その行間からなんとなく伝わってくるのである。

というわけで、今回は『PRIDE・34』の3日前に収録したものと、大会2日後に収録したものを、二部構成で掲載。まずは〝サプライズ〟の決意を固める前、4月5日に収録したインタビューからお届けしよう。

――3月27日に行なわれた「PRIDE重大発表記者会見」に田村さんが出席してたんで、ちょっと驚きましたよ。

田村 あ、そう？

――田村さんが、ああいうところに出てくるの珍しいじゃないですか？ だから、ビジョンに田村さんが映ったとき、ファンからどよめきが起こってましたよ。

田村 ふ～ん。まぁ、何をするわけでもないんだけどねぇ。

――あの会見に出席しようと思ったのはなぜなんですか？

田村 バラさんが最後だって聞いたからさ。「行きますか？」っていう連絡が来たんで、じゃあ行っておこうかなって。ただ、行ったあとは、俺はべつに行く必要なかったかなって思ったけど（笑）。

――ガハハハハ！ 思いましたか。

田村 もう『PRIDE』のリング自体が若い世代になっちゃってるからさ。ちょっと場違いかな、と思ったり。

――「これからUFC vs PRIDEが始まります」って言われても、あんまり田村さんに関係なさそうだし（笑）。

田村 そうそう（笑）。

――で、実際に榊原代表が退陣して、ロレンゾ・フェティータ氏がUFCと『PRIDE』両方のオーナーになったわけですけど、あの発表を聞いて、率直にどう感じましたか？

田村 う～ん……いろんな思いがあるけど、もっと気を引き締めないといけないというか。それは俺だけじゃなく、業界全体が気を引き締めていかないと、もうこれまでどおりじゃ通用しないというか、なんか複雑だね。

――『PRIDE』というイベント自体は続くけれども、これからいろんな面で、よりシビアになっていくんじゃないか、と。

田村 UFC側やあの新オーナーが『PRIDE』をどう見ているのかが、まだわからんからねぇ。いまは日本よりアメリカのマーケットのほうが全然大きいわけでしょ？ だから、『PRIDE』がこれからも続くってことで安心してる選手が多いんだろうけど、俺は天の邪鬼だから、反対のことを考えちゃうけどね。

――逆にこれから大変になるんじゃないか、と。

田村 うん。だって向こうからしたら（『PRIDE』は）潰そうと思ったら、いつでも潰せるわけでしょ。こっちは大船に乗り換えたつもりでも、あっちからしたら小舟がくっついてきてるだけかもしれないし。向こうの真意はわからんけど、どこまで『PRIDE』のことを考えてるんだろうなっていうのはあるよね。でも、どっちにしろ、向こうから見たら小舟なんだから。それは覚えておいたほうがいいよ。

――榊原代表が退陣するっていうことについてはどうですか？

田村 う～ん……一つの時代が終わっちゃったのかなとは思うね。バラさんの今回の決断についても、もの凄く悩んだ末の決断だと思うし。バラさんにとっては、単純に足し算引き算で考えられたら、替わってもらったほうが楽なわけじゃん。

――お金のことから何から、悩みから解放はされますよね。

田村 でも、それによって自分がいまま

新オーナーがPRIDEをどうしたいのか見えてこないから、いろんな不安があるよ

潔司



3月27日の「PRIDE重大発表記者会見」には、多くの選手とともに田村も出席（左端）。榊原代表が抜けた新生『PRIDE』では、田村はどんな闘いを見せるのか？

4.8 PRIDE.34 ビッグサプライズドキュメント



（休憩後、第6試合開始前に髙田本部長がリングイン）

髙田 え～、本日も多くのご来場、まことにありがとうございます！（四方に礼）

※大歓声＆髙田コール

髙田 いやいや、（コールは）いらない。そのパワーを選手にあげて！（中略）今年、「PRIDE」はおかげさまで10年を迎えることができました。ボクと（榊原）代表が出会って、かれこれ11年ですが、ホントに長く、短く、激しく、濃密な10年でした。この10年を人生を懸けて引っぱってきた男。そしてこの総合格闘技という未開の地に、計り知れない功績を残し、明るい未来を築きあげた男。今日、その男が指揮を執る『PRIDE』は最後です。ドリームステージエンターテインメント代表、榊原信行、出てこいや――ッ！

（大拍手の中、榊原代表リングイン）

榊原 ホントにたくさんのご来場ありがとうございます（拍手）。1996年6月、私は髙田さんと出会いました。そして髙田さんから一つの夢を託されました。そして髙田さんの夢がいつの間にか自分の夢になって、その夢をなんとか実現したい、その思いだけで頑張りました。一介のサラリーマンだった私に機会と夢を与えてくれた髙田さんに、この場でお礼を申し上げたいと思います。髙田さん、本当にありがとうございました。

そんな思いで頑張ってきて10年間、（中略）本当にたくさんのマッチメイクをしてきました。ただ、その中で皆さんの前で「このカード組みます」「実現させます」と公言しておいて、一つだけ実現できなかった、そんなカードがあります……。

（突然『SPEED TK REMIX』のテーマが大音量で流れ出し、花道から桜庭和志が登場！ 場内、割れんばかりの大歓声！ さらに桜庭がリングインすると、続いて『FLAME OF MIND』のテーマとともに田村潔司も登場！ 場内異常興奮状態!!）

もう俺は引退まであと数試合だから
カウントダウンは始まってるんだよ

田村

でやってきた『PRIDE』を手放すんだから、凄く複雑だよね。違う選択もあったかもしれないけど、『PRIDE』はお金も回りません、やめます」っていうわけにもいかないし、「金はないけど情熱だけでやっていこう」っていう気持ちは大切だけど、現実問題としては難しいし……いろんな考えが、俺の中でさえグルグル回ってるんだよね。

——榊原代表自身、いまだにこの決断がよかったのか、悪かったのか……という気持ちはあるでしょうね。

田村 でも、ホッとはしてるだろうね。こうなった以上は、もう苦しいことを考えなくていいし。マッチメイクもしなくていいし、俺と桜庭の試合を組まなきゃいけないとか考えなくてもいいから（笑）。

——もう田村さんの誕生日にケーキ持参で登戸まで来る必要もない、と（笑）。

田村 そうそう（笑）。そういったさまざまな悩みからは解放されてるから。

——ただ、ボクらが心配なのは、『PRIDE』は「世界最強を決める舞台」というコンセプトと同時に、桜庭vs田村戦をなんとかして組もうとしたり、小川vs吉田戦を実現させたり、高田さんの引退試合の相手に田村さんを持ってきたりと、プロレス的な物語性を重要視してきたじゃないですか。それがあったからこそ、求心力も生まれてきていたと思うんですけど、榊原さんが代表を外れたら、その部分がなくなっちゃうんじゃないかという不安があるんですよ。

田村 そうだよね。

——アメリカ人はプロレスラーに対して幻想を持つこともないし、UWFを通過してるわけでもないじゃないですか。

田村 ジョシュ・バーネットみたいなオタクはほんの一握りだろうからね（笑）。

——あの人は極めて特殊でしょう（笑）。

田村 だから『PRIDE』はグレーだから不安なんだよね。

——グレー？　どういうことですか？

田村 新生UWFみたいに解散して完全になくちゃっちゃえばあきらめもつくんだろうけど、『PRIDE』は継続するけれど、これまでと同じかどうかはわからないわけでしょ？　白黒ハッキリしてないから、どうなるんだろうっていう不安が続いてるんだよね。

——『PRIDE』であって『PRIDE』でない、というものに、これからなる可能性もあるわけですからね。そしてアメリカ人的感覚の総合格闘技になったりしたら、ちょっと困りますよね。

田村 おもしろくないよね。感情移入できないだろうし。

——そうなったら、『kamipro』も必要もなくなるんじゃないかっていう不安もあるし（笑）。へんな話、UFC的価値観の総合格闘技って〝田村潔司〟が必要のない世界になる可能性もあると思うんですよ。

田村 いや、俺はもう必要なくなるよ。

——それは競技者としての田村さんが必要ないというわけじゃなくて、田村さん的なこだわりや、プロとしての付加価値が必要ない、極めて味気ない世界になってしまう、ということですけどね。

田村 そのへんは、ファンが何を望むかだけどね。これからのことは読めんね。

——たとえば、これを機に主戦場を『PRIDE』から『HERO'S』に移すという選択肢はありますか？

田村 ……それはわからんね。

——では、このあいだ田村さんは『HERO'S』の会場（3・12名古屋レインボーホール）に、上山（龍紀）さんのセコンドとして行ってましたけど、あの大会を観てどう思いました？

田村 いやぁ……それは言えないなぁ。

——言えませんか（笑）。言いにくいって感じですけど、ハッキリ言って、会場に熱がありませんでしたよね？

田村 そうだよねぇ。

——だから、『PRIDE』もそうですけど、『HERO'S』もかなりテコ入れしないと、日本の格闘技界が急速に冷えていくような危機感があるんですよ。そこで、たとえば『PRIDE』なり、『HERO'S』なりで、田村vs桜庭であったり、田村vs秋山なんかが実現したら、格闘技界にもう一回、プロレス的な熱が生めるんじゃないかと思うんですけど。

田村 その試合をやる、やらないは別として、そういうつもりでやっていかなきゃいけないだろうね。そういや、金ちゃん（金原弘光）のインタビューってやった？

——ええ、このあいだやってきましたよ。

田村 どんなだった？

——「疲れた」って言ってました。肉体的にも精神的にも。引退を発表した川村亮戦は、いい試合だったんですけどね。

田村 俺も観たよ。いい試合。全然まだ

榊原 皆さん、こうしてですね、二人がリングに立ってくれています。ドリームステージとしては、今日が最後の興行になり、ボクとしては、今日で『PRIDE』の代表という立場を辞めます。この二人がいまこのリングに立っている。この事実を、みんなの胸に刻んでほしい。そしてスタッフにはボクが実現できなかったこのカードを、どうか新体制で実現させてください（大拍手）。

このリングに二人がこうして立つまでに3年半。タムちゃんの（ジムがある）登戸まで何度も行きました。サクにも何度も自分の思いを伝えました。ファンにも伝えました。どうしてこのカードにボクがそんなにこだわるのか、それはこのカードなら、競技としての美しさも、人生を懸けた闘いも、『PRIDE』が見せたい要素が全部詰まっているからです（大拍手）。

そして、二人とも（その闘いを）やるっていう意思があるからこそ、このリングに立ってくれているはずです。あとは今後の『PRIDE』でこのカードが実現することを願いたいです。そして今日、ここに桜庭和志が帰ってきてくれています（客席から「お帰りー！」の声）。皆さん、きっといろんな思いがあると思います。3月27日の会見が終わって、桜庭選手から直接電話をもらって「4月8日、榊原さん、ボクに試合をさせてください」とサクは言ってくれました。ホントは今日、この場で彼は試合がしたかったんだと思います。ただ、ホントに理解してほしいんですけれども、このリングに立つだけでも、ホントにたくさんのハードルがありました。ここで、ボクらの願いを大きな心で受けとめてくれたK－1関係者の人たちに本当に心から御礼申し上げます（大拍手）。きっと近い将来、いくつかの問題を乗り越えて、桜庭選手がこのリングで試合をしてくれるはずです。そのときは、みんなでお腹の底からサクを迎え入れて応援してほしいと思います。じゃあ、桜庭選手、何かファンに一言お願いできますか？

（大歓声の中、サクがマイクを握る）

桜庭 榊原さん、お疲れさまでした。皆さん、おひさしぶりです（大歓声）。今日、ここで試合をしたかったんですけど、時間がなくてできなかったんですけど、もう一回このリングで試合をしたいと思いますので、よろしくお願いします（大拍手）。

榊原 田村選手、一言お願いします。

田村 試合もしない自分がリング上で挨拶す



まだいける。だから、どんな気持ちで引退発表したんかな、と思って。

——引退の時期って本人しかわからないでしょうからね。

田村　そうね。言っとくけど、俺も引退まであと数試合だから。

——え！　それはもう決めてるんですか？

田村　いつやめるって、正式に決めてるわけじゃないけど、もうカウントダウンは始まってるから。

——まぁ、そういう年代なんでしょうけど……、そうなるとますます一試合一試合が大事になってきますね。

田村　そうだね。でも、俺らの歳になると、いつ緊張の糸がプチッて切れるかわかんないから。まず精神的な面に来ると思う。金原も精神的なものだったと思うし。だから、あと何試合かするかもしれないし、もしかしたら次で終わりかもしれないし。それは俺にもわからんから。

——そうなると、ますます残された短い時間の中で、田村さんがプロとしてやらなきゃいけない〝使命〟ってあると思うんですよ。

田村　そう？　まぁ、先のことはわからんけどね。今回、『PRIDE』がこういうことになって、俺も楽観的に考えてるほうだとは思うんだけど、ほかの選手があまりにも状況を知らなさすぎというか、楽観的すぎると思うんだよね。

——〝非常ベル〟が鳴ってるのに聞こえないというか。

田村　まぁ、非情ベルなのかどうかは俺にもわからんけど、仮に非常ベルだとしたら、みんな楽観的すぎる。

——じゃあ、田村さんの中では漠然とした不安だったり、何かをしなくちゃいけないという思いが出てきてるわけですか？

田村　そういう思いは凄くあるよね。その思いを行動に移せるかどうかってなると、これがまたわかんないんだけど（笑）。

——そろそろ大きく動くときが来たんじゃないですか？

田村　焚きつけるねぇ（笑）。もう胃が重たい！　俺は小心者なんだよ、基本的に。

——たとえば、あさっての『PRIDE・34』で急転直下、田村vs桜庭戦が実現したら、凄まじいインパクトだと思いますけどね（笑）。

田村　でも、いまさらって感じる人もいるんじゃない？

——それは中にはいるでしょうけど、ボクは「いまさら」というか「いましかない」と思いますけどね。

田村　そう？

——DSE体制が終わって、格闘技界が大転換を迎えようとしてる、いまだから意味があるというか。逆にここを逃したらやらないほうがいいと思いますし。

田村　う～ん。どうなんだろうねぇ……。

【07年4月6日／U－FILE CAMP登戸にて収録】

こうして、『PRIDE』の新体制移行、格闘技界大転換時代への危機感を露わにした田村潔司。自らに残された時間の短さも自覚した中で、〝最後の大仕事〟へとついに動きだした感がある。

そしてこのインタビューの3日後、田村は桜庭和志とともに『PRIDE・34』のリングに登場。「桜庭と自分にしかできない〝夢の懸け橋〟」実現に向けたメッセージをファンに発したのである。

はたして田村はどんな思いであのリングに上がり、桜庭和志と固い握手を交わしたのか？〝サプライズ〟の2日後に収録した田村の声を続いてお届けしよう。

田村潔司

——一昨日は、田村さんと桜庭さんの揃い踏みというビッグサプライズがあったわけですけど、いまの率直な感想を聞かせてください！

田村　感想は……やっぱりホッとした感じかな。入場してくる前は、楽しみではあったんだけど、凄い不安があったり、気持ちの高ぶりがあったんだけど、いいかたちで榊原代表を送り出すことができたんで、まぁ、ホッとしたね。

——田村さんと桜庭さんがリングに上がるっていうのは、大会前夜に決まったとお聞きしたんですけど、オファーも急だったんですか？

田村　急も急で、えらい強引だったね（笑）。だって、今回俺ね、招待のチケットをいただいたんで、大会4日前ぐらいに知り合いにそのチケットを渡したんだけど、その時点では俺があああいうかたちで出るっていうのはない話だったからね。

——4日前の時点ではまったくなかったわけですか。

田村　なかった。で、別のサプライズを聞いてたから、「凄いサプライズがありますよ」ってその人に渡したのよ。そのあと大会前日に俺がリングに上がることが決まったでしょ。そしたら試合後、チケットをあげた知り合いから「サプライズってそういうことだったんですね」っていうメールもらってさ。

——田村さんが、自分の登場を予告していたんだと思われたわけですね（笑）。

田村　そう！　そんな自分で自分を〝サプライズ〟って言うの嫌らしいじゃん。だから、そこだけは誌面を使って言っておきたいね。あのとき俺が言った「サプライズ」は別のサプライズだ！って（笑）。

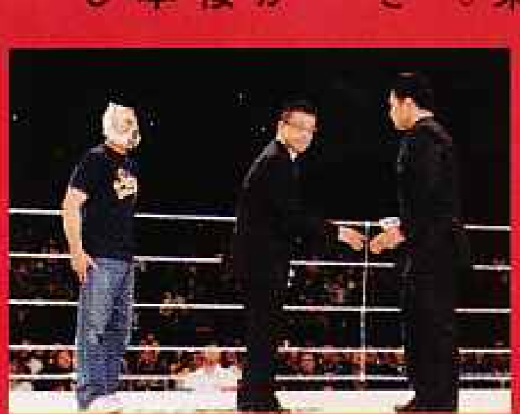
るのは、大変失礼だとは思うんですけれども、榊原代表のはなむけのため、一言挨拶させてもらいます。3点ほど言いたいことがあるんですけど、まず榊原代表に、10年間ホントに長い10年間だったと思うんですけど、神経削るような喜怒哀楽な交渉事や本当に大変な10年間だったと思います。そして二つ目、ファンの皆さんと『PRIDE』を支えているスタッフの皆さんです。また新たなスタートを切るわけですが、スタッフの皆さんとファンの皆さんのサポートがなければ、ここまで来れなかったと思います。榊原代表の意思を受け継いでこれからどんどん『PRIDE』を進化させていただきたいと思います（大拍手）。そして最後に桜庭和志。まず、彼がこのリングにどういう思いで挨拶に来たかという気持ちを汲んでいただけたらと思います。そして、いまお互い立場は違う状況ですけど、ボクはいい意味で夢の懸け橋というか、桜庭とボクにしかできない、夢の懸け橋ができたらなと思います（大拍手）。そのためには、恩人である榊原代表や、ボクらの師匠である高田さんの協力も得て、いろんな各代表者の了承も得ないといけないと思うんですけれども、ホントにそういう意味で、ボクと桜庭にしかできない夢の懸け橋が実現できたらなと、心の底から思います！　ちょっと長くなりましたが、ボクからの気持ちです。ありがとうございました（大拍手）。

榊原　サクちゃんもタムちゃんも、けっこう頑張って話したほうだと思います。いつもこんな雄弁に語ることなく、3時間4時間ずっと黙りこくったまま、同じ部屋で向き合うってことも……ね、田村さん？　ありました。


田村（苦笑）

榊原　でも、きっとですね、この二人の闘いは、必ず次の世代の『PRIDE』で実現すると信じています。もし、その日が来たら、皆さんと一緒に観客席で、ホントに待ちに待ったこの試合をおもいっきり楽しみたい、そう思っています。必ず、みんなの夢を、桜庭選手、田村選手、実現させてあげてください。大変長くなりましたが、このあと後半3試合、『PRIDE』の勢いは止まりません。最後まで楽しんでいってください。今日はありがとうございました！

（大拍手の中、3者がそれぞれ固い握手。桜庭はリング下で高田本部長とも握手を交わした）



榊原代表のはなむけのために 俺とサクの気持ちが一つになった



やっぱり髙田延彦あっての田村と桜庭だから 対戦が決まるなら、ちゃんと筋を通さないと

——それにしても、これまでなかなか実現しなかったお二人の顔合わせが、こんな急なオファーで実現した一番の要因というのはなんだったんですか？

田村　一番の要因は、榊原代表へのはなむけですよ。それが100パーセントではないけれど、榊原代表をいいかたちで見送りたい、というのが自分の正直な気持ちだから。それはおそらく、サクも一緒なんじゃないかな。

——桜庭さんは、自分から4・8『PRIDE・34』への出場を直訴してきたらしいですからね。

田村　やっぱり彼は彼で、『PRIDE』のリングに上がってくるというのは、凄い覚悟が必要だったと思うんだよ。ファンに「何しに来たんだ！」って言われるかもしれないし、ほかの選手はおもしろくないだろうし。そんな中で出てくるっていうのは、凄い勇気がいったと思うんだよね。あんまりほめてもしょうがないけど、そういう気持ちはわかるから。

——凄い覚悟を持って出てくる、桜庭さんの気持ちに応えるという気持ちも田村さんにはありましたか？

田村　サクの気持ちに応えるっていうか、俺とサクの試合っていうのは、バラさんにとっても心残りのカードだったらしいしね。要はバラさんがいて、サクがいて、俺がいて、みんないろんな思いがあるから、ああいうかたちで表現できたんだと思う。だから、サクを受け入れないファンや関係者だっているかもしれないし、試合をしない俺がいいとこ取りすることに、いい気持ちしない選手もいると思うけど、俺個人としては、何を思われてもいいかなって。榊原代表のためっていうことで、俺とサクの気持ちが一致して、凄い前向きな第一歩にはなったと思うから。

——でも、不思議な感じですよね。『PRIDE』のリングに田村さんと桜庭さんと榊原さんが上がっていて、リングサイドには髙田さんがいる。そんなシチュエーションが実現するなんて。

田村　そうだね。

今回のことを髙田さんはどう思ってんだろうね？　やっぱり髙田さんが一番複雑だと思うから。

——そうでしょうね。でも昨日はコメント出してて、「ファンが観たいものを全力で実現することが重要であって、私の感情がどうのこうのとか、そういうことは一切関係ありません」って言ってましたね。

っていうことは、なんらかのいろんな感情があるっていうことなんでしょうけど（笑）。

田村　そうね、もちろんいろんな感情はあるだろうけど。そうは言っても、やっぱり髙田延彦あっての田村と桜庭なんで。もし対戦が決まるのなら、ちゃんと筋を通さないといけないよね。

——でも、そう考えると、『PRIDE』って"巨大なる第二次UWFインター"だったんじゃないかって思いますよね。

田村　いいこと言うねぇ！

——『PRIDE』自体、もともとUインターの名古屋大会で、髙田さんと当時、東海テレビ事業にいた榊原さんが出会ったところから始まったわけですからね。そして、その榊原さんが、最後に実現させようとしたカードが田村vs桜庭だったというのがなんとも……。



1996年3〜5月のあいだ、Uインターで3度組まれた田村vs桜庭戦。当時、Uインターは新日本プロレスとの対抗戦が行なわれていたが、二人は第1試合で"U"の神髄を見せつける闘いを展開し、UWFファンの希望となっていた。あれから11年——二人の再戦はついに実現するか？

田村　そうだね。ホントにそれぞれにいろんな思いがあるよね。

——田村さんと桜庭さんのあいだにも、Uインター時代から現在まで、いろんなことがあったわけですよね？

田村　あったねぇ（しみじみ）。

——いま、田村さんは桜庭さんに対して、どんな感情がありますか？

田村　いや、みんな一緒だよ。現役のうちは周りはみんな敵だと思ってるから。だから、昔同じ釜の飯を食ったというだけで、べつに何も思ってない。

——でも、知らず知らずのあいだに、一番意識してる相手ではないですか？

田村　そりゃ、あれだけマスコミが煽りゃ意識はするよ（笑）。

——一時期、田村さんと桜庭さんのあいだで舌戦みたいなこともありましたよね。

田村　あったっけ？

——ほんの一時期。田村さんがリングスのエースで、桜庭さんが『PRIDE』で大活躍してたころ。

田村　でも、それもマスコミが俺と桜庭それぞれに、「どう思いますか？」って聞いてるからそうなるだけであってね。まぁ、俺が嫌われてるのは確かだと思うけど（笑）。

——嫌われてますか（笑）。

田村　間違いなく嫌われてる（キッパリ）。それだけは確かだね。

——それは何が原因なんですかね？

田村　俺が人望ないからじゃないの？

——それは知りませんけど（笑）。二人の"因縁"というと、Uインター時代までさかのぼっちゃうんですかね。

田村　わからんけど、昔は毎日顔を合わせる生活をしてたわけだからね。そういうときの人間関係って、人それぞれ思いはあるだろうから。先輩に注意されたり、殴られただけで嫌いになる人も中にはいるだろうし。

——ちなみに、田村さんは桜庭さんを殴ったことってあるんですか？

田村　サクは一回殴ったことあるね。

——それは何が原因ですか？

田村　原因は、あいつが二日酔いで道場に来て、なんかヘラヘラして練習もしなかったから、それで殴った。

——まぁ、それが因縁の発端じゃないんでしょうけど（笑）。

田村　あとは、どうでもいいことだけど、あいつはタバコ吸うから、俺が注意したら「そんなことまで注意される覚えはない」って言ってたのを人づてに聞いたことはあるけど。まぁ、そんなことはどうで

潔司



たむら・きよし■1969年12月17日、岡山県出身。第二次UWF、Uインター、リングスを渡り歩いた生粋のU戦士。Uインター時代は、桜庭の先輩で、合宿所の寮長を努めていた。格闘技ジムU-FILE CAMPを主宰し、9月17日にディファ有明で10周年記念大会の開催を予定。180cm、86kg。

もいい話で、べつに俺はなんとも思わないし、いまでもタバコ吸ってるところを見りゃ「吸うな」って言うだろうし。

——まぁ、いずれにせよ、若手時代から〝物語〟はスタートしてたってことですよね。その桜庭戦は3年ぐらい前から、毎年、大晦日に取り沙汰されながら実現しませんでしたけど、田村さんの中では「いつかはやるんじゃないか」っていう気持ちはありました？

田村 うん、いつかはやるかなとは思ってたよ。ただ、これはずっと言ってるように、そんな簡単なもんじゃないから。できそうでできない。俺にとって桜庭戦っていうのは、天竺に行くようなもんだね。

——て、天竺ですか!?

田村 うん。近いようで遠い。遠いようで近い。

——で、今回、その〝天竺〟がようやくそこは見えてきたって感じですか？

田村 うん、天竺が見えた（笑）。到達できるかはわからないけど、いろんな偶然が重なって、見えてはきたよね。ただね、俺はvs桜庭戦ということだけじゃなくて、もっと大きなイメージで今回のことは捉えてるから。

——それは「二人が夢の懸け橋になる」ということですか？

田村 そうそう。具体的にどういうことをするっていうのはないんだけど、いまの格闘技界で、俺と桜庭にしかできないものってあるんじゃないかと思うから。それをどうやって仕掛けるとか、ああやってバラさんを送り出したことに打算的な考えはないんだけど、俺と桜庭がリングに上がったということで、今後は打算的な考えも必要になってくると思う。

——それによって、いろんなことが動きだすんじゃないか、と。

田村 うん。だからファンの人は、俺と桜庭の試合をやるのかやらないのか、これから何が起こるのか、ちょっと戸惑いを感じたと思うんだよね。でも、そこはいろいろ想像してもらって。これからの格闘技界にちょっとでも夢を持ってもらえたら、と思うから。

——そういえば、リング上で桜庭さんと握手したとき、田村さんが話しかけてましたけど、あれは何を話していたんですか？

田村 「これから頑張ろう」ってことだよね。桜庭がいまの格闘技界をどう見ているのか、俺も直接しゃべったわけじゃないから、わからないけど。いろんな葛藤も彼にあるだろうし、多少は気持ちもわかるから、いろんな目標に向かって「これから頑張ろう」ってね。

——わかりました。では、最後に一つ聞きたいんですが。田村さん、桜庭さんとの試合をやりたいですか？

田村 ……いま？

——はい。

田村 …………やりたい！

——おぉ!!

田村 ……って言ったほうがいいのかな（笑）。

——「いいのかな？」じゃなくて、「やりたい」か「やりたくない」かですよ！

田村 いやいや、俺のコメントは「やりたい……って言ったほうがいいのかな」にしといて（笑）。

【07年4月10日／U-FILE CAMP登戸にて収録】

PRIDE FOREVER

過激なる濃密な10年――
榊原劇場閉幕
そして新たなるキック・オフ

4.8『PRIDE.34』を最後に代表を退陣し、『PRIDE』との10年にわたる歴史にピリオドを打ったDSE榊原代表。その最終興行では、桜庭和志と田村潔司の揃い踏みを実現させ、最後までファンに夢を提供した。本誌ではおそらく最後となるこのインタビューでは、そのサプライズの舞台裏、そして新生『PRIDE』へのメッセージを語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　会見撮影／平工幸雄

――まずは、10年間お疲れさまでした！ DSE体制最後の興行『PRIDE・34』での、ファンへの〝最後のプレゼント〟は素晴らしかったですね！

榊原　やっぱり10周年ということで、記憶に残るイベントにしたいと思ったんですよ。だからサクとタムちゃんも……。

――（さえぎって）いやいや、代表。ボクが言ってるのは、そっちの〝プレゼント〟じゃなくて、来場者全員に配られた、代表の笑顔がまぶしい『PRIDE』のCDのことです（笑）。

榊原　あ、そっちですか（笑）。あのCDよかった？

――大好評ですよ。あれは非売品ですけど、もし売ってたらジャケ買いしたくなるインパクトがありますね（笑）。すでにヤフーオークションでも1200円の値がついてるらしいですよ。

榊原　じゃあ、CDを手に入れた方は、街でボクを見かけたらサインを入れますよ。そうしたら100円ぐらいは値が上がるんじゃないですか（笑）。

――お気軽にお声をかけてください、と。では、CDの話はこれぐらいにして、代表にとって最後の『PRIDE』興行を振り返っていただきたいのですが。

榊原　はい。先ほども言ったように、ボクが手がける最後の興行ではあるんですけど、10周年という節目を迎える大会でしたから、10年間を振り返れるような、記憶に残る興行にしたかったんですね。そうなると、発表された8試合だけで、ボクらが考える10周年記念イベントにはならないので、ファンの皆さんに喜んでもらえるサプライズをなんとか用意したかったんですよ。

――それが桜庭選手と田村選手の登場だ

信　行

新生PRIDEは〝伝統と革新〟が必要 テーマ曲が変わってもいいんじゃないかな



これが4.8『PRIDE.34』来場者全員にプレゼントされた、榊原代表の笑顔がまぶしいスペシャルCD。中には「♪ダン！ダン!! ダダン!!!」でおなじみの、『PRIDE』のテーマ曲が収録されていたのだ。どうしてもほしい人は、158ページの読者プレゼントにいますぐ応募！

ドリームステージエンターテインメント代表取締役

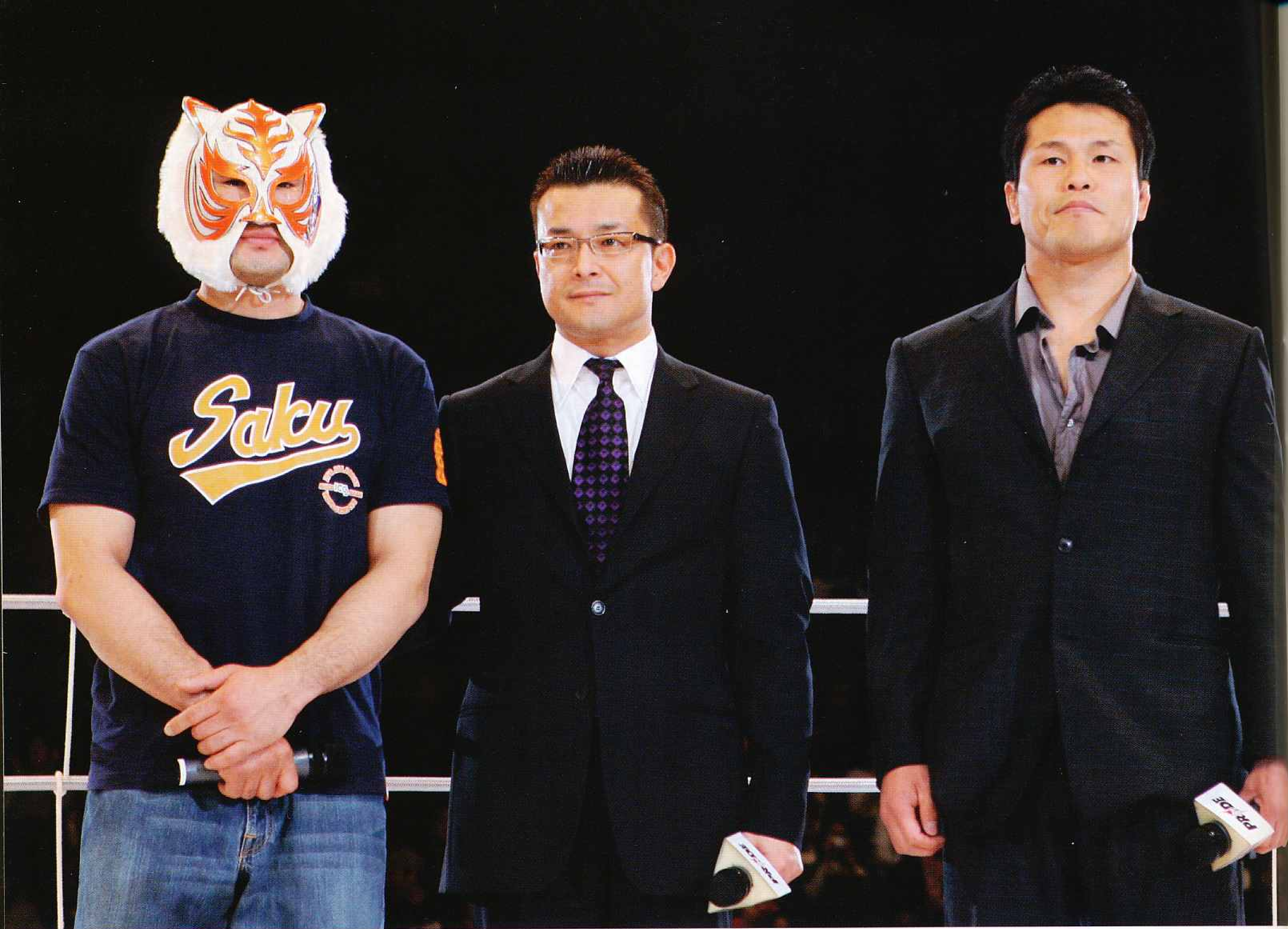
榊原

った、と。
榊原　だからギリギリまで各方面に交渉、調整をしてね。田村選手と桜庭選手がリングに上がって、ああいうかたちで挨拶するっていうことは、前日の夜に決まったんですよ。
――前日の夜！　ホントにギリギリだったんですね。
榊原　なぜギリギリになってしまったかというと、じつは大会の3日ぐらい前までは、「サクを試合に出させてほしい」って、谷川（貞治）さんをはじめK－1関係者の方々に、ずっとお願いし続けていたんです。サクも「やらせてほしい」って言ってくれたんで。だったらヴァンダレイ・シウバの対戦相手を「X」として伏せておいて、当日、突然サクのテーマ曲が流れて、サクが試合のコスチュームで入場してきたら、これぞビッグサプライズだな、と思ったんですよ。
――ホントにそんなことが起きたら、ファンは狂喜乱舞で、興奮して2階席から飛び降りちゃう人が出かねませんよ（笑）。
榊原　実際、サク自身は試合に出るつもりだったんですよ。相手もヴァンダレイでいい、と言ってました。それでヴァンダレイを出場させるべく、アスレチック・コミッションとの調整も進めたんですけど、やっぱりKO負け後45日間のサスペンデットがかかってる中で試合をさせるのは難しかったですね。
――それで、直前で桜庭選手と田村選手の揃い踏みの挨拶に交渉を変更したわけですか。
榊原　そうなんですけど、もっとさかのぼれば、当初は4月8日に桜庭vs田村の試合を組もうとしたんですよ。
――挨拶じゃなくて、桜庭vs田村の試合ですか！
榊原　3月27日の会見後、サクに言われたのは、「ファイトマネーはいらないので、4月8日に試合がしたい。相手は誰でもいい」ということだったんです。その日しか、サクの言う両団体の〝懸け橋〟になるタイミングはないってことで、サク自身が谷川さんにも直訴してね。そして8日に向けて練習を続けてくれたらしいんですよ。で、ボクのほうも、サクがそこまでの思いを持って出てもらえる可能性があるのなら、ベストのカードを用意しよう、と。これまで実現できなかったカードをここでやれたら、自分としても思い残すことはないってことで、田村さんを叙々苑に呼び出したんですね（笑）。

本当は桜庭vsシウバか桜庭vs田村の試合を『PRIDE・34』で組もうとしてたんです

――今回は焼肉でしたか（笑）。
榊原　そこであらためてタムちゃんに、ボクの思いとサクの思いを伝えて、タムちゃんも理解してくれたんですよ。だから4月8日に実現するかしないか、ギリギリまで田村さんとも話をしたし。一方で谷川さんも一生懸命、スポンサーサイドやテレビ局サイドなど、いろんな調整に動いてくれていたんですよ。
――いろんな人が、このサプライズに向けて努力してたんですね。
榊原　やっぱり、格闘技界にネガティブな話題が多い中で、いまこそ日本国内で明るい話題を作ろうっていう思いで、みんなが頑張ったんですけど、やはりいろいろな壁があって、試合までは無理だったということなんです。逆に言えば、みんなが同じベクトルに向かってるからこそ、挨拶とはいえ、サクとタムちゃんがリングに上がったということだと思いますけどね。
――試合はできなくても、ギリギリまでいろんな壁を越えたからこそ、あの顔合わせが実現したわけですね。
榊原　ホントによく出てこられたと思いますよ。だから今後、今回のサプライズが一つのきっかけになって、日本の格闘技界にまた違う動きが出てくるといいな、と思いますけどね。
――当日は、桜庭さんとはお話されたんですか？
榊原　もちろん、しましたよ。会場入りしてから、サクが「榊原さん、ボク、マスク被って出ます」って言うんで、「いや、マスクとって出てよ」って言ったんですけど、「いや、被ります」って。じつは泣き顔を見られたくなかったんですね。かなり早いタイミングから泣いてたでしょ？
――テーマ曲がかかって、入場の時点ですでに泣いてましたね（笑）。
榊原　ここはファンにもわかってもらいたいんだけど、サクはあの場に出てくるのに、凄い覚悟がいったと思うんですよ。
――そうでしょうね。
榊原　だからサク自身、入場するまで凄く不安だったんだよね。だって、昨年5月に何も言わずに、ある意味では、『PRIDE』のファンを裏切って出ていったわけだから。大ブーイングが起きて、「何しに来た！」「帰れ！」「ふざけんな！」って罵声を浴びせられるんじゃないかっていう強迫観念がサクの中にあったみたいなんですよ。それでも「懸け橋になる」って自分で宣言したことを実行するために、彼は勇気を持って出てきた結果、大歓声で迎え入れられたじゃないですか。
――ホント、多くのファンが心から喜び、感動してましたよね。
榊原　「お帰り！」っていう声もたくさん飛んでましたよね。あの歓声にサク自身が驚いていたんですよ。だから、ボクはサクに言ったんです。「何言ってんだよ、サク。ここはおまえが作った〝家〟じゃないか。家に帰ってきたら、『お帰り』っていうのが普通じゃないの？」って。
――PRIDEファンは、みんなサクを待ってたんですよね。
榊原　だから、サクは昔の自分に、5～6年前の桜庭和志に戻りたかったんですよ。ファンの熱い思いや声援を背中に受けながら花道を歩いて、ファンが求めるものをリングでやってみせる。そういう桜庭に戻りたいんです。でも、年齢的なものや、技術の進化、そして満身創痍の身体では、みんなに求められた結果がなかなか出せないでいた。そういう葛藤の中で、『PRIDE』のリングに戻ってきたら、ファンが昔と同じように大歓声で迎え入れてくれた。そのとき、いろんな感情が湧き上がってきて、涙が止まらなくなったんだと思いますよ。
――ここ数年、いろいろ悩み苦しんだだけに、感情が爆発したんでしょうね。
榊原　昨年5月に『PRIDE』を離れてから、サクは『HERO'S』でも頑張ってはいるんだけど、『HERO'S』はサクが作った場所じゃないわけですよ。そのリングに自分が出ていったとしても、やっぱり『PRIDE』のときのような、ホ





ントに熱い声援とか、サクに対しての思い入れ、感情移入っていうのがないんです。そこに『PRIDE』のときのような熱が生まれるわけがないんだよね。

――『HERO'S』のファンとは、一緒にすごしてきた時間が少ないですからね。

榊原　サクが毎大会ガンガン試合して、ミルコがいつの間にか『PRIDE』を自分の場所にしたように、『HERO'S』を桜庭の場所に変えてしまうぐらいの活躍をしない限りは、『HERO'S』というものをサクが背負いきれないと思うんだよね。ところが『PRIDE』は、サクが10カ月ぶりにフラッと帰ってきても、あれだけ温かく迎えてくれる。でも、家族が家に帰ってきたら、「よく帰ってきたね。お帰り」っていうのがあたりまえですよね。やっぱりサクは『PRIDE』の家族なんだよ。だから、サクが『PRIDE』の花道を歩いてきても、なんの違和感もないんですよね。

――凄く似合ってましたよね。

榊原　似合うんだよね、ハマッちゃうんだよ。そういう意味では今後の桜庭には、『HERO'S』だろうと『PRIDE』だろうと、どこでも活躍をしてほしいし、彼の思いを新しい体制の中でかなえてあげられるのなら、『PRIDE』でも試合をさせてあげたいですよね。

――桜庭選手の登場によって、『PRIDE』と『HERO'S』のあいだに〝夢の懸け橋〟がかかったような気もしますけど、これをきっかけに、両イベントの交流とかもありそうですか？

榊原　交流はどうなんでしょう。だって、『HERO'S』と交流する理由がないもんね（キッパリ）。

――ダハハハハ！　ありませんか（笑）。

榊原　同じ総合格闘技ではありますけど、その価値観はまったく違う次元にありますから。だから、交流するっていっても、『HERO'S』の選手で『PRIDE』に来ておもしろいのは、誰がいます？　秋山選手ぐらいじゃないですか？

――秋山成勲ですか！　それは、相当おもしろそうですけどね。

榊原　秋山選手の場合、やっぱり、あのまま『HERO'S』に戻ってもファンは納得しないでしょう。それなら、〝みそぎマッチ〟として、秋山選手がヴァンダレイ・シウバやマウリシオ・ショーグンなんかとやる。それぐらいじゃないですか？

――それで交流打ち止め、と（笑）。

榊原　それか石田（光洋）くんとか、青木（真也）くんなんかを『HERO'S』に出して、地上波で名前を売ってもらったりね。それぐらいでしょう。あとは『PRIDE』vs『HERO'S』の全面対抗戦をやって、何が起こるの？　観たいものなんかないでしょう（笑）。

――まぁ……そうなんですけどね（笑）。

榊原　ただ谷川さんが一ついいこと言ってたんですよ。「田村vs桜庭戦は『HERO'S』では観たくない。『PRIDE』でやらなかったら光らないし、『PRIDE』で観るべきカードだと思う」って。まさにそのとおりだと思いましたね。

――それはそうですよね。

榊原　だから、交流がもしあるとするなら、桜庭vs田村のように『PRIDE』だから観たいカードや、逆に『HERO'S』だから観たいカードがあったときでしょうね。今後は、そういう話し合いすらできない関係ではなくなると思うので。競争相手であることに変わりはないけれど、そういう一定の距離感にはこれを機に戻れる

んじゃないかなとは思いますね。

――ただ、『PRIDE』と『HERO'S』というだけの関係ならともかく、UFCも含めて世界的に見ると、難しくなりませんか？

榊原　そうですね。ホントにK－1とエリートXC、ボードッグが協調していくようなことがもし起きるならば、UFCや『PRIDE』とK－1さんの関わり方っていうのは難しいかもしれないですね。たとえ『PRIDE』とK－1の距離が縮まって、話ができる関係になったとしても、UFCが「K－1の先にはボードッグがいるから、協力はやめてくれ」と言ってくることも、いまの状況を考えるとあり得ますからね。

――じゃあ、桜庭vs田村戦実現を機に、『PRIDE』と『HERO'S』の交流っていうのは、口で言うほど簡単じゃなさそうですね。

榊原　だから、どうなるかわからないですよね。『PRIDE』の新しいオーナーとなるロレンゾ・フェティータさんは、『PRIDE』を愛してくれてるんですけど、どういった"愛し方"をするのかは、必ずしもボクとイコールではないでしょうし。極端なことを言えば、桜庭vs田村だって、ボクや『PRIDE』を長く見続けているファンは思い入れがありますけど、ロレンゾは「いまの時代に桜庭vs田村戦は古い。それは3、4年前にやるべきカードだった」と考えて、積極的に実現に動かないかもしれない。

――そういう可能性も充分ありますよね。

榊原　だからボクは、4月いっぱいは『PRIDE』の代表なので、ボクの手から離れる前に、日本市場は『PRIDE』にどういったことを求めているのかをロレンゾさんにしっかりレクチャーして、今後進めていく上での参考にしてもらえたらいいな、というふうには思ってますけどね。まぁ、ロレンゾさんは日本のファン気質も理解しているので、いたずらに心配する必要はないと思いますが、どれぐらいこれまでの『PRIDE』のテイストが受け継がれるのかは、未知数ですけどね。

ヒョードルのいまのファイトマネーは初参戦時の数百倍に高騰しているんですよ



3月27日、六本木ヒルズアリーナで行なわれた「PRIDE重大発表会見」において、『PRIDE』の代表を退陣、ロレンゾ・フェティータ氏にオーナの座を譲ることを発表した榊原代表。運営会社DSEの代表であるだけでなく、『PRIDE』のプロデューサーでもあった榊原代表が退くことで、新生『PRIDE』はどう変化するのか、注目する必要がある。

――では、『PRIDE』が変わってしまう可能性も当然ある、と。それはちょっと心配ですねぇ。

榊原　ただ、いい意味で10年で一つ区切りをつけるというのは、必要なんじゃないかとも思うんですよ。服のブランドと格闘技を一緒にしていいかわかりませんけど、たとえばルイ・ヴィトンにしてもグッチにしても、デザイナーが替わることによって、ルイ・ヴィトンとかグッチとかっていう伝統的なブランド名のもと、まったく斬新なデザインが生まれてくるわけじゃないですか。やはり『PRIDE』も"伝統と革新"というコンセプトのもと、次なる10年に向けて新しく動きだすことが必要だと思います。

――グッチ、ルイ・ヴィトンにはまったく詳しくないんですが（笑）、きっとそうなんでしょうね。

榊原　だから、これを機に斬新に変化するというのは、ある部分ではいいことだと思うんだよね。極論を言えば、『PRIDE』のテーマ曲が変わってもいいんじゃないかな。

――あの「ダン！　ダン!!　ダダン!!!」を変えてもいいですか！

榊原　うん、そうやって斬新にソフトを変えるいい機会だと思う。もちろん、全部を変えてしまったらダメだろうし、『PRIDE』の根幹である「世界最強の男を決める場所」というコンセプトや、これまでの上質なものを作り出してきた作業とかが変わったらダメだと思いますけど。現実問題、これだけ選手のファイトマネーが高騰すると、これまでの『PRIDE』と同じようなクオリティの選手を出し続ける興行を開催するのは、半ば不可能になると思うんですよ。

――スター選手がズラリと勢揃いするような興行は難しくなりますか。

榊原　難しいですね。2004年や2005年の『PRIDE・GP』と同じメンバーでいま大会を開こうとしたら、どれだけお金がかかるんだろうって思いますよ。2004年のヘビー級GPなんて、ヒョードル、ミルコ、ノゲイラみんな出て、小川直也選手まで出て。2ndラウンドなんて、吉田、桜庭、シウバまでみんなワンマッチで登場してるんですよ？　こんな大会はもう、とてもじゃないけど開けない！（キッパリ）。

――チケットが何万枚売れようが、赤字になっちゃう、と。

榊原　1年前まではできたことが、いまはもうできないんですよ。だから、たとえ

ば今回の『PRIDE・34』のマッチメイクを見て、ファンの人には「なんだこのカードは。全然、金がかかってないじゃないか」って思われるかもしれないけど、2004年頃のヒョードル、ミルコ、ノゲイラがみんな出ていた大会より、じつはお金かかってるんですよ。

――えぇ!? そうなんですか？

榊原　それぐらいみんなベースが上がってるんです。具体的な数字は言えませんけど、ヒョードルさんがいまもらおうとしているファイトマネーは、彼が2002年に『PRIDE』初参戦したときの数百倍ですからね。

――数百倍!!

榊原　そのぐらいファイトマネーが高騰してる。そこまで高騰しても、選手はもっと上がるだろうと思ってるんです。

――そりゃ、アメリカに進出して、一日も早くPPVで何十万件という数字が獲れるようにならないと、破綻しますね。

榊原　だからこそ、今回、『PRIDE』はDSEという手漕ぎボートから、新しい高速船に乗り換える必要があったんです。そうすることによって、日本市場にはない、アメリカ市場のPPVの収益が『PRIDE』にも速やかに入ってくる可能性が出てくるわけですから。

――いまはアメリカでのPPVの成功なくして、MMAイベントの成功はないところまで来てるわけですね。

榊原　そしてみんながそれを狙ってるんですよ。MMAはまだ成熟してない新しいスポーツですから、プロモーターとしては夢がいっぱいあるジャンルなんです。ベースボールが突然、いまの10倍に収益を上げることは不可能ですけど、MMAだったらありえるんですよ。だから、ボードッグのように湯水のごとくお金を先行投資できれば、ひょっとしたら3年ぐらいで大爆発して、世界的なイベントになる可能性もゼロじゃないんですよ。

――まぁ、現時点ではその兆候すら見えませんけどね（笑）。

榊原　でも、UFCだって同じですからね。ロレンゾやダナが信じて投資し続けた結果、ある日突然マーケットが爆発して、いまのような収益になったわけですから。

これを機にK―1の競合となる、新しい立ち技格闘技団体でも作ろうかな（笑）



さかきばら・のぶゆき■1963年11月18日、愛知県出身。大学卒業後、東海テレビ事業株式会社に入社。スポーツ、音楽イベントのプロデュースを数多く手がける。96年UWFインター名古屋大会を手がけた際、高田延彦と出会い、これをきっかけに森下前社長とともにプロデューサーとして『PRIDE』発展に尽力。03年に代表取締役社長に就任。今年、『PRIDE』代表を勇退する。愛称・バラちゃん。

PRIDE FOREVER
榊原信行

そして、いまはUFCのような爆発を信じて、新規参入してくるイベントが次々とできている。この流れでいくと、ファイトマネーの高騰はまだまだ止まらないのではないかと危惧しています。そして、そうやって考えるとね、最終的に生き残るのは……K―1ですね。

――K―1が残りますか！

榊原　だって、立ち技格闘技はK―1の寡占市場ですからね。『PRIDE』は競合イベントが世界中にたくさんあるけど、K―1は全然ないんだもん。ボクも総合格闘技じゃなくて、K―1やっときゃよかったかな～（笑）。

――ダハハハハ！　じゃあ、いまからキック系のイベント立ち上げますか（笑）。

榊原　そうだね。『PRIDE』が新しいオーナーに移ったのを機に、ボクがK―1の競合となる、新しい立ち技団体でも作ろうかな（笑）。

――なんだか、『PRIDE』から離れても、榊原代表の動向からは、目が離せなさそうですね（笑）。では最後に、『PRIDE』から離れるにあたり、何か思い残したことはありますか？

榊原　思い残したことは……まぁ、言い出したらキリがないですよね。でも、やれるだけのことは一生懸命やってきたし、高田さんが言うような〝濃密な10年〟を人生の中で送ることが、『PRIDE』とともにいたことによってできたんで、ホントによかったなって思いますね。いいスタッフ、いい選手、いいファンにも恵まれて、幸せでしたよ。まぁ、格闘技界はこれからますます混沌としていくと思いますが、あとはロレンゾさん、よろしく！　と（笑）。

――もう知ったこっちゃない、と（笑）。では、新生『PRIDE』に何か期待することはありますか？

榊原　とにかく生き抜いてほしいですね。『PRIDE』というブランドが自分の手から離れたいま、20年でも30年でも世界中の人から愛されて、世界の総合格闘技のナンバーワン・ブランドとして輝いてほしいと思いますね。

――榊原代表自身は、今後、どのようなことをやっていく予定なんですか？

榊原　『PRIDE』を10年間やってきたことで学んだ経験を活かして、また新たなフィールドで、多くの人たちに夢や感動を提供できるソフトや空間を創りだすことができたらと思います。そういうことを目指したいですね。

――わかりました。では、これまでいろいろありがとうございました！

榊原　こちらこそ、ホントにお世話になりました。『kamipro』のインタビューを受けるのも、これで最後でしょうね。で、『kamipro』もボクと一緒にやめるんじゃなかったっけ？

――いやいや、本誌は『kamiproワールドワイド』として、世界に羽ばたきますから。

榊原　こうなったら『kamipro』もアメリカ進出したほうがいいんじゃない？　ラスベガスあたりにオフィスを構えたほうがいいよ。もう総合格闘技の中心はアメリカになっていくわけだからさ。なんといってもアメリカは、ロサンゼルス・メモリアル・コロシアムで10万人興行をやるぐらい格闘技人気が高まってるんだからね。10万人きっと集まるよ（笑）。

――えー、長いあいだ、ありがとうございました（笑）。

【07年4月10日／都内、青山・DSEにて収録】



6.2
『Dynamite!! USA』
ついに
開催発表!!

格闘技界に危機感、大アリ!!
FEG、『PRIDE』10年目の運命をつなぐ!

桜庭和志『PRIDE』登場劇から考える

無限大の器量とは何か?

K-1イベントプロデューサー

谷川貞治

どいつもこいつも器量が小さ〜いッ!! ほら、この男を見てみぃ! 桜庭和志の『PRIDE』登場をどデカい器量でOKした男。そう!『PRIDE.34』"真のMVP"谷川貞治FEG代表である。一連の桜庭奔走劇をはじめ、6月にはついに総合初のアメリカ進出をはたす『Dynamite!! USA』、それから各方面"提携するの、しないの"で混沌とする格闘技界に"無限の器"を持つサダハルンバは何を思うのか。器量の大きすぎるインタビューから読み解け!!

聞き手/ジャン斉藤 撮影/菊池茂夫

谷川　斉藤く～ん。昨日はワンワン泣いたって聞きましたよぉ（してやったりの表情で）。

——ええ。本当に泣きましたよ、谷川さんの器のデカさに（笑）。よっ、サダハルンバ!!

谷川　それにしてもさあ、昨日の佐藤大輔にはちょっと頭にきたなあ！（鼻息荒く）。

——ああ、いきなり器の小さい話に（笑）。怒りの原因はズールvsバタービーンの煽り映像ですね。あのモンスターマッチの象徴として、谷川さんの画像がたびたび登場したという。

谷川　もお、あんな使い方しなくてもいいじゃない、ねえ！（身を乗り出して）。

——まったくとんだサプライズでしたよね（笑）。しかし、それ以上のビッグサプライズといえば、やっぱり桜庭和志の『PRIDE』登場でしたよね。

谷川　ビックリしたでしょ!?

——ええ。本当に。

谷川　でも、『kamipro』は前から知ってたでしょ？

——ええ。かなりのあいだ裏側を楽しませてもらいました（笑）。3月末に谷川さんのインタビューを申請したら、収録日時を『PRIDE・34』翌日に指定してくるから、こっちは〝サプライズ確定〟なんだなって確信したり。

谷川　ウフフフ。だって、そのほうがおもしろい話ができるでしょ？

——器の大きい配慮、ありがとうございました（笑）。そもそもこの話は、谷川さんにはどのタイミングで届いたんですか？

谷川　えー、3月の最後の週ですね。ボク、3月27日にロスで『Dynamite!! USA』の会見をやってたじゃないですか。あのときに桜庭選手からボクに電話があったんですよ。……あ、それより先に佐藤大輔から連絡があったんだ。

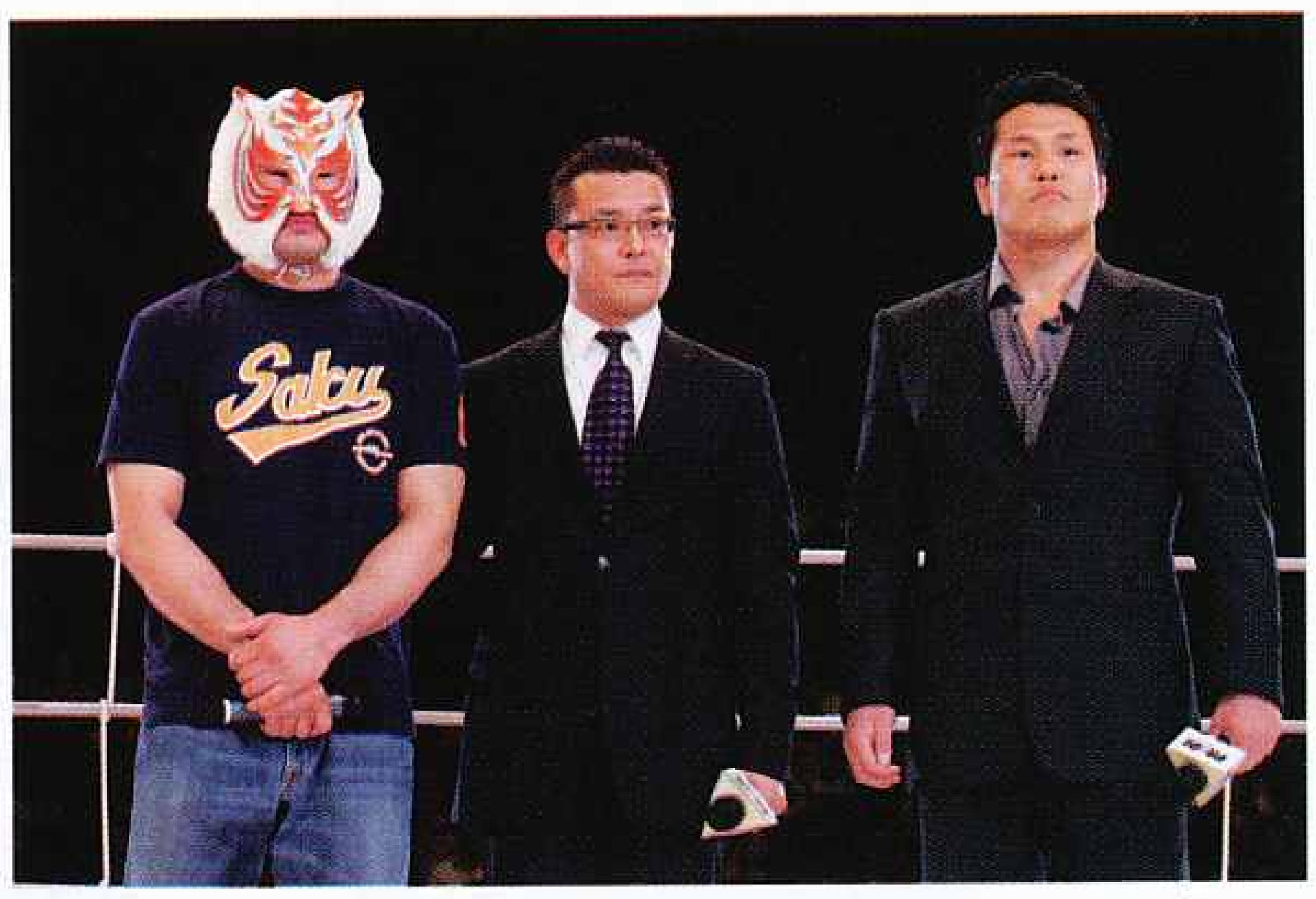
なんでPRIDEの人ってそんなに桜庭vs田村にこだわるんだろう

——あきらかに何かを企んでいる電話（笑）。

谷川　それで4月2日かな？　サクちゃんと話をしましたよ。ボク自身はサクちゃんが『PRIDE』のリングに上がりたいという気持ちは尊重したいから、その話はいいなって思ったんですよ。でもですね、試合をするにはあまりにも時間がなさすぎるなって。

——普通に考えたらそうですよね。

谷川　だから、二人の中で「じゃあ、試合



インタビュー中、桜庭登場劇の話になると「ねぇ、ビックリしたぁ!?」と得意げにしゃべり始める谷川EP。この桜庭登場の瞬間を、谷川EPはなんとも目を潤ませながら見ていたという。ありがとう、サダハルンバ!

はやめときましょう」っていう話になったんですよ。でも、次の日かな？　バラさんから「出してよ」っていう電話があって。

——今度は単刀直入な電話（笑）。

谷川　いままでのFEGとDSEの経緯を考えたら「出してよ」もないだろうよと思いましたけど、ボク、なぜか「頑張ります！」って言っちゃったんですよねえ。

——ハハハハ！　でも、かなり頑張ったんじゃないですか。よっ、サダハルンバ!!

谷川　頑張りましたよお！（鼻を膨らませながら）。ボクとしてはサクちゃんから電話があった時点で『PRIDE』に行かせようとは思ってました。それに、いまK—1が『PRIDE』に対して何かしなければ、タイミングを逸するなっていう気持ちも凄くありましたしね。

——それは、過去のK—1と『PRIDE』のいろんな経緯を含め、直感的に「いまだ！」と？

谷川　『PRIDE』とはいろいろありましたけど、バラさんの最後の『PRIDE』だったんで何かしてあげられればいいなって思いましたから。それに、どの選手よりも桜庭選手が『PRIDE』に上がるのが一番のサプライズになると思いましたからね。それって、PRIDEファンからしても決してイヤな感じには捉えられないだろうなって。

——イヤな感じどころか、逆に株が上がりますもんね。

谷川　でも、本格的な話をしたのは、4日のK—1 MAXが終わったあとでしたし、こっちは各方面を調整しなきゃいけないんですよ。TBSさん、スポンサーさんもそうだし。だから、とてもじゃないけど試合をするのはムリだなって。

——それでも谷川さんの〝頑張り〟のおかげで桜庭選手は『PRIDE』に登場したわけですけど、リング上のやり取りをご覧になっていかがでしたか？

谷川　サクちゃんがマスク越しに泣いているのを見たときは「やるなあ！」って思いましたね。

——やるなあ（笑）。

谷川　ボク、お酒を飲みながらPPVを観てたんですけど、思わず涙ぐんでしまいましたよ！　やっぱ、サクちゃんの笑顔と涙はね、なんというか、もの凄く人を黙らせますよねぇ。いいなあ～。

——谷川さんはどういう涙だと思いました？

谷川　あの～、当日の夜サクちゃんから電話があって、「いやぁ、やっぱりリングに上がった瞬間、我慢できなかったです」って。だから、ボクは「そこがサクちゃんがほかのファイターとは違うところだよ」って言いましたよ。でも、ボク自身はサクちゃんに対してのほうが思いはありましたね。

——へえ～。それは意外な感じがしますね。

谷川　バラさんもこの4年間はすんごい苦しかったと思うから。森下前社長が亡くなられたときも、03年の大晦日の件でK—1と『PRIDE』が割れちゃったときも、本当に苦しかったと思うんですよ。

——フジテレビの放送が打ち切りになったりもして。

谷川　そういう中で、バラさんって決して自分のダメなところを見せたがらないタイプだからねえ。ハッキリ言って、ボクなんかグチばっかり言ってますからね!!（なぜか堂々と）。

——ハハハハハ！

谷川　でも、バラさんは『PRIDE』の最強路線というカラーを確立してましたし、本当よく頑張ったなあって。そういう意味でも、ボク自身、バラさんにはもう何もないですね、イヤな感情は。

——ある意味、榊原代表には〝戦友〟めいた感情があるんですかね？

谷川　なんか、昔にタイムスリップしたみたいな感覚でしたよ。でもさあ、こんなこと言うとアレですけど、『PRIDE』の人ってなんでそんなに桜庭vs田村戦にこだわるんだろうねえ。

——谷川さんはピンときてない。

谷川　ねえ、なんでぇ？

——観たいからでしょう（笑）。まあ、普通に考えたら、昨日は桜庭さんが花束を持って挨拶するだけで充分サプライズになりえたと思うんですよ。田村潔司という存在は余計……とまではいかないですけど、こんなに時間がない中で詰めるようなものではないなって。

谷川　そうだよねえ。

——でも、昨年からの桜庭さんの置かれている状況からすると、風向きを変える大きなきっかけは必要ですよね。誰々に勝つとか、そういうものじゃなくて、ファンの目線を変えるきっかけ。そういう意味では、昨日で"桜庭和志"がよみがえったところはあるじゃないですか。でも、それはやっぱり田村潔司がいたからこそだと思うんですよね。田村潔司がいなかったら、単なる点の出来事で、10周年記念興行のゲスト扱いで終わっていたという。

谷川　単純に、そこは『PRIDE』の関係者やファンたちの思い入れが違うんだなあとは思いますよね。でも、いいよね、実現すれば。

——完全に他人事ですね（笑）。

谷川　いやいや、ボクらは全然OKなんですよ。もちろん『HERO'S』のスケジュール的なことを除けば、拒むものは何もないですね。だから、実現する、しないは田村選手の気持ちじゃないですか。いつもそうだけど。でも、なんでそこまで桜庭vs田村戦にこだわるのかなあ～。

——そこまで疑問に思うのは、この対戦の"賞味期限"が切れているところもあるんですかね？

谷川　そうですねえ。たとえば、2～3年前だったら違いますね。それは山本KIDvs須藤元気とか、山本KIDvs魔娑斗もそうですけど、時間が経つとどうなるかわからないじゃないですか。逆に言うと、これでいいタイミングを作ったのかなとも思いますけど。あとは、ロレンゾさんたちがどうするかでしょうけど、この世界観はわかんないと思いますよ。だって、ダナ（・ホワイトUFC代表）さんにしても、器量がないもん！

——谷川さんに比べると（笑）。もし今後の『PRIDE』がダナ・ホワイトのセンスで行なわれるとしたら、やっぱり変わっていきますかね？

谷川　まったく変わると思いますよ。というか、バラさんがやらなかったら変わるでしょう。

——そういう意味で、いままでの『PRIDE』にあって、これからの『PRIDE』でなくなるものってなんだと思いますか？

谷川　う～ん……PRIDEファイターやUFCファイターという区分けが難しくなるんじゃないですか？　ミルコみたいに外国人ファイターだとUFCを戦場にする人のほうが多くなるでしょうけど。あとは、ロレンゾさんたちが、はたしてUFCに対抗できる『PRIDE』を作るのかどうかということですよね。ただ、今回『PRIDE』が買われたことによって、『PRIDE』と『HERO'S』は仲良くなるんじゃないかなって思うんですよね。っていうかさあ、バラさん、『HERO'S』のプロデューサーやってくれないかなあ……。

いまの格闘技界ってお互いの顔が見えてないと、もの凄く怖い

——ハハハハ！　それを言ったら『PRIDE』の新社長だってまだ決まってないわけですからね。谷川さんが立候補するって手もありますよ。

谷川　ああ、凄くやりたいなあ～!!

——やりますか！（笑）

谷川　そうかあ。ボクにもチャンスがあるかもなあ。

——ほとんどないと思いますけど（笑）。で、谷川さんからすると、ロレンゾ氏が『PRIDE』を傘下に収めたことに、危機感はありました？

谷川　それほどないです。ボクは逆にいうと、UFC以外の団体に対して危機感がありますね。

——つまり、ボードッグやエリートXCに。

谷川　彼らはねえ、何も考えずにムチャクチャな金額で選手を引っぱると思うんですよ。そういう動きって、格闘技界をかなり混乱させると思うんですよね。

——ボードッグは優勝賞金10億円トーナメントをやるという噂もあります。もし本当なら、ビジネスにするつもりはあまりないということです（笑）。

谷川　そういう意味で、ボクはUFCのほうが顔が見えるからまだ安心ですね。もちろん、ミルコみたいなトップファイターには大金を払うかもしれないけど。

——それは計算があってのことで。

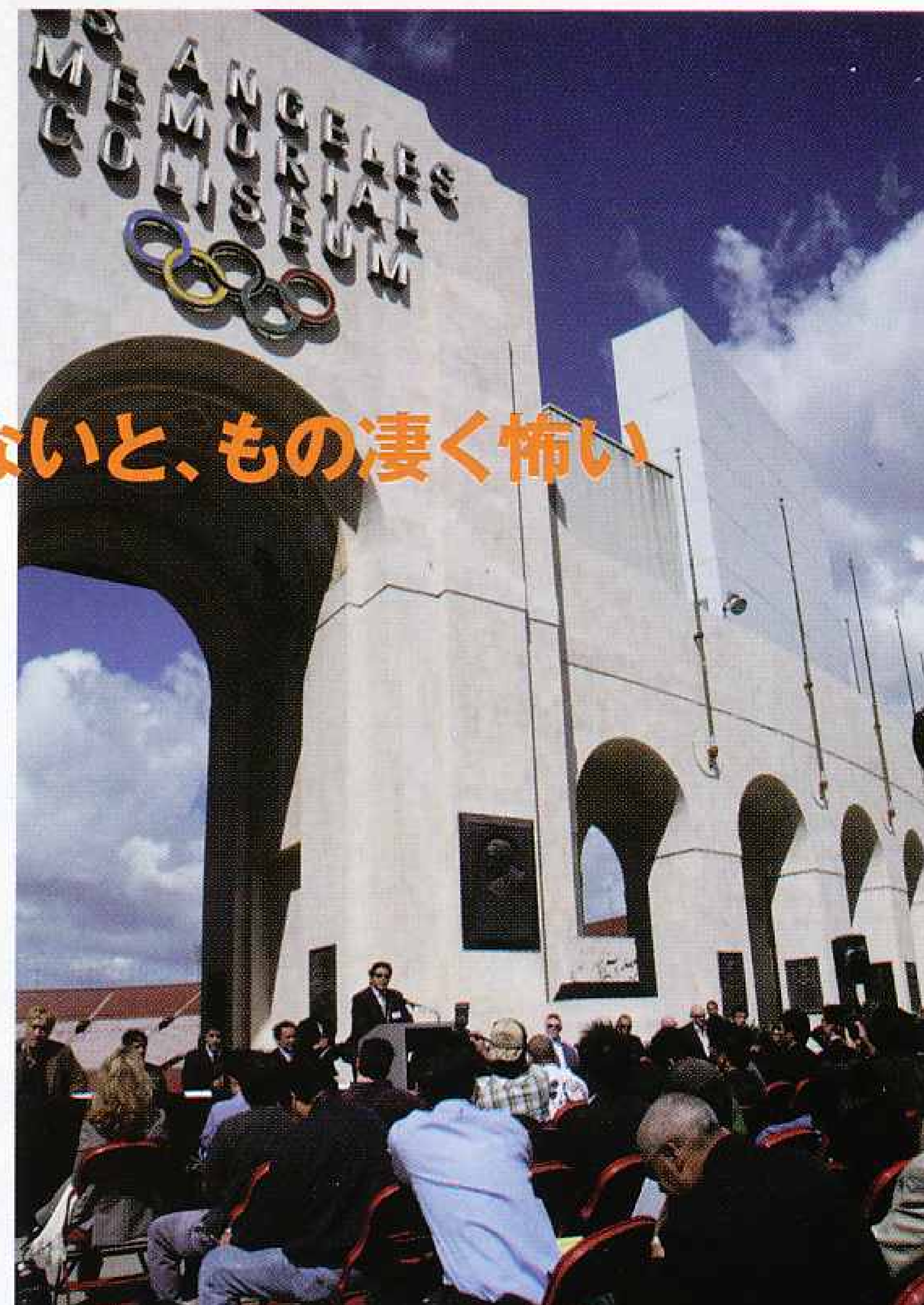
谷川　そう。でも、得体の知れない団体でも、もの凄いお金で選手に声をかけてきたりしたら、選手はホイホイ行っちゃいますから。だから、FEGがアライアンスを結成しようと思ったのは、一番はそれが理由なんです。お互いに顔が見えるようにしておかないと、もの凄く怖いことになるなって。

——つまり、話し合いの場みたいなのをちゃんと作ろう、と。

谷川　もちろん統一のルールを作るとか、ワールドカップみたいなことをやるとか、そういうこともできればおもしろいと思いますけど、はっきり言っちゃうとそれは二の次ですね。

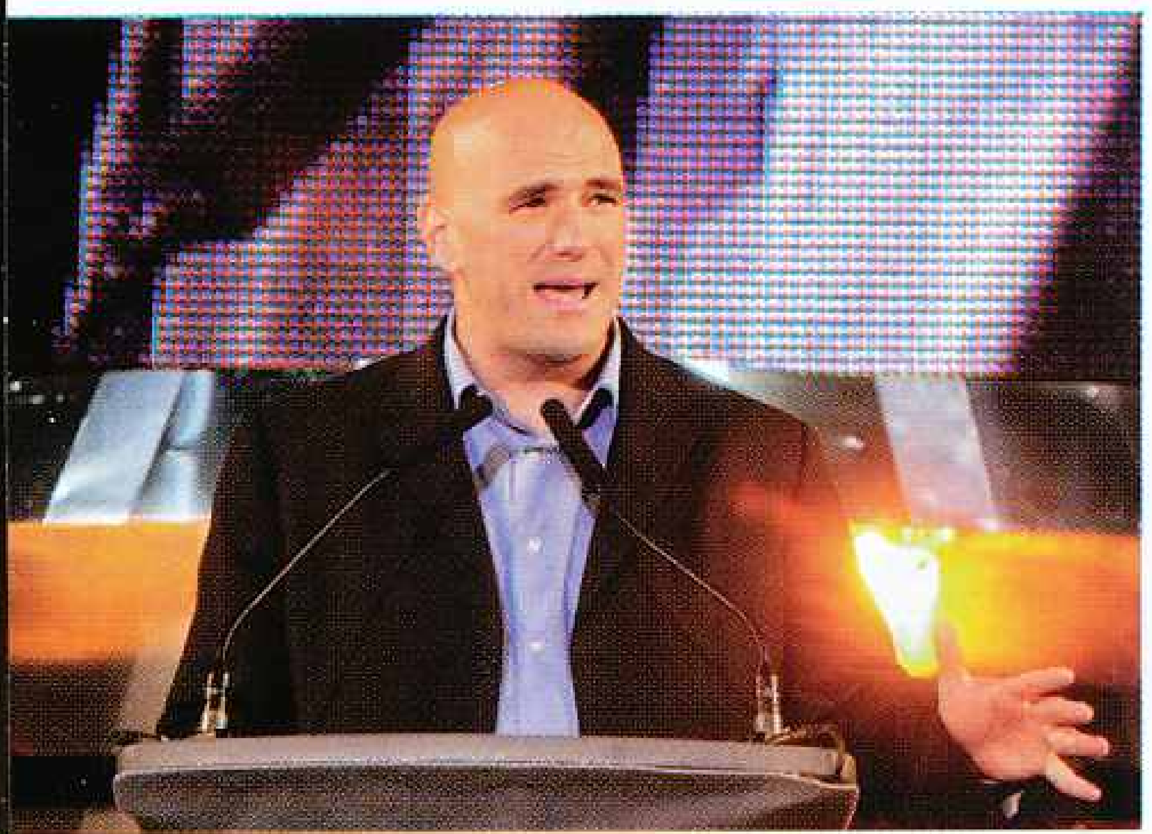
——ただ、アライアンスに名を連ねたはずのボードッグとストライク・フォースがその事実を否定しましたよね。

谷川　なんですかねえ。ストライク・フォースは会見前日に代表のスコット・コーカー





3月27日、アメリカ・ロサンゼルスにて『Dynamite!! USA』開催発表記者会見を行なったFEG。同会見では同時に"MMAアライアンス宣言"をはたしたが、現段階で早くもボードッグ、ストライク・フォース、スピリットMCが離脱……。いったい、どうなってるんだ!?



「UFCのやってることって、ぜんぜん意味がわかんないんだよね〜」と"器量の小さい"ダナにやんわりメッセージを送るサダハルンバ。やはり団体の代表は「ジョーク」と言われても「素敵なコメント、ありがとう!」とメールを送るくらいの器量がなければいけないのだ!!

と一緒に食事をしたんですけどねえ。会見当日はなぜか「寝坊した」ってことで欠席したんですよ。たぶんね、いろいろ政治的な問題があるんだろうとは思うんですけどね。

——では、ボードッグのほうは？

谷川　そっちは、ボードッグ関係者が「ウチはパンクラスと提携してるから、パンクラスの了解を得てくれ」という話をしてきたんですよ。だから、ボクはパンクラスさんのほうにも連絡したんですけど、パンクラス側から「ボードッグからはそんな話は聞いてないし、違う言われ方をした」って。でも、公式にはああいうことを言ってるんでしょ？

——どうなってるんですかね、いったい。

谷川　だからさあ、もうそういうのって、ハッキリ言っちゃえば、器量の問題ですよね！

——器量の大きい谷川さんからすると（笑）。

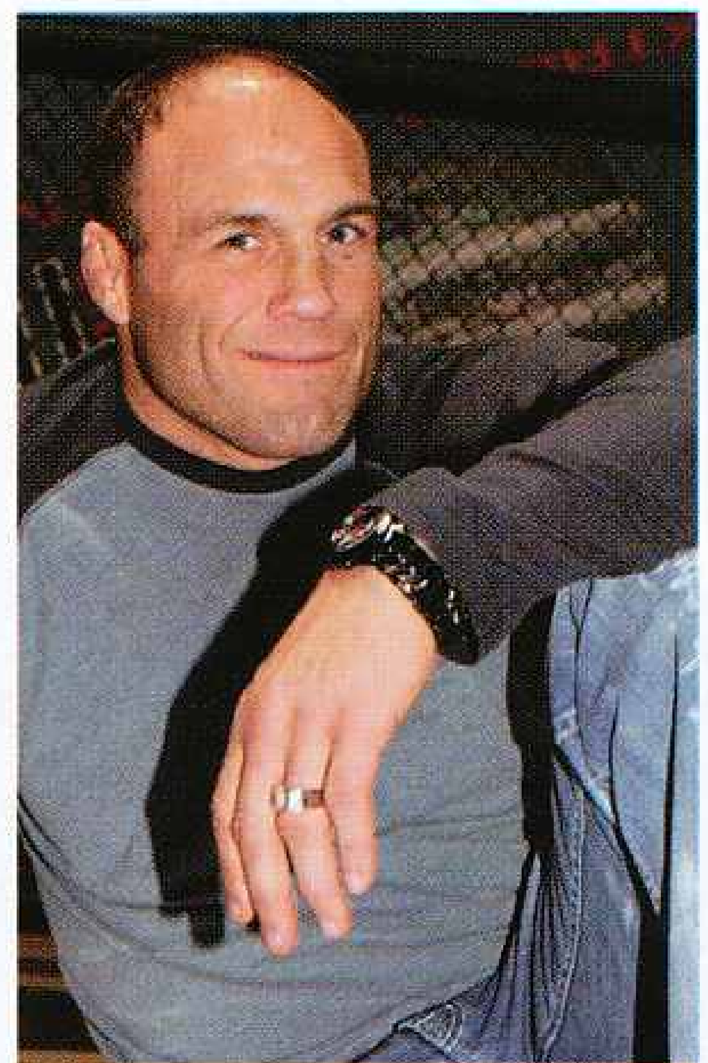
谷川　面倒くさいなあって！　まあ、ボクとしては本当にダナさん、ロレンゾさん含め、お互いに連絡をきちんと取れるような関係ができればいいし、その中で選手に声をかけても全然いいと思いますけど、連絡ができない状態で何かやられると、それは本当に怖いですね。

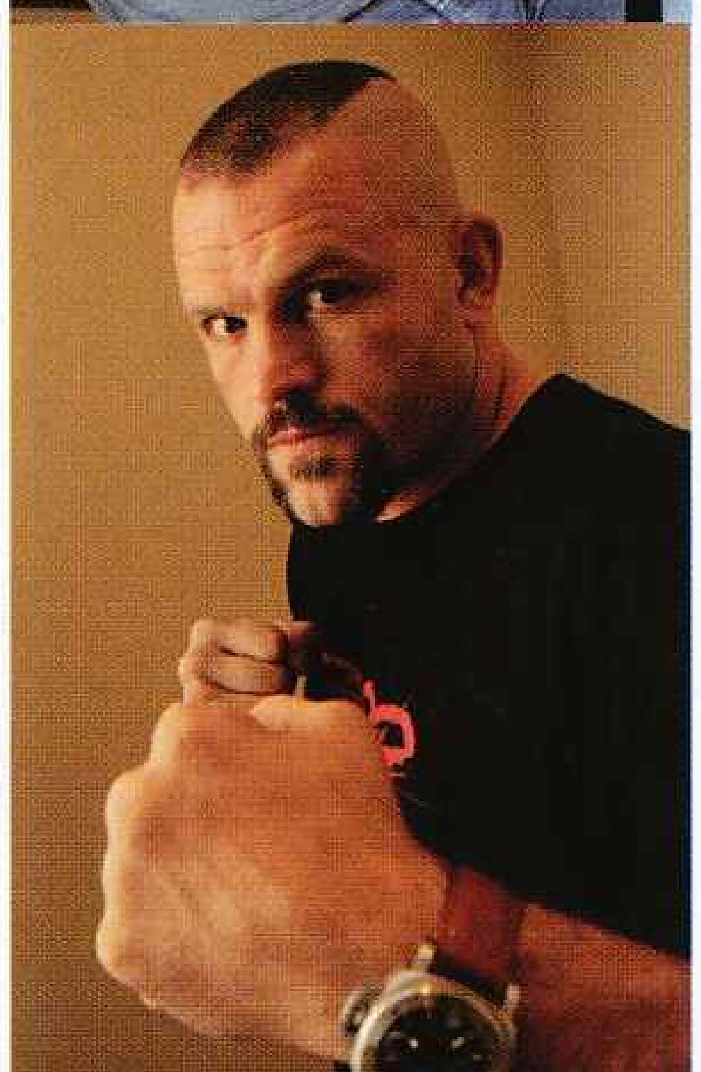
——そうやってアライアンスを組むというのは、谷川さんがいまのマット界に凄く危機感があるということの裏返しですよね？

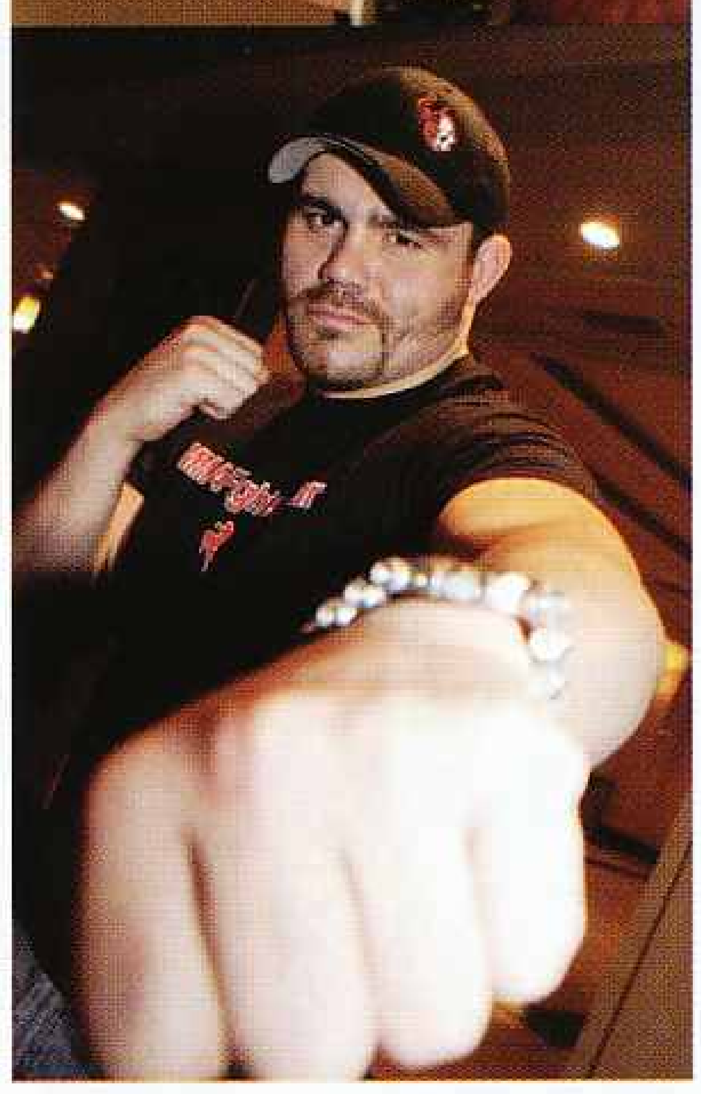
谷川　もの凄く危機感ありますよ！　大げさな言い方なんですけど、ボクらは〝最後の砦〟だと思ってますから。

——〝最後の砦〟！　カッコイイなあ（笑）。よっ、サダハルンバ!!

谷川　『kamipro』も〝最後の砦〟だっていう気持ちはあるでしょ？　一緒に頑張ろうよぉ！







アメリカでは絶大な人気を誇るUFCのトップ選手だが、こと日本となると正直言って知名度はイマイチ。その上、谷川EPは"これじゃあ、危機感が湧いてくるよ〜"とピシャリ!

——そんな気持ちはまったくありませんので、お断りいたします（笑）。

谷川　それは残念だなあ。ボクもいろんな団体がムチャクチャ調子がいいんだったら出る幕ないと思いますけど。UFCの調子がいいって言っても、あれじゃダメでしょ（キッパリ）。

——ダメですか！

谷川　正直言って、いまの人気は続かないと思うんですよ。ボクはね、はっきり言って初期の頃のUFCは大好きなんですよ。やりたいことはよくわかる。

——あの他流試合のムードというか、もの凄く怪しくて危険なイメージってことですよね。

谷川　でも、いまはそういうのは感じないし、勉強不足なだけかもしれないですけど、ノドから手が出るほどほしい選手って、だ〜〜れもいないんですよね。

——だ〜〜れも（笑）。

谷川　本当に。昨日の『PRIDE』に出たソクジュとかはいい選手だなあと思いますけどね。あと、瀧本（誠）と闘った選手もよかった。

——ゼルグ・〝弁慶〟・ガルシック。

谷川　『PRIDE』やK-1には、そういう魅力的な選手が自然と集まるんですよ。でも、チャック・リデルとかランディ・クートゥアーとか……あといるでしょ、ただ身体がデカいだけで、本当につまらない選手。

——ティム・シルビア？（笑）。

谷川　そう！　あとは、昨日、藤田（和之）選手と闘った選手!!

——ジェフ・モンソン。名前すら覚えていない（笑）。

谷川　格闘技がおもしろく見えないよねえ。そういう意味でも、我々がやっていることって、やっぱり格闘技をおもしろくする〝最後の砦〟ですよね。アメリカのイベントなんかと比べて思うのは、ボクらや『PRIDE』って格闘技をいかにコンテンツビジネスに変えるかっていうのが勝負だったんですよ。

——つまり、どうやって地上波放送向きのコンテンツにするかとか。

谷川　いろんなメディアに乗せて、格闘技の人気を高めていくというコンテンツビジネス。だけど、UFCやボードッグはやっぱりカジノビジネスなんだよね。世界中のカジノの中でどういうふうにイベントを打つのか？　っていう話なんですよ。だから、スタイルがまったく違うんですよね。

——現段階の『Dynamite!!　USA』はブロック・レスナーvsチェ・ホンマン含め、谷川カラー的なものが充分に見えますけど。

谷川　ただね、ボクのマインドを言うと、いまはちょっと『PRIDE』っぽいことをやろうかなって。

——……去年の大晦日決戦直前インタビューのときも「シリアスにいく」とか言われてましたけど、その翌日にジャイアント・シルバvs曙戦を発表したからなあ、谷川さんは。

谷川　いやいや、今度こそ『PRIDE』っぽいことやりたいんだもん。

——ちなみに谷川さんのイメージする『PRIDE』っぽいことって、いったいなんですか？

谷川　やっぱりボビー・オロゴンvsムリーロ・ニンジャとかですよ！

UFCの選手でノドから手が出るほどほしい選手って、だ〜〜れもいないんですよね

──はあ（笑）。

谷川　あと、それこそソクジュvsアローナですね。ソクジュはスター性がありますねえ。ボクは好きだよ～ぉ！

──ボクに告白されても困ります（笑）。話を『Dynamite!! USA』に戻しますけど、秋山（成勲）選手は出場しないんですか？

谷川　秋山選手は無期限出場停止中なんでもちろん出ないですね。っていうか、どうしましょうねえ、秋山選手。

──難しいですねえ。桜庭さんは〝田村戦〟という目標が見えてきましたけど。

谷川　まあ、カードに関しては来週あたりからぼちぼち発表していこうと思ってますんで、楽しみにしててくださいよ。

──ところで、谷川さんの思うアメリカっぽいことってなんですか？

谷川　アメリカっぽいことは……ハッキリ言って理解ができないんだよね、UFCがやってることとかって。ボクにはどうしてウケるのかわからないし、UFCが何をやりたいのかもわからないし、格闘技をどこに持っていこうとしてるのかもわからない。勘なんですけど、たぶんダナさんも自分で何をやっているのかわかってないと思うんですよね～。

──ハハハハハ！　じつは競技やスポーツというわけでもなさそうですよね。

谷川　だから、UFCをもってアメリカっぽいことって言うんだったら、ちょっとボクにはムリですね。

──UFCは、アメリカという土壌を活かしてやっているということすら、見えてこないということですか？

谷川　うん。アメリカの選手がたくさんいるのはわかるんですけど。アメリカという国を理解したうえで何も狙ってないだろうって。

ボクって、無限になんでも受け入れられるんだよねえ

──それはアメリカ人が桜庭vs田村的世界を理解できないのとはあきらかに質が違いますよね。

谷川　違いますね。現に、ダナさんとかロレンゾさんの発言、それにアメリカのマスコミの人に聞いても、やっぱり桜庭とかKIDとかの魅力ってわかってくれますもん。でも、ボクはランディ・クートゥアーの魅力はわからない!!



撮影では、タイガーマスクを見つめながら「桜庭vs田村って、ホントに観たいぃ？」と首を傾げていたが、「サクちゃんが『PRIDE』に出るのは全然OKだよ～」と“器のデカさ無限大”節を炸裂！　よっ！　サダハルンバ!!

──ハハハハ！　谷川さんの勉強不足という問題ではない？

谷川　そういうことでもないですね。パッと観て「で？」って感じだし。それにボクはたいていのことは受けとめるんですよ。

──ご自分で器量は広いと思ってるわけですね？

谷川　というか、ボクは器自体がないと思ってますね。

──器量がない!?　詳しくご説明をお願いします（笑）。

谷川　要するに、ボクは無限になんでも受け入れられるんだよねえ。

──ハハハハハハ！　それは凄い!!（笑）。

谷川　あ、ホント？　嬉しいなあ。

──でも、谷川さんとはいえ、たまに怒ることあるじゃないですか。武蔵vs藤本祐介戦でレフェリーの角田さんが勝手に「このままの試合内容が続けば、両者失格にします！」って言っちゃったことに対しても。

谷川　いや、全然怒ってないしモメてもないですよぉ。

──すると、立場上、注意めいたことをしないといけなかったということですか？

谷川　注意めいたこと……でもないですけど。本当、あれは「どうなんですかねえ」って聞いたことが勝手に一人歩きしちゃったただけで。

──じゃあ、谷川さんっていま何をやられたら怒りそうですか？

谷川　……ないなあ。

──ないんですか（笑）。

谷川　ああ、ただ裏切ったりする人は一生信用しないですけどね。そういう人は絶対に信用しない。人を裏切る人間は一生直らないって思いますから。

──でも、誰でも受け入れられる無限の器は持っている。

谷川　そうだねえ。バラさんに対しては本当に何もないし……………あ！　島田裕二に対してはまだ怒ってますよぉ!!

──ハハハハハハ！

谷川　思い出したら腹が立ってきたなあ。本当にムカつくなあ！

──一気にスケールの小さい話になりました（笑）。

谷川　こんなことを言ってるからダメなのかなあ。

──でも、〝敵〟を誰に設定するかは重要ですよね。

谷川　いまの『kamipro』は誰を〝敵〟に設定しているの？

──え～～っと、いまは○○○○ですね。〝敵〟として設定するために一生懸命磨いてるんですけど、『kamipro』が応援していると勘違いしている人も多くて。

谷川　でも、いまの○○○○だと影響力はないから、読者は実感ないでしょ。

──じつはそうなんですよね。悪役の個性は満点なんですけど。やっぱり『HEROS』にしときます（笑）。

谷川　んあ～！　〝最後の砦〟同士、一緒に頑張ろうよぉ！

【07年4月9日／都内・会員制クラブにて収録】

バカがPRIDEを救う!!





07年大注目ファイターを
ズームアップ!

キリンはやっぱり強かった!
ホジェリオに続き、アローナも一撃KO!!



日本初上陸で大暴れ!!

ジャングルの王者


ソクジュ

聞き手／ターザン上杉!　撮影／菊池茂夫



て来ただ!!

バカがPRIDEを救う!!



PRIDEに野生の時代到来!

オラ東京

「ホジェリオは確かに強いが、キリンよりは弱いだろう」という名ゼリフが本誌に掲載されるや、マット界（の一部）に大反響！　その言葉どおり、2月のラスベガス大会で実力者ホジェリオ・ノゲイラを秒殺！　『kami-pro』に動物特集を組ませるなど、日本にキリン旋風（?）を巻き起こした〝ジャングル大帝〟ソクジュがまたしてもやってくれた！

初来日となる4・8さいたま大会で、またしても〝強敵の中の強敵〟ヒカルド・アローナをロングアッパー一発でKO！

マシンガン・トークに定評のある、解説席にいたフランク・トリッグをも黙らせるほどの説得力ある勝ち方で、前戦の金星がフロックでないことを証明。大会後の記者会見では、髙田本部長から真顔で「キミはいったいどこまで強くなるの?」と聞かれるほどに。

一夜のシンデレラ・ボーイから、一気に押しも押されもせぬゴールデン・ルーキーとなったこの男を大会翌朝、本誌取材班がホテルで直撃！

――ソクジュさん！　初来日、初勝利おめでとうございます!!

ソクジュ　ウッホ！　ありがどよ！　おめえらが呼ぶから、東京さ出てきたんだ。

――いや、私たちが呼んだわけじゃないですけど（笑）。しかし、〝地味に最強〟なアローナ相手に素晴らしい勝利でしたね。（前号の『kami-pro』を見せながら）これで我々も、マット界の一大事の最中に、のんきなキリン特集を組んだ甲斐がありましたよ。

ソクジュ　（キリン特集に見入りながら）ん？　なんで、キリンの写真のとごろに、ヒョードルの顔が3づも入っているんだ？

――それは、キリンはヒョードルよりも3倍強いという意味でして……。

ソクジュ　バカだな、このマガジンは！　こんれだけオラが、おまえんとこの雑誌で説明してきても、全然わかってねえがな！　野生をナメるなと。キリンはヒョードルが100人束になってかかってきでも負けねえんだがらな。

――キリンは100ヒョードル！　それはたいへん失礼しました（笑）。

ソクジュ　日本語は読めないから何が書いてあるがわからねえけど、いっだい、どこに取材に行ったんだ、おめえら？（アダモち

King of Jungle
SOKOUDJOU

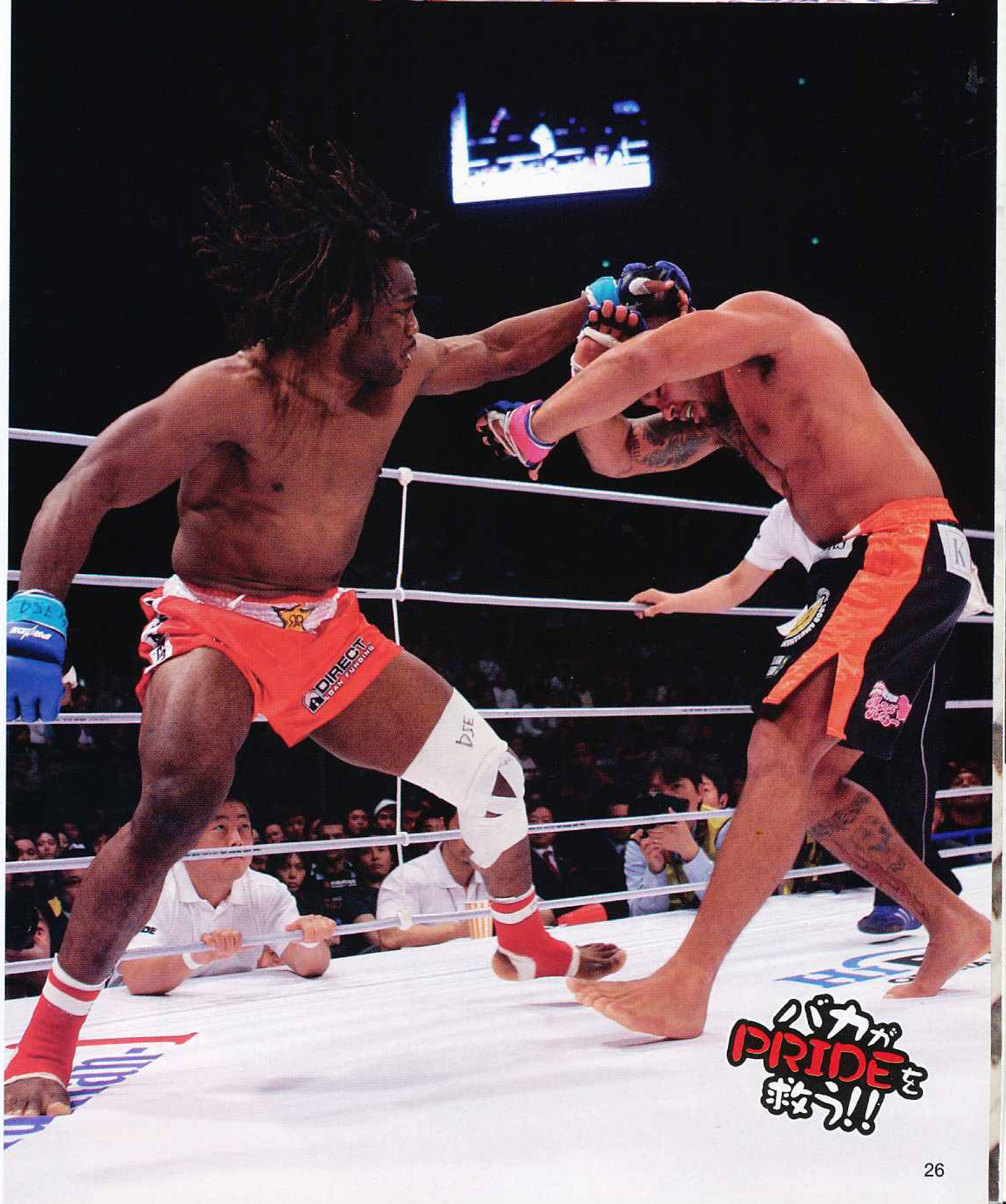
ゃんこと島崎俊郎を指して）だいたいこの身体のた～るんだ、男は誰だ？　ごんな、おいしそうなアフリカ人は生き残れないぞ。すぐにキリンに食われてしまうからな。

――キリンに食われてしまいますか!?　なんだか、ソクジュさんの話すキリンは日本での草食動物の常識を超えてますけどね。ちなみに彼は動物と闘ったコメディアンで、我々は動物格闘マンガ家、獣医さん、それ





［PRIDE.34 -KAMIKAZE-］
○ソクジュ vs ヒカルド・アローナ×
（1R 1分59秒 KO）
アローナの弾丸タックルにも倒れなかったソクジュ。さすが柔道で篠原信一に勝ったと自称するだけあって足腰が強い！　さらにアローナを突き放すや、ロングアッパー一閃！　まさかの秒殺劇で観客のド肝を抜いた。





バカがPRIDEを救う!!

から動物園に取材にも行きましたよ。

ソクジュ（あきれた表情で）おめえら、オラの故郷のジャングルの村人よりもヒマなんだな〜。ま、よくわがんなかったけど、オラの写真もたくさん載っているから3冊ぐらい買うよ。

——ありがとうございます！

ソクジュ　こうやって、雑誌で取り上げられているんだから、すでにオラは東京でも人気者ってことだろ？

——いや、それほどでも。でもPRIDEミドル級のトップ中のトップファイター、〝ブラジリアン・タイガー〟の異名を持つアローナ相手にあの完勝ですから！

ソクジュ　タイガー？　あんなの、本物のトラと比べたら、全然ッ!!　アローナはベイビー・タイガーだよ。

——あ、ソクジュさん的には、トラはトラでも、赤ん坊みたいなものですか。

ソクジュ　そうだな。おめえ、ちゃんとオラの試合を観てないだろ？

——え、ちゃんと観ましたよ！　アローナの弾丸タックルに倒れない、柔道で鍛えた足腰。そして、一瞬のスキを逃さずにパンチを入れる反射神経は凄かったです。

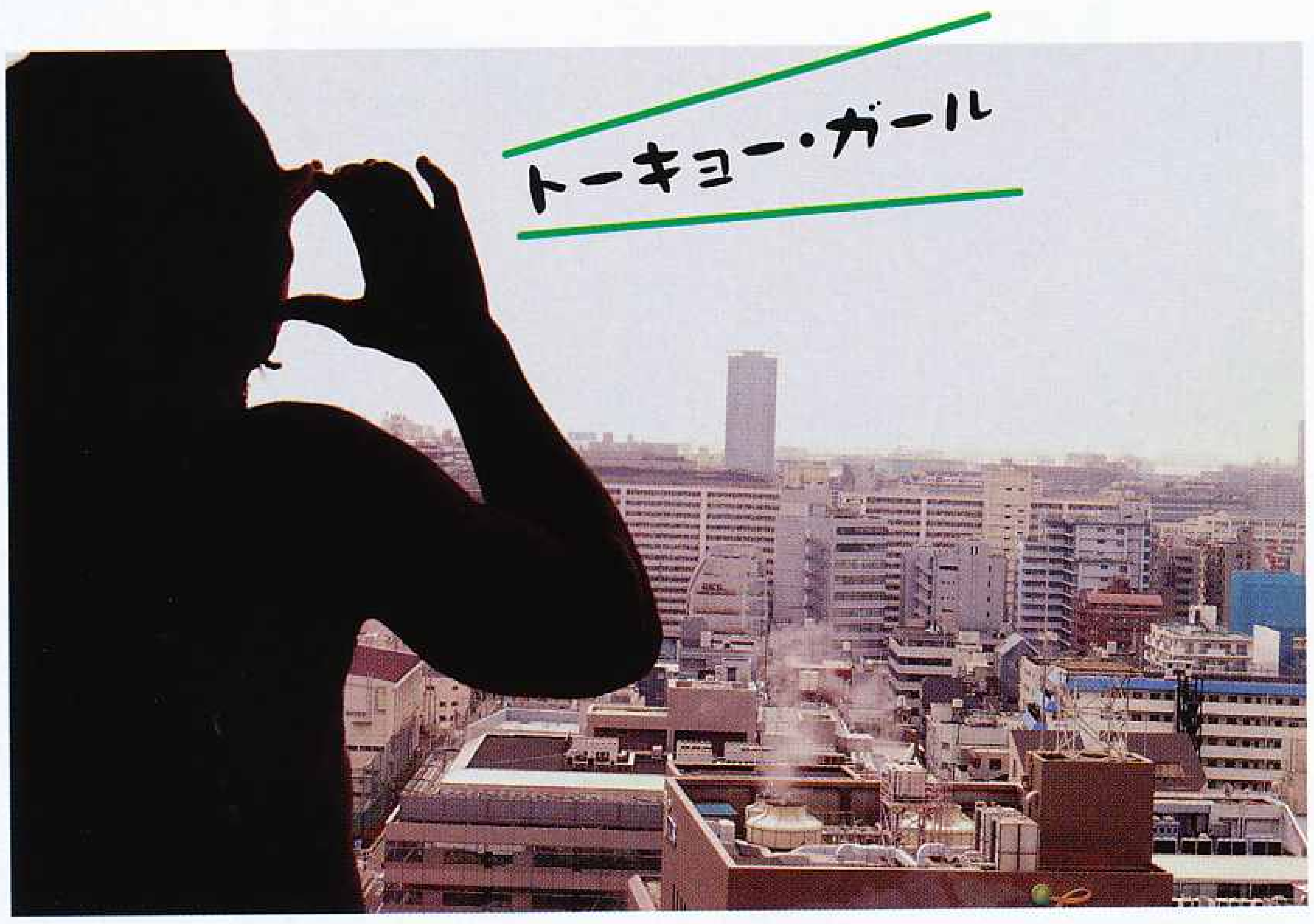
ソクジュ　おめえはなんにもわがってね！　オイラが強いのは、そういう個体のレベルだけじゃないんだ。オラはすべての野生動物からエネルギーをもらっているんだからな。だから、今回の勝利もオラ一人の力で勝ったんじゃねんだ。地球上の動物の力を授かったんだ！

——『ドラゴンボール』の元気玉みたいですね（笑）。でも動物からエネルギーをもらうって言っても……確かに試合の前にわざわざ上野動物園に行かれて、キリンやカピバラに会われてましたけど。

ソクジュ　うんだ。あれは決して遊びじゃねえんだ。あいつらは檻に閉じ込められていてかわいそうだったから、あいつらのためにも頑張ったんだ。それで、オラ勝ったんだから解放してやってぐれよ！

——いや、そんな条件はもともとなかったと思いますよ（笑）。

ソクジュ　そして、もちろん勝てたのはダン（・ヘンダーソン）らチーム・クエストのサポートもあるんだ。



アダモちゃんはアフリカでは生き残れないぞ。おいしそうな人間はキリンが食っちまうからな！

——なんか、いまとってつけて、チームへの感謝をつけ加えたように聞こえますけど（笑）。しかし、こうやってミドル級のトップファイター相手に2連勝したわけですから、ベルトを持っている、そのチームメイトのダンヘンとのタイトル戦も視野に入ってきますよね？

ソクジュ　ダンと試合をすることはねえだ。毎日スパーリングで闘って、ボロボロにされているけんどね（笑）。

——そうなると次、とくに闘いたい相手はいますか？

ソクジュ　いんや、オラはファイターだから、組まれた相手と闘うだけだよ。『PRIDE』とチーム・クエストに任せるよ。

——いずれにせよ、これだけのことをやったわけですから、また早く日本での試合を観たいファンも多いと思います。ところで、聞くところによると昨日の試合後は、夜の街でずいぶんとハッスルされたということですけど？

ソクジュ（挙動不審になって）ん、ん、昨日は、レストランでゴハンだけ食べて、ホテルに帰って、寝ただけだよ。

——あれ？　おかしいですね、ドリームステージのスタッフさんたちが、ずいぶんと探していたみたいですけど。

ソクジュ（ギクリとしながら）いや、そんなことねえだ。早く帰って、サッサと寝ただ。

——ところでソクジュさんはアメリカに恋人はいるんですか？

ソクジュ　オラの恋人はジャングルだ!!

——そんなバカな（笑）。サンディエゴにかわいいガールフレンドがいるって聞いてますけど。

ソクジュ（とぼけながら）それは、なんの話かわからねえけど。ま、ま、大きな声では言えねえけど……都会のおなごはキレイだったなぁ（遠くを見つめながら）。

——そうですか（笑）。

ソクジュ　やっぱ、ラスベガスもいいげど、トーキョーは本当の都会だ。（突然、大きな声で窓に向かって咆哮して）トーキョー・ガールズ〜!!

——ハハハハハ！　何を吠えだしてるですか、いったい（笑）。

ソクジュ　トーキョーは楽しかっだ。でも今回は、試合の準備でどこにも行けなかったし、今日も、すぐ飛行機でアメリカに戻るからな……（寂しそうに）。

——そういえば、元柔道家としてお目当てだった講道館には行かれましたか？

ソクジュ　そこは行っただよ！　ちょうど生徒が練習していたから、あんまり長くはお邪魔できなかっただけど、見学して感動したよ。ずーんと憧れの場所だったから。またオキナワに行くよ。

——だから、講道館の場所は沖縄じゃありませんよ（笑）。

ソクジュ（無視して）コードーカン以外でも、日本の文化とかにも興味はあるし、神社とかも観光したいから、次回はの〜んびり滞在したいなぁ。ほんなら、また来るからよ！

——では、またの来日を期待してます！

【07年4月9日／都内ホテルにて収録】



Sokoudjou■1984年4月18日、カメルーン共和国出身。幼少の頃より、ジャングルや草原を走り回り野生動物と戯れて育った、PRIDE初のアフリカ出身ファイター。チーム・クエスト・アフリカ支部所属。182cm、93kg。



バカがPRIDEを救う!!

青木真也
もちろんライト級GPとなぜか富士そばを語る

4戦連続一本勝ち!! PRIDE日本人の新しい顔!

♪生き残れ、これ!! DSE〝最後の夜〟の『PRIDE』に鳴り響いた『バカサバイバー』!! 青木真也はライト級レギュラーメンバーの中から唯一出場。今年度はライト級GPを控えていることから、その期待度の高さがうかがい知れる。新生『PRIDE』の鍵を握る男だけに、どーでもいい話ばかりですが、とりあえず耳を傾けてください。

聞き手／ジャン斉藤　撮影／平工幸雄　試合写真／乾晋也

青木　さあ、今日はなんの話をしましょうかね？

——それがついさっき取材することが決まったばかりで、情けないことにじつはなんの用意もしてないんですよね。

青木　大丈夫ですって!!　そんなの。

——じゃあ、最近、青木さんが気になっていることでも聞きますか。

青木　最近は……なんていうかねえ、ロマンがない人が多いっすね！

——そうですか（笑）。じゃあ、今日のテーマはロマンにしますけど、またどうしてロマン不足だと？

青木　スパッツですよ、スパッツ！

——スパッツ？　そういえば、今回の青色&黄色スパッツの意味がわかってない人が多かったみたいですよ。

青木　だ、か、ら！　青色と黄色ですよね？　青色と黄色、青と黄、あお・き……青木!!（得意げに）。

——……山田くん、青木くんに座布団一枚、あげてやって！　というか（笑）。

青木　そんな意味が素直にわからない、ひねくれた現代っ子たちが多いんで、ちょっと困ってるんですよ。ロマン溢れるはずの俺の控室でも、セコンドの方々に「青と黄で青木かよ！　もしかしてバカァ!?」とか言われましたけどね、アオキは。まあ、ちょっとオマエらロマンがないよ！　って。

——なるほど（笑）。青木さんの試合直前に繰り広げられた〝桜庭vs田村劇場〟はロマンに満ち溢れてませんでした？

青木　ああ、危険で過激なことやってんなあと思いましたね。非常にロマン溢れるかけ合いで。

——あのやり取りはロマンありますよね。

青木　間違いなくロマンあります！　ファン目線だと凄くおもしろくて、興奮しました。でもね、試合直前のアオキからすれば、「早くしてくれーっ！」って感じだったんですよっ!!

——ハハハハハ！　もしかして、事前に知らされてなかったんですか？

青木　ぜんぜん!!　休憩が終わって「よっしゃ、俺の出番だ!!　殺し合いだぁ！」って気合いを入れたら、リングで髙田さんが「ちょっと時間をください」と。こりゃちょっとじゃ済まないだろうなあ～なんて待っていたら、次々といろんな人がリングに上がられて。集中力が全部飛んじゃいました。

——あの様子はモニターか何かで観られてたんですか？

青木　そうです。で、ちょうどそのときにあのズールがなぜか近くにいましてバックステージも真っ暗だから、最初は誰だかわかんなくて。ククク！

——ズールと一緒に桜庭と田村のかけ合いを観てた、と（笑）。

青木　はい。ズールもロマン溢れますよね？

——知りません（笑）。しかし、あんなサプライズの直後に試合をやるって大変でしたでしょう？

青木　ちょっと難しい感じはありましたね。でも案外ボクの試合になったら盛り上がってたから、「なかなか俺もやるやん！」って感じでしたね。

——強烈な打撃を何度か食らったからか、試合後のコメントを聞くかぎり、内容にあまり納得されてなかったみたいですけど。

青木　いや、べつに。結局、内容が悪い悪いと言いながらも、1分半で極めてるんですから！

——ん？　じゃあ、あの反省の弁はウソだったとか？

青木　そう！　ウソ!!

——ハハハハハ！　なんで（笑）。

青木　ゴーマンキャラで言っちゃうと、「極める」って宣言して本当に極める人はなかなかいないじゃないですか。

——『PRIDE』ではいまのところ4連続一本勝ち。お客が求める青木さんへのハードルはどんどん高くなってますよ。

青木　だから有言実行・北島康介!!

——なんかよくわかんないですけど、とにかく極め続ける！　と。

青木　ククッ！　そんな感じですよ。

——そういえば、メインの藤田和之vsジェフ・モンソン戦が始まったとき、青木さんは凄いカッコでリングサイド付近をウロウロしてましたね。

青木　（心外そうな表情で）……え？　オシャレなカッコじゃないですかっ!!

——どこが（笑）。キャップを被って、上着はスタジアムジャンバー。で、下は〝青黄〟スパッツですよ？

青木　で、サンダル履き。あれはなんていうんですかね……ニューヨーク・スタイル。うん！　DEEPジムのある大久保付近を、あのカッコでウロウロしてますから。

——じゃあ、オークボ・スタイルですよ。青木さんのカッコを気にしていたら、試合が終わってましたから。

青木　そういえば、あの帽子、日本で一つしかない貴重なモノなんですけど、控室に帰る途中の花道で、お客のカワイイ女の子に「その帽子、ちょーだい！」って言われたんですよぉ。ククク！

——で、あげちゃったんですか？

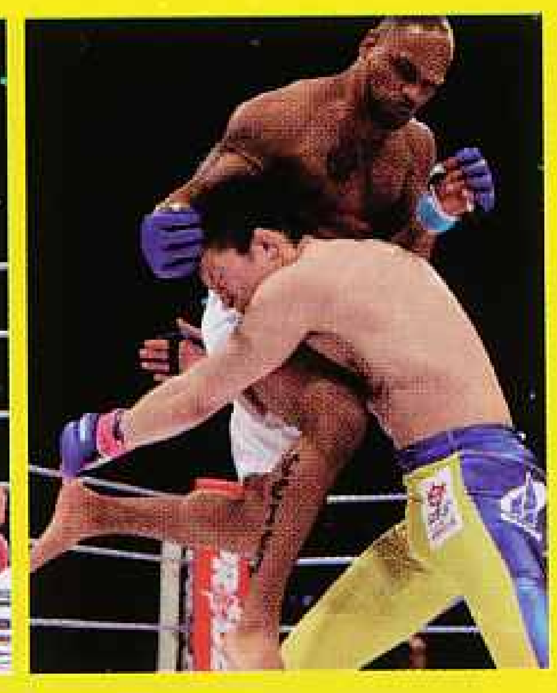
青木　大事な帽子だったので迷ったんですけど……でも、周りにファンがいっぱいいるし、男として引くに引けない状況ですよねえ。

——何歳ぐらいの子だったんですか？









[PRIDE.34 -KAMIKAZE-]
◯青木真也 vs ブライアン・ローアンユー×
（1R 1分33秒 アームバー）

"桜庭vs田村劇場" の興奮を "新風" を持って吹き飛ばすかのようなパワフルな入場、そして試合内容。ブライアンの強烈な飛びヒザ蹴りに手を焼いたが、グラウンド状態時に反転されたタイミングを活かして腕十字!!　これで『PRIDE』では4連続一本勝ち、MMA8連勝をマーク。

宣言して本当に極める選手はなかなかいないですよね

青木　これがハタチぐらいのカワイイ子ですよ！　なんかロマン溢れる過激な子だったな〜。声もかわいかったんですよ。

―青木さん。女子は男におねだりするときは、そういう声になるんですよ。

青木　アオキ、わかってます！　もうね、キャバクラで騙された男みたいになっちゃって。でも、俺は何も求めない無償の愛ですから!!

―まあ、青木さんが満足ならそれでいいんですけど。で、選手としてDSE最終興行はどうでした？

青木　う〜ん。俺はあんまり意識しなかったですけどね。一つの試合としては意識したけど。

―じゃあ、とくに思い出もなく。

青木　……中尾（"KISS"芳広）さんの印象が強いかなあ。

―は？　中尾さん？　それはまたどうして。

青木　控室が一緒だったんですよ。それで中尾さんが試合が終わって戻ってきたときに「お疲れさまです！」って挨拶したら、肩で風を切りながら「おうっ!!」と返されて。あれはビックリしたなあ。

―純度100パーセントの体育会系のノリですね。

青木　前日会見もボクの隣にいましてね、中尾さんの対戦相手が「KOするぜ！」って挑発したら、いきなり「絶対無理ッ!!」って叫びながら立ち上がるんですよ！

―ハハハハハ！　中尾さんは天然ですね。

青木　あとね、中尾さんの袈裟固め！　あれ、いまどきなかなか極められないですよ！

―確かにそうですよね。さすがの青木さんも無理ですかね？

青木　俺はできないですよ。中尾さんが相当な力なのか、なんかコツがあるのか……？



3.27六本木ヒルズ会見、選手席の模様。この中に青木と大注目の鬼木さんがいます。探し出した方は、抽選で青木のスパッツがもらえるかも!?　宛先は本誌編集部の「やる気、元気、井脇!!　青木、ボッキ、鬼木!!」係まで。

バカがPRIDEを救う!!



本文中で触れられているが、この格好が青木のオークボ・スタイル。DSE"最後の夜"をサンダル履きですごしたというわけである。よく見ると、今回、何かと接点があった中尾さんもすぐ隣にいます。おうっ!!（肩で風を切りながら）。

―今度、中尾さん本人に直接聞いてみてくださいよ。

青木　え〜？　なんか怒られそうじゃないですか。怖いんですから、控室で「おうっ!!」って言われた俺からすれば（笑）。

【しばらく青木の中尾さん話が続くが、本当にどうでもいい内容なので大幅にカット】

―そろそろ話題を変えて（笑）。こないだの六本木ヒルズの記者会見で発表された、『PRIDE』の新体制はどんな感想がありますか？

青木　「へえ〜」って感じでしたけどね。

―どうですか、新オーナーのロレンゾ・フェティータは。彼にロマンは感じませんでした？

青木　イタリア系アメリカ人なんですよね。しゃべったこともないからわかんないですけど。

―会見前に選手とロレンゾでミーティングがあったって聞いてますけど。

青木　ああ、なんかしゃべってましたねえ。

―まるで他人事ですね（笑）。

青木　全然、覚えてない！　「俺は試合するだけだし、大丈夫だし！」みたいな。それより、あの会見の最後に選手が壇上へ呼ばれたじゃないですか。

―はいはい。名前を挙げられて、選手・関係者の席から壇上へ。

青木　ただ一人だけ、席に鬼木（貴典）さんが残されちゃって（笑）。

―ハハハハハ！　佐伯さんは「鬼木が呼ばれたらどうしよう？　『PRIDE』の名誉に関わる」という感じで焦っていたみたいですけど。

青木　スッゲエ、おもしろかったです。あれほどおもしろいことはない！

―歴史的会見の印象は鬼木さん（笑）。でもまあ、鬼木さんは現役じゃないですし。

青木　いやいや、鬼木さんは現役バリバリですよ！

―え？　そうなんですか？

青木　なんかアブダビ（・コンバット）の日本予選に出るみたいですよ。100キロ超級とか日本には選手がいないじゃないですか。それで間違えて勝っちゃったら、鬼っちが日本代表ですよ？　ククク!!

―青木さんもまた出ないんですか？　アブダビ。

青木　まったく興味ないですね。なんかロマンがないですから。あとねえ、なんだか知らないけど、俺はアブダビからハブられてる感があるんですよね。日本代表だったんだけどなあ……そういえば、富士そば！

―は？　アブダビに富士そばの店はないですよ。

青木　いや、ただいまスポンサーのお願いを富士そばにしてるんですよ。

―そうなんですか!?（笑）。『PRIDE』の試合後、富士そばとマンガ喫茶に直行する男として。

青木　なんていうのかな、富士そばはロマンの塊ですよね？

―確かにロマン派ですよね。店内に演歌歌手のポスターとか貼ってありますし。

青木　だから富士そばがスポンサーについてくれないかなと思って、お願いしてみたんですよ。

―しかし、凄いリクエストですよね、それ。

青木　で、今回、富士そばの偉い方がボクの試合を観て感動したらしくて、「これを青木くんに渡してくれ！」ってことで……。

―何かもらったんですか？

青木　はい。驚きますよ！　プレゼントは、ロウ細工のカツ丼ッ!!

―ハハハハハ！　ショーウインドウに飾ってある食品サンプル!!

青木　ちゃんとラッピングもされてたんですよ。いやあ、これはロマンありますよ！

―もし富士そばがスポンサーについたら、スパッツにロゴを入れます？

青木　入れます！　おまけに、そばを持って入場しますよ！　もしくは、セコンドの十段（今成正和）にそばを食ってもらって！　そうなったら、もう、さいたまスーパーアリーナ全員がスタンディングオベーションです。

―ノリノリだなあ。富士そばのことになると。

青木　最近、裏メニューがあるのに気づいたんですよ。カレーカツ丼！　下にごはんがあって、卵とじでその上にカレーが乗ってるんですよ。ある店とない店があるらしいですけど、誰かのブログにある店とない店が書いてありました。今度試合が終わったらそれを食おうと思ってるんですよね。

―しかし、立ち食いそば屋がスポンサーってマット界史上初ですよね。たいていはファッションブランドとかに走りがちなのに。

青木　いやあ、ついてくれないですかねえ。もう煽り映像で「魔裂斗選手は、富士そば食べないですよね……」って、フリーター調で言ってやりますよ！

―ダハハハハハハ！　そろそろ話を元に戻します（笑）。10周年を迎えた『ＰＲＩＤＥ』のこれからは、青木選手やソクジュ選手が凄く期待されてると思うんです。今後の10年について何か思うことはありますか？

青木　まあ、10年後に現役の選手でいることは確かですから。たぶん10年後も『ＰＲＩＤＥ』にいると思うんですよ。そのときはロマン溢れる試合をしたいなあ。

―10年後には新しい選手もたくさん出てきてると思うんですが、その中で青木さんはどういう存在になってるんでしょうね。

青木　それは〝下町のアニキ〟ですね。

―肩で風を切りながら「おうっ！」って声をかける感じですか？

青木　そうそう！（笑）。兄貴肌になって、そろそろ後輩は卒業したいですね。周りがみんな先輩で、いまの『ＰＲＩＤＥ』に俺より年下っていないんですよ。

―そういえば、そうですね。

青木　俺より若いキャリアで『ＰＲＩＤＥ』とか修斗のクラスAにいるヤツっていないんですもん。日本人はみんな先輩なんですよ！

―じゃあ会場に行ったら誰かれかまわず「コンニチワ、コンニチワ!!」って頭を下げる感じですか？

青木　そうです。どこに行ってもとりあえず低姿勢ですね。「あ、お疲れさまで～～～～す！」って。

―愛想笑いを浮かべながら。

青木　つらいですよ！　厳しいですよ！　たとえば、十段に「ちょっとルールミーティング、行ってきてくんない？」とかお願いしたら、「おまえ、ふざけんなよ!!　コノヤロー！」とか怒られるわけですよ。ほかもみんな先輩だから怖くて言えないんです。だから、アオキ、自分のことは自分でしま～す！　みたいな感じで出かけるわけですよ。

―でも、ルールミーティングって選手本人が来ることってなかなかないですよね。

青木　継続参戦している選手の中で毎回出席しているのは、アオキぐらい。後輩だからしょうがないんですもん！

―仲間内の練習でも、年下はいない？

青木　いないですねえ。だからＤＥＥＰジムの練習にたまに川尻（達也）さんが出稽古に来るんですけど、結局先輩だからイジれないんですよ。

―イジろうとしたことあるんですか？

青木　ちょっとイジろうとしたことがあって、練習後に「じゃあ、今日の掃除は、ＤＥＥＰジム新入生の川尻くんと石田くんにお願いしま～す！」とか軽く言ったら、二人とも「はあ⁉　何を言ってるの、コイツ……」みたいな冷たい視線でね。うん!!

―ダハハハハハ！

青木　スイマセン！　アオキ、調子に乗りました！　みたいな感じですけど。

―そういえば、ソクジュは22歳の後輩ですよ。青木さんの二つ下。

青木　ソクジュだけかあ。ソクジュに「おうっ！」とかって言いたかったけど、あの風貌で、あの強さですからね。アオキ、殺されます！

―じゃあ、今年の目標は……。

青木　（すかさず）後輩募集中です！　ライト級ＧＰの優勝はもちろんですけど、後輩がほしいっすね……。なんていうんですか、この下っ端キャラからの脱却。いくら試合に勝っても全然、立場が変わらないんですから。

―誰も気を遣ってくれない。

青木　自分で荷物を持ってね、試合会場まで行くわけですよ、アオキは。たいていは電車、たまにトレーナーの方に「あの～、車を出してもらっていいですか？」なんてお願いして。で、鬼っちには「駐車券よこせ！」とか脅されながら、健気に頑張ってるわけですよ！

―大変だなあ（笑）。

青木　ムチャクチャですよ!!

―ライト級ＧＰには、先輩の今成さんや北岡さんの出場がありえそうですよ。

青木　あんな晴れ舞台に一緒に出られたら最高ですよね。北岡のアニキにいたっては最近、ことあるごとに俺の名前を出してくれてるみたいですけど。先輩とやるって怖いですよね。

―やっぱり、やりづらいですか？

青木　（小声で）いやいや。ここぞとばかりに潰してやりますから！　ククク！

―どんな晴れ舞台ですか、いったい（笑）。

【07年4月9日／ＤＳＥにて収録】



あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。全日本柔道ジュニア強化選手。世界屈指の極めの力と、息子の2ちゃんスレの悪口を喜びながら見る父親を持つ。現・修斗世界ミドル級チャンピオン。入場曲はウルフルズの「バカサバイバー」。MMA戦績11勝2敗。180cm、72.6kg。

BAKASURVIVOR
Shinya AOKI

ライト級ＧＰの優勝はもちろんですけど、下っ端から早く脱却したい!!　後輩募集中です

PRIDEライト級グランプリ開催延期!! それでもやっぱり

五味vs青木が観たい!!



4月14日、DSEが5月20日に開催する予定だった『PRIDEライト級グランプリ』の延期を発表した。延期の理由は下記の囲みを参照していただくとして、裏返せば新組織のこの大会にかける意気込みが伝わってくる。

当初『PRIDEライト級グランプリ開幕戦』にはUFCからの刺客が送り込まれることがアナウンスされていた。元UFCウェルター級王者マット・ヒューズや第1回『TUF』優勝者ディエゴ・サンチェズらの名前が浮上しているが、さらなる大物が参戦するのか否か、注目だ。

このグランプリにはもう一つ大きなテーマがある。2月24日の『PRIDE・33』で屈辱を味わったライト級王者・五味隆典に国内外の強豪選手が一斉に牙を剥くのだ。"跳関十段"青木真也、"クラッシャー"川尻達也、桜井"マッハ"速人、無尽蔵のスタミナを誇るギルバート・メレンデス、"処刑人"ヨアキム・ハンセンなど、PRIDEファイターだけでも強豪が揃っている。

いろんな夢のカードが観られるとは思うが、ファンが最も観たいカードは!? 『PRIDE・34』終了後に本誌の携帯サイトで実施したアンケートで、ライト級グランプリでどんなカードを観たいかという質問を設けたところ、なんとぶっちぎりでトップになったのは五味隆典vs青木真也だった。ここまで『PRIDE』ライト級は五味を中心として回ってきたが、連戦連勝を重ねる青木にかつてないほど期待が高まっている。もし実現すれば、今後の『PRIDE』ライト級の命運を左右する非常に重要な試合だ。鳥肌を立てながら注目せよ!

(坂井ノブ)

丸坊主でコンバットレスリングに出場!! 五味隆典、復活に向けてアマから再始動





3月21日、東京・町田市立総合体育館で行なわれた全日本コンバットレスリング選手権（グラップリング・トーナメント）に五味隆典が出場。圧倒的な強さで73キロ以下級で優勝したのち、67キロ以下級優勝者との特別試合でも見事な一本勝ちを収め、大会MVPに輝いた。ニック・ディアズ戦から約1ヵ月、いきなりのアマチュア大会参戦で復活の狼煙を上げた。「自分の道はここからスタート。（自分の）あるべきポジションを（木口道場の）木口会長らと一つずつ確認していく。自分のペースも戻ってきたと思いますし、いろんなものに左右されずに芯のある練習をやって力をつけていきます」と、原点回帰を宣言した。ちなみに、ニック・ディアズは『PRIDE.33』試合後の薬物検査で陽性反応が出たため、ネバダ州アスレチックコミッションは五味vsディアズに無効試合の裁定を下した（4月16日現在、DSEからの発表はない）。

大会延期の理由は「最高のスタートを切るため」 ライト級グランプリは仕切り直して開催へ!

4月14日、DSEは5月20日に開催される予定だった『PRIDEライト級グランプリ開幕戦』の延期を発表した。いきなりの発表にファンと関係者はおおいに驚かされたが、DSEはリリースの中で以下のように延期の理由を説明している。

「現在、株式会社ドリームステージエンターテインメントより、新会社 PRIDE FC WORLDWIDEへの『PRIDE』に関する移管業務を進めておりますが、新オーナー、ロレンゾ・フェティータ氏からは『移管業務を進めつつ、5月20日の大会を準備するには1ヶ月しかなく、私どもの最初のPRIDEの大会としてファンの皆様にご提供するに相応しい内容にするためには、十分な制作及びプロモーションの時間がありません』との見解が届いております。つきましては、初の大会として最高のスタートを切るために、大会の延期を決断するに至りました」（原文ママ）

この文面からは新たにオーナーになったロレンゾ・フェティータ氏主導で進められている新生『PRIDE』をより高いクオリティでスタートさせようという姿勢が伝わってくる。国内外の強豪選手に加えてUFC勢の参戦もあり、当然準備期間は必要になってくる。より内容を高めるための延期ならばファンも歓迎だ。はたして、どんなグランプリになるのか!?

4.8『PRIDE.34』ビッグサプライズの裏側を大公開!!



シウバVS桜庭の

サプライズ煽りV

じつは作ってありました!



ワールドワイドな煽りVアーティスト

佐藤大輔

桜庭和志と田村潔司の登場というビッグサプライズが起こった4.8『PRIDE.34』。大会後、桜庭が「本当は試合がしたかった」と語っていたが、じつはシウバの対戦相手“X”として、本当にサクが試合するプランがあり、煽りVTRも制作済みだったのだ！　二転三転したビッグサプライズの裏側を、“煽りVアーティスト”佐藤大輔が語る!!

聞き手／堀江ガンツ

──大輔さん！　いや〜、『PRIDE・34』の〝ビッグサプライズ〟はよかったですね〜。

佐藤　ホントによかったですね。ひさびさに泣けましたよ。もう涙や鼻水だけじゃなくて、身体中の穴から〝汁〟がダラッダラ漏れるぐらいに（笑）。

──涙腺だけじゃなく、いろんなところが緩んじゃいましたか（笑）。

佐藤　ボクは演出や映像を担当したスタッフですから、もちろん〝ビッグサプライズ〟の内容は知ってたわけですけど、それでもサクさんと田村さんが、目に涙を溜めながら入場してきたの見たら、やっぱり感動しちゃいますよね。

──桜庭さんが登場するだけで凄いのに、これまで何度、実現させようとしてもできなかった二人の顔合わせまで実現したわけですからね。

佐藤　そして、田村さんのマイクも立派でしたよね。淡々と話されていたじゃないですか。「3つ言いたいことがある」みたいなことを口にしたときは、これは長い話になるのかな、結婚式の常套あいさつ「3つの袋」の話を始めたらどうしようって、ドキドキでしたけど（笑）。

──これまでの経験上、田村さんのマイクは外す場合が多いですからね。「吉田道場とU－FILEで対抗戦やりたい」とか（笑）。

佐藤　でも、榊原さんの労をねぎらって、髙田さんの名前も出されて、そして最後に「桜庭和志」って名前を出したときに安心しましたね。

──「桜庭選手」でも「桜庭」という呼び捨てでもなく、「桜庭和志」ってフルネームで言ったのがよかったですよね。

佐藤　人間劇場ですよ。榊原代表、桜庭選手、田村選手がリング上にいて。その側には髙田統括本部長、ヴァンダレイ・シウバの姿。ボクはPPV中継のカメラ指示とかも出してたんですけど、あの5人の表情を次々とスイッチングして切っていくのが、ホントに気持ちよかった！

──カメラのスイッチングも大輔さんがやられてたんですか。それにしても、あの場面は、ボクらは感動しましたけど、PPV生中継を観てるアメリカ人は、さっぱり意味がわからなかったでしょうね（笑）。

佐藤　「ライブ・フロム・トーキョー」で、わけのわからないことやってるわけですからね。この虎のマスク被ってる人は、なんで泣いてるの？　みたいな。ザマーミロですよね（笑）。

──おまえらに、この感動はわからねぇだろ⁉ みたいな（笑）。

佐藤　なんでもかんでもアメリカに合わせると思ったら、大間違いだ！ってね。

──だから、このサプライズは『PRIDE』を長く観続けてるホントのマニアという狭いところに向けて、時間と労力をかけてるわけですから、ホント贅沢ですよね。

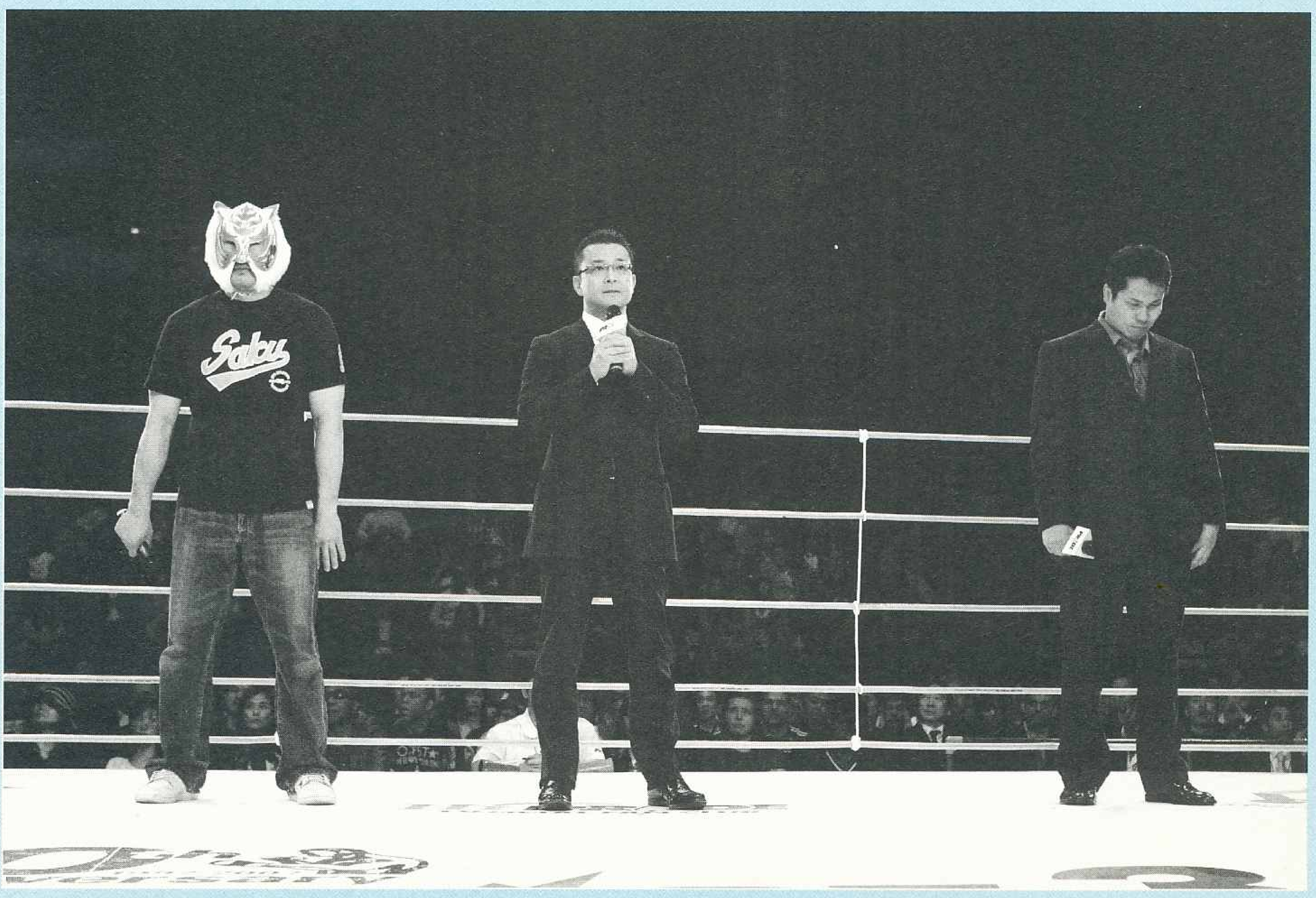
佐藤　でも、桜庭選手もそうですけど、田村選手はよく出てきましたね。

──今号でインタビューしたんですけど、やっぱり「榊原代表のため」って言ってました。ただ、桜庭戦に関しては「そんなにスムーズにいくもんじゃないでしょう」とも言ってましたけど（笑）。

佐藤　まだそんなこと言ってるんですか！

──でも、ボクなんかは、あそこで二人が出てきただけで、かなり満足してるんですけどね。それにしても、このサプライズが実現するまで紆余曲折があったでしょうから、大会直前まで煽りVTRの制作などで、いろいろ大変だったんじゃないですか？

DAISUKE SATO



PRIDEミドル級のベルトを失なったシウバの自宅にあのSAKUベルトが誇らしげに飾られてあったんです！

佐藤 ま、ボクらは過去何年にもわたり無理な注文を受けてきた『PRIDE』のスタッフですからね。「このカードが決まるぞ」とうかがったら、それ用のVTRを急遽作るわけですけど、今回はとくにカードが二転三転しましたからね。もう徹夜の連続で大変でした（苦笑）。

――〝サプライズ用〟の映像も作ったりしたんですか？

佐藤 はい。3月27日の会見以降にサクさんの試合があるかもしれないって聞いて、「桜庭選手の試合用VTRを作ってほしい」と正式に言われたのが、4月2日の月曜日。そのときは桜庭vs田村ではなく、桜庭vsシウバという話でした。

――ということは、桜庭vsシウバの煽りVがあるということですか!?

佐藤 いや、桜庭vsシウバというより、シウバvsXですね。

――そういえば、大会の直前までシウバvsXがあると言われてましたよね。

佐藤 だから桜庭さんとシウバの試合がたとえ実現したとしても、Xのまま当日の入場まで伏せておいて、紹介VTRの最後の最後でXの正体が桜庭和志であるとバラす予定だったんですよ。

――うわ～、そんなことが実現してたら、感激と驚きで観客がお漏らししかねないですね（笑）。

佐藤 ボクなんて、そのVTRの発注がきただけで、興奮してオナラしちゃいましたもん（笑）。

――汚い話ですねぇ（笑）。

佐藤 結局、シウバはネバダ州アスレチック・コミッションのサスペンデットをクリアできなくて、試合ができませんでしたけど、もともとは誰が相手であろうと、シウバは試合をするつもりだったんですよ。だから、ボクもブラジルに行ってシウバの映像を撮ってきて、VTRを作ってたんです。で、自分で言うのもなんですけど、これはイイですよ。プリンスの「ベイビー・アイム・ア・スター」という曲に乗せて。

――あくまで、シウバの復活に焦点を当てたVTRを作っていたわけですね。

佐藤 そうですね。「あの敗戦から〇日」みたいな感じで始まって、アメリカで失神KO負けして、傷心の帰国を果たしたヴァンダレイが、敗戦以来初めてシュートボクセの道場に現われるところを撮影できたんですよ。そしたら、そのヴァンダレイを出迎えるために、道場に300人の道場生が集まったんです。

――それはいい光景ですねぇ！

佐藤 ベルトを奪われて帰ってきたヴァンダレイに対して、みんなが「お帰りなさい。俺たちのチャンピオン！」って叫んで。それだけでジーンとくるじゃないですか。そしたらフジマール会長が言うわけですよ。「みんながおまえを見ている。みんながヴァンダレイになりたいんだ」って。

――いや～、いいですね。

佐藤 そして、ここからが凄い。ヴァンダレイの自宅にも行ったんですけど、なんとリビングに、あのSAKUベルトが飾られていたんですよ！

――豪華なトロフィーではなく、SAKUベルト！

佐藤 光り輝く『PRIDE』のベルトを失なったヴァンダレイ・シウバ宅に、誇らしげにあの段ボール製のベルトが飾られてたんです！

――それはいい話だ！

佐藤 煽りVTRでは、これらの映像を流したあと、「いまごろ、アイツは何をしている？　俺はいまでもここで闘い続けているぞ」というナレーションが入り、それを観た観客が「あれ？　もしかして桜庭か!?」と思わせたところで、最後の最後に「赤コーナー～！　180センチ、93キロ、桜庭～～、和～志ィ～!!」のコールに合わせてSAKUマシーンマスクが画面いっぱいに出る。そして、対戦CGが流れて「ヴァンダレイ・シウバvs桜庭和志」とカードを発表する、と。

――うわ～、そして『SPEED TK REMIX』が流れるわけですよね？

佐藤 そうです！　もうお客さん失禁!!みたいな（笑）。

――もうダラッダラでしょうね（笑）。

佐藤 作ってるボクがダラッダラですから（笑）。そういう流れを描いていたんで、この煽りV、ホントお蔵入りはもったいないですよ。DVDの特典映像かなんかに入れたいぐらいですよね。

――それは入れましょうよ！

佐藤 ボク自身、過去最高の興奮の中で作ったVTRですからね。めったにそういうシチュエーションなんてないわけだから。だから結局、シウバもサクさんも試合はできませんでしたけど、このVTRを流して入場するシーンだけでも見たかったですね。まぁ、桜庭さんと田村さんの登場が観れたんで、充分すぎるくらいなんですけど。

――でも、この先、ホントに桜庭vs田村が実現したら、VTRを作る大輔さんも腕が鳴るんじゃないですか？

佐藤 そうですね。また、ダラッダラでしょうね（笑）。でも、凄く難しい作業でもあるような気がするんですよ。だって、二人の〝因縁〟っていったい何なのか、みんなよく知らないじゃないですか？

――確かに、長い長い時間をかけたストーリーだから、簡単に「二人にはこんな因縁がある」ってできませんよね？

佐藤 そうなんですよ。UWFインターから振り返って、濃密でありながら、すれ違いが続いた二人の人生を交差させるわけですからね。まぁ、難しいだけに、ホントにやりがいはありますよ。

――でも、大輔さんは『PRIDE・34』のオープニングで、『PRIDE』の10年



これが「ヴァンダレイ・シウバvs“X”」の煽りVのラストに挿入されるはずだった、対戦CG。もし、この“サプライズ”が本当に実現していたら、会場は異常興奮に包まれていたに違いない。なお、この煽りVは今後、ファンイベント等の機会で公開する可能性があるとかないとか。

間を一気に振り返られたんだから大丈夫でしょう。あれ評判いいですよね?

佐藤 ありがとうございます。あれは、とにかく『PRIDE』10年間の"主要登場人物"を全部出そうと思って。アントニオ猪木さんからプリンセス・テンコーまで出したんですよ。

——テンコー良かったですねぇ(笑)。

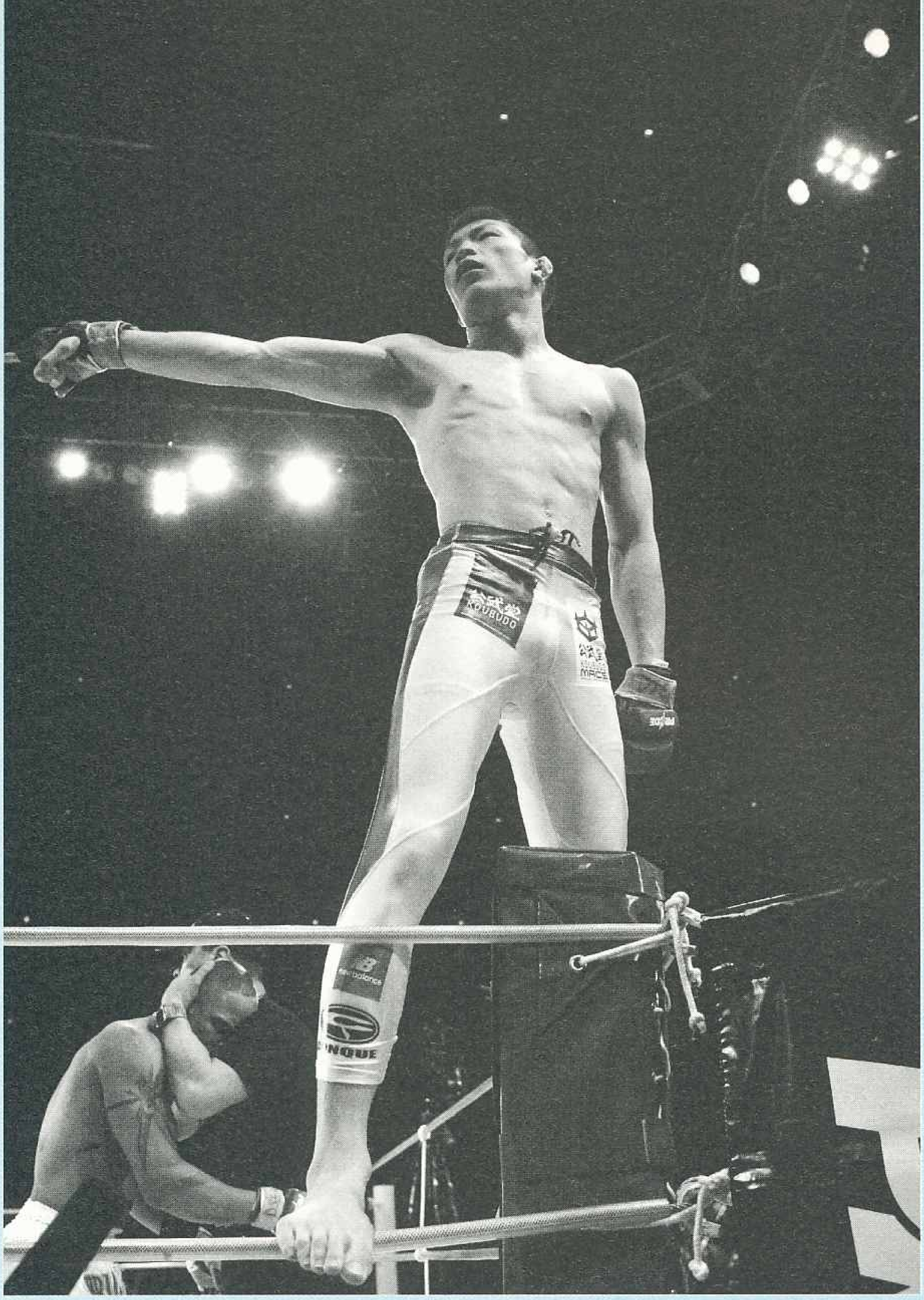
佐藤 最初に作ったバージョンでは、○○さんも入ってたんですけど、さすがにそれはストップがかかりました(笑)。

——ガハハハハ! 確かに"登場人物"ではありますね(笑)。

佐藤 それから小川直也vs吉田秀彦の映像も、最後に抱き合ってるシーンを入れましたけど、最初は小川さんが「トルネードォ〜!!」って言っているシーンのみを使おうとしたら、それじゃあ意味がわからないという理由で止められました(笑)。

——油断も隙もあったもんじゃないですね。そういえば、10年間の"主要登場人物"という意味では、バタービーンvsズールの煽りVで、あの谷川(貞治)さんが登場してましたね(笑)。

佐藤 あれもホントに10周年ってことで、最初は本人にコメントもらおうと思ってたんですよ。ただ、桜庭選手の件もありすっかり忘れてて。



いま、『PRIDE』マットでもっともノッてる男、青木真也。
今年の『PRIDEライト級GP』では、日米双方でブレイクが期待されている。青木パパとの物語の行方にも注目!

——それで「ビーストコールですね」になっちゃった、と(笑)。

佐藤 いちおう、谷川さんには電話で謝りましたよ。そしたら「いまボクはネット上で、凄く寛大で器が大きい人間だって評価されてるみたいなんだよね。だから、大輔くんの映像のこととか小さなことで怒れないんだよ〜」って言ってました(笑)。

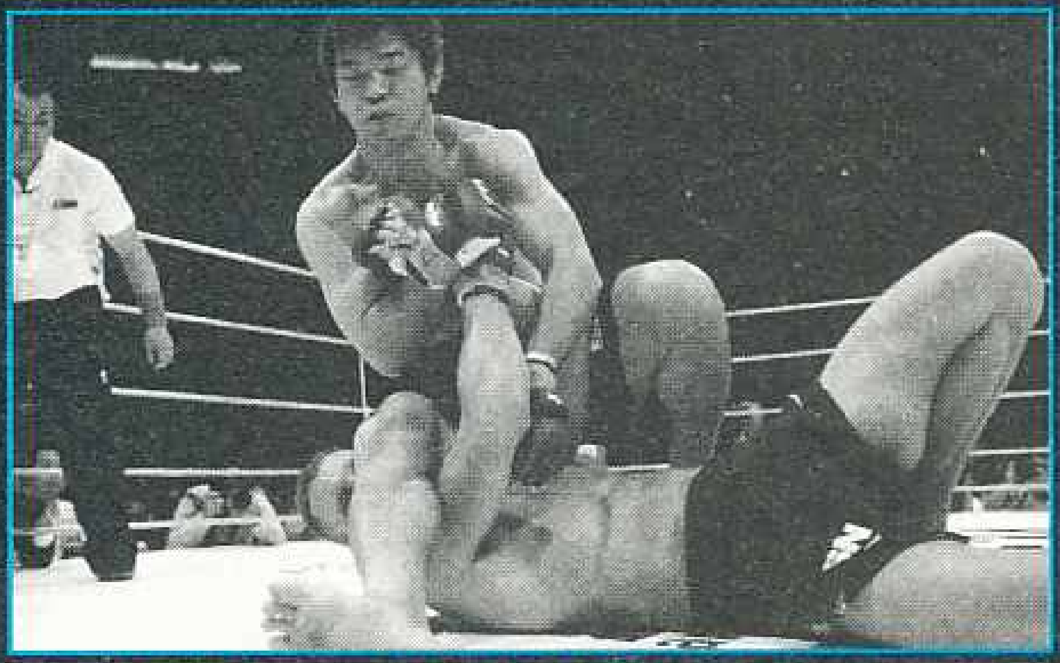
——ダハハハハ! さすが谷川さん、バツグンです! まぁ、いろいろありましたけど、凄くいい大会になりましたよね。

佐藤 欲を言えばメインイベントがもうちょっと爆発してくれればよかったんですけどね。『PRIDE』代表の藤田選手が負けるにしても、その負けに解釈を要しますよね。あの試合を観て、『PRIDE』とUFCのどっちが強いとも言えないし、そもそもジェフ・モンソンにUFCを背負わすこと自体、違うのかもしれないし。

——いまいち"UFCファイター"のイメージがないですからね。

佐藤 だから、本当の意味での交流は、次の『PRIDEライト級GP』から始まるんじゃないですか。ただ、問題なのはジョルジュ・サンピエールとか、ディエゴ・サ

4.8 PRIDE.34 PUTI REVIEW



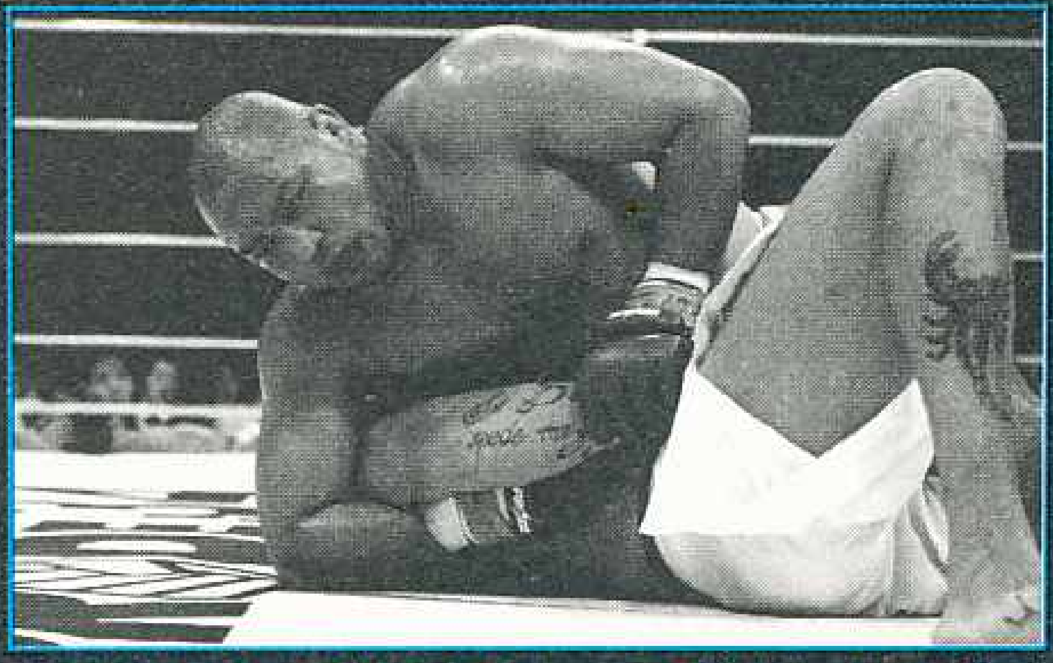
○瀧本誠 vs ゼルグ"弁慶"ガレシック×
(1R 5分40秒、ストレートアームバー)

柔道金メダリスト・瀧本がついに覚醒! "2007年度PRIDEドラフト1位" ガレシックの強烈な打撃を浴びながらも、勝負をあきらめず、流れるような関節技で一本勝ち! 総合格闘技をナメなくなった柔道王は強かった!



○バタービーン vs ズール×
(1R 2分35秒、V1アームロック)

煽りVに谷川EP登場というプチサプライズがあったこの一戦。二人合わせて370キロのプレ・モンスターGPは、バタービーンが超低空肉弾ボディプレスからV1アームロックという驚きのコンビネーションで一本勝ち! すごいすご〜い!(サダハルンバ調)



○中尾"KISS"芳広 vs エジソン・ドラゴ×
(1R 9分15秒、ケサ固め)

煽りVで「KISSもしなけりゃパンチも出さない。中尾よ、このリングに何をしにきた」と突きつけられた中尾が奮起。得意のタックルからドラゴをグラウンドでコントロールし、ケサ固めで快勝。ただ、この勝利を捧げられても困ると思う。

アメリカ中継のスタッフは「男塾」の英訳で悩んでました。「メンズ・スクール」それじゃゲイだろ、みたいな（笑）

ンチェスといったUFCファイターが出てきたところで、お客さんは彼らのことを知らないんですよね。

―確かに、マニアのファン以外の知名度って、ほとんどないですよね。

佐藤　会場に来てるお客さんのみんながみんな、『kaipro』を読んでるわけじゃないですからね。極端なこと言うと、『ライト級GP』はマニアにとって最高のメンバーが揃うかもしれないけど、ちょっとライトな層は五味選手、マッハ選手、川尻選手、青木選手ぐらいしか知らないってことがあるかもしれない。だから、課題は尽きないですよね。

―ソクジュにしたって、今年2月のアメリカ大会でノゲイラ弟相手に劇的なKO勝利で大ブレイクしたと思ってたんですけど、今回入場してきたとき、思ったほど歓声が上がらなかったんですよね。

佐藤　そう考えると、ホント難しいですよ。

―だから、やっぱり地上波って必要なんですよね。地上波で流れないと、なかなかスターが生まれない。

佐藤　そういった意味でも、K-1との距離が少し縮まったということは、いいことかもしれませんね。

―それとやっぱり、日本とアメリカという嗜好の違うファン両方を満足させなきゃならないのが、これからの『PRIDE』の大変なところですよね。

佐藤　そう考えると、『ライト級GP』が一発目っていうのは、凄く良かったのかもしれない。だって知名度はともかく、試合は誰が観たっておもしろいものになると思うんですよ。

―凄いハイレベルな大会になりそうですよね。

佐藤　スペクタクルショーとしてもおもしろいし、奇跡的にそれぞれに人間ドラマがあるわけでしょう。もしかしたら、新しい『PRIDE』がブレイクする大会になるのかもしれない。日本のファンが観ても、世界のファンが観ても、いい青春群像劇が観れるかもしれないですね。ましてや、アメリカにはトーナメントなんてないしね。それはある意味、武器になるでしょう。



さとう・だいすけ■1974年、東京都出身。慶応義塾大学卒業後、97年にフジテレビ入社。スポーツ局でPRIDEシリーズ、『SRS』、『ジャンクスポーツ』、F1GPなどの番組を手がける。PRIDEの選手紹介の煽りVのクオリティはファンから"神"と呼ばれ、ロレンゾ・フェティータにも「プロの仕事だ」と言われるほど。昨年10月31日付けでフジテレビを退社し、独立。現在は佐藤映像代表。

―となると、最初がライト級っていうのは、じつはかなりやりやすそうですね。これがミノワマンのワンマッチだったら、やりやすそうでやりにくいんじゃないですか？

佐藤　確かに、いろんな意味で人気が爆発するかもしれないけど、理解するのは不可能ですね（笑）。

―ミノワマンをちゃんと解説するためには、まず『キン肉マン』の解説からスタートしなきゃなりませんからね（笑）。

佐藤　そう考えるとこれまでの倍の労力を使わないといけないな……。もうこの際だから、僕もアメリカに住んじゃおうかな。というか、アメリカに住む！（キッパリ）。

―『PRIDE』のために移住ですか!?

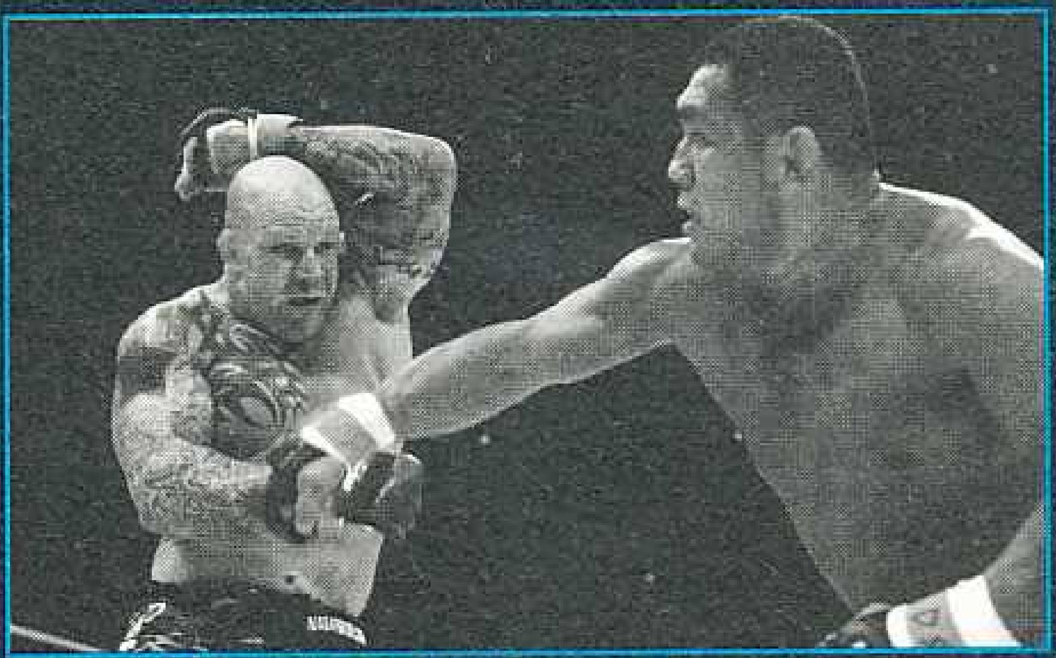
佐藤　やっぱり本気でやろうとしたら、アメリカに住んでやらなきゃダメなんじゃないかな。たとえば、桜庭vs田村の煽りVTRを作るにしても、アメリカ人におもしろがってもらうためには、向こうの空気を吸いながら考えたほうがいいと思うんです。それは、逆に向こうにもいえますけどね。

―どういうことですか？

佐藤　アメリカ人のスタッフも日本の『PRIDE』を理解してボクのVTRを楽しんでるんですけど、英訳の問題はやっぱりあって。今回も現地のアメリカ中継スタッフは、ドン・フライの「男塾」をどう訳すかで悩んでましたから。「メンズ・スクール？」それじゃゲイだろう、みたいな（笑）。

―ダハハハ！　いろいろ難しいこともあるでしょうけど、新生『PRIDE』も期待しております！

【07年4月10日／都内・佐藤映像事務所にて収録】



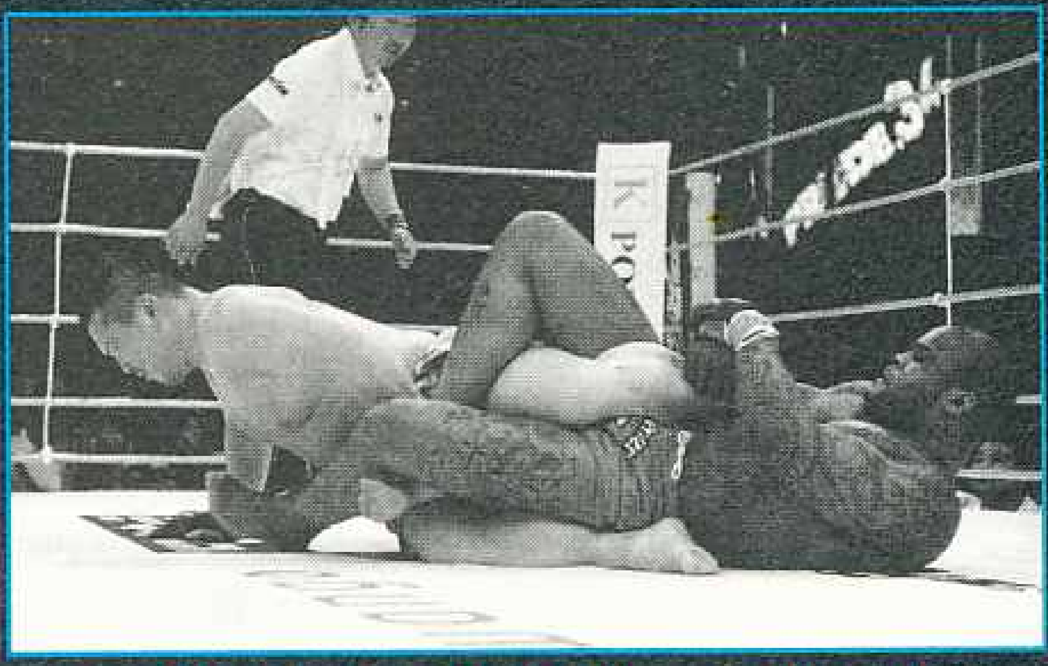
○ジェフ・モンソン vs 藤田和之×
(1R 6分37秒、裸絞め)

PRIDEvsUFC対抗戦第1弾。藤田は万全のセコンドを従え、PRIDEのテーマ曲で入場。モンソンのタックルを冷静に切り、試合を優位に進めていたが、亀になったところ首を取られ、まさかのタップアウト負けを喫してしまった。野獣よ、UFCにリベンジせよ！



○ジェームス・トンプソンvs ドン・フライ×
(1R 6分23秒、TKO)

「あ～、その塾、入りたい」というドンプソンの男塾入塾試験マッチ。ひさびさのPRIDE帰還で大張り切りの塾長をKOし、見事入塾かと思いきや、トンプソンは試合後のコメントでなぜか入塾拒否。さすがパンク！



○ギルバート・アイブル vs 小路晃×
(1R 3分46秒、TKO)

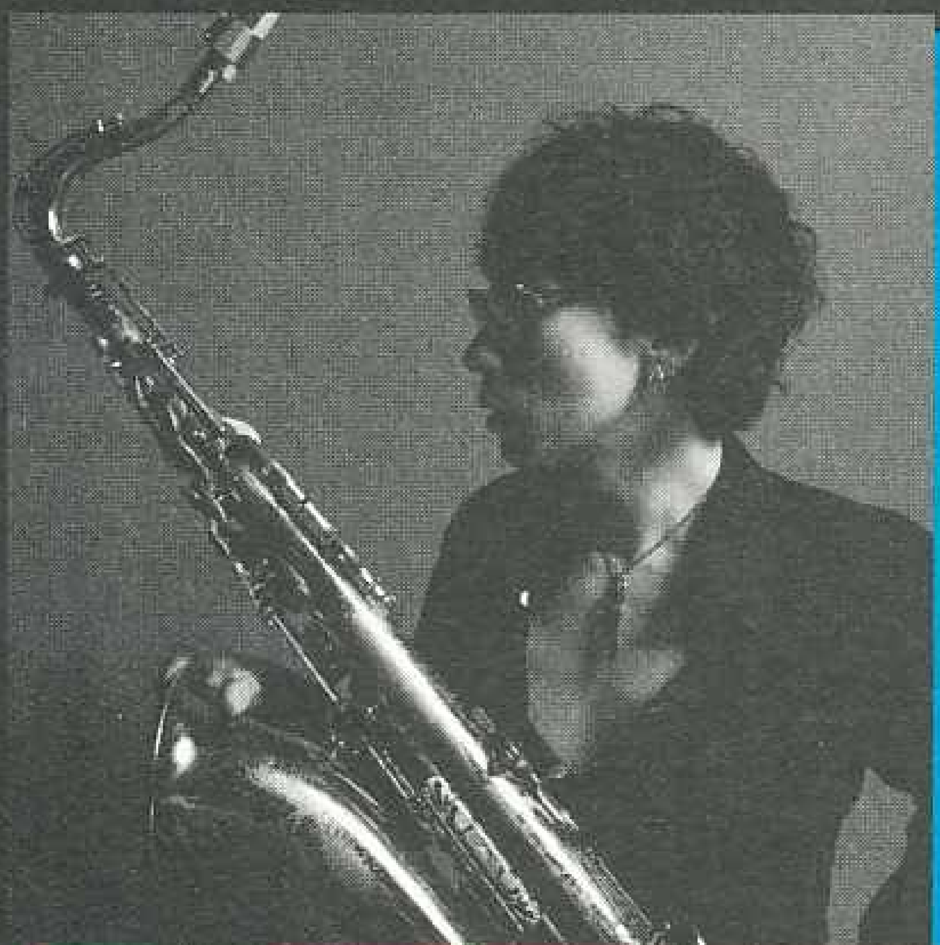
「ヤキトリ～～！」でおなじみアイブルがひさびさに登場。当初の対戦相手ヴォルク・アターエフが欠場となったため、"元祖ミスターPRIDE"小路が緊急出場。まさかの足関合戦の末、アイブルがパウンドでKOした。



4・8『PRIDE・34』

帝国の終焉を〝劇場化〟したDSE

『PRIDE』に最後に残された夢、それは〝プロレス〟だった!!



音楽家にして文筆家

菊地成孔

きくち・なるよし■1963年生まれ。音楽家／文筆家。先鋭的なジャズ・ミュージシャンとして活動する一方、膨大な知識を駆使した批評家として音楽、映画、料理、ファッション等の著作多数。昨年、格闘技批評「サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍～僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった～」（白夜書房）出版。東京大学、国立音楽大学非常勤講師（音楽理論史）。

「右手にボクシング（『PRIDE』）と左手にサーカス（『ハッスル』）を手にして、マット界史上まれにみる繁栄を収めた」と、全盛期のDSEを“帝国”と名づけた菊地成孔。彼はついに訪れた帝国最後の日をどのように感じ、観て、考えたのか？　直撃インタビュー敢行！

聞き手／真下義之　撮影／乾晋也

――菊地さん！　今日はDSE体制の終幕に桜庭和志復帰！　とKAMIKAZE吹いた『PRIDE・34』の率直な感想から聞かせてください。

菊地　そうですねぇ。今回はDVD観戦というかたちですが、なんて言ったらいいんだろう……いやぁ、いい興行だったと思いますよ！　サブタイトルが微妙だなと思う以外は（笑）。

――ハハハ！　シンプルに、いい興行だと。

菊地　人によっちゃあ、ベスト興行と言う人もいるでしょう。まあ結論から言うとすれっからしの僕もちょっと泣きましたから（笑）。中尾（〝KISS〟芳広）の段階ですでに「あれ？」って思い始めて、バタービーンからとうとう涙がこぼれて来てね（笑）。瀧本（誠）が腕がらみにいくのに、グランドで相手の足を刈った瞬間に完全に決壊しましたよ。

――決壊されちゃいましたか（笑）。感激屋の（夢枕）獏さんはともかく、菊地さんまでが感涙とはちょっと意外ですね。

菊地　もちろん、泣けばよしじゃないですけどね。「泣いちゃった」という結果が出ただけであって。

――『PRIDE』もそういう部分が？

菊地　僕が泣かされたのは、まあ煽りVのクオリティは言うまでもないとして、試合とかゴッドアングル的な部分でしたね。今回の大会は、僕にとってはライトサイド側のファンタジーが勝ったかな。

――ライトサイド側のファンタジーですか？

菊地　当然それを批判したり、アゲインストするダークサイド側のファンタジーもあって、二極に割れるわけですが。実話誌、暴露誌的なファンタジーというか。前田日明さんのブログとか。

――ああ、大変なことになってますねぇ。

菊地　もう腰がくだけるようなことも書いてあるわけじゃない（笑）。昔と変わってないという嬉しさもあるんだけど、ブログ時代になると同じ発言でもエグさが違いますからね（笑）。

――本当にそうですね（笑）。

菊地　『PRIDE』に関して僕はダークサイド、ライトサイドのどちらにも傾かずに完全な中立で、実話誌系や暴露系の視点もDSEの大本営発表もどっちも食ったうえで観まして、その結果……ま、感動しましたね（笑）。

――ハハハハ！　結局は、感動された。

菊地　「『PRIDE』は自分の娘だから、嫁がせた」てのは、まあ、クサすぎだと思うんですよ。でも違和感なかったです。ってか、今回の大会はいろんな新しさがあって、それが素晴らしさと多く結びついてました。ただ、分離してしまっていることとしては、今後、吸収合併されるのか？　という部分ですね。「これからいよいよ対抗戦の始まりですよ」というのを信じるか、「もう『PRIDE』はねえんだ。あったとしてもUFCの2軍になるんだ」って思うか。

――菊地さんは、どちらだと思われます？

菊地　現時点では「わからない」としか言いようがない。ぜんぜん読めないです。

――まだ、判断がつけられない状況ですか。

菊地　はい。でも、そこを除けば、あの大会は新しさと明解さでいっぱいでしたね。「日本の企業がアメリカに吸収されて、企業のトップだった人間が勇退する」というドラマを興行として見せるなんて。

――どんなジャンルでも、ありえませんよね（笑）。

菊地　僕らはいままでいろんな団体のラストショーを観てきたんだけど、ちょっと神懸かりに近いものを感じましたね。

――ただ、決して大会の前評判はよくなかったんですね。

菊地　「カード最悪だ！」と言うは易し、それが大アップセットになっちゃった。全試合がホントに素晴らしくて。

――こんなに動くのか！　バタービーンと。

菊地　それもセンチメンタルな気分で「今日で最後なんだから……」というんじゃなく、スキルフルな部分でほぼ全選手が向上していたという。ああいう現象はセンチメンタリズムだけでは達成できないものじゃないですか。こんなカードでも、こんな完璧な興行ができるんだ、と。むしろ僕には、試合がどれも素晴らしいがゆえに、最大のトピックであるはずの桜庭（和志）登場というのが、少々邪魔に思えましたね。



DSE体制“最後の日”。過去の観客の瀧本像を一瞬で塗り替えてしまう、凄まじい身体能力の冴えと極めを展開して、劇的な一本勝ち！ その姿勢はアリーナ内の空気を完全に変えてみせた。

――多くのファンが感動した桜庭の登場も、菊地さんには少々邪魔でしたか。

菊地　桜庭と田村がリングに上がって、桜庭がもう最初から泣いている。田村も半ベソをかいている……〝PRIDE愛〟があれば、一番ビックリし、感動するところなんでしょうけど。ただ、あのアップセットは仕掛けられたサプライズだし、あれによって「結局、『PRIDE』はUインターなんだ」という部分が露見しますから。

試合がどれも素晴らしいがゆえに、最大のトピックである“桜庭の登場”が、少々邪魔に思えました

――菊地さんは一貫して、『PRIDE』におけるUインターの影を語ってますよね。

菊地　『PRIDE』は結局、元Uインターだ」ってことは、調子がいいときは忘れてるんだけど、人間、窮地になると故郷に帰るじゃない（笑）。

――いわゆるルーツバック現象ですよね。

菊地　今回そのことはあんまり見えないほうがよかったんじゃないかな。

――今回の英断で、K―1とも雪解けか？　なんて声も出ていますが。

菊地　それもなんとも言えないけど、少なくともK―1としては、とても大人な判断でしたよね。桜庭を『HERO'S』でガチガチに縛ったところでたかが知れてますし。しかし桜庭の泣きながら「おひさしぶりです」っていうのはよかったね。

――マスク越しの涙が見えましたよね。

菊地　ただ、自分を支えてくれた家族への反抗期というのは誰でもあって、家出したんだけど、その一家が離散するとなれば帰ってくる、と。そりゃあ泣きますよね。あそこで僕は涙が止まっちゃった（笑）。まあ裏ではいろいろあったんだろうけれども、少なくともあの部分がなくても充分に素晴らしい興行だったと思います。

――3月28日の『PRIDE』重大会見に至るまでの、一連の騒動は、どういうふうにご覧になってました？

菊地　『kami·pro』で一貫して言ってきましたけど、DSEというのは帝国感があったんだ、と。それがゆえに、逆に、透かし彫りみたいに〝没落〟をイメージさせたんだと。『HERO'S』にはまったく感じないたぐいの震えというか。

――そして、菊地さんが予想された傾斜がやってきた。

菊地　まあ、あとはご存知のとおり。としても、DSEの没落が、最終的にエンターテインメントとして、みすぼらしさや、むごたらしさがないまま、ある種きれいに終わったというのは格闘技史上、稀にみることだと思うし、そこに感動した部分もありました。ブラックジョークじゃないけど「先代の無念を考えたら、死んでも死なないぞ」とでもいったような。

――新しいオーナーである、ロレンゾ・フェティータが右手にUFC、左手に『PRIDE』をつかんだという事実、その新しい帝国に関してはいかがですか？

菊地　そこは難しい。前田日明さんがしごく簡単に「対抗戦という商売で売るだけ売って、疲弊したら捨てるつもりだ。アメリカは商売うまい」って言っちゃうわけじゃない？　世界は広く、上には上があるんだと。でも、僕個人としては対抗戦が盛り上がるにしろ、いいところをUFCが持っていっちゃっても、どっちでもおもしろいと思います。UFCが日本で観られる可能性だってあるんだろうし。

――ダナ・ホワイトも肯定的ですよね。

菊地　ただね。この騒動で思うのは、「アメリカのビジネスに負けたんなら、しょうが

帝国の終焉を"劇場化"したDSE

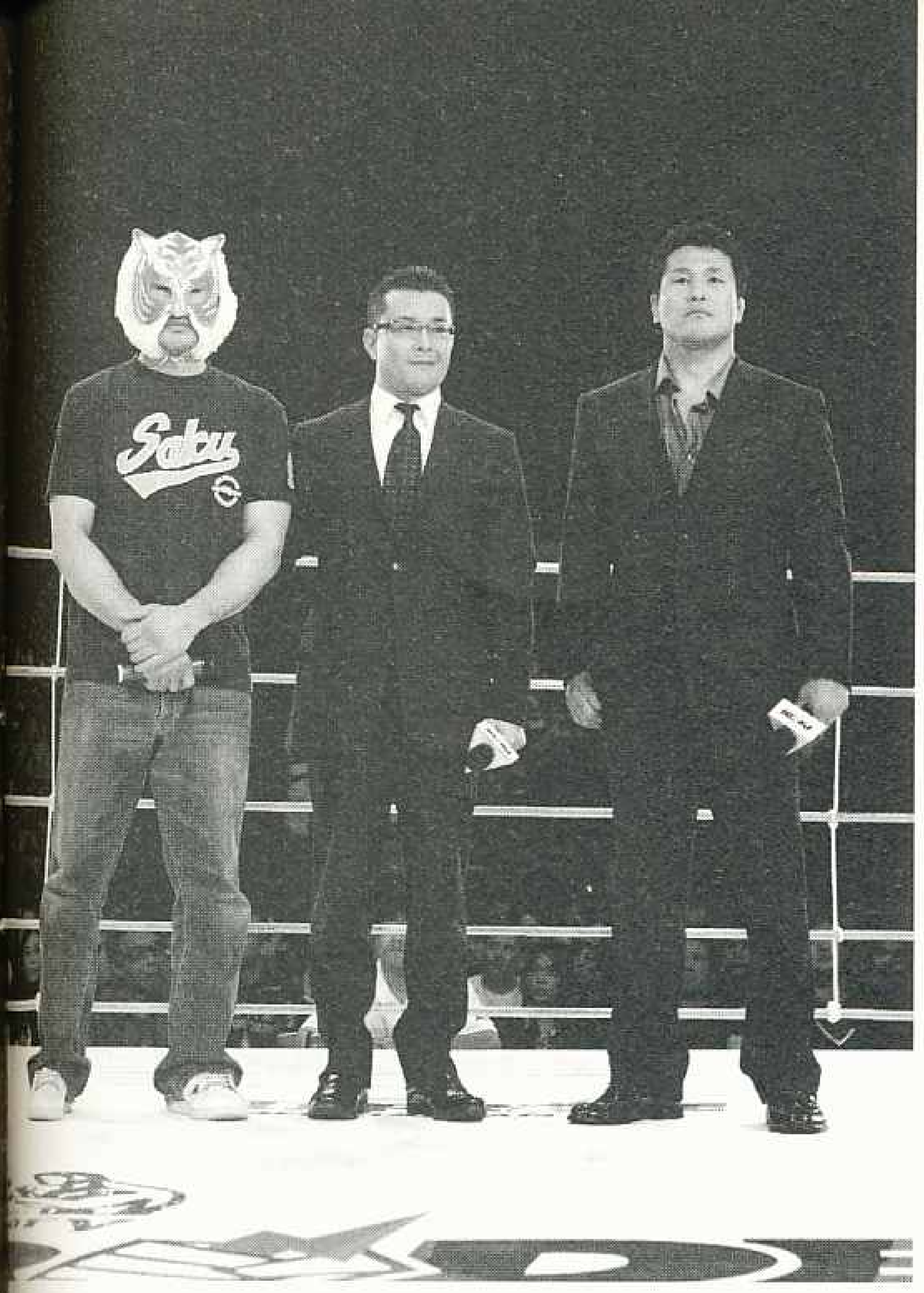
ないや。だって相手はアメリカだもん」と自分の胸に腑に落ちるものがないんですよ。80～90年代は日本がアメリカの会社を買収して睨まれた。でもいま、そのリベンジに遭ってるっていう図式にはなんないもんね。日本人の経済感覚がおかしくなっちゃっただけかも知れないけど。

――負けたという圧倒的なリアリティは足りないですよね。メディア力の違いというのも大きいと思いますが

菊地　少なくともソフトは互角もしくは上だよ、と。じゃあなぜ？　そういった奥歯にモノがひっかかった感はあるんだよね。実話誌、暴露誌的なイマジネーションを使わないとしたら。

――ファンもリアルな敗北感がないところで、次のステージに進んでしまったわけですね。

菊地　それに、ミルコ・クロコップに（アントニオ・ホドリゴ・）ノゲイラ、よしんば（エメリヤーエンコ・）ヒョードルも出戻って、『PRIDE』の選手が金網で闘ったとしても、それが金網であるかぎり、もう別ものですからね。



これぞビッグサプライズ！　サク、まさかの『PRIDE』再臨！　だが、そのウェットな世界観は異様なほどの好試合が連発！　な今大会との差異、微妙なイレギュラー感を感じた人も少なくなかった。

――金網の中で行なわれる、世界最高峰の闘いとはならない？

菊地　これはよい意味でですけど、WOWOWでUFCを観ている人は、格闘技ファンが高じて、というよりはアメリカンなんじゃないか？　アメ車が好きだったり、WWEが好きだったり、アメリカンポルノやスケボーの大会が好きで。

――いわゆるアメリカのライフスタイルが好きな人ですよね。

菊地　まあ、僕もちょっとそうなんですけど（笑）。ただ、今回の興行で凄く思ったのは、「やっぱりプロレス的な感動は強い」ということです。ダメなカードでも天才的な煽りVTRとナチュラル・アングルがきれいに決まったりすると、人は感動する。でも、そもそもDSEの帝国感というのは、完全にプロレスを払拭したリアルファイトと、完全なプロレスを同時にやるんだという万能感が見せた一時的な幻想であって。

――DSEは一時的にプロレスと格闘技の分離政策に成功した。

菊地　だけど結局、『PRIDE』はプロレス的感動という部分は、完全には払拭できなかったんだな。やっぱり完全な分離なんて無理だったんだということですよね。そういう意味で、小川（直也）vs吉田（秀彦）戦というのはパンドラの箱を開けてしまったんだろうし、一方でミルコvsヒョードルはオリンピック化の極点でしょう。

今回の興行を観て、思ったのは、「やっぱりプロレス的な感動は強い」ということですね

――完全なるスポーツ化現象ですね。

菊地　で、今回、最後に託された夢は桜庭vs田村戦なわけです。だから『PRIDE』も規模が小さくなったら、プロレスとして充分に人を感動させ、さいたまスーパーアリーナを満員にする力があるんだ、と。全試合がMMAの技術が凄いにも関わらず、どの試合もプロレス的だったよね。トンプソンが今回に限ってノーギミックで出てきて、ドン・フライにひざまずいたり。

――実際の試合はガチガチなんですけどね。

菊地　『PRIDE』初期というのは和風な味つけだったわけですね。でも、ここ数年は洋風すら越えて、インターナショナル、ワールドスタンダードって顔をしてた。それがアメリカとの接触によって一気にねえ。この大会は高級和風ダイナーみたいな。メニューにヤキトリがあることはとうとう……。

――払拭しきれなかった、と。今後はその和風さがより強まっていくんでしょうか？

菊地　記憶喪失みたいに初期の頃に戻るってことは無理でしょうけど。なんにせよあとは民族問題だと思いますよ。実際の民族性の話ではなくて。つまりヒョードルやミルコ、ノゲイラが「いまはUFCという国家にいるけど、故郷はPRIDE国なんだ」というふうに見えていくのかどうか。要するにリングスファンはいまだに「もともとヒョードルもノゲイラもリングスだ」と言いますよね。

――ええ。一番言ってるのは前田日明さんでしょうけど（笑）。

菊地　でも、時の流れに風化しちゃうじゃないですか。たとえば、田村潔選手の色気っていうのは、民族問題だと思います。あの人が独立国家を作ろう作ろうとすればするほど「Uインター民族なのか？」という部分を刺戟するんだと思う。リングス民族なのか？　『PRIDE』は一時期、帝国化したから日本人もパンクラス出か、リングス出か、という部分が無化されて、全員が帝国民になった。そのあとに道場別と国家別を曖昧に掛け合わせたようなかたちに再編成されて。

――そういう部分も、UFCとの対抗戦やUFCへの参戦では変わってきますか？

菊地　何ごともなかったかのようにみんなUFCの選手になっちゃうかもしれないけど。でも、なんにしてもつまらないことにはならないという気はしてますよ。2軍のダシがらの『PRIDE』でもよいよ。今回の奇跡の大会が見せた、春の夜の夢かもしれないけど（笑）。

――第一幕の最終回としては、素晴らしい出来というか。

菊地　うん。榊原さんはよかったですね。シンプルなようで複雑よ、あの人。「明日から名古屋に帰ります」とか名言が多いよね。

――名古屋に帰って、谷川さんとお酒を飲みたいだとか（笑）

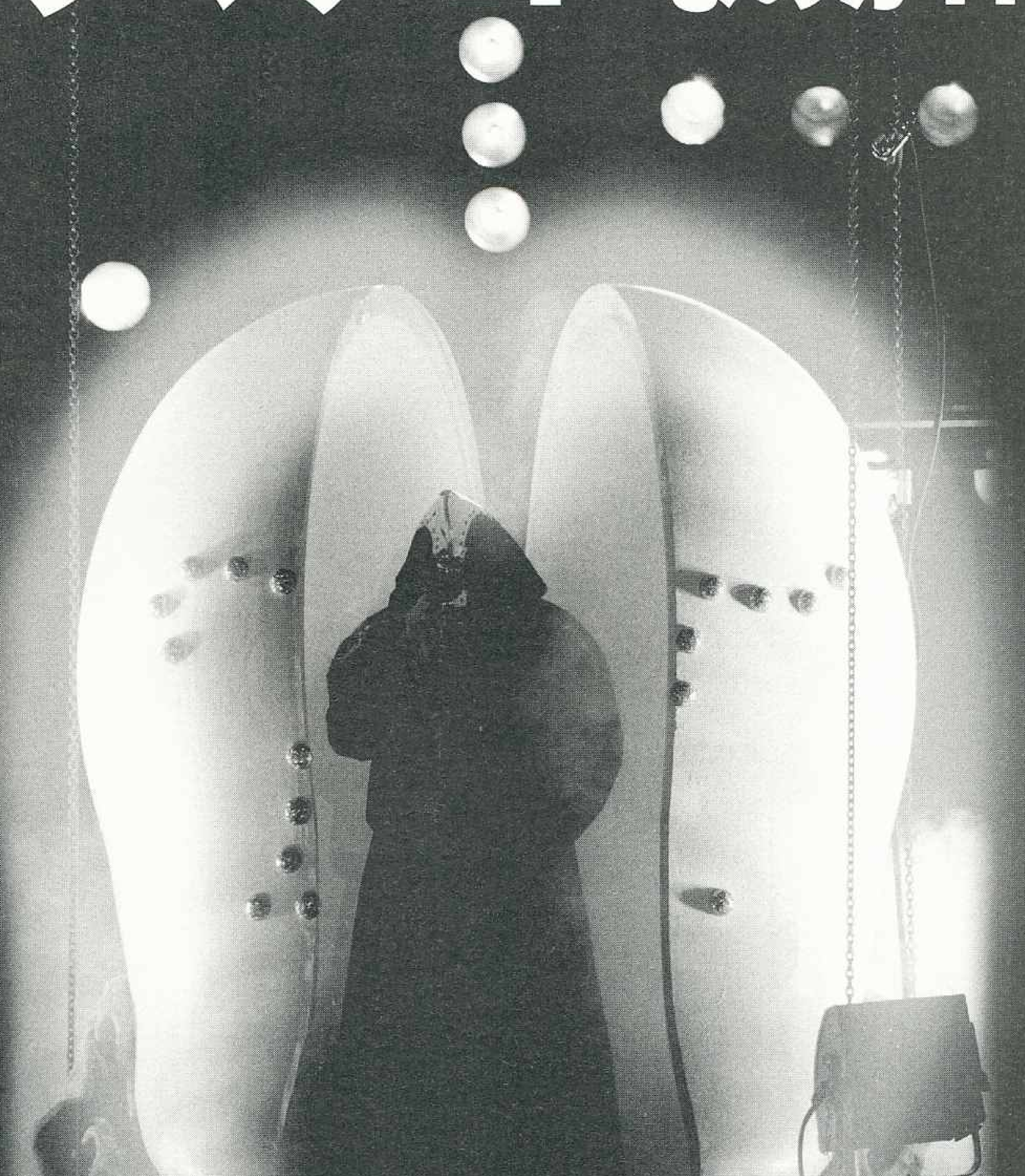
菊地　「あ、そうか！　名古屋だけに嫁入り道具か！」って、中継終わった瞬間に愕然とするのよ（笑）。

――ダハハハ！　うまい！　座布団一枚！　本日もどうもありがとうございました。

【07年4月10日／歌舞伎町の某カフェにて収録】

4.8『PRIDE.34』
DSEからの置き土産

桜庭vs田村はPRIDEの“タマアゴ”なのか!?



呼べよ風! 吹けよ嵐!!
KAMIKAZE座談会

新オーナー就任によりDSE 体制最後の大会となった『PRIDE.34』さいたま大会。『PRIDE』の今後を占う重要なこの舞台に、なんと桜庭と田村が突如登場!『PRIDE』の歴史に名を刻む二人の顔合わせに込められたメッセージとは!?

――え～、今日は、第2回『タコでもわかる世界のMMA講座』にお集まりいただき、まもとにありがとうございます。

井上崇宏(以下、井上) ……第2回? いつやったの、そんな企画。『kamipro』に載ってたっけ?

堀江ガンツ(以下、ガンツ) いや、じつは前号の108号に掲載するはずだったんですけど、3・27『PRIDE』重大発表会見の余波でボツになったんですよ。『PRIDE』の体制が変わるのに、その前提なしに『PRIDE』の今後を語っているなんてマヌケにもほどがありますから。ちなみに栄えある第1回の出席者はマスクド・ゴンカクX氏に、同企画のイメージキャラクターのタコ兄さんでした(笑)。

マスクド・ゴンカクX(以下、X) 俺にはボツになるという連絡すらなかったけどね(笑)。

――すいません。それがきっかけで、『PRIDE』の重大発表に伴う前回の発売日変更の理由を不審がられたらマズイかなあ、と。

原タコヤキ君(以下、タコ) そういう事情ならしょうがないんだけど。俺が気になったのは……このふざけたタイトルや!

ガンツ ああ、かなり失礼なタイトルですよね。『タコでもわかる』って、あきらかに「タコ」=「アホ」という意味で使ってますからね(笑)。

タコ しかもね、連絡係のターザン上杉!から『『タコでもわかる』の件ですが……』というメールや電話がたびたび来るわけですよ。『『タコでもわかる』の件ですが』と!

ガンツ ガハハハハ! なんの気遣いもなく(笑)。でも、あの座談会はもの凄く現在のMMAシーンがわかりやすく解説されてましたよね。本当は全文再録したいくらいですけど、いまの状況は大幅に違いますから。

タコ しかし、いったいどないなっとんねん!! 最近のマット界は! も～～～う、わけがわからんでぇ。

――『PRIDE』のオーナーは変わるわ、桜庭和志が『PRIDE』のリングに戻ってくるわ、おまけに猪木さんのIGFは6・29両国国技館で本当に旗揚げする気だし。聞くところによると、アントンいわく、ついに完成間近の永久電機に国連も興味津々らしいですよ(笑)。

ガンツ 電機はもちろん、マット界は動いてますよ! 裏側ではダナ・ホワイトが腰を抜かす情報が乱れ飛んでるし。

――もう水面下では毎日が『猪木祭り』な騒ぎというか、関係者やファンに情報が届く頃にはかなりねじ曲がっているから、何事も迂闊に信じないほうがいいですね。この座談会でしゃべってることも信じちゃいけません!!(笑)。

タコ でも、裏情報はともかくさ、俺なんかはごくごくあたりまえのことすらイマイチわからないのよ。ちゃんと説明してもらわんと!

X あのう、『週刊ゴング』が休刊になったのは知ってますよね?

タコ さすがに知ってます!

X じゃあ、『PRIDE・34』に桜庭和志が電撃登場したことも?

タコ それもさすがに知ってますよ!(怒)。PPVで観たし。しかし、DSE体制最後の『PRIDE』ということで「当日に何かが起こる!」と前もって言われていたけど、まさかサクが出てくるとはねぇ。

X ちなみに僕はそのサプライズとは(ヴァンダレイ・)シウバのボーナストラック・マッチだと思ってたんですけど。相手は噂にも上がっていたイゴール・ボブチャンチン。

井上 俺は「どうやらサクが来る」という情報を大会数日前に入手してまして、でもそれは現実的には不可能だっていう話も聞いたんですね。

ガンツ 実際、木曜日(5日)の時点でサクが登場する話はいったん完全に消えたらしいですね。

井上 それなのに前日会見で榊原代表が「明日はビッグサプライズがある」って予告をしていたから「サク登場じゃなかったら、なんなんだろう?」って。

X FEGの内部でも、ごく一部の人間しか知らなくて、とあるFEG関係者も『PRIDE』にサクが出てきたら本当にビックリしてましたからね。

ガンツ だから『PRIDE』の関係者ですら知らなかった人間も多かったんじゃない? で、驚くことに当初は桜庭vsヴァンダレイ戦を当日発表でやろうとしてたそうなんですよね(詳しくは33ページからの佐藤大輔インタビューを参照)。

タコ あ、そうなんやっ!!

ガンツ でも、サクもシウバもそれぞれの理由で試合はさすがにできなくて、その話はいったん消滅したようなんです。じゃあ、サクがゲスト来場して榊原代表に花束を渡すっていう方向に変更しようとしたみたいなんですけど、これはサクが難色を示したらしいです。

タコ なんで?

ガンツ 榊原代表に「お疲れさまです!」って言うだけなら、個人的に電話すればいいだけですからね。そうじゃなくて、サクはあくまで試合をやりたかった。それが実現できないなら、せめて将来的に田村潔司戦を実現できるような環境をつくろうという話に落ち着いて。それで田村潔司が試合前日に来場のOKを出した。最終的には真夜中に決定したみたいですけど。

X じゃあ正確にいうと当日か。さすが田村!(笑)。しかし、榊原さんもタダじゃ辞めないですね。

井上 みんな凄いよね。桜庭和志も本当に凄いと思う! よくぞあの場所に出てきたというか、やっぱり『HERO'S』への移籍の仕方を考えると、『PRIDE』に戻るのは相当に勇気がいるわけじゃないですか? それに関してはおおいに胸を打たれたけどね。

ガンツ 花道を歩いてくる時点でサクは泣いてましたね。一度は出ていった『PRIDE』であんな大歓声を浴びたら……誰だって泣くよ!!

井上 ただ、田村との絡みという演出にはじつは少し……乗りきれなかったね。俺は逆に桜庭は花束を渡すだけのほうがよかったような気がするんだけど。榊原さんがリング上で「私が公言して、一つだけ実現できなかったカード」という前口上でサクを呼び込んだでしょ? それで瞬間的に俺は反対側からヒクソン(・グ

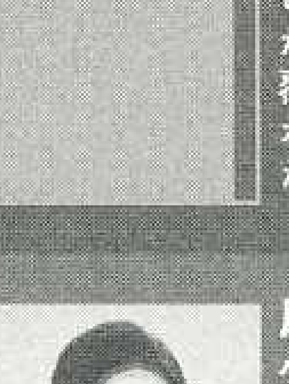
We love Uインターな?
座談会出席者プロフィール



堀江ガンツ
本誌編集部所属。熱狂的かつ変態的UWF信者～リングスファンを経て、ダブルクロス入り。現在はミルコ番、ノゲイラ番、ニラサワ番などで活躍中。血中UWF濃度が凝縮された"俺流"格闘評論に定評がある。アルコールが入ると誰も止められないという一面もあるらしい。



井上崇宏
制作を担当していた携帯サイト『スカパー! バトルLIFE!!』が惜しまれながらサービス終了となるも、今春より長男が幼稚園に入園してテンションがあがるペールワンズ代表・35歳。『Kamipro』との親交が深く、なかでも上杉とは世代を超えたマブダチ関係にある。もちろんタメ口も許容。



マスクド・ゴンカクX
プロレス・格闘技を問わず、幅広い人脈と情報網を持つマット界の事情通。水道橋界隈に出没することが多い。いろいろと面倒な問題が起こるため、身分は明かせず、覆面を被っている。なお、日本スポーツ出版社とは、とくに関係はないはずだが……。



原タコヤキ君
小さい判型だった頃の元『紙プロ』編集者。現在は銀座の、とある会社に勤務。自身がパーソナリティを務め、プロレス・格闘技のウラ情報を配信するポッド・キャスティング番組『銀座プロレスNOW!!』はネットで絶賛配信中&休止中。毎日、20万円の自転車に乗って、銀座～川崎間を心地よく通勤。

担当・上杉の不手際により写真がありません。申し訳ございません。

ジャン斉藤
本誌編集統括本部長。略して編集長。雀鬼・桜井章一の内弟子を経て、ダブルクロス入り。我らがアントニオ猪木が精力を傾ける永久電機などアントン関連事業の調査・解明をライフワークとする31歳。愛犬の名前はタンヤオ。当座談会の司会を務める。

『PRIDE』の余計なものに力を注いでるところがビンビンくる（斉藤）

レイシー）が出てくると思ったんだよね（笑）。

X なるほど、なるほど。『PRIDE』の歴史をもっとさかのぼると、あの前口上に似合う男は、確かにヒクソンだよね。そもそも『PRIDE』は髙田vsヒクソン戦実現のために作られたイベントなわけだから。

井上 そうですよ。桜庭とヒクソンって『PRIDE』からしてみれば〝二大遺失物〟じゃないですか。そう思っていたら例の曲が流れて、「あっ！　田村か」って。なんか自分でも意外なほど桜庭vs田村戦にドキドキしなかったね。それにはいろんな理由が挙げられると思うんだけど。

ガンツ いやいや、サクvsヒクソンこそ、賞味期限切れ！（角ちゃん調）でしょう。だから、ボクなんかからすると、桜庭vs田村にポカンとしちゃう多くの人に対して、「ざまあみろ～!!」っていう感じなんですけどね。

タコ ん？　それはなんで？

ガンツ まずこの桜庭vs田村というカードって、もの凄く限られた層にしか向けてないですよ。要は二人のストーリーをしつこく追い続けて、10年以上にもわたって思い入れを持ち続けた人たちに向けたカード。

タコ ガンツ！　ターゲットはおまえや！（笑）。

ガンツ そういうことです（笑）。もう「ありがとう、バラちゃん！」（髙田延彦調）なんですよ！　ボクみたいな〝変態〟のために、大会前日までわざわざ大変な思いをして交渉してくれたんですから。

井上 いや、この数年間、そんな大変な思いをさせたのは田村潔司自身だから（笑）。

ガンツ まあ、興味がないという人の気持ちはわかりますよ。確かに賞味期限切れかもしれないし、いまとなっては〝最強〟というテーマとはかけ離れてしるし。

X プラス、同時中継されているアメリカにはこれっぽっちも向けられたカードじゃないですよね。あくまで国内だけにニーズがあるカードで。

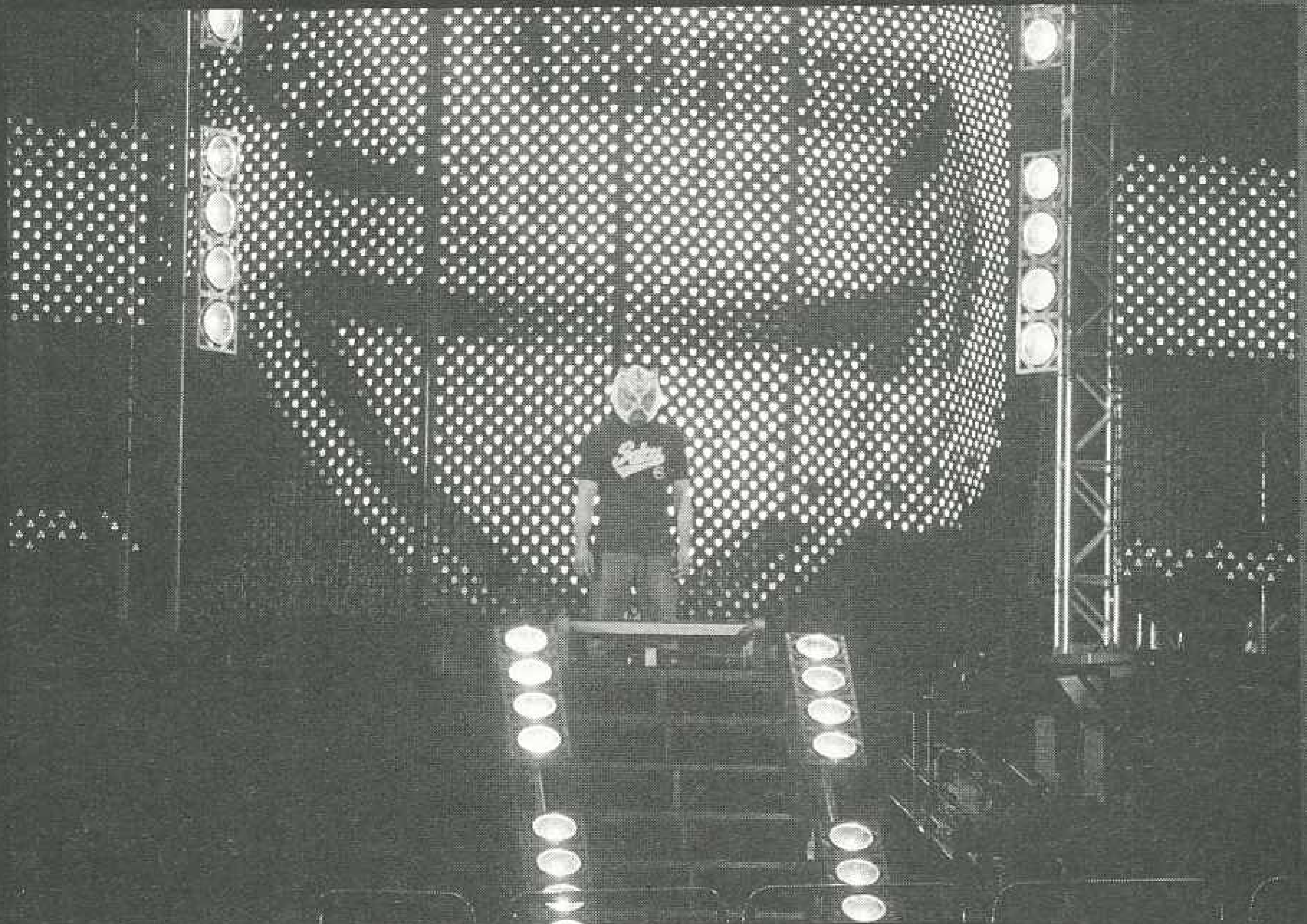
——もっと厳密にいうと、国内だけでもないですよね。現在のプロレスファンでもなくて、ごく一部の〝変態〟に向けて（笑）。

タコ ガンツ！　やっぱりターゲットはおまえや！（笑）。

ガンツ そう！　俺みたいな〝変態〟にだけ向けられたビッグサプライズなんですよォォ!!（なぜかターザン山本！調）

——ターザン調で喜ぶと「ふ、ふ、ふ」と（笑）。

井上 でもさ、誤解のないように言っておきますけど、俺ほどUインターが好きだった男はいませんから（笑）。で、ちょうど今日サムライTVの収録で高山善廣と桜庭の対談があったんだけど、昨日の『PRIDE』のことを聞かれた高山が、「結局、榊原代表が最後まで実現したかったカードがサクと田村さんの試合だったってことは、『PRIDE』ってやっぱUインターなんじゃん。Uインターに強豪ガイジンが集まってるだけって気がしたね」だって。確かにそういう見方もわかるんですよ。



ビッグ“サク”ライズ!!　休憩明け、榊原代表のマイクに続いて桜庭が登場！　『HERO'S』での桜庭の入場シーンでは聞くことができないほどの大歓声が巻き起こった。

——やっぱりUインターは下敷きにあると思うんですけど、ボクは『PRIDE』の余計なものに力を注いでるところがビンビンくるんですよね。確かに桜庭が花束を持ってきただけでも充分に感動的で、収まりはよかったはずだし、多くのファンが喜んでいるのは、桜庭と田村が並び立ったことよりも、桜庭が戻ってきたということ。極端な話、田村潔司はあの場所にはいる必要はとくにないにもかかわらず、そこへもの凄いエネルギーと労力をかけるという。

タコ 二人を並べることでファンの視点や興味が分散してしまうしね。

井上 でも、あえて分散させたっていう『PRIDE』側の意図も確かにわかるんですけどね。やっぱり桜庭ただ一人が株をあげることにアレルギーを起こす人もいるだろうし。

タコ そうそう！　ボクはね、サクが放送席の髙田本部長と握手したシーンのほうに注視したよね。「これに髙田はどう絡むんや？」というところを俺はずっと気にして映像で観てたから。

井上 そっちですよねえ。

X 田村もそこは気にしていたんじゃないの。隣に桜庭がいて、「桜庭と髙田さんは視線を合わせてるのかな？」とか、いろいろそういうことを考えてたと思う（笑）。

——それは〝あの桜庭がまた『PRIDE』で試合をするかも〟という環境設定ができたからこその楽しみですよね。お客様扱いの花束登場だったら、何も動かないし、変わらない。髙田本部長の感情にも目が向けられない。あの場所にはいなくても差し支えなかった田村潔司を引っぱってきたことで、波紋が一気に広がったという。

X 無駄な熱意が起こした大きな波紋だね。

——ミルコがUFCでデビューしたときも、マネージャーの今井氏が『PRIDE』のオープニングテーマを入場曲に使うために膨大な時間をかけて、『PRIDE』とUFC双方の関係者を説得し続けたじゃないですか。それこそ試合当日ギリギリまで（笑）。べつになくてもいいものに情熱をかけてこそ、ああやっていい意味で余計な波紋を起こすわけで。

X 一言でいうと、こだわりだよね。あのへんの人たちはそのこだわりが、いい意味で自分たちのほうに向いてるんですよね。それこそが『PRIDE』が10年ももった秘訣。へんなところにこだわりを持つっていう。

タコ いままでの10年はそこが肝やったわけでしょ？　「どこにアツなっとんねん」と。でも、これからの10

年はどうなるのかな？

ガンツ その肝がなくなっちゃうと、単なる格闘競技になっちゃうんですよ。チャンピオンを次々と回していくだけの世界。要は吉田秀彦vs小川直也なんていう大河ドラマ感溢れるカードが実現しなくなる可能性は凄く高い。だって小川の『PRIDE』への出場理由は「俺はハッスルするために『PRIDE・GP』に出る！」んですよ。アメリカ人からすれば意味不明も甚だしいでしょう（笑）。

タコ 「吉田、ハッスルしてくれ！」とか、もうアメリカ人からしたら、いったい何を言うとんねん！ と（笑）。

ガンツ でも、そういうムダが入り込んだ世界が『PRIDE』だと思うんですよ。で、榊原代表はそういう余計でありながら、『PRIDE』にとって大事な種をこれからも残してほしいという希望を込めて、桜庭vs田村という名の"タマアゴ"を残したというか（笑）。

X なるほどね（笑）。

ガンツ つまり、桜庭vs田村という"タマアゴ"は「これからも『PRIDE』が『PRIDE』であり続けます」というアピールだったと思うんですよね。

「ハッスルしてくれ！」とかアメリカ人からしたらわけわからんわ！（タコ）

タコ でもさ、その『PRIDE』らしさは残るんですか？

――いや、残るというか、絶対に残さないといけないものですよね。

タコ 「絶対に残さないといけないもの」ということを『PRIDE』新オーナーのロレンゾは理解できてるの？ だってオーナーからしたら子会社が一個増えたってことでしょ？ そうしたら、いろいろ調べるわけじゃないですか、業績やスタッフの仕事ぶりを。そうしたら「こんな交渉にどんだけ金と時間を費やしとんねん？」ってなるわけやんか。

――「登戸のカラオケボックスで何時間、粘っているんだ？」と。

タコ そらオーナーやったら、普通は怒るで！ 「登戸のカラオケボックスの領収書なんか落ちるか！」って（笑）。完全に無駄な時間やもんね。それとも「これが日本のマーケットでウケてるんだったら、この路線をそのまま踏襲しよう」っていうふうになるのかな？

ガンツ あのですね、榊原代表とロレンゾが一番違うのは、榊原代表はオーナーでありプロデューサーじゃないですか。でもロレンゾはあくまでオーナーであり、プロデューサーではないんですよ。UFCだってダナ・ホワイトの考えで運営されているわけですから。

タコ UFCはダナがプロデューサーなわけか。いわゆる現場監督ってことですね。

――だから5月から『PRIDE』を運営する『PRIDE FC WORLDWIDE』の体制がどうなるかは興味深いですよね。

井上 でもなあ、誰が代表になろうが、田村は絶対に桜庭とはやらないでしょ！

――あ、ボクもやらないような気がしますね。

X これでもやらない！ 「やっぱり田村潔司だ！」と（笑）。

ガンツ いや、いまの田村は全然やる気ですよ。『PRIDE・34』前後に何度か話をしたんですけど、それは凄く感じました。ただ、桜庭vs田村にこだわってきたボク自身としては、逆に試合自体はやってもやらなくてもどちらでもいい。DSE体制最後の『PRIDE』のリングに二人が上がったことのほうがよっぽど大事で、あの光景がすべて。もう試合内容とか、勝敗とかどうでもいいし、それは観なくてもいいんじゃないか？ という気持ちすらある。漫画でいうと、壮大な歴史的長編モノで、『PRIDE・34』が最終回。そのラスト2ページは、田村と桜庭が入場してきて、対決のゴングが鳴ったところでエンディングになる作品だと思ってるから。

井上 田村のやる気は知らないけど、昨日が最終回ってのはわかる。やっぱりUインターイズムを学習した人間として言わせてもらうと、この展開は必ずや田村vs秋山戦へと移行していきますよ！（笑）。

――"変態"の妄想だ（笑）。ちなみにそのUインターイズムって具体的になんですか？ 新しい読者に説明すると。

井上 は？ そんなの"プロレス最強"に決まってるでしょ!!

――ダハハハ！ ということです、読者の皆さん（笑）。

ガンツ 話を戻すと、じつは桜庭や田村の当人たちにとっても試合をやるということ自体よりも、この試合を実現させることによって、マット界の現状に風穴を開けることのほう

ホントにできんのか!? 桜庭vs田村、これまでの流れ

1998年	桜庭和志『PRIDE』初参戦。連勝で一躍スターに。
2002年	田村潔司『PRIDE』初参戦。桜庭が狙っていた、ヴァンダレイ・シウバの持つミドル級王座にいきなり挑戦することに対して、高田が「ものごとには順番がある」と激怒。
2002年	『PRIDE.23』で高田延彦は自身の引退試合の相手に、数ある候補者の中から、なんと因縁のある田村を指名! KO勝ちで、師匠を"介錯"した田村は号泣。また同大会のメインイベントに登場した桜庭も勝利を収め、高田の引退試合に花を添えた。
2003年	DSEが大晦日『PRIDE男祭り』で桜庭と田村の試合を組もうとするが田村は拒否。しかも大会3日前に田村vsロニー・セフォーとの試合が発表され、ファンを失望させた。
2004年	DSEが大晦日『PRIDE男祭り』で、同カードを組もうとするも再び田村が拒否。
2005年	『PRIDE.29』でアリエフ・マックモドとの試合で勝ったものの、不完全燃焼な試合を終えた田村に桜庭が「こんな試合をしてもおもしろくないと思うんで、4月に（ミドル級GPで）僕と勝負してください」とアピール。田村は返答せず、ケガを理由にGPには参加せず。
2005年	DSEは11月、田村をメインとした『U STYLE Axis』を開催。さらに大晦日の『PRIDE男祭り』で桜庭 vs 桜庭戦のオファーを出していることを明かしたが、またしても実現せず。
2006年	桜庭和志が『HERO'S』に移籍。

『PRIDE・34』をDo The Judge!!

DSE体制最終興行となった『PRIDE・34』。退任する榊原社長へのはなむけか、選手が奮起。全試合1本 or KO決着という素晴らしい内容に。大会直後、携帯サイト『Kami-pro Hand』でアンケート！

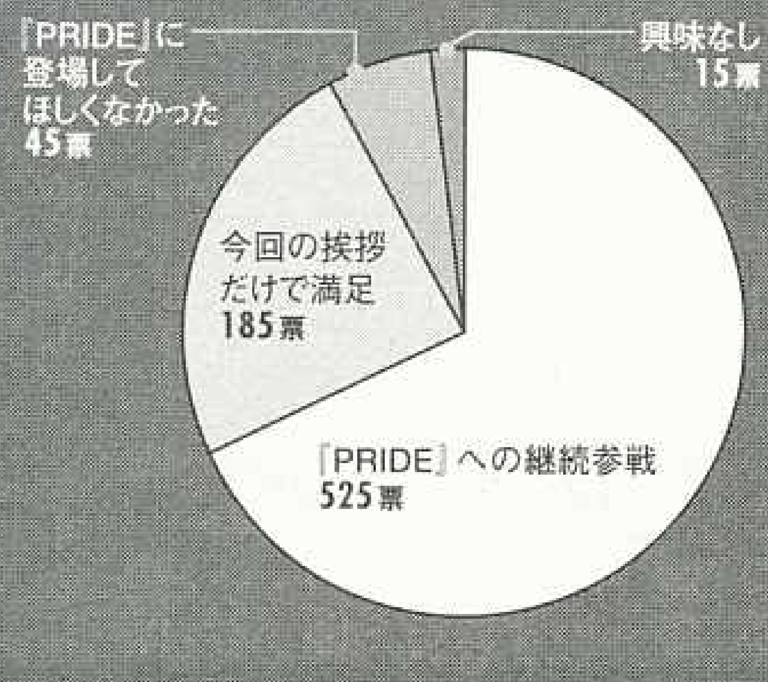
Q1 ベストバウトは？

1位	瀧本誠 vs ゼルグ"弁慶"ガレシック	312票
2位	ソクジュ vs ヒカルド・アローナ	304票
3位	ジェームス・トンプソン vs ドン・フライ	82票
4位	青木真也 vs ブライアン・ローアンユー	45票
5位	ジェフ・モンソン vs 藤田和之	36票

Q2 大会のMVPは？

1位	ソクジュ	340票
2位	榊原信行	212票
3位	瀧本誠	98票
4位	桜庭和志	83票
5位	青木真也	78票

Q3 桜庭和志の今後に期待することは？



ベストバウトは瀧本vsゼルグ！ これまで結果に恵まれてこなかった瀧本が、前評判の高かったゼルグ相手に見事な一本勝ち。ついに、その才能を開花させた。また、MVPは強豪アローナを衝撃的なKOで倒し、日本のファンの目にその姿を焼きつけたソクジュに。今大会で退く榊原代表も堂々の2位に。『HERO'S』から"帰ってきた"桜庭に対しては多くのファンが参戦を希望。谷川EP同様、ファンの器も大きいぜ！

DSE体制最後の大会じゃなかったら田村は絶対にリングに上がらなかったね（X）

が重要だと思っているはずなんです。

井上　二人の気持ちをおもいきり代弁するねえ。ガンツくん、〝変態〟というか、まるでイタコだよ（笑）。それは『PRIDE』とFEGの交流ってこと？

ガンツ　それも含めて。だって、いきなり田村 vs 秋山戦はできないでしょう。

タコ　じゃあ、新日本の東京ドームにジャンボ鶴田を出したから、全日本はスティーブ・ウイリアムスを1シリーズ借りるみたいな。……たとえが古いか（笑）。

X　まあ、そこは持ちつ持たれつ。お互い苦しいでしょうからね。

井上　そうか、やっぱり『HERO'S』で田村 vs 秋山戦をやるって展開か……（ニヤリ）。

――でも、冷静に考えたらバーターを含めて何も決まってないと思いますよ。話がある程度まとまっているなら、田村も榊原代表もリング上であんな奥歯にものが挟まった言い方しないだろうし、ここまで短期間の交渉でそこまで詰められるわけがないでしょう。

井上　いや、あの歯切れの悪さこそが田村の気持ちが秋山に向いている証拠！　って、俺みたいなアホがこうやって連呼するからできたはずのものも実現しないパターン（笑）。

ガンツ　田村も桜庭も二人とももうべつに自分たちの闘いに対して、こだわりとか憎しみもそんなにないんですよね。

井上　さすがイタコさん、ごっつぁんです（笑）。

ガンツ　「まだ田村 vs 桜庭戦をやるタイミングじゃない」と思っているうちにやるタイミングがなくなっちゃってたんだけど、それがDSE体制最後の『PRIDE』で再び対決の機運が生まれるという、このドラマ性。

X　ああいうシチュエーションじゃなかったら、田村は絶対にリングに上がらなかっただろうね。

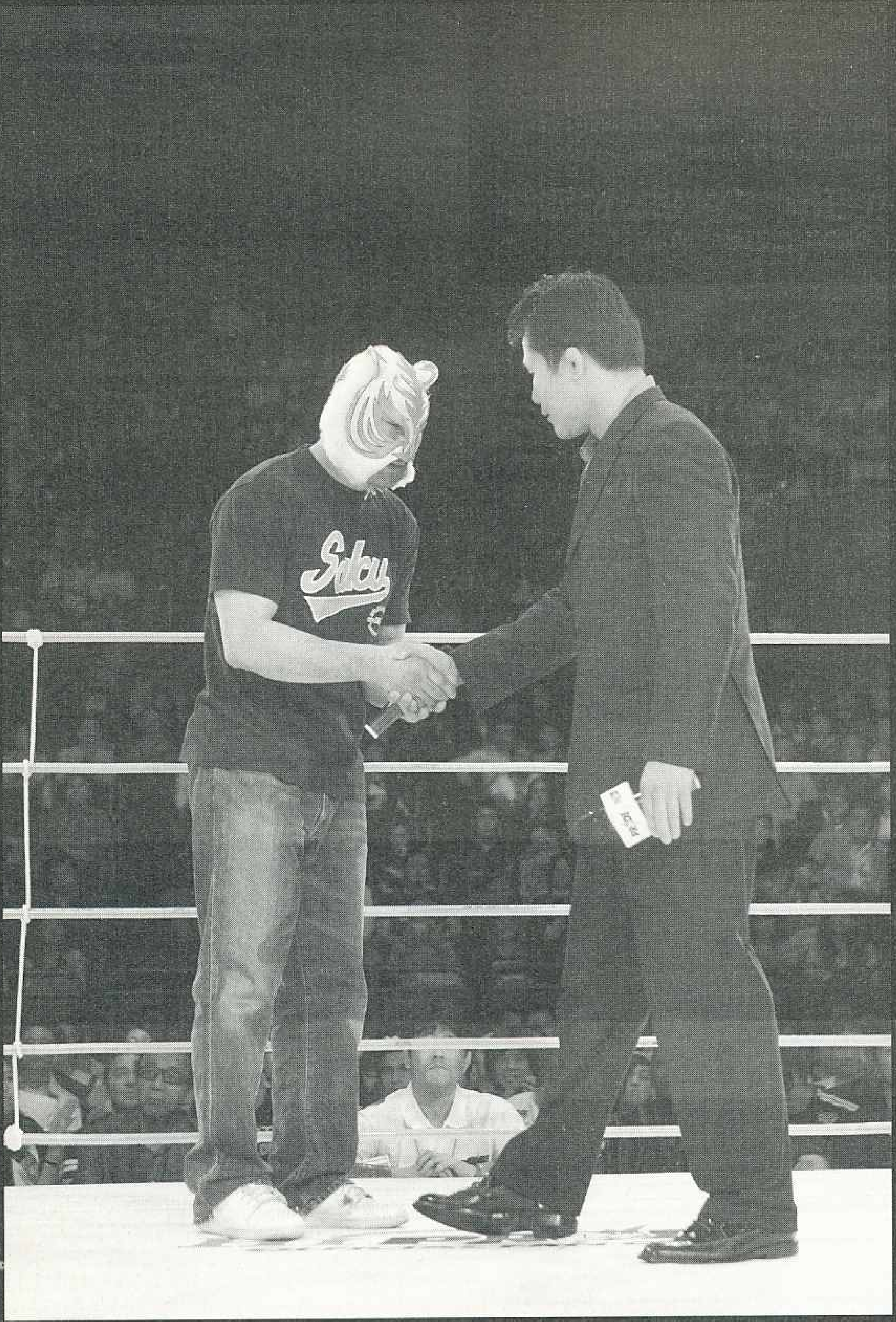
ガンツ　だから桜庭戦について、田村が常に考えていたのは、試合に勝つ負けるじゃなくて「プロしてどのタイミングでやるべきなのか」という一点だけなんですよ。

タコ　しかし、田村っちゅう男は、自分の値打ちの上げ方を知ってる男やなあ。あのシーンだけ切り取って見たら「どれだけ大物やねん！」って思うやん（笑）。確かに俺らは昔の記憶があるから、田村への思い入れも非常に強いけどさ。新しいファンとか純粋な格闘技ファンにはなんのこっちゃわからないよ。

――しかも、今年に入って実際に試合はしてないですよ、田村は。秋山問題で〝1試合〟こなして、今回も〝1試合〟したわけですけど。

X　日本一、待つことができる男ですよ。稼働時間はヒクソン以下です（笑）。

――これによって『PRIDE』とK−1の関係っていうのも今後どうなるかわかんないし、



桜庭に続いてリングに姿を現わしたのは、“赤いパンツの頑固者”田村!　幾度となく、対戦の機運が高まったことがあった二人が、ついに実現に向けて握手。本当にやれんのか!?

『PRIDE・34』ファンの声
（フリーアンケート）

●奇跡的な空間でした。榊原代表、谷川P、田村、桜庭を始めたくさんの人が出した優しさに幸せな気分になれました。

●やはり桜庭は『PRIDE』が良く似合う！　ただ選手としては『PRIDE』ではもうキツい。田村戦だけがみたい！

●正直いって今回の大会はあまり期待していなかったが、蓋をあけると本当にいい大会でした！

●ホジェリオに続いてまさかアローナまで……。アローナ好きなんでショックだったけど、ここまできたらソクジュにベルトを巻いて欲しい。

●榊原さんは素晴らしい。しかし裏方は裏方。あそこまではやりすぎ。

●ソクジュは怖いもの知らずの全盛期のサップを彷彿させるキャラ！　桜庭の涙の入場に釣られて号泣。

●佐藤さんの煽りVはやはりデカイ。直前まで興味なかったフライ vs トンプソンも凄く楽しめた。

●瀧本選手カッコいい！　常に一本狙う執念と技術を絶賛したい。地味でいい。もっと強くなってほしいなー。

●まさに『kamikaze』！　そしてハッピーエンド（藤田の勝利）で終わらない、『PRIDE』らしさ。

●ヒョードルやノゲイラ、ショーグンやハリトーノフクラスが出場していないのが淋しかった。

●青木対ビッグネームが観たい。嫌味で渋強な選手に勝ってほしい。

●『PRIDE』で聞くサクのテーマは涙が出た。どんな闘いになろうとやっぱり『PRIDE』でサクを見たい！　『HERO'S』であの曲がかかっても反応は鈍い。

●明るい未来が見えた大会だったが、タイミング的にノゲイラUFC登場のニュースで今後のことを考えるとまた複雑な気分になった。

●桜庭選手には『PRIDE』で試合する云々は軽々しく口にしないで欲しかった。

●谷川プロデューサーがある意味、一番男を上げた。

●ドン・フライのプロのお仕事には脱帽！

●高田のサクに対する態度がガッカリです。桜庭貯金でここまで来たとこも少なからずあるのに……。

●田村のテーマ曲に客の反応が鈍かったのに時代を感じました。

●青木真也が榊原社長挨拶後の何とも言えぬ雰囲気を一気に〝闘いへの期待感〟に戻した存在感は本物！

●ソクジュはニューヒーローです！　裏のMVPはDSEのスタッフ全員!!!　お疲れ様でした〜。

今後もPRIDEファイターがUFCに流れたら、対抗戦ができないじゃん！（井上）

いい意味で先が見えないですよね。

タコ　あと、わけのわからんのは、やっぱり『PRIDE』とUFCの関係や！　これからさ、『PRIDE』とUFCが同じオーナーのもとでやっていくわけやけど、ファイトマネーの基準って全然違うんでしょ。UFCのほうが全然高いんやろ？

X　それがそうでもないんですよ。

タコ　え？　じゃあ、上のほうの選手だけがええんや？

X　そうなんですよ。試合に勝ち続けたらどんどんファイトマネーが高くなるんです。ただ、PPV収益は日本の軽く20～30倍は稼いでますからね。

タコ　でも、今回のオーナー統一によって、『PRIDE』の選手が高額のファイトマネーでUFCに引き抜かれる心配はないという話だったけど、さっそくノゲイラはUFCと契約したんでしょ？

ガンツ　どうやらそうみたいですね。しかも、ブラジリアン・トップチームを通さず、秘密裡にノゲイラ個人と交渉して、一本釣りに成功したようです。

タコ　ホンマかいな！

井上　でもさ、一応は『PRIDE』とUFCのあいだには不可侵条約が結ばれてるというニュアンスじゃない。ノゲイラがUFCと契約したということは、実際に話ができてないってこと？

X　いや、それはあれですよ。イラク国内で「もう停戦しました！　皆さんもう撃ち合わないでください！」って言ってても、まだドンパチやってる人がいっぱいいるのと同じことですよ（笑）。

井上　あ、なるほど（笑）。

X　どれだけスピーカーで「戦争は終わった！　終わったんだ！」って伝えても全員にはなかなか伝わらない（笑）。

ガンツ　これを見ると、UFCはますます『PRIDE』のトップファイターを根こそぎ奪い取ろうとしているようにも感じますね。そうじゃなきゃ、マリオ・スペーヒーやムリーロ・ブスタマンチが日本に行ってるときを見計らって、ノゲイラを強奪しないでしょう。一説によると、UFCはファーストクラスの飛行機と高級ホテルのスイートルームを用意して、VIP待遇でノゲイラをアメリカに招聘したらしいですからね。

井上　同じVIP待遇でも、名古屋までの新幹線グリーン券を谷川さんにもらって喜んでるターザンとはレベルが違うわけだ（笑）。

ガンツ　ターザンは、いまや銭湯のチケットをあげるだけで誰でも神様扱いしてますからね（笑）。で、ノゲイラ離脱のニュースを日本で聞いたマリオ・スペーヒーは号泣したらしいですよ。彼はマネージャーであるだけでなく、ノゲイラを見いだした師匠であり、兄貴分でもありましたからね。でも、ノゲイラ本人はきっとそんなに重大なこととは考えてなくて、「今年の『PRIDE』はライト級GPが中心でしょ？　対戦相手もとくにいないし、ちょっとUFCに行ってきま～～す！」みたいな感じで。

井上　お！　今度はノゲイラのイタコだ（笑）。

ガンツ　「日本のみんな！　ちょっと待ってて‼」（陽気なラテン系のノリで）。

井上　でもさ、これから『PRIDE』とUFCの対抗戦をやっていくって宣言したばかりなのに、さっそく楽しみが削がれてるわけじゃん。だってノゲイラがUFC側にいるのはおかしくない？　ナウ・リーダーズの中に武藤敬司がいるくらいへんじゃん！（笑）。

ガンツ　古いなあ（笑）。

井上　ノゲイラだけじゃなく、今後もどんどんPRIDEファイターがUFCに流れていったら、それこそ来年頃に対抗戦なんてあり得ないんじゃないの？

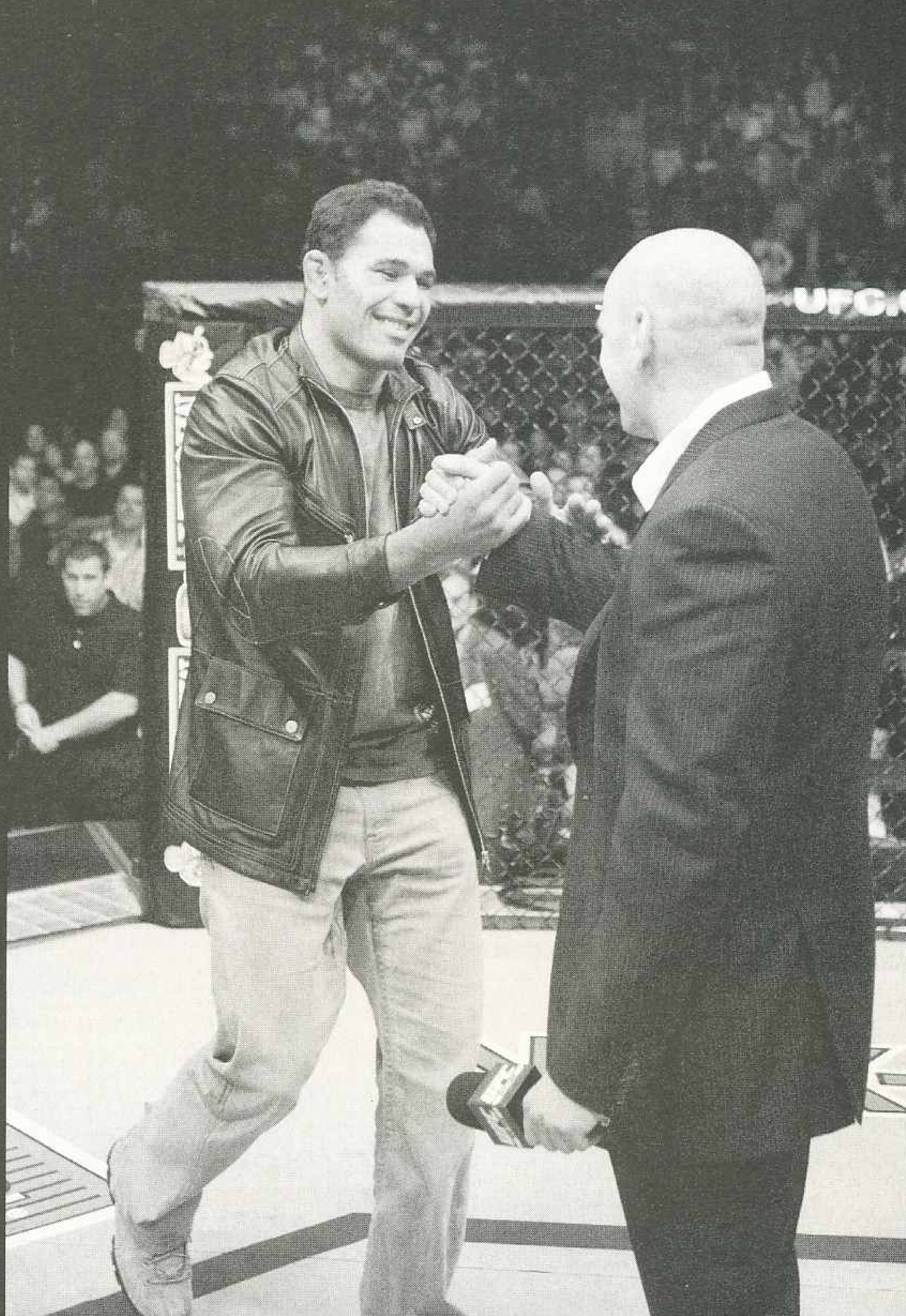
ガンツ　いやね、『PRIDE』とUFCの対抗戦というのは、あくまで日本側から見た話で、UFCにとっては、やってもやらなくても、どうでもいい話なんじゃないかと。

X　いや、それはガンツ氏の意見にまったく同感だね。

ガンツ　MMAワールドシリーズをやるにしても、『PRIDE』のアメリカでの知名度はまだまだだから、UFC側からするとピンとこないわけですよ。

X　で、逆に日本でのUFCの知名度はイマイチだから、対抗戦の機運が盛り上がるのはしばらくかかる。

ガンツ　だから両方とも少しずつ交流して、それぞれの知名度が上がっ



ノゲイラがまさかのUFC登場!!　『PRIDE.34』とほぼ同じときに行なわれた『UFC69』で、「ミルコを倒した元PRIDEヘビー級王者」と紹介され、オクタゴンに現われたノゲイラ。屈託のない笑顔でダナと握手を交わした。

たときに本格的な対抗戦ができたらいいなというレベルですよ。とくにUFCはアメリカで絶好調だから、いまのところ対抗戦というカードにそれほど興味はないでしょう。UFCにおけるニューカマーとして、『PRIDE』のトップファイターに興味はあるでしょうけどね。だから、ノゲイラを獲得したわけで。

タコ　「対抗戦がメインストリームにはならない」と言うけど、たとえば『PRIDE』がいまの状況のまんまで、アメリカの中継もなく、完全に日本向けのコンテンツに特化すると。それならわかる。日本向けの〝変態〟にこだわりを持つ『PRIDE』で居続ければいいから。けれども、今後は『PRIDE』はアメリカで放送していくわけでしょ？　興行を日本で開催しようがアメリカで開催しようが。ほんなら、やっぱりアメリカ用のコンテンツとしての『PRIDE』になっていくんじゃないの？

X　それは時間の問題でしょうね。

ガンツ　でも、そうなったら今度は日本でやっていく意味がなくなるんですよ。

タコ　そうそう。で、完全にアメリカナイズされた『PRIDE』ははたしておもしろいのかなあ。

ガンツ　それが一番の懸念ですね。そうすると『PRIDE』が存在する必要もそれほどなくなってくるんですけど。単なるリングでやるUFCというか。どんどん格闘競技化していきますよ。まあ、それはそれで楽しめるんですけど、きっともの足りないでしょうね。

タコ　せやろ？　そうしたら『PRIDE』はUFCの2軍にしか見えへんやん！

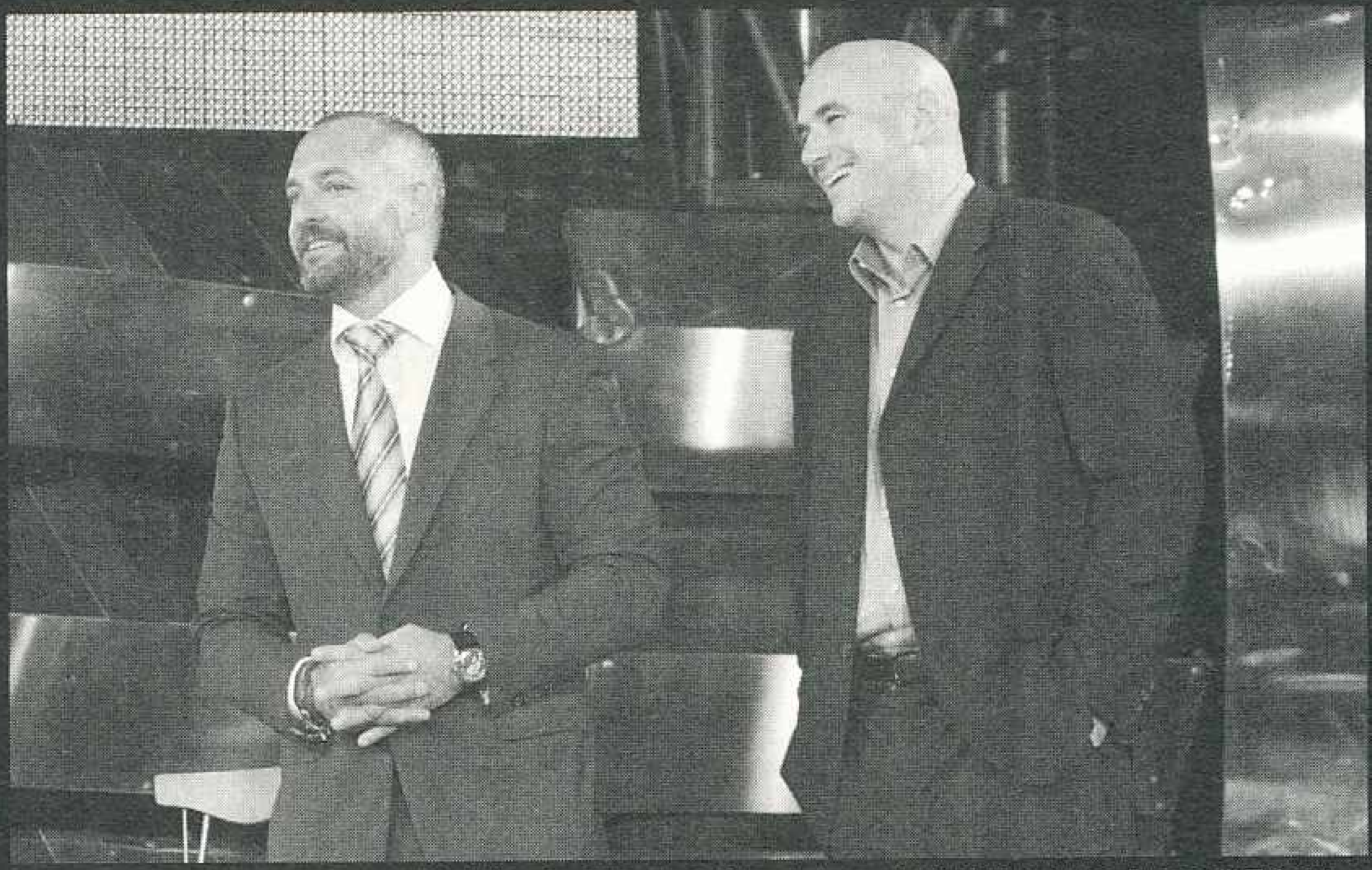
X　あのね、そういう1軍とか2軍という感覚で見てるのって、じつは日本人だけなんですよ。

ガンツ　そうですね。アメリカのファンからすると、『PRIDE』ですら存在してないに等しいですから。戦力自体は現時点で全然、同じようなもんなんですよ。ただ違うのは儲かってるか、儲かってないかの違いだけで。

タコ　まあ、日本の地上波をつけて、従来の『PRIDE』の路線のまんまでいこうというのなら、対抗戦もへったくれもないっていうのはわかんねんけどね。アメリカで『PRIDE』をどうやっていくんや？　というか、そんな必要があるの？　だってオーナーが一緒やねんから。わざわざアジアから持ってきたものを、一生懸命UFCと同じくらいのブランドにしようと思ったらその作業は並大抵のことじゃないわけでさ。そんなもんUFCの中でやっちゃえばいいわけじゃないですか。

ガンツ　『PRIDE』というソフトがビジネスとして成立しない判断した時点でそうするでしょうね。

ダナはUFCだけの社長だから PRIDEがどうなろうが まったく関係ない（ガンツ）



『PRIDE』オーナーとなったロレンゾと非常に近い関係にあるダナ。しかし、彼の野望はあくまで「UFCで世界中のトップファイターを闘わせること」。『PRIDE』は彼にとって相変わらずライバル団体。いや、もしかしたら選手の供給元の一つとしてしか見ていないのかも……。

——だから、『PRIDE』は〝これまでどおり〟アメリカ市場で成功するか、どうか？　が団体存続への大きなポイントですよね。いまの『PRIDE』はまずビジネスとして安定させるのが先決で、そうしないかぎりはその世界観やクオリティをたもてないですから。

タコ　う〜ん。もう『PRIDE』がどこに向かっていくのかさっぱりわからん！

——まあ、プーチンが出てくるくらいですから。とてつもないことになってますよ。

X　だからこそ最後に田村vs桜庭戦を残したというのは、まだその先を暗示する部分を見せてくれたってことで、凄く丁寧だと思うんですよ。

ガンツ　この桜庭と田村を組んだということと、ダナ・ホワイトがノゲイラを持っていったことって、共通する部分があって、それは『PRIDE』は『PRIDE』、UFCはUFCだということなんですね。ロレンゾはUFCのオーナーであり、『PRIDE』のオーナーでもあるから両方のことを考えるけど、ダナはUFCだけの社長だから、『PRIDE』が儲かろうがどうなろうが、まったく関係ないって人。ただ〝親〟が一緒だっていうだけだから。『PRIDE』と対抗戦をやって儲かるんだったらそれでもいいけど。

X　現時点でそんなことは、はるか先の話で、いまのところ両者はまったく関係がないというか。どっちも独立採算の会社。どっちもそれぞれが儲けるしかないんですよね。

ガンツ　だってさ、たとえば、『kamipro』の発行元であるエンターブレインが『ゴング格闘技』を買いました、と。だからって我々が『ゴング格』の売り上げを延ばすために独占インタビュー企画を譲るわけないですよね。

井上　そのたとえでやっとピンときたわ。しかもキミたちのことだからダナ・ホワイトばりに「『kamipro』以外はジョークだ!!」と言い張るだろ（笑）。

——どうせなら、「『kamipro』だけはジョークだ！」と言われたいですけど（笑）。

ガンツ　だからロレンゾにしてみたら、「おまえら、どっちが稼ぐか勝負だぞ。あとで対抗戦やるからな」みたいなもんですよ。

井上　最後はロレンゾ・フェティーイタコね（笑）。

ガンツ　そういう意味では『PRIDE』とUFCの熾烈な企業戦争は続くし、新オーナーの影響力の下、『PRIDE』の方向性はどうなるか。

——やっぱりせっかく産み落とされた『PRIDE』の〝タマアゴ〟を温め続けて、未来のエスペランサー（希望）を誕生させることが今後の一番の期待ですよね。

井上　斉藤くん。生まれてくるのは……秋山成勲というモンスターだよ（ニヤリ）。

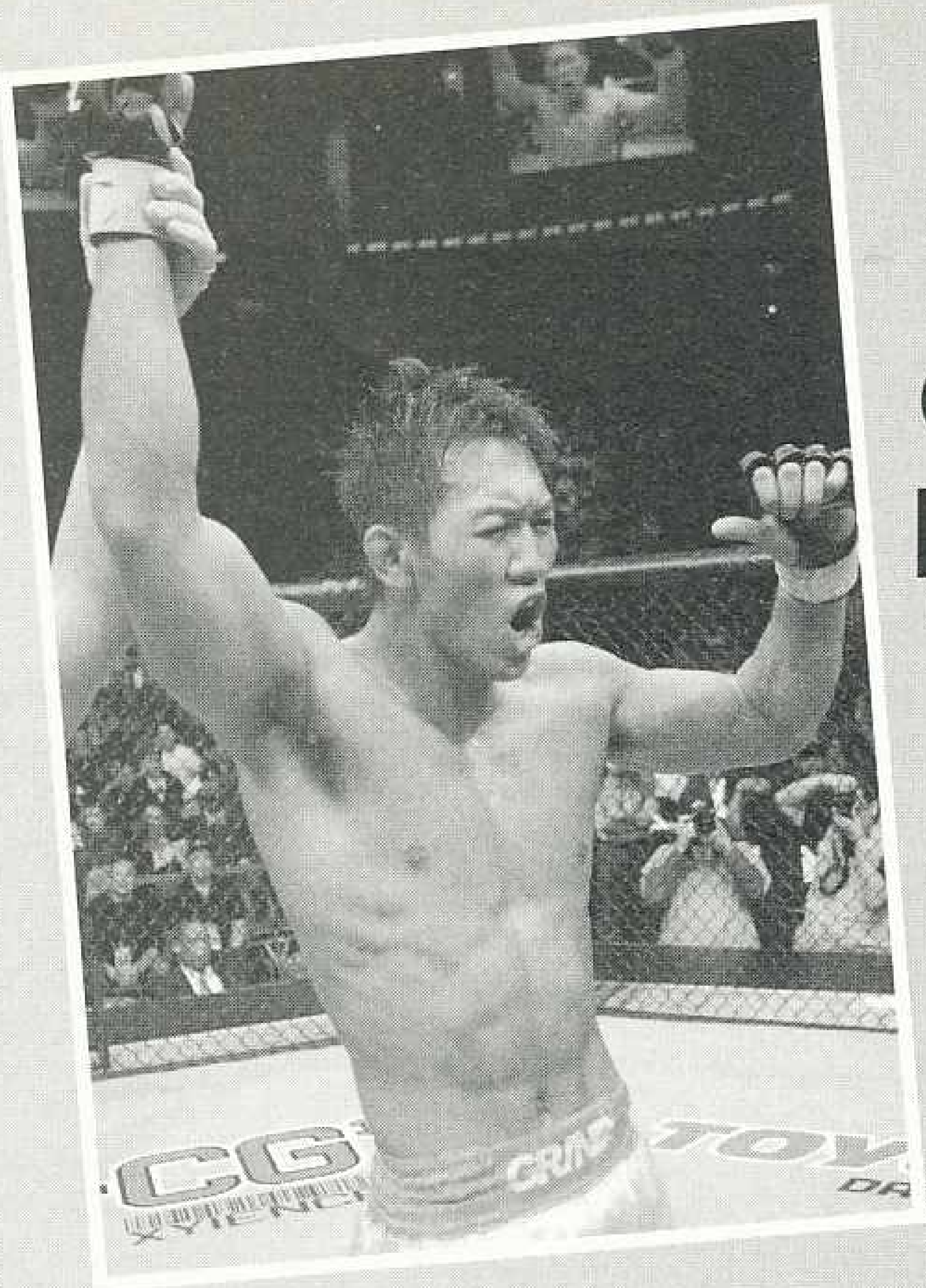
——あ、Uインターイズムの爆発ですか（笑）。

井上　プロレス最強ですよぉぉぉ!!

タコ　どいつもこいつも〝変態〟ばっかりや（笑）。

【07年4月9日／kamipro編集部にて収録】

格闘天変地異勃発で、GCMはどう動く……!?



知らない人は知らないけれど……

真のメジャーリーガーがここにいたーッ!!

―タイトル戦間近!? 現在UFC4連勝中の男の本音!―

岡見勇信

（和術慧舟會東京本部）

聞き手／橋本宗洋　構成／松澤チョロ　試合写真／Josh Hedges（UFC）

WA-JYUTSU

岡見勇信は、はっきり言ってしまうと『kamipro』とその読者的にはノーマークな存在だった。なぜかといえば、彼が〝実力本位〟なファイターだからである。実力的には申し分ないのだが、逆にいうと実力以外に目立ったところがないというか……。

アマチュア時代に『PRIDE』の登竜門企画『PRE PRIDE』で優勝し、プロデビューすると7連勝をマーク。現在まで24戦して、負けはわずか3つである。186センチの長身。アブダビ・コンバット日本予選に優勝するほど組み技が強く、同時に総合ファイターとしては珍しいくらいミドルキック、ハイキックなど多彩な蹴り技も使いこなす。一本勝ちもKO勝ちもできて、なおかつ大崩れしない安定感。選手としての評価は非常に高いのだが……。

岡見には、〝これ〟といったキャラがなかった。わかりやすい個性、目立った動きがないと、どうしてもメディアのアンテナにはひっかかりにくというか、取り上げるきっかけを見つけにくいのである。これだけキャリアがありながら、ベルトを巻く機会にも恵まれなかった。主戦場にしていた『DEMOLITION』や『DOG』はタイトルを制定しておらず、パンクラスに参戦したこともあったが定期的なものではないためタイトル挑戦には至らなかった。

だが、もはや岡見を取り上げないわけにはいかないだろう。昨年8月以来、UFCで4連勝。これは日本人ファイターとしての最高記録であり、ミドル級タイトル挑戦も秒読み段階といっていい。日本人がUFCのタイトルを獲得すれば、もちろん初の快挙。しかも巨大化の一途をたどるUFCだけに、その〝ブレイク度合い〟もハンパではないことになるはずだ。もしかすると〝日本人で最も稼ぐ選手は岡見〟なんてことにすらなりかねないのである。

今後、UFCと『PRIDE』の対抗戦が激化すれば、〝UFCファイター岡見〟への注目も増してくるはず。なおかつ、岡見が所属する和術慧舟會は『HERO,S』をはじめ、さまざまな団体と協力関係にあるだけに……。これほど興味深いポジションにいる選手、取材しないわけにはいかないのである。

『kamipro』？ 読んでますよ。おもしろいですよね、独特で

――岡見選手は『kamipro』には初登場ということで。よろしくお願いします！

岡見　よろしくお願いします、はい。

――岡見選手って、なんとなくイメージ的に〝通好み〟というか『ゴン格』っぽい感じですけど（笑）、『kamipro』って読んだことあります？

岡見　ありますよ。もともとプロレス好きだし、イトコが『kamipro』の愛読者なんですよ。「メチャクチャおもしろいから」って言われて、それで僕も読むようになったんですよ。おもしろいですよね、独特で。

――そんな独特な『kamipro』も、遅ればせながら岡見選手に注目するようになりまして（笑）。なにしろUFC4連勝ですからね。

岡見　ありがとうございます。

――今回の試合（『UFC69』のマイク・スウィック戦）は会場がテキサスだったんですが、相手の地元なんですよね。

岡見　そうなんですよ。やっぱり相手への声援とか、凄かったですね。

――そういうのって、やっぱり試合に影響しますよね。

岡見　う～ん、それは事前にわかってたことなので、無視するしかないですね（笑）。あとはレフェリーですよね。僕が上になったときのブレイクが早くなるだろうな、とか。……あっ、冗談ですよ（笑）。

――レフェリーも観客が「ブレイクしろよ！」って声に押されちゃうかもしれないですもんね。

岡見　いろいろなことを想定した上で、試合に臨むようにはしました。もちろんUFCのレフェリー、ジャッジは信頼してるんですけど、地元の選手ってなると声援もいつも以上に凄いんで。あとはやっぱり、相手の気合いが凄いんですよ。向こうのインタビューでも言われたんですけど、「相手は友だちや家族が応援に来てて、絶対に負けられない立場だから、今回はもの凄く練習してる」って。そういうのも全部含めて、今回の試合は正念場だなって思ってました。

――そういう、アメリカで闘う、敵地

空港の税関でも「UFCファイター」だって言うと、すんなり通してくれたりするんです（笑）

YUSHIN OKAMI

で試合をする心構えみたいなものって、先輩の宇野（薫）さんからもアドバイスはもらったりしたんですか？

岡見 UFCに初めて出るときに、宇野さんがいろいろアドバイスしてくれましたね。試合のこともそうなんですけど、環境面とか。

――具体的にいうと、どんなことなんですか？

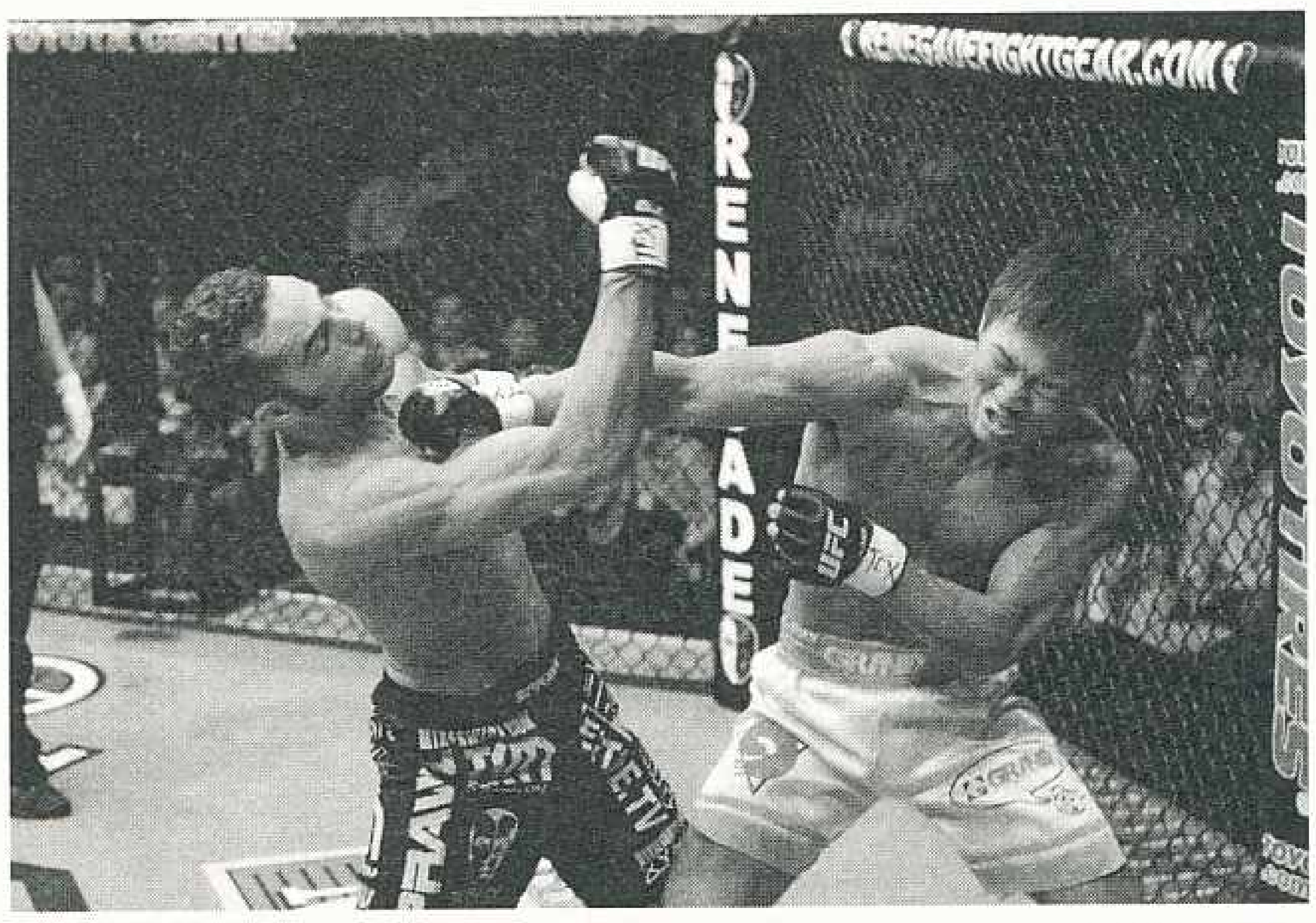
岡見 たとえば、ラスベガスは空気が乾いてるので乾燥対策とか。あと、ラスベガスって外は暑くてもホテルの中がメチャクチャ寒いんですよ。

――ああ、エアコンが効きすぎてますよね。

岡見 だから「上着は持ってったほうがいいよ」とか。そういうことですよね。普通に旅行に行く場合は、どうでもいいように聞こえるかもしれませんが、試合に行く自分にとってはとても重要で役立ちました。

――UFCって、日本ではWOWOWでしか見られないじゃないですか。だからどうしてもファンにはなじみが薄いと思うんですよ。どうしても〝『PRIDE』や『HERO'S』に出ている選手のほうが凄い〟って思いがちというか。実際に闘ってる岡見選手から見て、UFCの選手のレベルってどう感じてますか？

岡見 僕が闘ってるミドル級で言えば、まずフィジカル面ですね。選手がみんなデカいんですよ。僕がいままで闘ってきた外国人と比べてもデカいですね。とくに身長は凄いですね。自分もけっこう高いほうだと思ってたんですけど、アメリカでは普通っていうか。僕よりでデカいのがあたりまえにいるんですよ。今回の相手は自分より背が低かったんですけど、それまでの3戦は全部、自分と同じくらいかデカいかって状況でしたから。



現地時間4月7日、テキサスにて開催された『UFC69』でマイク・スウィックと対戦した岡見。途中、パンチでフラつくシーンもあったが、終始優勢のまま判定勝利。見事UFC4連勝！

――前日計量だから、試合当日にはリミットより大幅に体重が増えてるでしょうしね。

岡見 減量の仕方がハンパじゃないんですよ。向こうの選手は1日で5、6キロ落としてきますから。計量の4日くらい前に会うと身体が全然違うんですよ。「デカすぎるだろ。体重落ちんの？」って思っていたら、きっちり落としてくるんですよね。

――同階級とはいえ、もともとのサイズが違うという。

岡見 そういう選手が多いですね。だからそのへんのことはもう、考えないようにして（笑）。

――あと、アメリカの選手ってものの凄く大雑把なイメージですけど、パウンド主体の選手ばっかりという感じを持たれてると思うんですよ。

岡見 ああ、それってたぶん、金網だとパウンドが打ちやすいからじゃないですかね。UFCはヒジもあるし。あとは寝技だけだと勝てないですからね。みんな技術があるので、そう簡単には極めさせてくれないんですよ。だから打撃でちょっとでも相手を削っとかなきゃいけないんですよね。いまは柔術家でも鋭いパウンド打ちますからね。

――みんな、なんでもできる技術があった上で、パウンドで勝負せざるを得ないというか。

岡見 そうだと思いますね。あとは単純にお客さんが沸くからっていう（笑）。

――先日の『PRIDE・34』で藤田（和之）選手がジェフ・モンソンに負けた試合もそうですけど、日本人が闘ってみて、初めてアメリカの選手の強さに気づくってことがありますよね。

岡見 アメリカの選手はみんなUFCを目指してますから。夢の舞台なんですね、UFCが。だからUFCに出るまでの段階で結果を残さなくちゃいけないし、そのためには相当、練習も技術も必要なんですよね。だから向こうの選手って、かなり技術はあると思いますよ。

――小さい大会で結果を残してきた叩き上げしかUFCには出られないというか。

岡見 UFCもいろいろな大会をチェックして、そこで輝いている選手だけを出場させていると思うので。

――まして、いまアメリカではMMAが大ブームだから、競争率も凄いでしょうしね。岡見選手は去年の夏にUFCデビューされたわけですけど、アメリカでのMMA人気というか、ブームだなってことを実感することも多いんじゃないですか。

岡見 それは凄く感じますね。お客さんも入ってるし、今回もホテルにファンがわんさかいるんですよ。みんなパンフ持ってて、サインもらったり写真撮ってもらったり。レストランで食事してても、外で待ってるんですよね。今回はとくに、テキサスで大会をやるのが初めてっていうのもあったと思うんですけど、ファンの熱狂度が凄かったですね。

――日本で考えてる以上に、UFCファイターはスターなんでしょうね。

岡見 そうみたいですね。嬉しいですよ。どこに行っても「UFCファイターだ！」って言われて。空港の税関でも「UFCファイターだ」って言うと、「おまえ、UFC出るのか!?」ってすんなり通してくれたりとか（笑）。

――UFCファイターは税関もフリーパス（笑）。

岡見 それくらい浸透してるんですよね、UFCが。だから困ったときは「UFCファイターだから」って言

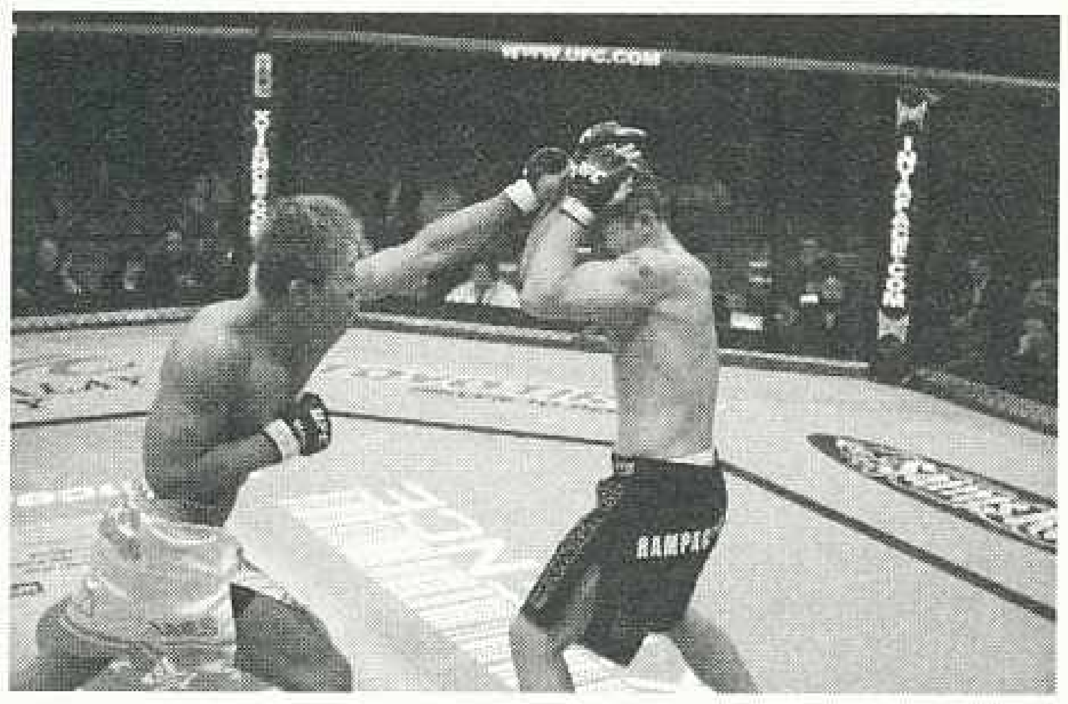
『PRIDE』、『HERO'S』からM-1、MARSまで！ 岡見勇信全戦績

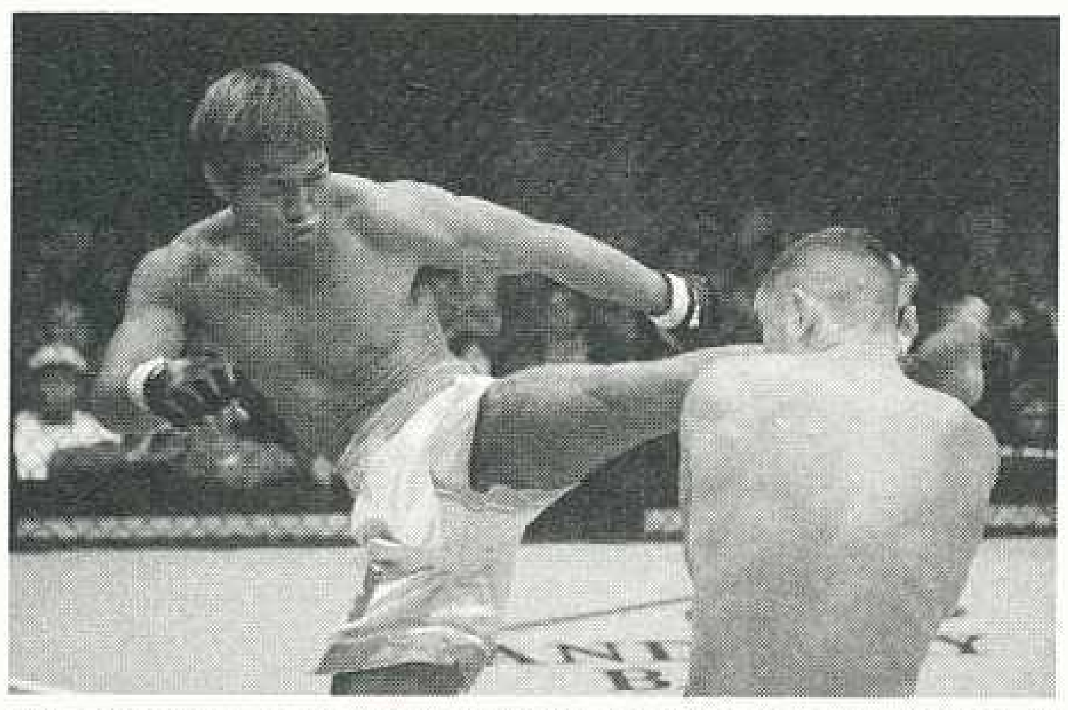
○ vs 松田英久 1R 3分29秒 TKO（02.07.20 THE BEST ディファ有明）
○ vs 佐々木恭介 判定3-0（02.09.08 DEMOLITION 横浜赤レンガ倉庫）
○ vs スティーブ・ホワイト 2R 3分25秒 KO（02.10.20 THE BEST ディファ有明）
○ vs 中台宣 判定3-0（02.11.30 パンクラス 横浜文化体育館）
○ vs 佐藤光留 判定3-0（03.01.26 パンクラス 後楽園ホール）
○ vs 長谷川秀彦 判定3-0（03.05.01 DEMOLITION 北沢タウンホール）
○ vs 花田和弘 1R 4分47秒 TKO（03.07.21 DEMOLITION 横浜赤レンガ倉庫）
× vs アマール・スロエフ 1R 4分44秒 TKO（03.10.05 M-1 MFC ロシア）
× vs 朝日昇&加藤鉄史（※ダブルス。パートナーは中原太陽）判定0-3（03.12.25 CONTENDERS 横浜赤レンガ倉庫）
○ vs 窪田幸生 1R 1分47秒 KO（04.01.18 DEMOLITION 横浜赤レンガ倉庫）
○ vs 桜井隆多 判定3-0（04.02.15 PRIDE武士道 横浜アリーナ）
× vs ファラニコ・ヴィターレ 判定2-1（04.06.18 Super Browl ハワイ）
○ vs 石川英司 判定3-0（04.10.21 パンクラス 後楽園ホール）
○ vs ブライアン・フォスター 3R 2分53秒 肩固め（05.03.12 DOG ディファ有明）
○ vs ニック・トンプソン 1R 0分29秒 TKO（05.06.11 DOG ディファ有明）
○ vs ダミアン・リチオ 2R 2分44秒 TKO（05.09.17 DOG ディファ有明）
○ vs イ・ミョンジュ 1R 2分44秒 TKO（05.11.05 HERO'S ソウル）
○ vs アンデウソン・シウバ 1R 2分33秒 反則（06.01.20 Rumble on the Rock ハワイ）
× vs ジェイク・シールズ 判定0-2（06.04.21 Rumble on the Rock ハワイ）
○ vs パン・ジウォン 1R 4分38秒 TKO（06.05.13 MARS 幕張メッセ）
○ vs 竹内出 1R 3分39秒 TKO（06.06.11 DOG ディファ有明）
○ vs アラン・ベルチャー 判定3-0（06.08.26 UFC ラスベガス）
○ vs カリブ・スターネス 3R 1分40秒 TKO（06.10.14 UFC ラスベガス）
○ vs ローリー・シンガー 3R 4分03秒 TKO（06.12.30 UFC ラスベガス）
○ vs マイク・スウィック 判定3-0（07.04.07 UFC テキサス）

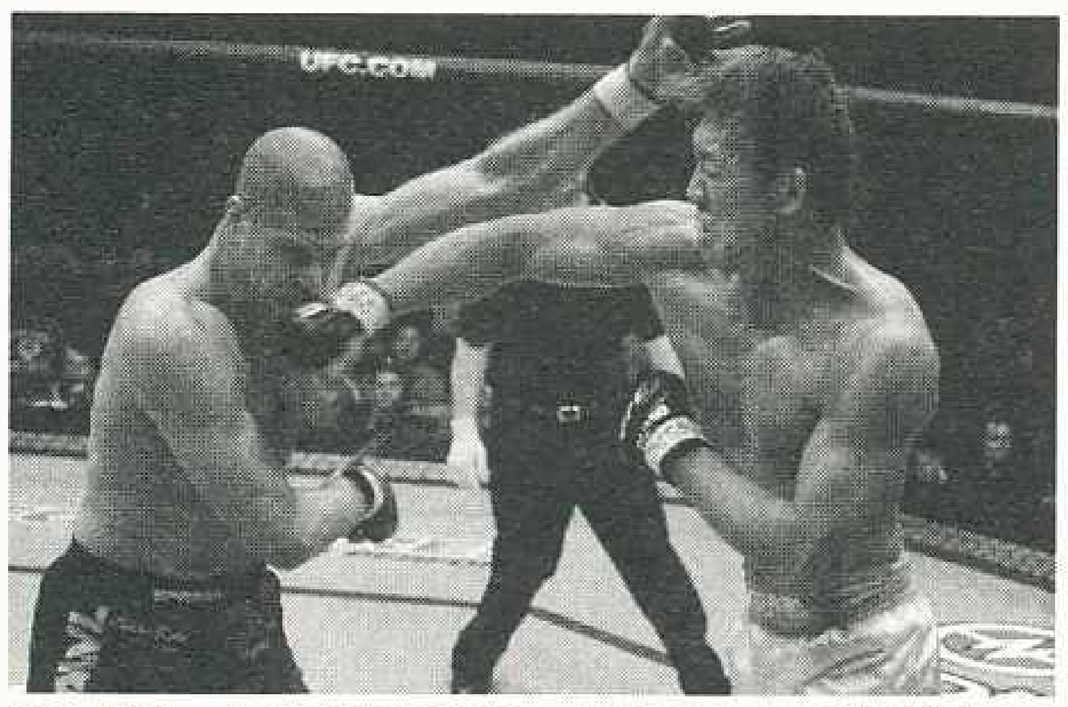
07年4月23日現在

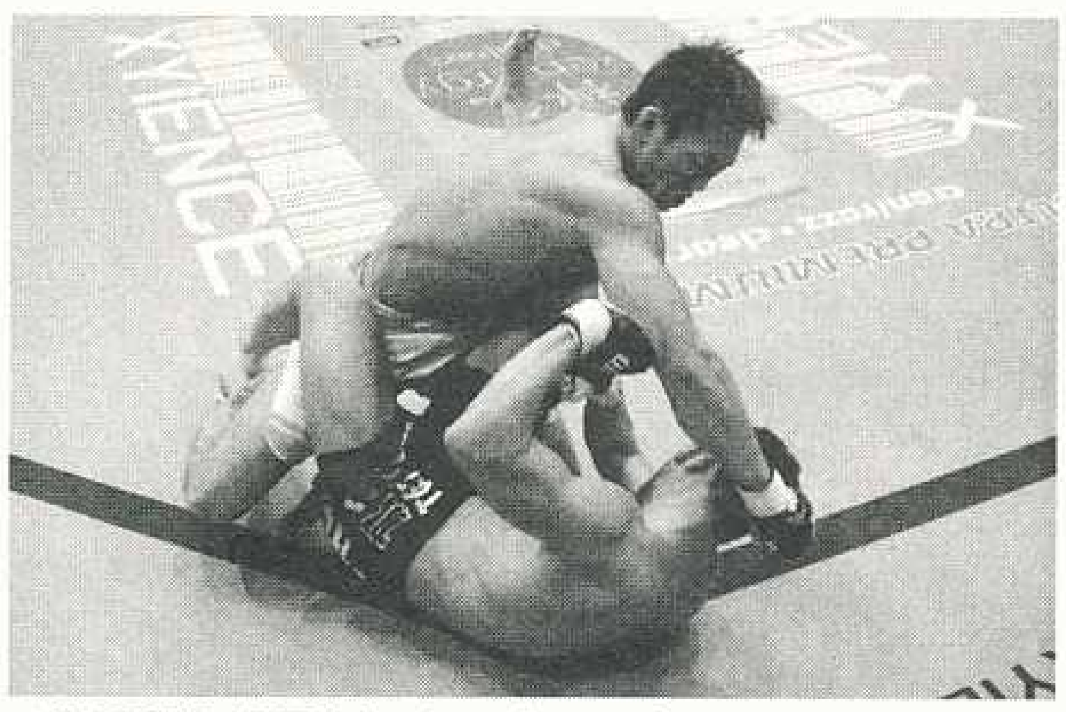
ブーイングも吹っ飛ばせ！ 岡見勇信UFCレビュー

UFCミドル級王者アンデウソン・シウバまで、あと一歩！


岡見のUFCデビュー戦は06年８月26日に開催された『UFC62』でのアラン・ベルチャー戦。第１試合に登場した岡見はフルマークで文句なしの判定勝利を収めたものの客席からはブーイングも飛び交った。


06年10月14日、ラスベガスで開催された『UFC64』でカナダのカリブ・スターネス相手に3ラウンド、パウンドでのTKO勝利でUFC2連勝となった岡見。試合後、岡見は金網をよじ登り勝利をアピール！


ミルコ登場、メインではリデルがティト相手にタイトルを防衛するなど大盛り上がりとなった06年12月30日、『UFC66』。岡見はローリー・シンガーをマウントパンチで下し、日本人初のUFC3連勝！


ノゲイラ登場で話題となった4.7『UFC69』テキサス大会。地元出身のスウィック相手にフルマークの判定勝利を収めた岡見。この勝利でUFCミドル級王者、アンデウソン・シウバとの対戦まで、あと一歩！

うようにして（笑）。たまに、逃げなきゃいけないときもありますけど……まあ嬉しいですよね。

―アイドルばりですね（笑）。

岡見　会場の盛り上がりも凄いんですよね。チャック（・リデル）とティト（・オーティス）がやったときなんて、試合前からお客さんが立ち上がって、試合中もずっとそのままなんですよ。あれは日本じゃ考えられないですね。

―下世話な話ですけど、MMAの市場規模が大きくなっているだけに選手の稼ぎ方も凄いみたいですね。『kamipro』も前の号で取材してるんですけど、日本では知られてない選手でも高級外車買ったり、マンション買ったりしていて。今回、岡見選手と闘ったスウィック選手も出てるんですけど。

岡見　あっ、出てますね。すげえなぁ！　リッチですよね、向こうの選手は。前、向こうでテレビ観ていたらチャックの家を取材してたんですよ。

―チャック・リデルのお宅訪問ですか（笑）。

岡見　凄い家に住んでいましたからね、ホントに。やっぱりリッチなんでしょうねぇ。僕もそろそろスポンサーとかついてほしいんですけどね（笑）。

―実際、UFCで試合してると「これ、ブレイクしたときの儲かり方がハンパじゃないな」っていう感じがするんじゃないですか？

岡見　夢はありますね。ハングリー精神の鍛錬になります（笑）。

―選手を見てても、それは感じます？

岡見　いや、それはあまりないですね。向こうの選手って、みんな謙虚っていうかフレンドリーなんです。チャックなんかも向こうから声をかけてくれたりして。凄く恐縮なんですけど、僕が英語できないのでこっちからはなかなかいけなくて。申し訳ないっすね、それは。

―岡見選手も、徐々にそういうトップファイターの仲間入りをしつつあるんじゃないですか。今回の相手、スウィックも連勝中だったから"トップコンテンダー決定戦"みたいな試合だったわけですよね。それに勝って。

岡見　ああ、そう言ってもらえると嬉しいですね。今回、ダナ（・ホワイト）に初めて声をかけられたんですよ。「スウィックは凄く強い選手で、それに勝ったんだから本当に素晴らしい」ってほめてくれて。嬉しかったですね。今回、初めて大会後の記者会見にも出させてもらって、「やっとここまで来れた」っていう感じはありますね。

―ダナって、どんな感じの人でした？　会見とかでは、凄くよくしゃべる感じですけど。

岡見　気さくなお兄ちゃんみたいな感じですね。カッコいいんですよ。あと選手の気持ちを上げるのがうまい。いつも、計量が終わったあとに選手だけ集めてダナが一言しゃべるんですけど、それでみんな「よっしゃ、いくぜ！」みたいになるんですよ。

―どんなことをしゃべるんですか、それ？

岡見　「いい試合したヤツにはどんどん（金を）出すぞ！」みたいな感じですね（笑）。

―いいですねぇ（笑）。イメージを裏切らない。でも、それを言われたら選手も燃えますね。UFCはウィン・ボーナス制なんですよね。勝ったらファイトマネーが上がるっていう。

岡見　勝ったら上がるし、その大会で一番いい試合をしたら、けっこうな額のボーナスが出るんですよ。あと、一番いいサブミッションでの勝ち、一番いいKO勝ちにも出ますし。

―倍々ゲームの可能性があるという。それは燃えますね。

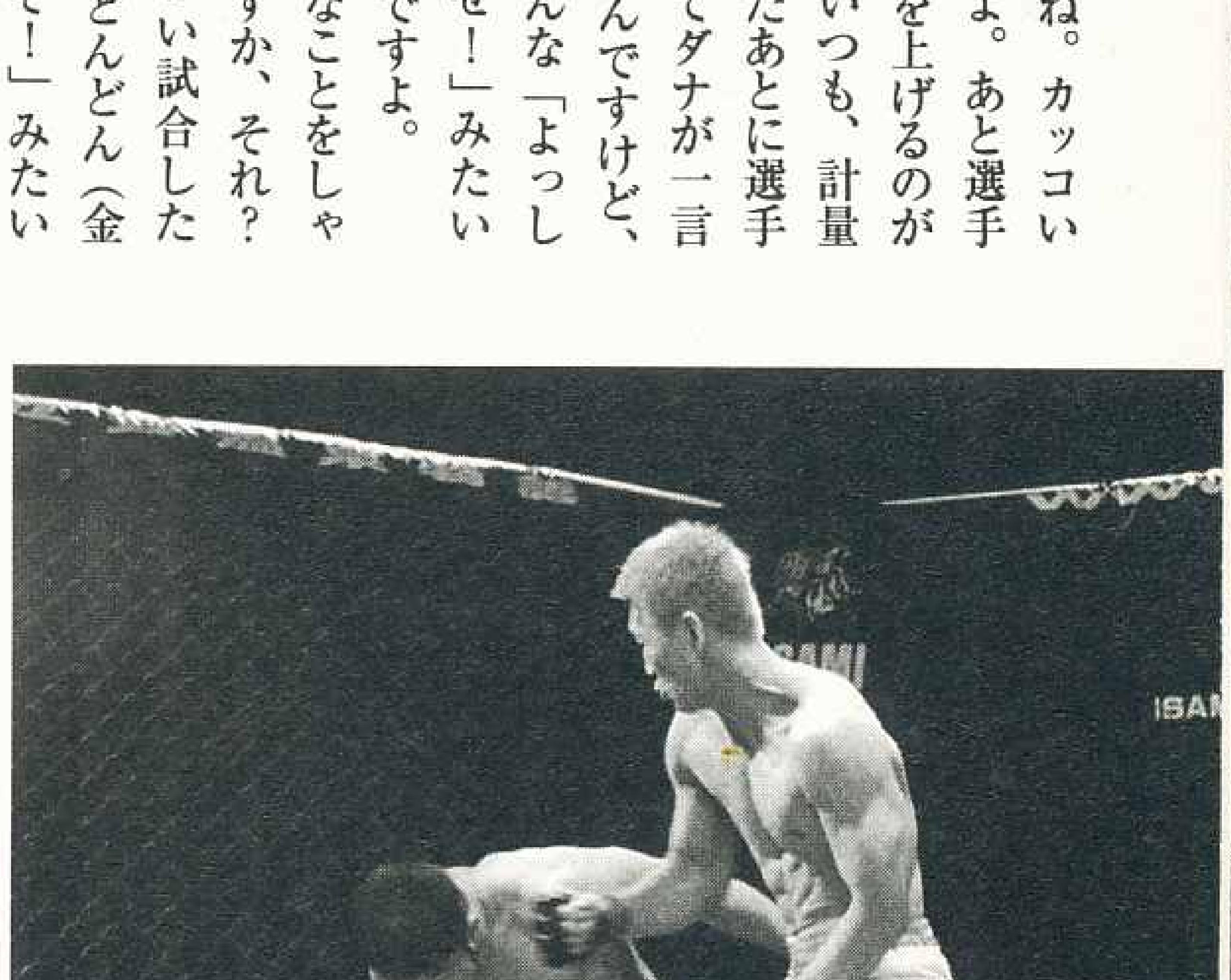
岡見　燃えますね。選手はそういうところでも盛り上がってますね（笑）。

―ダナというか、UFCの首脳陣とタイトル挑戦の話はしてるんですか？　実績としては申し分ないですよね。

岡見　向こうでも、インタビューで「そろそろじゃないか」って言われるんですけど。僕としてはすぐでもいいし、もっと経験を積んでからでもいいかなって思ってますね。リッチ・フランクリンもいるので。

―次にタイトルマッチをやるか、前王者のフランクリンと挑戦者決定戦をやるか。

岡見　僕はどっちでもいいです。どっちにしても気を抜けないですし。い


©GCMコミュニケーション
いまのところ、岡見の国内最後の試合は06年６月11日、『DOG』ディファ有明での竹内出戦。当時、パンクラスミドル級１位の強豪。竹内に対し、ハイキックからのパウンド連打で勝利した岡見は、試合後メジャー進出宣言を行なった。

UFCファイターとして『PRIDE』との対抗戦や『Dynamite!!』に出られたら楽しそうですね

YUSHIN OKAMI

まのUFCは、新しい選手がどんどん出てくるので。

——「UFCのヘビー級とミドル級は層が薄い」なんてよく言われますけど、やってる本人の実感としては……。

岡見 毎回、精一杯ですね、マジで。UFCにも甘い相手はいないんで（笑）。日本の倍の人口がいて、MMAが盛んになってきているので、いつ凄いヤツが出てきてもおかしくないんですよ。しかも、選手はみんなUFCを目指しますからね。向こうの道場に行っても、予備軍みたいなのがいっぱいいるんで、気を抜いていられないです。

——いま、UFCのミドル級チャンピオンはアンデウソン・シウバですよね。岡見選手も一回闘ってるだけに（06年1月、『ランブル・オン・ザ・ロック』で対戦し、反則勝ち）、因縁めいたものを感じるんじゃないですか。

岡見 それは感じますね。だからこそアンデウソンがチャンピオンになってくれたのは嬉しかったですし。

——UFCのチャンピオンになった自分を想像したりもします？

岡見 しますね。まあチャンピオンになったら……テングになりますね、確実に（笑）。

——確実に（笑）。それこそアメリカのテレビがお宅訪問とか。

岡見 ああ、そうですねぇ。でもいまの部屋は見せられないですね、UFCチャンピオンの家としては（笑）。

——でも、チャンピオンになったらファイトマネーも上がるでしょうし。



おかみ・ゆうしん■1981年7月21日、神奈川県出身。高校時代に柔道を始め、その後、知人の紹介で和術慧舟會東京本部に入門。『PRE-PRIDE4』で優勝後、いまはなき『THE BEST』でプロデビューをはたすと、パンクラス、『HERO 'S』、武士道、DOGからMARSや海外大会など、様々な舞台で活躍。ここ最近はUFCを主戦場とし、現在4連勝中！ 187cm、82kg。ブログアドレスは→ http://blog.olga.to/okami/

岡見 そうですね、それは凄いと思います。だから夢がありますね、UFCって。何よりも選手に対するリスペクトを凄く感じますし。

——ベースボールのメジャーリーガーとかNBAの選手とか、それに近い感じになってきてるんですかね、UFCファイターが。

岡見 僕はそう感じますね。

——これから『PRIDE』とUFCの対抗戦も本格化するじゃないですか。そうなると"UFCファイター"としての岡見選手にも注目が集まると思うんですよ。

岡見 ああ、そうですよね。

——UFCファイターとして、PRIDEファイターとの対抗戦に出る機会があるかもしれないですよね。

岡見 なんであろうと、注目される闘いの中に自分が入れるっていうのは選手として嬉しいですね。

——日本では、どうしても『PRIDE』に出ている選手が注目されますけど、そういうことに対してのライバル意識みたいなものもありますか？

岡見 その意味でのライバル意識はないですけど……。やるんだったら勝ちたいですよね。僕もUFCで4試合やってきて、それに誇りを持ってるんで。「自分はUFCファイターなんだ」っていう気持ちで、いまは闘ってますから。「UFCのミドル級は層が薄い」とか、そういう声に対しても「そうじゃない」って言いたい気持ちはありますし。

——岡見選手って、結果を残してるわりには大きなチャンスに恵まれなかったじゃないですか。そういう中で『PRIDE』にウェルター級ができたり、『HERO'S』にライトヘビー級ができたりっていうのをどういう気持ちで見てました。「オレも同じ階級なのに……」じゃないですけど。

岡見 「オレも出たいけど……」っていうのはありましたけどね、やっぱり。選手だったらみんな同じ気持ちだと思いますよ。でも、出るためにはわかりやすい自分をアピールできる何かが必要なのは感じてました。

——友だちから「なんで『PRIDE』出ないの？」、「昨日、テレビで格闘技やってたけど、出られないの？」みたいなことを言われたりしません？

岡見 ああ、それはもうしょっちゅうですね。「●●●と闘わないの？」とか（笑）。

——ククククク！ 階級どころかジャンルまで違うのに（笑）。

岡見 だからもう「出ない！ オレはアメリカ！」って言ってましたけど。

——地上波に映ったと思ったら曙さんのセコンドだったりとか（笑）。

岡見 そうですねぇ。横綱、いい人なんですけどねぇ。

——いい人そうですよね。

岡見 あれだけの地位がある人なのに、凄く謙虚ですしね。しゃべり好きだし。

——横綱はしゃべり好きでしたか。

岡見 優しいんですよね、凄く。優しすぎるんですかねぇ……。まあ、それはいいんですけど（笑）。

——まあ、そういう中でUFCに出て、大会の規模からすると日本の選手をゴボウ抜きする可能性もあるわけですからね。UFCファイターとしてPRIDEファイターと対抗戦をやって、さらにUFCファイターとして大晦日には『Dynamite!!』に出るってことも可能性としてはあるわけですよね。

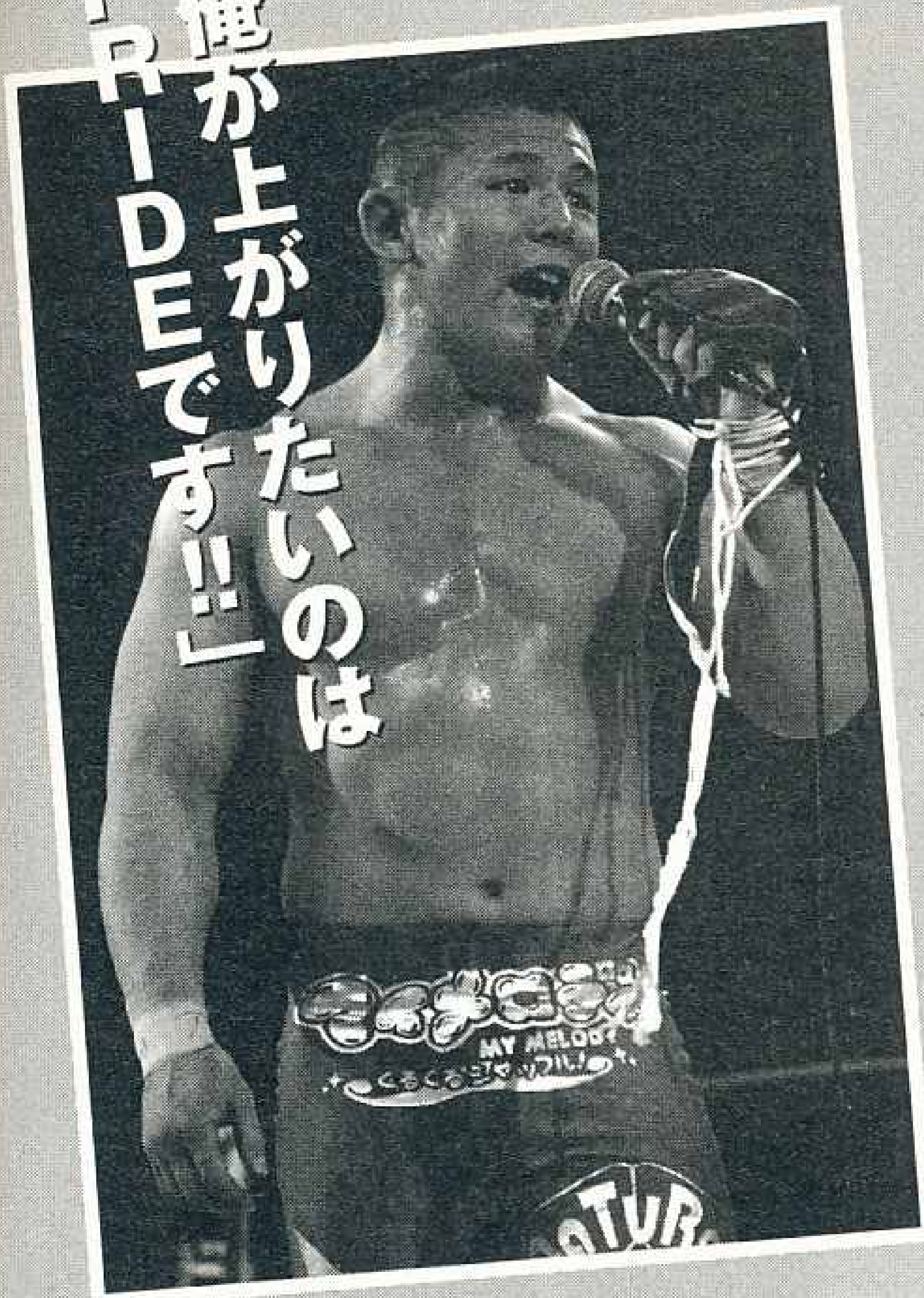
岡見 なるほど……細かいことはわかりませんけど、それができたら楽しそうですね。

——そんなことができるポジションにいるの、日本で岡見選手だけですからね。

岡見 待った甲斐がありました（笑）。

【07年4月10日／都内・和術慧舟會東京本部にて収録】

格闘天変地異勃発で、パンクラスにひずみか――!?



「俺が上がりたいのはPRIDEです!!」

なぜこの男はボードッグに背を向けるのか？

―悩めるパンクラシストが胸中を激白!!―

パンクラスのエース　北岡悟

聞き手／松下ミワ　写真協力／パンクラス

格闘天変地異の衝撃！　パンクラスに〝ひずみ〟!?

　地球的規模のMMAウォーズ勃発により、各プロモーション間での協力関係が明確に浮き上がる昨今だが、所属団体の立ち位置にとらわれず、己の主張をやめないを男がここに！　パンクラスのエース北岡悟である。

　え？　北岡？　そんな選手、知らないよ！……と、ページを飛ばそうとするパンクラス知らずの典型的な本誌読者（および、一部の『kamipro』編集部員）のあなた、ちょっと待ってください。これは、他人の悩みやいざこざ、対岸の火事が大好きな本誌だからこそクローズアップすべき事態なのである。

　そもそもパンクラスといえば、今年1月にあの世界的な大富豪カルビン・エアー率いる〝闇の新興勢力〟ボードッグと提携を発表したばかり。すでに2月中旬からはパンクラス所属選手が数名コスタリカに飛び、ボードッグのテレビシリーズ『ボードッグ・ファイト・シーズン3』『シーズン4』の収録を撮り終えている。また、パンクラスのリングでも、2・28後楽園大会ではボードッグ参戦選手を招いており、両団体の関係は急速に深まっている。

　一方、パンクラスがこれまで選手派遣を行なってきた『PRIDE』からすれば、ボードッグは皇帝ヒョードルの強奪騒動を巡って曰く因縁のある団体。パンクラスとボードッグの提携実現により、『PRIDE』との関係は途絶えるのでは？　という声もささやかれていた。

　しかし、北岡にとって、5月開催予定の『PRIDE』ライト級GP出場が念願の夢だった。本誌108号に収録したパンクラス坂本常務インタビューによれば、北岡は「そんな提携したら、『PRIDE』に上がれなくなる!!」と過敏に反応。そして2・28後楽園大会のリング上では「パンクラスはボードッグと提携しました。でも、僕は『PRIDE』に上がりたいです！」と、シュートなマイクアピールを敢行するほど！　こうして4・13DEEPではライト級GP出場権を懸けた試合にも出場し、圧勝。我が道を突き進んでいる北岡だが、本インタビューは、『PRIDE』への出場権を獲得する前、〝狭間〟に立たされた北岡の熱き叫びを追っている。北岡の発言に見る団体間提携の〝ひずみ〟とは……？

――今日は、『PRIDE』ライト級GP出場を宣言した北岡（悟）さんに、パンクラスから最近のマット界の動きについて、お話をおうかがいします。『kamipro』初登場ということで、どうぞよろしくお願いします！

北岡　7年間のプロのキャリアを経てようやく初登場ですよ（笑）。しかも『kamipro』だけじゃなくて、『格闘技通信』も7年のキャリアを経てこの前やっと取材のオファーが来ましたからね！　4月13日のDEEP出場が決まって。

――どいつもこいつも調子がいいですね（笑）。それで、北岡選手といえば『kamipro』で馴染みのある選手でいうと、青木（真也）さんたちと交友が深いと聞いています。

北岡　深いといえば深いですかね。でも、俺以上に青木は十段（今成正和）と仲がいいんじゃないですか。ただ、練習は俺も十段も青木とはかなりやってますけどね。一緒に練習するようになったのはここ2～3年なのかな。

――意外と最近の話なんですね。

北岡　バンバン極められるんですよ、青木には。ちょっとねぇ、たまんないです（笑）。

――その青木選手の情報によれば、北岡さんは優しい顔立ちとは対照的に、かなり毒舌だというお話みたいですけど。

北岡　そうですか？　んまあ、毒舌っていうよりも本音でなんでも話しちゃうというか……ほら！　〝歯に衣着せぬ〟ってヤツですよ。よく言えば、自分の気持ちに素直!!（笑）。

――そうですか（笑）。じゃあ、その素直さが2・28パンクラス・後楽園ホール大会でリング上での「俺はボードッグじゃなくて、『PRIDE』に出たい！」というマイクに表われたわけですね。

北岡　ああ、そうかもしれませんね。でも、あれは試合前から言おうって決めてたんですけどね。

――今日勝ったらリング上で言ってやろう！　って？

北岡　ただ、本当は試合で（対戦相手の）グスタボ・PC選手から一本取って言うつもりだったんですけどね。判定になってしまったので、「これだと言えねーのかなあ」って少し思ってたんですけど。

――それでも言おうと思ったのはどうしてですか？

北岡　青木が背中を押してくれたんですよ。リング下から「マイク持て！　マイク持て！」って。だから「あ、ちゃんと強い相手に勝ったから言っていいんだな」って思ったんですよね。だって、考えてみたら青木も、あの強い菊地（昭）さんに勝ったとき（2・17修斗・横浜大会）に、判定でしたけどノリノリでマイクしてましたもん（笑）。

——しかし、あの発言を聞く限り、北岡さんの中でかなり鬱憤が溜まっているようにも見受けられたんですけど、そういった『PRIDE』への思いっていうのはいつ頃から芽生えたんでしょうか。

北岡　まあ、徐々にですよね。高橋（義生）さんや近藤（有己）さん、それに（前田）吉朗も『PRIDE』で勝てない状況が続いたじゃないですか。

——パンクラス勢の『PRIDE』での戦績は芳しくないですよね。

北岡　やっぱり近藤さんに勝ってほしかったんですよ。でも、最近になって結局、近藤さんは近藤さんでしかないなっていうのを感じるようになりましたね。だから、人任せにしちゃダメなんですよね。夢や思いというのは（しみじみ）。

——なるほど、なるほど。

北岡　一昨年の『男祭り』で中村（和裕）選手と試合があったでしょ。俺、あの試合はすっごい熱くなったんですよ！

——たしか、あの試合は判定3—0で中村選手が勝った試合でしたよね。

北岡　俺、セコンドについたんですけど、ジャッジに全然納得できなくて、三方向に向かって中指を立ててたんですよね。

——それはマズイことしたんじゃないですか⁉

北岡　それで、近藤さんにイエローカードが出ちゃったんですけど、俺はそのときすっごいエキサイトしてて。でも、実際に試合した近藤さんはなぜだかすっごい清々しい顔してたんですよね。「やることはやった」的な表情で。それに俺は凄く温度差を感じてしまったんです。もちろん、近藤さんは素晴らしいファイターだと思ってますけど、その温度差に俺はかなり引いてしまったというか……。

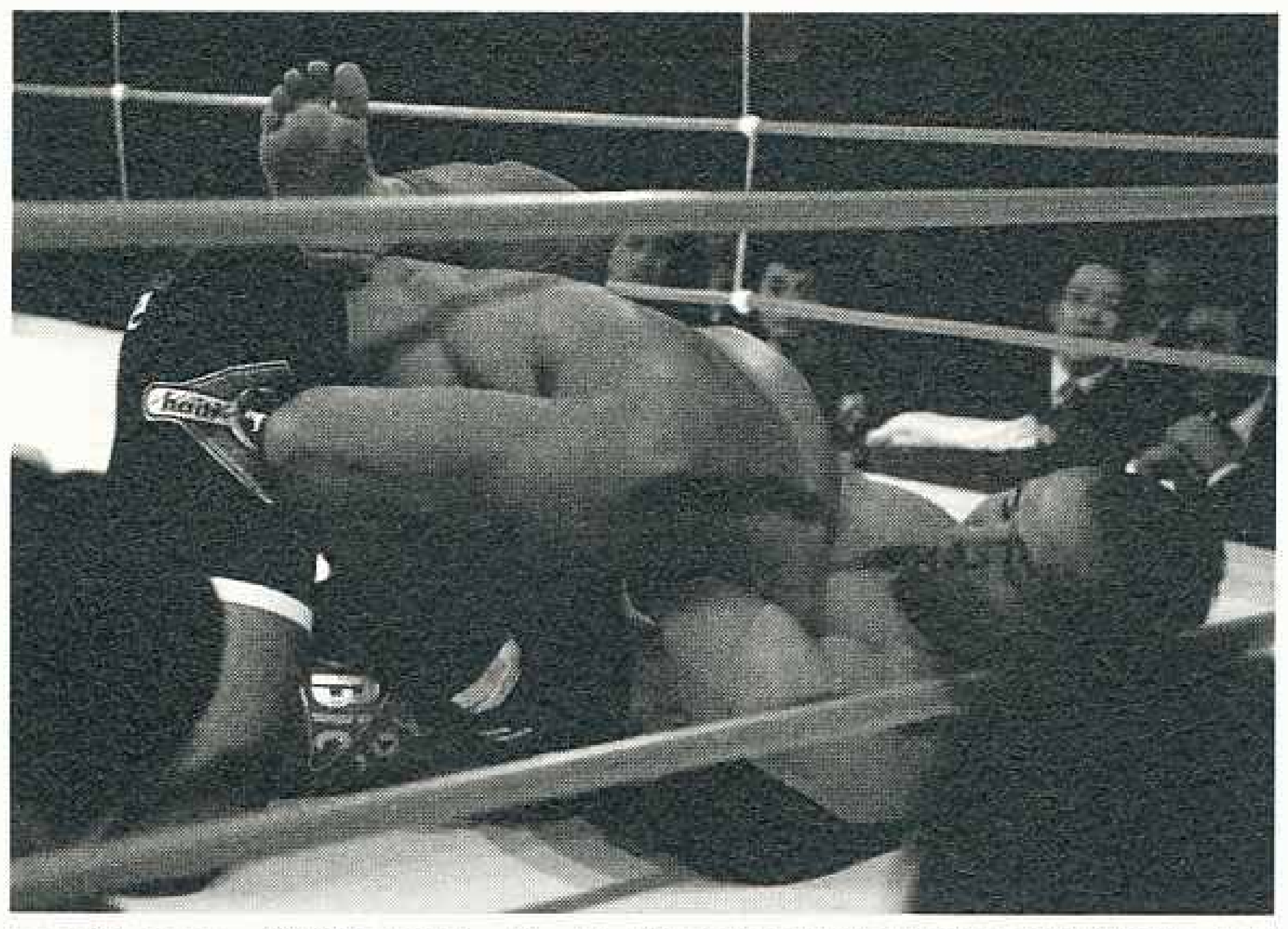
——北岡さんとしては「満足してる場合じゃないですよ！」という気持ちだったってことですか？

北岡　いや、違いますね。近藤さんは近藤さんの考えを持って取り組んでて、俺とは違うなって。結局、これは近藤さんの世界だから俺が熱くなっても仕方がないなって。だから、近藤さんに託していた自分のダメさに気づかされたって感じです。

——逆に自己嫌悪に陥ってしまったんですね。

北岡　近藤さんは、ここまでいろんなものを消費してきたからしょうがないなとも思うんですけどね。で、ちょうどその頃、近藤さん、『PRIDE』外のリングでもジョン・フランソワ・レノグと引き分けたりしてるんですよ（06・10・1パンクラス・大阪大会）。でも、そのレノグと引き分けてるホン・ジュピョを俺は秒殺したんですよね。だから「俺、強いんじゃないか？」とも思いましたし。

——でも、北岡さんの場合、これまでのパンクラスとは違って『PRIDE』に出場するにあたって少なからず〝しがらみ〟があるわけじゃないですか。



2.28パンクラス・後楽園大会で、ボードッグからの刺客グスタボ.PCを判定で破った北岡。このフロントチョークが『PRIDE』のリングで見られるのはいつの日か？

北岡　ボードッグと提携してるパンクラスの人間が『PRIDE』に上がっていいのかってことでしょ？　まあ、それはパンクラスの中でも俺が一番感じている部分じゃないですか（苦笑）。

——そういう中で、尾崎社長や坂本常務というのは、北岡さんの『PRIDE』への思いというのはどう受け止めていらっしゃるんですか？

北岡　う〜ん……。まあ、俺が言えるのは、この前のリング上でのマイクにしても、もう「言いますから！」って言ってたし、去年の大晦日の時点で社長には思いを伝えてるんですよね。

PRIDEでは、やっぱり近藤さんに勝ってほしかったんですよね

——それはボードッグとの提携より先に『PRIDE』に上がることを断言してたってことですか。

北岡　いや、その時点でボードッグとの話はチラッとは聞いてたんですよ。まあ、でも俺は『PRIDE』に出たい！　と。

——実際、ボードッグとの提携に、一番過敏に反応したのも北岡さんだそうですね。

北岡　ま、そうじゃなくても、いろんなことに過敏なのが俺なんですよね（笑）。アンテナをいろんなことにビンビンに張ってるんですよ。でもボードッグとの提携は、それによってパンクラスに強い選手が来るのであれば凄くいいことだとは思いましたよ。けどなあ……、って思いももちろんありますけど（笑）。

——そもそもボードッグってどんなイメージがありますか？

北岡　ボードッグ……ですか？　正直、ちょっとまだ謎が多いからなあ。実際、俺、ボードッグの試合って観たことないんですよ。だから、伝え聞く話だけでしか想像できないですよねえ。もともとはMFCなんですよね？

——MFCのスポンサーだったボードッグが、MFCをベースにして『ボードッグ・ファイト』を立ち上げたという感じですよね。

北岡　で、話を聞くとノーピープルマッチとか……、あんまり気持ち盛り上がらないなあってのが正直なところですよねえ。近藤さんは「一回やってみたいよ、そういうの」って言ってましたけど（苦笑）。でも、俺は日本人の客がいて、そこで試合するのがいいなって思うんで。去年、『P

知らないあいだに32試合も闘っていた北岡の戦績

× vs河崎義範 判定2-0 (00.10.31 後楽園ホール)
○ vs菊地一仁 判定3-0 (00.12.09 青森県武道館)
△ vs窪田幸生 判定0-1 (01.03.31 なみはやドーム)
× vs星野勇二 判定3-0 (01.06.26 後楽園ホール)
△ vs宮川順也 判定0-0 (01.08.25 梅田ステラホール)
△ vs長岡弘樹 判定1-0 (01.12.01 横浜文化体育館)
× vs大石幸史 判定2-0 (02.03.25 後楽園ホール)
○ vsアライケンジ 判定2-0 (02.05.11 梅田ステラホール)
○ vs野沢洋之 判定3-0 (02.07.28 後楽園ホール)
○ vsアライケンジ 延長R2分08秒 アンクルホールド (02.07.28 後楽園ホール)
× vs門馬秀貴 1R 05秒 KO (02.07.28 後楽園ホール)
○ vs港太郎 判定2-0-1 (02..10.29 後楽園ホール)
○ vs長岡弘樹 判定3-0 (03.01.26 後楽園ホール)
△ vs和田拓也 判定0-0 (03.04.12 後楽園ホール)
△ vs星野勇二 判定0-1 (03.06.22 梅田ステラホール)
○ vs関直喜 判定3-0 (03.10.31 後楽園ホール)
△ vs保坂忠広 判定0-0 (04.02.15 梅田ステラホール)
× vs石川英司 判定3-0 (04.03.29 後楽園ホール)
○ vs平山貴一 2R 4分05秒 フロントチョーク (04.05.28 後楽園ホール)
○ vsカート・ペリグリーノ 2R 34秒 フロントチョーク (04.07.25 後楽園ホール)
△ vsヒース・シムズ 判定0-1 (04.09.24 後楽園ホール)
× vs井上克也 判定3-0 (04.11.07 東京ベイNKホール)
○ vs長谷川秀彦 判定2-1 (05.03.06 横浜文化体育館)
○ vsトーマス・シュルツ 1R 1分11秒 ヒールホールド (05.07.10 横浜文化体育館)
○ vsカーロス・コンディット 1R 3分57秒 ヒールホールド (05.10.02 横浜文化体育館)
△ vs井上克也 判定1-0 (06.01.26 後楽園ホール)
○ vs田中達憲 2R 53秒 フロントチョーク (06.03.19 梅田ステラホール)
× vs石毛大蔵 判定3-0 (06.05.02 後楽園ホール)
○ vsポール・デイリー 1R 2分57秒 フロントチョーク (06.08.27 横浜文化体育館)
○ vsホン・ジュピョ 1R 24秒 アキレス腱固め (06.10.25 後楽園ホール)
○ vsグスタボ・PC 判定3-0 (07.02.28 後楽園ホール)
○ vsファブリシオ・"ピットブル"・モンテイロ 2R 2分37秒 肩固め (07.4.13 後楽園ホール)



3月27日、六本木ヒルズでの『PRIDE』会見に出席していた北岡。インタビュー中の雑談で「ちゃんと呼ばれ来たんですよ！」と一言。神出鬼没のイズマイウとは違うのだ。

RIDE無差別級GP』の決勝大会を客席から観てたんですけど、シウバvsミルコとか観ると、やっぱシビレますもん！　まったく途絶えない闘志みたいのがカッコよかったですよね。

——すると、ボードッグにはあまりピンときてないということですね。

北岡　単純に知らないですね。ウチからもコスタリカに何人か選手が行ったみたいですけど、そこで試合をやっても日本の女の子に俺の勝つ姿を観てもらえないわけですよ（笑）。

——でも、ボードッグにはリアリティショー的なテレビシリーズがありますから。

北岡　ドラマふうにするんでしょ？　ま、いいんじゃないですか。それでいいと思ってる人は。

——ずいぶん冷たいですね。提携団体なのに（笑）。

北岡　興味がないんです（キッパリ）。『ＴＵＦ』とかもちゃんと観たことないですけど、もう面倒くさいですよねえ。役者志望の人はいい練習になるんじゃないですか。

——そういう演出はまったく必要ない、と。

北岡　自分自身のドラマは自分自身の中にあるから、いざとなったらこうやってインタビューで話をすることもできるし。それに、佐藤大輔ディレクターの煽りVが流れて、花道歩いてリングでガツンと試合したらそれだけでドラマになりますから。それで充分だろ！　って。

——同じ映像でも、そっちのほうで撮ってほしい。

北岡　サイコーじゃないですか！（満面の笑みで）。

——サイコーですか！　でも、格闘技界って『PRIDE』とUFC、あるいはFEGとエリートXCっていうように、協力団体がパックリ線引きされた感じがありますよね。その中で、パンクラスはボードッグと協力関係にある。でも、一方では北岡さんはDEEPなり、『PRIDE』に上がる。言ってしまえばそういう〝矛盾〟に対してはパンクラスからはどういうお話を聞いてるんですか？

北岡　いやいや、〝全方位外交〟ですから、パンクラスは！「選手が望むのであれば、それに応えますよ」と、尾崎允実は申しております（笑）。

——これからも、文字どおりの〝全方位外交〟ですよ、と。

北岡　まあ、社長がそう言うのは、パンクラスが過去にそういう思いに応えられなかったりして先輩方が辞めていったりした経緯があるんで、せっかくパンクラスで育ってパンクラスのことを思ってくれてるヤツらだから、そういう思いを踏みにじらないようにしたいって気持ちはあると思うんですよ。

——そういう過去の二の舞を演じたくはないという思いがあるはずだってことですか。

北岡　それに、ボードッグと提携したのはパンクラスの業界内の立場を大きくしようと思ってやったことだと受け止めてますからね、俺は。

——究極の選択みたいな話になりますけど、今後、もしパンクラスにいることで北岡さん自身が『PRIDE』に上がれなくなるようなことが起こったらどうでしょうか。

北岡　辞めちゃうの？　って話ですか？（苦笑）。

——どうしますか？

北岡　う～ん……。話し合ってなんとかうまくまとめます。

——話し合って解決できますか？

北岡　じゃないですか？（笑）。自分のやりたいことを世の中が許してくれないなら、それは世の中を変えるしかないですよね。それに、現時点で冷静に考えたら俺は〝パンクラスの北岡〟だからこそ価値があるし『PRIDE』にも声をかけていただけるわけで、それがなくなったら自分に価値があるとは思えないじゃないですか。たとえば、青木はもう修斗ミドル級チャンピオンじゃなくても大丈夫ですよね。

——ですね。

PRIDEに上がれなかったら？……話し合ってなんとかします

北岡　あっ！　ただ、俺は決して大丈夫になるまで〝パンクラスの北岡〟でいるって言ってるわけじゃないですよ！　現時点では、〝パンクラスの北岡〟でいることには価値があると思ってます。

——じゃあ、北岡さんにとってパンクラスはいったいどんな舞台なんでしょうか？

北岡　パ、パンクラス………ですか？

——はい。

北岡　えー……………………………………（急に一点を見つめて黙り込む）。

——…………むむっ（困惑）。

北岡　………………………………………………と、まあ、特別……ではありますよねえ…………はい（小声で）。

——そ、そうですか。

北岡　……（自分自身に問いただすように）だから、高校のときにパンクラスに入りたいと思って、入門できて、練習して、仲間がいて、……だから、つまり一つの家ではありますよね。

——え～っと、要はパンクラスは自分の居場所ということでいいんでしょうか？

北岡　俺はもともとパレストラ（現・パラエストラ）にいたんですけど、パレストラにもそれは感じるところはありますし、いろんな場所に同じような感覚はあるんですけど、そのおかげで助けられてる部分があるなっていうのは思います。

——でも、同じ〝家〟でもパレストラとは違う〝特別〟なものを感じているわけですよね。もっと具体的にいうと？

北岡　だから、家…………みたいな？（苦笑）。

——みたいな？（笑）。では質問を変えましょう!!　始めにパンクラスに入ったときの気持ちといまの気持ちではだいぶ違いますよね。

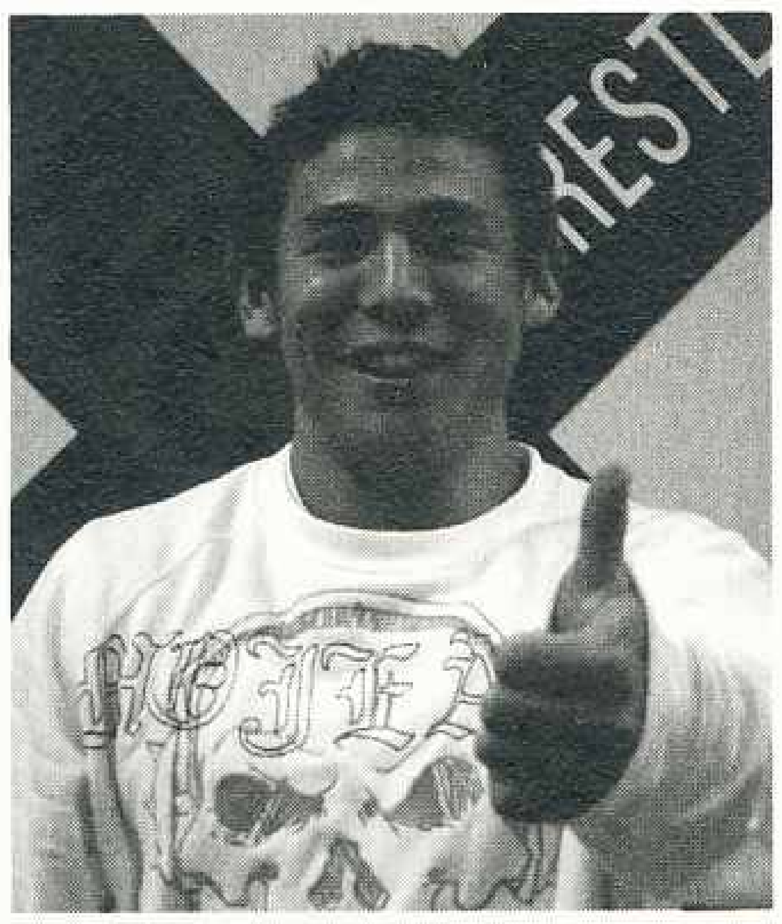
北岡　そりゃ違いますよ。状況も違いますからね。

——その変わった部分というのはな



PRIDEライト級GPへの出場権を懸けた4.13DEEP後楽園大会、ファブリシオ・〝ピットブル〟・モンテイロ戦で、北岡は劇的な肩固めで一本！　念願の『PRIDE』出場を決めた！

んでしょうか。
北岡　やっぱり、パンクラスの中における自分の存在がデカくなったことですよね。1パーセントにも満たなかったものが、いまは数十パーセントはあると思うんで。だから、責任を感じるのはありますよね、パンクラスに対して。それに、俺の試合なり、試合の結果を期待して支えにしてくれてる人たちがいますし。それを裏切れないという思いがあります。
――背負ってるものの大きさがどんどん変わっていった、と。
北岡　自分で好きで選んで背負ったものなので、まあしょうがないですけどね。それに、『PRIDE』に出ることになれば自ずともっと背負うことになるでしょうし。でも……考えたら、青木はぜんぜん背負ってないですね（笑）。
――周囲の期待感とは裏腹に（笑）。でも、じつは背負ってるんじゃないですか、表に見せないだけで。
北岡　背負ってないと思うけどなあ。
――ハハハハ！　で、北岡さんはパンクラスのエースとして今後は『PRIDE』にも上がっていくし、一方ではボードッグでも闘うという位置づけになるんですか？
北岡　いや、ボードッグに出たら『PRIDE』に出られないでしょう！
――まあ、政治的にはそうかもしれませんね。
北岡　まあ、俺がボードッグに出ることはないので、べつになんとも思いませんけどね（笑）。
――では、4月13日DEEPの結果次第ということにはなりますが、そこで闘うファブリシオ・〝ピットブル〟・モンテイロに勝てば『PRIDE』出場の夢がかなうわけですけど、前倒しでおうかがいすると、ライト級GPで一番のライバルになりそうな選手というのは誰でしょう？
北岡　もうわかってるでしょ？（うずうずしながら）。フフフ、青木しかいないじゃないですか！　決勝戦で青木と闘います！（キッパリ）。
――それはいまのライト級で誰よりも倒す価値があるのが青木選手だってことですか？
北岡　まあ、そうなりますね。
――チャンピオンの五味（隆典）さんはどうでしょう？
北岡　強いですよね。
――でも、闘いたい気持ちはないと？
北岡　特別はないです。でも、これってへんな話、五味選手には興味がないって言ってるのと同じで失礼ですよね？
――まあ、そうなりますよね。
北岡　じゃあ、興味あります！
――非常に後づけ感ありありじゃないですか（笑）。
北岡　ハハハハ！　あともう一人挙げるんだったらギルバート・メレンデス選手かな。俺、夢で見たんですよ。DEEPで〝ピットブル〟に勝って喜んで後楽園ホールの階段を降りていったら、『PRIDE』の関係者の方に「じゃあ、1回戦はメレンデスだから」って言われる夢（笑）。
――ワハハハハ！　それは充分にありえますね。
北岡　「うわ〜、きっつー！」って思いましたけど、翌日に今度はモンテイロに負ける夢を見たんですよ。
――それは、どっちもイヤじゃないですか。でも、ライト級GPに挑戦状を叩きつけてるということは、当然メレンデスと1回戦で闘う可能性もありますし、それに対する自信もあるわけですよね。
北岡　自信はありますよ。でもまあ、自分が一番だとは思ってないですね。力とか、勝てる武器があるという点では自信はあります。
――つまり、ライト級GPではその〝武器〟が通用するかを試したいという思いも大きい、と。
北岡　それを試して勝負していく中でより強くなれると思うんですよ。いままでも背伸びして、格闘技始めたし、背伸びしてプロになったし、背伸びした結果が伸びていくっていうことを体験してますから。
――じゃあ、自分と同格、もしくはそれ以上の人間がゴロゴロいるリングで成長していきたいということになるわけですね。
北岡　そこに俺が成長できる何かが必ずあると思うんで、それを逃したくはないですね。
――わかりました。では、今後の活躍を期待してます！
【07年3月31日／都内・パンクラス道場にて収録】


きたおか・さとる■1980年2月4日、奈良県出身。00年4月にパンクラスに入門し、10月にプロデビュー。その後、パンクラスのリングで31戦16勝8敗7分。4月13日にはDEEPのリングに初登場、見事PRIDEライト級GPへの切符を手に入れる。168cm、76kg。

SATORU KITAOKA

パンクラス勢のPRIDE戦績


03年『男祭り』マリオ・スペーヒー戦で『PRIDE』初参戦初勝利を収めた近藤有己だが、その後はヴァンダレイ、ダンヘン、中村和裕らに次々と敗戦を喫し、現在『PRIDE』7戦1勝6敗。


高橋義生は『PRIDE GP 2004 開幕戦』ヒース・ヒーリング戦で『PRIDE』デビュー。しかし、ヒーリング戦、ボブチャンチン戦、ビクトー戦とすべて無念のKO負け。現在『PRIDE』3戦3敗。


齢37歳にして『武士道・其の参』小路晃戦に挑んだ玉海力。「まだ燃えきっていない」と闘争心をむき出しにしたが、試合はなんと1ラウンド18秒TKO負け。現在、『PRIDE』1戦1敗。


「フェザー級キング・オブ・パンクラス王者」の肩書きを引っさげて『武士道・其の七』から参戦した前田吉朗。だが、なぜか『PRIDE』のリングでは本領発揮とはならず、現在『PRIDE』2戦2敗。


今成正和の急病のため、急遽『武士道・其の十一』に参戦することとなったアライケンジ。ところが強豪ジェンス・パルバー相手にあえなくKO負け。現在『PRIDE』1戦1敗。

「よかったねぇ〜（しみじみ）」で毎度おなじみ
史上最強の"ロマン派"格闘技ファン!!

獏さんがDSE体制"最後の夜"に泣き笑い!!

「やっぱり生で観なくちゃダメですよォ〜！」と徹底した現場主義を貫く、獏さんが4月8日のDSE体制の終幕である『PRIDE.34』を目撃！　"最後の夜"を泣いて笑って、語りつくした！

聞き手／真下義之　試合写真／乾晋也



ゆめまくら・ばく■1951年神奈川県小田原市生まれ。小説家。77年のデビュー以来『キマイラ吼』『陰陽師』シリーズなど話題作を発表。格闘技をテーマにした『餓狼伝』を20年にわたり執筆するなど格闘技への造詣は広く深い。99年『神々の山嶺』で第11回柴田錬三郎賞受賞。代表作に『陰陽師』など。現在、原作を手がけた映画『大帝の剣』が公開中。

——獏さん！　今日は獏さんからご覧になった『PRIDE・34』のDSE体制〝最後の夜〟の感想をうかがわせてください！

獏　いや〜、昨日はまた凄い大会だったなぁ。ソクジュも本当によかったしねぇ……（しみじみと）。

——またもや大満足！　ソクジュの話はのちほどで、今回は会場観戦されました？

獏　もちろん行きましたよぉ！　昨日ほど現場にいる喜びをヒシヒシと感じたことはなかったね。……たださ、本当は〝団体がなくなる〟ってのはあんなもんじゃないんだよね。

——もっと寂しいもんですよね。

獏　国際プロレスの末期なんか「ファイトマネーが500円！」という逸話まであるんだから。それを電車の中で確認したラッシャー木村が深〜いため息をついたという噂なんだよ（笑）。

——それと違って、素晴らしい幕引きで。

獏　あんな大会場で、キッチリとお別れの挨拶ができた代表なんて歴史上いませんよ！　格闘技団体の最終風景として、ありえないでしょう。

——まだ最終ではないですけど（笑）。ただ、事前はなかなかカードが出なかったり、不安な要素もありましたよね。

獏　カードの影響なのか、会場は微妙に空席もあったけど、今回は現場の人だけが感じたものがいっぱいあるじゃない？　俺なんかオープニングの映像から泣いてましたよ！

——今回も感涙！

獏　名場面がたっぷり流れたし、それをバンバン流しておいて桜庭（和志）の登場だもんねぇ。

——獏さんも桜庭の出現にはビックリされました？

獏　じつは「桜庭が出場するらしい」という噂を耳にしてたんだけど、「結局は出られないらしい」と聞いてたんだよ。「せめて花束でも持ってきたらいいな」と思ってたら、もう一つ上のサプライズだったからね。

——かなり心が揺さぶられましたか。

獏　もう、あの場で〝桜庭が泣いてる〟のが観られたというのがすべてじゃないかな。それに桜庭を迎える選手やファン、関係者もあったかかったのも本当によかったねぇ……（噛み締めるように）。

——獏さんの中で桜庭vs田村（潔司）は、どういう位置づけになりますか？

獏　『PRIDE』は〝Uの残像〟を巧みに使ってきたけど、この試合でUの遺伝子が産み落とす試合としては最後も最後でこのあとはもうないんじゃないの？　ただ、一つだけ心配なことがあるとすれば……これは日本でやってもらいたい！

——アメリカ人にはわかりにくすぎますから、おそらく日本でやると思いますけどね。

獏　日本人じゃなきゃ、この試合の意味はわかんないでしょ。アメリカ人なんて「どっちが強いか？」って興味だけだもん。今回ハッキリわかったのは、俺らは決っして勝ち負けだけを観に行ってるんじゃないんだよ！　大事なのは選手とすごした時間とか、感情とか、思想。だから、強い弱いなんてどっちでもいい!!

——勝敗を超えた価値観こそが重要である！　と。納得です!!

獏　そういう意味で、昨日の大会は〝終わり〟と、〝始まり〟が見えてよかったねぇ。始まりというのはソクジュであり、青木（真也）であり、それから馬場！

——ば、馬場さんですか？

獏　馬場じゃねぇや、桜庭だ（笑）。桜庭vs田村、その3つに未来を感じたよ。青木なんか、わかんないくらい高いレベルの寝技の技術を見せてくれたしさ。

——そして、またもや大番狂わせをやってのけたソクジュはいかがでした？

獏　ビジョンで顔をじーっと観ていたんだけど、ソクジュは性格がよさげなヤツだねぇ（笑）。しかもソクジュは動物的センスが異常発達してる！　アッパーでアローナの頭をガードした両腕の中から叩きだしたときなんて、動物がボールを追っかけるみたいに、無心でマットに落ちてゆく頭を追っかけたじゃない？

——まさに野生的ムーブでしたね。

獏　それにゴリラが胸を叩くのを〝ドラミング〟と言うんだけど、試合後にソクジュがやったのも胸を左右に振りながら、反動で腕を胸に下ろす感じで、ゴリラのやり方と同じなんですよ！

——ゴリラと一緒！　きっと、ジャングルで身につけたんでしょうね。

獏　ああいう豪快な選手が、知的なダンヘンのところにいるのもいいし、試合後にダンヘンと抱き合ったのもよかったねぇ〜。そこを俺は双眼鏡でじーっと観ていたんだけどさ。

——双眼鏡でチェックされてましたか（笑）。それから、今回からUFCとの対抗戦もスタートしましたが、新体制の『PRIDE』はどうご覧になってます？

獏　うーん。アメリカ人は、口じゃあ立派なことを言うけど、「結局は金！」みたいな部分もあるから、簡単に信用はできないんじゃないの。ダメだと思ったら解体して、UFCに吸収しちゃう、なんてこともあるんじゃない。

——そういえば、『PRIDE』と同日にアメリカで行なわれた『UFC69』では、オクタゴンに（アントニオ・ホドリゴ・）ノゲイラが入って挨拶してるんですよ。

獏　えっ！　そうなの……（と絶句して）。最後のリングにノゲイラがいなかったのは不思議だったけど。ノゲイラは『PRIDE』ファイターとしてじゃなく、UFCを主戦場にしちゃうのかな？

——まだハッキリしないんですけども。

獏　「『PRIDE』からおいしいエキスを全部抜いちゃえ！」ということなのかなぁ。ノゲイラがUFCに上がるのは、ミルコ（・クロコップ）と（エメリヤーエンコ・）ヒョードルの試合がUFCで実現してから観たいんだけどなぁ……。テーマや機微がアメリカ人にはなさそうだし、ドラマ作りがヘタだろうねぇ。

——対UFCに関しては、ちょっと混沌としてきましたね。

獏　うん。でも、ソクジュみたいな新しいスターが出てくれれば、競技は停滞しないからさ。だから、もしもホントにノゲイラがUFCに行っちゃったなら……対抗戦はソクジュvsノゲイラでキマリでしょう！　こりゃあ、盛り上がるぜぇ！

——まだまだ獏さんの格闘ロマン追求の旅は続くということですね（笑）。

【07年4月9日／電話取材にて収録】



ソクジュ、勝利の雄叫びとして定着しそうな、胸をドンドン叩くキングコングムーブ！　ゴリラが外敵を威圧する"ドラミング"と同様にリング上で縄張りを主張しまくり！

ケ 越 ド演歌 越中 「フザ

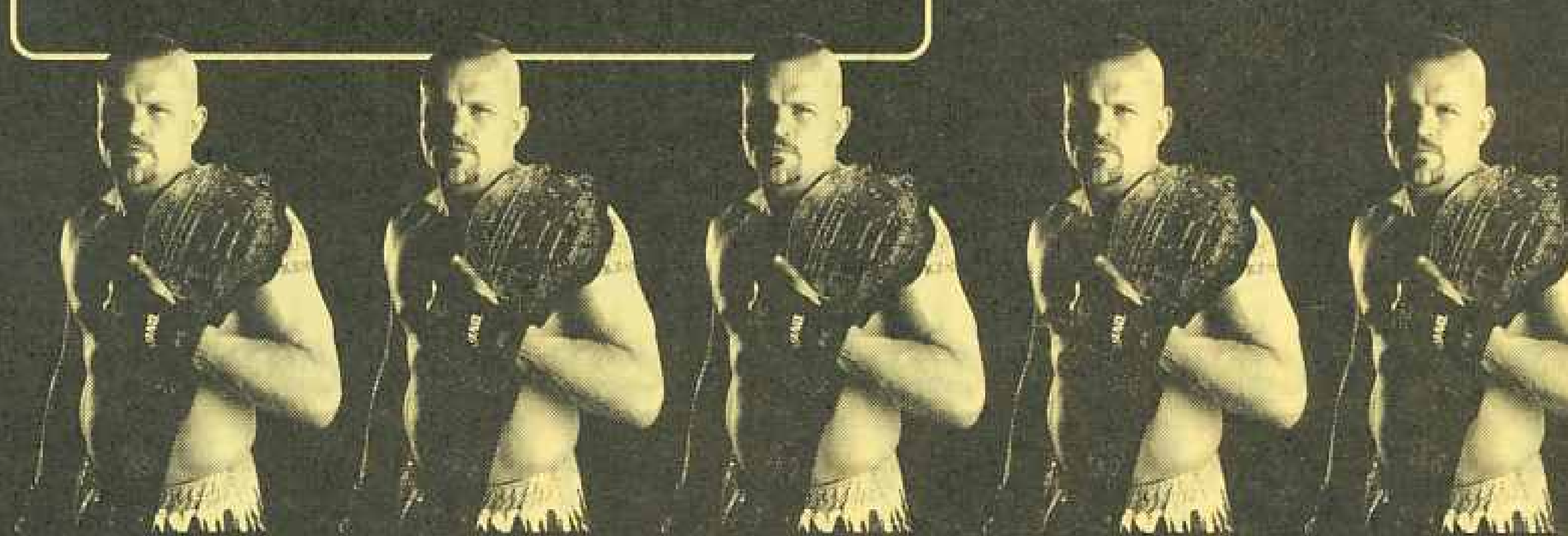


ゲーム業界からPRIDE×UFCを考える!!

マット界のスクウェア・エニックス騒動、ボッ発!?

ソクジュー ダンヘンー チョナン

H120	H98	H76
M15	M34	M45



モヒカンたちがあらわれた!!



『ファミ通』名物"ヒゲ"が現われた!!

エンターブレイン代表取締役／元『週刊ファミ通』編集長

浜村弘一

聞き手／ジャン斉藤　撮影／乾 晋也

——獏さん！
になった『P
制、〃最後の夜
ください！
獏　いや〜、
ったなぁ。ソ
ねぇ……（し
——またもや
のちほどで、今
獏　もちろん
ど現場にいる
とはなかったた
体がなくなる
ないんだよね。
——もっと寂
獏　国際プロ
トマネーが5
あるんだから。
たラッシャー
たという噂な
——それと違
獏　あんな大
の挨拶ができ
んよ！　格闘
ありえないで
——まだ最終
ただ、事前は
たり、不安な
獏　カードの
空席もあった
が感じたもの
俺なんかオー
ましたよ！
——今回も感
獏　名場面が
バンバン流し
場だもんねぇ
——獏さんも
れました？
獏　じつは「
いう噂を耳に

PRIDE×UFCを〃スクウェア・エニックス合併騒動〃にたとえてみよう!!……というい加減な企画が編集部から挙がったが、本誌発行元エンターブレインの社長は、ゲーム雑誌『週刊ファミ通』の元編集長!!　こいつは都合がいいぜ！　というわけで、ご機嫌うかがいも兼ねて、社長室におじゃましました!!

——今日は、〃ゲームマスコミのヒゲ大魔王〃にして〃本誌のラスボス〃であらせられます浜村社長にいろいろとおうかがいしたいと思っております。

浜村　よろしくお願いします（笑）。

——まず本題に入る前に。社長は昔からプロレスが大好きだそうで。〃ヒゲ大魔王〃の手下である〃ヒゲ二等兵〃の松林貴からそのように聞いております。

浜村　ええ。新日本プロレス、アントニオ猪木が大好きでした。でも、最近、一番注目しているのは『ハッスル』ですね。

——……社長！　**山口日昇**にへんな気は遣わなくても、まったく問題ありませんので。

浜村　いやいや、ホントに注目してますよ(笑)。

——ホントにですか!?（笑）。

浜村　『ハッスル』を観て、「プロレスってこういうことを表現したかったんだな」ってことがよくわかりました。業界でも賛否両論あるように、ボクの周りでも『ハッスル』をあまり好きじゃない人がけっこういるんですけど、その人たちは「自分たちの夢を壊している！」みたいなことを言うんですよね。そういう人にボクは、「『ハッスル』側のほうに行って観たら、もっと物事がよくわかるよ」って話をよくするんですよ。

——でも、昭和・新日本プロレスファンがそんな考えにたどり着くのはちょっと珍しいですね。さすが、本誌のラスボスです！

浜村　まあ、きっかけの一つには、ミスター高橋さんの本がありましたよね。あれ、かなりショックを受けましたねえ……（遠い目で）。もう格闘技団体とかも信じられなくなっちゃってねえ（笑）。

——ハハハハハ！　そうやってこのジャンルから離れていったファンは多いですね。

浜村　ボクの場合は、その選手や物語は何をもって動いているのかとか、そういった背景を見て楽しむしかないんじゃないかって。

——そうやって立ち直れるのは立派ですね。よっ！　さすがラスボス!!

浜村　（冷静に）で、今日はなんで私が呼ばれたんでしょう？

——え〜、ズバリ言っていまアメリカでは総合格闘技が異常人気というか、日米の力関係が逆転してしまっているんです。そんな格闘技界の情勢の影響も受けて、『PRIDE』がUFCのオーナーのものになってしまったんですが、そういった大発表がなされたことはご存知でしょうか？

浜村　ええ、もちろん知っています。

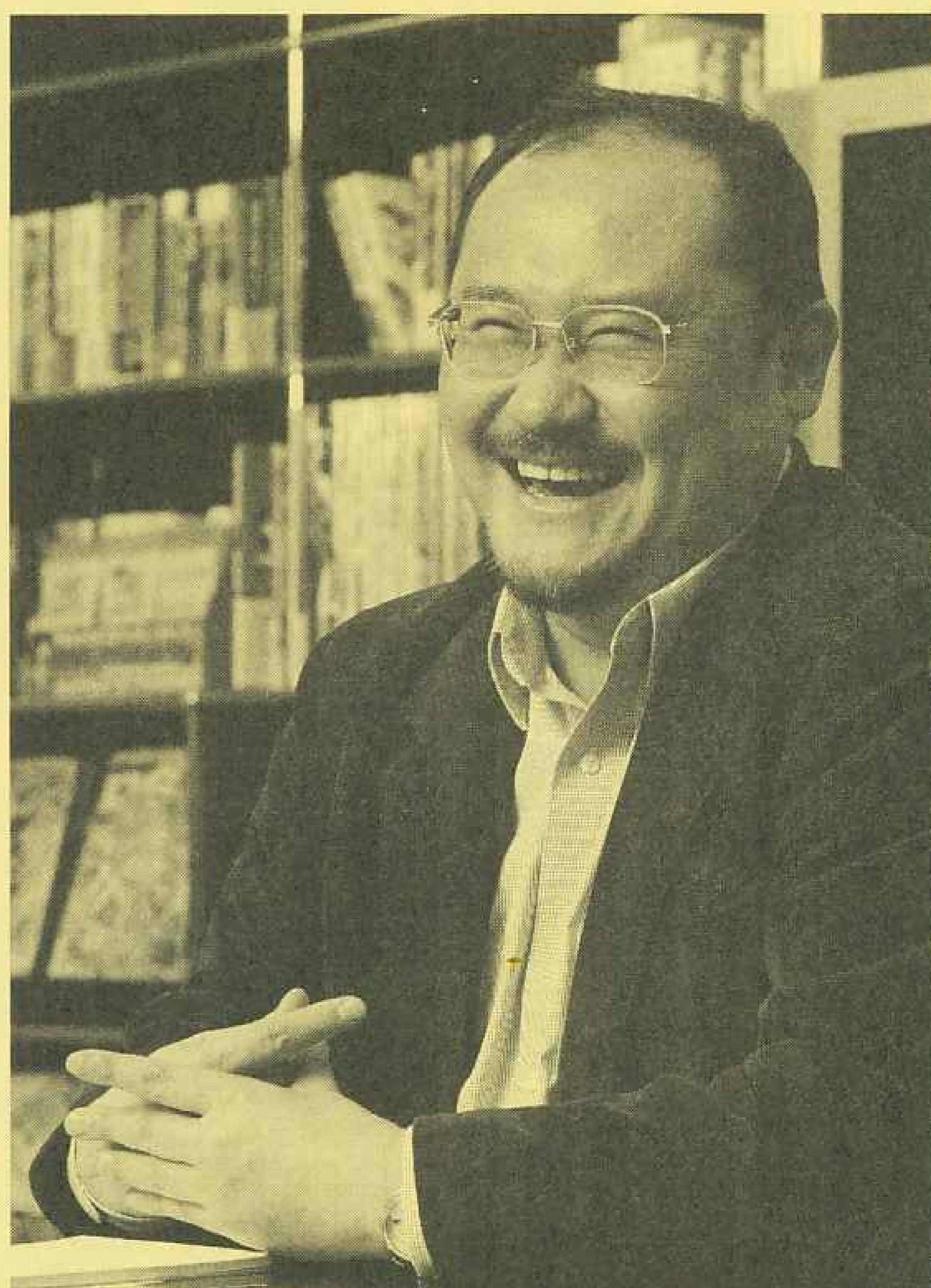
——ただ、こんなに大事件なのに、いまいちピンときていない読者が多いんです。なので「身近にたとえるとどういったものになるんだろうね？」っていう話をしていたら、ある編集部員が「ゲームメーカーの**スクウェア**と**エニックス**の合併みたいなもんじゃないの？」って言ったんですよ。まあ、よく調べると全然、違うんですけど（笑）、とりあえず『**週刊ファミ通**』の元・編集長にして、ゲーム評論家の社長にお話を聞こう、と。

浜村　なるほどねえ。

——という安直な発想の企画のうえに、ボクはゲームのことはあまり知らないので、失礼な質問をするかもしれませんが、スクウェアとエニックスが合体することによってどんなメリットがあったのか？　業界にどのような影響を与えたのか？　などを聞かせていただければと思います。

浜村　わかりました。まず聞きたいのは、スクウェアとエニックスが合併しても、それぞれが持っていた（ゲーム）タイトルが残ったように、『PRIDE』というタイトルは今後も残るんですよね？

ゲームにもプロレスで言うところの交流戦、オールスター戦があります



はまむら・ひろかず■1961年2月8日生まれ。株式会社エンターブレイン代表取締役社長、ファミ通グループ代表。テレビゲーム総合情報誌『週刊ファミ通』編集長を経て、現在はファミ通グループ代表として、ゲーム業界の動向を分析し、コラムの執筆なども手がける。著書に『浜村通信ゲーム業界を読み解く』。

——もちろん残ります。『PRIDE』は『PRIDE』で存続します。ただ、ファンの一部は「いずれ『PRIDE』の選手はUFCに吸収されちゃうんじゃないか？」「『PRIDE』がUFCの2軍になってしまうんじゃないか？」といった非常に現実的な不安を抱いていますね。

浜村　まあ、前向きに考えると、コラボレーションの機会は増えてきますよね。スクウェアとエニックスも、『**ドラゴンクエスト**』と『**ファイナルファンタジー**』というRPGタイトルで、ずっとライバル関係を築いていました。合併して初めて顔合わせをしたスタッフたちもいっぱいいて、そこからコラボレーションが生まれているんですよ。たとえば、エニックスの作品のキャラクターがスクウェアの作品に登場する。これはプロレス界でいうと〃交流戦〃にあたりますよね。あと、『**いただきストリート**』というゲームがあるんですけど、その作品には『ドラゴンクエスト』と『ファイナルファンタジー』のキャラクターが揃って登場しているんです。これは〃オールスター戦〃。それから、エニックス側のスタッフがスクウェア側の作品の続編を担当したりもしています。

——けっこううまくいってるんですね。まったく知りませんでした（笑）。そもそも、スクウェアとエニックスの合併は突然の出来事だったそうですね？

浜村　本当に突然でしたね。今回の『PRIDE』のケースと同じです。

——でも、『PRIDE』はそういった動きが水面下で確認できていたんです。スクウェア・エニックスにその気配はなかったんでしょうか？

浜村　というよりも、ゲーム業界全体が……これはマジメにお答えしていいんですよね？（笑）。

——ええ、マジメにお願いします（笑）。

浜村　その頃、ゲーム業界全体の地盤はグラグラと揺らいでいて、けっこう危うい状況だったんですよ。その背景に何があったかとい



ゲーム業界にも1社だけの 体力じゃもたない時代があった

うと、ゲームを作ることにもの凄くお金がかかるようになっていたという理由があります。

——それは制作費の高騰ということですか？

浜村　ええ。**プレイステーション**（以下、PS）2だと、ソフトを作るのに2億から5億円くらい。

——はあ。

浜村　PS3になると、これが10億くらいかかります。

——はあ！

浜村　しかも制作期間は2〜3年近くにわたります。

——はあ!!　こうなると、ソフト開発は一種のギャンブルですね。

浜村　そうですね。それだけ時間をかけたソフトが1ヵ月やそこらの販売期間で評価が下されるケースもあるわけですから。で、お金をかけたからって、そのぶん売れるというわけじゃないんですね。

——そこは現在のMMAシーンとかぶりますね。ファイトマネーは上がる一方だけど、大会収益はあまり変わらないという。

浜村　ですから、当時は1社だけでやっていこうとしてもかなり厳しい状況だったんです。たとえば、営業をかけるにしてもマーケティングをするにしても、1社だけの体力だととてももたない。だから、中堅どころのメーカーが次々に手を引いて、もしくは大きいメーカーと一緒になっちゃった。そのうち、大きいメーカー同士が一緒になって、“次の時代”に備えようという動きが起きたんです。いまは**サミー**と合併して**セガサミー**になっている**セガ**も、一時は**バンダイ**との合併を発表したことがありましたね。立ち消えになりましたけど。

——その代表例が“スクウェア・エニックス”の合併だった、と。

浜村　それでも、「まさか、あのスクウェアとエニックスが……」という驚きは確実にありましたね。昔でいうと、新日本プロレスと全日本プロレスがくっつくようなものですから（笑）。業界に大きな衝撃が走りました。

——繰り返しの質問になっちゃいますが、社長にはそういった合併の予測はなかったんですか？

浜村　スクウェアにはそういう話はありましたね。**映画**が思ったほど当たらなかったし、凄くいい（ゲームの）タイトルがたくさんあるんだけど、それを抱えて回していくだけの資金が苦しい、と。だから「これはどこかと手を組むんじゃないか？」とは噂されていました。今回の『PRIDE』も、売却の要因の一つとして選手のギャラの高騰もあるんですよね？

——そうですね。一つの大会で、トップどころの揃い踏みが相当に厳しい状況で。

浜村　だからまったく一緒の状況ですよ。タイトルはあるんだけど運営資金が苦しい。制作費がどんどん上がっていく。だったら、合併したほうがいいんじゃないか？　と。

——しかし、そんなビッグプロジェクトがよくそこまで隠密に進みましたね。



バブル戦争真っ直中の同盟結成の動きは、“次の時代”の一手なのか!?　“大津波”襲来後のマット界の風景は大きく様変わりするのは確実だが、その波に見事に乗りきるのはいったい……!?

浜村　なぜうまく進んだかというと、スクウェアもエニックスもオーナー会社だったんですよ。つまり、役員が「イヤだ！」と反対しても、決定権を持つオーナーが「やる！」と言ったら、おおむね方向性が決まる状況だったんです。

——『PRIDE』の場合もオーナーである榊原代表の決断がすべてでした。そもそも、スクウェアは合併しないで存続することは可能だったんでしょうか？

浜村　存続は普通にできたと思います。スクウェアはCG開発に凄くお金をかけていたので、そのぶん、技術力が素晴らしかった。だから、あの体制のまま開発もできたし、運営はできたはずなんですけど……それを機に、それよりもさらに大きなものを目指そうとしたんでしょう。だからエニックスと一緒になったんだと思います。これも『PRIDE』と同じかもしれませんね。

——自社の逆境、業界の構造の変化をいい意味でとらえたんですね。ちなみに、合併してうまくいかなかった例ってあるんですか？

浜村　それはやっぱりねえ……って、言えるわけないでしょ！（笑）。

——ハハハ。やっぱりそうですよね（笑）。ところで、ゲームもアメリカ市場の売り上げにゆだねる割合は大きいんですか？

浜村　世界のゲーム市場の半分はアメリカですね。やっぱり人口も多いですし、エンターテインメントに対しての興味が大きい。で、ヨーロッパと日本の市場が残りの半分を占めています。だから、本当に大きい成長を期待するのなら、アメリカでの成功は不可欠ですね。

——あの〜、基本的な質問なんですが、日本発のタイトルっていろいろありますよね……。いや、あるって聞いてるんですけど（笑）。たとえば、『ドラゴンクエスト』とか『ファイナルファンタジー』のアメリカでの人気はどうなんでしょう？

浜村　『ファイナルファンタジー』の人気はありますけど、アメリカで人気を獲得するタ

イプってあるんですよ。たとえば、『**キングダムハーツ**』っていうミリオンセラーで凄く優秀なソフトがあるんですけど、日本では『ファイナルファンタジー』のほうが売れている。しかし、海外だと『キングダムハーツ』の人気のほうがあったりするんです。あと、カプコンの作品ですが、『**デッドライジング**』というソフトは欧米では100万本売れますけど、日本だと6万本くらいなんです。

——そんなに差が！　それは根本的に何が違うんでしょう？

浜村　う〜ん……一概には言えないですけど、テイストっていうんですかね。味わいみたいなものですね。とくに『キングダムハーツ』はディズニーのキャラクターが登場していましたし、アメリカでは幅広く認知されやすい特性はありますね。

——いわゆる〝お国柄〟みたいなもんですね。『ドラゴンクエスト』はどうなんですか？

浜村　日本向きですよね。日本人ってアニメとかコミックが好きですけど、海外の場合はリアルな実写のほうが好きだったりするんですよ。そういったことでいうと、『ドラゴンクエスト』の底辺にあるのは鳥山明の絵ですよね。あのジャパン・アニメーションの絵柄は、傾向として向こうには受け入れられにくいんです。そういった意味では、『ファイナルファンタジー』は向こうのテイストに合うような仕上がりを意識して作っていますね。

——では、『ファイナルファンタジー』は最初からアメリカ市場を狙いに定めていたところもあるんですね？

浜村　狙っていましたね。彼らはCGを作るとき、最初にハワイにスタジオを作って、そこでCGアーティストに作業させたくらいですから。『PRIDE』も、日本でウケる選手とアメリカでウケる選手は違うと思うんですよ。日本向けの興行とアメリカ向けの興行と分けてやったらいいんじゃないですかね。というか、成功するためには、世界観は崩さずにそれを実行するしかないでしょうね。

——先ほど、〝オールスター戦〟の話がありましたけど、浜村社長の著書によれば、ご祝儀ということで各アニメ会社のキャラの使用許可が出て、『**スーパーロボット大戦**』というソフトは、その第一弾がヒットしたからいまだに続編が出ているそうですね。


桜庭vs田村劇場という〝お金じゃ動かないもの〟を動かした榊原代表。どのジャンルでも、最終的に問われるのはプロデューサーの手腕なのだろう。

浜村　あれは杉浦（幸昌）さんというバンダイの元会長が音頭をとったからできたんです。「森光子ならジャニーズの人をいっぱい集められる」みたいな（笑）。杉浦さんはそういうカリスマ的な存在だったんですよね。アニメ会社の人たちから「いつもいい思いをさせてもらっているから」ってことで。日本のマット界ではそういったことは無理ですか？

——いや、マット界もプロデューサーの手腕が問われますね。お金じゃ解決できない問題もありますし、今度の『PRIDE・34』で〝お金じゃどうにもならない〟ことが起こるみたいなんですよ。

浜村　へえ〜。……何が起こるの？（笑）。

——どうなるかわからないので、こればかりはラスボスにも教えることはできないんですが（笑）、おそらく社長のインタビューが載るこの号の表紙とか巻頭で大きく取り扱っています。

浜村　ああ、そう（笑）。それはそれとして、ゲーム業界にもプロレス界的なところってあるんですよ。この世界って、人が辞めたときに行き先が決まっている場合とそうじゃない場合があって。辞めたあとから再就職先が決まっても、前の会社からは「引き抜きだ！」って騒がれる。マット界なんてまさにそうでしょ？（笑）。そんなときは、「引き抜きはしていないけど、引き抜いたってことにして、とりあえず借りにしとくよ」という感じで、大きく事を荒だてないときがあるんです。

——非常に〝プロレス〟的な攻防ですね、それは。

浜村　そして、あのときの借りを返す、返さないみたいなやりとりがある。あと、ゲームって特許が凄く絡んでいるんですよ。たとえば、エンディングにそのゲームのタイトル名を出す。これ、一つの特許なんですよ。

——要するに、ほかのメーカーの作品はエンディングにタイトルを入れてはいけない。そんな特許があるんですか（笑）。

浜村　あと、ゲームのコントローラーを振動させる特許とか、そういう細かいものがいっぱいあるんです。それを勝手に使った場合、法社会のアメリカなんかだとすぐに裁判沙汰になりますね。だけど、日本の場合はそうはならないんですよ。

——〝プロレス〟で決着をつける、と。

浜村　そう。「**R・P・G**」という呼称もバンダイが持っているんですけど、使っても文句を言わないんですよね。バンダイは「あ、いいよ、いいよ」と。その代わり、なんかあったときに「あのとき、貸したでしょ？」って言うとか言わないとか（笑）。

——しかし、そんな業界に何も知らない素人さんが入ってきたら……。

浜村　いやあ、何もできないでしょうねぇ。もしくはすぐトラブルになる（笑）。

——マット界にも最近、〝大金持ちの素人〟がたくさん参入してるんです。ゲーム業界にはそういったケースはあったんですか？

浜村　ありますねえ。ボクは20数年、この業界にいますけど、あるときはネットで儲けたとかビデオで儲けたとか、何かで儲けたいろんな人たちが入ってきました。でも、ほとんどがうまくいかなくてみんな撤退していきました。マット界でいうと、昔の**SWS**みたいにお金で選手を買い集めて……っていうケースもありました。

——そういうやり方はうまくいかないもんですか？

浜村　そうですね。だから〝何をもって〟参入するかですよ。たとえば、何か人気のあるキャラクターを持っている企業が、そのキャラクターのゲームを作って、儲からなかったけど、自社キャラの広がりをもってよしとすることもあります。テレビ業界がゲームに乗り出してきたこともありましたけど、そのときは「ゲーム業界の勉強だから」って、まあそんなに儲けは重視してなかった。そういう姿勢の見えるメーカーはいまでも続いていますよ。

——どのジャンルも〝姿勢〟が問われるんですね……。ゲーム業界って何年の間隔かで構造自体の大きな変化がありますよね。たとえば、**ファミコン**が**スーパーファミコン**になってというような。

浜村　そういった構造の変化は5年に1回の間隔で起きています。PSがPS2になったりして、メーカーにとっては5年に1回、何かしらチャンスが巡ってくるんですよ。たとえばどこのハードに乗ればいいか？という決断は求められます。こっちのハードに乗るとその他大勢の中に入っちゃうか



ら、そうじゃないほかのハードに乗っかったほうが目立つので、あっちにしようとか。実際、それで成功した例はたくさんあります。

──ＰＳとか、**セガサターン**とか、**ニンテンドー64**とか、**ドリームキャスト**とか、いろいろと凄かったみたいですね、聞くところによるとですが（笑）。ハードでいうと、ここ数年はソニー（ＰＳ２）が圧倒的に主流だったんですよね？

浜村　ええ。ですけど、最近は**任天堂**も凄いですね。**（ニンテンドー）ＤＳ**とかは凄く盛り上がっていますから、いち早くＤＳに進出したメーカーはうまくいっていますし。

──へんな話、そうなると各メーカーの〝立ち回り〟も重要になってきますよね。

浜村　それは重要ですよ！　政治力ってわけではないんですけど、やっぱり関係性は凄く大事ですね。

──ゲーム業界の裏も表も知りつくしている社長からすると、その立ち回りが一番うまいメーカーってどこですか？

浜村　……それも言えるわけないじゃないですか（笑）。

──ハハハハ。

浜村　じゃあ、マット界で（立ち回りが）うまいのは誰なんですか？　言えないでしょ？

──ズバリ言って、それは田村潔司さんという方です！（笑）。

浜村　ハッハッハッハッ!!　そうなの？

──本当にそこは天才的ですね。

浜村　そんなに成功しているように見えないんですけどねぇ。

ゲーム業界の構造変化は5年に1回の間隔で起こります

PRIDE売却クラスの事件が常にボッ発!!
ゲーム業界地殻変動の歴史

1983	ファミリーコンピュータ発売（任天堂）
1984	ファミリーベーシック発売（任天堂）
1985	スーパーマリオブラザース発売（ファミコンソフト／任天堂）
1986	ディスクシステム発売（任天堂） ドラゴンクエスト発売（ファミコンソフト／エニックス） 『ファミコン通信』創刊（現『週刊ファミ通』）
1989	携帯ゲーム機ゲームボーイ発売（任天堂）
1990	スーパーファミコン発売（任天堂）
1994	プレイステーション発売（ソニー） セガサターン発売（セガ）
1996	ファイナルファンタジーがPSに移籍 ニンテンドー64発売（任天堂）
1997	ドラゴンクエストがPSに移籍
1998	ドリームキャスト発売（セガ）
2000	プレイステーション2発売（ソニー）
2002	Xbox発売（マイクロソフト）
2003	スクウェアとエニックスが合併
2004	セガとサミーが経営統合 携帯ゲーム機プレイステーションポータブル発売（ソニー） 携帯ゲーム機ニンテンドーDS発売（任天堂）
2005	バンダイとナムコが経営統合 Xbox360発売（マイクロソフト）
2006	プレイステーション3発売（ソニー） Wii発売（任天堂） ドラゴンクエストがニンテンドーDSからの発売を発表

──成功していないように見えて、大成功しているんですね。社長にそう見えているということは、見事に田村潔司の術中にハマってます（笑）。

浜村　じゃあ、彼にとっての成功ってなんですかね？

──いろいろあると思うんですけど、ファンや関係者にとって、〝気になる存在〟であり続けるところですね。

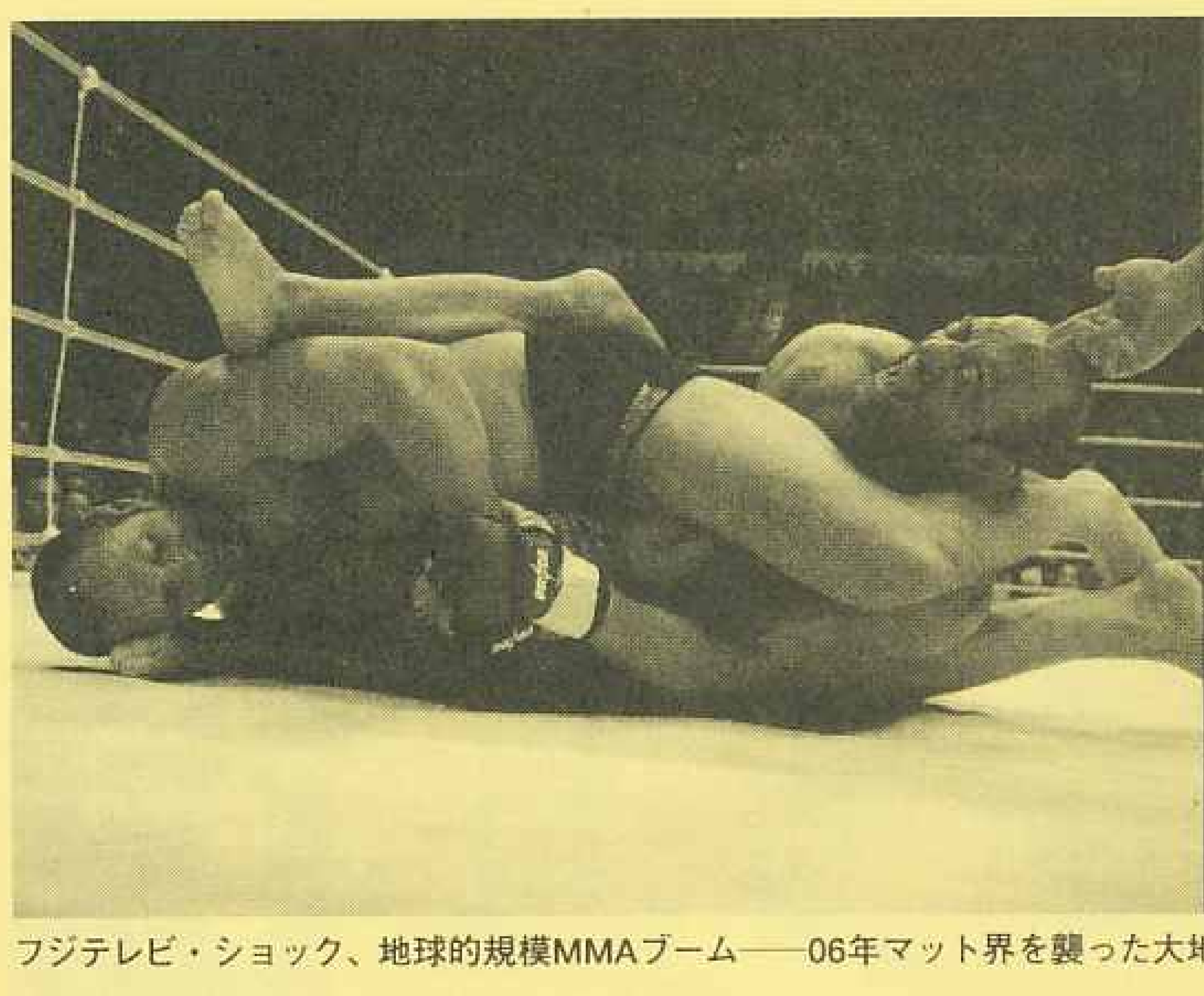
浜村　ああ、なるほど。そうですよね、新日本とＵインターの対抗戦にも一人だけ来なかったわけですもんね。「髙田さん、ボクと真剣勝負してください！」っていう発言も、あれで「あっ、田村はきっと髙田よりも強いんだ！」って思いましたもん（笑）。

──リング内評価を求めるのは、極端なことを言えばアマチュアだという。で、田村潔司的なメーカーはどこなんでしょう？

浜村　だから、言えるわけがないでしょ（笑）。でも、ファミコンが盛り上がっているときはずっと任天堂の側にいて、ＰＳが盛り上がってきたらソニーにいく。ソフトのクオリティは当然求められますけど、そういう立ち回りでどんどん大きくなっていったメーカーはありますよ。

──立ち回りは気にしてないんですが、ウチってよく〝『ＰＲＩＤＥ』の機関誌〟とかって言われるんですけど、『ファミ通』はメーカーがたくさんある中で、どういう方針をもって誌面展開されていたんですか？

浜村　これは難しいところですよねぇ……。メディアとしての公器としていうと、「すべてのソフトをまんべんなく扱うべきだ」って考え方があるんですよね。だから、本来そうするべきだし、極力そうしているつもりなんですよ。だから、任天堂の作品もソニーの作品もいいものは紹介しているんです、本当に。マイクロソフトの**Ｘｂｏｘ３６０**なんて、去年のＰＳ２の台数と比較すると、２０００万台vs37万台という凄い差がついてるんですけど、ボクらはＸｂｏｘの**『ブルードラゴン』**をちゃんと紹介していましたからね。でも、そうは言いつつ、人気のある作品というのはページを取らないといけないわけで……そうなるとコアなファンた





フジテレビ・ショック、地球的規模MMAブーム──06年マット界を襲った大地殻変動。07年は何が起こる？　いや、何が起こっても不思議じゃない!!

——獏さん！
になった『P
制、"最後の夜
ください！
獏　いや〜、
ったなぁ。ソ
ねぇ……（し
——またもや
のちほどで、今
獏　もちろん
ど現場にいる
とはなかったね
体がなくなる"
ないんだよね。
——もっと寂
獏　国際プロ
トマネーが5
あるんだから。
たラッシャー
たという噂な
——それと違
獏　あんな大
の挨拶ができ
んよ！　格闘
ありえないで
——まだ最終
ただ、事前は
たり、不安な
獏　カードの
空席もあった
が感じたもの
俺なんかオー
ましたよ！
——今回も感
獏　名場面が
バンバン流し
場だもんねぇ
——獏さんも
れました？
獏　じつは「
いう噂を耳に

ちからは「なんでもっとあのゲームを扱わないんだよ！」と。ここ20年くらいずっと言われ続けています（苦笑）。で、売れているメーカーからもいろんなことを言われますし。『kamipro』も"『PRIDE』の機関誌"のつもりでやっているわけではないんですよね？

——"ソクジュ来日記念キリン大特集"をもってそう指摘されるのなら、ある意味で光栄ですけど（笑）。

浜村　つまり、読者がほしいものを扱っているだけですよね。まんべんなく載せたらカタログになっちゃいますよ。それだと読者は喜ばないです。

——かといって、まんべんなく載せるつもりはまったくないのが『kamipro』的なところなのかもしれません（笑）。これまでカタログ的な雑誌ってゲーム業界にはあったんですか？

浜村　昔ありましたけど、すぐになくなりました。なんていうのかな。「だから何？」って感じだったんですよ。プロレスの専門誌だって試合結果だけバーって並べられても読者は困りますよね？　どこがおもしろかったのかをしっかり書いてくれているほうが雑誌としておもしろいですよ。でも、そうすると、意に沿うファンもいるけど、そうじゃない人も確実に出てくる。だけど、自分が思うことはちゃんと載せたい。

——表現することで波風は立つのはしょうがない。

浜村　いや、無理に立てなくてよろしいです（笑）。

——あ、失礼しました（笑）。

浜村　しかし、"『PRIDE』の機関誌"と言われているなら、「お金もらっているんじゃないの？」って言われません？

——この場を借りて申し上げさせていただくと、もらえるもんならなんだって、ぜひともらいたいです。

浜村　ハッハッハッハッ！　何を言ってるんだ（笑）。『ファミ通』も「**クロスレビュー**でメーカーからお金もらっているだろう？」と延々と言われ続けていますけど、もらったことは一度もないですし、逆に「10万円もらって1点」とかってネットで言われているけど、あの1点の影響力ってもの凄く高いから、「そんなに安くないだろう！」って（笑）。

ゲームは飽きと闘う文化。プロレスもファンをビックリさせてナンボですよね。

——はあ（笑）。

浜村　マジメな話、あのコーナーの影響力を考えたら何十倍もの金額が動くはずだし、もらったらすぐにバレますよ。だって、もらったスタッフたちの生活レベルが上がるから。みんな、ずっと会社で寝ているってことは……ねえ。

——なるほど（笑）。話は変わりますが、この本（『浜村通信ゲーム業界を読み解く』浜村弘一著）を読んで一番印象に残ったのは、「ゲームは"飽き"と闘う文化」だという言葉なんです。それなのに、ゲーム業界って続編ものが多くリリースされているんですよね。そこに何かしら工夫があったりするんでしょうか。

浜村　そう、続編が多いんですよねえ。ゲームって、プロレスもそうですけど、ファンをビックリさせてナンボじゃないですか？

——本当にそうですね。格闘技もそうです。

浜村　藤波と長州の名勝負数え歌みたいに毎回同じようなテイストを観るのも悪くはないんですけど、やっぱりずっと続けられると飽きるじゃないですか。だから飽きさせないように、ちょっと複雑なテイストを入れてみたり。クリエイターが毎回買ってくれるコアなお客さんにだけ焦点を合わせていると、作品はどんどん複雑になっていく。『3』はやったけど『5』はやっていない」っていうユーザーがたまたまやってみると、「ちょっと難しすぎてついていけねえや……」となる。そして、毎回買ってくれるユーザーからも、ある日、飽きられてしまう。いまのPS2は、そういうところありますね。

——ああ、いまのプロレスも格闘技も似たような状況ですね。大きな意味での刺激が本当に足りないんですよ。

浜村　プロレスもだんだん技や人間関係が難しくなってきましたよね？　そうなってくると、ついてこられなくなっちゃうファンは多いんですよ。あと近いところでいえば、最初は1億円で作れたソフトが、3〜5億と上がっていくから、10本作っていたソフトの生産ラインを3〜5本にしなければならない。そうなると、売れる大作のみを作らざるを得なくなってしまう。プロレスでいうと、「地方興行に回るよりも、東京ドームでしかやらない」ってなっちゃうんですよ（笑）。

——ゲーム業界版ドーム病（笑）。でも、5年に1回の構造的な変化によって、なんとか転がってきたんですよね。

浜村　そこで、いま任天堂がやろうとしているのは、一般人にもわかりやすいゲームづくり。『**脳トレ**』とかそうですね。「10秒間でどれだけ計算できるのか？」というわかりやすい内容にして、一般の人が食いつきやすいようにする。しかも、そのほうがお金はかからない。PS3だと10億もかかるのが、『脳トレ』とかは2000〜3000万円で済みますから。

——それは全然違いますね！

浜村　だから、「漢字のトレーニングをやりましょう」という『漢検DS』っていうゲームがあるんですけど、あれなんかは4〜5人のスタッフで、半年くらいで作っているんです。それで50万本近くも売れてますか

ズバリ、よく知らないんですが、仕事ですから!!

ゲーム超初心者によるあまり詳しくないゲーム注釈

【山口日昇】
前・本誌編集長。現在の職業（?）はハッスル大統領。編集長時代は『バイオハザード』というゲームに熱中するあまり、自宅に引きこもり職務放棄するモラルハザードぶりを発揮していた。

【スクウェア】
ゲームソフト会社。あの有名なロールプレイングゲーム『ファイナルファンタジー』シリーズを出していたところ。エニックスと合併してスクウェア・エニックスに。

【エニックス】
ゲームソフト会社。あの有名なロールプレイングゲーム『ドラゴンクエスト』シリーズを出していたところ。現在はスクウェアと合併してスクウェア・エニックスに。

【週刊ファミ通】
エンターブレインが発行している最強のゲーム雑誌。毎週金曜日発売。ゲーム以外のエンタメ情報も充実しており、もの凄く売れているそうだ！

【ドラゴンクエスト】
ロールプレイングゲームソフト。このソフトがどこのハードから発売されるかで、業界の趨勢が決まるそうです。ミルコ・クロコップみたいなもんなのか。

【ファイナルファンタジー】
ロールプレイングゲームソフト。このソフトがどこのハードから発売されるかで、業界の趨勢が決まるそうです。ヴァンダレイ・シウバみたいなもんなのか。

【いただきストリート】
モノポリーをモチーフとしたボードゲーム形式のソフト。ぜひMMAバブル版を制作してほしい！

【プレイステーション】
94年にソニーから発売された家庭用ゲーム機。圧倒的な市場勢力を誇る。一時期の『PRIDE』みたいな巨大帝国？　PS2、PS3まで開発。あたりまえだが、上井ステーションとの共通項は何一つ見当たらない。

【サミー】
パチンコ・パチスロ、ゲームのメーカー。現在はセガサミーの子会社。『HERO'S』、パンクラスをスポンサードしていたことでもおなじみですね。この夏、北斗があちちちち!!（byサク）

【セガサミー】
サミーがセガを買収。経営統合で設立されました。

【セガ】
ゲーム業界の老舗。ゲーム機戦争で他メーカーに大きく差をつけられたことをきかっけに家庭用ゲーム機製造から撤退。事実上、サミーの傘下に。

【バンダイ】
有名なおもちゃメーカー。ガンダムグッズを多数リリース。つまり、隠れコシナカンの敵でもある。

【映画】
ゲーム『ファイナルファンタジー』を軸にしたCGアニメ映画。ゲーム界の『殴り者』という評判を耳にしました。



ら、PS3とは実入りが全然違いますよね。

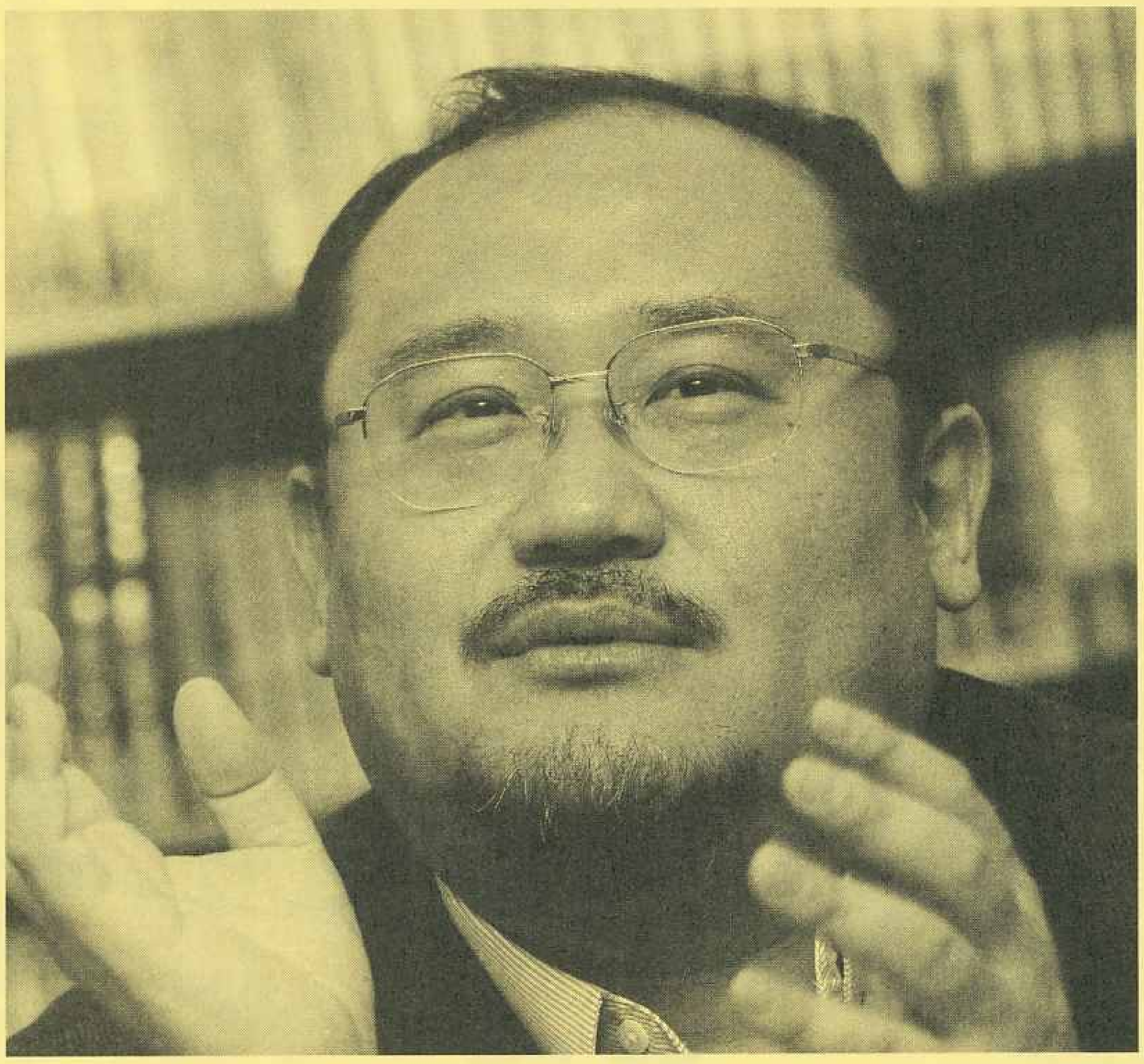
──そういう傾向に伴なって、ユーザーの質というのも変わってきていますか？

浜村　明らかに変わりましたね。オンラインを中心としたハードユーザーと、『脳トレ』だけやっているライトユーザーの二極化が進んでいきましたね。

──『PRIDE』とK-1の対立概念みたいだ（笑）。ファンの割合としては、ヘビーとライト、どっちが多いんですか？

浜村　やっぱり、いまはライトユーザーが買うソフトのほうが売れますね。

──おもいきり要約すると、今後の編集方針はK-1をおもに扱え！　と（笑）。



浜村　ハッハッハッ。

──ただ、紙媒体に関しては、ライトユーザーの獲得の糸口ってまだ見つかってないんですよね。ただK-1を扱えばいいかといえば、ほかの雑誌を見るかぎりそういうわけでもなさそうですし。かといって、コアだけを突き詰めても拡がりはない。最近、『週刊ゴング』が休刊しまして、業界自体が風前の灯火とも言える状況なんですけど、外からご覧になられていてどんな印象がありますか？

浜村　う〜ん。うまくやらないからヤバイんじゃないのかな？　って思いますね。

──うまくやらないからヤバイ。つまり、あたりまえのことができていない、と（笑）。

ゲーム業界もライトユーザーとヘビーユーザーの二極化が進んでる

浜村　ただ、どうなろうとも絶対にジャンルとしては残ると思いますけど。

──細々とは残るでしょうね。ただ、〝プロレス〟としての要素が残るかどうかが一番、心配しているところではあるんですが、そんな中、『kami-pro』はどうしていけばいいでしょうか？

浜村　どうでしょうねえ。まあ、いまのままでいいんじゃないですか（笑）。言えることは、何よりオリジナリティを高くして、あとはその世界観を共有できる人間を増やすだけですよね。それと、やっぱりゲームもそうですけど、プロレスって世間と闘ってきたジャンルなんですよ。ゲームって、何かと差別されたり、社会問題にされてきた歴史があって、たとえば子どもの犯罪があるとすぐにゲームのせいにされてきたんです。

──ニートの象徴はネットやゲームだというステロタイプな偏見はありますよね。

浜村　プロレスも同じなんですよね。

──まあ、こっちは偏見でもなんでもなく、ホントに変態が集まってるところはありますから（笑）。

浜村　いや、ファンの気質も似てると思うんですよ（笑）。ずっと世間の鼻つまみ者にされてきたところがあるから。

──でも、ゲーム業界に比べて、いまのマット界は世間と闘う土俵に立ってない現状が確実にあります。外に討って出る勢いがない。内に内にこもってしまって。

浜村　そうなると、どんどん小さいジャンルになりますよ。今後もプロレスには世間と闘ってほしいですね。

──プロレスという要素を胸を張って世間にまき散らしてこそ！　だということですね。今日はゲームに詳しくなったうえに、今後のマット界のヒントをいろいろといただき、ありがとうございました！

【07年4月2日／エンターブレイン社長室にて収録】

【キングダムハーツ】
PS2対応ソフト。アクションRPG。スクウェア・エニックス発売。ディズニーキャラクターが出てくるコマーシャルを観たことあります。

【デッドライジング】
Xbox360対応ソフト。ゾンビを倒すゲーム。長南亮がハマりそうな内容だと思われる。

【スーパーロボット大戦】
バンプレストからさまざまタイトルが発売。いろんなロボットアニメのロボットが登場するシミュレーションRPG。誰かスーパーMMA大戦の音頭をとってくれないか。

【R・P・G】
ロール・プレイング・ゲームの略。ちなみにIGFはイノキ・ゲノム・フェデレーションの略。遺伝子連合って無理ありすぎ！

【SWS】
メガネスーパーが潤沢な資金をもって設立したプロレス団体。やっていたことはボードッグみたいなもん。

【スーパーファミコン】
ファミコンの後継機。任天堂より発売された家庭用ゲーム機。スーパーだからなのか、ソフトの値段がメチャクチャ高かった印象が残ってます。

【セガサターン】
セガより発売された家庭用ゲーム機。触ったこともありませんが、PSと戦争していたことはボンヤリ知っています。

【任天堂】
ファミコンで一時は天下統一。最近、ニンテンドーDSで盟主の座を奪回したとかしないとか。

【ニンテンドー64】
任天堂より発売。スーパーファミコンの後継機だそうですけど、あまりよく知りません。

【ドリームキャスト】
セガサターンの次世代機。自虐的な湯川専務のコマーシャルは知ってます。

【ニンテンドーDS】
任天堂の携帯ゲーム機。いま一番人気があるそうで、ドラクエもここから発売。さしずめミルコの『PRIDE』からUFCへの転出に近いのか。

【Xbox360】
あのマイクロソフトが堂々リリースしたのがXbox。その次世代機がXbox360です。本誌編集部・堀江ガンツよれば、ゲーム界のUFCに該当するそうです。

【ブルードラゴン】
Xbox360対応ソフト。あの鳥山明がイラストを担当するRPG。本誌編集部・堀江ガンツによると、アニメ化もされてメディアミックスが華々しいらしい。

【クロスレビュー】
『週刊ファミ通』の看板企画。4人の選者がソフトに点数をつける。ゲーム市場を動かす影響力があるといわれ、全盛期『週プロ』の表紙という位置づけか。

【脳トレ】
ニンテンドーDS用ソフトの『東北大学未来科学技術共同研究センター川島隆太教授監修 脳を鍛える大人のDSトレーニング』の略。

——獏さん
になった『P
制、〝最後の
ください！
獏　いや〜、
ったなぁ。ソ
ねぇ……（し
——またもや
のちほどで、今
獏　もちろん
ど現場にいる
とはなかった
体がなくなる
ないんだよね
——もっと寂
獏　国際プロ
トマネーが5
あるんだから
たラッシャー
たという噂な
——それと違
獏　あんな大
の挨拶ができ
んよ！　格闘
ありえないで
——まだ最終
ただ、事前は
たり、不安な
獏　カードの
空席もあった
が感じたもの
俺なんかオー
ましたよ！
——今回も感
獏　名場面が
バンバン流し
場だもんねぇ
——獏さんも
れました？
獏　じつは
いう噂を耳に



©師岡とおる

『kami·pro』未公開!!　〝幻の喫茶店トーク〟も収録!!

殺し

活字プロレスの哲人
井上義啓 追悼本



全国書店にて発売中ですよ、アンタ！

B6変型判　304ページ
定価＝1,680円（本体1,600円＋税）

これぞ究極の〝I予言集〟!!
喫茶店トーク傑作選
◎〝殺し〟とは何か？
◎嵐山哀歌トーク ほか

〝I文学〟の真骨頂がここにある！
井上小説傑作選
◎昭和のプロレスとは何か？
◎『紙プロ』という名の公園 ほか

言うちゃ悪いけど、名言三昧！
殺しのI語録
【井上義啓とは何か？】

I編集長が生涯、追いかけ続けた男
アントニオ猪木インタビュー

過剰な〝I編集長LOVE〟の証を大公開!!
水道橋博士（浅草キッド）

井上学校の中退生、GKが見たI編集長
金沢克彦

I編集長との最後の日々……
松島弥生（井上義啓・姪）

ジョン・コロシ／モンターニャ・シウバ

井上文学の金字塔、ここにあり!!　この本を偉大なる〝I編集長〟に捧げます。

enterbrain　株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）[通信販売のお問い合わせ先] http://www.enterbrain.co.jp/

ついに対ケツ

ド演歌ファイター
越中詩郎
VS
越中芸人
ケンドーコバヤシ



スペシャル
対談

いま日本国民が最も待ち望む禁断の顔合わせが本誌で実現

ついに対ケツ！ ケツ戦は金曜日！（収録は4月6日の金曜日）。越中、怒りのケツ爆弾が炸裂!? それともケンコバの反撃が!? テレビ朝日『アメトーーク！』でプロレス業界に越中ブームを巻き起こしたケンドーコバヤシが、越中詩郎本人と運命のご対面！ さあ、どんな化学反応が起こるのか!?

構成／坂井ノブ　撮影／平工幸雄

現場に『アメトーーク!』のカメラが入り、緊張感の漂う中、ついに両者が初遭遇!

『PRIDE』の重大発表が明らかになり、榊原信行DSE代表が退任を語った本誌No・109において、大好評を博した越中大特集がパワーアップして帰ってきた! フリーペーパー『R25』に越中詩郎が登場、『FRIDAYダイナマイト』では越中ブームの火付け役ケンドーコバヤシの7ページ大特集が組まれ、いまこの両者の注目度は急速に高まりつつある。

そんなわけで「やってやるって!」と本誌が両者の対談をセッティングさせていただいたところ、越中ブームに火をつけた『アメトーーク!』(テレビ朝日)のカメラが入り、両者の初遭遇を撮影するという展開に!(この模様は4月19日に放送済み)。いま最も旬な両者の顔合わせだけあって、現場にはギャラリーを含めて20名以上がごった返して熱気がムンムン!

そんな中、運命の瞬間が訪れた。この対談までは一度も両者が顔を会わせたことはなく、正真正銘の初対面。さすがのケンドーコバヤシもこのときばかりは緊張で表情をこわばらせていた。越中詩郎はプロレスラーらしく全身から気合いと緊張感を漂わせて待機している。決意を固めて歩み寄ったケンドーコバヤシを越中は笑顔で受け入れた。

両者はガッチリと握手を交わし、フォトセッションがスタートした。途中、こちらからリクエストしたのはケンドーコバヤシによる珠玉の越中モノマネの数々をご本人の前で披露するというもの。こんなにやりにくいシチュエーションはないと思うが、そこは心を鬼にしてリクエストさせてもらった。対談本文中にも出てくるが、なんと腎臓結石を患っているにもかかわらず気合い全開で動きまくったケンドーコバヤシに越中も思わず笑顔がこぼれる。緊張がほぐれたところで対談の火ぶたが切って落とされた——。



——本誌前号で越中さんの特集を組んだところ、おかげさまで大反響でした。いま日本中が待ち望んでる対談ですよね。ケンコバさん、越中さんご本人を目の前にしていかがですか?

ケンコバ　ホンマに初対面なんですけど、すぐ隣にいるだけで手のひらがグチョグチョになってるんですよ。

——緊張のあまり(笑)。僕もこのご対面が実現できて興奮してます!

ケンコバ　最近、街でよく声をかけていただく機会が増えてるんです。どこに行っても「僕も越中さん好きなんです!」って言われますよ。いま日本全国で"隠れコシナカン"が一斉に決起してるんです。いままでなぜみんな隠れてたのかわからないんですけど(笑)。

——『アメトーーク!』放送後は会場での声援も違いますか?

越中　全然違いますね。ホントに感謝してますよ。

ケンコバ　いやいや、とんでもないです。先日、ロケで香川県に行ったら地元の女子高生に越中さんと間違えられて。ムチャクチャ緊張しながら「こ、越中詩郎さんですよね?」って言われたんですよ(笑)。越中さんのことをキッチリ説明して「一回でいいから越中さんの試合を観といて」って言うときました。

越中　ありがとうございます(笑)。

——越中さんは『アメトーーク!』をご覧になりましたか?

越中　新日本の巡業バスの中で観ましたよ。移動中はビデオを必ず流してるんです。普段はあまり観ないんだけど、なぜかほかの連中が僕に気ぃ遣って笑ってるんですよ。たいていお笑い番組を流してたらみんな遠慮なしに笑うのが、なんかこっちを気にしながら笑ってるんで「何を気にしてるんだろう?」って思ったら、こんなことやってるんだ!?って(笑)。不思議な感じがしましたね。僕をモノマネしてくれたりとかっていうのは、ほとんどなかったですから。

ケンコバ　じつは越中さんのモノマネを10年ぐらい前からやらせてもらってるんです。オール阪神・巨人師匠には「何かわからないけどおもしろい!」ってほめていただいたことがあるんです。

越中　僕ね、以前、維震軍のみんなと一緒に(桂)三枝師匠のクイズ番組に出たことがあって……。

ケンコバ　えっ!? 維震軍全員で!?

越中　そう。それで収録が終わったあとに三枝師匠が僕らの横に来ましてね、「いま、(維震軍は)いい流れですねぇ」とおっしゃってくれて。試合の流れとか観ていらっしゃるんだなと思ってビックリしたことがありますよ。

ケンコバ　もともとお笑い芸人ってプロレスを凄く好きな方が多いんですよ。ただ、僕は維震軍が全員で三枝師匠のクイズ番組に出てたことにビックリしましたけど(笑)。

——越中さんから見てコバヤシさんのモノマネはいかがですか?

越中　いやぁ……俺、あんなことやってたかなって(笑)。よく維震軍の小林(邦昭)さんにも「せっかちだ」とか「試合中にジタバタしすぎだよ」って言われたことあるんですけどね、自分じゃわからないから。

ケンコバ　越中さんは試合中、フラストレーションが溜まる展開であぁなることが多いと思うんです。たとえばタッグがずっと分断されてて、やっと越中さんに回ってきたときとか。



役に立たないどうでもいい商売なんだけど、「越中詩郎ここにあり！」というのを見せたい

平成維震軍が全員で三枝師匠のクイズ番組に出てたことにビックリしました（笑）



越中　まあ、根がせっかちなんで、パートナーがモタモタしてると「どけって！　俺がやってやるって！」ってなりますね。

ケンコバ　前号の越中さんのインタビューを読ませていただいたんですけど、ホントに「～だって」（※注・いわゆる〝やるって節〟）と言っている自覚はなかったんですか？

越中　試合が終わるとテレビカメラがコメントを撮りに来ますよね。だいたい何を言ってんだかわからない（笑）。試合で興奮して、そのままの状態だから。

ケンコバ　逆にその興奮が聞いてる人の心に迫ってきますよね

越中　いやいや、ろくなこと言ってないと思うんですよ。

――いや、そうでもないんですよ。（本誌前号を広げながら）越中さんの発言でカルタができるぐらい、とにかく名言がメチャクチャ多いですから。

越中　これ、もう恥ずかしい！（笑）。誰がやったの？　こんなこと言ってたんですかねえ。

ケンコバ　僕は「次は神宮の花火みたいにパーッと防衛だよ」っていうのが大好きですね。季節感もあるし。

越中　……ああ（赤面）。もう30年近くやってるんで、いろいろありますよね。

ケンコバ　キャリアがメチャクチャあるにもかかわらず、いつ観ても越中さんはモチベーションが非常に高い印象を受けますね。コンディションも常にいいと思うんですよ。

越中　まあ、やっぱりこの仕事が好きですね、基本的に。人の役には立ってないどうでもいい商売なんだけど、でもその中で「ここにあり！」みたいなものは見せたいなって。

――「越中詩郎、ここにあり！」と。

越中芸人・ケンドーコバヤシ大ピンチ!?
越中詩郎本人の目の前で“越中芸”を披露することに！

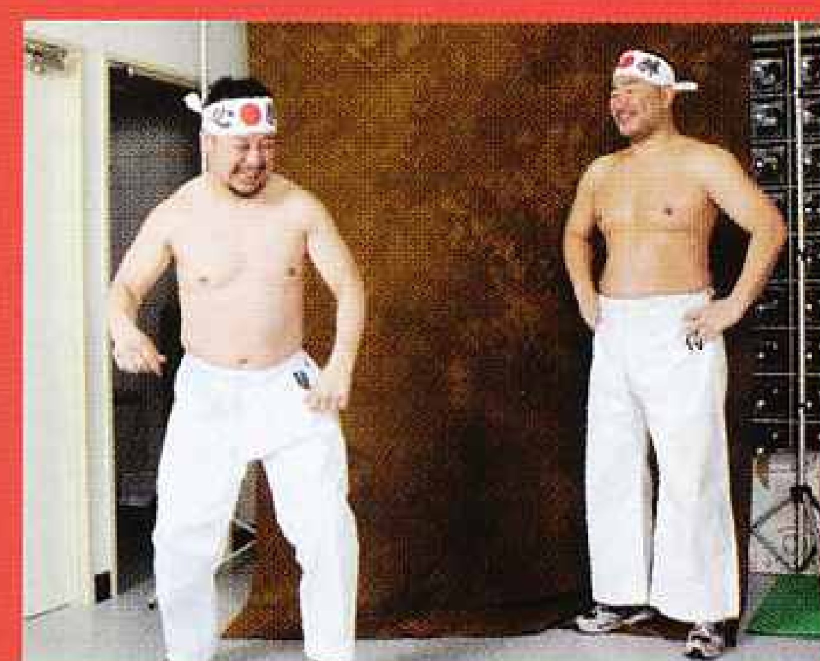




凄まじい打点の高さで放つ渾身のジャンピング・ヒップアタック！　単なるモノマネ芸の範疇を超えた！



すごい勢いでジタバタしながらタッチを受けてリングイン。この時点から笑顔がこぼれる越中本人。



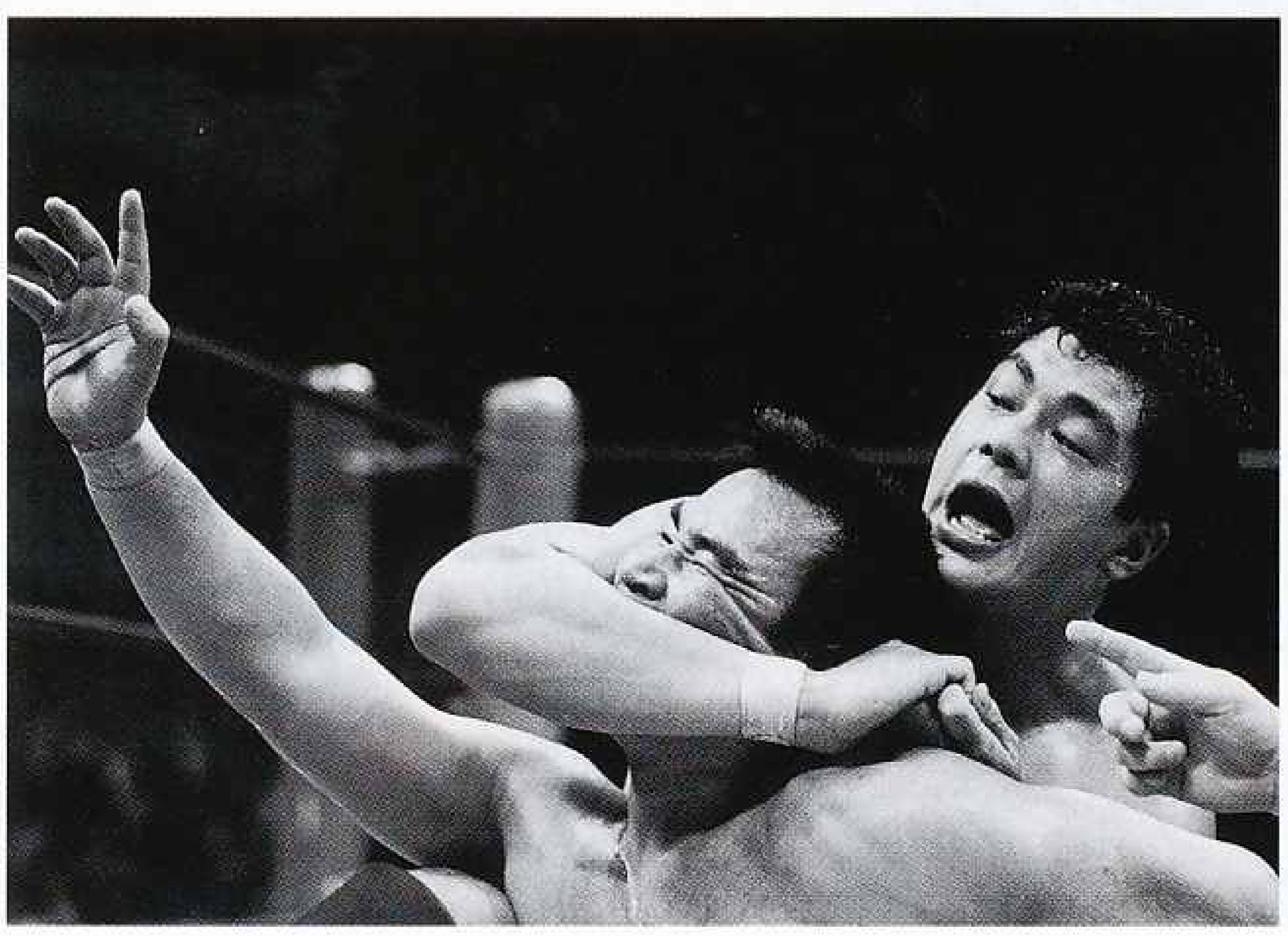
凄い気合いで相手をロープにホイップ！ 返ってくるところを待ちながら、さらにジタバタ！ 表情に注目！

いま腎臓結石ができてて昨日も座薬二つぶち込んで舞台に立ちました（ケンコバ）

越中　バカにするなよって。絶えずそれは自分に訴えてますね。

ケンコバ　こんなことを僕が言うのも失礼かもしれないですけど、越中さんは決してスター街道を歩いてきたわけじゃないじゃないですか。

越中　でもね、自分は振り返ってみると全部幸せだったですよ。そりゃ当時は大変ですけど、大変なのはプロなんだからあたりまえじゃない？　だっていま、サラリーマンの人とか大変だよ。新日本の選手なんかと話してると、「そんなの苦労じゃないだろ、一般の人はもっと大変だよ」って思うね。僕は同級生なんかと会ったりすると、



みんな大変だなって思いますよね。

ケンコバ　みんな弱音を吐きすぎだ、と。

越中　腕まくってやれ！　と。

ケンコバ　ケツはまくるな！　と。

越中　そう（笑）。

ケンコバ　「男は背中が勝負でしょって！」と前号のインタビューで言われてたじゃないですか。越中さんは背中を見せる意味でヒップアタックを使ってるのかなとか思ったんですよ。

越中　プロレスって不思議なもんでね、全部がリングに出ちゃうんですよ。いままでやってきたものとか、その人が置かれてる状況とか。だから全部一つ一つのことを大事にしていろんな経験したほうがいいよっていうのは僕の若い選手に対してのアドバイスですよね。失恋だって数多くしたほうが絶対にいいレスラーになるんですよ。

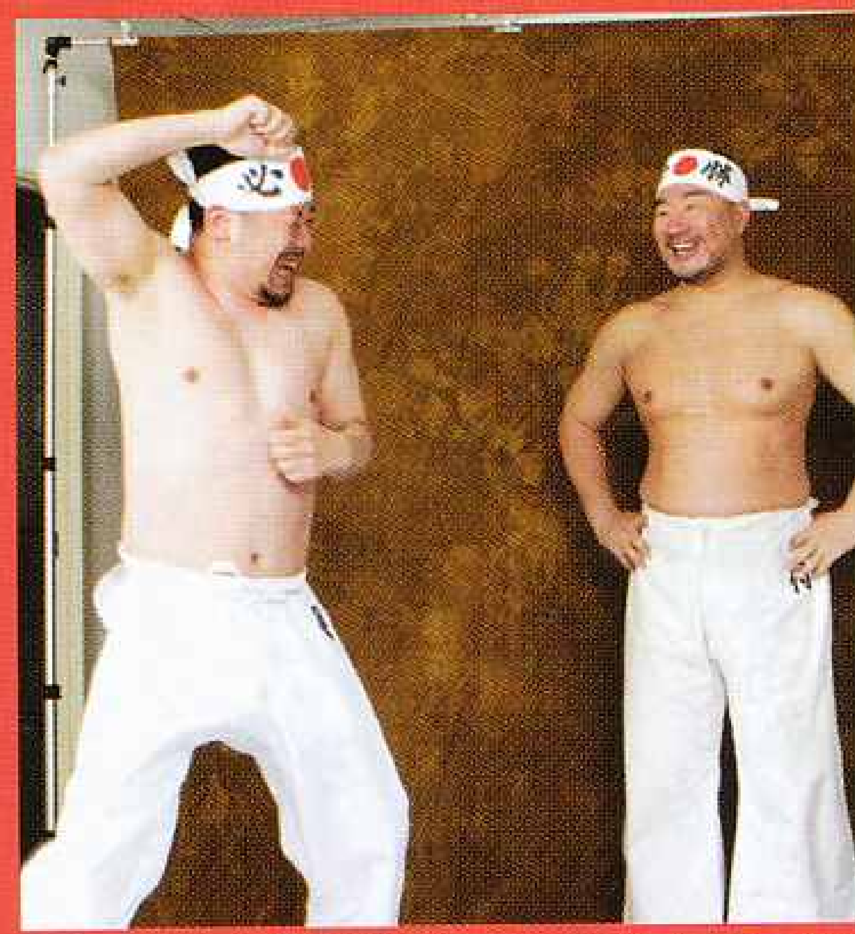
ケンコバ　そうなんですか!?

越中　会社でもなんでも、落ちこぼれたり、家庭に不幸があって、でもその中でも頑張らなきゃいけない状況になったり、そういうのもすべてを含めてのレスラーですよ。その中でいまの若い選手とか見てて、何も感じるものがないなっていうのはあるわけ。「おまえらノホホンとやってるんじゃないの？」って思うんですよ。そういうオーラがあるのがいないですよね。

ケンコバ　人生を感じさせるレスラーですね。そういう意味では、越中さんと髙田伸彦（現・延彦）さんの試合にはメチャクチャ人生を感じました。



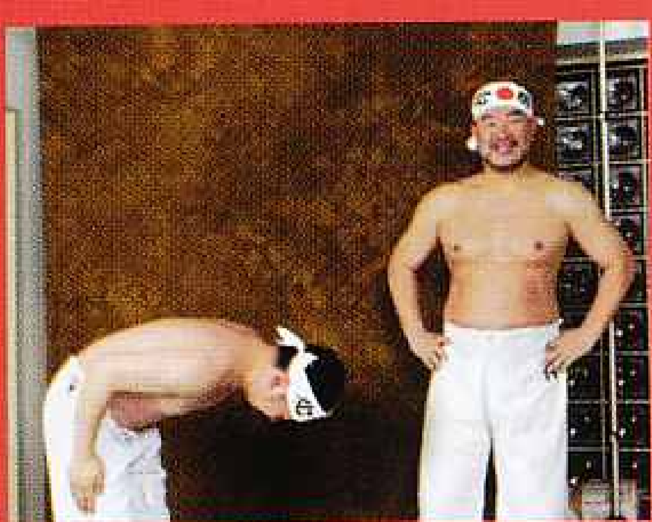
エビ固めで相手を押さえつけ、勝利を確信したガッツポーズ！　その場にいた全員が心の中で3カウントを数えたのは言うまでもない。



気合いがあふれ過ぎてもう全身が震えだす！　この場にいた全員が後楽園ホールにいるかのような錯覚を覚えた。



一瞬も気合いが途切れることなくハイテンションをキープしたまま続けざまに攻撃を繰り出していく。



全身全霊で越中芸を披露したケンコバを越中も認めた！　両者はガッチリと握手を交わし、ケンコバは深々と頭を下げた。感動的な瞬間だ。



「ねえ、俺ってもうちょっと二枚目じゃない？」という容赦のない越中の一言が、勝利の余韻に浸る越中芸人の心に突き刺さる。



パワーボムの体勢で相手を高々と抱え上げ、観客に自分の勢い、力、気合いを誇示しつつ、相手を叩きつける。



相手の頭を股間に固定して観客にアピール！　指をクルクルと回してオーディエンスを煽りまくる！

でも腎臓って二つあるんだよね？一つ取っても大丈夫だって！（越中）

越中　毎日リングで顔合わせてるんですよ。最初のうちは憎しみとかいろいろありましたけどね、最後のほうはもう戦友っていうか、へんな情みたいなものがわきましたね。

――非常に激しい当たりの試合でしたよね。

越中　彼は一発も緩めた蹴りとかチョップはなかったですよ。一発たりとも！

ケンコバ　髙田さんとしては潰してやろうと思ってたのに、潰れない越中さんという構図の試合だったから、もの凄い攻防してたんですよ。

越中　蹴りが僕の右の腕に入ってね、何日か腕が上がらないんですよ。その当時はトレーナーもいないし、休みたいとも言えなかったしね。

ケンコバ　ごまかしごまかし出たんですか？

越中　結局、筋肉が断裂しちゃってたの。

ケンコバ　えっ⁉　そんな状態でもゴングが鳴れば動くんですか？

越中　そう、動いたんですね。それだけ闘志を燃やしてくれましたね。ケガもすっ飛んで行っちゃうような。

――ケンコバさんも舞台に上がればバッドコンディションでも気にならない、みたいなことはありませんか？

ケンコバ　じつはいま、腎臓に結石ができてるんですね。

越中　えっ、腎臓に？

ケンコバ　はい、腎臓結石なんです。だから越中さんと比べたら失礼ですけど、昨日は座薬を二つぶち込んで舞台に立ちました。

越中　なぜそういうふうになっちゃったの？

ケンコバ　まあ、不健康な暮らしのせいですね（笑）。

越中　でも腎臓って二つあるんだよね。一つ取っても大丈夫だって。

ケンコバ　いやいや（笑）。さすがに石が出るのを待ったほうが早いと思うので、とりあえず水とビールを大量に飲みます。

越中　昔ながらの芸人さんみたいな根性でいいねえ。

ケンコバ　ホンマですか！　風邪をひいたときは風邪がネタになるのが芸人なんで。

――どういうふうにネタにしてるんですか？

ケンコバ　同情を誘うんです（笑）。僕、尿道炎になったときはよく膿（ウミ）が出てたんで、ウミに関する歌を歌いながら出てましたよ、「♪ウ～ミよ～」加山雄三さんの歌とか口ずさみながら。

――そっちの海ですか（笑）。海といえば、維震軍もたまにサイパン合宿をやってましたよね。

ケンコバ　いいですよね。みんなで海岸でトレーニングして（笑）。ああいうのまたやってほしいですね。

――維震軍時代で一番の思い出ってなんですか？

越中　……難しいですねえ。一番感慨深かったのは（ザ・グレート・）カブキさんの加入ですね。いまだから話せるんですけど、維震軍にカブキさんを「入れる」「入れない」ってなったとき、どっちかっていったらしんどいんじゃないかなって思ったんですよね。ところがどっこいですよ、一緒に

やったら凄かった。(斉藤)彰俊もそうだったし、小原(道由)もそうだったし。こっちとしては「無理なんじゃないかな」と思ってたのが、「あれっ? やってくれるじゃん」っていうのが重なって、いい意味での期待外れですよ。

ケンコバ 維震軍に集まった選手がナンパな匂いがゼロでしたよね。あの当時、ちょっとでも骨あるヤツはみんな維震軍を応援してたと思うんですよね。

越中 あの当時は(闘魂)三銃士とかもいましたけど、みんな会社のレールに乗ってるんですよ、彼らは。僕らは外されちゃってるわけですけどね。

ケンコバ 売り出しやプッシュがない?

越中 うん。だからコンチクショウですよね。

ケンコバ だからコンチクショウ!(笑)。

越中 会社のレールに乗っけないなら乗っけないでいいけど、おまえらふざけんなって! 僕らはそういう精神でずっとやってましたね。

――そういう精神に世の中から疎外感を感じてるような若い男子は熱狂してましたよ。

ケンコバ 去年のWARの興行でひさびさに再結成されて。あのときもオールドファンは涙しましたね。小林さんも来て旗を振ってましたけど。

越中 まだまだですよね、カブキさんは来てくれないしね。木村(健悟)さんもいるから。まだ夢はありますよ。いきなり入ってきてカブキさんにヌンチャク振り回してもらいたいしね、毒霧吹いてもらいたいしね。

ケンコバ また観たいなあ!

越中 最近はね、リングに上がっててもね、みんなが俺の背中を押してくれるような気がしてしょうがないんですよ。凄くやりがいも感じてるし。ここまで来たらね、いままでやれなかったようなこともやりたいね。僕はもう50近いんですけど、ここから見てろよ! みたいなね。50過ぎてこんなレスラーいなかったってことがやりたいね。棚橋(弘至)がいまIWGPチャンピオンなんですよ。彼はキャリア8年か9年ですけど、僕は今年で29年目ですから。



ケンコバ ぜひ今年はIWGPチャンピオンになってほしいです!

越中 僕が8～9年目の頃なんてね、まだ試合は第1試合で両手で持てないぐらいの荷物を運んで下積みをやってましたよ。そんなヤツらに負けてたまるかって! それで頂点に立っちゃってるんだから。まだこっちは頂点を拝んだことないのに。だから今年はホントに血が騒ぎますね。

ケンコバ 今年はIWGP戴冠と、あとG1も越中さんに優勝してほしいんですよ。

越中 夏は大好きだよ。

ケンコバ おっ! 期待してます!

――では、最後にケンコバさんから越中さんにこれだけは聞いておきたいということはありますか?

ケンコバ あの……これからもモノマネやってもいいでしょうか?

越中 どうぞどうぞ(笑)。

ケンコバ ありがとうございます。

――越中さんからモノマネする際のアドバイスってありますか?

越中 僕はイケメンで売ってますから。そこだけはしっかり頭に入れといてもらえれば。

ケンコバ わかりました! これからはイケメンを意識して越中漫談をやらせてもらいます(笑)。

【07年4月6日/『kamipro』編集部にて収録】

『アメトーーク!』担当プロデューサーが語る

越中ブーム誕生秘話

～なぜ『アメトーーク!』は越中詩郎芸人を取り上げたのか？～



越中詩郎芸人としてケンドーコバヤシとともに登場したのはバッファロー吾郎（木村明浩、竹若元博）、博多大吉。濃いメンツだ！

越中詩郎芸人というテレビ史上に残るマニアックな企画を放送したテレビ朝日『アメトーーク！』は雨上がり決死隊が司会を務めるお笑い番組だ。他の番組ではなかなか観られないような独自の角度で芸人さんを集めて濃厚なトークを繰り広げる内容で人気を博している。

07年1月25日に放送された「ガンダム芸人vs越中芸人」の回は放送前からプロレスファンのあいだでは話題になっていたが、放送直後にも大反響を呼んだ。インターネット動画投稿サイト「YouTube」に番組の映像がアップされると、ロコミで評判が広がり越中ブームはさらに拡大していった。

というわけで、今回『アメトーーク！』の担当プロデューサー・演出の加地倫三氏にこの突拍子もない企画が実現した経緯をうかがってみた。

構成／坂井ノブ

そもそも「越中芸人」というプロレスファンの琴線を絶妙にフェザータッチする企画を担当した加地氏は、かつて新日本プロレスの中継番組『ワールドプロレスリング』を担当していたという。

「ディレクターを2年ほどやってました。ちょうど反選手会同盟から平成維震軍になる頃で越中さんが大活躍していた時期ですね。僕が担当してたときは越中さんと馳（浩）さんの試合だけは絶対にハズレがなくて本当におもしろかったですね」

そんな因縁を持つ加地氏から観た平成維震軍、そして越中詩郎の魅力とはいったいどんな部分なのだろうか？

「不器用な人たちの集まりってとこが凄く好きでした。たとえばいまでも髙田（延彦）さんはしゃべりもうまいじゃないですか？ 蝶野（正洋）さんも上手ですよね。越中さんは試合後のコメントでも決してうまいアピールではない。不器用なんだけどとにかく熱い。そこがなぜかカッコいいんです」

その不器用な熱さの魅力をケンドーコバヤシという稀代の天才芸人が『アメトーーク！』で大プッシュしたことにより越中ブームが誕生したのだ。

「もともと『アメトーーク！』のプレゼン企画というのがありまして、芸人さんが自分で企画を持ち寄ってプレゼンするというものなんです。ちょうど僕はマニアックな企画を出す人がほしいなと思っていたんです。だからコバに『企画出して』ってオファーしたんです。コバならきっと越中ネタで来るだろうな……という読みがあったんですけど、案の定でした（笑）」

なんと、この企画はそんな自然な流れの中から生まれたものだった。加地氏から「越中芸人でプレゼンをしてくれ」と頼んだわけではない、というわけだ。マニアックな企画がほしいと目論むプロデューサーと「越中ネタで来るんじゃないか」という期待にガッチリ応えたケンドーコバヤシの思いが合致して、あの企画が生まれた。

「まずガンダム芸人が出てきたときはスタジオのお客さんもキャーって状態だったんですけど、越中芸人が出てきたときはキョトンとした感じだったんです。でも、そこはコバが一気に持っていきましたね。コバが凄いのはその場の空気に関係なく、コバの発言によって自分の空気に持っていけるところでしょう。真のエンターテイナーですよね。僕は越中ネタで一人でゲラゲラ笑ってました（笑）」

あの番組の中で越中の旧テーマ曲『SAMURAI』が流れたのは「僕の中の越中さんのイメージが、どうしてもあの曲だったから」という加地氏こだわりの演出だった。この番組の放送後、越中はテーマ曲を『SAMURAI』に戻している。



『アメトーーク！』演出・プロデューサー

加地倫三（かぢ・りんぞう）

番組が及ぼした影響はそれだけにとどまらない。

「視聴率はそこそこでしたけど、僕らが驚くぐらい反響は凄く大きかったですよ。越中さんのブログのサーバーがパンクしたとか、越中さんのTシャツが発売されたとか、いま会場での声援が凄いことになってるとか。正直、ここまでの大反響になるとは思ってなかったです。今度はIWGPタッグ王座にも挑戦するんですよね？ 流れが凄く越中さんに向いてきましたよね。この勢いでIWGPヘビー級にも挑戦してほしいし、G1の活躍にも期待しています」

加地氏の願いはプロレスファン、そしてケンドーコバヤシが言うところの〝隠れコシナカン〟の願いでもある。

「今回こういうかたちでプロレス界に恩返しできたことが嬉しい」と語る加地氏。じつは今回の対談、ひょっとしたら先に『アメトーーク！』でやるんじゃないかと思っていたのだが……。

「逆にバラエティの世界では越中さんって幻想の世界の人にしたいんですね。コバがやってる越中漫談をイメージしながら、視聴者の人が会場に足を運んで『越中さんってどんな人だろう？』って興味を持ってもらえたらいいですよね。でも、『kamipro』さんの中でこういう機会があったので番組でも紹介しよう、と（笑）」

すでにこの模様の放送は終わっているが、まだまだ越中ブームは終わらないって！





ついに遭遇した両者はサッカーの試合後の選手のようにTシャツを交換。ケンコバから『アメトーーク！』Tシャツ、越中からは侍魂Tシャツをそれぞれプレゼント！

アメトーーク



雨上がり決死隊のトーク番組

『アメトーーク！』

テレビ朝日系列で毎週木曜23時15分



さらば、我らがボヤキング！

金原弘光 あと一試合で引退 Special

我らが金ちゃんが、ついにリングを去るときが来てしまった！　3.18パンクラスでの川村亮戦で、激闘の末、敗れたあと「あと一試合で引退」を表明したのだ。その日本人屈指の実力者ぶりと裏腹な不遇ぶりから、数々のボヤキ発言を残し、本誌ではインタビューやコラムが大人気だった金ちゃん。そんな彼の真の実力とおもしろさを最後に伝えられるのは『kamipro』しかない！　というわけで、「金原弘光あと一試合で引退スペシャル」をお送りいたします。

また一人、"U"の体現者がリングを去る――
我らが金ちゃんが、あと一試合で引退を表明！

金原弘光

決断までの葛藤

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄

リングス時代は"最後のエース"として活躍しながらも、団体が解散し、フリー転向後は満身創痍の中、思うような試合ができないでいた金ちゃん。苦しみ悩んだ末に「引退」という決断をするまでには、どんな葛藤があったのか。思い出深い、旧リングス前田道場跡地近くの土手に足を運んでもらい、"決断"に至るまでの心の声を聞かせてもらった。

金原弘光 Special あと一試合で引退

――「あと一試合で引退」を発表してから5日が経ちましたけど、いまの率直な感想はいかがですか？

金原 心境は……まぁ、ホントに辞めるときが来たんだな、っていう感じだよね。なんかね、疲れたよ。ホントに疲れた。人生に疲れたというか……。だって試合後、マイクで「あと一試合で引退」って発表して、控室に戻ってから発した第一声が、「俺、疲れちゃった」だったんだよ。だからホントに疲れたんだよね、いろいろあって。

――それは現役生活に疲れたということですか？

金原 選手生活もそうだし……リングスが解散してから、やっぱりいろいろありすぎたよね。よりによって（ヴァンダレイ・）シウバ戦の直前にじん帯断裂して、ヒザの大きな手術して、思うような試合ができなくなって……。それで、前から「もう辞めたい」「辞めよう」と思いながら試合してたから。

――いつ頃から「辞めたい」って思い始めたんですか？

金原 一番最初に思ったのは、アリスター・オーフレイム戦のとき。

――『PRIDE』3戦目ですか。

金原 うん。『PRIDE』一戦目でシウバとやったあと、ヒザの手術をして1年半試合ができなくて、復帰戦でミルコとやったでしょ？ あのときはヒザの感覚も全然戻ってなくて、思うような試合はできなかったけど、1年半のブランクで2週間前のオファーで受けて、ミルコと判定までいけたんで、ある程度自信は持てたんだよ。

――ヘビー級トップクラスのミルコ相手に、ミドル級でも小さいほうである金原さんが、あれだけやったんですからね。

金原 それで「次は勝つぞ！」ってアリスター戦に臨んだんだけど、リングに上がったら、なんか心ここにあらずみたいな感じで、ボーッとしちゃって全然、力が出ないんだよね。それで試合後、原因がわからないから、「自分のパフォーマンスもできないし、気合いも入らないなら、もう辞めたい」っていう気持ちが凄く出てきたんだよ。

――納得のいく試合ができなくなったんじゃないか、と。

金原 そのあとドクターに相談したら「試合前に何かありました？」って聞かれて、「試合の2～3日前に（チョークで絞められて）落ちました」って言ったら、「それならしょうがない」って。「試合直前に落ちたというのは、KO負けした直後に試合するようなものだから、それはボーッとするのも無理ないですよ」って言われて、原因がわかったから、そこはなんとか踏みとどまったんだよ。でも、次の（マウリシオ・）ショーグン戦も、同じように自分の力を発揮できずにすぐ終わっちゃったでしょ？

――う～ん、そうでしたね。

金原 「なんだこれ？ このまま納得



「思うような試合が
できなくてつらかった。
俺、疲れちゃったんだよね」



金原弘光 あと一試合で引退 Special

できない試合を続けていくのはイヤだな」って思ってさ。83キロ（ウェルター級）に転向することも考えたんだけど、「納得いく試合ができるようになるまで一回『PRIDE』離れよう」と思って。契約はもう一試合残ってたんだけど、出してもらったの。で、そのあとロシアに行ったじゃん？（リングス・エカテリンブルグ旗揚げ戦）。あれで完璧に辞めたくなったね。

——ユーリ・ベキチエフの後ろ回し蹴りで、流血ドクターストップ負けになっちゃったんですよね。

金原 負けるわけがない相手でさ、実際、試合開始してすぐに1エスケープ奪ってさ（この試合は旧リングスルール）。でも、蹴りが頭をかすめて血が出てストップだからね。たぶん昔の自分だったらあんなのかわせるだろうから、反応が鈍くなってるのか、集中力がなくなってきてるのか……もう考え込んじゃってさ。

——そういう試合が続くと悩みますよね。

金原 そう。負けが続くと悪いほうへ悪いほうへ考えちゃうんだよね。昔はどんな相手でも強気に出られたのが、「また負けるんじゃないか」「また自分の力が出せないんじゃないか」って。気持ちが弱くなるんだよね……。

——身体より気持ちのほうが参ってしまう、と。

ある種、自殺願望みたいなもので“介錯人”を待っていたのかもしれない



金原 だから、そのあとの近藤（有己）戦とか、ハリッド（・ディ・ファウスト）戦とか、動き自体は悪くなかったと思うんだけど、なぜか（勝ち）星がついてこないから、「もう勝てないんじゃないか……？」って考え込んじゃうよね。それに、俺はフリーだからさ、次にいつ試合が組まれるかわからないし、急なオファーもけっこうあって……そういう状況自体もイヤになってきて。

——2カ月後の試合に向けて練習とかができないわけですね。

金原 そうそう。「常在戦場」とかよくいうけど、1年中、コンディションをピークに持っていくなんて不可能だからね。いつ試合があるかわからない中で追い込むような練習を続けるのって凄く大変なんだよ。

——いつテストがあるかわからない中で受験勉強するようなもんなんでしょうね。

金原 そうだよ！ 入学試験が自分だけ抜き打ちテストだったらイヤでしょ？（笑）。

——それはメチャクチャ、イヤですねぇ（笑）。

金原 ホントにそんな感じなんだもん。試合の2週間前とか凄い急なオファーもけっこうあってさ。それで満足いく闘いができなくて落ち込んでさ……もうイヤになっちゃったんだよね。

——どんどん悪循環にはまっていっちゃったんですね。

金原 だからさ、あまりにも悪いことばかり続くから、何が悪いのか原因をいろいろ考えてさ。ウチのマンションの横に大きなマンションが建って、日当たりが悪くなったから、それが風水的に悪いんじゃないかとかさ（笑）。

——どんどんそっち方面に原因を求めちゃって（笑）。

金原 だから俺、ここ数年でありとあらゆるお祓いとか試してるからね。いま考えると笑っちゃうようなこともいっぱいやってるから。

——あきらかに怪しいことまで（笑）。

金原 そう。昔はカミさんが占いの本を読んでるだけで馬鹿にしてた俺がさ、霊能者に診てもらったりとか、ホントにワラをもすがる思いでいろいろ試したんだよ。

——たとえば、どんなことやったんですか？

金原 インドのお祓いとかね。

——インドのお祓い！（笑）。

金原 なんかインドから来たお坊さんのところに行って、おはらいしてもらったんだけど、何も変わらなかったね（苦笑）。

——インドは金原さんに合いませんでしたか（笑）。

金原 ああいう人たちってさ、誰が本物かどうかなんてわからないじゃん。だから「実家がよくない」って言われたら、すぐ実家まで飛んでお祓いしてもらったりね。昔だったら、「そんな適当なこと言うんじゃねーよ！」って言い返せたんだけど、落ち込んでるときって、いろいろ思いあたるフシが出てきちゃうから「やっぱり、そうですか……」ってなっちゃうんだよね。

——前田（日明）さんが『オーラの泉』に出たときみたいですね（笑）。

金原 そうなっちゃうんだよ！ だ

リングス解散後 金原弘光 苦闘の歴史



'02.11.24 東京ドーム『PRIDE.23』

× vs ヴァンダレイ・シウバ
[1R 3分31秒 TKO タオル投入]
この日は髙田延彦引退興行とあって、元Uインターの金ちゃんもいきなりシウバのベルトに挑戦というビッグチャンスをつかむも、試合前にヒザじん帯断裂の超不運に見舞われ無念の敗北。



'04.05.23 さいたまスーパーアリーナ PRIDE武士道-其の参-

× vs ミルコ・クロコップ
[2R終了 判定負け 0-3]
ヒザの手術から1年半ぶりの復帰戦の相手が、よりによってミルコ！ そんな苦境にもめげず、真っ向勝負で判定まで持ち込むも、『格闘技○信』に「ミルコに何があったのか？」と書かれ金ちゃん激怒。



'04.10.31 さいたまスーパーアリーナ PRIDE.28

× vs アリスター・オーフレイム
[2R 3分52秒 ドクターストップ]
ミルコに続いては、とても同じ階級とは思えない体格を誇るアリスター。身長差じつに17センチ。金ちゃんはリーチ差に苦戦しながら奮闘するも、2ラウンドにドクターストップがかかり敗戦。



'05.02.20 さいたまスーパーアリーナ PRIDE.29

× vs マウリシオ・ショーグン
[1R 1分40秒 TKO]
ミドル級GP出場査定試合の意味合いもあったこの試合。“査定”の相手がショーグンってハードル高すぎでしょうが、アンタ!!（ドンッ）。金ちゃん無念の落選、ショーグンはその後GP優勝をはたした。

から、ああいう商売がなんで栄えるのかがよくわかったね。結局は自分自身が変わらなきゃ何にもならないんだけど、気持ちが弱ってるときって、そういうものにすがっちゃうんだよ。

——それが身をもってわかった、と。

金原　わかったねぇ（しみじみ）。それでお祓いとかいろいろやる中で、ようやく〝本物〟っていうかさ、いいこと言ってくれる人が現われたのよ。それで、その人が「なんでも自信を持ってやりなさい。マイナスの言葉は使わないようにしなさい」って言うから、実践してたの。須藤元気くんも本で書いてたでしょ？　「いい言葉はいい未来を連れてくる」って。

——ああ、『風の谷のあの人と結婚する方法』ですね（笑）。

金原　だから俺も「ダメ」とか「ムダ」とか「負け」とかマイナスの言葉は一切使わないようにしてさ。いいことなんかちっともないのに、「あぁ、今日もいい日だったな〜」とか言ってね。頭にくることがあっても、決して口には出さなかったのよ。そしたら、逆にノイローゼになっちゃってさ（苦笑）。

——ダハハハハ！　ボヤキを封印したら、ノイローゼになっちゃいましたか（笑）。

金原　「神様に感謝して、いい言葉を発しなさい。そしたらあなたの未来は変わりますよ」って言われたんで、そういうふうに生活したのに、ちっともいいことないからさ、「神様なんていないんだ！」っていう気持ちがどんどん大きくなっちゃって。言葉に出さないぶん、悪い言葉が頭の中をグルングルン回っちゃうのよ。たとえば、昔エンセン（井上）がよく「ワタシのこと悪く言うヤツ、くたばれ！」とか言ってたじゃん。それ思い出したら、「くたばれ！　くたばれ！　くたばれ！　くたばれ！」って頭の中をグルングルン回っちゃうの。

——悪い言葉の行き場がなくなって、自家中毒症みたいな感じになっちゃってた、と。

金原　だから精神病だよね。格闘技って「心技体」ってよく言うけど、なんで一番最初に「心」がくるのかよくわかったよ。やっぱり心がしっかりしてないと、技も肉体もついてこない。それで口には出さなかったけど、「負けて引退したい！　負けて引退したい！」っていう思いがどんどん強くなってきちゃって……。

——ある種、自殺願望みたいな感じですね。

金原　そうだね。だから介錯人を待っていたのかもしれない。自害するときって、腹を切っただけじゃすぐ死ねないから、介錯人に斬ってもらうでしょ？　俺も自分の中じゃ、もう前から腹を切っていながら死ねないでいたのを、川村（亮）くんが介錯してくれたんだよね。だから、リング上で自分が負けたって気づいたとき、「ああ、やっと辞められる！　ありがとう！　もう俺は疲れたよ」っていう気持ちになったからね。これが勝ったり、判定だったりしたら、モヤモヤが消えてないと思うけど。

——では、川村選手に負けたら引退と考えていたというより、どこかでKOなり、一本で負けたら引退しようと思っていたわけですか。

金原　そうだね。でも、今回はとくに〝予感〟みたいなものがあったの。

——〝予感〟ですか？

金原　今回、自分より一回り若い25歳の選手と闘うっていうんで、自分が25歳のときのキングダムのDVDを観てみたんだよね。俺はいままで、少しずつでも毎年成長してると思ってたの。昨日の俺より今日の俺のほうが強いって思いでずっとすごしてきたんだけどさ、キングダムのDVD観て、「いまの俺じゃ、この頃の俺に勝てないわ」って思ったの。

——キングダム時代は一番動けたときだから、しょうがないんじゃないですか？

金原　でも、そこでハッキリ自分の衰えに気づいたんだよね。昔だったらさ、試合前は「この相手ならこういう試合になって、こうやったら勝てるな」って、試合展開が頭に浮かんで、だいたいそのとおりになってたんだよ。でも、最近は自分が想像したのと全然違う展開、結果になることが多くてさ。それって、もう自分の考えてる動きができなくなってるってことなんだよね。

——自分を客観視するって、難しいですからね。

金原　だからキングダムのDVDをあらためて観たらショックだったよ。それで「もう俺は衰えたんだな」と思ってね。「引退しなきゃいけないかな」と思ったら、どんどんそうい

金原と闘うと出世する？

格闘技界には奇妙なジンクスが存在する「金原と闘うと出世する」。下の一覧を見てほしい。金原と闘った多くの選手が、メジャー舞台のチャンピオンに大出世してるのである。それに引き換え、対戦相手に運を吸い取られたかのように、“無冠の帝王”であり続けた金ちゃん……。それにしても、これだけの強豪と闘い続けた金ちゃんの凄さとタフネスぶりには、あらためて驚かされる。

■ダン・ヘンダーソン　KOK優勝→PRIDE 2 冠王獲得
■アレシャンドリ・カカレコ　アブダビ準優勝
■デイヴ・メネー　UFCミドル級王座獲得
■A・ホドリゴ・ノゲイラ　KOK優勝→PRIDEヘビー級王座獲得
■ヒカルド・アローナ　アブダビ優勝→リングスミドル級王座獲得
■ヴァンダレイ・シウバ　PRIDEミドル級GP2003優勝
■ミルコ・クロコップ　PRIDE無差別級GP2006優勝
■アリスター・オーフレイム　PRIDEミドル級GP2005ベスト４
■マウシリオ・ショーグン　PRIDEミドル級GP2005優勝
■ハリッド・ディ・ファウスト　武蔵を下しK-1 WORLD GP2006ベスト８
■アルボーシャス・タイガー　パンクラスヘビー級王座獲得
■川村亮　パンクラスのエースへ？



取材のためにひさびさに、旧リングス前田道場を訪れた。リングス勢だけでなく、桜庭和志らも練習に来ていた道場は、いま倉庫になっていた。



'06.10.28
両国国技館 MARS

vs マルセロ・ブリッド
[結果はいまだに協議中]
デビュー戦を闘った思い出の両国ということで、MARSに初参戦。ブリッドの素早い腕十字をギリギリで切り返すもレフェリーがストップ。結果は協議に持ち込まれたが、いまだに正式発表はない。



'06.08.15
後楽園ホール
エンセン井上プロデュース興行〜心〜

× vs アブドルザコフ・ルスラン
[1R 2分02秒 ヒールホールド]
親友エンセン井上の初プロデュース興行に出場した金ちゃんは、ロシアのルスラン相手にひさびさの勝利を挙げるも、試合中、パンツのお尻の部分が大きく破れ、観客に笑いも提供。



'06.04.09
ディファ有明 パンクラス

× vs アルボーシャス・タイガー
[3R終了 判定負け 0-3]
浜中和宏欠場により、なぜかミドル級の金ちゃんがヘビー級トーナメントに急遽エントリー。階級の“下限”ギリギリの90.1キロまで増量して挑んだが、圧力差はいかんともしがたく判定負け。



'05.10.02
横浜文化体育館 パンクラス

× vs 近藤有己
[3R終了 判定負け 0-3]
菊田早苗欠場により急遽、パンクラス初参戦し、近藤と対戦。試合は互角の攻防の末、僅差の判定負けとなったが試合後、欠場したくせに菊田がリング上がりマイクアピールしたことに金ちゃん激怒。



'05.08.18
ロシア・リングスセンター
リングス・エカテリンブルグ旗揚げ戦

× vs ユーリ・ベキチェフ
[1R 流血ドクターストップ]
ロシアン・トップチームのN・ズーエフ氏が主宰するリングス・エカテリンブルグ大会に参戦。地元のベキチェフと対戦した金ちゃんだが、後ろ回し蹴りが頭をかすめ、まさかの流血ドクターストップ。



試合後に「あと一試合で引退」を表明したパンクラスでの川村亮戦。結果はKO負けだったものの、試合自体は「パンクラス史に残る」との声があがるほどの大熱戦。金原は、パンクラスでもっとも勢いのある男・川村亮を相手に真っ向勝負を展開し、フリー転向後のベストバウトとも言える名勝負を残した。

う気持ちになっちゃって。しかも、テレビを観てたら、やたら「引退」についての番組が目についてさ（笑）。

――「引退」という言葉に過敏になってたんでしょうね（笑）。

金原　俺、小谷実可子が好きなんだけど、その週の『オーラの泉』のゲストとして出てたから観てたらさ、「シンクロだけがすべてじゃないよ」とか言われてたんだよ。

――それを観て自分も「格闘技だけがすべてじゃない」とか思っちゃって（笑）。

金原　そうそう。それで試合前日なんて、有森裕子とかの引退特集番組とかやってんのよ（笑）。

――よりによって、そのタイミングで（笑）。

金原　なんかそういうのも重なって、試合前日なのに眠れなくなっちゃってね。「負けたら引退しよう、負けたら引退しよう」っていう言葉ばかりが頭に浮かんでさ。猪木さんじゃないけど、やる前から負けること考えてたら、もうダメだよね。

――でも、川村戦の試合自体は素晴らしかったですよ。

金原　みんなそう言ってくれるんだけどね。でもやっぱり向こうのほうが勢いあったよね。3ラウンドに入って、パンチでラッシュしたとき「あ、勝ったわ」って思ったんだけど、打ち合いになったら逆にKO負けしたわけだから。そこが、これから伸びていく選手と辞めていく選手の違いだよね。

――そして試合後、「あと一試合で引退」を発表したわけですけど、パンクラスで引退するというのは、以前から考えてたんですか？

金原　そうだね。やっぱり、俺はUインターで始まって、キングダム、リングスと、ずっとU系で闘ってきたからさ。それで〝U3派〟っていわれた中で、いまでも残ってるのはパンクラスだけだからね。自分の中ではパンクラスだけは生き残って、大きくなってもらいたいという思いがずっとあったからさ。それで、その頂点である近藤選手はまだ若いから。俺の中からいい遺伝子を吸収して、もっともっと大きくなってもらいたいんだよね。そういう願いがあるよ。

――それで「近藤選手と闘いたい」と言ったわけですか。

金原　そう。彼にU系の未来を託したいなって。でも、ケガして欠場中だっていうのを知らなかったんだよね（笑）。だから、どうなるかわからないけど、彼が受けてくれるなら、パンクラスで近藤選手とやりたいね。そしてそのときは、ぜひ師匠である高田（延彦）さんに、俺の最後の試合を観てほしいよ。

――もう一人の師匠である前田（日明）さんには、引退の報告はされたんですか？

金原　俺はあらためて、直接会って報告しようと思ってるんだけど、とりあえずカミさんが電話で報告したよ。

――なんて言ってました？

金原　「ホンマか！　これからどうするんや!?　もったいないな～」って言ってたらしいよ。「おまえ、それでええんか！」って、なぜかウチのカミさんが怒られたり（笑）。

――じつに前田さんらしいですね（笑）。で、前田さんは、引退試合のときは来場してくれるんですかね？

金原　そこなんだけど、よくよく考えたら、パンクラスに前田さんは来れないよねぇ。それもあってか前田さんからは「俺の前でもう一試合やってくれ」って言われてるんだよ。だから、もしかしたらパンクラスでの引退試合の前に、前田さんの前でもう一試合やるかもしれない。

――それはいいですね。リングス時代のファンも喜びますよ。

金原　近藤選手とやるとしたら、早くても秋ぐらいになっちゃうみたいだからね。だから夏か秋ぐらいまでは、現役として、気を抜かずに頑張るつもりだよ。それにしても、この前さ、銀行に行って通帳記帳してきたんだけど、「16年間プロでやってきて、貯金はこれだけかぁ」って寂しくなったよ（笑）。

――やっぱりフリーになっていきなりヒザの手術で1年半も試合ができなかったことが大きいですかね？

金原　あれは大きかったね～。手術代や治療費が凄くかかったし、収入といえば『ｋａｍｉｐｒｏ』のコラムぐらいだったからさ、確定申告したら、その年の年収34万円だったから（笑）。

――年収34万円！

金原　そのあとは、お祓いとかにもかなりお金使っちゃったからね。つらかったな～。でも、いまは大きな悩みや苦しみから解放されてスッキリしてるけどね。

――では、現役生活を振り返って、「ちょっと時代が違ったら」とか、そういうふうには思いませんか？

金原　ああ、もうちょっと遅かったら……と思うこともあるけど、松井



キングダム後期、若き二枚看板としてメインイベンターとなった金原と桜庭。ヒクソンに敗れた師匠・高田の汚名を返上すべく立ち上がったのが、この二人だったのだ。

パンクラスは“U系”最後の団体 近藤くんに“U”の未来を託したい

（大二郎）とか滑川（康仁）の世代も大変で、あれはあれでかわいそうだからね。どのラインがよかったのかはわかんないよ。

——でも、キングダムの頃に、いまみたいな総合格闘技の時代がきていたら、とか思いませんか？

金原 それは凄くあるよ。あの頃はホントに自信あったから。さっきも言ったけど、キングダムのDVDを観て、「俺、凄い自信満々で闘ってるなぁ」って思ったもんね。いまさ、『HERO'S』で（メルヴィン・）マヌーフっているじゃん。あいつの危ない雰囲気とか圧力みたいなものって、画面からでもわかるんだけどさ、自分の若いときの映像に、それと同じような雰囲気が出てたんだよね。

——ホント、自信満々で、ふてぶてしかったですもんね。

金原 そうそう。もう打撃もバチバチ入れていってたからさ。「ああ、自分もこうだったな」って思い出したね。そういう自分のピークの頃に、格闘技の時代がきてなかったのは確かに残念ではあるよ。ちょっと遅かったよね。

——KOKでギリギリ間に合ったかと思ったら、団体がなくなっちゃったり（笑）。

金原 そうだね。でもKOKのときが、すでに30歳だもんね。やっぱり一番いい頃って25歳～30歳がギリギリなんだと思うよ。やっぱりダメージとか、蓄積疲労とかあるから。

——とくに打撃のダメージ蓄積って大きいでしょうね。

金原 そうだね。だから一回でもKO負けしたことある選手っていうのは、それだけでもう脳へのダメージがあるわけだから。現役生活が長くなればなるほど、どうしてもダメージが蓄積して、打たれ弱くなっちゃうんだよ。それは今回の試合でも感じたよね。いままでは「打ち合いになったら負けるわけがない」と思ってたけど、それが逆に倒されちゃったわけだからさ。

——昔の金原さんは、あのデイヴ・メネーにも打ち勝ってたわけですからね。

金原 それは練習にも出ててさ、俺はいままで練習でダウンしたことなんて一回もなかったのに、去年の秋ぐらいに横井（宏考）とスパーリングやったとき、パンチもらってダウンしたの。このときもね、「ああ、俺もうそろそろダメだな」って思った。自分は打たれ強くて絶対に倒されないって自信があったのに、こんなに効きやすい身体になっちゃったんだって。

——それが身体から発せられた引退を促す信号だったのかもしれないですね。

金原 うん。俺さ、もともと同世代の選手の中で一番最後に引退したいって思ってて、それが昔からの目標だったの。だけど、もうそれもいいかなって。



“U魂伝承”そして“U”を絶やさぬために、最後の相手にパンクラスのエース近藤有己を希望した金ちゃん。近藤は現在、長期欠場中だが、その思いは届くのか？

——傍から見る引き際としては、非常にいい引き際だと思います。“介錯”してくれた川村選手も非常にいい相手だったし。

金原 そうだよね。これからのパンクラスを背負っていく有望な選手と真っ向からガンガンやれて、俺も楽しかったよ。ただ、試合前に川村くんのビデオを観たときは「負けるわけねぇな」って思ってたんだけどね（笑）。

——ガハハハハ！

金原 どこをどうしても負けるわけがないと思ってたんだけど、それが負けるんだから、自分で自分のことがわからなくなってるんだよね。それだけ衰えてるってことなんだよ。絶対に負けないと思ってたのに負けるんだから。そういうった意味では引き際ですよ。

——じゃあ、引退の寂しさとかはあまりありませんか？

金原 やっぱり、家の近所とか歩いてるときに「ここでよくランニングしてたけど、もう走らなくてもいいんだな」とか、そういうことを思うと悲しくなるけどね。でもスッキリして、第二の人生何しようかっていうことに、もう頭が切り替わってるから。

——ちょっと待ってください。「第二の人生何しようか」っていうことは、引退後の人生を考えずに引退を発表しちゃったんですか？（笑）。

金原 そうそうそう。だから、昨日もカミさんが近くのスーパーで『タウンワーク』もらってきて、職探ししてるんだけどさ、なかなかいい仕事がなくて、ちょっと焦ってるんだよ（笑）。

——それはまた、ずいぶんな「行けばわかるさ！」精神ですね（笑）。格闘技界に残るつもりはないんですか？

金原 後輩の育成はしたい気持ちはあるけどね。ただ、その反面、もう格闘技界とは一切関わりを持たないようにしたいっていう思いもあるんだよ。

——それはなんでですか？

金原 だって、いろいろありすぎたしさ。この業界って、イヤな人だって多いじゃん！

——ダハハハハ！ まぁ、一筋縄じゃいかない業界ですよね。

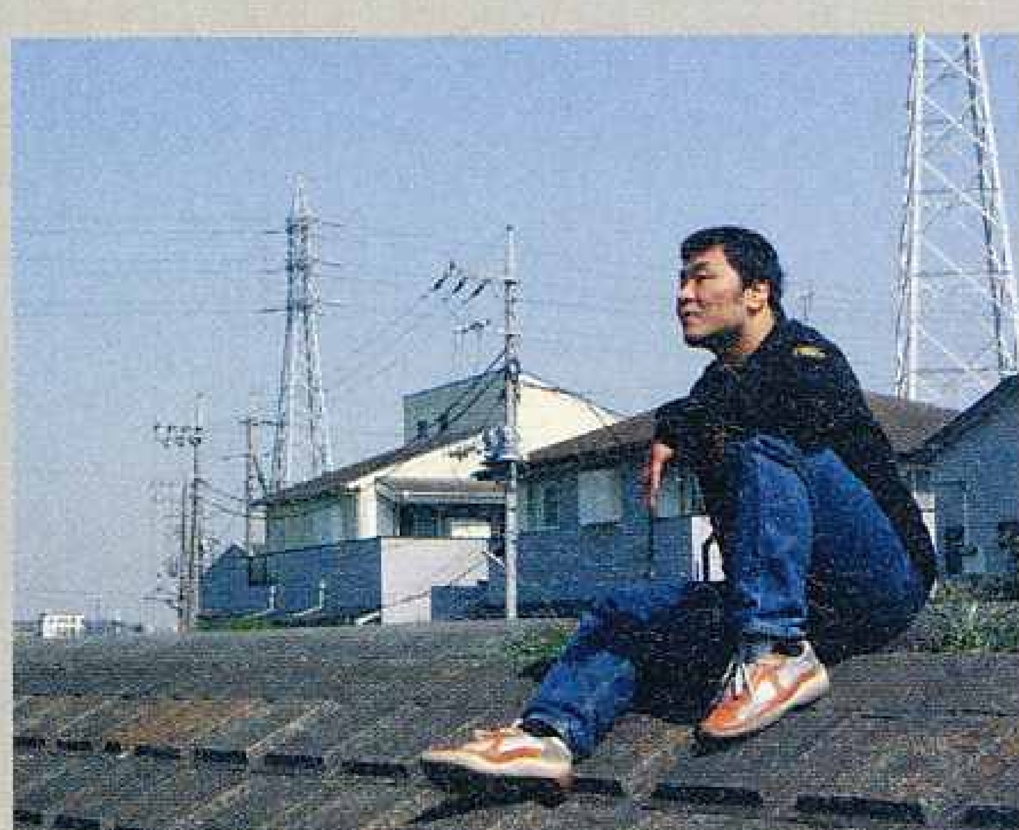
金原 だから、業界を離れたいって気持ちもあるんだけど、やっぱり自分のテクニックとか経験っていうのは宝でしょ？ それを若い人に伝えたいっていう思いはあるんだよ。あと海外に住みたいっていう夢もあるから、ロサンゼルスとかラスベガスあたりに住みたいなぁ。

——いまアメリカは格闘技ブームですし（笑）。

金原 あとは車が好きだから、車の販売とかやりたいんだけどね。ポルシェあたりが雇ってくれないかな～。まぁ、これからゆっくり考えますよ。

——では、残り一試合か二試合、有終の美を期待してます！

【07年3月24日／神奈川県・旧前田道場近くの土手にて収録】

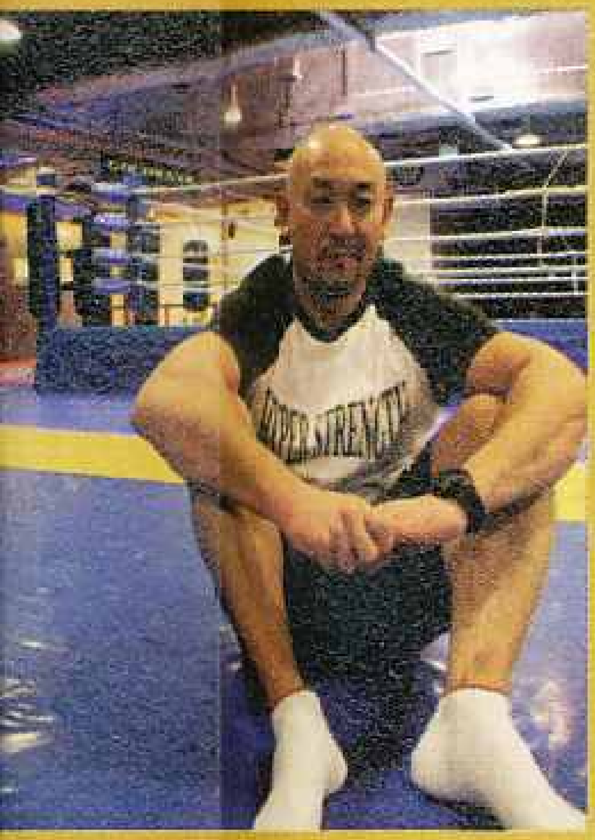


かねはら・ひろみつ■1970年10月5日、愛知県尾張旭市出身。91年にUWFインターに入門。その後、キングダム、リングスを渡り歩き、“リングス最後のエース”と呼ばれる。リングス解散後はフリーとして『PRIDE』などに参戦。味のあるボヤキ節でインタビューが人気を博し、本誌では長らくコラムも担当している。178センチ、87キロ。

Special

金原弘光こそUWFの完成形

「お疲れさま」「ありがとう」しか言葉がありません！



キングダム、リングスをともにすごしたの盟友
レフェリー
田良覚
ガンツ

――3・18パンクラス後楽園大会の試合後、金原選手が「あと一試合で引退」を表明されましたけど、金原選手とはUインター時代からの盟友である和田さんは、あの発言を聞いて、どう感じましたか？

和田　いやぁ、ビックリしましたよ。ボクはあの試合、レフェリーにもジャッジにも絡んでなかったんですけど、本部席で観てたんですね。それで「もの凄くいい試合だな」と思ってたんですよ。

――いい試合でしたよね。魂と魂のぶつけ合いみたいで。

和田　感動しましたよね。そしたら試合後、あの発言ですからね。もうビックリしたし、それを聞いた瞬間に涙が出てきちゃって……。

――引退を考えていたことは、和田さんも知らなかったんですか？

和田　知りませんでした。それどころか、あとで聞いたら、奥さんのミッちゃん（道子夫人）にも黙ってたらしくて。ボクは試合後、すぐ控室に行ったんですけど、そしたら金原が僕に「和田さん、俺、疲れたよ」って言うんですよ。それ聞いたらもう涙が止まらなくて、抱き合って大泣きしましたよ！　彼の気持ちがわかるから……。

――「疲れた」って凄く実感がこもった言葉ですよね。

和田　本人にそう言われたら、「ありがとう」しか言葉が出てこなかったですね……。スポーツ選手の引き際って本人にしかわからないから。たしかにまだまだ強いし、身体だってボロボロかもしれないけど、まだできると思う。でも、試合ってそういうもんじゃないんですよね。本人がダメだと思ったときはダメなんだなって。ああ、疲れたんだなって。泣けましたねぇ……。

――和田さんと金原さんは、付き合いが長いだけに、いろんな思いがあるでしょうね。

和田　そうですね。彼はUインターの第1回入門テストで入った選手で、ボクはそのテストから見てましたから。ボクが髙田（延彦）さんや諸先輩方に金原選手の入門を進言した記憶があるんですよ。

――あ、そうだったんですか⁉

和田　上背はそんなにないけど、筋肉質で体幹が太くて、ツラ構えから気が強そうだし、「髙田さん、彼はいいんじゃないですか？」って言ったのを覚えています。彼とはそこからの付き合いですから。

――それから17年ですか。いろいろあったでしょうね。

和田　もう、泣いて、笑って、ケンカして、ですよ！

――『ド根性ガエル』の世界（笑）。

和田　ホントに濃密な付き合いで。彼の努力と苦労をボクはずっと見てますから。彼は叩き上げも叩き上げですからね。当時のUインターの練習のキツさといったら尋常じゃないですよ。彼は当時、練習が始まる前にあまりの緊張で毎朝、吐いてましたから。そんなこといまはないでしょ？

――そりゃありませんよね。

和田　当時の道場の緊張感っていうのは、ホントに言葉にできないほどです。いまの子じゃ絶対に耐えられない！（キッパリ）。それぐらいの緊張感とキツさがありましたよ。基礎練習を徹底的にやったあとに、5キロも6キロもランニングして、体力の限界の状態でスパーリングでグチャグチャにされるわけですからね。しかも、合同練習以外の時間に道場に来る先輩もいて、その先輩の相手もしなきゃいけないから、スパーリングだけで5～6時間やらされてましたよ。練習だけじゃないですよ。そのほかに先輩の身の回りの世話からちゃんこ番まで全部やってましたから。

――まさに想像を絶する世界ですね……。

和田　ホントに凄いですよ。あの怖い先輩がズラッと揃ったUインターで、前田（雅和）くんというもう一人の新弟子と、たった二人で耐え抜いたんですから。いまの子なら、あっという間に泣いて逃げますよ！

――本当に強靭な体力と精神力がないと、絶対に生き残れませんよね。

和田　不撓不屈の男ですよ。それを乗り越えて強くなったんだから。しかも、彼は最初から"ハンデ"があったんですよ。

――ハンデですか？

和田　これまで黙ってましたけど、金原選手は子どもの頃にケガして、その影響で最初からヒジ関節が曲がってたんですよ。だから普通の人より左手は力が入らないんです。そこをスパーリングで関節をバキバキ極められて、もっと悪化しちゃったんですよ。

――しごきスパーでいきなり悪化させちゃいましたか！

和田　ボクはフィジカルのトレーナーとしても彼を見てましたけど、ヒジが曲がってるからベンチプレスをやろうにも、何をやろうにもポジションがつかめないんです。その中でだましだまし、試行錯誤しながらやってたんです。だから、よく彼に言いましたよ。「あんたのヒジが普通だったら、フィジカルがもっとパワーアップするから、パフォーマンスももっと上がるんだけどな」って。

――そうだったんですか……。ヒジにハンデがあるなんて、全然知りませんでした。

和田　彼の凄いところは、そんなハンデでありながらも、なんのバックボーンもないところから、あそこまで強くなったことですよ。

――金原さんは、Uインター入門前に本格的な格闘技経験はなかったんですよね。

和田　そうです。レスリングをやっていたわけでも、柔道やボクシングをやっていたわけでもない。なんのバックボーンもない中から、サブミッションもレスリングもムエタイもボクシングも、すべてUインターに入ってから身につけて、あれだけの実力者になったんですよ。だからボクは、彼こそが「UWFスタイルの完成形」だと思うんです。UWFの道場で練習していた技術をすべて身につけたのが金原弘光なんですよ。

――UWF系の純粋培養で、総合格闘技のトップとわたり合える力を身につけたわけですからね。

和田　だって世界の強豪とあれほど闘った選手って、彼ぐらいのものじゃないですか？

――『PRIDE』とUFCのチャンピオンクラスとみんなやってますからね（笑）。

和田　ミルコ、シウバ、ショーグン、アリスター、ノゲイラ、マット・ヒューズ、デイヴ・メネー、ダン・ヘンダーソン、ヒカルド・アローナですよ。

――凄すぎて笑っちゃうぐらいのメンバーですよね（笑）。

和田　しかも、そんな相手にKO

金原弘光 あと一試合で引退 Special

UWFの完成形

「お疲れさま」「ありがとう」しか言葉がありません！

UWFインター、キングダム、リングスという3団体をともに渡り歩き、濃密な時間を共有してきた金ちゃんの盟友・和田良覚レフェリー。金原弘光をもっともよく知る男が、金ちゃんの真の実力と思い出の数々を万感の思いで語った。



Uインター、キングダム、リングス
金ちゃんの盟友
和田良

聞き手／堀江ガンツ

もされなきゃ、タップもしてないんですからね。毎回、タフな試合してね。KOKでノゲイラとやったときは、アバラ折れてたのに、サラシ巻いて真っ向勝負してるんですから。しかも、彼は打撃も寝技も自信があるから、打撃が強い相手には打撃で、寝技が強い相手には寝技で勝負しちゃうんです。「それ、やめなよ！」って言ってたんですけどね。でも、彼のプライドの高さもあるし、自分に自信も持ってる、そして自分の力を試したいっていうのもあったと思う。ノゲイラと寝技で勝負して、ミルコと殴り合ってるんですから。そういう男ですよ、金原弘光は。

——Uインターの若手時代に叩き込まれた、プロとしてお客さんが喜ぶ闘いをしろっていう教えを最後まで貫いてましたよね。

和田　あんなバケモノ相手にねぇ……。だから、リングスの頃とか、若い選手にボクはいっつも言ってたんですよ。「トップ張るってこういうことなんだぜ」って。相手がどんなに強くても常に一本、KOを奪いにいく闘いをして、そのためには練習で努力してね。思い出すな～、金原とサク、そしてTKやヤマヨシが前田道場と髙田道場をお互い行き来してスパーリングしてた時代。ホントに凄いレベルのスパーリングだった。

——金原さんがリングスKOKで実力を発揮し始めて、桜庭さんが『PRIDE』でブレイクした頃ですよね。

和田　そうですね。金原もサクもTKも、みんな凄いテクニシャンでしょ？　スパーリングをやればやるほど新しい動きが生まれてきてね。ボクはビデオに撮って、ファンに観てもらいたかったですもん。凄い動きでしたからね。あれはお金を払って観る価値ありましたよ。あとはキングダムの後期のころには、サクと金原がメインを張って連戦したことがあるんですよ。

——キングダムでの九州二連戦（97年12月）ですよね。

和田　そうです。あの試合のあと、ボクは泣きましたからね。ハイレベルで凄い試合やってるのに、まだまだ彼ら自身もキングダムという団体も認知されてなくてね。ボクとしては「なんで、こんな凄いヤツらが認知されないんだ」って。悔しさと誇らしさが入り混じって、あの試合をレフェリーとして裁きながら感動して、試合後に「ありがとう！　誇りに思うよ」って言っちゃったもん。

——髙田さんがヒクソンに負けた直後で、U系の中でもキングダムって一番認知されてませんでしたよね。

和田　その後、サクは『PRIDE』でブレイクして、広く一般の人にもその強さや素晴らしさが認知されましたよね。でも、金原は関係者や玄人は「こいつは強い」ってわかってたけど、なかなか一般層までは届きにくかった。それが、ホントに悔しくてね。

——一般的にはその実力と評価や知名度が、なかなか一致しませんでしたよね。

和田　だから、こう言うと本人は傷つくかもしれないけど、桜庭と金原は太陽と月みたいに感じるんですよ。二人の実力は拮抗してて、どちらも凄い選手なんです。それなのに金原は、あんなに強いのに、一般の人に認知されなかったっていうのがね……。

あれだけ強くて
努力した男だからこそ
プロとして“いい思い”を
してほしかった


リングス解散直前に撮った前田道場勢の記念撮影。離脱者が続出したリングス末期を“エース”として最後まで支えたのも金ちゃんだった。

——『PRIDE』出るようになったら、ヴァンダレイ・シウバとのタイトルマッチというビッグチャンスの直前に、ヒザのじん帯切っちゃったりしたわけですからね。

和田　本人がボヤキたくなる気持ちもわかりますよ。あれだけ努力して、実力もつけたのに、どうにもめぐり合わせがうまくいかなくて。まさに、無冠の帝王だし、悲運の実力者ですよね。ボクは彼の実力を知ってるだけに、もっと世間に認知されてほしかったし、てっぺんとって、一回でもいい思いを味わってほしかったっていうのが本音ですね。

——いまからでも、一人でも多くの人に、本当の実力者ぶりを知ってほしいですよね。

和田　ホントそうですよ。だから引退試合も相手が近藤（有己）くんになるのかどうかわかりませんけど、多くの人に観てほしいですね。そのときは、僕がレフェリーやらせてもらおうかな。

——それはいいですね！　やっぱり最後は和田さんが裁かないと。

和田　それができるなら、謹んでやらせてもらいたいですよ。そして彼を完全燃焼させてやりたい。金原弘光の凄いところは、どんなに劣勢になってもあきらめない。最後までKO、タップアウトを狙いにいくことですよ。川村くんとの試合だって、あれだけのベテランが若い川村くんと最後の最後まで、やるかやられるかで殴り合って……なかなかできることじゃない。そういう彼の姿勢を若い選手は見習ってもらいたいですね。こういう人たちがいなかったら、いまの総合格闘技はないんだから。若い人たちには、それを知ってほしいですね。

——では、最後に金原さんにメッセージはありますか？

和田　いやぁ、もう「ありがとう」「お疲れさま」しかないですよ。安っちい言葉はいらないですね。思い出がありすぎて……。Uインターの最初から、一緒に苦しい思いして、一緒に練習して、一緒にバカやって。ボクの愚痴を聞いてもらったり、彼の悩みを聞いたりね。だから、そんな彼が引退するって聞いたとき、ボクの中の青春が終わっちゃったな。こんなオヤジが青春なんて言うのもおかしいですけど、ホントに心にポカンと穴が空いちゃいましたよ。根性なしのボクが鍛えられたのも、彼がいたからですからね。ボクが疲れていても「和田さん、やるよ！」っていっつも声かけてくれてね。彼がいなかったら、いまの自分はいないですね。だから、いまはもう「ありがとう」しか言葉は出てこないですよ。

【07年4月5日／都内・ゴールドジム サウス東京アネックスにて収録】

●取材協力／ゴールドジム サウス東京アネックス　東京都大田区山王2丁目4-1 大森駅前ビル6-7F　TEL.03-5718-3939



95年10月、東京ドーム。新日本vsUインター全面対抗戦の第1試合に桜庭と組んで登場。石沢&永田さん組と緊張感溢れる闘いを展開。猪木に「この日のベストマッチ」と評価される。



96年3月、幾度となくタイ修行へ行き立ち技に自信を深めた金原は、ムエタイの大物チャンプ・ゲッソンリットとキックルールで対戦。僅差の判定で敗れるも互角に渡り合う殊勲。

不遇の実力者。

決してつけられたくないニックネームである。しかし、金原弘光の境遇を知れば知るほど、そう呼ばずにはいられない。

この前のページで和田良覚レフェリーも語っているが、金原の実力者ぶりは、若手時代から選手、関係者のあいだでは知られたことだった。UWFインター時代は、道場での過酷な練習だけでなく、自費でタイに渡りムエタイを習得。現地で計3度ムエタイの試合を行ない、オムノーイ・スタジアムで勝利を挙げている。プロレスラーが、本場のムエタイで勝利を挙げるのは前代未聞だろう。

さらに立ち技だけでなく寝技も強い金原は、UWFインター崩壊後、キングダムで桜庭和志とともに若き二枚看板に成長。リングス移籍後は、化け物じみたガイジン相手に破竹の12連勝を記録。リングスがKOKに移行してからは、第2回KOKトーナメントで日本人最高位となる3位入賞をはたすなど、その実力を存分に見せつけた。

こんな輝かしい戦績を残しているのに、プロとして〝いい目〟をなかなか見ることができなかったのはなぜなのか?

これはもう星のめぐり合わせが悪かった、と言うしかないだろう。なぜだか金原には「なんでそ～なるの?」ということが起こるのだ。

金原はそんな自らの不運を、インタビュー等でたびたびボヤいていたことから、本誌は〝ボヤキング〟と命名。しかし、これは何も茶化しているわけでなく、実力がありながらなかなか目立てないでいた金原弘光という選手を、なんとかファンに届けたいというのが、そもそものテーマだったのだ。

…の過渡期を闘い続けた男

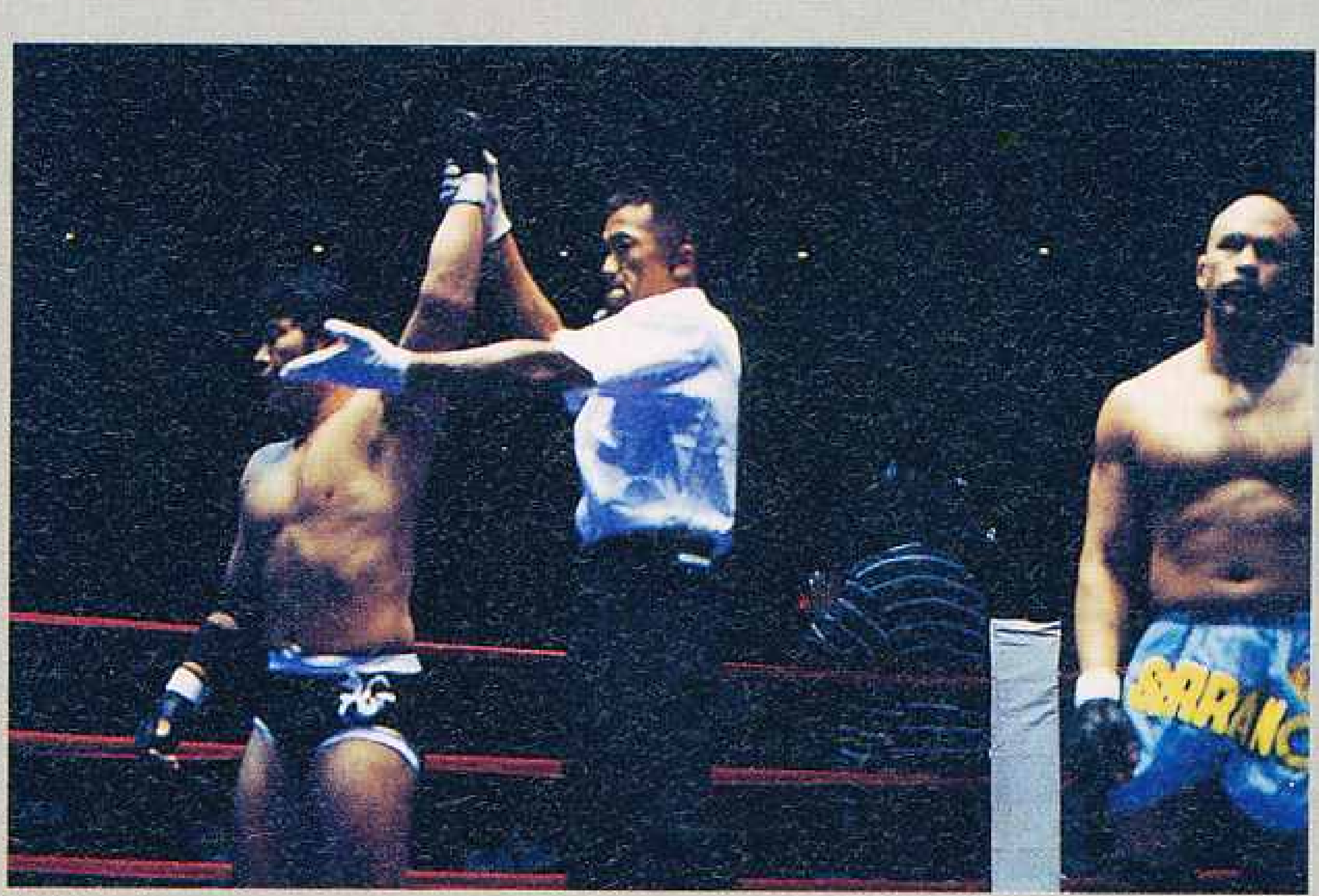
原弘光の最後に光を——

それにしても、振り返ってみると、これほどめぐり合わせの悪い人もいない。まず、金原にとってフィジカルの全盛期であったキングダム時代。キングダムは、U系でいち早くオープンフィンガー・グローブを導入し、現在のMMAに極めて近いルールを採用。その内容もプロレスリングにこだわったUインターから、総合格闘技へとシフト。

当時はリングスはもちろん、パンクラスもまだスタンドの打撃は掌底、寝技の顔面パンチはなしという時代に、ルール的にも技術的にも最先端の闘いを月2試合という異常なハイペースで行なっていた。

金原は前述のとおり、この団体で桜庭と並ぶ二枚看板に成長。しかし、キングダムという団体は、新日本プロレスとの対抗戦で〝プロレスに手を染めた〟Uインターの負のイメージが強く残り、格闘技ファンはもちろん、UWFファンの注目もなかなか浴びることがない〝不遇の団体〟でもあった。しかも、金原も桜庭も実力はあっても、当時は無名な存在。いくらハイレベルな闘いをみせても、船木誠勝や田村潔司といったスター選手を抱えるパンクラスやリングスにイメージで負けていたのだ。

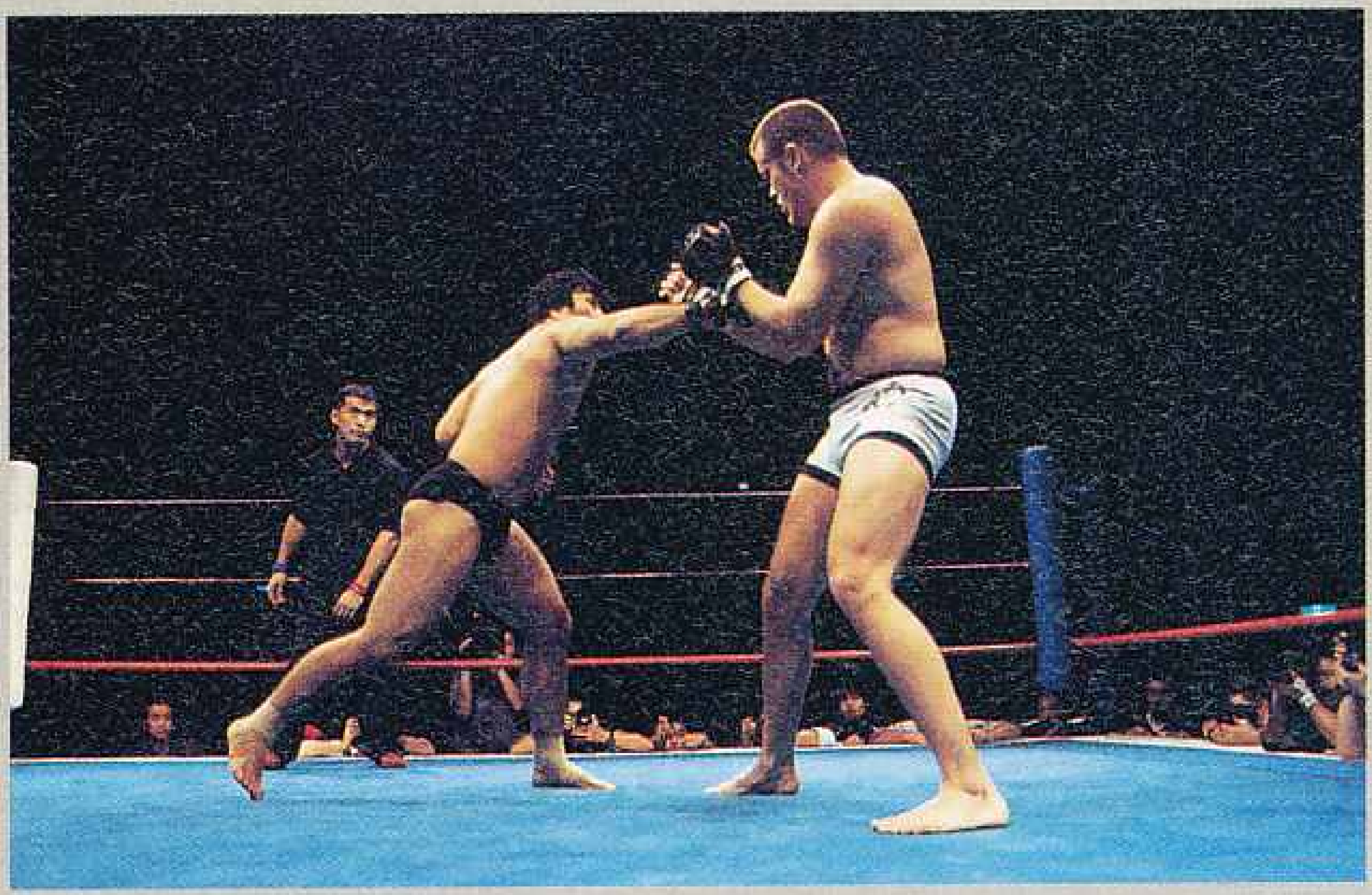
それでも桜庭は、UFCジャパンで柔術家マーカス・コナンを破り、一躍ブレイク。見事にチャンスをもの



00年7月、リングス・ハワイ大会に出場した金原は、『リングスUSAミドル級トーナメント』に優勝。また、この年の2月には敵地オランダでオーフレイム兄もKOしている。



00年11月、第2回KOKで金原はさらに実力を発揮。『アブダビ』上位常連のアレシャンドリ・カカレコに一本勝ち。リングスUSA大会王者トム・サワーを打撃でKOした。



99年10月、リングスがKOKを開催、MMAの時代に突入すると金原の実力は開花。ジェレミー・ホーンを下し、ダン・ヘンダーソンと互角以上の闘いを展開。実力を見せつけた。



98年5月、キングダムが崩壊し、リングスに入団した金原は、破竹の12連勝を記録。当時は旧リングスルールながら、連勝中のほとんどが間違いなく総合格闘技の試合であった。

金原弘光引退 あと一試合で Special

にしたが、じつは金原も当初はこのUFCジャパンに参戦し、コナン以上の大物ビクトー・ベウフォートと対戦予定だったのだ。

しかし、この大会の一週間前にキングダムも代々木第二体育館でビッグマッチを開催、そこでのヴァリッジ・イズマイウ戦が決定したため、金原はUFCを回避することになったのだ。イズはいまでこそ〝闘魂ストーカー〟に堕ちてしまっているが、当時はグレイシー柔術の大物。これを倒せば、金原の名前は大きく上がるはずだった。しかし、キングダムの練習風景を見たカーウソン・グレイシーが対戦をキャンセル。UFCを回避してまで挑む予定だったイズマイウ戦は幻となってしまったのだ。もし、金原がこのとき、予定どおりビクトー、もしくはイズマイウと闘えていたなら、その後の格闘家人生は違うものになっていたのではないか、と思わずにいられない。

その後も金原はリングスKOKで実力を発揮しながら、ダン・ヘンダーソン戦では、イエローカードのマイナスポイントがつかないミスジャッジによって敗北。第2回KOKでは日本人最高位となる3位入賞をはたし、いよいよ金原時代到来か？　と思われながら、その後リングスは主要選手が次々離脱。団体自体の注目度が急激に低下し、〝エース〟金原もなかなか注目されることがなかった。

それでもリングス解散後、フリーとなった金原に、『PRIDE』初参戦にしてヴァンダレイ・シウバのベルトに挑戦という、超ビッグチャンスが舞い込んできた。金原にとっては、まさに一世一代の大一番。しかし、金原は試合の10日前の練習中に右ヒザの前十字じん帯を断裂！　大事なシウバ戦の直前に大ケガを負ってしまったのだ。

しかも、金原にとって不運なのは、ヒザのじん帯がアクシデントで切ったわけでないこと。

これまで長い現役生活の中で少しずつ傷つき細くなっていたじん帯が、よりによってシウバ戦の直前に切れてしまったのだ。

その後、金原はヒザにメスを入れ、1年半のブランクを経て復帰。しかし33歳の大手術は格闘家にとってあまりにも影響が大きく、その後、思うような試合ができない日々が続き、ついに今回の「あと一試合で引退」発表へ至ってしまったのだ。

プロの世界に「たら」「れば」は禁物だ。本当のスターというのは、数少ないチャンスを確実につかんだ者だけがなれることもわかっている。しかし、やはり金原ほどの実力を持った人間には、一度でいいから〝いい思い〟をしてほしかったというのが、偽わざる心境だ。

かなうならば、そんな男の最後の勇姿を一人でも多くの人たちに見届けてもらえたら、幸いだ。

ただ、肝心の引退試合がなかなか決まらなかったりするのも、また金ちゃんらしかったりするのである。

（堀江ガンツ）

プロレスと総合格闘技の過

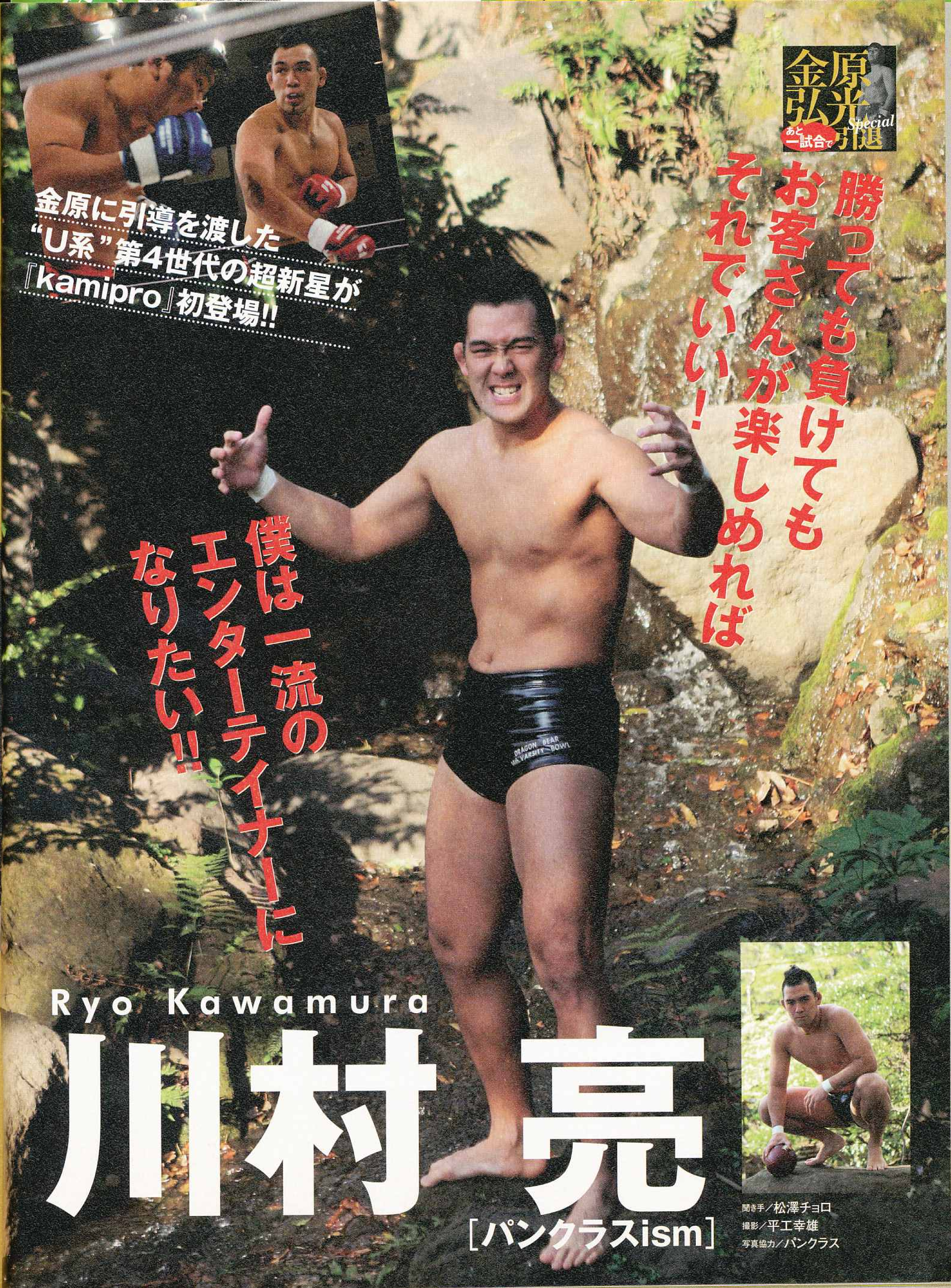
“不遇の実力者”金原弘



01年2月、アバラが折れながらもノゲイラと寝技で真っ向勝負を挑んだ金原は、目まぐるしい〝進化する回転体〟を披露。敗れたものの、堂々、日本人最高の3位入賞をはたした。



01年2月、KOK決勝トーナメントに進出した金原は、のちのUFC王者ティヴ・メネーと激闘を展開。試合中、投げでアバラを折られるも、パンチの打ち合いから見事KO勝ち。



金原弘光 あと一試合で引退 Special

勝っても負けても お客さんが楽しめれば それでいい!

金原に引導を渡した“U系”第4世代の超新星が『kamipro』初登場!!

僕は一流のエンターテイナーになりたい!!

Ryo Kawamura 川村 亮

［パンクラスism］

聞き手／松澤チョロ
撮影／平工幸雄
写真協力／パンクラス

試合で緊張したことはないです。ただの目立ちたがり屋なんで（笑）

ここ最近、近藤有己戦や、ヘビー級トーナメントに出場するなどパンクラスを主戦場としてきた金原弘光。同じU系出身ファイターでは同世代の髙阪剛が引退し、かつて同じ釜のメシを食った桜庭和志や山本宜久といったところも全盛期の輝きを放てないでいる今日この頃。金原のパンクラスマット3戦目の対戦相手として選ばれたのが、パンクラス生え抜きでプロデビュー以来負けなしの川村亮。

年齢差は11歳と約一回り違う両者。川村にとって真っ先に思い浮かぶ金原のイメージは「小学校のとき新日本の東京ドームで桜庭さんとタッグを組んでいたムエタイパンツの強い人」。それから時は流れ、U系の大ベテランと、U系最後の団体パンクラスの川村が激突するというのも運命のイタズラか、それとも必然か……。

試合は、若さに任せての勢いと、その裏にある戦略が功を奏し、激しい打ち合いの末に川村が壮絶なKO勝ちを収めた。結果的には、この一戦を機に金原は引退を決意、その場で「あと一試合で引退します」と突然の引退表明を行なったのだった。

これまでも〝パンクラスのハードゲイ〟として、あるいはシュート・ボクセの強豪ダニエル・アカーシオを殴り倒した男として、熱心なファンのあいだでは評価の高かった川村がU系の大先輩の金原に〝引導を渡した男〟として、ここにきて注目度も大幅アップ！ はたして、この男にとっての金原戦とは？ そして、これからどこへ行こうとしているのか？ アメフト出身のパンクラスの超新星が『kamipro』初登場!!

――今回、金原戦も見事勝利を収めて、プロデビュー以来負けなしと、いまパンクラスで一番輝いている川村選手にいろいろと話を聞かせてもらえればと思っています。

川村 よろしくお願いします。

――いきなりですが、U系の大先輩の金原選手相手に結果的には〝引導を渡した〟かたちになったわけですけど、反響はいかがですか？

川村 多くの人から「よかった」とは言われます。プラス……僕一人の力ではこんなにできなかったなっていうのはありますね。

――当日、テレビ解説を務めた近藤（有己）選手も言ってましたけど、今回の金原戦に向けて渡辺（大介）選手と、かなり対策を練っていたみたいですね。

川村 そうですね。渡辺さんには金原戦に限らず、いつもミットを持っていただいてるんですけど、渡辺さんのミットは僕が持つし、僕がやるときは持ってもらってって感じでお互い持ち合いしてるんですよ。身体の使い方っていうか、「あ、なるほど！」みたいな、そういう感じがあるんですよね。

――〝パンクラスのハードゲイ〟的には身体の相性が合うと（笑）。

川村 そうですね（笑）。で、「僕はこうしたいんですけど」って言うと「じゃあこうしたらいいね」って練習してるあいだにどんどん膨らんでいく感じで。だから今回の試合でも最後のほうはやることがいっぱいになっちゃいましたけど（笑）。

――最近の川村選手を見てると、金原戦に限らず、大会前から凄く落ち着いてますよね。緊張は一切しないっていうことは前々から言われてましたけど。

川村 緊張はしないですね。緊張したらもったいないんで。

――といいますと？

川村 リング上っていうのは僕の一番の表現の場であって、試合は一番素晴らしい楽しい時間なんですよ。僕はそこでしか表現できないじゃないですか、基本的には。

――まあ、そうですね。練習は人に見せるもんでもないですからね。

川村 そうなんですよ。だから〝川村亮〟を見せられるのは試合しかないわけですよ。そこに毎日上がればいいんですけど、あっても月1回しかないないんで。

――先輩の近藤選手も「毎日試合したい」とは言いますけど、現実的には、多くて月1試合ですからね。

川村 それも毎回毎回出れるわけでもないんで。それだけの表現の場で緊張したらもったいないですよ。僕の一番好きな場所ですから、楽しみっていうか、ワクワクですね。みんなの前に出れるっていう。

――じゃあ、うかつに秒殺なんかできないですね（笑）。

川村 いや、秒殺でもべつにいいですよ（笑）。できるんなら時間が短くてもいいんですけど、リングに立ってる時間は大事にしたいですね。

――そういう気持ちってデビューから変わらずですか？

川村 デビューからですね。ただの目立ちたがり屋なんですよ（笑）。

――まあ、プロとしては必要なことだとは思いますけどね。

川村 ホント、目立ちたがり屋というか、その塊だと思いますね。

――目立ちたがり屋の塊（笑）。話を戻しますけど、金原戦が決まったとき、「ちっちゃい頃から見ていた選手」という言い方してましたけど。たしかに、年齢的にも11歳、だいたい一回り違うんですよね。

川村 はい。強い選手だなって思って見てましたけど、一番印象に残ってるのは、やっぱり新日本vsUインターの対抗戦第一弾ですね。金原さんが桜庭（和志）さんと組んで、永田（裕志）さんと石沢（常光）さんとやった試合です。

――あの試合は対抗戦の中でも抜群におもしろかったですよね。

川村 「なんでムエタイのパンツなんだろう？」って思って見てたら、タイで修行してきたっていうことで。あの試合は凄かったですね。異種格闘技って感じなのにタッグマッチっていう。素晴らしいなって。

――金原さんは、キャリアも実績も



3.18後楽園大会のメインで激突した川村と金原。1ラウンドから得意のパンチを的確にヒットさせていった川村は最終3ラウンドに金原と激しい打撃戦を展開。金原のフックでフラつかされた川村だったが、1分30秒過ぎ強烈な右ストレートを顔面に叩き込みKO勝ち。試合後、川村は、あと一試合での引退を表明した金原に対し「僕みたいな若僧に全力でぶつかってくれてありがとうございます！」と頭を下げた。

僕は勢いがないと何もできないんで。〝ドーン〟といくしかない！（笑）

上の選手ですけど、事前の公開練習とかを見てると、かなり自信があったように思えたんですよ。

川村　う〜ん……自信っていうよりも、ワクワク感っていうか、俺はどこまでいけるんだろうっていう気持ちが大きかったですね。そういう大先輩相手にどこまでやれるんだろうって感じで。

——戦前から「勢いだけは誰にも負けない」って豪語してましたよね。

川村　勢いしかないですからね（笑）。何やるにしても勢いでやりますから、僕は。だから勢いがないと何もできないんで。だったらもうドーンといくしかないって感じですよね。

——〝ドーン〟といった結果、最後に打ち合ってフラついた以外は危なげない勝利に見えましたけど。

川村　最後のパンチはムチャクチャ効きましたけどね（笑）。まあ、でも……打撃はテクニックで上回ったとかじゃなくて、ただガーッて勢いでいってるからバーッて相手も下がると思うんで（笑）。

——また擬音ですか（笑）。

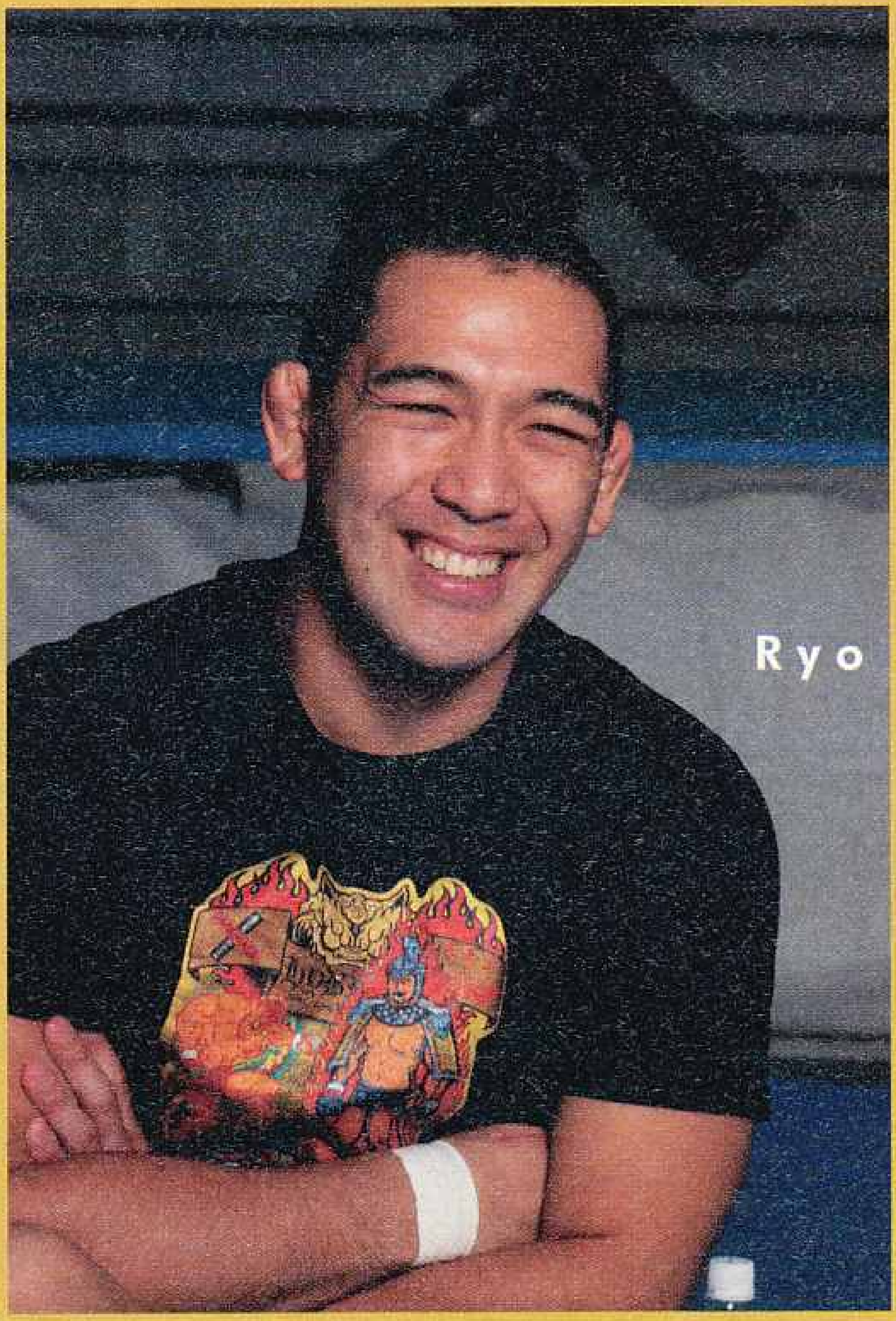
川村　難しいことはわかんないし、僕に技術があるとは思えないから、たぶんそういうことだと思います。

——でも、ここ最近、テクニックもかなり身についてるんじゃないですか。

川村　どうですかね？　結局、試合になってガーッてなったときは勝つかもしれないし。むしろ練習でのスパーリングでは僕はよくやられるし。そのへんの細かい技術は僕にはないと思うんですよ。

——技術はない（笑）。よく言えば、本番に強いタイプってことなんでしょうね。

川村　そうだと思います。本番を楽しみにしてるから強くなるんじゃないですかね（ニッコリ）。



——試合後に金原さんがリング上で「次の試合で引退します」という発表をされましたが、同じU系の大先輩に対して、結果的には引導を渡すようなかたちになってしまったことについてはどう思われます？

川村　う〜ん……それは難しいですねぇ。金原さんに対して自分がどうこう言える立場じゃないですし。あのマイクを聞いて正直寂しいっていう気持ちもありましたし……僕とやってくれてありがたいっていう気持ちもいっぱいでしたけど、引退されるって聞いて、ますますやってくれてよかったなって思いましたね。

——やりたくても簡単にできる相手でもないですからね。

川村　ですよね。あと、試合後に金原さんの関係者からも感謝の言葉をかけられて……そのときは、ちょっと複雑でしたね。

——それは「踏ん切りをつけさせてくれてありがとう」みたいな感じのことを言われたんですかね？

川村　はい、そんな感じで言っていただいて……。同じU系といっても、まだまだ若僧の僕との試合を受けてくれた金原さんの気持ちに対して、真正面から向かえたっていうので満足感もありましたね。あとはやっぱり、Uインター、キングダム、リングスと一時代を作ってきた人だなっていうのは、お互い殴り合ってて思いましたね。こういうことなんだなっていうコツがわかったというか。

——コツがわかりましたか！

川村　そんな気がします（笑）。

——試合前には金原さんの「総合の奥深さを教えたい」という発言に対して「勝ってそれを学びます」みたいなことを言ってましたよね。

川村　凄く学べたと思うし、宝物ですよ。実際に闘ってみて思ったのは、金原さんが言っていた〝奥深さ〟っていうのは、技術的なモノはもちろんですけど、あらためて気持ちなんだなって。ホント、自分にとって凄く大きな経験になりました。

——それはよかったです。で、ここ最近の格闘技界はパンクラスにも無関係ではないと思うんですけど、こないだ『PRIDE』がUFCと同じオーナーの傘下になったり、一方ではK−1と……。

川村（さえぎって）なんでしたっけ？　ECじゃなく……エクスタシー？

——エリートXCですね（笑）。

川村　あ、そうでした（笑）。

——川村選手的にはそういう格闘技事情とかは気になったりします？

川村　いつも佐藤（光留）さんが買ってくる『東スポ』を読ませてもらってるんで、必ずチェックはしてますね。まあ、主に「男セン」ですけど（笑）。

——『街頭淫タビュー』とかですか？

川村　基本ですね（笑）。まあ、もちろんプロレス面も見ますよ。同じ業界にいますから、気にならなくは

パンクラス勢から見た川村亮



鈴木みのる

「川村はねぇ……一言で言えば〝パンクラスに変態が一人増えた〟って感じかな。最初の頃の印象は〝なかなか体力あるな〟ぐらいだったけど……まさか〝バンチ〟で勝ち上がるとは思ってもいなかった。いまだにレスリングとか全然ダメだし。まあ、良くも悪くも〝素直〟ってとこが長所かな。しかし……パンクラスに変態は光留だけで良かったんだけどなぁ……。ホント、〝コイツもかい！〟って感じ（談）」



尾崎社長

「川村にはお客さんの心をつかむ天性の魅力を感じますね。それが川村がよく言う〝人間力〟なのかもしれない。力もあるし、結果も出してるし、実力も相当上がってきていると思います。川村に限らず、パンクラス全体としても若い選手の成長が見られてよくなっているんですよ。試合でも、どんどん前に出てくる。ちょっと打撃が当たったくらいでは下がらない強い精神力を持った選手が育ってくれているので、これからも期待してもらっていいと思います（談）」



北岡 悟

「一言で言うと〝出来杉君〟ですね。仕事もできる。性格もいいし、頭もいいし、いいヤツなんで人付き合いもうまいし、いいヤツなんですよねぇ。たぶんテストとかも『全然勉強してないよ』って言いながら98点取っちゃうような感じでしょ。そこがまたシャクなんですけど（笑）。普段は下ネタとか、MAXについても熱く語ったりしますね。ゲイ疑惑？　もういいッスよ（笑）。俺、ブログかなんかで一回否定してやったことありますからね。『コイツ、女大好きです！』って（談）」



佐藤光留（変態？）

『開☆門の堕天使・バ川村について知ってることを教えろだとぅ!?　ギャラは等身大・浦えりかフィギュアで。

川村亮ことバ川村は『特産品＝リビドー爆発プロレスラー』な岐阜出身。岐阜が産んだ数々の大先輩レスラー（橋本真也さん、棚橋弘至選手、美濃輪育久選手）を目指し、某ムック本でも『奇人変人の巣窟』とベタぼめされていたパンクラスに裏口入門。練習生時代は持ち前の世渡り上手アビリティを全力で発揮しながら生き延びていたが、バ

川村に貸した格闘技のビデオが、再生すると必ず『ガードポジションで膠着し

プロデビュー以来いまだ負けなし!

川村亮全戦歴

(07.4.23現在)



○ vs 渡辺悠太

1R 2分35秒 KO（スタンドのパンチ）
（06.04.02 ゴールドジムサウス東京アネックス）

ネオブラッドトーナメント・ライトヘビー級準決勝として前回の再戦となる渡辺悠太戦が組まれた川村。この試合中に目の前に"白い線"が突如現われ、その軌道に合わせるようにパンチを放ったところ見事KO勝ち! 川村はトーナメント決勝戦へ！



vs 鈴木みのる

エキシビションのため勝敗なし
（05.05.01 横浜文化体育館）

1年8カ月ぶりのパンクラス登場となった鈴木みのるの相手として指名されたのが練習生の川村。5分1ラウンドのエキシビションとして行なわれた試合だったが、みのるは2分過ぎに強烈なヒザ蹴りで川村をKOすると、残り時間で佐藤光留と闘った。



○ vs 小谷野澄雄

1R 1分15秒 KO（グラウンドのパンチ）
（06.07.28 後楽園ホール）

ネオブラッドトーナメント決勝戦として後楽園のメインに登場した川村。対戦相手はデビュー戦の相手、小谷野。川村は序盤からパンチの連打で前に出て、わずか95秒で小谷野をKO、パンクラスismとして7年ぶりのトーナメント制覇を果たした。



○ vs 九十九優作

判定3-0
（05.07.27 DEMOLITION 新木場1st RING）

パンクラスでのデビュー戦を前にDEMOLITIONで九十九優作と対戦した川村。判定で勝利した川村だったが、試合後「自分はパンクラスに憧れて練習生になったので、パンクラスのリングに上がって初めてプロデビュー戦だと思います」とキッパリ。



○ vs ダニエル・アカーシオ

2R 2分40秒 KO（スタンドのパンチ）
（06.09.16 ディファ有明）

ネオブラ優勝後、初の試合となる川村の相手はシュートボクセのアカーシオ。得意の打撃で川村からダウンを奪うなどアカーシオペースで進んだこの試合。2ラウンド、鼻血まみれの川村が放った右フックがアカーシオを捕らえ、まさかの大逆転勝利！



○ vs 小谷野澄雄

判定3-0
（05.12.04 ディファ有明）

初のパンクラスism主催興行で念願のパンクラスデビューを迎えた川村は小谷野澄雄相手に終始打撃で優勢に立ち、フルマークの判定勝ちを収めた。しかし、試合後は「KOできなかったのが課題。今日の試合でダメなところが見えました」と反省しきり。



△ vs ニルソン・デ・カストロ

判定0-1
（06.12.10 ディファ有明）

同門のアカーシオを下した川村の首を狙い登場したのがシュートボクセのカストロ。川村はカストロ相手にも一歩も引かずに打ち合いを見せ、2ラウンドには勝利寸前まで追い込むも、最終ラウンドでハイキックでダメージを受け、健闘空しくドロー。



△ vs 渡辺悠太

判定0-0
（06.01.26 後楽園ホール）

川村のパンクラス2戦目は、パンクラス初参戦ながらプロデビュー以来3戦無敗と絶好調のTKの愛弟子・渡辺悠太とのフレッシュ対決となった。打撃では川村、グラウンドでは渡辺が優位に進めた試合だったが、両者ともに決め手がなくドローという結果に。

金原弘光 Special あと一試合で引退

ないですからね。ですけど……「はあ」って感じですけど。

——パンクラスにもいろんなタイプの選手がいると思うんですけど、北岡（悟）選手みたいに「『PRIDE』に上がりたい」っていう選手もいれば、光留選手みたいに「『インディーサミット』に出たい」っていう選手もいるわけですけど、川村選手的にはどう考えていますか？ 自分の向かうべき道というか。

川村 やっぱり、僕を観るためにパンクラスに足を運ぶお客さんをドンドン増やしていきたいっていう気持ちが強いですね。

——パンクラスありき、なんですね。

川村 僕は昔からパンクラスに憧れてて、パンクラスのリングに上がるために練習生になって、ようやくプロのリングに上がってるわけですから、パンクラスっていうのは僕の憧れで、立ちたいリングなんですよ。

——そこの部分は揺るぎないと？

川村 はい。そういう気持ちが一番ですね。だから、もっともっとパンクラスを盛り上げたいっていう気持ちが強いですね。

——川村選手は小さい頃からプロレスファンだったみたいですけど、実際にプロを目指して練習生になったのは大学卒業後と、ちょっと遅いんですよね。

川村 実際はそうなんですけど、小さい頃からやるもんだと思ってましたよ。僕は最終的にはプロレスやるんだろうなって。

——プロレスファンとして練習生とはどんなもんなのかっていうのは、ある程度理解してたんですよね？

川村 理解してましたね。もうムチャクチャ調べましたからね、練習生ってどうなんだろうって。

——プロレス団体はともかく、総合系は団体が少なくなって練習生という存在自体が珍しい時期に入門されたわけですけど。

川村 そうですね。「え？」って思われる人もいたかもしれないですけど、逆に僕は入り方というかリングに立つ方法はそれしか知らなかったんで。だから「なんで練習生なんかやってるの？」って言われても僕からしたら「なんで？」なんですよ。「じゃあなんで仕事しながらやってるの？」って。意味がわからない。「仕事はリングで闘うことでしょ」っていうのが僕の考えなんです。

——いまの総合系の選手は仕事を持ちながらリングに上がってる選手のほうが多いぐらいですからね。

川村 ですよね。いまはいろんな人がいますけど、それがいい悪いじゃなくて、僕はそれしか知らないんで、それが僕の中では一番だったんでそうしただけであって。

——同じような志を持って入門する選手もいるとは思うんですけど、実際、続かない人が多いですよね。

川村 そういう人と違うのは、僕は行路を全部切ってますからね。辞めたら何もないですから。いろいろ就職の話はあったんですけど、全部

川村に貸した格闘技のビデオが、再生すると必ず『ガードポジションで膠着したシーン』から始まり、ほかの試合も『コーナーで息も絶え絶えな二人が差し合いで膠着しているシーン』や『ガチムキ系選手が執拗にバックをキープし続けるシーン』ばかりが擦り切れているところから『バ川村＝ゲイ』とゆー疑惑が生まれる。道場で留守番しているときに食堂でうまい棒・川村味を4545してたのを目撃ドキュンされそうになったのもこの頃である。

デビュー後、僕が横浜名物マット♀♂スをおごってあげたときも風●嬢を♂♂♂させたりと、必死の『ノンケの主張』が続くが、ネオブラッドトーナメントを全試合（言うても2試合）KO勝ちで優勝した頃から、『筋肉ムキムキで多少毛深いナイスガイたちに抱き着いてしっとりした寝技の攻防を愉しみたいがゲイであることがバレてはいけないので密着できない』とゆーストレスを拳に込めてパンチを放つようになる。

しかもその不純パンチはよほど強烈な欲望が詰まっているらしく、世界の強豪相手にポコポコ命中。結果的に所属レスラーがメイド服で公開練習をしては惨敗を繰り返して傾きっ放しのパンクラスを救うことに。深い業の詰まったバ川村が先日の後楽園大会で金原選手をKOした時、歓声に掻き消されながらリング上で叫んだ言葉↓『アーッ！ 汗は飲めたから少し満足ぅぅぅぅウウウウッ!!』（原文ママ）



損はさせないので、パンクラスを、川村亮を観に来てください！

断ってますし。これをなくしたら食ってけねえぞっていう状況を自分で作ったんで。そういう人は残るんじゃないですかね。それに、どれだけ僕は強くなれるか、プロになってどれだけお客さんを楽しませることができるかって思って入ったんで、普通の人から見たら「そんなことさせられたらやめるだろ」ってことも気にはならなかったし。

――俗に〝かわいがり〟と呼ばれるスパーリングだったりとかも当然のようにあったと思うんですけど。

川村　それも練習だからしょうがないっていうか、そういうのもあってあたりまえだろうって。こういうのがあって人は強くなっていくんだなっていうのが僕の考えなので。

――ときには先輩からふんどし一丁でコンビニに行かせられたりもしたんですよね（笑）。

川村　そういうこともできないと、何千人の前で試合なんかできるわけないですよ。何千人の前で白目むいて泡吹いてブッ倒れることはできないと思うんですよ。プロだったら、そういうのができないと。

――永田さんとかは平気でやりますからね（笑）。

川村　そうなんですよ。だからそういうのも仕事っていうか。いくら「リング上ではできます」って言っても、やっぱり普段からそういうことがパッとできないと、できないと思います、僕は。

――モノ凄くポジティブですよね。

川村　ポジティブですよ、僕（ニッコリ）。いいほういいほうに持っていきますから。

――昔は、それこそプロレスラーに憧れたって言いますけど、実際、パンクラスのリングでは総合格闘技の試合をしてるわけですけど、川村選手的には〝プロレスラー〟っていうこだわりは強いんですか？

川村　僕はプロレスラーでも格闘家でもなんでもいいんですよ。ファンの人が思ってくれる見方で。そういうこだわりとかはとくになく、僕は、ただ人を喜ばせたいっていうタイプなんで。生粋じゃないですけど、天性のエンターテイナーなんだとは思ってますね。

――ほう、自分で言いますか（笑）。

川村　まあ、そのへんは自分で言わないと誰も言ってくれないんで（笑）。

――プロレスラーとか格闘家というよりも肩書は〝エンターテイナー〟だと？

川村　そうありたいですね。プロレスでも格闘技でもいいんですけど、とにかく人を喜ばす仕事がやりたいんです。だから僕が負けて喜ぶならそれはそれで嬉しいですし。

――格闘家として〝世界最強〟を目指しているわけではないと？

川村　そうですね。そういうのはほかの人に任せて、僕が目指すのは観てくれた人が「ホント楽しかった。また観に行きたいね」って帰ってくれるような試合を毎回することですね。とにかく目立ちたがり屋の塊としては、もっともっと「川村亮を観たい」って思わせたいです。

――エンターテイナーっていう意味では、いま、格闘技界で大会によってはパフォーマンスや実力次第でモノ凄いファイトマネーをもらえるところもあるとは思うんですけど、お金っていう部分はどう考えてます？

川村　僕はパンクラスに入った時点で金持ちにならなくてもいいと思ってるんで。

――あ、そうなんですか（笑）。

川村　それに、僕、金持ちになろうと思えばなれると思うんですよ。けっこう、いい生活レベルになれる自信はあるんですよ、根拠もなく（笑）。

――それは素晴らしい（笑）。

川村　ですけど、いまはやりたいことをやらせてもらってるんで、食っていければいいです。でも、頑張り続けて裕福になっていけりゃあ、それは全然ウェルカムですけどね（笑）。

――まあ、そうですよね。

川村　プロとしてそういう部分でこだわるのも必要だと思いますけど、結局、練習生のときにごはんを食べさせてもらって面倒見てもらったりいろいろ教えてもらって、お世話になってるとこですからね。そういう感謝の気持ちもありますし。

――〝パンクラス愛〟ですかね？

川村　〝川村亮ラブ〟のほうが強いですけどね（笑）。

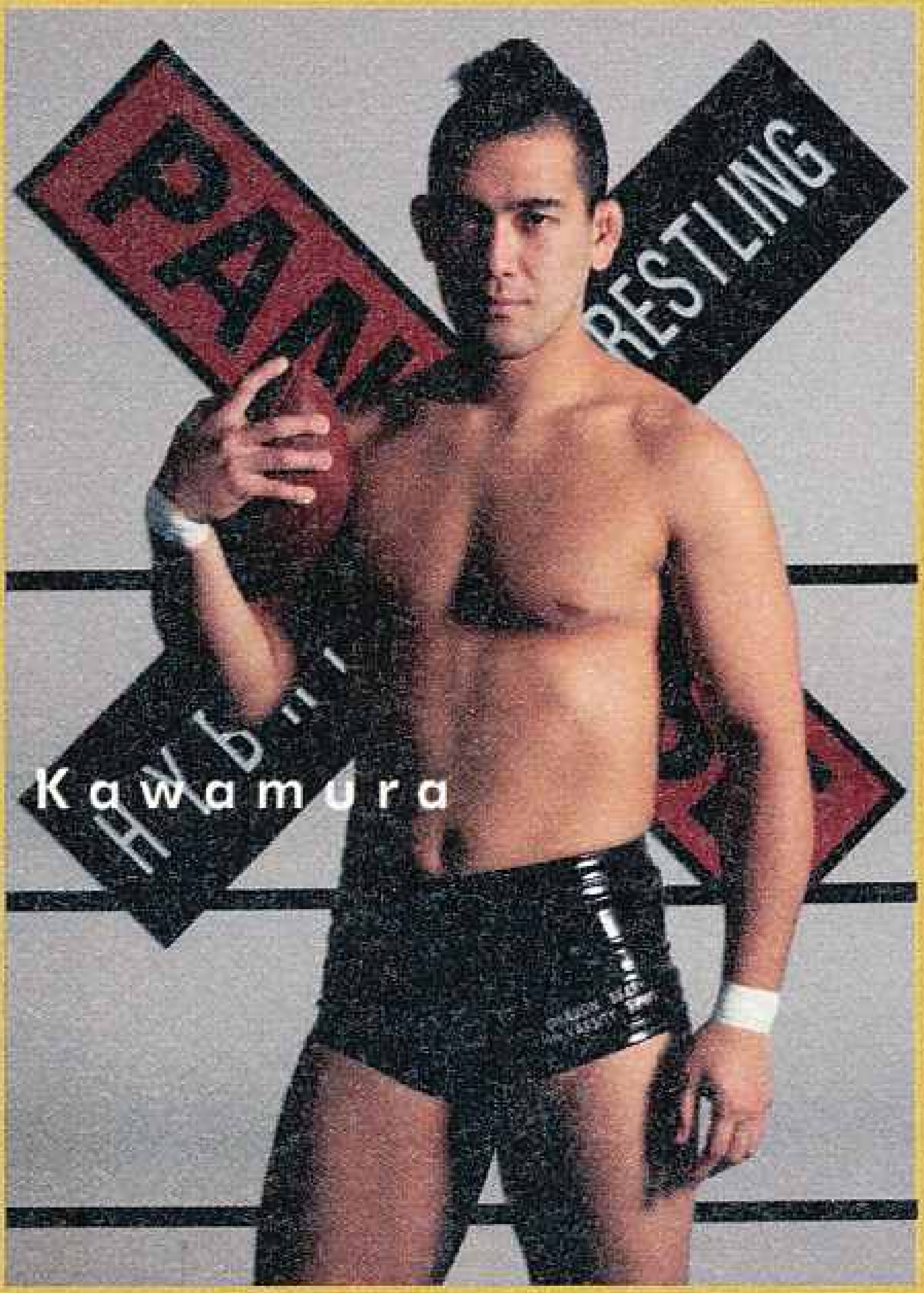
――とことん自分好きですね（笑）。あと、川村選手が凄いのは、いまのところ負けなしじゃないですか。引き分けは何戦かありますけど。

川村　勝ち負けは、それほど気にしてないんですけど、僕的には、引き分けはもうなくしたいです。勝っても負けてもいいんですけど、引き分けはもう嫌なんで。負けに対して嫌だとかもないし、お客さんが楽しんでくれるんなら僕は喜んで負けます！

――喜んで負ける必要はないとは思いますけど（笑）、今後の活躍も期待してます！

川村　観に来てくれた人に損はさせないというか、「また来たい。おもしろかったな」って言ってもらえるような試合をするんで、パンクラスを、川村亮を観に来てください！

【07年3月30日／都内・パンクラス事務所近くのコスタリカっぽい公園にて収録】



かわむら・りょう■1981年6月29日、岐阜県出身。高校時代は野球、大学時代はアメリカンフットボールで活躍しながら、虎視眈々とパンクラス入りを目指す。大学卒業後、練習生としてパンクラスに入門。05年7月のデビュー以来6勝3分けと、いまだ負けなしで“パンクラスの次代のエース”として評価はうなぎ登り。入門前、格闘技経験はないものの、本人いわく「アメフト時代の練習と経験がかなり役立ってます」とのこと。180cm、89kg。

4月大会では坂口征夫がプロデビュー！
5月大会登場の川村の相手は誰だ!?

PANCRASE 2007 RISING TOUR
東京・後楽園ホール
4月27日（金）試合開始19:00

［主要対戦カード］
佐藤光留（パンクラスism）vs ブライアン・ラフィーク（ジュカオ・アシル・チーム/bodog）
坂口征夫（TEAM坂口道場）vs チェ・ヒュンソク（チーム タックル）
久松勇二（和術慧舟會TIGER PLACE）vs ファビオ・ナシメント（ノーリミッツ/チーム・オーヤマ）
竹内出（SKアブソリュート）vs 渡辺大介（パンクラスism）
［出場予定選手］
前田吉朗（パンクラス稲垣組/初代フェザー級王者）

PANCRASE 2007 RISING TOUR
東京・後楽園ホール
5月30日（水）試合開始19:00

［決定分対戦カード］
松田恵理也（TEAM坂口道場）vs アライケンジ（パンクラス）
金井一朗（パンクラスism）vs 瓜田幸造（掣圏会館）
［出場予定選手］
川村亮（パンクラスism/）、アルボーシャス・タイガー（ラトビア士道館）、チアゴ・シウバ（マカコ・ゴールド・チーム）、大石幸史（パンクラスism）、藤原大地（パンクラス稲垣組）、DJ.taiki（フリー）、ほか
［問い合わせ］
パンクラス　TEL.03-5792-0815

PANCRASE HYBRID WRESTLING

まだ今は、二世で兄。



父は荒鷲・坂口征二、弟は人気俳優の坂口憲二。坂口家長男・坂口征夫(ゆきお)は、デビュー前から注目を集める新人プロ格闘家だ。年齢33歳。残された時間は決して長くない。その間、自分自身の名前で輝けるか？太く短い挑戦を見過ごすな。

PANCRASE 2007 RISING TOUR

4.27(金)後楽園ホール

OPEN 18:00 START 19:00

坂口征夫プロデビュー戦(vs チェ・ヒュンソク)開催!

そしてbodogファイター第2弾来襲。

パンクラス・コスプレファイター第1弾・佐藤光留と初代フェザー級王者・前田吉朗が迎え撃つ!

チケット料金(両大会共通):
SS・¥12,000 A・¥8,000 B・¥6,500 C・¥5,000 D・¥4,000
※当日券は一律500円増しとなります。当日券16:00発売 お問い合せ:パンクラス(03)5792-0815

5.30(水)後楽園ホール

OPEN 18:00 START 19:00

ヘビー級キング・オブ・パンクラス タイトルマッチ

アルボーシャス・タイガー [2R] チアゴ・シウバ

(ラトビア士道館／第2代王者) (マカコ・ゴールド・チーム／1位)

bodogから送り込まれたヘビー級戦士が、はやくも頂点をねらう。鉄の拳でKOの山を築いてきた王者は、牙城を守れるか？

他に[松田恵理也vsアライケンジ][金井一朗vs瓜田幸造]、[藤原大地vs裕希斗]、そして川村亮、大石幸史、DJ.taiki の出場も決定!

パンクラス アマチュアジム「ピーズ・ラボ」東京／横浜／大阪で会員募集中!

お問い合わせ:(03)5792-7079

格闘技を学びたい、健康を維持したい、シェイプアップボディをつくりたいなど、目的にあわせて5種類のトレーニングコースからお選びいただけます。

●レギュラー・コース(総合格闘技) ●キッズ・コース(小学生コース) ●キックボクシング・コース ●ヨーガ・コース ●レッシュ・ラボ(スポーツ整体)

●主催:(株)ワールドパンクラスクリエイト ●後援:インデックス、スカイ・A、ドン・キホーテ、STC GROUP ●特別協賛:bodog FIGHT ●お問い合せ:パンクラス 03-5792-0815 http://www.pancrase.co.jp/

パンクラス、テレビ観戦は スカイ・A sports+で! 全大会をどこよりも早く!

※都合により、放送日時は変更となる場合があります。

New **07.04.27 後楽園ホール大会**

5月4日(金)23:35～25:35／5月7日(月)22:50～24:50(再)

5月12日(土)23:30～25:30 ▶ 05.09.04 梅田ステラホール大会
5月14日(月)22:50～24:50 ▶ 05.10.02 横浜文化体育館大会
5月16日(水)18:00～20:00 ▶ 05.11.04 後楽園ホール大会
5月21日(月)22:50～24:50 ▶ 05.12.04 ディファ有明大会
5月31日(木)20:00～22:00 ▶ 06.01.26 後楽園ホール大会

スカイ・A sports+をご覧いただくには

お近くのケーブルテレビ

e2 byスカパー!

スカパー! スカパー! えらべる15

「よくばりパック(3500円)」から15ch選べる「えらべる15(2800円)」がお得です!

A+ sky・A sports+

最新情報は www.sky-a.co.jp



“セレブの中のセレブ”に突撃!!
はたして小川直也は“セレブ”を名乗れるのか？

「ちょっと一言、よろしいかしら？」

デヴィ夫人に聞く、セレブとは何か？

07年3月、『ハッスル』の“キャプテン”だった小川直也が自らの“銭ゲバ”ぶりをカミングアウト、不人気ぶりをあえてズームアップしたニューキャラ“セレブ小川”に変身！コスチュームも“セレブっぽい”衣装かつ、奥ゆかしい口調でセレブぶりを発揮中だ。

折りしも、全米のMMAバブルでボードッグのカルビン・エアーや、『PRIDE』新オーナーのロレンゾ・フェティータといった超本格派のセレブたちも続出している昨今、マット界にも“セレブ”が一つのキーワードとして一人歩きしている……ような気がする。

そこで、今回、本誌は芸能界屈指のセレブと呼ばれるデヴィ・スカルノ夫人に「本当のセレブとは何か？」を直撃！

大変失礼な話ではあるが、実際に取材するまで、デヴィ夫人にはセレブや上流階級をキャラクターとしたタレントという印象もあったが、なんのなんの。ご自宅の応接室に一歩足を踏み入れたとたん、我々は豪華絢爛な調度品、華麗な花々に驚愕することになる。いいんですか。土足で入っちゃって！

わかりやすいほど徹底したセレブライフ。一般庶民の我々としては、これらがどのくらい高価なものか想像もつかないが……そこには虚実を超越した“凄み”があった。仮にギミックだとしても、その武装ぶりはまるでプロレスラーだ！　というわけで、セレブライフをまっとうする“覚悟”を背負った、デヴィ夫人の言葉を聞きましょう！

——え～、我々は『kamipro』という、しがないプロレス・格闘技雑誌の者です。

デヴィ　ど～うも。しかしねえ……（首をかしげつつ）そもそもなぜ、このワタクシがプロレス雑誌に出なくちゃいけないのかし



社交界における“闘い”!!　紳士淑女のマナーを
下々の諸君にレクチャー三昧!!

セレブとは何か!?
デヴィ・スカルノ夫人

アイ・アム・上流階級!!

小川直也が“銭ゲバ”ぶりを盾に“セレブ小川”として開き直り、“MMAバブルの象徴”カルビン・エアーやロレンゾ・フェティータらリアル・セレブも登場！　マット界でも“セレブ”が注目を集める中、本誌は無謀にも芸能界を代表するスーパー・セレブに直撃！　本当のセレブとはなんなのか？　教えてデヴィ夫人!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／丸山剛史　小川直也撮影／平工幸雄

デヴィ夫人とは何か？

芸能界きってのスーパー・セレブこと、デヴィ夫人はただのセレブ的なタレントではない！　そこには“リアル・上流階級”出身に裏打ちされた、“凄み”や“重み”が宿っている。インドネシア初代大統領のスカルノを夢中にさせ、元大統領夫人に登り詰めた美貌。パリの社交界で“東洋の真珠”ともてはやされた、エレガントな知性とパーソナリティ、そして財力。一般庶民には想像もつかない優雅かつ、ハイクラス。そして波乱に満ちた人生を歩んだ“セレブの中のセレブ”ことデヴィ夫人の言葉に耳を傾けろ！

ら？　プロレスなんて、よく知らないのに。

——まあ、ボクも最近のプロレスのことはよく知らないんですけど（笑）。ウチの雑誌は〝プロレス〟として楽しめる要素を追いかけてるんですが、今回、なぜデヴィ夫人にご登場いただこうと思ったかというと、ここ最近プロレスや格闘技界でも〝セレブ〟がキーワードになっているからなんです。

デヴィ　へぇ～。あ、そうなの？（とペットの小犬ちゃんたちを愛でながら、あまり興味なさそうに）。

——それで、いまアメリカは総合格闘技ブームで団体を牛耳るお金持ちが出てきたり、日本ではプロレスのキャラとして〝セレブ〟が出てきたりしてるんですよね。

デヴィ　へぇ～（あまり興味なさそうに）。

——そこでですね……。

デヴィ　（優雅にさえぎって）ちょっと、この花よりあっちのほうがいいんじゃないのかしら。ちょっと、あなた！

——え～っと、ボクのことでしょうか？

デヴィ　そう。そっちの花瓶とこっちの花瓶をチェンジしてちょーだい。

——はあ（笑）。（花瓶を動かしながら）え～っと、そこでデヴィ夫人さんに本当のセレブとはなんなのか？　とお話をうかがいたいと思いまして。花瓶はこんな感じでよろしいでしょうか？

デヴィ　はいはい。で、なぁに？　ワタクシが出るのは半ページくらいかしら？

——いやいや、カラー6ページをドーン！とご用意しております。

デヴィ　6ページ？　じゃあドレスでも着ればよかったかしら。オホホホ！

——いやいや、そのままでけっこうです。本来、我々はこんな凄いお部屋には入ることさえできない〝下々の人間〟なんですから（笑）。

さっそくですが、ボクはセレブの"セ"の字も知らないんですが、セレブというのは、ただのお金持ちのことじゃないですよね？

デヴィ　そうね。"セレブ"は、セレブレティの略称ですけど。基本的に世間的にも著名な"名士"という意味が強いでしょうね。

——名士！　最近、日本ではさかんに"セレブ"という言葉が使われてますが、違和感を感じたりすることは……。

デヴィ（さえぎって）あります！　それはありますよ！　ただの"名士"だと、政界や財界を連想してしまうかもしれませんが、セレブレティは政界みたいな世界とはちょっと違った存在なんですよ。

——では、セレブとは一言でいうとズバリ、なんなんでしょう？

デヴィ　第一に、たいへんに人気のある方でなくてはダメです！（キッパリ）。

——はいはい。第一に人気。

デヴィ　有名、著名、人気……そういったものが必須条件ですわ。それも老若男女を問わず知られていなくてはダメ！　そして財力はもちろん、その人自身の生活に"優雅さ"も必要ですわ。

——"優雅さ"まで必須項目だ、と。

デヴィ　さらに大事なことを教えましょうか？　それは人々から"うらやましがられる存在"であることです！

——確かにデヴィ夫人のゴージャスな暮らしぶりは、心の底からうらやましいですね。

デヴィ　そして、近寄りがたい存在なこと。

——え～っと、ゴージャスすぎて、とっても近寄りがたいところもありますね。

デヴィ　さらに、"高値の花"的な存在であること。

——あれ？　まさに、デヴィ夫人ご自身のことじゃないですか!!

デヴィ　オホホホ！　あとは、"下界"の人たちとは、一線を隔てた生活をしていらっしゃる存在のこと。



ラトナ・サリ・デヴィ・スカルノ■1959年6月に"インドネシア建国の父"スカルノ大統領と訪日中に出会い、結婚。65年にスカルノが終身大統領を解かれ、68年に死去すると、フランスへ移住。パリの社交界の花と賛美され、"東洋の真珠"と称される。80年より10年間インドネシアで事業に従事し、91年よりニューヨークへ移住。90年代後半以降は日本を拠点とし、テレニや講演会など多岐に渡って活躍中。

セレブとは、人気のある方ではなくてはダメ!! そして財力はもちろん、生活に"優雅さ"も必要ですわ

——"下界"ですか。なかなか日常的には聞かない言葉を使うのも条件だったりして（笑）。

デヴィ　そういった条件をクリアしながら、「自分たちは選ばれた人々である」という意識を持ってる人のことでしょうね。

——そういったセレブな自己意識は生まれながらのもの？　それとも徐々に身につくものなんですか？

デヴィ　徐々に身につく場合もありますし、ヨーロッパでは生まれながらのセレブレティは、"銀のスプーンをくわえて生まれた子"と言うんですよ。

——とにかく庶民とは違う！　と。日々セレブな生活をキープするのも大変だと思いますが、セレブであり続けることで一番注意することはどんなことなんでしょうね？

デヴィ　"憧れられる"存在でなければセレブレティではないですから。ワタクシにとっては人々の視線こそが栄養であり、ビタミン剤であるんですね。

——この部屋の素晴らしく豪華な調度品やお花の数々もデヴィ夫人には、ごく日常的なことなんですか？

デヴィ　ええ。でもいくらインテリアに凝っても、日本のお家は狭くて狭くて、本当に困ってますのよ！

——いやあ、ボクも一度は困ってみたいです（笑）。しかし、都内ド真ん中のこんなにご立派な豪邸をお持ちでも狭いだなんて。

デヴィ　最近、ちょうどお隣のお家が売りに出されましたから「ちょっと買おうかな？・」なんて思ってるんですよ。オホホホ！

——ただ日本でセレブと言われているタレントさんは、意外と普通の家に住んでたりしてますよね。

デヴィ　よく雑誌で「六本木ヒルズに住めば、セレブの仲間入り」みたいな書き方も

プロレス&格闘技界 スーパーセレブ図鑑



タイガー・ジェット・シン

毎日、ヘビの血を飲みながら、3年間で2000軒の家を建造！　という無鉄砲すぎる不動産業や、総工費22億円の高級ホテルをフランチャイズ経営するインド発の"狂える"スーパー・セレブといえば、タイガー・ジェット・シン。地元でドナルド・トランプばり？　の名声を築いたシンにとって、もう「プロレスは趣味」。カナダには2億5000万円の大邸宅を構え、高級車を乗り回す有名実業家なのだ。ハッ!!



"ミリオンダラーマン"テッド・デビアス

プロレス界の億万長者といえば、"ミリオンダラー・マン"テッド・デビアス！　札束をバラまく高飛車な入場シーン、横暴で排他的、絵に描いたような成金野郎ギミックで、WWF（現・WWE）で大ブレイク！　だが、トゥーマッチな億万長者スタイルを徹底した反動で、プライベートでは自我が制御不能状態に……。荒んだ生活のあと、現在は改心してなんとクリスチャンの神父に転身！



田中八郎

90年にプロレス界を襲った大津波！　その震源地となったSWSのオーナーがメガネスーパー社長の田中八郎氏だ。異常な羽振りの良さで、レスラーに高額なファイトマネーをつかませ、道場建設で約30億円！　を投入するスーパー・バブルぶり、プロレス史上最強の無秩序な経営ぶりに、当時は否定的な声も多かったが、いまのプロレス界ではおとぎ話級の素晴らしすぎる姿勢である

してますけど私たちにしたら、六本木ヒルズなんて本当に安普請（やすぶしん）なビルだと思ってますから！

——〝セレブの巣窟〟といわれる六本木ヒルズも、デヴィ夫人には粗末なビル。

デヴィ　あんなビル、な～んの高級感もありませんし、おしゃれでもなんでもありませんわ！　ニューヨーク、パリ、ロンドンのアパートメントにいらっしゃればわかりますけど、豪華で重厚でエレガントなビルがいくらでもあります。それに比べたら、六本木ヒルズなんて本当につまらない建物よ。ま、立地的には便利なんでしょうけど。

——家賃もかなりハイクラスですけどね。

デヴィ　あんなに小さくて狭い部屋に家賃が月100万円なんて、本当にバッカらしいと思いますわ。

——そんなデヴィ夫人は過去にさまざまなセレブの方々とお会いしていると思うんですが、一番印象に残っている方は？

デヴィ　やはり英国一の貴族と言われている歴史あるベッドフォード公爵と公爵夫人のお二人ですかね。

——ああ、やっぱりベッドフォード公爵ですか、オホホホ！……って、正直誰のことやらまったくわかりませんね（笑）。

デヴィ　ワタクシはエリザベス女王の従兄弟という由緒ある血筋のパトリック・オブ・リッチフィルド伯爵と交際していた期間や、フランスのエルゼア・ド・サブラン公爵とも婚約していたこともありますのよ。

——はぁ……凄すぎて見当もつきませんが、そういうスーパー上流階級の方と単なるお金持ちでは何が違うんでしょう？

デヴィ　間違えてほしくないのは、社交界とセレブレティとは、まったく別ものということなんです。これが社交界の場合ですと、

ニューヨークやパリのエレガントなビルに比べたら 六本木ヒルズなんて本当につまらない建物ですわ!!

その方に〝タイトル〟があるかないかが非常に大事ですから。

——ん？　タイトル？　『PRIDE』ミドル級のベルトみたいなもんですかね？

デヴィ　（無視して）社交界では、公候伯子男、プリンスとかプリンセスとか、大臣閣下とか大統領夫人とかいった〝タイトル〟が重要なんです。それに対してセレブレティはいろいろな分野の方が入ってきますわね。たとえば、ジェットセットと呼ばれる、毎日自家用ジェットで世界中を飛び回ってるような人や、自家用ヨットをお持ちの方。それでサントロペや地中海、あるいはカリブ海にいらっしゃる方たち。……そういった〝富裕な〟セレブレティや、有名な俳優さんや女優さんたちね。でも俳優さんや女優さんも、その人が会場に現われただけでどよめきが起きるくらいのレベルじゃないとダメだし、社交が大好きで、慈善事業やチャリティにも力を入れたり、一般の方に尊敬される部分を持っていることが大事ですわね。

——う～ん。リアル・セレブへのハードルはたくさんあるんですね。そんなデヴィ夫人も、社交界やセレブとのお付き合いで苦い経験や失敗をしたこともありますか？

デヴィ　それはありますよ！　ただそれは……日本の文部省が悪いんですわ！（豪華な家具を指差しながら）日本ではこういったヨーロッパの家具を〝ロココ式〟とか〝ロココ調〟と学校で習いますでしょう？

——ああ。うっすらとですが確かに習った覚えはありますね。

デヴィ　以前、フランスのベルサイユ宮殿のルイ16世のベッドルームとマリー・アントワネットのベッドルームが修復されたんです。そのお披露目会に招かれて行ったんですが、マリー・アントワネットのベットカバーが9年間くらいかけた刺繍で仕上げたものだったり、ベッドを支える文柱の様式が素晴らしい〝猫足〟だったものですから感激して「ああ、ロココの文化ってなんて素晴らしいんでしょう！」とほめたんです。そうしたら友だちにバーッ！　と口を押さえられて「デヴィ、そんなこと言っちゃダメ！　これはロココじゃない！　これはルイ王朝文化よ！」とたしなめられたんです。

——日本の教科書の記述が間違っていた？

デヴィ　まったく違ってました！　日本の文部省をあんなに恨めしく思ったことはありませんわ！　そこであらためて「じゃあ、ロココってなぁに？」と友だちに聞いたら、「ルイ王朝文化のマネよ！　キンキンギラギラのゴテゴテの悪趣味で、ドイツとフランスの境界のバベリア地方から生まれた文化を蔑称で〝ロ・コ・コ〟！　と言うのよ」と怒られましたから。だって、ロココは素材として、本当の金を使わないこともあるんですよ。

——つまり本道の亜流というか、フェイク的な要素も強いわけですね。

デヴィ　ええ。でもご心配なく。いまアナタがお座りになっているイスの金色の部分、そこにはちゃんと本物の金を使ってますのよ。

——え！　このイスに本物の金が？　いいんですか、プロレス雑誌ごときの人間が座っちゃって（笑）。

デヴィ　イスの表面にある刺繍も本当の金糸を使ってますから、永久に黒くならないんですわ。

——いやぁ、ただのプロレス・格闘技雑誌なのに、今日はインテリアの歴史の勉強にもなりますね（笑）。

デヴィ　格闘技といえば……ハワイのお相撲取りさんはなんて名前でしたっけ？

——もしかして、我らが曙さんのことでし



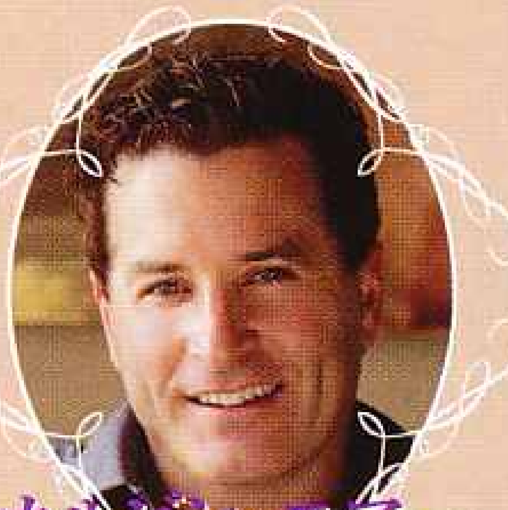
山口日昇

元『kamipro』鬼畜編集長、現・ハッスル大統領。20代で『紙のプロレス』を出版し、世譲出版（現・ダブルクロス）を立ち上げるベンチャー魂を発揮するも、多額の借金を背負い込み、まったくセレブでない編集者時代を経るも、『kamipro』から距離をおき始めた40代からオシャレに開眼！　現在は「高級インテリアや、高級時計収集に凝っている」という未確認情報もあり、すっかりプチ・セレブに成長した模様。



ロレンゾ・フェティータ

カルビン・エアーの侵攻にストップをかける大富豪の中の大富豪！　格闘セレブの真打ちがついに登場！　年商約1,500億円！を誇る巨大カジノのオーナーであり、いまや右手にUFC、左手に『PRIDE』という二大帝国を完全に掌握したダンディな伊達男。ネバダ州アスレチック・コミッションの要職に就いた経験もあるロレンゾ・フェティータこそ、“キング・オブ・MMA”の称号にふさわしいゴッドファーザーだって！



カルビン・エアー

個人資産が1150億円！（経済誌『フォーブス』調べ）　1大会の予算がなんと10億円！　リアリティショーには戦車に乗って登場！　と「ほしいものは、ほしい！」と己の巨大資本を迷うことなく投下する、わがままなボードッグの総帥、カルビン・エアーはまさにMMAバブルの象徴的存在。“皇帝”ヒョードルを問答無用で強奪した実績は、さらにヒートアップ。驚異の“大人買い”はどこまで続く？



エド・フィッシュマン

ハリソン・フォードにニコラス・ケイジ！『PRIDE』ラスベガス大会に極上のハリウッド・セレブを招聘するネットワーク、マイケル・ジャクソンともマブダチ！　な超VIPなエド・フィッシュマンは巨大カジノ“ハラスグループ”を仕切る大物。一時は「アメリカの『PRIDE』の父」と言われたが、現在は『PRIDE』と決裂して告訴中……。大資産を持ちながら、まだ貪欲にむしり取ろうする姿勢こそ成功者の秘訣なのか？

ょうか？
デヴィ　そう！　ワタクシ、「曙はおバカさんじゃないか？」と思うんです。それを曙さんに直接言ったこともあるわよ。
――それはずいぶんおもいきりましたね（笑）。
デヴィ　彼の横綱当時の闘いぶりは本当に美しかったじゃないですか？　そんな人があんな無様な負け方ばっかりで、性懲りもなく試合に出ているでしょう。
――性懲りもなく出てますか！
デヴィ　そもそも、相撲取りがK―1なんかできるハズがないじゃない？　ですからね。曙がやるんなら、『PRIDE』か、プロレスですよ。
――ああ、むしろ『PRIDE』をやるべきですか（笑）。
デヴィ　相撲取りは、まわしに手を回したり、もともと手を重点的に使って生きてきた人たちなんですよ。でも彼はK―1でボクシングみたいなグローブをして、あれじゃ手が使えないじゃない？　どうしてそれがわかんないの？　手が使えないスポーツは彼には無理！　インポッシブルな話だわ！
――インポッシブルな話はともかく（笑）。デヴィ夫人は日常的にプロレスや、格闘技はご覧になるんですか？
デヴィ　（顔をしかめて）観ないですよ！　ところで……プロレスって全部、八百長なんでしょう？
――はあ。いきなり凄いことおっしゃりますね（笑）。要するにエンターテインメント・スポーツというか。
デヴィ　ああ、そう。じつはワタクシ、あるプロレスラーを応援しているお友だちがいる関係で、先日、名古屋でプロレスを観たんですけど、出てた方は、たしか……キンタローさんと言ったかしら。
――キンタローさん？　もしかして、金村キンタローのことですか？
デヴィ　ええ。その金村キンタローさんと学校が同じで、応援されている方にお願いされて会場に行ったんです。でも、なんだか〝戸板〟に針金みたいなものがい～っぱいついてるんですよ！
――おそらくそれは有刺鉄線ボードデスマッチですね。
デヴィ　（不愉快そうに）金村キンタローさんはも～う血だらけになって、背中が引っ掻き傷だらけ！　金村キンタローさんたちはあんなことしてるんですか？　金村キンタローさんを観ててぜ～んぜん、楽しいと思わなかったわ！（キッパリ）。
――しかし、ここまで「金村キンタロー」という人名がデヴィ夫人の口から連呼されるとは（笑）。
デヴィ　でも一人だけ格好いいレスラーがいたわね？　あれは誰？（とスタッフに名前を聞くデヴィ夫人）。黒い髪で長身の……ちょっとお友だちに電話して、レスラーのお名前を聞いてくださらない？
〈ここでスタッフの方が電話で確認〉
スタッフ　「川田（利明）さんか、小島（聡）さんじゃないか？」とのことです。
デヴィ　そう！　川田さんですわ！
――あ、川田さんでしたか！
デヴィ　そのほかの人は本当にどの選手もヒドかったですし。彼が一番強くて、格好よかったですから。
――ああ、〝強く見える〟のはプロレスラーとしてポイントですね。デヴィ夫人はテレビのバラエティ番組で、格闘家やレスラーとご一緒されることもあると思いますが、『愛のエプロン』（テレビ朝日系）で共演されてる、インリン（・オブ・ジョイトイ）さんも『ハッスル』というプロレス団体に出ていらっしゃるんです。
デヴィ　え？　インリンさんってそういうお仕事もされてるの？　ボクシングにもレースクイーンみたいなセクシーガールがいますけど……格闘技ではラウンドガールって言いましたっけ？　インリンさんはラウンドガールをされてるの？
――いや、じつはインリンさんは実際にリングで闘ってるんですよ。
デヴィ　えっ！　……（としばし絶句して）。どうやって、試合するの？
――金村キンタローさんほどじゃないですが、それなりに。
デヴィ　いったい誰と試合してるの？
――先ほど、名前の挙がった川田さんとか。



見てみぃ！　この優雅な筆致！　取材後にはなんと自作の絵（手に持っている2点と手前の1点）を披露してくれたデヴィ夫人。ワンちゃんを抱いているということは、もしかして自画像？　なのかどうかは各自調査！

デヴィ夫人、スーパーセレブなご自宅を大公開!!



故スカルノ大統領とのツーショットをはじめ、在りし日のデヴィ夫人のな上流階級ライフがうかがえるセレブな写真たちがズラリ！



どーだい？　このゴージャス極まりない応接室の調度品の数々！　高価なドールコレクションがドーン！　と陳列されて圧倒的！



ハイグレードな空気をビンビンに感じさせる絵画や彫刻、花瓶たち。右端の地球儀でさえ、美術品のような“品格”を放っている。

これが『ハッスル』のパンフレットです。

デヴィ　川田さんと試合!?　……あら、いやだ。なぁに？　カイヤもいるじゃない!?（パンフを見ながら、嬉しそうに）。

――インリンさんは去年、カイヤさんとも闘ってるんですよ。そういった芸能人も闘うことのできるエンターテインメントなリングが、『ハッスル』なんですけど。

デヴィ　……（しばし絶句して）。まぁ、カイヤは本当に売れない子だから、こういう仕事もしなきゃいけないかもしれないわね（笑）。

――ハハハハ！　カイヤさんは〝売れない子〟ですか（笑）。

デヴィ　インリンさんはお美しいし、人気もあるから、こんなお仕事をする必要はないんじゃない？　オホホホ！

――やはり知性派のデヴィ夫人は〝肉体を使った闘い〟は、お好みじゃないですか？

デヴィ　ワタクシ、昔は身体を使った職業の人たちを心からお気の毒に思っていたこともありますのよ。

――はあ。

デヴィ　裸同然の格好でリングに上がっていると、〝見世物〟的な延長というか……。

――でも、インドネシアのスカルノ大統領夫人であり、ヨーロッパでは社交界をサバイバルしてきたデヴィ夫人は、肉体とは違ったかたちで、さまざまな〝闘い〟も経験されてると思うんですけど。

デヴィ　ええ。自分は戦場の一戦士だと思ってますから。この世に生を受けたときから、人間は生き抜かなければならない業を背負ってますし、「決して敗者にはなりたくない」という気持ちが強いんです。

――デヴィ夫人がこれまで一番、厳しかった闘いってなんですか？

デヴィ　そうねぇ……。いろいろな修羅場をくぐってきましたけど、1965年のインドネシアの政変（インドネシアの急進左派軍人による軍事クーデター）のときなんか、もし今夜、政敵が私を暗殺に来たら……ベッドからガバッと飛び降りて、窓から芝生に飛び降りて、家の庭を突っ切って、向かい側の川の中に潜って、何時間くらい水の中で潜んでいることができるか？　忍者じゃないけど、川の中で竹筒を口にくわえたりすることまで、本気で考えましたし。

――まるで〝くの一〟ですね（笑）。

デヴィ　その政変の時期は一睡もせず8日間もすごしましたわ。いつ何時、どんな事態が起きるかわからないですし。顔に赤い斑点が出てきましたから。

――そのクーデターのあと、フランスに亡命されるわけですけど、フランスの上流階級の社交界の中にも闘いはあったんですか？

デヴィ　パリの社交界は〝女王蜂〟と言われる、きらびやかな人が何人かいましたから。〝女王蜂〟を取り囲んでの縄張り争い。そんな熾烈な闘いがありましたわ。それに社交界のメンバーもどのサロンにも顔が出せるというわけではないんです。この方とこの方のグループとか、さまざまな派閥があって、その中でも闘ってますから。

――社交界でも「敗者にはなりたくない」という気持ちは強かったですか？

デヴィ　ええ。ワタクシは〝挑む〟という言葉が大好きなんですね。

――そうすると、どうしても攻撃的な姿勢にならざるを得ないですよね。

デヴィ　そうね。ただ、自分の夢や願いを次から次に実現すれば、次から次に目標が出てきますから。人生、誰にでもチャンスはあるんですよ。ただ、目的とか使命感を持っていない人は、そこに気づかないことが多いんです。

セレブ小川さん……？　あら、この人は、よく“自転車に乗っている人”じゃないかしら？

小川直也の銭ゲバ伝説とは？



「世の中、コレ（金）ですよ！　コレ！」と『ハッスル』で成金ぶりをアピールしまくるセレブ小川こと小川直也だが、その銭ゲバのルーツはどこにあるのか？　その金の亡者伝説をプレイバック！

●ギャラ8,000万円でも出場拒否！

小川の銭ゲバっぷりが最初に大きく話題になったのは、01年大晦日の『イノキ・ボンバイエ』。猪木軍vs K-1の全面戦争がテーマの大会に、当時K-1代表だった石井和義館長は小川にピーター・アーツとの対戦で3000万円のギャラで提示。だが、小川側はこれをはねつけ1億円のギャラを要求！　石井館長もなんと自腹で2,000万円を上乗せして5,000万円を提示。アーツの負傷から最終的には8,000万円！　という破格のギャラでジェロム・レバンナとの対戦をオファー！　だが、それでも小川側は「ギャラは1億円、相手はピーター・アーツ」と断固として譲らずに欠場した。ファンは失望し、メンツを潰された大会プロデューサー、猪木も怒り心頭！　恒例の炊き出しの最中に街頭で「“銭ゲバ”は死ね～」と絶叫する異常事態となる。以降、小川イコール“銭ゲバ”のイメージが定着した。

●プロレス史上最高額！　小川がハッスル納税王に

さらに小川が注目されたのは、2004年度の長者番付の発表時。なんと納税額が1億3,780万円、約3億7757万円！　の推定収入が明らかとなり関係者をビビってたじろがせたことだろう。プロスポーツ部門でも総合7位にランクインし、納税額が1億円を突破！　というプロレス界初の快挙！　これは、ハッスルポーズがブームとなって、CM（最盛期は同時に5本放送）や芸能活動が激増したこと、そして「3試合で契約金が1億円？」ともささやかれた『PRIDE GP』の出場とあいまって、“ハッスル成金”のピークの時期だった。

●吉田秀彦戦でビックマネーを獲得？

06年末の『PRIDE男祭り』ではアマチュア時代から因縁浅からぬ関係ゆえに、「絶対に実現不可能！」と言われていた吉田秀彦と対戦した小川。この世紀の一戦は、大会スポンサーが次々と名乗りを上げる加熱ぶりもあって、一部新聞紙上では両選手が超破格のギャランティを獲得したと報じられ、一部では「総額5億円マッチ？」との噂が出回ったが、いまだに正確な金額は明らかになっていない。こういった数々の風評を飲み込んで、小川の銭ゲバ幻想は増幅の一途をたどることになり、これらが“セレブ小川”への導線となったのだ。

――なるほど。そのためにはやはり〝自分がデヴィ夫人でいる〟という緊張感は常に持たれるんですか？

デヴィ　もちろんですわ！　人がいるところでは、常に緊張感はなければダメでしょう。それがワタクシの気の張りや若さ、美しさを保つ秘訣だと思いますわ。

――いつ何時、24時間、デヴィ夫人を貫いていらっしゃる、と。その姿勢を保つために、切り離せないものってなんでしょう？

デヴィ　そうねぇ。日本はともかく、外国など本場のセレブレティは、本来は舞踏会や晩餐会とか、パーティとかがあると必ず呼ばれる、選ばれた人たちのことなんです。その人が登場する場合、常にレッドカーペットの上を歩いているわけです。

――確かにアカデミー賞ではスターが必ずレッドカーペットの上を歩いてますよね。

デヴィ　だから、レッドカーペットとセレブレティは切っても切り離せない関係ですし、わかりやすい存在証明の一つでしょうね。

――いやあ、セレブの条件がよ～～くわかりました！　最後の質問ですが、デヴィ夫人はセレブ小川さんはご存知でしょうか？

デヴィ　……セレブ小川さん？

――ええ。またの名を小川直也というんですけど。そのパンフレットにも……。

デヴィ　（『ハッスル』のパンフレットの写真を見ながら）あら？　……この人はよく自転車に乗ってる人じゃない？

――ズバリ、自転車には乗っていないと思いますけど（笑）。

デヴィ　乗ってませんか？　オホホホホ！

――セレブ小川はまだまだ名士ぶりが足りないということですね（笑）。今日はありがとうございました！

【07年3月30日／デヴィ夫人ご自宅にて収録】



“キャプテン・ハッスル”

みんなオイッス！『ハッスル』のファイティング・オペラに殉じるため、頭は孫悟空、腰にはハッスルベルト、コスチュームは吊りパン、必殺技はモンキーフリップ！ と大変身。さらに『PRIDE GP』でのハッスル布教で、『ハッスル』の名前を世間に轟かせたが、暴走スタイルからのチェンジに苦しむことに。



ハルク・オーガン

選手が別人キャラに変身する早すぎた『ハッスル』、伝説のZERO-ONE☆USA。小川は、自身の“ハルカマニア”ぶりを暴走させ、ハルク・ホーガンを完コピした“ハルク・オーガン”へ。その伝説を目撃した本誌・坂井ノブは、「内容はどうでもいい。オーちゃんが張りきってるだけで」と大興奮!! よくないよ。



“暴走王”小川直也

「目を覚ましてくださ〜い！」と橋本真也とのセメントマッチの“1.4事変”で、満天下に明らかになった“キレたらヤバイ”キャラとして、狂気が宿ったギョロ目で入場！ いつ何時も“強さ”と“凄み”を発揮する“暴走王”として定着。殴る、蹴るが中心のプロ格スタイルはしばらくマット界を席巻した。



小川直也 キャラ図鑑

ロード・トゥ・“セレブ”!!

“キャプテン”から“セレブ”へ。本来の持ち味である“銭ゲバ”キャラを増幅させまくったキャラクターへの転身を見せた小川直也。だが、彼はこれまでも己の欲望のおもむくまま、複数のキャラを演じている。とくに『ハッスル』ではさまざまな珍キャラクターをノリノリで演じまくり、どこか居心地の悪いような奇妙なフィーリングで、ファンを異様な世界へと誘っている。ここでは、そんなオーチャンをズバリと大図解!



セレブ小川

歴戦の銭ゲバぶりをズバリと開き直って、「コレ（金）で動いて何が悪い！」とセレブに開眼！ ハッスルバブルも終了したいま、茅ヶ崎の小川道場建設など、なにげに入り用な小川のリアルセレブぶりは測定不能。肝心の試合スタイルは必殺の“スーパー・セレブ”以外はあまり変わっていないことが判明。



ジュードー・オー

青い柔道着姿＆エアギターで入場し、「ジュー、ドー、オー！」のかけ声で、送り足払いを出す“ジュードー・オー”投げ。怒りの沸点に達すると、全身を奮わせてジュードーアップだ！ すると、会場はウソのような絶対零度に。なお、本誌編集長ジャン斉藤は、世界一のジュードー・オーファンを自認する。



キャプテン・オー

ハルク・ホーガンとアメリカで接触！と“ハルカマニア”ぶりをさらにヒートアップさせた小川はホーガンの別人キャラ、“ミスター・アメリカ”のマスクを譲り受け、ホーガンが推薦する“キャプテン・オー”として帰国。「オ〜、ノ〜!!」――空港での記者会見で見せた、微妙なボディランゲージは伝説だ!!



今年はどうなる? どうする?

『ハッスル・エイド2007』開催決定!!

ホントにやれんのか？ 今年もあの『ハッスル・エイド』が帰ってくる！ 昨年は“初の地上波放送決定”から、大会直前に“フジテレビの『PRIDE』地上波放送撤退”という緊急事態に！ ファンタジーが圧倒的な現実の前に打ちのめされ、そこからウルトラC級の新しいファンタジーを生み出すという奇跡的な大会となった。この伝説のイベントが今年も開催決定！ 場所は同じく、さいたまスーパーアリーナ。スリルとサプライズで観客をアゲアゲした、あの興奮はよみがえるのか？

プレイバック!! ハッスル・エイド2006



悲願達成〜ッ！『ハッスル・エイド』がフジテレビでの地上波放送が決定！渋谷109前のスペースで和泉元彌まで駆けつけて大発表！ この祝いの日には髙田総統も降臨が予定されていたが急病のため急遽、川田総統代理がお披露目！ 以後、この姿で登場するたびに“がきデカ”の愛称で親しまれることに。



「『ハッスル』にアントン登場？」と一部マスコミが暴走！ 新日本プロレス関係者が否定コメントを出すなど“騒ぎ”となったのが『ハッスル・エイド』でふ化する謎の生命体“タマアゴ”の中身！ タマアゴの“A”の文字がイニシャルでヒントは「アゴが出ている人」ということからファンの妄想が爆発！



ワイドショー要員？ と陰口を叩かれつつも芸能界“最強の嫁”！ カイヤが、『ハッスル・エイド』でプロレスデビュー決定！ 以後、アンジョー司令長官に自分の店を荒らしまくられたり、愛車をジャイ・シルにボコボコにされたり、ヒールに転向したりしているうちに、カイヤはどこへいったんだ!?



お下劣ネタも炸裂する『ハッスル』とドナー登録を推進する骨髄移植推進財団が『ハッスル・エイド』の開催を発表！「なぜドナー？」とこの組み合わせには、誰もが不思議に思ったが、これこそ“エイド”がつく意味。大会当日はインリン・オブ・ジョイトイもドナー登録する“男気”で喝采を浴びた。



ウソだと言ってよ！「開催まであと12日」で、フジテレビが『PRIDE』地上派撤退！ 『ハッスル・マニア』放送も水の泡！ そんな中、行なわれた髙田総統の緊急会見では、緊張気味の報道陣に「ご機嫌はいかがかな？ご機嫌はいかがかなと言っているんだよぉ!!」と狂い咲き。総統、最高だよ!!



『ハッスル・エイド』開催不能!? フジテレビが「DSEの大会へタレントの出演自粛を呼びかけた」とスポーツ紙が堂々報道（じつはデマ）。HG、ニューリン様らが出場の危機！そんな中、6.10『ハッスル』浜松大会にHGが姿を現わすとバックステージは大拍手と歓声が！ 遅れて会場入りしたRGにはブーイングが。



タマアゴの正体、ナンバー1候補が、くりぃむしちゅ〜の有田（哲平）演じる、有田総統。05年の『ハッスル・マニア』のHGの活躍にいたく感激していた有田は、オープニングにサプライズ出演！じゃあ、タマアゴの正体はなんなんだ？ とますます混乱する観客たち。そこにはファンの想像を超えた結末が待っている。



タマアゴから生まれたのは誰もが想像しなかったジョーカー、髙田総統の化身“ザ・エスペランサー”。この登場を携帯電話で知った“日本一の髙田ファン”であり、Uインターの戦友であり、いまは串焼き屋を営む鈴木健氏は、「興奮して、興奮して、やきとりを何十本もダメにしちゃったよ！」とその感激を証言している。

ハッスル・ハウス vol.24
東京・後楽園ホール
5月9日（水）開演19:00（開場18:00）

［チケット料金］
ハッスルVIP 10,000円／スタンドS 7,000円
スタンドA 5,000円／スタンドB 3,000円
※1歳以上のお子様も入場券が必要です

ハッスル23
青森・青森県営スケート場
6月10日（日）

ハッスル・ハウス vol.25
東京・後楽園ホール
6月14日（木）

ハッスル・エイド2007
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
6月17日（日）

［問い合わせ］
TEL.03-5464-1731
http://www.hustlehustle.com/

4.8、マスク越しに涙を流したのは桜庭だけではなかった――





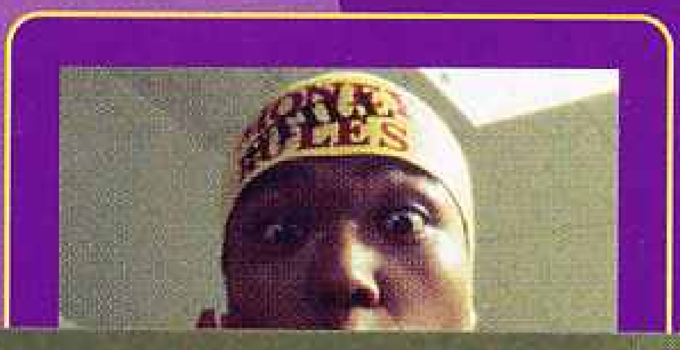
岩手県知事選出馬 ザ・グレート・サスケの

人生最大の屈辱、そして挫折の日

～ドキュメント、サスケの一番長い日～

4月8日、ついに運命の日が訪れた! ……といっても、榊原体制最後の『PRIDE.34』のことではない。そう、我らがザ・グレート・サスケが出馬した岩手県知事選の投開票が行なわれる日なのだ。すでに結果のほうは皆さんもご存知のとおり、残念ながらサスケは落選。『PRIDE』の会場で桜庭がマスク越しに涙を流したのと同日、岩手ではサスケが涙を見せたのだった。残念。そんなサスケの一番長い日を岩手県出身のわたくし松澤チョロが密着取材を敢行しました!

取材／松澤チョロ

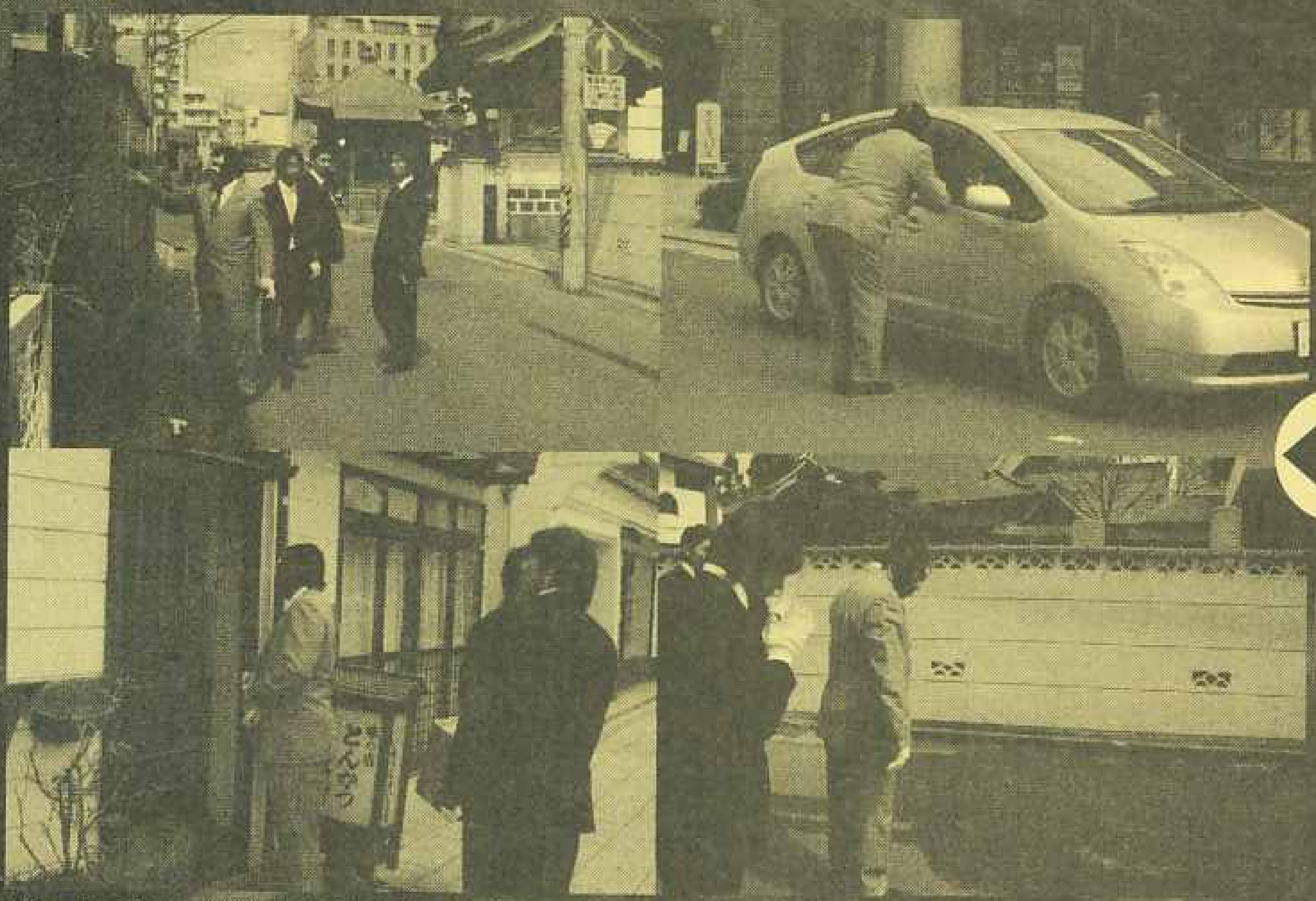





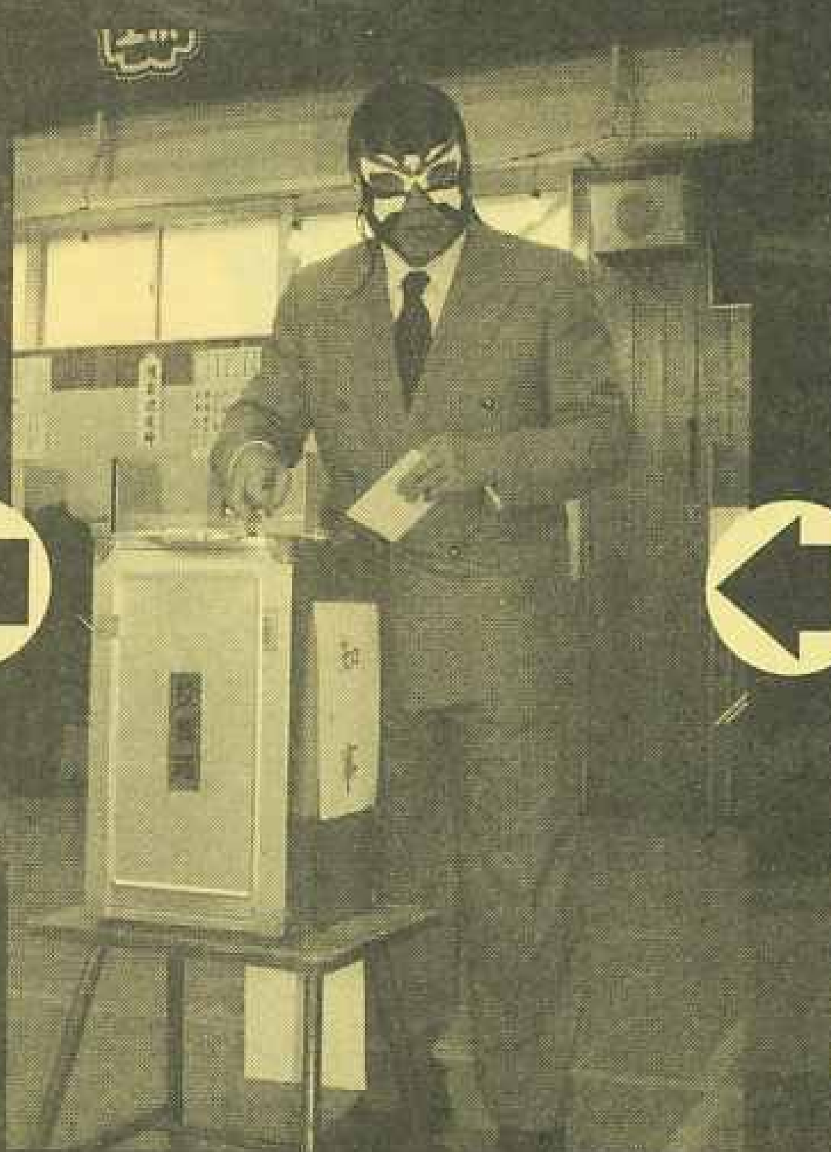


サスケ関係者から投票日当日は選挙事務所に8時集合との情報を入手し、盛岡駅からタクシーに乗り込み約10分。7時40分に無事、選挙事務所に到着。よく見ると、サスケの選挙事務所は産婦人科でした。オギャ〜！

4.8、サスケの一番長い日を約18時間、不完全密着!!



投票も無事終わり、再び選挙事務所に向かって徒歩移動。その最中にもサスケの姿を見かけた人から「サスケさんに投票してきましたよ」との声が多数寄せられ、思わずサスケもちっちゃなガッツポーズ。その後、朝方、車に轢かれた猫がいたことを思い出したサスケは現場に直行。しかし、すでに猫の死骸は除去され水が撒かれていた。手を合わせたあとサスケは近隣を駆けずり回るも残念ながら飼い主は見つからず。



しばらく事務所内でくつろいだあと、サスケとともに近くの投票所へ歩いて向かう。ここでは、よくテレビで見かける、立候補者自ら投票する瞬間を撮影。約10時間後、当落が判明する。



8時になりサスケ選挙軍団が続々と事務所前に集合するも、誰も事務所のカギを持っておらず、サスケ到着まで路上で立ち話。30分後、ようやく事務所内に潜入。お、サスケだるま発見!

今回のサスケの密着取材を前に説明しておきたいことがある。個人的なことになってしまい恐縮だが、わたくしチョロはサスケと同じく岩手県出身である。何年か前の『kami-pro』にも書いた記憶があるが、サスケの妹とは高校の同級生だ（しかも隣の席！）。

そんな縁をフル活用し、ダブルクロスに入社してからも、何かとサスケの取材を担当し、サスケ組を名乗らせてもらっていたこともある（プチ自慢）。そんな思い入れの強いサスケが故郷・岩手の県知事選に出馬するなんて聞いたときには、これは自分が取材しなけりゃ嘘だろうと妙な使命感を感じていた。政治の世界はからっきしわからないし、岩手にも何年も帰っていないため事情はよくつかめていないが、サスケ知事が誕生する可能性がそれほど高くないというのは、さすがのボクでも理解できる。

しかし、万が一ってこともあるはずだ。4月1日(!)には演説中のサスケの口から「当選したら覆面を脱ぐ」なんて発言も飛び出したから、さあ大変。「そんなこと言ったら、素顔見たさに、みんなサスケに投票するんじゃない？　もし当選したら、ジェシー・ベンチュラに続き世界で2番目のプロレスラー知事の誕生だ！　わ〜い、わ〜い！」と、投票日前日の4月7日の盛岡行きの終電の新幹線に飛び乗っていた。吹けよ、神風！

今回の選挙でサスケの右腕となっているのが、サスケの所属する芸能プロ、アルファ・ジャパンプロモーション代表の荒井英夫氏。数年前、サスケとともに『kami-pro』（当時RADICAL）にも登場したことがある荒井氏とは面識があったため、盛岡に着くなり、すぐに電話をかけてみた。

「『kami-pro』のチョロですけど、明日の投票日にサスケさんの一日密着取材をさせてもらいたいんですよ。歴史的瞬間をこの目で確かめたいんです！」

投票日前日のクソ忙しい中、電話越しに熱く語るボクに対し、荒井氏は「なんだよ、投

ザ・グレート・サスケ 敗戦の弁

「やはり、民主・小沢王国は強かった!」

サスケ「厳しい結果に終わり、支持していただいた方々、そしてスタッフや応援してくれたすべての方々に申し訳ないという気持ちと、最後までご支援いただきましてありがとうございましたという二つの気持ちです」

【いまの心境は?】
我が人生の中で最大の敗北であり、挫折ですね。敗因は一言でいえば、民主・小沢王国は強かったということでしょうね。

【どういう選挙戦だったか?】
アナログな闘いでしたね。あえてそうしましたし、それしかできなかったです。ホントに手作りな選挙でした。ただ、選挙戦では熱狂的な歓迎を肌で感じ取れたので、今後の活動に活かしていきたいですね。

【今後は?】
アメリカのとある大学から名誉教授の話も来てますし、政治経済に文化的な立場から物申したり、いろんなことを幅広くやっていきたい。

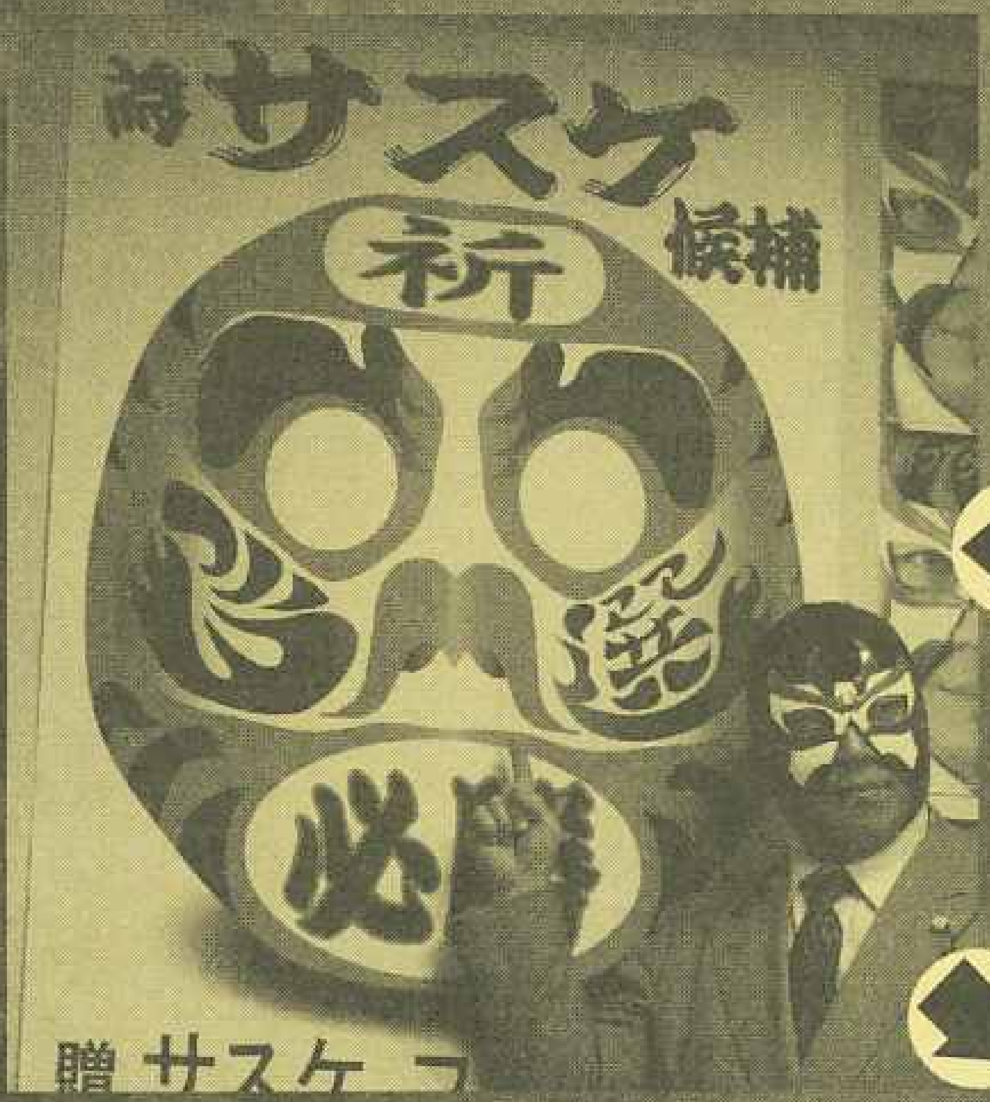
【足りなかったものは?】
地盤も時間も組織もなかった。政策的には自信があったんですが、公約を岩手の隅々に伝えきれなかったのが敗因だと思います。私の力不足で申し訳ございませんでした。私に一票を託してくれた人には何年かかっても恩返しをしていきたい。

【このあと、衆参議院選挙が控えているが?】
いまのところは考えにございません。とりあえず一民間人の立場で、いろんな活動をやっていきたいと思います。

【今後の岩手に関しては?】
プロレスの世界で15~6年、ベンチャービジネスという枠の中で100パーセント、民間の力でやってきた自負がありますから、私自身、これからも岩手をよくしていこう、岩手を切り開いていこうと思っています。そこは力強く宣言しておきたい。

【当選したらマスクを脱ぐという発言があったが?】
マスクを脱ぐことを選挙の売りにすることはよくないだろうと思っていたので、あえて強調しようとは思わなかった。プロレス関係の方には言っていましたが、遅かれ早かれ脱ぐことになるのかなとは言っていましたので、あくまでもプロレスのルールがあってのことなんですが、そういったルールの闘いに挑んで、負けたら潔く脱ぐということを自分の中で視野に入れています。

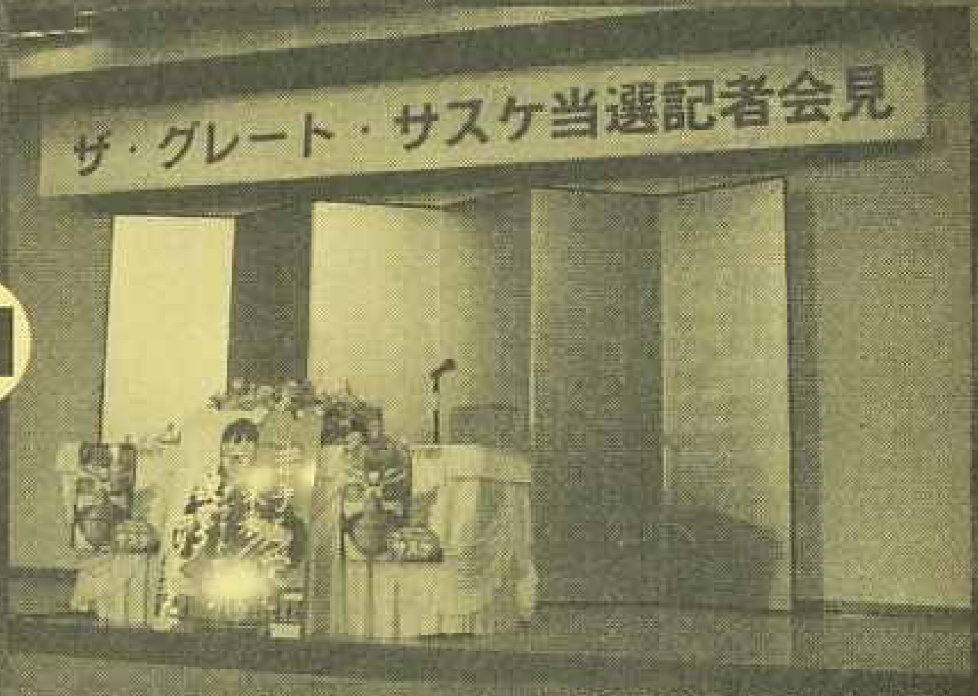
【今後はプロレスを中心にやっていくのか?】
そうですねぇ。あとは投資家ですかね……半分冗談ですけど(笑)、タレントとして幅広く活躍していきたいですね。プロレスラーとしても、もう一回頂点を目指してやっていきます。選挙活動中は凄い手応えは感じていたんですが、こんなに大差でやられるとはいまでも信じられないです。まあ、民主・小沢王国に玉砕してしまったということですね。



開票時間が近づくと、さすがに緊張感が漂うサスケ事務所。会見用のホテルに向かう前、事務所に貼られたサスケだるまの前でポーズを決めるサスケ。はたして両目に墨を入れられるか?


公園で遊んでいた女の子がサスケの姿に気づき何やらヒソヒソ。するとサスケは自ら近づいていき優しく声をかけ、ガッチリ握手。選挙権はないが、ちびっ子たちには、やはり絶大な人気だ。


会見場には各局の開票状況が確認できるようにモニターがズラリ。20時から開票速報が始まると報道陣はモニターに釘づけ。それからわずか2分。開票率0%で、なんと達増氏の当確が!



サスケが会見を行なうホテルに一足早く到着。壇上には「ザ・グレート・サスケ当選記者会見」の文字が燦然と輝いている。不利だとはわかっていながらも、なぜだか"神風"の予感!



報道陣、そして関係者に深々と頭を下げて会見場をあとにしたサスケ。マスク越しにもショックがうかがえたが密着取材はまだまだ続く。事務所に引き揚げるサスケを追ってダッシュ!!



サスケの"当選記者会見"は20時開始の予定だったが、2分後には当落が判明してしまったため、サスケと選挙対策本部長の荒井氏が着席するうしろで関係者が慌てて看板を外していた。

票日に取材したって意味ないじゃん。どうせだったら、もっと早く来てよ」と言い放つ。

たしかにそうだ。投票日当日に取材したところで得票には結びつかないのは明白。

「自分は岩手出身なんですけど、住民票を東京に移してないんですよ。つまりどういうことかというと、サスケさんに投票する清き一票を持っているってわけです。一票を笑う者は一票に泣くって言いますよね?」

あまりの適当発言に呆れたか、荒井氏は「わかったよ。明日は選挙事務所に朝の8時に集合だから」とだけ言うと、忙しそうにガチャッと電話を切ったのだった。

翌日、安ホテルで目覚めると、すでに時計の針は7時を回っていた。急いで部屋を飛び出しタクシーをつかまえ「サスケさんの選挙事務所まで」と伝えると「了解」とアッサリ。さすが、地元でのサスケの知名度は抜群だ。

約10分もすると、駐車場にサスケの顔がデカデカと貼られた選挙カーを発見。どうやら、ここがサスケの選挙事務所のようだ。

しばらくすると荒井氏と"カラス軍団"と呼ばれるサスケ選挙スタッフが登場。しかし、肝心のサスケの姿が見当たらない。荒井氏によると、数日前にサスケの祖母が亡くなり、投票日も葬式の準備のため到着が遅れているんだとか。なんたる運命のいたずら……。

9時前にようやく選挙事務所へ姿を見せたサスケ。挨拶がてら話を聞いてみると、亡くなったおばあちゃんは103歳(!)での大往生とのことで、期日前投票で、しっかりサスケに一票を投じていたという。しかも、生前最後の一言は「頑張って知事に

ザ・グレート・サスケの 人生最大の屈辱 そして挫折の日

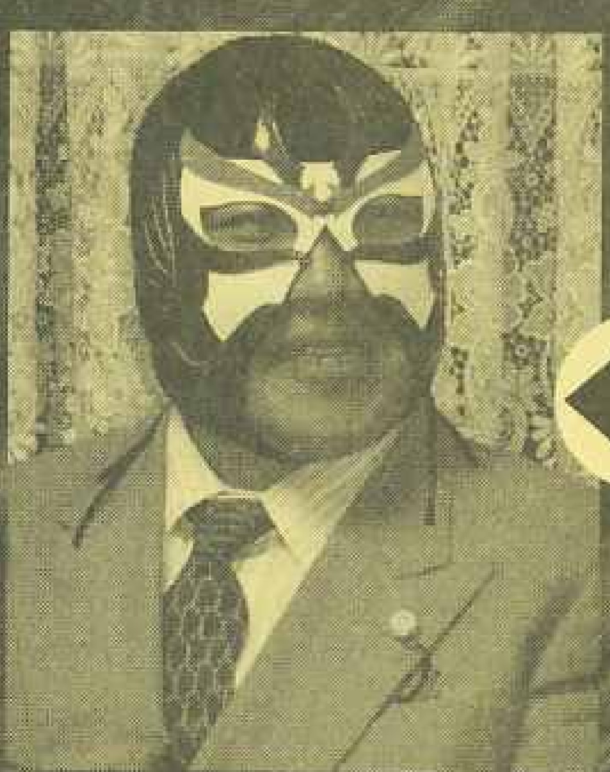
なれよ」だったというから、涙もろいボクは、この時点で、すでにウルウルきてしまっていた。

その後は密着取材っぽく、サスケにくっついて投票に行ったり、選挙事務所でサスケと同じ芸能





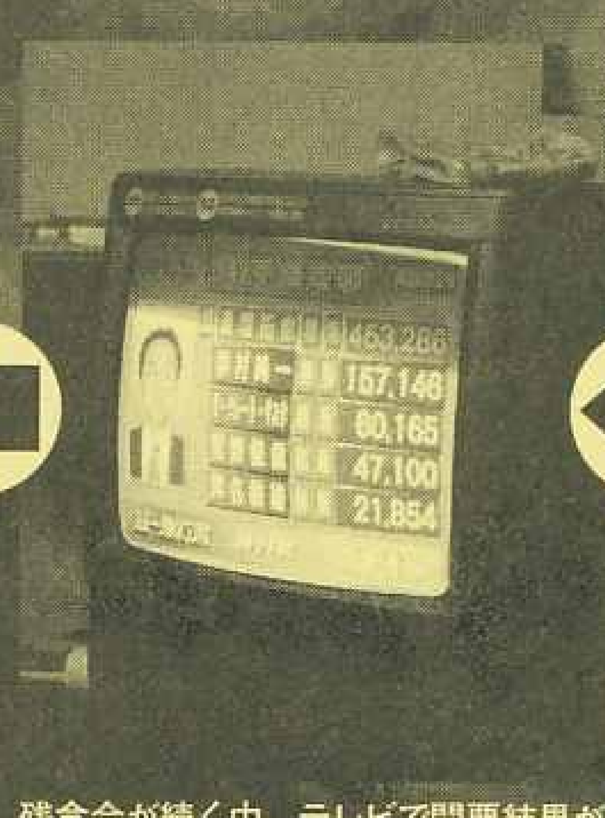
21時過ぎ、サスケ選挙事務所に関係者が再び勢揃い。サスケの脇を固めるのが、今回の選挙運動をサポートした少数精鋭の通称“カラス軍団”。メンバーの多くは都内近郊から駆けつけた若者たちだ。このメンバーでサスケが言うところの「アナログな選挙活動」を行なってきたが、残念ながら、サスケ知事の誕生はならず。残念無念。



周りに気を遣ってか得意の「ガハハハハ!」笑いを見せるサスケだったがマスク越しにもショックの様子はありあり。事務所には次から次へと報道陣が駆けつけサスケのコメントを収録していく。すでに時計の針は1時を回っている。



23時過ぎ、サスケの選挙運動を追っていた某テレビ局の女性スタッフがシャンパン片手に駆けつけた。数日前、サスケの祖母が亡くなっているため“乾杯”ならぬ“献杯”。この時点で、すでにテーブルの上にはビールの空き缶がたんまり。



残念会が続く中、テレビで開票結果が報じられると、みんなの視線は画面に釘付けに。最終的にサスケは5人立候補中の3位で、得票数は6万1922票という結果に。ジェシー・ベンチュラに続くプロレスラー知事誕生ならず！



21時半を過ぎたところで残念会がスタート。始まりこそ、しんみりとした空気が流れていたが、30分もするとそれぞれが選挙運動中の爆笑エピソードを披露し、和やかなムードに。みちプロの気仙沼二郎も仙台から駆けつけた。

プロの三浦和義の万引き映像を報じるワイドショーを観るという（しかも、同プロ代表の荒井氏と一緒に）、ある意味、非常に貴重な時間をすごさせてもらった。

そんなこんなで事務所でスタッフらと談笑していたのだが、気がつけば、開票時間の20時が刻一刻と近づいている。つい先ほどまでバカ話をしていたサスケの顔もマスク越しではあるが神妙な面持ちに見える。

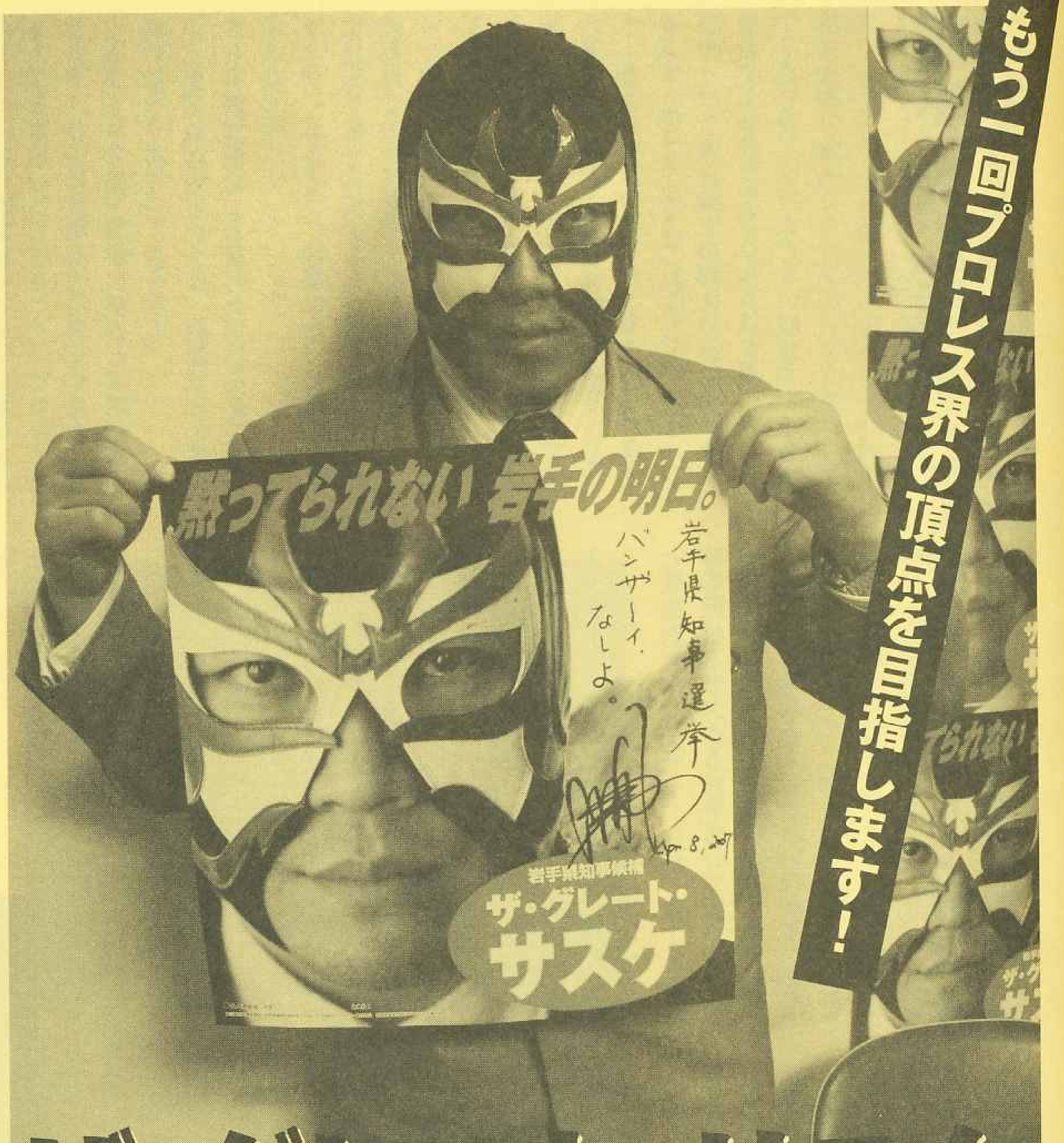
当日の夜の20時より、〝当選記者会見〟のため選挙事務所から徒歩10分ほどのホテルを押さえていたサスケ。さすがに選挙事務所まで取材に来ているマスコミはボクと『東スポ』（※ちなみにプロレス担当ではなく政治担当記者）だけだったが、ホテルに着くと、すでにたくさんの報道陣が詰めかけていた。

会見開始時間の20時となり、同時に会見場に用意されたテレビでは開票情報が映し出される。それから、わずか2分足らず。20時2分テレビでは達増（たっそ）拓也氏が当選確実となったことが報じられていた（しかも、開票率0パーセント！）。

その後、報道陣に囲まれたサスケの口からは「我が人生、最大の屈辱であり、挫折の日」という重々しい言葉が飛び出した。そのうしろでは関係者が「ザ・グレート・サスケ当選記者会見」という看板をバツが悪そうに外している。どう考えても大爆笑のコントのようなシチュエーションなのだが、さすがに笑う者は一人もいない。なぜなら、サスケの落ち込みっぷりがマスク越しにも充分伝わってきたからだ。

結果だけ言うと、この瞬間、サスケの知事選は終了した。残念ながら、〝サスケ知事誕生〟という歴史的瞬間は目撃することはできなかったが、「もう一回プロレス界の頂点を目指す！」という、素敵な言葉が聞けたので、『kami-pro』的には良しとしよう。

まあ、落ち込んでばかりいられないので、次のページからはサスケの落選直後〝バンザ〜イ、なしよ〟インタビューをお届け！



もう一回プロレス界の頂点を目指します!

ザ・グレート・サスケ

敗戦直後バンザ〜イ、なしよインタビュー

サスケ密着取材のラストは、やはり本人のインタビューを取らなければ始まらないし、終わらないだろう。落選確定後、スタッフらとともに選挙事務所に戻ったサスケのもとに、地元のラジオ局や新聞記者などが次々に訪れ、容赦なくサスケの敗戦の弁を聞いていく。気まずい空気が流れる中、ボクも思い切って話を聞いてみました!

聞き手&撮影／松澤チョロ

ザ・グレート・サスケの
人生最大の屈辱 そして挫折の日

——あの〜、サスケさん。ちょっと、お話しを聞かせてもらえればと思うんですが?

サスケ　オッケー、オッケー。いいですよぉ。

——知事選は落選という残念な結果となってしまいましたが……。

サスケ　う〜〜ん、そうだね。会見でも言ったけど、まさに〝我が人生、最大の屈辱であり、挫折の日〟になってしまったというか。

——そんな日に今後の展望を聞くのもどうかと思いますが、会見では今後、プロレスラーとして、もう一回、本腰を入れるような発言もありましたけれど、それは本心と思っていいんでしょうか?

サスケ　まあ、そうだね。ぶっちゃけ、今後のスケジュールは真っ白な状態だから(苦笑)。

——あ、そうなんですか。最初から落選することなんて考えてないでしょうからね。

サスケ　もちろん、もちろん。まあでも、ご存知のとおり、私は現役のプロレスラーでもあるんで、もう一度プロレスの世界の頂点に立とうかなとは思ってますよ。

——プ、プロレスの頂点?　それは本気ですか?

サスケ　いやいやいや、本気も本気!　マジもマジですよぉぉぉ!

——それはそれは、失礼いたしました。

サスケ　ちょっとね、そういう絵が見えてきましたよ(遠くを見つめながら)。

——サスケさんといえば、〝予言者〟としても一部で有名ですけど、やはり自身の予言は難しいところがあったりするんでしょうか?

サスケ　う〜ん、じつはいまだかつて、自分自身の予言はしたことはないんだよ。

——あ〜、そういうものかもしれないですね。選挙活動で忙しかったのもあると思うんですけど、最近のプロレス界はどう見てます?『週刊ゴング』が休刊になったりとか明るい話題は少ないような気がしますが。

サスケ　ね?『ゴング』も休刊しちゃったんだよねぇ。

——ちょっと前までは「『ゴング』のサスケか、サスケの『ゴング』か」って言われてたぐらいですからね。

サスケ　いやいやいや、それはマスカラスだから!(笑)。

——すいません、落選ショックを和らげようと、適当なことを言ってしまいました(笑)。

サスケ　ガハハハハハ!　まあでも、最後の『ゴング』にもコメント出したんだけど、私は休刊の話を、たまたま岩手県議会議事堂にいらした大川興業の大川総裁から聞いたんですよ。

——そう言ってましたけど、それは『金なら返せん!』っていうネタですか?(笑)。

サスケ　そうそうそう……って、ホントなんだよ、これが。大川総裁から『ゴング』が休刊になるって教えてもらって凄くショックを受けてね。

——ホントだったんですか。その『ゴング』では「ただ単に疫病神がとりついてしまっただけなんだと信じています。私にはその疫病神が見えます」とか相変わらず抜群なコメントを寄せてましたけど(笑)。

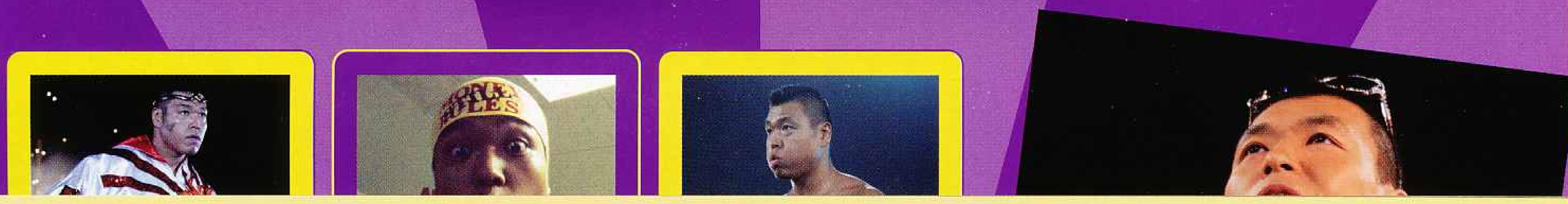
サスケ　それもまたホントなんだけどね(笑)。でもやっぱり、プロレス界は、(アントニオ)猪木、大仁田(厚)、そして、ザ・グレート・サスケがいないとおもしろくないだろうって思ってるんでね。

——それは言えますよね。

サスケ　でしょ、でしょ?

——そう思います。大仁田さんもちょくちょく試合をしてますし、猪木さんも『IGF』という新団体を立ち上げたばっかりですからね。サスケさんを含めたスキャンダラスな3人がもっとプロレス界を掻き回していかないと、おもしろくならないですよ!

サスケ　だよね。まあ、私もね、近いうちにサスケvsドス・カラスのマスカラ・コントラ・マスカラをやろうと思って〝ますから〟……コントラ・マスカラ。なんつって!(笑)。



猪木、大仁田、そしてザ・グレート・サスケ。この3人がいないとプロレス界はおもしろくないでしょ！

——ちょっと元気になってきましたね（笑）。でも、ドス・カラスとの覆面剥ぎマッチ構想は、以前からインタビューとかでも言ってますよね。

サスケ　そうそう。その試合は早くやりたい……というか、必ずやり〝ますから〟……コントラ・マスカラ。

——もういいです（笑）。そのマッチメークというのはドス・カラスありきなんですか。

サスケ　そうだね。10年越しの因縁なんで。過去のリベンジも含めて。

——ドス・カラスはサスケさんの大事なマスクを賭けるにふさわしい相手だと？

サスケ　うん、そうだね。

——ドス・カラス戦はいつぐらいを考えてるんですか？

サスケ　じつは会場ももう考えてあって……ホントは今回、選挙に受かれば盛岡競馬場でやろうと思ってたんだよ。

——盛岡競馬場といえば、経営状態の悪化から存続か廃止かと言われているところですよね。

サスケ　そうそう。知事になったあかつきには岩手県を振興するために、あえて盛岡競馬場での開催を考えてたんだけど。

——残念ながら落選という結果に終わってしまいましたからね。

サスケ　まあ、落ちちゃったんで、現実面を取って仙台スタジアムでやりたいなって思ってて。サッカーのスタジアムなんだけど。

——仙台スタジアムでやっちゃいますか？

サスケ　考えてますよ。いまはね、ネーミングライツ（命名権）の導入でユアテックスタジアム仙台っていうんだけどね。

——たしか、2万人ぐらい収容できる会場ですよね？

サスケ　そうそうそう。まだプロレスでは使ったことがない会場だからね。まあまあ、これはあくまでも希望であって、許可が下りるかどうかわかんないし、正式な申請もしてないんで、これからの交渉になるんだけどね。

——サスケさんとドス・カラスが覆面剥ぎマッチをやるんだったら、やっぱりデカい会場でやらないと格好つかないですよね。

サスケ　そうでしょ。私の個人的なイメージとして、そういう絵が浮かんでますね。

——そんなに遠い将来の話ではない？

サスケ　うん。今年中には必ず実現させようと思ってます。

——覆面剥ぎマッチじゃないですけど、今回の知事選でも「当選したらマスクを脱ぐ」という発言がサスケさんの口から飛び出しましたよね。しかも、エイプリルフールに（笑）。

サスケ　そうそうそう（笑）。でもやっぱり、私はプロレスラーなんでね、選挙の結果でマスクを脱ぐ脱がないじゃなく、賭けるんだったらプロレス流にやりたいっていうのがあるんでね。

——でも、いまのタイミングでドス・カラスと覆面剥ぎマッチをやったら、サービス精神の旺盛なサスケさんが負けて脱ぐようなイメージしか湧いてこないんですよ。むしろ、脱ぎたがってるんじゃないのかな、とか。

サスケ　いやいや、「やる前から脱ぐことを考えるヤツがいるか！」ってね（笑）。ただね、たとえ負けて素顔になったとしてもサスケはサスケですよ。

——マスクを取ってもサスケはサスケだと？

サスケ　そういうこと。だってほら、カト・クン・リーだってマスカラ・コントラで負けて、素顔になってもカト・クン・リーでしょ。

——そうですね。素顔になっても「ピストルの弾はよけられる」でしょうからね（笑）。

サスケ　そうそうそう！（笑）。私のイメージの中ではそういうイメージです。私も、たとえマスクを脱いだとしても、ずっと〝サスケ〟の名前を名乗っていくしね。

——あと、サスケさん。今後、ＵＦＯ研究のほうは、どのようなかたちでやっていかれるんでしょうか？

サスケ　（急に目を輝かせ）ＵＦＯといえばね、先頃もフランスのほうでＵＦＯに関する公式発表があったばかりだからね。

——えっ、何が公式発表されたんですか？

サスケ　フランス政府が、いままでのＵＦＯ関連に関するすべての情報を公式に開示しちゃったんですよ。

——すべての情報を公式に開示!?　それって凄いことなんじゃないですか？

サスケ　いやいや、ホント凄いことですよ！

——フランスって国は、これまでＵＦＯ関連に関してはどんな感じだったんですか？

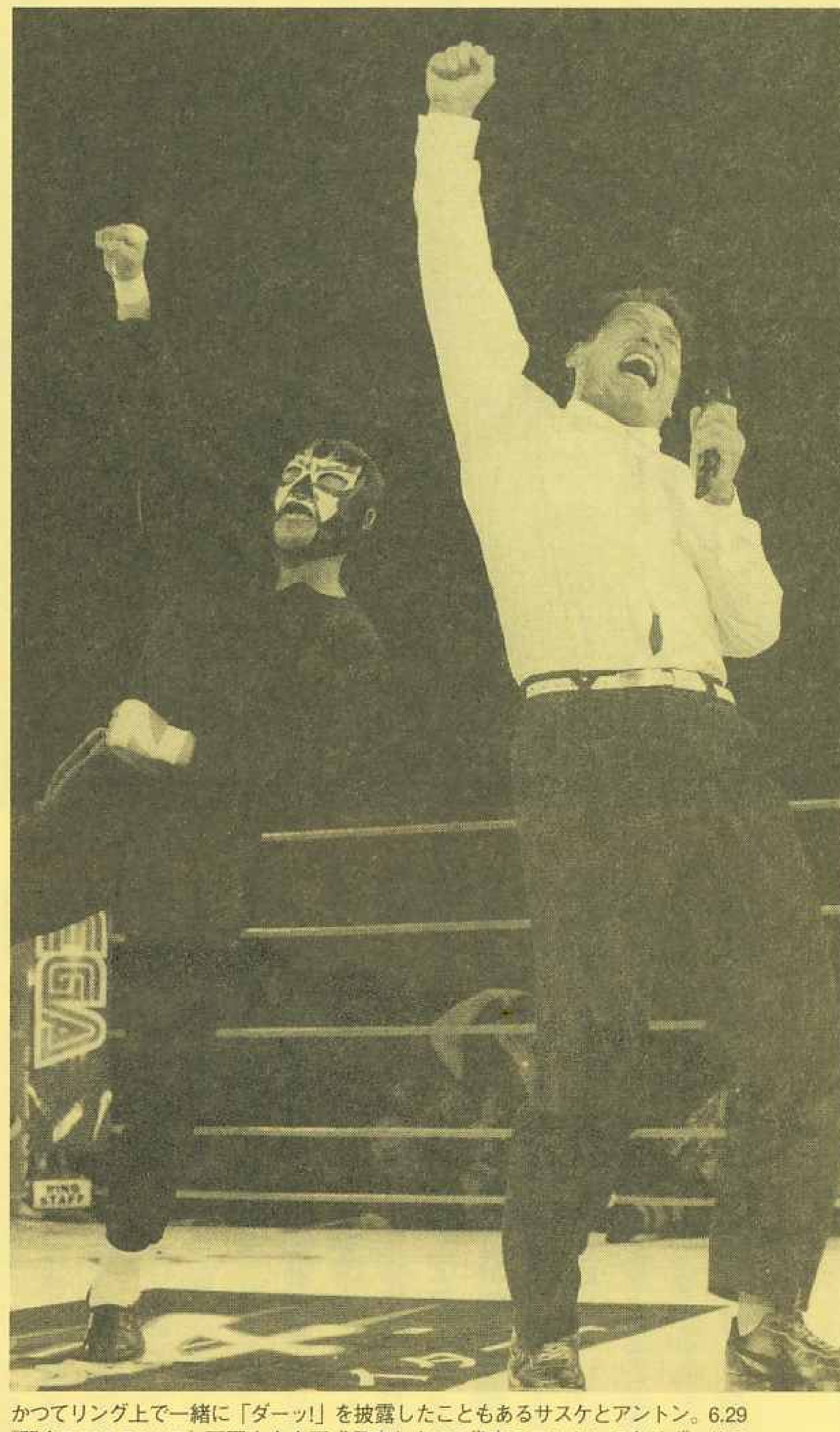
サスケ　フランスはね、けっこう目撃情報はあったんだけど、あんまり公にはならなくてね。それが、今回はフランス政府として、国として初めて情報を開示したってことで注目してるんだけどね。

——へぇ～、ＵＦＯ関連でも〝フランス革命〟が起きたと？

サスケ　そうなんだよ。しかも、国が自発的に出した感じだからね。アメリカなんかは議会の公文書で開示請求があってしょうがなく出したっていうのがあるんだけども。

——なんか、ありましたよね。

サスケ　だから、日本でもね、フランスのようになってほしいなとは思ってますね。そういう意味では、私にイオンド大学ってい



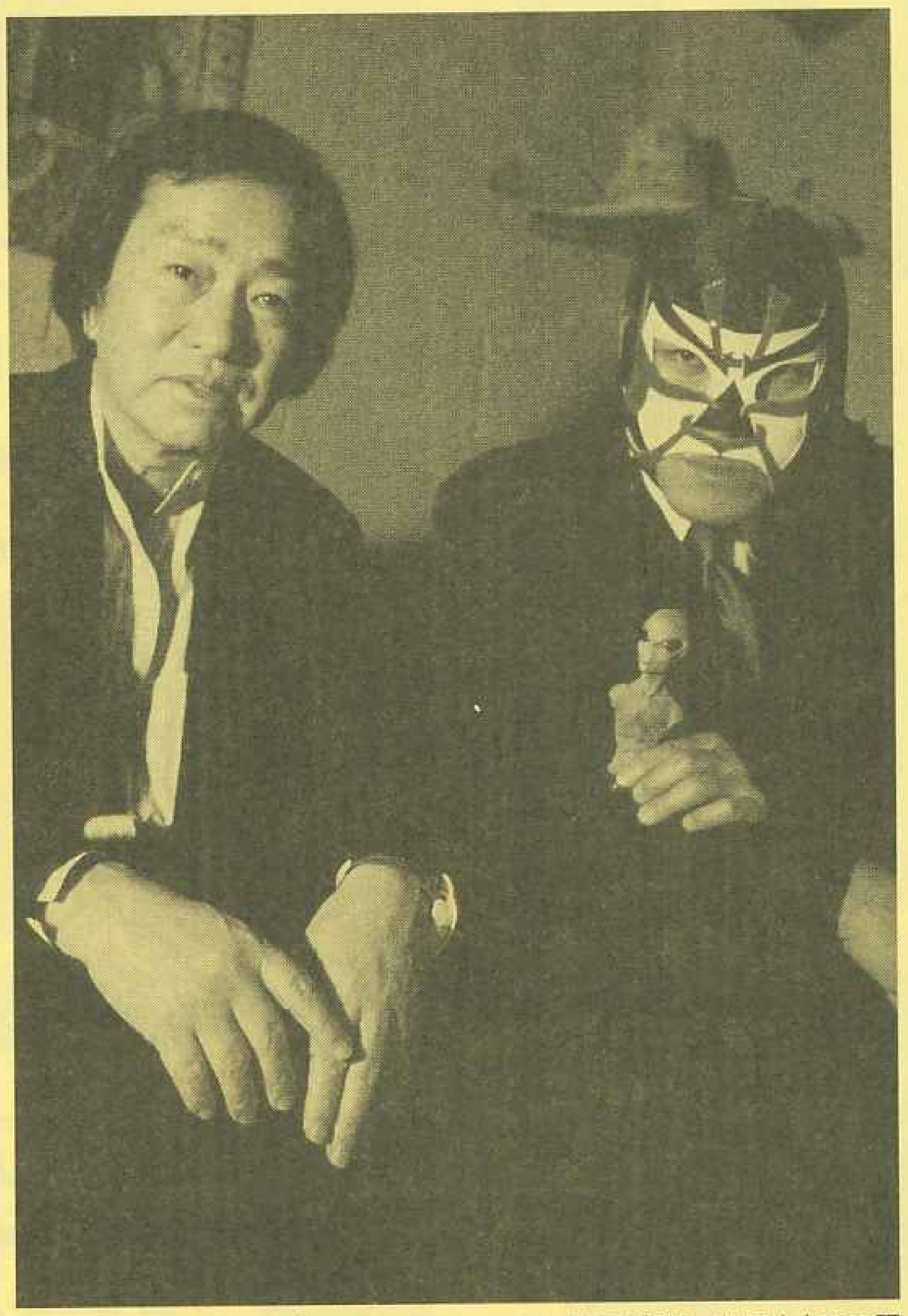
かつてリング上で一緒に「ダーッ!」を披露したこともあるサスケとアントン。6.29『闘今BOM-BA-YE』両国大会を正式発表したIGF代表のアントンに負けず、サスケにもドンドン、プロレス界を掻き回していってもらいたい。ダーッ!

新（全）日本凸凹大学校に真打ち登場！

うところの名誉教授の話が来ててね、あとは履歴書と写真を送るだけなんだけども。
—イオンド大学の名誉教授！ あれ、たしかイオンド大学といえば、だいぶ前の『kami pro』で対談をやってもらった矢追純一さんも教授をされてるんじゃなかったでしたっけ？
サスケ そうそうそう。そこで私もね、公約の一つでもあったUFOについて講義をしようかなと思っててね。
—それは非常に楽しみです。話をプロレス界に戻しますが、先ほど話題になった『ゴング』の休刊があって、その前には『ファイト』も休刊になってしまったわけですけど。
サスケ そうだよね。そういう意味では『kami pro』が一番勢いがあるんじゃない？
—勢いだけって話もありますけどね（笑）。
サスケ いやいやいや、ご謙遜を（笑）。
—マスコミもそうですけど、プロレス界全体が元気がないというか。
サスケ いやね、よく「プロレス冬の時代」なんて言われるけれども、私は、まったくそうは思わないんですよね。
—あ、そうですか。
サスケ ズバリ言って、プロレスマスコミさんが元気がないだけであって、プロレス業界はじつは凄い元気があるんですよ。私の感覚では。
—プロレス業界は凄い元気なんですか？
サスケ だってね、東京では毎週末の興行数なんか、いま凄いじゃない？ あっちこっちでラッシュで。

ザ・グレート・サスケの
人生最大の屈辱
そして挫折の日

—確かに。規模の大小はともかく興行数はただごとではないですからね。
サスケ 仮にね、それが一つにまとまれば、普通に東京ドーム興行とかできるんですよ。
—さすがに普通にはできないと思いますけど（笑）。
サスケ （無視して）それでね、けっこう儲かってるのがフリーのレスラーと、あとはプロレスの業者関係なんですよ。リング設営とか、照明や音響とか、えらい儲かってるみたいよ。
—リング屋さんとかも週末はあちこち引っぱりだこでしょうからね。
サスケ でしょ、でしょ？

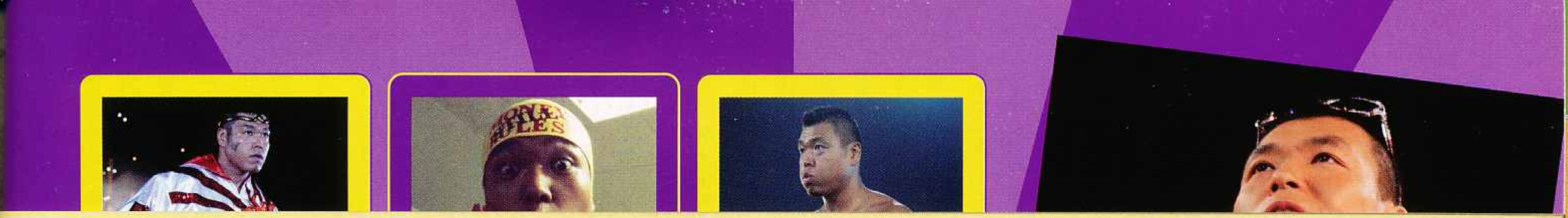


いまから約7年前、『紙のプロレスRADICAL.NO24』にて実現したサスケとUFO研究の第一人者・矢追純一氏の対談。サスケのもとに名誉教授の話が来ているというイオンド大学では矢追氏も教授を務めているのだ。しかもその学科名は"UFOLOGY"というから最高。サスケ名誉教授は実現するのか？ 今後の動向に注目！

名誉教授としてUFOについての講義をしようかなと思ってます！

—サスケさんも一押しの"自称インディー界のカリスマ"佐野直さんも、いろんな団体に出てますからね。
サスケ ねっ。会場は小さいとはいえ、お客さんだってそれなりに入ってるしね。だから、プロレス業界の形態が変わったっていうだけで、プロレス界は元気がありますよ。間違いない！
—元気がないのはマスコミだけ、と？
サスケ そうそうそう。
—さすがにサスケさんも今日だけは元気がないですけどね（笑）。
サスケ さすがにね（苦笑）。……まあでも「元気があれば、なんでもできる！」ってことですよ。みちプロだってやってるからね、いまだに（笑）。
—「いまだに」って、サスケさんが社長時代から「みちプロ50年計画」とか言ってたじゃないですか？
サスケ 言ってたねぇ。うふふふふ。
—今日の仙台女子プロレスも超満員だったみたいですし。
サスケ でしょ？ だから、そういうことなんですよ！ 元気はなくはないんですよ、全然。元気はあるんですよ。ちゃんと格闘技ファンとの棲み分けもできてきてるしね。
—元気な気がしてきました。結果論になりますが、サスケさんも、これまでよりはプロレスのほうに力を入れられる環境になってきたと思っていいんですかね？
サスケ まあ、結果論ではあるけれども（苦笑）、これからはプロレスにおおいに力を入れますから。これは断言します！
—断言しちゃって大丈夫ですか？ また衆院選とか気がつけば出馬してるような気もするんですけど（笑）。
サスケ いやいやいや、現時点では私は一切考えてないですから。
—そうですか。
サスケ もう一回、プロレスラーとして世界の頂点に立ちますよ！
—具体的に何か野望とかはあります？
サスケ 野望としては、かつて私はジュニアで9本のベルトを保持してたことがありますから、それの上をいく10冠王かな。
—10冠王!? いくら団体数が増えたといっても、ベルト10本っていうのはサスケさんの力をもってしても難しいんじゃないですか？
サスケ まあ、頂点に立つって宣言したからには、それぐらい言っておかないとね。必ずやりますんで、期待してください！ 37歳からのカムバックを見せますから（笑）。
—37歳なんて、プロレス界では、まだまだ老け込む歳ではないですからね。
サスケ そうなんだけど、もう一回ね、20代半ばから後半ぐらいの身体に戻したい……戻したいっていうか、戻しますよ！
—「20代半ばから後半」って、えらいリアルな設定ですけどね（笑）。
サスケ うふふふふ。まあでも、落選してね、会見では「我が人生、最大の屈辱であり、挫折の日」と言ったけども、この屈辱と挫折をバネにして、私はプロレス界の頂点を目指しますよぉぉ！
—今後のさらなる活躍を期待してます！

【4月8日／盛岡市内の ザ・グレート・サスケ選挙事務所にて収録】



kamipro books

驚ガク! 衝ゲキ!!
kamipro booksシリーズ!
死闘インタビューの
歴史的目撃者になれ!!

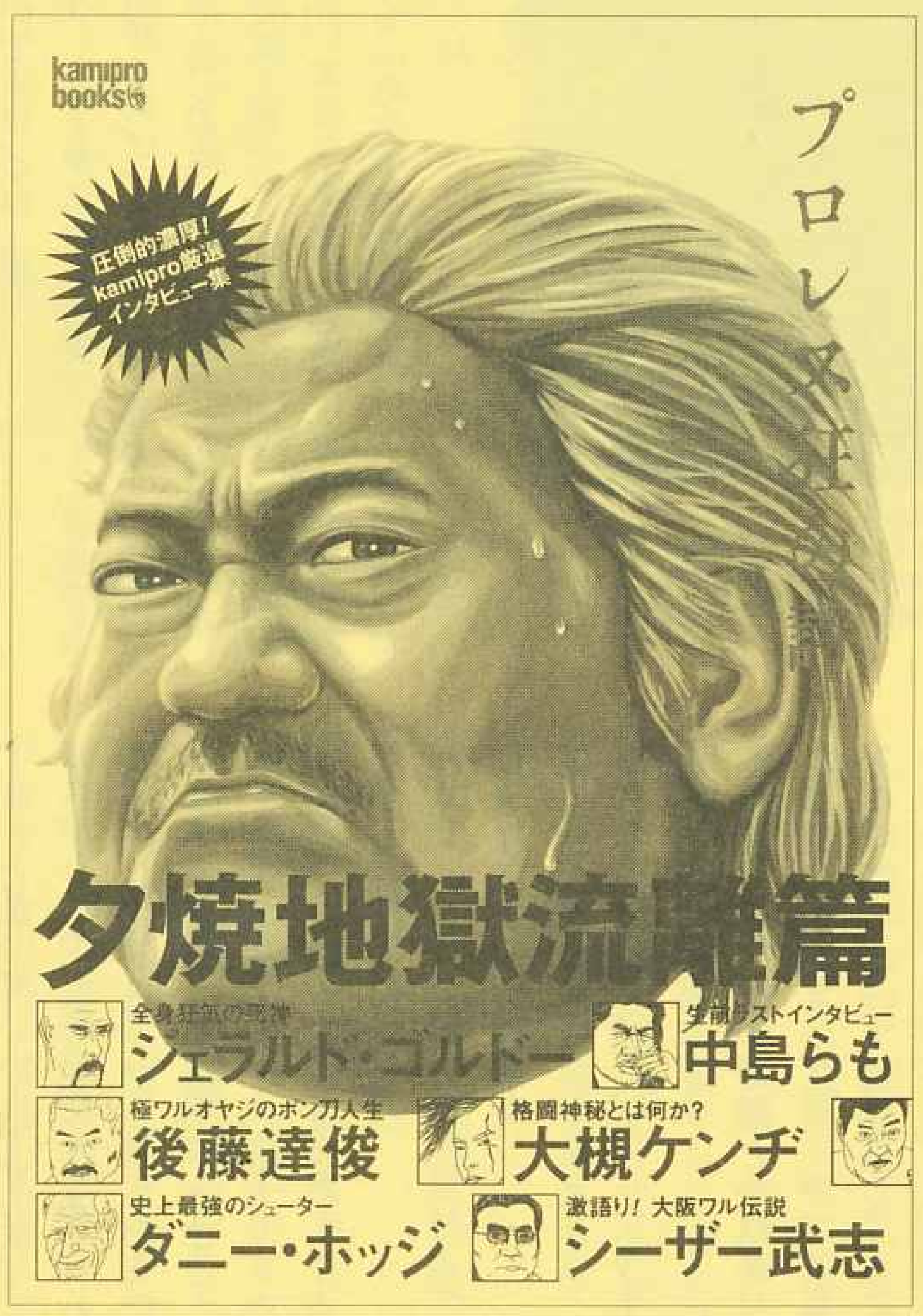


吉田豪セメントインタビュー11連発!!
プロレスインタビュー本の最濃傑作!

★ストロング小林　★田代まさし　★猪木快守
★イーデス・ハンソン　★阿修羅原　★鶴見五郎
★サムソン・クツワダ　★康芳夫　★倉持隆夫
★田中健一　★小川宏

プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー――数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは“下調べの鬼”が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ!

全国書店にて絶賛発売中!!
B6変型判　344ページ　定価=1,890円(本体1,800+税)



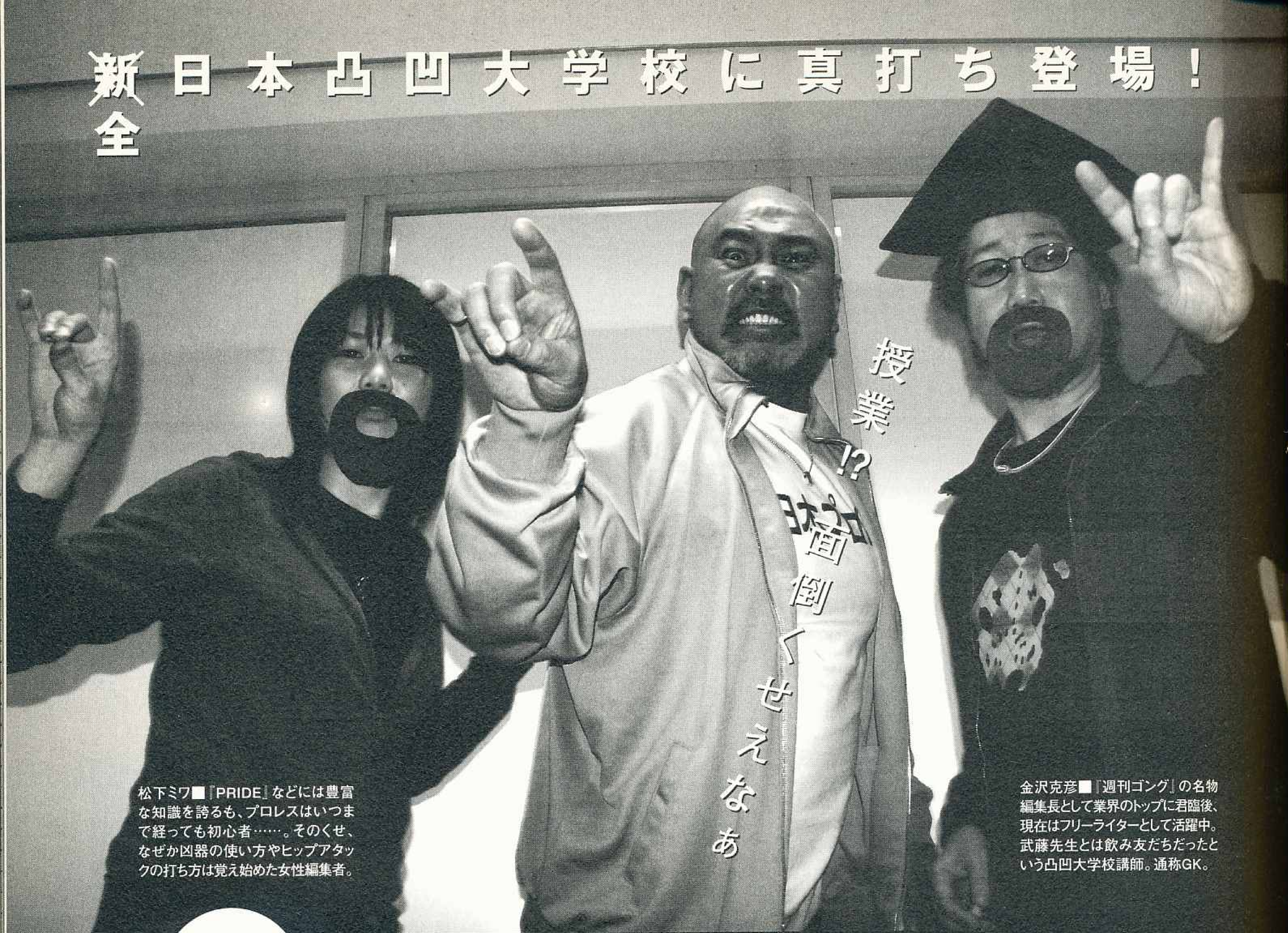
夕焼けがよく似合う人生ガチンコ勝負!!
プロレス狂がシビれる凄玉たちの
壮絶インタビュー集!

★ジュラルド・ゴルドー　★後藤達俊　★小畑千代
★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎　★中島らも
★大槻ケンヂ　★シーザー武志　★ダニー・ホッジ
★高山善廣×金原弘光　★真樹日佐夫×三池崇史

プロレス狂の胸躍る詩が聞こえてくる――!!
プロレスラーや格闘家はもちろん文化人、著名人まで、プロレス&格闘技専門誌『kamipro』誌上にて掲載されてきた、100本以上にも及ぶ濃厚1万字突破インタビュー。その中から特別厳選収録! 圧倒的な現実をタフに生き抜き、憧憬の的となる圧倒的な幻想をまとった凄玉たちの金言の数々をとことん読み込め!

全国書店にて絶賛発売中!!
B6変型判　304ページ　定価=1,890円(本体1,800+税)

enterbrain 株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)［通信販売のお問い合わせ先］http://www.enterbrain.co.jp/



~~新~~全日本凸凹大学校に真打ち登場！

松下ミワ■『PRIDE』などには豊富な知識を誇るも、プロレスはいつまで経っても初心者……。そのくせ、なぜか凶器の使い方やヒップアタックの打ち方は覚え始めた女性編集者。

金沢克彦■『週刊ゴング』の名物編集長として業界のトップに君臨後、現在はフリーライターとして活躍中。武藤先生とは飲み友だちだったという凸凹大学校講師。通称GK。

3年G組 金沢先生

特別講師

ほうきとだってプロレスができる天才

“プロレスリング・マスター”

武藤敬司

プロレスLOVE論

凶器の使い方やヒップアタックの打ち方、はてはプロレスとAVの共通点についてなど、「プロレスを学ぶ」というテーマからかけ離れた、課外にもほどがある授業が続く昨今の凸凹大学校。そんな風潮を修正すべく、今回は“プロレスリング・マスター”の名をほしいままにする、武藤敬司先生が登場！「ほうき相手でもプロレスができる」と豪語する天才は、いったいどんな授業を行なうのか？

講師／3年G組 金沢先生　生徒／プロレス超初心者 松下ミワ

本文構成／小松伸太郎（THE PEHLWANS）　構成&撮影／堀江ガンツ　試合写真／平工幸雄



ＧＫ　武藤さん、今日の取材を説明しておきますと、この企画は格闘技しか知らずに『ｋａｍｉｐｒｏ』に入ってきてしまった彼女（松下ミワ）に、プロレスの素晴らしさをいろんな先生に教えていただこうという企画なんですね。で、今回はプロレスリング・マスターの武藤さんに教えていただこうと。

武藤　ええっ!? 面倒くせぇなぁ。

ミワ　武藤先生、そんなこと言わずにお願いします（笑）。

武藤　（と言いながら、前号の『ｋａｍｉｐｒｏ』をめくり始める）あ、木村（健悟）さんが出てんじゃん。ひさしぶりだなぁ。

ＧＫ　ホントに面倒くさそうだな（笑）。

ミワ　あの、武藤さん……？

武藤　（しばらく眺めてから）という具合におそらくね、プロレスのほうがいろいろアバウトで、そのアバウトさ加減がおもしれぇんだよ。

ＧＫ　ワッハハハハ！　武藤さんがアバウトなだけじゃないですか（笑）。

武藤　（無視して）格闘技はアバウトな人間じゃ勝ち残れねえからさ。

ＧＫ　じゃあ、藤田（和之）っていう人間はアバウトじゃないってことですか？

武藤　詳しくはわかんねえけど、練習とかはしてるよね。几帳面なヤツのほうが絶対つええよ。プロレスっていい加減じゃん？　そのいい加減さがおもしろいところであってさ。

ミワ　いい加減さがおもしろいんですか……。

ＧＫ　いい加減っていうのは、この世界を知っている武藤敬司だから言えることじゃないですか？

武藤　いい意味で言ったら、遊び心っていうかさ。運転するのにもハンドルには遊びがあるわけで、その遊びがプロレスのおもしろいところなんだよな。で、終わり。

ＧＫ　終わりですか（笑）。

ミワ　武藤先生、もっと詳しく教えてください！（笑）。

武藤　あとは見てもらうしかねえよ。

ＧＫ　でも、遊び心はおもしろいけど、プロレスってつらいじゃないですか？

武藤　何事もつらいですよ、世の中は。この世に「オギャー！」と生まれてから、生きるってことはつらいんだよ。

ＧＫ　それはいつ気づきましたか？

武藤　うん？　「オギャー！」って生まれたときに。

ＧＫ　それは嘘でしょう（笑）。まあ、



武藤流プロレスＬＯＶＥ論

プロレスは格闘技と違って、いい加減でアバウトなところがおもしれぇんだよ！

ちょっといい加減そうに見えるけど、武藤さんはプロレスに関しては天才だからね。まずはなんでも聞いてみなさい。

ミワ　はい！　武藤さんはヒザが身体障害者級に悪いって聞いたんですけど、そんな状態でどうしてプロレスができるんですか？

武藤　あのね、プロレスは……できちゃうんだよ！

ＧＫ　そう、できちゃうの！　普段、走れないのにリングに上がると走れる。っていうか、走っているように見えるんですよね。

武藤　お、さすがよくわかってるね。

ミワ　え!?　走ってないんですか？

ＧＫ　だって、武藤さんなんかは3歩しか歩いてないのに、走ってるように見えるんだから。ね？

武藤　うん。悪い言い方で言ったら、そういう部分をごまかすというかね。これは映画なんかにも通ずる部分であって、そこがもしかしたらプロレスのファンタジーという部分につながるところかもしれねえな。

ミワ　でも、ムーンサルトプレスは実際に飛んでるんですよね？

ＧＫ　あたりまえじゃない！　ただ、ヒザやっちゃったのは、ムーンサルトをやり始めてからですよね。だから、もう20代の前半くらいからですかね？

武藤　24歳でヒザの手術したから、そっからだね。

ミワ　24歳でもう手術！　20年ぐらいヒザが悪いんですか？

武藤　そうだね。24歳のときに半月板除去の手術をして、退院したらそのままプエルトリコに行ったんだよね。で、行ったら、向こうが俺にチャンスくれちゃったもんだから、退院してあんまり日がないうちに復帰しちゃってね。

ミワ　ずいぶん、ムチャしますね。

武藤　俺、どこでもドアみたいなのがあって過去に戻れるんだったら、そこだけは唯一訂正しておきたいな。

ミワ　先生、どこでもドアじゃなくて、タイムマシンだと思います（笑）。

ＧＫ　（無視して）プエルトリコに行ったのはいつでしたっけ？

武藤　スペース・ローンウルフとして出て、映画に出て、復帰して、手術して、その年のエンドですよ。

ＧＫ　じゃあ、１９８７年ですね。

ミワ　え？　武藤さん、映画に出たことがあるんですか？

ＧＫ　相米慎二監督の『光る女』という文芸作品だよ！　安田成美とか秋吉満ちる（現Ｍｏｎｄａｙ満ちる）が出てたんだよ。知らないの？

ミワ　……知りません。

武藤　でね、その年の8月ぐらいに両国で2連戦やってるんだよな。

ＧＫ　『サマー・ナイト・フィーバー』だ。世代闘争をやったときですね。

武藤　そのときに映画の関係者と、その映画の撮影で知り合った女の子を初めてプロレスに招待したんだよ。その女の子は金星（キンボシ）だったんだけど、「（武藤）帰れ！」コールが起こっちゃってさ。あれは凄ぇショックだったなぁ（笑）。

ＧＫ　ワッハハハハ！　いい気味（笑）。

ミワ　金星？

ＧＫ　「美人」のこと。ちなみに、武藤さんはね、この映画でラブシーンをやってるんだよ。いや、ラブシーンっていうか、スッポンポンのセックスシーンだね（ニヤニヤ）。それもねぇ、ただのセックスじゃないんだよ！　もう野生のチンパンジーやゴリラのようなどう猛な激しいセックス！　あれは激しかった！（興奮気味に）。

ミワ　はあ……（面倒くさそうに）。

武藤　あのシーンはプールのタイルの上でヤったんだよな。見てるほうは簡単でいいけど、俺、ヤりながらヒザ痛くてさ、あそこからヒザ悪くなったんだよ（笑）。

ＧＫ　ガッハハハハ！　あのセックスシーンでヒザが壊れた（笑）。ミワ、武藤さんはプールサイドのセックスでヒザを壊したらしいよ（ニヤニヤ）。

ミワ　そうですか（冷たく）。武藤さん、話を戻しますけど、いまはヒザが悪いなりに試合も工夫してやっているっていう

“プロレスリング・マスター”
武藤敬司 プロレスLOVE論

武藤流プロレスLOVE論

普段は歩けなくてもリングでは走れる それがプロレスのファンタジーの部分


3月26～30日の5日間、後楽園ホール5連戦という新たな試みで開催された、全日本プロレス“春の本場所”『チャンピオン・カーニバル』。全日勢以外にも健介、みのる、川田、TAJIRIなど豪華メンバーが揃った大会で、武藤は見事優勝。しかも、大会前に「ヒザが壊れる覚悟」を宣言し、自分の悪いヒザを中心に5日間ストーリーを続け、最後はヒザに悪いのを承知で切り札ムーンサルト2発を放ち勝利する、見事な“線”のプロレスを披露した。

ことですか？

武藤 正直な話、もっとやりたいことはあるけど、できないということで必然的にジレンマっていうのはありますよね。

GK ジレンマっていえば、長州（力）さんって、武藤さんとは話も試合もまったく噛み合わないじゃないですか？

武藤 俺は試合では一生懸命、合わせてたよ。

GK このあいだも、「敬司が悪いんじゃないけど、俺は敬司だけはダメだ。リング上でコーヒーが3杯飲める」って、言葉の意味はイマイチわからないけど、おもしろい表現していたんですよ。とにかく間が合わないってことらしいんですけど、武藤さんもそう思ってたでしょ？

武藤 いや、俺は長州さんみたいにワガママじゃねえじゃん。

GK ワッハハハハ！ ミワ、長州さんはワガママだって（笑）。

ミワ なんか……わかる気がします（なぜか知ったかぶって）。

武藤 ぶっちゃけ、こっちは世界中のどんな野郎とでも合わせられる作業をしてきたからね。長州さんみたいに自分に合う奴だけ選ぶような、ワガママなやり方は俺にはできないよ。だから、哲学が違うんだよな。

GK 確かに長州さんは得意分野と不得意分野がハッキリしてますからね（笑）。

ミワ そういえば、編集部の人間に聞いたんですけど、武藤さんが昔、UWF系と抗争しているときに前田（日明）さんに「あんたのプロレスはつまんない」って言ったってホントなんですか？

武藤 言ったかな、俺。でも、いま前田さんと対談やったりするけど、俺のことを好いてくれているよ？

GK だから、UWFの人って頭が固いわけじゃないんですよね。リング上のスタイルは否定的だったけど、高田延彦も「武藤がアメリカでトップ獲ってんだって？ 凄いね」って、一番感心していましたからね。

武藤 ただ、あのUWFが『PRIDE』みたいなものを作ったのは間違いねぇよ

A block	武藤	健介	ケア	諏訪魔	大鷲	得点（順位）
武藤敬司		●	○	○	○	6点（1位）
佐々木健介	○		△	●	○	5点（2位）
太陽ケア	●	△		△	○	4点（3位）
諏訪魔	●	○	△		○	5点（4位）
大鷲透	●	●	●	●		0点（5位）

B block	鈴木	小島	川田	RO'Z	TAJIRI	得点（順位）
鈴木みのる		●	△	○	●	3点（4位）
小島聡	○		●	○	▲	4点（2位）
川田利明	△	○		●	○	5点（1位）
RO'Z	●	●	○		●	2点（5位）
TAJIRI	○	▲	●	○		4点（2位）

格闘技系にかぶれちまうのはアマチュア知らねえでプロレス入ってきた連中だよ

武藤流プロレスLOVE論

な。あの頃は本人たちも模索している最中だったかもしれないけどね。俺はアメリカのプロレスなんかを見ちゃっているから、逆に迷いもなくプロレスっていうのはこういうもんだろうなって、アバウトかもしれないけど、まだ描けてたと思うんだよな。

GK 新日本の道場で藤原（喜明）さんとかとスパーリングさせられて、きつい思いをしたっていう記憶はないですか？

武藤 いや、きつい思いはしてないですよ。なんだかんだ言って、俺は強かったからさ。

GK そう！　ミワ、武藤さんは強かったんだよ。

ミワ へぇ～。じゃあ、UWFとか総合系にいこうとか考えなかったんですか？

武藤 いや、一切なかったですね。俺ね、柔道の世界から来ているじゃん？　本当の競技の世界から来ているから、そこの過酷さは重々承知していたんだよ。それに一生懸命にきつい練習しても柔道では全日本チャンピオンにはなれなかったしね。

GK 武藤さんは柔道の国際強化選手だったからね。

"プロレスリング・マスター"

武藤敬司 プロレスLOVE論

ミワ 凄いじゃないですか！

武藤 ただ、当時もアマチュアを極めている人が入ってきたじゃん、坂口（征二）さんとか長州さんとか。み～んなそっち（格闘技）のほうにはいかないんだよ。逆にUWFの連中とかアマチュアを知らないでプロレスに入ってきた人間のほうが、ガチンコ方面にかぶれちゃって、そういうような思想を持つんだよな。

ミワ か、かぶれた？

GK でも、確かにそうですよね。アマチュアのトップアスリートだった人間はプロはプロって区別してましたよね。UWFとかのちの総合格闘技へ向かった前田さんは空手ケンカ少年で、高田さんも野球少年だったわけだしね。

武藤 そもそも猪木さんがそうじゃん。周りは柔道とか相撲とかレスリングの猛者が集まってる中で、猪木さんは違ったから（カール・）ゴッチさんにかぶれちまったんだよ。

GK 猪木さんは砲丸投げと槍投げでしたからね。じゃあ、もうアメリカに行くのは自分の中では自然な感じですか？

武藤 そうっすね。なんだかんだ言って、道場にいると息が詰まるというか縦の社会だったからね。アメリカの水が合ったんですわ、最初に行ったときから。

ミワ アメリカは上下関係がないんですか？

武藤 アメリカって何もないもん。

ミワ 何もない（笑）。

GK 仕事ができるかどうかだからね。しかも、武藤さんはデビューして1年でアメリカに行ったからね。普通は5年ぐらいしないと行かせてもらえないんだよ。

ミワ じゃあ、ホントにエリートだったんですね。

武藤 でも、本当は俺ぐらいの感じが一番いいと思うんだよな。猿岩石（『進め！電波少年』）とか見てた？

ミワ それはさすがに知ってます！（笑）。

武藤 アメリカに行ってたときは、あの生活とたいして変わりないからね。ひもじい思いもするしさ。その中でプロレスのビジネスというものはアメリカのほうが吸収しやすいんだよな、新人とかは。俺もそうだったから。リングの中のことで言ったら、一番最小限のことは新日本で教わったよ？　でも、それは元素だよ。

ミワ げ、元素？

武藤 うん、最低限の基本だよな。その他のことはアメリカのほうが勉強しやすいからね。新日本なんてさ、誰が教えてるか知らねえけど、いまだに元素しかやってねえからな。

GK ズバリ言いますね（笑）。

ミワ アメリカに行くのは誰が決めるんですか？

GK 会社が決めるんだよ。売り出そうとする人を決めてね。最終的に決めたのは猪木さんですか？

武藤 たぶん、そうっすね。

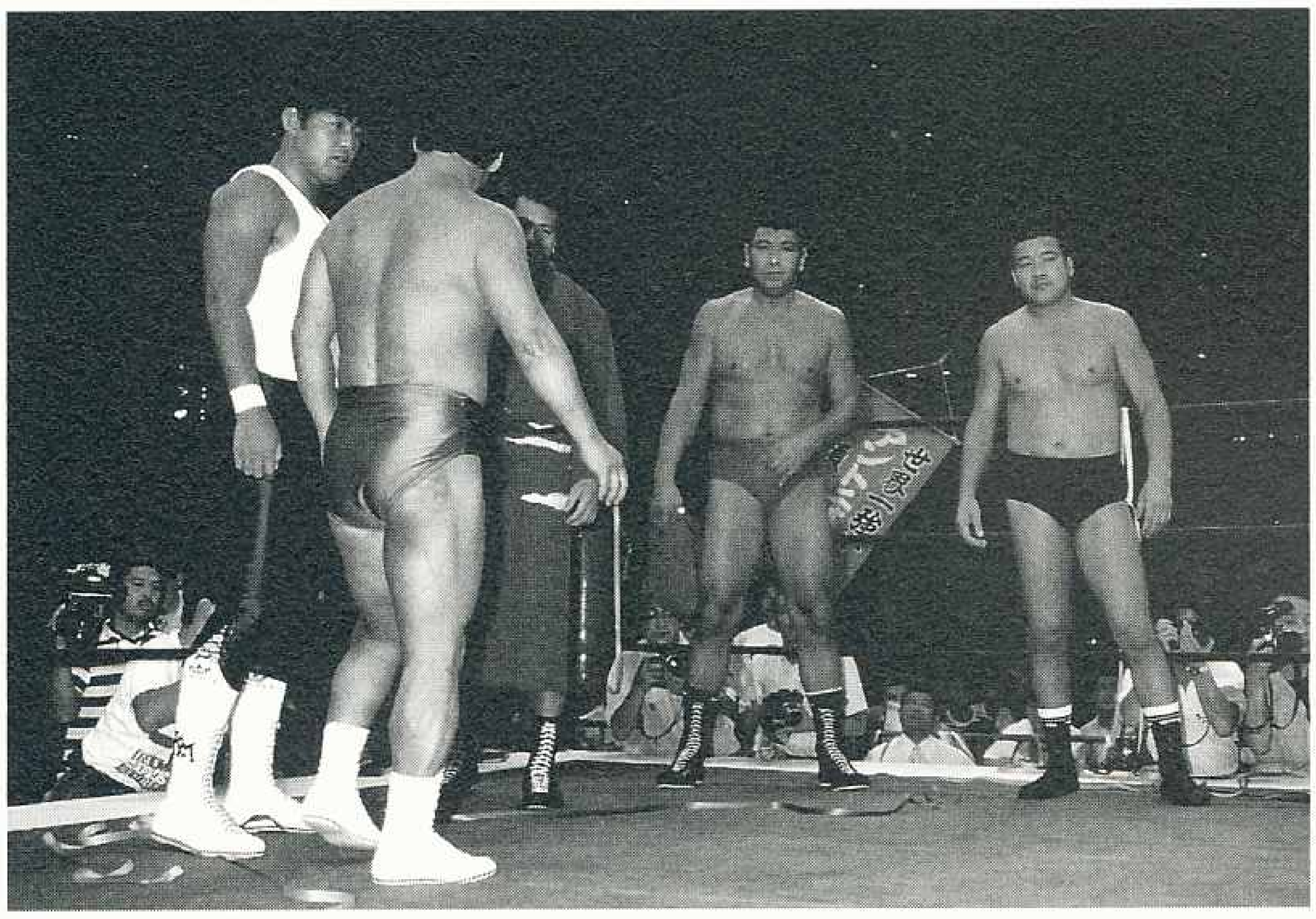
GK やっぱり、猪木さんは身体が大きくてスター性のある選手が好きだったからね。ちなみに猪木さんと武藤さんって考え方は違います？

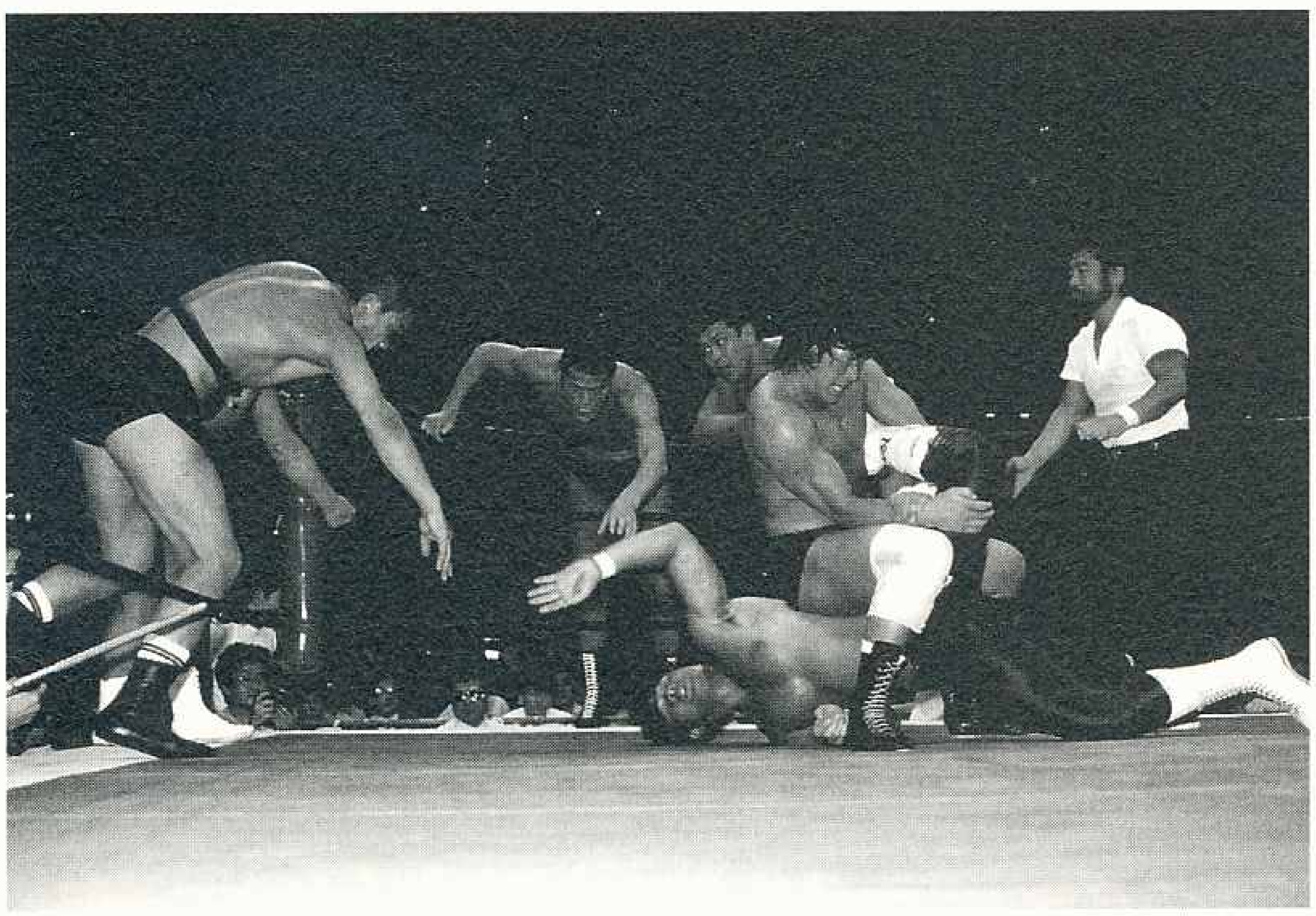
武藤 なんとなく似てるけど、猪木さんは物事すべて自分中心じゃなきゃダメじゃん。

GK じゃあ、似てるじゃないですか（笑）。

武藤 いや、俺の場合は引いたりもするよ？

GK でも、プロレスを魅せる部分にお





1987年8月19&20日、両国国技館二連戦。このとき、猪木、坂口ら「ナウリーダー」と長州、藤波、前田らの「ニューリーダー」が5対5で激突する“世代闘争”が勃発したが、猪木はなんと「ニュー」よりはるかに若い武藤敬司を「ナウ」側に加入させる奇策を発動。こうすることによって、世代交代や世代闘争自体をうやむやにさせようという、猪木の悪知恵なのであるが、その非難は“場違い”なところに登場した武藤本人に集中してしまった。しかし、これによって武藤はよくも悪くもインパクトを残し、その大物の片鱗を見せていくことになる。

いては猪木さんの影響ってあるんじゃないですか？　だって、猪木さんの魅せ方ってアメリカンプロレスじゃないですか。

武藤　アメリカンプロレスだけど、俺は「怒り」だとかそういうところにあそこまで執着してねえよ。

GK　怒りね（笑）。でも、リングの本質は同じ部分があるんじゃないかなと思うんですよね。だって、猪木さんの自慢は「俺が日本で初めてマイクアピールをしたんだ」ってことですからね。

武藤　いや、俺の場合はコメディでもなんでも臨機応変にやるけど、猪木さんはそのかたちから脱線しないよね。だから、アントニオ猪木は常にアントニオ猪木という土壌でしか試合をしてないですよ。

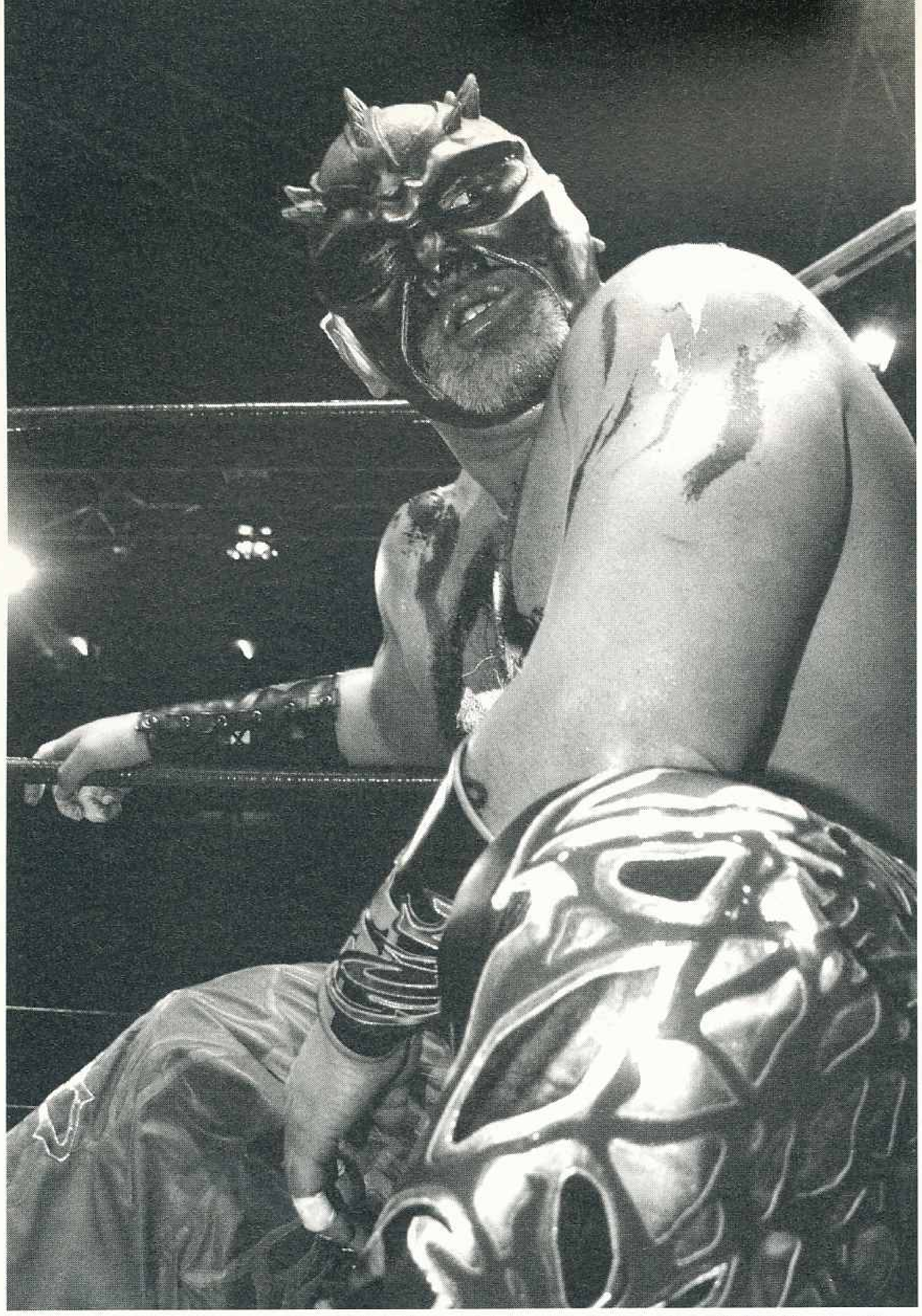
GK　なるほどね。武藤さんと猪木さんって同じプロレスの天才ですけど、違いで言ったら格闘技にコンプレックスがあるかないかだと思うんですよ。そこで猪木さんは異種格闘技戦をやったわけですけど、あれは罪だと思いますか？　それともやっぱりのし上がるための一つの手段ですか？

武藤　う～ん、手段だよな。要は当時で言うと、ジャイアント馬場さんという本道があったとしたら、かたちを変えた『ハッスル』みたいなイメージだったのかもしれないね。

ミワ　逆『ハッスル』！

GK　ただ、そんな武藤さんもペドロ・オタービオという選手と異種格闘技戦をやったんだよ。

ミワ　ええ!?　その人はどんな選手なんですか？



武藤のアメリカ修業時代のキャラクターとして誕生したグレート・ムタは、WCW（NWA）のトップを張るなど、日本人プロレスラーとしては空前の大成功。日本に逆輸入されてからも、90年代に新日本プロレスがドーム大会を次々と満員にする原動力となった。

武藤流プロレスLOVE論

海外修行なんて"猿岩石"みてぇなもんだよ ひもじい思いしてプロレスを覚えるんだから

GK　ルタ・リブレの選手で、『PRIDE』でマーク・ケアーとも闘った人。

ミワ　それはなんだかドリームマッチっぽいですねぇ……。

GK　武藤さん、あれは触らないほうがよかったですか？

武藤　いや、俺の歴史の糧にはなっているからさ。一応、あの試合の前には少なからずそれに向けての努力もしたし、それは自分の糧になってると思うよね。

GK　それは「何かあったらヤバイな」という意味での練習ですか？　それとも技術的なものを見せないといけないっていう練習なんですか？

武藤　どうですかね？　だけど、「何かあったらヤバイ」って選手に思わせるのって、企業としてはおかしな話だよね。いちいちレスラーにそういうことを感じさせる会社は滅びても致し方ないよな。

GK　ガッハハハハ！　まだ滅びてないです（笑）。

武藤　1回、滅びたじゃん！　ユークスに買われているわけだからね。

GK　身も蓋もないな（笑）。ミワ、ほかに何か質問は？

ミワ　あのう、編集部の人間に聞けって言われたんですけど、アメリカでシュートを仕掛けられたことはありませんか？

武藤　んなもん、ないって！（キッパリ）。

GK　フフフ。好きでしょ、『kamipro』はこういう質問が（笑）。

武藤　なんだかんだ言って、プロレス"村"だからね。そんなことしたら、あっという間に"村中"に知れ渡って、どうし、食っていけねぇよ。まあ、多少はあるけど、メチャクチャなことはないと思うね。

ミワ　へえ。あと、『WRESTLE-1』のときに「俺、いてえプロレスは嫌いだからな」って言ったのを聞いて驚いたんですけど。

武藤　プロレスって、技を仕掛けるほうがいてえ場合あるからな。

GK　実感がこもってますね（笑）。だって、このボロボロのヒザでムーンサルトやるんだよ？

ミワ　相手は痛くないんですか？

武藤　まあ、痛い痛くないはファンタジーだからね。深く追求しないほうがいいよ。ただ、何かと痛いと思って観ていてもらったほうが、こちらとしてはやりやすいよな。

ミワ　じゃあ、痛いと思って観ます！

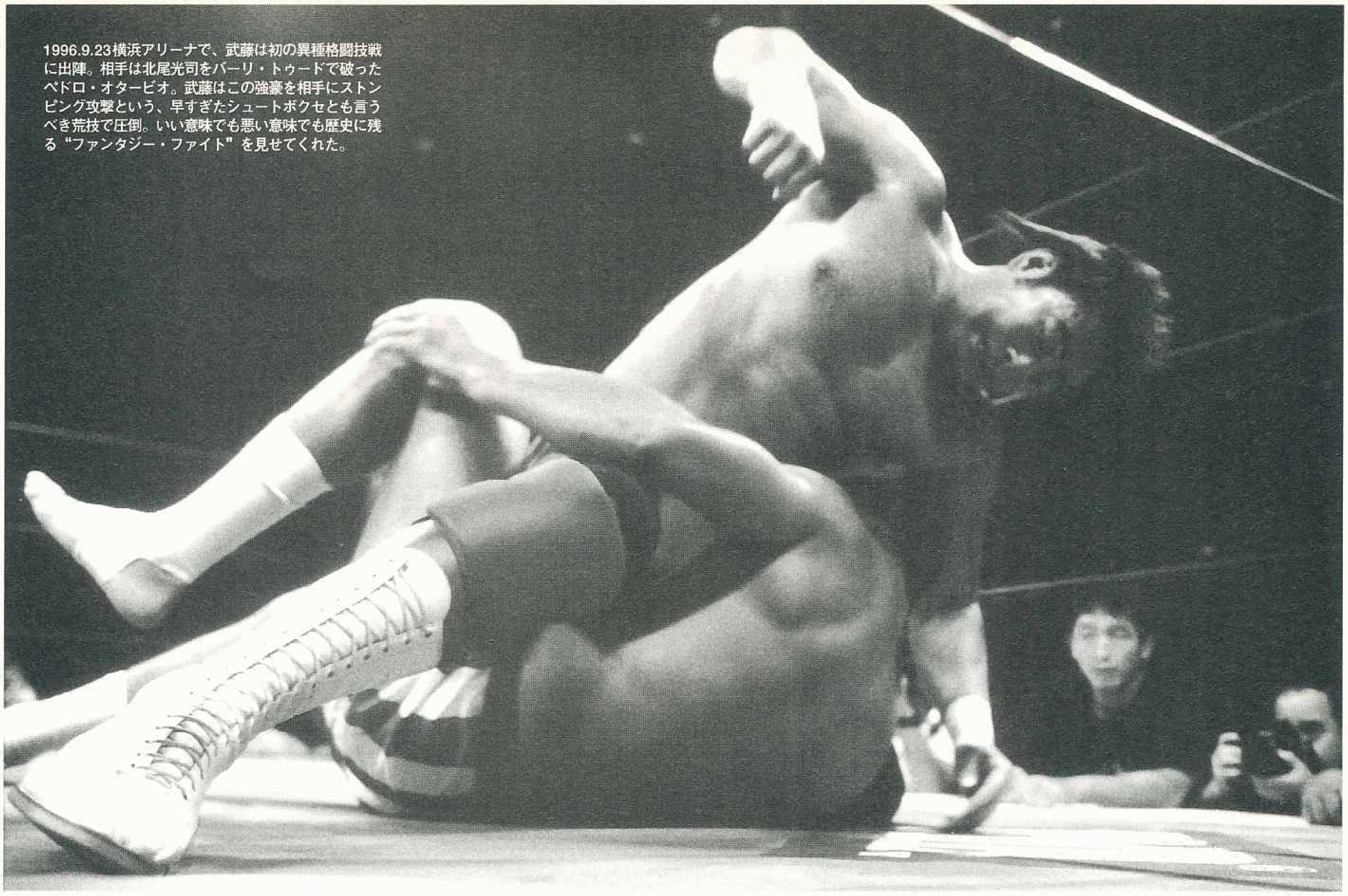
GK　だから、橋本真也の蹴りなんか誰がどう見ても痛そうですもんね。みんな、「イヤだあ～」って顔しますもんね。とくに武藤さんは（笑）。

武藤　だって、いてえもん。

ミワ　破壊王の蹴りは痛かったんですね！

GK　そういうことです！　だって武藤さんは、UWFインターとの対抗戦で垣原（賢人）が掌底を打ってきたら、背を向けてしまった人だからね（笑）。背を向けたら掌底が打てないという、素晴らしい防御法でしたよね。

ても、絶対に成功するっていう自信がな
からね。俺だって、てめえのキャリアを
ミワ 喜んでますか（笑）。
団体が顧客獲得に一生懸命だからね。そ



1996.9.23横浜アリーナで、武藤は初の異種格闘技戦に出陣。相手は北尾光司をバーリ・トゥードで破ったペドロ・オタービオ。武藤はこの強豪を相手にストンピング攻撃という、早すぎたシュートボクセとも言うべき荒技で圧倒。いい意味でも悪い意味でも歴史に残る"ファンタジー・ファイト"を見せてくれた。

"プロレスリング・マスター"
武藤敬司 プロレスLOVE論

武藤流プロレスLOVE論

猪木さんの格闘技戦は馬場さんという本道がやらないことをやるって意味で、かたちを変えた『ハッスル』みてぇなもんだよ！

武藤 でもね、アメリカでレックス・ルーガーってヤツが金網マッチをやったことがあったんだけど、相手の選手がガチンコみたいなことをしてきてしょっぱかったから、ルーガーが「バイバイ」って金網から出ていっちゃったことがあるんだよ。で、どっちが怒られたかって言ったら、残されたヤツのほうだからね。

ミワ へぇ～。

GK でも、ルーガー自体うまくないじゃないですか。

武藤 うまくないけど、格はルーガーのほうが上だからね。

ミワ あのう、そういうプロレスのうまい、うまくないっていうのは、どういうふうに決めてるんですか？

武藤 何をもってうまいとするかは、客目線とこちら目線と二つあるからね。

GK 武藤さんにとって、うまい選手っていうのは、やりやすい選手ですか？

武藤 ただね、やってて心地良い選手がうまいのかっていったら、また違ったりするんだよな。手が合いすぎてもおもしろくなかったりするしね。

GK ほう。武藤さんにとって、心地良い選手は誰ですか？

武藤 まあ、なんだかんだ言って、新日本育ちの選手のほうが心地良さを感じるよね。何が心地良いかって、同じ釜の飯を食ったレスリングするからね。

GK じゃあ、全日本育ちの川田（利明）選手は違います？

武藤 そうっすね。

GK 一時期、川田選手を凄くほめてたじゃないですか？「何を持ってうまいかはわからないけども、一番うまい」って。何目線で川田選手はうまいんですか？やってて？ それとも見てて？

武藤 ファン目線だよな。

GK でも、それはレスラーとしてのファン目線でしょ？

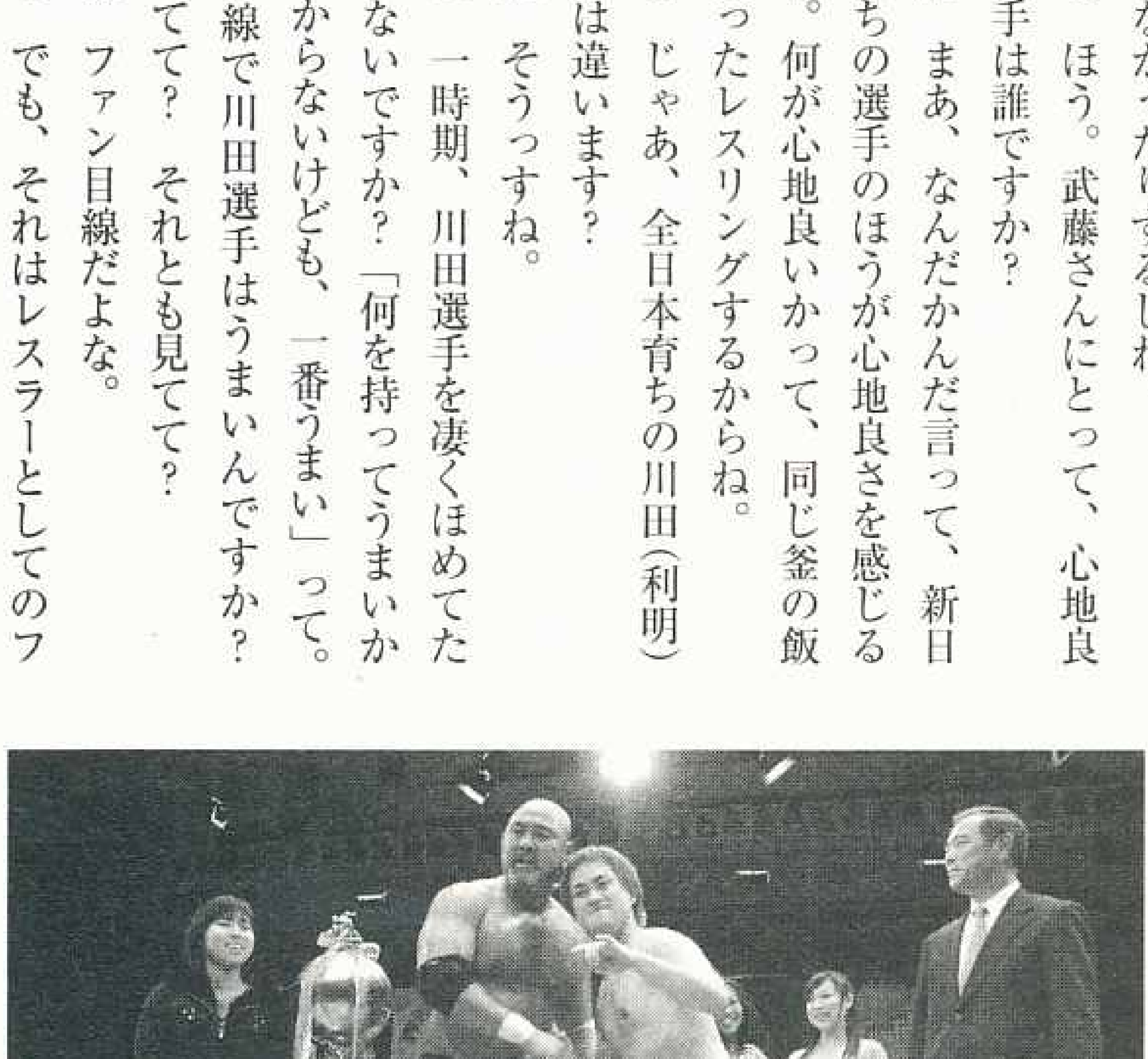
武藤 わかんねえ。

GK わからないですか。でも、僕らから見ても、川田利明はうまいなって思いますよ。

武藤 それはたぶん、近くで見ているマスコミの人と、肌を合わせている人間、ファンの人とで、それぞれ見え方は違うと思いますよ。ただ、これはあんまりかみ砕いて話すのはよくねえな。新弟子なんかに教えるときに教えたほうがいいっていうような話だからね。

ミワ ……難しそうな話ですね。素朴な疑問なんですけど、武藤さんって新日本にいらっしゃったわけじゃないですか？ そこからなんで全日本に来たんですか？

武藤 野心だよ。一国一城の主になるっていうね。新日本にいるときにヒザも壊れているし、次の人生を考えたんだよ。でも、たとえば、焼肉屋をやるっていっ



決勝戦にはテレビ解説者として、武藤のモノマネでおなじみの神奈月も来場。そのほかにもイジリー岡田、原口あきまさなど、カーニバルの最中、モノマネ芸人が日替わりで来場。いいかたちのコラボを展開した。

ても、絶対に成功するっていう自信がなかったしな。やっぱ、プロレスで生きていくしかねえだろうなって思って。それなら自分自身の城を築くしかないって、必然的にこうなったですね。

GK でも、『週刊ゴング』にトドメを刺したのもやっぱり武藤移籍ですよね。

武藤 なんで？

GK だって、あのへんからずっと売れ行きが落ちてきたもん。

武藤 それは俺、知らねえよ（笑）。

ミワ なるほど。武藤さんのせいなんですね（といってメモを取る）。

GK あのへんから新日本は揺らいだんですよ。ミスター高橋本が出たのは2001年の暮れじゃないですか？ 武藤さんが動いたのが2002年の頭ですよね。で、そんときは売れたんですけど、落ち着いた頃に売り上げが落ちてきちゃったんですよ。それは武藤さんの移籍で新日本が揺らいじゃったからですよね。だから、『ゴング』にトドメを刺したのはあなたです！

ミワ 先生、いつになく力強いですね。

武藤 でも、俺が新日本に残ってたって、そう変わんなかったと思うよ。

GK 武藤さんはあの中の商品の一つでしかなかったっていうことですか？ 商品としては一流かもしれないけども、体制が変わるほどでもなかったという。

武藤 うん。俺らが残ってても、新日本の流れ方にそう変化はなかったですよ。もう、総合路線に行くって目に見えてたからね。俺だって、てめえのキャリアを潰すようなマネしたくねえからさ。あの頃はかなりの人間がやってたろ？

GK 永田裕志がミルコ・クロコップとやってますしね。

武藤 だからね、『ゴング』の売れ行きが落ちたのも、新日本がそうやって窓口広げたところからだよ。俺は関係ない。

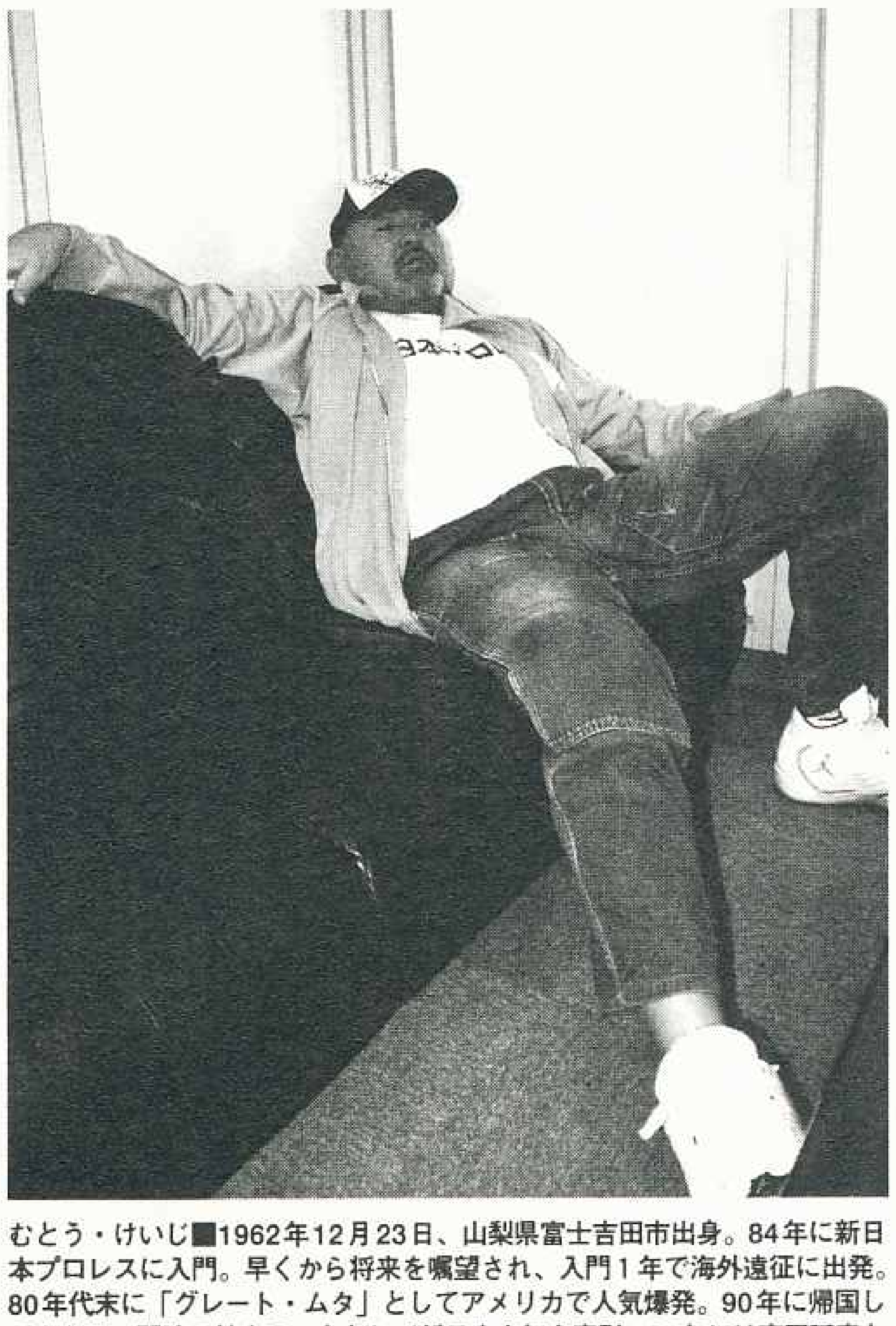
GK ウ〜ン、しょうがない。じゃあ、新日本のせいということにしておきましょう、フフフ。ということで、ミワ！ 最後にプロレスの疑問点をぶつけてみなよ。

ミワ はい！ あのう、モノマネ芸人の神奈月さんと試合をされていましたけど、あれは全然ありなんですか？

武藤 だって、お客が喜んでるんだもん。

ミワ 喜んでますか（笑）。

武藤 俺らが持っている本来のプロレスが評価されているうちは、また軌道修正できるわけだからさ。神奈月とやるのはその応用編だから。ダメだったら戻ってくればいいわけであって、しっかりとしたプロレスが提供できているっていう自信があるうちはなんぼでも崩しても大丈夫なんだよ。



むとう・けいじ■1962年12月23日、山梨県富士吉田市出身。84年に新日本プロレスに入門。早くから将来を嘱望され、入門1年で海外遠征に出発。80年代末に「グレート・ムタ」としてアメリカで人気爆発。90年に帰国してからは、闘魂三銃士の一角として新日本人気を牽引。95年には高田延彦との歴史的一戦も制する。02年に全日本プロレスに移籍し、社長に就任。K-1の協力を得て『WRESTLE-1』なるイベントも開催した。188cm、110kg。

ミワ いまの全日本プロレスは本来のプロレスがしっかりしているということですね？

武藤 うん。それと、プロレス界が調子が悪いっていうけど、そんなに〝村〟の人口自体は減ってないような気がするんだよな。団体がいっぱいあってさ、各々の団体が顧客獲得に一生懸命だからね。その方法論の一つとして、神奈月とかは民放に出ている芸人だから、いいかたちで顧客を引っ張ってきてくれてるよね。

ミワ 集客の方法論の一つということですか。

武藤 嬉しいことに、神奈月が武藤敬司のモノマネでテレビに出てくれているおかげで、武藤ベアーTシャツがYahooオークションとかでトップになっているからね。

ミワ それは確実に神奈月効果を感じますね。

武藤 ただ、いまは長州小力に押されてるなぁ。

ミワ 長州さんと小力さんの二人でコマーシャルにも出てますからね（笑）。

武藤 ホント？

GK 武藤さんの場合はunoに出られないのがきついですよね（笑）。

武藤 unoって何？

ミワ 整髪料です（笑）。いま、そのコマーシャルにプロレスラーがバーッと出てるんですよ。

武藤 まあ、さしあたって、俺は整髪料が使えねえからな。しかし、長州さんは俺の知らないあいだに生き方を変えやがったよな。

GK ワッハハハハ！ 長州さんは、小力はいいヤツだからって、共演OKなんですよ。

武藤 いや、生き方変えやがった！ 彼女にも言っておきたいけど、俺は変えてねえからな。以上！

GK ということで、本日の講義は終了みたい（笑）。

ミワ 今日はありがとうございました。

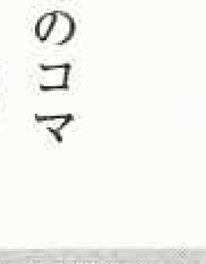
【07年4月6日／全日本プロレス事務所にて収録】

武藤流プロレスLOVE論

俺は本来のプロレスに絶対の自信があるから モノマネ芸人と試合やっても大丈夫なんだよ

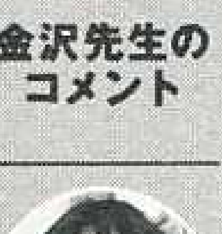
武藤先生編の総評

もう少しがんばりましょう



金沢先生のコメント

「プロレスとはゴールのないマラソンみたいなもの」「思い出と勝負したって勝てっこねえんだよ」など、次々と名セリフを世に送り出してきた武藤先生が、またやってくれた。「プロレスはそのいい加減さがおもしろい」「プロレスって技を仕掛けるほうが痛い場合があるから。痛い痛くないはファンタジーの部分だよ」……と、これでもか！の武藤語録。それこそ我が生徒は、矢継ぎ早に何連発とシャイニング・ウィザードを食らった気分であったろう。このプロフェッサー級の講義を理解するには、プロレスを生で見続けていくしかないのだ。さあ、ミワよ、どうする？ とにかく会場に足を運ぶんだ。もう少し、がんばりましょう！



松下ミワのコメント

武藤先生にはプロレスの素朴な疑問をいろいろぶつけてみましたが、結局、全部キツネにつままれたような回答だった気がする……。「ヒザが悪くて歩けないのに、なぜプロレスはできるのか」とか「シュートを仕掛けられたことがあるか」とか、そういうのって、きっと武藤先生には〝聞くだけ野暮〟ってヤツだったんでしょうか？ でも……ま、いっか！（アッサリ）。そういうコーナーだし。ちなみに、あとで気づいたんですけど、武藤先生もunoのCMに出られるなっと思ったんですよ！ ほら、ヒゲで!! そしたら武藤ベアーTシャツもきっとYahooオークションどころじゃなくなりますよ！ バンザ〜イ!!

<RADICAL特選劇場>
ミルコ戦後、金ちゃんキレ気味のボヤキ節が炸裂!

英雄誕生の気運高まる!!



no.75 '04.06 880yen

シルバ戦直前に大ハッスル宣言!! 小川直也/奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統



●じつに1年6ヵ月ぶりとなる、ケガからの再起戦でいきなりミルコ・クロコップ戦! だが試合ではなんとか判定に持ち込む大健闘! した金ちゃん。だが、この結果に「ミルコ不調節」を唱える格闘技マスコミに向かって大激怒!「ド素人以下! もうやめたほうがいい!」と史上最大の大炎上! リアル・ボヤキングの真骨頂を見せまくったのだった。

●そのほかには故・中島らも氏が"最初で最後"となる本誌インタビューで物騒すぎる武器収集を披露しつつも、UWFへの落胆からミスター・ヒトとの交流、大麻解禁をバックアップするドラック話までを完全独白!



元祖! 紙のプロレス BACK NUMBERは すべて50%OFF

特集 神秘とは何か? no.14 780yen⇒390yen
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を認らます!/遠藤幸吉インタビュー

特集 インディペンデントの逆襲 no.15 780yen⇒390yen
あんた誰? 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負!/K−1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

特集 実況パワフル北朝鮮 no.17 780yen⇒390yen
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」 各1260yen⇒630yen
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL no.16～87

格闘ノストラダムス! no.16 780yen '99.03
[表紙:エンセン井上] アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!/引退後初! 前田日明インタビュー/石川孝司

"新"プロレスとは何か? no.32 840yen '00.10
[表紙:小川直也] 田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ラッシャー木村

『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ! no.34 840yen '01.01
[表紙:小川直也] 田村潔司に快勝! ノゲイラインタビュー/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ボブ&オバチャンチン

純プロレスを徹底検証! no.35 840yen '01.02
[表紙:サクマシン(イラスト)] ZERO-ONE本格始動 橋本真也/プロレススーパースター列伝 ジョー樋口/杉浦貴

燃えよ、闘魂の火種!! no.36 840yen '01.02
[表紙:橋本真也(イラスト)] ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!/ヴォルク・ハン──ノゲイラに狼の伝言

純プロレス戦国絵巻! no.37 840yen '01.04
[表紙:小川直也(イラスト)] 安田忠夫が借金から自殺未遂までを語る!/アブダビコンバット01一大探検記!

小川直也は是か非か? no.38 840yen '01.05
[表紙:髙田延彦(イラスト)] 忘れ物の正体は。髙田延彦/ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

前田日明は是か非か? no.39 840yen '01.06
[表紙:前田日明] 前田道場新エース・金原弘光/怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会/壮絶なる格闘人生・藤原敏男

地上最強のプロレスとは? no.40 880yen '01.07
[表紙:アントニオ猪木] 蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光/熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎

"最後の黒船"WWF来襲!! no.41 880yen '01.08
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア] リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る/真樹日佐夫×三池崇史

アントンパワー大爆発!! no.42 880yen '01.09
[表紙:アントニオ猪木] ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談/"ヒャッホーの真実"辻よしなり/高山×宮戸×金原

聖戦『PRIDE.17』迫る!! no.43 880yen '01.10
[表紙:桜庭和志] ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー/金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

サク連敗と『PRIDE』の未来 no.44 880yen '01.11
[表紙:桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ] その修羅場の数々! シーザー武志/怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴

一寸先はハプニング!! no.45 880yen '01.12
[表紙:アントニオ猪木(ホームレス姿)] 悪魔の書、現る! ミスター高橋/ジェラルド・ゴルドー人生相談

田村潔司、『PRIDE』討ち入り! no.46 880yen '02.01
[表紙:田村潔司] さらばリングス! 金原×和田、浅草キッド/ならず者DEEPで勝利! エル・カネック/キラー・カーン

WWE日本侵攻、5秒前! no.47 880yen '02.02
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア] "天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!/噂の馳浩がミスター高橋本を語る!

桜庭、満開の日は近い! no.48 880yen '02.03
[表紙:桜庭和志] 奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー/和田最強伝説が遂に現実に! 金原弘光

究極の格闘技大戦争勃発! no.49 880yen '02.04
[表紙:ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭] 和田さん快勝記念鼎談! 高山&金原&和田/菊田早苗とは何者か!?

50号記念企画てんこ盛り号 no.50 880yen '02.05
[表紙:桜庭和志]「地方発世界」開始! 小川&橋本/リングスロシア軍団の軌跡/パンクラス取材解禁!

揺るぎなきプロレスの確立 no.51 880yen '02.06
[表紙:橋本真也] 両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也/『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子/ 武藤敬司人生相談

戦慄の『LEGEND』前夜!! no.52 880yen '02.07
[表紙:橋本真也、小川直也] 全身プロレスラー・高山善廣/USAの渡世人ドン・フライ/ロシアン・トップチーム

『Dynamite』ド直前号! no.53 880yen '02.08
[表紙:桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久/独占肉弾スクープ! マット・ガファリ

『Dynamite!』を大総括! no.54 880yen '02.08
[表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ] "首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー/ジョシュ・バーネット

髙田vs田村、夢限大の真剣勝負! no.55 880yen '02.10
[表紙:髙田延彦]「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白!/金原が『PRIDE』参戦!/メガトン級の男、ボブ・サップ!

驚ガクの6周年記念号 no.57 840yen '02.11
[表紙:高山善廣] サップとタイマン勝負!! 高山善廣/新たなる"U"が始動!! 田村/ミスター高橋×大槻ケンヂ

夢の対談、大連発号! no.58 880yen '03.01
[表紙:武藤敬司&船木誠勝] 夢幻のファンタジー対談 武藤×船木/Uスタイル対談 田村×髙阪/宮戸×安生×鈴木健

最後の皇帝、『PRIDE』上陸 no.59 880yen '03.02
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル] いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル/アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

『PRIDE』は変貌&再生する! no.60 880yen '03.03
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル] ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル/驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

ゼロワンvs新日5.2戦争! no.61 880yen '03.04
[表紙:橋本真也&小川直也] 裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也/1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

ミルコの首をカッ斬ってみろ! no.62 880yen '03.05
[表紙:ミルコ・クロコップ] ヴァーと登場! 佐々木健介/現役復帰? 船木誠勝/ヒョードルが藤田を一刀両断!

マット界、超絶リボーン!! no.63 880yen '03.06
[表紙:橋本真也&小川直也(イラスト)]「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦/『PRIDE』REBORNを大総括!!

PRIDEミドル級GP直前!! no.64 900yen '03.07
[表紙:桜庭和志] "異次元格闘技戦戦"田村潔司×吉田秀彦を大展望!!/『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

皇帝vsミルコ闘争本能決定戦! no.65 880yen '03.08
[表紙:ミルコ・クロコップ] 最後の皇帝大炎上! ヒョードル/ミルコついに皇帝戦へ/闘魂ストーカー、イズマイウ

ミルコ『武士道』電撃出陣! no.66 880yen '03.09
[表紙:ミルコ・クロコップ] ミルコ緊急インタビュー/マッハを破った男、長南亮登場!/『東スポとは何か?』

ミルコvsノゲイラ、迫る!! no.67 880yen '03.10
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ] ノゲイラ戦緊急インタビュー! ミルコ/『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

大晦日・格闘技大戦決定!! no.68 880yen '03.11
[表紙:髙田延彦PRIDE統括本部長] 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦/曙とは何者か!?/桜庭和志

『ハッスル1』開催ド直前! no.69 900yen '03.12
[表紙:橋本&小川] 出てこい! 泣き虫! 橋本&小川/『泣き虫』著者、金子達仁登場!/田村潔司/美濃輪育久

04年末の格闘戦争を大総括! no.70 880yen '04.01
[表紙:ミルコ・クロコップ] シウバに近藤有己が宣戦布告!/健介&北斗WJの真実を語る!/紙プロ大賞&語録発表

『ハッスル2』で大フィーバー! no.71 880yen '04.02
[表紙:ハッスルイラスト]『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ/川田利明初登場!/猪木vsアミン戦の真実

『PRIDE』に格闘ロマンを見よ! no.72 840yen '04.03
[表紙:ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ] GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル/山本KID徳郁

最も過酷な道を行く男!! no.73 880yen '04.04
[表紙:小川直也] GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也/PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

感じろ、ハッスル魂!! no.74 880yen '04.05
[表紙:小川直也] PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也/リベンジロード発進!! 桜庭和志/ミック・フォーリー

プロレス爆発へ最後の挑戦! no.76 880yen '04.07
[表紙:桜庭和志] 小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ/厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志

小川vsヒョードル決定!! no.77 880yen '04.08
[表紙:小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也/狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ

PRIDE GP徹底総括号 no.78 840yen '04.09
[表紙:小川直也] 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也/小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦/谷川貞治

髙田総統がビターンと降臨 no.79 840yen '04.09
[表紙:髙田総統] キャプテンに休息無し! 小川直也/特別付録・髙田総統ポスター/谷川さんも推薦『曙は是か否か?』

守護神ミルコが外敵狩り! no.80 880yen '04.10
[表紙:ミルコ・クロコップ] ミルコ独占インタビュー/ハッスルお家騒動、小川直也/「袋とじ企画」グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!! no.81 880yen '04.10
[表紙:桜庭和志] ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ/新日本でハッスル成功! 小川直也/ 草野仁

男たちの祭りは激化する!! no.82 890yen '04.12
[表紙:桜庭和志] "道場破り"の全てを激白! 安生洋二/WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪

ミルコ激白! 打倒皇帝! no.83 880yen '05.01
[表紙:ミルコ・クロコップ] 04年『PRIDE男祭り』を大総括/05年ハッスル大進撃発表! 小川直也/橋本×船木対談

RTTが皇帝に宣戦布告!! no.84 880yen '05.02
[表紙:セルゲイ・ハリトーノフ] "殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ/田村潔司がPRIDE GPを語る

『PRIDE』vs『HERO'S』開戦! no.85 860yen '05.04
[表紙:前田日明&髙田総統] PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、高田/パンクラス2大王者対談 高坂剛×近藤有己

PRIDE GP直前大解剖号 no.86 860yen '05.04
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ] 大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司/ダンプ松本が全女解散を語る!!

PRIDE GP開幕&大総括! no.87 860yen '05.05
[表紙:吉田秀彦] 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦/船木誠勝×宇野薫/金原弘光×池田大輔

通販方法 ▼No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
①『kamiproHand』で注文 ②電話注文 03-5368-1797 ③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です(代引き金額によって異なります)。 ※送料は一律500円(何冊でも可。離島山間部は除く)となります。 ※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

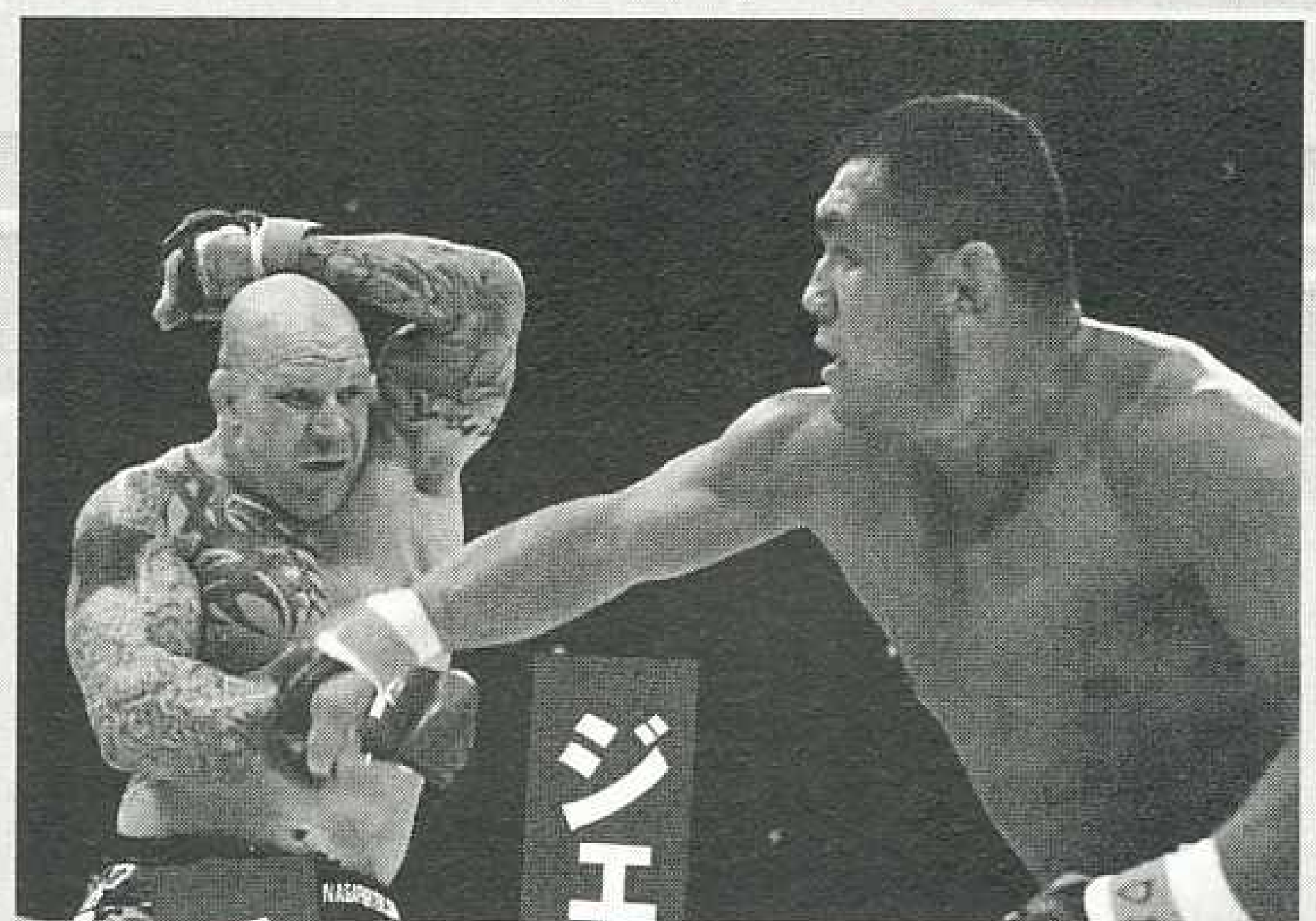

世界一過激なルール。
生き残るのは"メジャー"か!?
それとも"インディー"か!?
Resrection Presents
FIGHTING LIVE 2007
=GRAND SLUM=
〜eggs〜
世界一過激なルール賞金トーナメント
(ヒジ・頭突き・金的有りの何でも有りルール)
同時開催 E·R·T·エンタメトーナメント☆ミュージックバトル
5月13日(日)東京・新宿歌舞伎町『PINK BIG PIG』
【DAY TIME】 13:00 OPEN 13:30 GONG
(チケット料金) 全席フリー ¥2,000(入場時にドリンク・フードチケット2枚=1,000円分購入)
【NIGHT TIME】 17:00 OPEN 17:30 GONG
(チケット料金) VIP席 ¥20,000(40枚限定・特別室観戦飲食フリー)、GOLD席 ¥7,000(100枚限定・特別シート・飲食チケット2枚つき)、PLATINUM席 ¥4,000(プラチナ前売りは500円引き)、STAND席 ¥3,000(当日のみ販売)
※ PLATINUM席&STAND席はドリンク・フードチケット2枚=1,000円分購入
【チケット発売所】 Resrection瑞穂店・横田店・国分寺店・八王子店・相模原店・羽村店、他Resrection各店、チケットぴあ、チケット&トラベルT-1、リサイクルCLOWN、松稔塾、キングダムエルガイツ、PINK BIG PIG(※PINK BIG PIGは新宿歌舞伎町にあるUSEN GROUPのイベントスペースです。キングダムが格闘技部門のオーガナイザとしてレンタルの調整をします。お問い合わせ/キングダムエルガイツ TEL.042-376-1639)
【協 賛】 Resrection、USEN GROUP、PINK BIG PIG、(株)パチャママ、(株)マーベリック、(株)フューチャークリエイツ、NPO法人結の実、吉岡建築公房、人材マッチングANBI、リサイクルCLOWN、(有)モバイルフォンサービス、FIRST SPIRIT、あゆの郷、他
【協 力】 DEEP事務局、S&Dスタジオ、笑門福来、松稔塾、高橋直樹事務所、出場各団体各プロモーション、他
【お問い合わせ】 GRAND SLUM実行委員会 TEL.042-376-1639

携帯サイト『kamipro Hand』を宣伝したいダブルクロス電気部のページ

エレクトリック Hand Power



宇宙一おもしろい携帯サイト『kamipro Hand』では、日々のニュース・コラムを毎日配信中！　一度加入したら絶対やめられなくなる、過剰な更新頻度とおもしろさの『kamipro Hand』をこのページではちょっとだけ紹介させていただきます！



4・8『PRIDE・34』あの闘いをどう見たか？

ジェフ・モンソンの意外な一面、そして藤田和之の敗戦の意味は!?

『PRIDE.34』メインイベントで行なわれた、藤田和之vsジェフ・モンソンの一戦。突然の幕切れに驚いた格闘技ファンも少なくないだろう。携帯サイト『kamipro Hand』では、この一戦をフリーライター橋本宗洋、元『週刊ゴング』編集長・金沢克彦の両氏が激筆!!

水曜コラム

橋本宗洋の「格闘裏グルメ」

「ただの地味ファイターじゃない！ "藤田に勝った男"ジェフ・モンソンの危険な正体!!」

（4月11日更新分より抜粋）

昨年10月、『PRIDE.32』の取材でラスベガスに行ったときのことだ。筆者はアメリカに行くと、雑誌『Rolling Stone』と『Sports Illustrated』を欠かさず買っているんである（英語はわかんないけど、見てるだけで楽しいんで）。アメリカを、というより世界を代表するポップカルチャー・マガジンとスポーツ・マガジンだ。モンソンは『Sports～』ではなく、なんと『Rolling Stone』に登場していた。

筆者が買った号の特集は、名物企画『Hot List』。文字どおり、その時期のホットな人物や話題をフィーチャーする、まあ"ここで取り上げられたらブレイク必至"みたいな記事だと思ってもらいたい。そこに格闘家が取り上げられているわけで、それだけでも凄いことなんだが、紹介のされ方がまた凄い。モンソンは"HOT FIGHTER"ではなく"HOT ANARCHIST"として登場しているのである。ホットなアナーキストだったのだ、モンソンは。

さて、記事を(つたない英語力で)読んでいくと、こんなことが書かれている。モンソンは"平和(反戦)主義者"で、地元ワシントン州では反戦活動に参加していたそうだ。そして二つの出来事で"悪名高い"のだという。一つ目はブラジルでの試合で、判定に抗議してリング上でスパッツを脱ぎ捨て全裸になった事件(そのスパッツはリオのスポーツバーに飾られているそうだ)。

もう一つは一昨年、オレゴンで行なわれた試合での出来事だ。試合前の"煽りV"でモンソンの練習風景が紹介されたのだが、そのときのモンソンは"ASSASSINATE BUSH"つまり"ブッシュを暗殺せよ"と書かれたTシャツを着ていたのである。これで観客のブーイングを食らったモンソンだが、試合後の会見ではさらに「軍隊はイラクじゃなくて（ハリケーン"カトリーナ"の被害にあった）ルイジアナに行くべきだ」と発言。続けざまに物議をかもすことになった。

（続きはHandでチェック!!）

金曜コラム

金沢克彦の「やがて鐘は鳴る」

「藤田が世紀の大チョンボ……復讐するは、我の中にあり！」

（4月13日更新分より抜粋）

藤田は余裕を持ちすぎた……というより、何も仕掛けてこない相手に「どうやって豪快に勝利するか？」あるいは「メインイベントらしく、どう仕留めてやろうか？」など、そんなことまで考えていたのではないか？　つまり、そこには明らかな"おごり"があったように思う。おごりは油断につながる。そして、勝負への集中力を欠く。足を取られながら焦れて立ち上がってしまった場面など、まさに集中力の欠如を端的に示しているだろう。

まあ、藤田らしいといえば、藤田らしくもある。男が命を賭けて闘う場所、命がいくつあっても足りないリングでは、真っ向勝負が当たり前。魂と魂の激突こそ『ＰＲＩＤＥ』だと信じて、このリングを選んだわけだから。そういう藤田だからこそ、ジェームズ・トンプソンと闘っても、ヴァンダレイ・シウバと交えても、勝敗を超えた何かを我々に与えてくれた。野獣の本能で闘う男が、頭で勝利の方程式を計算してしまったら、まずいだろう。相手が来ないなら、自ら前進して殴り合いに持ち込む。グラウンドでもメッタやたらとパウンドや鉄槌を打ち込んだり、メチャクチャにサッカーボール・キックやヒザ蹴りを叩き込む。こんな野生剥き出しの藤田が見たかったし、それを見ることなく落とし穴に落っこちてしまった感がある。

試合後、藤田陣営からは「次、がんばります」というコメントが出されたというが、実はこのコメントはカシンが出したものらしい。どうやら「次、（俺が）がんばります」と、藤田の代わりにカシンが自分の抱負を述べたというのが真相らしいのだ。さて、藤田はこの世紀の大チョンボを自分の中で消化できているのだろうか？

（続きはHandでチェック!!）

闘いに震えろ。

生き様に泣け。

69戦46勝（34KO）21敗2分——キックボクサー・小林聡の通算戦績である。全日本キックボクシング連盟を主戦場に、常にKO勝ちを追い求めた彼のファイト。その求心力はキックというジャンルを大きく超える範囲にまで届いた。

プロレスラーが憧れ、『PRIDE』関係者が惚れ込み、浅草キッドは「“ビート”の屋号をあげたい!」と最大級の賛辞を贈った。

勝利の7割以上がKOという破格の攻撃力。同時にトップファイターとしては敗戦数が目立つ。現役ムエタイ王者をKOすることもあれば、はるかに格下の若手に敗れることもある。小林ほど、試合における“感情の振り幅”が大きい選手はいなかった。

“もう終わっちゃったのかな?”、“まだ始まってもいねえよ!”。入場テーマ曲でもあった映画『キッズ・リターン』の名台詞そのものの格闘人生。常にたくましく、ふてぶてしく、己の流儀を貫き通した男につけられた異名は“野良犬”だった。だが……。

昨年11月、小林は突如として引退を表明する。誰にもその決意を明かさぬまま、彼は最後のリングに上がったのだった。不屈の闘志を持ち、どんな屈辱を味わっても復活してきた彼に引退を決意させたものとはなんだったのか——。

流浪の団体・ジム遍歴、敗北と復活、栄光と失意、ライバル、ムエタイ、譲れぬこだわり、そして引退。喜怒哀楽、あらゆる感情をむき出しにして15年の選手生活を駆け抜けた不世出のキックボクサーが、すべてを終えたいまだからこそ語る“野良犬の真実”!!

野良犬

キックボクサー小林聡の軌跡

【15年の壮絶なる格闘人生、そのすべてを語る】

監修／小林 聡

全国書店にて絶賛発売中!!

「簡単に言っちゃえば、キックしかやることがなかった〈中略〉他人のことを言い訳にしたくないし、他人に人生を振り回されたくないっていう。だから引退も、誰に何を言われようが自分で決めてやめてやるって思ったんですよ」

——本文より



B6変型判 304ページ 定価＝1,680円（本体1,600円＋税）

Contents

☆小林聡独占ロング・インタビュー

1.流浪

団体の分裂、倒産、失意の中で渡ったオランダ修行。そして一人ぼっちのフリー宣言……。流浪の格闘生活を、“野良犬”はいかに生き抜いたのか。

2.闘うということ

試合は常にKO狙い。「キ××イになるため」練習は一日7時間！ それでも拭えない、闘いの緊張と恐怖。観客を熱狂させ続けた男の勝負哲学とは？

3.屈辱

トップ選手でありながら、何度となく痛恨の敗北を味わってきた小林。あまりにも重い敗北の数々の陰にあった秘話が、初めて明かされる！

4.歓喜

「オレの試合には神が降りる」。小林は自らそう語る。本人でさえ予想せず、それゆえにファンをとりこにした劇的な勝利の原動力とはなんだったのか。

5.ムエタイ

立ち技格闘技の最高峰・ムエタイ。「刃物を持った相手と闘っているような」恐怖がつきまとうリングで、小林は至高の格闘ロマンを見出していく。

6.反骨

「気に入らねえんだよ！」。リングの中でも外でも吠え続けた“野良犬”。時代の流れに抗い、あくまで己の生き方を貫いた男の譲れぬ“流儀”に迫る。

7.引退

ムエタイ王者ジャルンチャイとの試合後、小林は突如、引退を表明する。身内にさえ明かさなかった悲壮な決意、ついにその真相が明らかに！

8.旅立ち

ジムの後輩と壮絶な打ち合いを演じた前代未聞の引退興行。小林がキック界に遺したかったものとは？ そしてこれから、“野良犬”はどこへ向かうのか……。

☆証言集“私が愛した小林聡”

師匠、キック関係者、選手、対戦相手etc.……。小林聡を見続け、愛し続けた者たちが語る“野良犬”への思い。

証言者＝藤原敏男（藤原ジム会長）／関根勤／浅草キッド／武蔵／日高郁人ほか

☆Column／野良犬Best Bouts

格闘技の歴史に燦然と輝くムエタイ王者打倒の偉業からキック史上初の興行形式、痛烈な敗北、劇的な逆転KOまで。小林聡の闘いを語る際に欠かせない7試合を厳選！ 業界きっての“野良犬番”記者たちが、類稀なるファイターの魅力を解き明かす。

☆野良犬ウォッチャー39人の“送辞”

☆～愛さずにはいられない～ てらかわよしこの野良犬名言劇場

☆小林聡 公式戦全記録

新 卓球少女（仮）松下ミワの
ハガキ愛ランド



「ウィー・アー・ノバトモ・ゥライッ?」と言われても、「ぜんぜんそんなんじゃありません」と言うしかない昨今、皆さんいかがおすごしでしょうか？　最近は格闘技イベントのアメリカ進出がもっぱらの注目事項ですが、ノバトモがそこに潜入しているとしたら……。考えるだけでバカバカしいですね！　では、さっそく始めましょう！　3、2、1、留学、留学、う～、パスポート!!（いりません）。

kamipro109号へのお便り紹介

「キリンは本当に強いのか?」特集には驚いた。改めて動物の恐ろしさを知りました。相原コージさんの『真・異種格闘大戦』はすぐに読ませていただこうと思います！

【石川県・浅井清治さん・会社員・34歳】



⬇人間はニホンザルに勝てないという事実を告げたとき、カメラマンの乾さんはニホンザルを撮影しながら「ホントかよ～。コイツらにも勝てねえのかよ……」と若干ガッカリしていました。しかし、キリンってよく見ると気持ち悪いですよね。

榊原信行DSE代表インタビューに感心しました。まさに、男の決断ですね。東海テレビの社員が書いた企画書がここまで大きなムーブメントになったとは……。驚きです。

【兵庫県・春名義行さん・会社員・40歳】

⬇それにしても、榊原代表のビジュアルは、ある意味カルビン・エアーよりも釘づけになりますね。

桜庭和志のページ全般がよかった。サク、あと1～2年でいいから最後の花火を打ち上げてくれ！　自分の思っていた通りのことが書いてあったのでよかった！

【三重県・チワワさん・会社員・33歳】

⬇榊原さんの〝予告〟どおり桜庭選手は『PRIDE』のリングに登場しましたね。今後、田村選手との闘いはいったいどうなることやら～。

入江秀忠インタビューがおもしろかった。K―1も『PRIDE』も、上げてあげればいいのに。もしくはアメリカの半メジャーなリングなら充分に出場可能では?

【茨城県・石川明弘さん・会社員・32歳】

⬇K―1トライアウトに応募してないのに一次選考通過の書類が送ってこられるあたり、何かを持った人物ではありますよね。それから、入江さん、113ページに広告入れてくださってありがとうございます。

木村健悟のインタビューがよかったです。ドラゴンの歌を〝雑音〟呼ばわりするところに歌手としてのプライドを感じました。目指せ、紅白！（もしくは政界）。

【宮城県・毒柴さん・グータラ社員・35歳】



⬇木村さんのレコードより『マッチョドラゴン』のほうが売り上げがよかったのは、ある意味、わかるような気がします。『マッチョドラゴン』、私もほしいです、凄く。

越中詩郎大特集が一番よかった！『kamipro』ならいつかやってくれると思っていた。「男は背中だ」という言葉に越中詩郎のすべてが表われていると思う。……それにしても、GKはどんどん凄いことになっていくなあ～。

【福岡県・武田たばこ店さん・37歳】

⬇越中特集ご好評につき、今月は夢のご対面が実現してしまいました。越中さんとケンコバさんの初対面をまさか『kamipro』が成し遂げるとは！

AKAの選手たちの金持ちっぷりには驚いた。『TUF』に出るだけで、年収1500万円以上になるなら、僕も応募してみたいなと思う。はっきり言って、いまの給料の10倍！　とまではいかないけど、それに近いものはある……。

【徳島県・セレブ小山さん・ニート】

⬇1500万円でも凄いなあと思いますが、『男祭り』吉田秀彦との対戦で億単位のファイトマネーが噂されたセレブ小川さんは、本当にセレブだなあと思います。いいなあ、格闘家って。

長南亮が、あの〝ハッスル広報〟の臼杵さんと結婚していたなんて、知りませんでした！

【埼玉県・スーパーアリーナさん・20歳】

⬇長南夫妻の結婚式は4月の頭に催された様子。披露宴では、DEEP代表の佐伯さん、そしてRGが特設リングで長南選手と闘ったようです。よくやりますよねえ。

アダモちゃんにひさびさに会えて嬉しかった！　本当に動物の強さをわかっているのは、ソクジュじゃなくてアダモちゃんじゃないかという気さえする。これからも闘ってほしいと思う。

【沖縄県・ハブvsマングースさん・民宿経営・33歳】



⬇109号の表紙の写真ビジュアルがアダモちゃんオンリーだったのは凄い。選手以外の単独表紙って、最近〝カフェ内〟がたいへんなことになっているターザン山本！さん以来ですよね。え？　そう言われても、名誉じゃないって？

越中詩郎さんがブームだということを『kamipro』を読んで知りました。『kamipro』の方がつくった越中語録カルタで僕も勉強しようと思いましたので、あれを売ってるところを教えてください。よろしくお願いします！

【神奈川県・高倉犬さん・小学生・12歳】

⬇残念ながら、『kamipro』に掲載されていたあのページが本物です。「あそび方」の部分に書いてあったように、コピーしてハサミで切って遊ぶのがいいのではないかと思います。

109号は23日発売だと書いてあったのに、実際に発売されたのは29日でした。僕の住んでるところは田舎なので、本屋までバスで行かなければなりません。なので、僕は23日から29日まで、毎日バスで本屋まで通いました。発売延期するならすると言ってください。悲しいです。

【長野県・真剣勝負さん・学生・20歳】

⬇申し訳ありませんでした。

109号・おもしろかった記事ランキング

1位 キリンは本当に強いのか?

2位 越中詩郎特集

3位 榊原DSE代表

4位 いま甦るロシア幻想

5位 ベイエリア特集

発売が遅れて読者の方にたいへんご迷惑をかけてしまった109号は、業界初！　キリン特集が堂々1位に君臨!!『PRIDE.34』でソクジュが大勝利を収めたので、やった甲斐がありました。そして、2位はテレビ朝日『アメトーーク!』放送を機に大フィーバーとなっている越中詩郎大特集。そしてそして、榊原DSE代表インタビューもやっぱり上位にランクイン！　海外特集にも注目が集まりました

kamipro Special 2007 SPRING おもしろかった記事ランキング

1位 禁断の楽園（ボードッグ特集）

2位 ソクジュ

3位 ヴァンダレイ・シウバ

4位 PRIDE.33特集

5位 デーブ・スペクター



2月発売の『kamipro Special 2007 SPRING』。1位はなんと現地コスタリカにてボードッグを完全独占取材を敢行した「禁断の楽園」特集でした！　いまだに得体の知れないボードッグ、いったいどっち方向に進んでいくんでしょう～。そして2位にランクインしたのは、109号でも大特集したソクジュに。3位は負けてもなお大人気のヴァンダレイでした。そして、日本のテレビ番組をぶった切ってくれたCIAのスパイ（?）、デーブも上位に入っています。デーブには今後もぜひご登場いただきたい限りです！



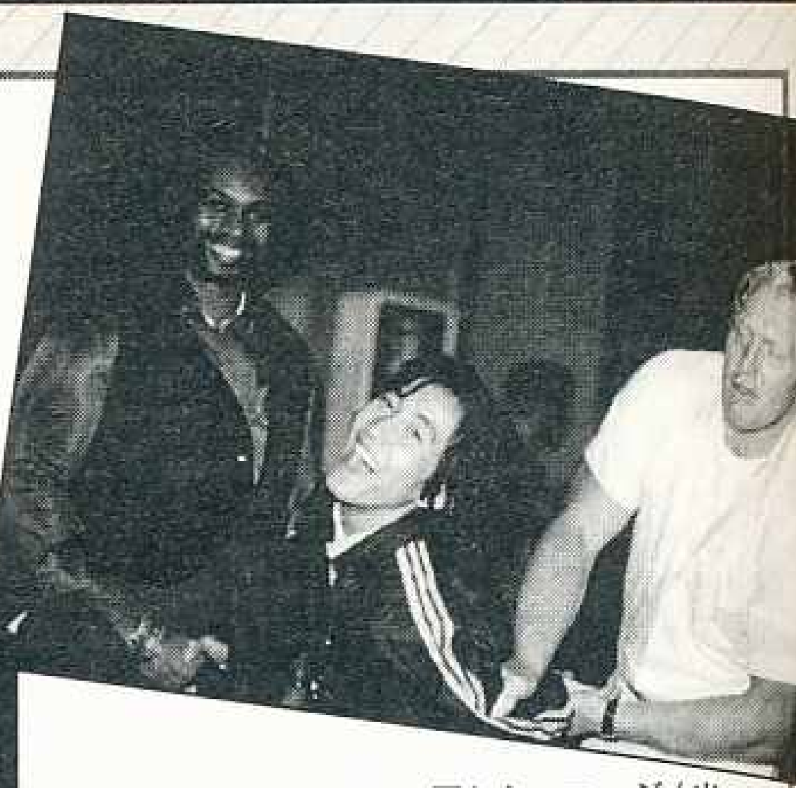


長野県・市川学さん・27歳・作家志望
◯なぜ『kamipro』に森嶋のイラストを……?

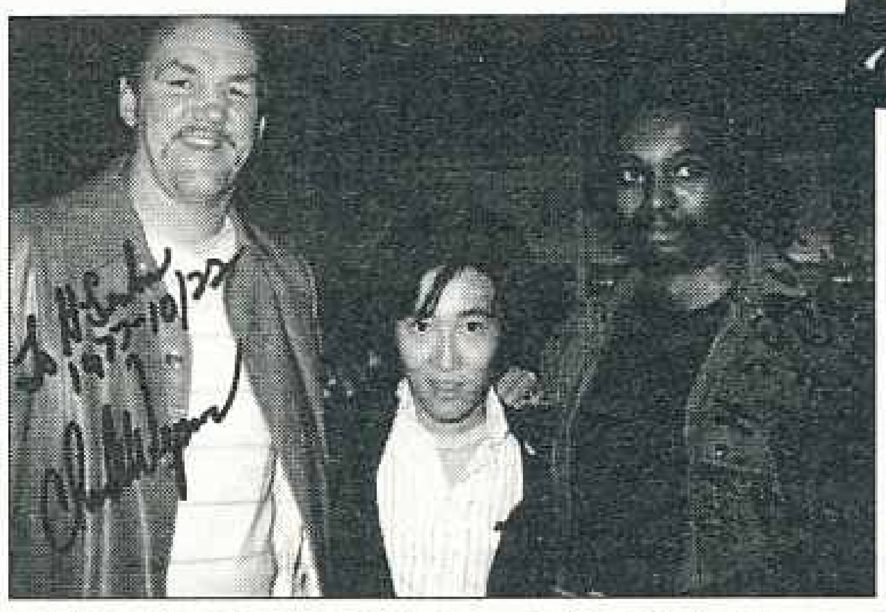
愛媛県・ちっこいのさん・26歳
◯所選手のファンというご夫婦からのおハガキです。所選手もいずれは"大笑いのアメリカ進出"に参加するのでしょうか?

衝撃ショット!!

30年前の若かりしS波氏が故バッドニュース・アレンらと衝撃ショット!!



アレン・コージ(当時)と握手し、ウィリエム・ルスカに腕をひねられながらも満面の笑みを浮かべるS波氏。



チャック・ウェップナー&アレン・コージ(当時)と写った写真には直筆サインが。S波氏は二人と2回会ったことになる。

今号もS波氏から届きました〜。S波氏はバッドニュース・アレンさんが亡くなられた3月7日直後に実家に戻りこの写真を必死に探したそうです。S波さん、一号遅れですが載せましたよ! ……それにしても、S波さん、若い!!

カリフォルニアに潜入したART JUNKIEがあの人と遭遇!





読プレでおなじみのART JUNKIEがなぜかカリフォルニアまで飛んでジョシュ・バーネット、ビル・ロビンソンらと遭遇! 試合とか、するんでしょうか?

スクープ! ザ・目撃!!

●六本木ヒルズで行なわれた『PRIDE』の会見に行ったときのことですが、僕はその会場であの浅草キッドの玉袋筋太郎さんを見かけました! 玉ちゃんは僕らと同じように一般席から会見の様子を心配そうに見ていました。普通のファンとして駆けつけていらっしゃったのでしょうか? 玉ちゃんは凄いなあ。
【東京都・トラえもんさん】



●電車で、横のゴツイ人が安田忠夫でした。びっくりです。座っていちゃいちゃのバカップルをスゲエ険しく睨みつけていたので、「まさか、怒ったりはしないだろうな!?」とハラハラしましたが、険しい視線の先をよく見たら、スポーツ新聞のギャンブル欄でした。さすがヤス!
【どすこいバンナ(kamipro Hand投稿)】

●この前、名古屋の某ホテルから朝食を買いに出かけようとしていた僕は、大谷晋二郎選手が午前さま(AM9:00頃)で帰ってくるところに遭遇してしまいました。かなりお酒を飲んでいたらしく、千鳥足だったように思います。
【石川県・浅井清治さん・34歳】

●気持ちのいい日曜日の昼下がりに表参道を歩いていたら、レフェリーのウォーリー山口さんを見かけました。男3人ぐらいで歩いていました。
【東京都・ビューティフルサンデーさん】

●『PRIDE.34』の会場で、なんと! あの小比類巻選手を発見しました。小比類巻選手はシャツとジーパンという非常にオシャレないでたちで、ガラスに映るご自身の姿を見ながら髪の毛を整えたりもしていました。K-1の選手はやっぱりかっこいいなあと思いました。
【東京都・スーパー有奈さん】

●表参道の坂道を自転車で走っていると、同じく自転車に乗っていた窪田幸生を発見! ちなみに、窪田幸生とは同じ方向に向かって走っていたのですが、ボクはうしろから窪田幸生を追い抜きました。
【kamipro Hand投稿】

kamipro初! メカが相談役に!!
メカマミーの人生相談



さあ、今回もメカマミーに相談だ! 今回は5月のゴールデンウィークのすごし方でお悩みのようですね。ヒマなら手伝えー!! というわけで、相談スタート!

大型連休はどうすごせばいいか

お悩みごと

■連休に関する問題
(大阪府・ニートさん・33歳・♂)

メカマミーさん、こんにちは! 早いものでもうすぐ大型連休の季節になりますね。といっても、毎年僕は連休をドブに捨てるようなすごし方しかしておらず、去年は会場でプロレス観戦、一昨年も愛犬ポチと自宅でプロレスビデオの鑑賞、その前の年は……竹野内豊の『WITH LOVE』を全巻レンタルビデオで借りて観てました。メカマミーさん、こんな僕に何か素敵な連休のすごし方を教えていただけませんか? どうか、メカ的連休をご教授ください!

メカマミー

ズバリ言って、この連休のオススメはプチ改造だ。人間界でもプチ整形が流行ってるとか耳に入ってくるが、メカ界でもプチ改造がちょっとしたブームになっている。プチなだけあって、改造しても約1週間で元の状態に戻ることができるんで、ゴールデンウィークとかのまとまった休みには、もってこいじゃないか? 何? 費用はいくらかかるって? そうだな、指1本で約5万、両腕で30万、全身プチ改造で300万ってところだな。プチ整形に比べれば、ちょっと割高に感じるかもしれないが、メカになれば、それ相応の充実感や満足感、達成感は得られることをメカ歴の長い私が保証しよう。ただし、一人、二人だとこちらも経費の問題もあるんで、5人以上集まったら、私が誕生したマミー研究所へのプチ改造ツアー、名づけて『勇気を出してはじめての改造』を組もうと思う。我こそはと思う方は、『kamipro』編集部の「よろしく、メカニック」係まで、どしどし応募するんだ。大阪のニートさん、オマエも必ず来いよ。……というわけで、今年のゴールデンウィークはプチ改造でキマリ☆

※人生相談ドシドシ送ってください。メールでもハガキでも可。宛先は左記参照。
メカマミーの近況=みちのくプロレスのふく面ワールドリーグ戦に参戦。メカマミーはFブロックに登場! メカ的応援よろしくお願いします。

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください! ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう! お便り、お待ちしています!

こんな情報お待ちしています!

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「セレブに当選」係まで。
携帯サイト「kamipro Hand」からの投稿もできます。

マット界の日程、そして情報をツープラトンで一網打尽!!

kamipro よろず 情報局

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

Fight & Event APRIL 4

23 MON.

◆NOAH／富山・産業展示館テクノホール(18:00)

24 TUE.

◆新日本／岩手・釜石市市民体育館(18:30)
◆全日本／愛知・豊橋市体育館(18:30)
◆NOAH／新潟市体育館(18:30)

25 WED.

◆NEO／千葉・香取市民体育館(18:30)

26 THU.

◆全日本／広島・福山産業交流館ビッグローズ(18:30)

27 FRI.

佐藤光留がボードッグの刺客と対決!
坂口征夫がついに本戦デビュー!!



『パンクラス PANCRASE 2007 RISING TOUR』
東京・後楽園ホール

決定対戦カード
【ミドル級 5分3R】
竹内出 vs 渡辺大介
【フェザー級 5分3R】
志田幹vs井上学
【ミドル級 5分3R】
佐藤光留 vs ブライアン・ラフィーク
【ウェルター級 5分2R】
坂口征夫 vs チェ・ヒュンソク

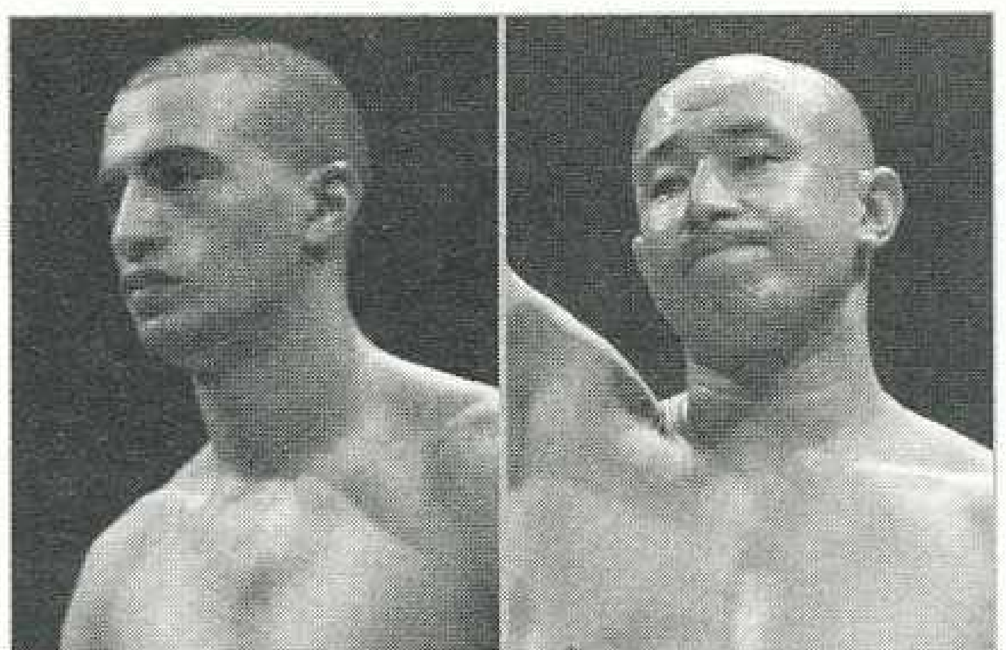
出場予定選手
前田吉朗 ほか

チケット情報
SS席＝12,000円、A席＝8,000円、B席＝6,500円、C席＝5,000円、D席＝4,000円
※当日券は一律500円増し
◎問＝パンクラス 03-5792-0815

◆全日本／京都・福知山市三段池総合体育館(18:30)
◆ユニオン／神奈川・横浜赤レンガ倉庫(19:00)
◆JWP／山口・海峡メッセ下関(18:30)
◆アイスリボン／東京・市谷アイスボックス(19:30)

28 SAT.

バダ・ハリと藤本祐介がヘビー級初代王者決定戦!
チェ・ホンマン、ボンヤスキーらもハワイ上陸!



『K-1 WORLD GP 2007』
米国・ホノルル、ニールSブレイスデイルアリーナ

決定対戦カード
【K-1ヘビー級初代王者決定戦 3分3R】
バダ・ハリ vs 藤本祐介
【スーパーファイト 3分3R】
レミー・ボンヤスキー vs グラウベ・フェイトーザ
澤屋敷純一 vs ランディ・キム
チェ・ホンマン vs X
K-1 USA GP 2007 トーナメント
【1回戦 3分 3R】
マイティ・モー vs キム・ギョンソック
ヤン"ザ・ジャイアント"ノルキヤ vs パトリック・バリー
ゲーリー・グッドリッジ vs スコット・ジャンク
アレクサンダー・ピチュクノフ vs 富平辰文 ほか
◎問＝FEG 03-3796-2977

◆全日本／京都・京都武道センター(18:00)
◆NOAH／東京・日本武道館(18:00)
◆El Dorado／神奈川・横浜赤レンガ倉庫(18:00)
◆Future Star／神奈川・横浜赤レンガ倉庫(13:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆アイスリボン／神奈川・横浜赤レンガ倉庫(13:00)
◆スマックガール／大阪・アゼリア大正(17:00)

29 SUN.

◆DRAGON GATE／兵庫・明石産業交流会館(17:00)
◆大日本／神奈川・横浜赤レンガ倉庫(18:00)
◆DDT／大阪・アゼリア大正(18:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆K-DOJO／千葉・Blue Field(13:00)
◆大仁田厚夕張チャリティ／北海道・ゆうばりスポーツセンター(12:30)
◆アパッチプロレス／新木場1stRING(12:30)
◆NEO／神奈川・横浜赤レンガ倉庫(13:00)
◆R.I.S.E.／東京・ゴールドジムサウス東京アネックス(17:30)

30 MON.

TAJIRIが鈴木みのるの三冠王座にチャレンジ!
中嶋くんは"brother"YASSHIとJr.初防衛戦!



『全日本プロレス〜HOLD OUT TOUR 2007』最終戦
愛知・愛知県体育館(16:00)

決定対戦カード
【三冠ヘビー級タイトルマッチ】
鈴木みのる vs TAJIRI
【世界タッグ選手権試合】
川田利明&太陽ケア vs グレート・ムタ&バンピーロ
【世界ジュニアヘビー級タイトルマッチ】
中嶋勝彦 vs "brother"YASSHI

チケット情報
アリーナ=10,000円、1Fスタンド=7,000円、2F特別席=5,000円、2階指定席=4,000円
◎問=全日本プロレス 03-3288-0610

◆ZERO1・MAX／宮城・仙台市若林体育館(18:00)
◆DRAGON GATE／広島グリーンアリーナ(18:00)
◆大日本／東京・後楽園ホール(19:00)
◆DDT／愛知・刈谷あいおいホール(14:00)
◆アパッチプロレス軍／東京・新木場1st RING(12:30)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆K-DOJO／千葉・Blue Field (13:00)
◆UWAI STATION／東京・後楽園ホール(12:00)
◆イーグル／栃木・小山市文化センター小ホール(13:00)
◆NEO／神奈川・NEO道場(14:00)
◆格闘美／東京・新木場1st RING(13:00)

Fight & Event May 5

1 TUE.

◆レッスルランド／東京・後楽園ホール(18:30)
◆DRAGON GATE／宮崎・都城運動公園体育館(18:30)

◆無我／兵庫・豊橋アイティ7Fスカイドーム（16:30）
◆大阪／京都・KBSホール（15:00）

20 SUN.

◆DRAGON GATE／三重・四日市オーストラリア記念館（15:30）
◆大日本／埼玉・越谷桂スタジオ（13:00）
◆ZERO1・MAX／群馬・桜山温泉センター特設リング（15:30）
◆El Dorado／山形・天童市わくわくランド（19:00）
◆無我／岡山・岡山県卸センター・オレンジホール（18:00）
◆IWA／東京・新宿FACE（18:30）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（13:00&15:00）
◆666／埼玉・越谷桂スタジオ（18:00）
◆O' zアカデミー／東京・新宿FACE（12:30）
◆新日本／アクロス福岡（16:00）
◆大阪プロ／京都・KBSホール（15:00）
◆LLPW／東京・後楽園ホール（12:30）
◆格闘美／東京・新木場1st RING（13:00）

21 MON.

◆NOAH／越谷・桂スタジオ（19:00）
◆無我／愛媛・愛媛テクスポート今治（19:00）

22 TUE.

◆新日本／広島グリーンアリーナ小アリーナ（19:00）
◆NOAH／宮城・Zepp Sendai（19:00）

23 WED.

◆DDT／東京・新木場1st RING（19:30）
◆全日本／愛媛・アイテム愛媛（18:30）

24 THU.

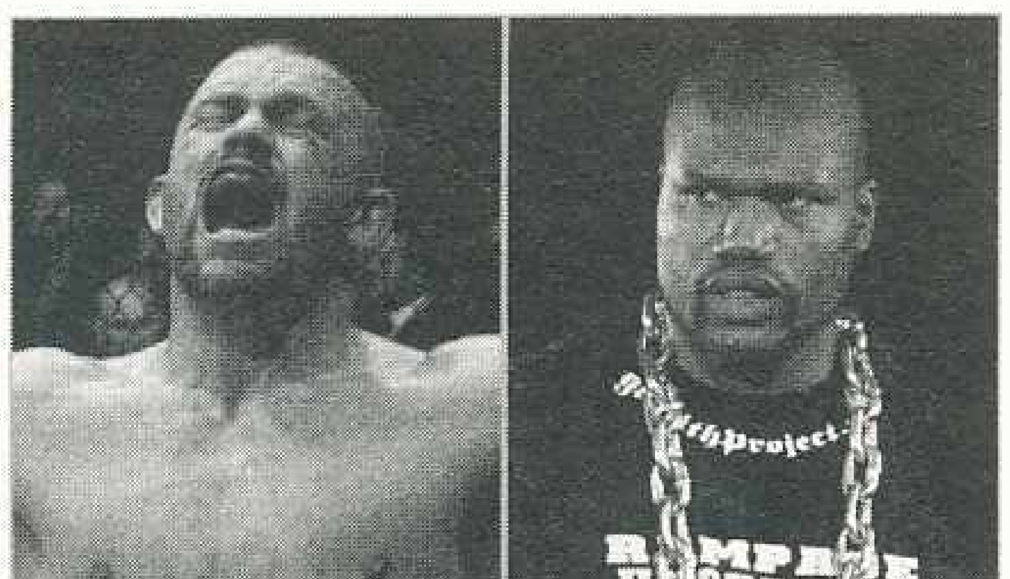
◆全日本／高知・ウェルサンピア高知（18:30）
◆NOAH／青森・青森産業会館（18:30）
◆横浜／愛媛・横浜にぎわい座（19:00）

25 FRI.

◆シュートボクシング／東京・後楽園ホール（18:00）
◆全日本／大阪・大阪府立体育館 第2競技場（18:30）

26 SAT.

チャック・リデルvsランペイジ・ジャクソン、約4年ぶり！ 因縁の再戦がついに決定



『UFC.71』
米国・ラスベガス州、MGMグランド・ガーデンアリーナ

決定対戦カード
【UFCライトヘビー級タイトルマッチ】
チャック・リデル vs
クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン

◆DRAGON GATE／福岡・久留米リサーチパーク（18:00）
◆ZERO1・MAX／宮城・栗原市築館運動公園体育館（18:00）
◆アパッチプロレス／新木場1stRING（19:00）
◆NOAH／青森・弘前市河西体育センター（18:00）
◆みちのく／東京・新宿FACE（19:00）
◆大阪／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆K-DOJO／愛知・ワンダーシティイベントホール（18:00）

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

8 TUE.

◆ZERO1・MAX／愛知・名古屋市中スポーツセンター（18:30）
◆レッスルキングダム／東京・銀座ADK松竹スクエアビル（18:00）

9 WED.

◆大日本／北海道・士別市総合体育館（18:30）
◆ハッスル／東京・後楽園ホール（19:00）

10 THU.

◆ZERO1・MAX／大阪府立体育会館第2競技場（18:30）
◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール（18:30）
◆大日本／北海道・旭川地場産業センター（18:30）

11 FRI.

◆全日本キック／東京・後楽園ホール（18:30）

12 SAT.

◆新日本／和歌山県立体育館（18:00）
◆DRAGON GATE／東京・新宿FACE（18:30）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆大日本／北海道・札幌テイセンホール（17:00）
◆マッスル・アウトローズ自主興行／東京・新宿FACE（18:30）

13 SUN.

◆修斗／広島産業会館（15:00）
◆GLAND SLUM eggs／東京・新宿PINK BIG PIG（13:30&17:30）
◆新日本／京都・福知山三段池公園総合体育館（16:00）
◆全日本／東京・後楽園ホール（12:00）
◆ミッドブレス自主興行／東京・新木場1stRING（19:30）
◆みちのく／新潟・新潟フェイズ（15:00）
◆バトラーツ／埼玉・越谷桂スタジオ（17:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆大日本／北海道・札幌テイセンホール（17:00）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（13:00&16:00）
◆JWP／東京キネマ倶楽部（13:00）
◆GAMI自主興行／東京・東京キネマ倶楽部（17:00）
◆R.I.S.E.／東京・ゴールドジムサウス東京アネックス（17:30）
◆club DEEP富山／富山・イベントプラザ富山（16:00）

14 MON.

◆新日本／山口・周南市総合スポーツセンター（18:30）

16 WED.

◆新日本／大分イベントホール（18:30）
◆DDT／東京・新木場1st RING（19:30）
◆全日本／福岡・小倉北体育館（18:30）
◆無我／大阪・大阪府立体育館・第2競技場（18:30）

17 THU.

◆新日本／福岡・久留米リサーチパーク（18:30）
◆NOAH／東京・後楽園ホール（18:30）
◆押忍闘夢／東京・新木場1st RING（19:45）

18 FRI.

◆修斗／東京・後楽園ホール（18:00）
◆新日本／鹿児島市民体育館（18:30）
◆全日本／熊本・熊本興南会館（18:30）
◆無我／大阪・大阪府立体育館 第2競技場（18:30）
◆竜司ウォルター自主興行／東京・新宿FACE（19:00）
◆格闘美／東京・新木場1st RING（19:00）

19 SAT.

◆新日本／熊本・山鹿市民スポーツセンター（18:00）
◆NOAH／東京・ディファ有明（18:00）
◆ZERO1・MAX／新潟・新津地区市民会館（18:00）
◆スマックガール／東京・新宿FACE（未定）
◆全日本／鹿児島・国分屋内競技場（18:30）
◆DRAGON GATE／岡山・玉野市宇野港 みなとフェスティバル特設リング（18:30）

2 WED.

◆新日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆DRAGON GATE／長崎・長崎NCC&スタジオ（18:30）

3 THU.

◆新日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆DRAGON GATE／山口・下松市民体育館（18:30）
◆大阪プロ／大阪・たかいし市民文化会館アプラ大ホール（13:00）
◆大日本／大阪・IMPホール（17:00）
◆El Drado／大阪・IPMホール（13:00）
◆フーテン・プロモーション／神奈川・ラゾーナ川崎プラザ（13:00）
◆SGP／愛知・愛知ポートメッセなごや（11:30&14:00）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（13:00）
◆NEO／東京・後楽園ホール（12:00）

4 FRI.

ボブチャンチンがアブダビに初出場！ホジャー・グレイシーとドリームマッチ実現!?



『アブダビ・コンバット世界大会（4日～6日）』
米国・ニュージャージー州、ソベレイン・バンク体育館

◆DRAGON GATE／京都・KBSホール開（18:00）
◆DDT／東京・後楽園ホール（12:00）
◆マッスル／東京・後楽園ホール（19:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（13:00）
◆SGP／愛知・愛知ポートメッセなごや（11:30&14:00）
◆華☆激／福岡・さざんぴあ博多多目的ホール（13:00）
◆JWP／東京・板橋グリーンホール（17:00）
◆OZアカデミー／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆格闘美／東京・新木場1st RING（13:00&17:00）

5 SAT.

◆K-DOJO／千葉・Blue Field（13:00）
◆DDT／愛知・Zepp Nagoya（13:30）
◆大阪プロ／大阪湾さんふらわ船上（11:30）
◆DRAGON GATE／石川・石川県産業展示館（18:00）
◆SEM／東京・ディファ有明（15:30）
◆GPWA／東京・ディファ有明（19:00）
◆マッスル／愛知・Zepp Nagoya（13:30）
◆愛・プロレス博／愛知・Zepp Nagoya（17:55）
◆国際／神奈川・横浜赤レンガ倉庫（12:00）
◆ガッツワールド／神奈川・横浜赤レンガ倉庫（15:00）
◆NEO／東京・板橋グリーンホール（14:00）
◆息吹／東京・後楽園ホール（12:00）

6 SUN.

◆パンクラス／東京・ゴールドジムサウス東京アネックス（14:00）
◆LOCK UP／東京・新木場1st RING（12:30）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（13:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆LOCK UP／東京・新木場1st RING（12:30）
◆CRUISER'S GAME／東京・ディファ有明（12:30）
◆ZERO1・MAX／東京・ディファ有明（15:30）
◆GPWA／東京・ディファ有明（19:00）
◆DRAGON GATE／愛知・テレピアホール（18:00）
◆仙台女子／宮城・Zepp Sendai（15:00）

7 MON.

◆DRAGON GATE／兵庫・SITE KOBE（18:00）

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

フリーマーケットに餅つき大会！『ディファ・フェスタ2007』で黄金週間はプロレス三昧！



黄金週間の"締め"はプロレス三昧！ 5月5日（土）、6日（日）にディファ有明でGPWA主催の『ディファ・フェスタ2007』開催！ 両日にわたり開催されるタッグの祭典、『第3回ディファカップ』（19時開始）が目玉だが、5日にはノアの『SEM』（15時30分開始）。6日には、DDTの『CRUISER'S GAME』（12時30分開始）。夕方からはZERO1・MAX（15時30分開始）と大会がてんこ盛り！ 会期中はフリーマーケット、餅つき大会（5日）、ちゃんこ大会（6日）も開催！ プロレスの祭典を体感しよう！

★問／GPWA事務局（株式会社F.O.S内） 03-5730-3966

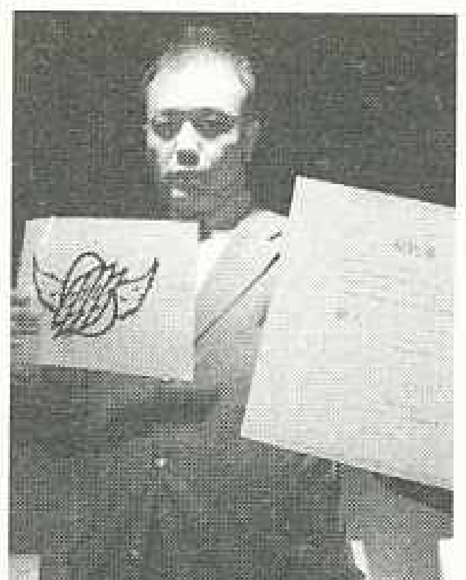
キッズの中のキッズ出てこいや〜！ダイヤモンド・キッズ・カレッジ開催!!



キッズたちも鳥肌立った！ 髙田延彦&向井亜紀夫妻と髙田道場が子どもたちにレスリングとボクシングのおもしろさ、格闘技の醍醐味を教える髙田道場主催のセミナーがダイヤモンド・キッズ・カレッジ！ 参加対象は小学1年〜6年生の男女。好評につき、早くも4回目となる次回は、6月24日に国士舘大学の多摩キャンパスにて開催が決定！ 参加費無料、見学自由なのでお子さんのいる格闘セレブは要注目！

★開催日／6月24日（日） ★会場／国士舘大学・多摩キャンパス
★問／髙田道場 03-5749-5030

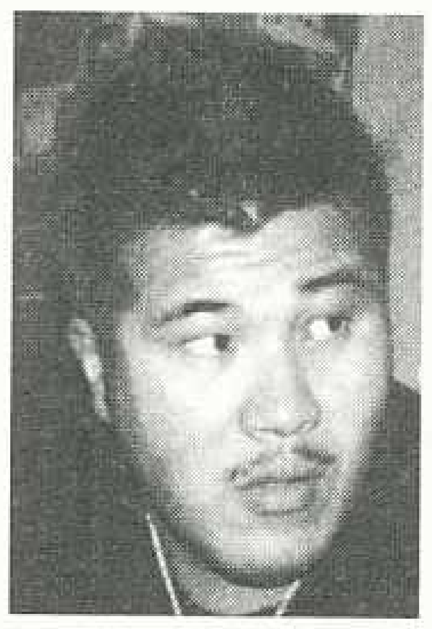
自称"インディー界のカリスマ"が怪気炎!! 入江秀忠がプロアマ混合無差別賞金トーナメント！



No.109ではメジャー進出を語ったお騒がせ男、入江秀忠がスポンサーを獲得！ プロデューサーとしてプロアマ混合の無差別賞金トーナメントを主催する。優勝賞金は30万円！ という等身大なトーナメントは入江が考案した"世界一過激"なルール（決勝戦は、選手同意のもと、金的、生拳、指折りも可能）で参加者を一般公募中！ 同時にライブやお笑いを中心にしたエンタメ・リアルファイティングトーナメントも開催！

★問．キングダム・エルガイツ TEL.042-376-1639

お願いです！ 入ってください！あの木村浩一郎が総合ジムを運営！



レスラーであり格闘家の木村浩一郎が浅草橋で総合格闘技ジムのオーナーに就任！ このパラエストラ東京EASTは日本修斗協会事務局長の若林太郎氏が代表を務める本格的なもの。現在、新規入会者に「柔術衣をプレゼント！」するキャンペーンを絶賛実施中！ （07年5月末日まで）。初心者から経験者、女性や子どもまで幅広く会員募集中！ 無料見学、講習会もあるから、要チェック！

★問／パラエストラ東京EAST 03-6902-1900

真樹日佐夫先生の原作が実写化決定！エンセン&藤原組長も出演！DVD『愛しのOYAJI』発売！



No.108の特集"わるいやつら"にも登場いただいた真樹日佐夫先生が原作を担当、画は影丸穣也氏という名作『ワル』のコンビによる劇画『愛しのOYAJI』（月刊『ZUBA』で連載中）が実写化決定！ 普段はストリッパーの照明係……だが腕っぷしが強い謎の中年男、風来猛（小沢仁志）が、浅草を舞台にさまざまなトラブルを解決する物語。エンセン井上や藤原組長らも出演のほか、真樹先生もドスの効いた演技を披露！

★『愛しのOYAJI』（GPミュージアムソフト） 4,935円（税込）

蝶野&天山がラーメン屋開業!?北野武監督の新作映画に新日本プロレス勢が出演！

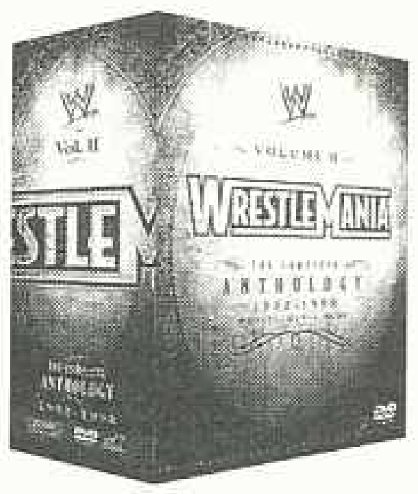


©『監督・ばんざい！』2007製作委員会

蝶野&天山がラーメン屋『蝶天ラーメン』を開業!? ……これは"世界のキタノ"こと、北野武監督の最新作『監督・ばんざい！』の一場面。北野監督自らが主人公の"おバカ"な映画監督を演じる、この注目作に蝶野正洋、天山広吉、邪道、外道、真壁刀義らの新日本プロレス勢が大挙出演！ たけしプロレス軍団以来？ となる新日本と北野武の邂逅を見届けろ！

★『監督・ばんざい！』／監督:北野武 07年6月2日より全国ロードショー

レッスル・マニアを完全パッケージ！3,000セット限定！豪華7枚組DVDボックス！



WWE総帥のビンス・マクマホンが丸坊主！ で今年も話題を呼んだWWE最大のイベント『レッスルマニア』。この第8回から第14回大会までの模様を完全収録したゴージャスなDVD BOX第2弾が発売！ マイク・タイソンがレフェリーを務めたスティーブ・オースチンvsショーン・マイケルズ戦など、名・珍場面が満載！ この商品は3,000セット限定！ 急いで手に入れろ！

★『WWE レッスルマニア・アンソロジーBOX2』（東宝）22,050円（税込）全7枚組

探していたグッズも手に入る!?MMAのアパレルサイト『オッキ・アズーリ』に注目!!



総合格闘技のブランドがズラリ勢揃い！ MMA系に特化したアパレル、グッズ専門サイト、それが『オッキ・アズーリ』だ。髙田道場、『PRIDE』、イサミといった国内ブランドほか、シュートボクセやブラジリアン・トップ・チームなどの海外チームのブランドも大充実！ 探していても見つからなかったあのグッズも発見できるかも？ また"やる側"のファンには格闘実用グッズも品揃え豊富。さぁ、君もレッツ・アクセス！

★URL／http://www.occhi-azzurri.net/

仮マスクも好調スタート!?
黄金週間はコラムにまかせろ!

イラスト◎師岡とおる



第18回

NYに行きたいか? 行きたいです

リングの汁
花くまゆうさく

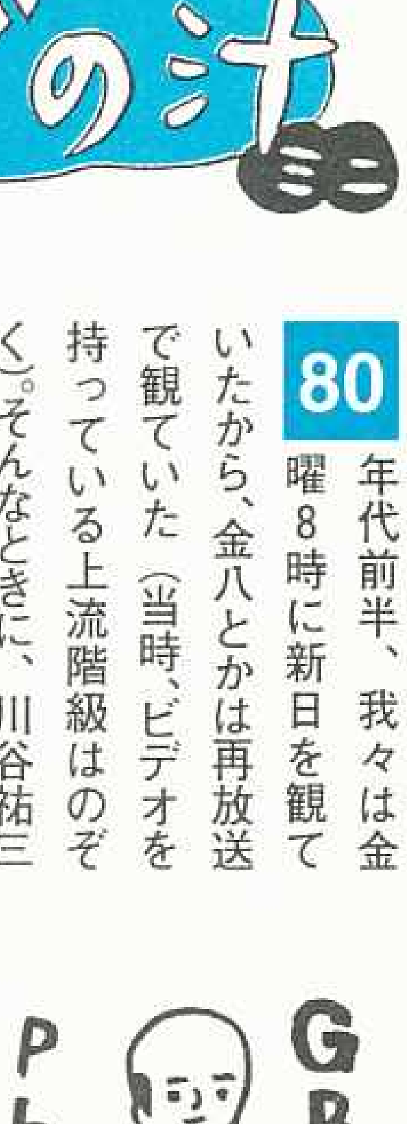
80年代前半、我々は金曜8時に新日を観ていたから、金八とかは再放送で観ていた（当時、ビデオを持っている上流階級はのぞく）。そんなときに、川谷拓三出演で貫八先生が始まり、観たくてしょうがないが、再放送までガマンする僕ら。しかしなぜか関東ではまったく再放送されずに20数年が過ぎてしまった。しかし、やっと今月『スカパー！』のTBSチャンネルで放送が始まるとのこと！　これで昭和の未清算モノにやっと清算でき、平成を迎えられる。

そんで平成のいま。今年はアブダビイヤーでNY開催。我々にとって、最後のアイドル野球選手。松井をNYで観たいし、なにより映画『グラインドハウス』が観たくて観たくてたまらないので、NY行っちゃおうかしら？　と考えながら、まずはアブダビ日本一次予選を観に行った。

66キロ級で、圧倒的な極めの強さと存在感を見せつけて、戸井田（カツヤ）＆植松（直哉）選手が勝ち上がり、最終予選行きを決めたので、めでたしめでたし。この二人に最終予選出場者として名が上がった4人（ルミナ、十段、佐々、肌イ郎）が絡むと思うとワクワクするのだが、目玉の二人（ルミナ・十段）は出ないから残念。というかこの二人が出ないの、チケット発売前からわかってたと思うんだけど？

存在感といえば、一次予選で大注目集めた尾藤（広光）選手。4年前の予選では、三沢スパッツ姿で、今成十段と闘い、注目浴びましたが、今年も三沢スパッツで登場。自家製の緑色サンボジャケットを着て。そして試合では、自分のコーナーにノアの特大タオル広げて置く尾藤さん。4年前は、「なぜ三沢スパッツ？」と静かにザワついてたギャラリーだったが、今回は三沢コールが起こるほどの盛り上がり。だが、柔術黒帯・本間（祐輔）選手に三角から腕極められ、尾藤さんのアブダビ挑戦は終わった。次の2年後、尾藤さんは42歳になってしまうが、アブダビ予選にまた三沢は現われてくれるのだろうか……。

カードがしょぼくてPPV購入やめようかなと迷ったほどの、DSE最後の『PRIDE』。モンソンがサイドバック取って、寝技テクなさそうな藤田極められちゃうんじゃないの？　ってワクワクして観てんのに、レフリーが「アクション」「アクション」叫ぶから、「えー!!　まさかブレイクさせる気かよ!?」って違う意味でドキドキしちゃった。次のライト級GP1回戦で、青木vs五味希望。この機会逃したら、このカードは永久に実現しない気がするから。





Hanakuma Yusaku
◎ヒクソンの息子クロン。またしても全試合一本勝ちだって。スゲ～。

リング上からプライベートまで!
“なんでもあり”の質問コーナー

所英男のトコロ天国



本コーナーは、読者が抱くさまざまなお悩み、質問に、所選手がすべて答えてくれるという天国のようなコーナーです(こじつけ)。

——さあ、所さん、今回も『トコロ天国』、どうぞよろしくお願いします!

所 あ。は、はい(モジモジしながら)。

——んっ? なんだか今日はいつも以上に落ち着きがないみたいですけど、何かあったんですか?

所 えー……っと、あのですねえ……。

上原ZST広報 (言い出せない所を見かねて)最近、所選手はこの連載がいつ終わってしまうのか、そればっかり気にしてるみたいなんですよ。

——はあー。そんなことを心配されてたんですか?

所 連載恐怖症なんです(神妙に)。僕のコラム、ちゃんと好評なのかなって……。

——へえ~(他人事のように)。

所 どうなんですか?

——それがですねえ、残念ながらじつは今回が最終回なんですよね!(アッサリ)。

所 えっ……(と言って固まる)。

——というのは冗談です! それでは、さっそく始めましょう。今日はアメリカンな質問満載でお届けしまーす!

所 ヴ~~(複雑な表情で)。

政治に関する質問

東京都・Mr.都知事選さん・19歳・大学生

僕は、政治を学んでいる大学生です。最近、マット界はやけにアメリカがブームですが、僕的にはアメリカといえば断然ブッシュ政権です。そこで質問ですが、所選手はブッシュ政権についてどう思いますか?



ブッシュ政権の話なのに、なぜこの写真……? と思ったそこのあなた! 所のコメントを読んで、政治を勉強しなさい!!

——今日はしょっぱなから難しい質問ですが、いかがでしょう?

所 一言で言うと………わからない。

——アッハッハッハ! この展開もちょっとは予想してましたけど、ハッキリ言って、それじゃ話が終わっちゃいますね!

所 政治のことは30歳過ぎたらちょっと考えようかなって思ってたんで!(なぜか堂々と)。

——っていっても、たしか所さんはあと4ヵ月で30歳なはずですよ。

所 (無視して)たぶん、僕はブッシュさんよりもゴアさんのほうが興味があると思うんですよねえ。

——ほう! アル・ゴアさんといえば、環境問題に熱心な方ですよね。所さん、環境問題にはうるさいほうなんですか?

所 ちゃんと燃えるゴミと燃えないゴミはしっかり分けるようにしていますよ。小さいことですけど、ペットボトルはペットボトル、カンはカン、ビンはビンの袋に。

——立派ですねえ。ちなみに所さんがお住まいの地域はゴミは何種類に分別しないといけないんですか?

所 一袋です。

——そんなわけないじゃないですか!(笑)。少なくとも、いま聞いた限りだと、すでに5種類はありますし。

所 間違えました(アッサリ)。普通のゴミで一袋、ペットボトル、カン、ビンとかの資源ゴミで一袋。それだけですね。

——それでも二袋ですよ。本当にペットボトルもビンもカンも一緒でいいんですか?

所 たぶん、それでいいはず。でも……それじゃよくないですよねえ。

——どっちなんですか、いったい!(困惑)。

所 とにかく、僕はちゃんと分別してますよってことです!!

——なーんか、好感度の上がる部分だけ持っていかれたような気がするんですけど……。

人生に関する質問

青森県・高橋優子さん・16歳・高校生

はじめまして。私はいまアメリカ留学を真剣に考えている高校生です。担任の先生と相談して、いま一年間だけアメリカに留学することが決まりかけているのですが、一番心配なのはアメリカでの生活が自分に合うのかということです。所さんは先日アメリカに行かれたそうですが、アメリカでの生活って、どんなものなんでしょう?

所 とりあえず、凄く空気が乾いてるんで、加湿器を持ってったほうがいいですね。

——なんですか、そのピンポイントなアドバイスは(笑)。

所 でも、僕はやっぱり日本がいいんですよねえ。

——いまから留学しようとしている女子高生を前に、所さんはそんなことを言ってしまうわけですね(笑)。

所 (一転して)あ、でも、帰国子女とかっていいと思うんですよ!

——それはどんなところがですか?

所 向こうに住んでた人のノリって僕らとぜんぜん違うじゃないですか。僕、それってうらやましいんですよね。

——へえ~。所さんもそういうノリでいきたい、と。

所 だって、なんか堂々としてるじゃないですか。

——たしかに、ムダに堂々としてますねえ。

所 あ! でも、上原さんがいつも言ってるのは、日本人と外国人の男女が一緒に歩いてると、「あれは恋愛感情じゃなくて、ただ英語を覚えたいから付き合ってるんだよ」って。

上原 (あわてて)言ってないよ!

所 そういうのを聞くと、「ああ、上原さん、曲がっちゃってるな」って思いますよねえ。

——アハハハハ!! じゃあ、もし所さんに曲がった言動があったときは、それは全部上原さんの影響だと。

所 間違いありませんね!

——さて、まったく違う話になりましたが、最後に一言、この女子高生にエールを!

所 単語さえ覚えられれば僕でもなんとかなる国なんで、きっと大丈夫だと思います!

勉強に関するの質問

東京都・キャサリンさん・22歳・OL

最近、『kamipro』を読んでいると、記事がめっきりアメリカめいています。私は中学校の頃から英語が大の苦手だったので正直いってアメリカと聞くだけで体質的に受け付けないのですが、所選手はそんなことないですか? 所選手は英語は得意でしたか?



しばしば日本語もおぼつかない所にはもはや無謀とも思える質問だが、はたして真相は? ちょっとだけ期待して読んでみよう!

所 アッハッハッハ!(ムダに爆笑)。

——所さん、なぜか爆笑してますけど、実際どうなんですか?

所 それはですねえ、いつかUSAのリングでマイクを持ったときにお見せいたしますよ!

——おっ! なんか自信ありげですね。じゃあ、早ければもしかしたら6月2日の『Dynamite!! USA』で、その実力が見られるかもしれないってことでよろしいんですね。

所 はい。楽しみにしててください!

——そこまで言うならかなり期待させていただきますが、ちょっと所さんの英語能力がわかるヒントだけでも教えてもらえませんでしょうか?

所 フフフ……。じゃ、ちょっとだけ言うと、僕は中学時代5教科の合計点の半分が英語の点数だったことがあります!

——おお! それは凄い!! ……と思いましたけど、それってよく考えたら英語で100点だとしたら、国語、数学、理科、社会の合計点で100点だってことですよね?(おそるおそる)。

所 単純計算でほかの教科の4倍の点数ですね!(なぜか胸を張って)。

——つまり、それくらい英語は凄い、と(笑)。

所 しかも、それは中学時代の話ですから。高校受験のときは親に家庭教師を雇われてさらに勉強してますからね。

——家庭教師を雇われてしまいましたか!

所 それで、点数が激増してますし!!(さらに胸を張って)。

——なるほど……。しかし、いまのヒントでは所さんの英語能力がはたして凄いのか凄くないのかさっぱりわかりませんねえ。

所 とにかくUSAでのマイクに注目してくださいよ!

——う~ん、謎だなあ。

Hideo Tokoro◎ところ・ひでお【所英男オフィシャルブログ】http://blog.livedoor.jp/zst_tokoro/【ZSTのHP】http://www.zst.jp/

※所選手に解決してほしいお悩みや質問は〒151-0051　東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F『kamipro編集部　トコロ天国』係まで

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

ブッカーKの ぶっかけ！ 格闘裏情報

第14回

私だけが知っている PRIDE10周年に ふさわしい男

4月8日に行なわれた『PRIDE・34』は、DSE体制最後の興行であり、また、10周年記念という節目の大会でした。今回、出場した全選手の名前を眺めていると、その節目にもっともふさわしいPRIDE選手がいることを見つけました。

出場16名中ただ一人、10年前の『PRIDE・1』に出場している男、〝元祖ミスター・PRIDE〟こと小路晃です。

小路は『PRIDE・1』でヘンゾ・グレイシーと対戦。当時のグレイシー柔術といえば、〝無敗伝説〟の名が轟いておりましたが、ヘンゾは10日前のブラジルの試合で、なんと背中を試合中に刺されるという事件に見舞われたばかり。しかし、当時の小路は無名の選手。当然、戦前の予想ではヘンゾの圧勝でしたが、ドローに持ち込む大健闘でした。小路は試合後の「日本人は強いんじゃ〜!!」と絶叫し、その名前を一躍、世界に知らしめたのです。

じつは、小路を『PRIDE』に推薦したのは、私なのです。その約一年前、和術慧舟會所属だった小路は、骨法との対抗戦に出場。試合形式は素手での昔のバーリ・トゥードスタイル。まだ学生だった小路は、スタンドで相手に頭突きを見舞い、顔面を容赦なく殴るアグレッシブな一面は私にインパクトを与えました。

いまでこそ顔面パンチ、踏みつけなどがポピュラーなテクニックとして浸透していますが、当時は〝日本人には不向きな競技〟とマスコミなどに言われていたものです。そういった風潮があったからこそ、小路には魂とチームの強さと感じたものでした。

小路はその後も体格差をものともせず、世界の強豪相手に闘いを挑み続けました。私がとくに印象深いのは、00年5月の『PRIDE・GP』決勝ラウンドのマーク・コールマン戦です。

コールマンの圧倒的なパワーに押されながらも、逆にあの巨体をブン投げた小路！ そうして判定まで持ち込んだから、当時の充実ぶりがわかるというものでしょう。そして試合後。小路のグローブをセコンドが外そうとしたときに、小路はボロボロになりながらも誰かがケガをすれば、「まだチャンスがある！」——どういうかといえば、決勝戦まで一日3試合を強いられるため、負傷欠場者が出るかもしれない。ボロボロの身体でも闘うことをあきらめてなかった。その姿に感動したものでした。

今回のギルバート・アイブル戦も、ヴォルク・アターエフの欠場によって巡ってきたチャンス。出場が決定したのは大会前日の超スクラブル発進。小路に迷いはなかったのでしょう。

結果的に敗れはしましたが、いつものように組みついてからのテイクダウンはあいかわらずうまかった。小路選手が記念すべき『PRIDE・34』に出場したのは運命だったと思うのです。



ささきぃの

私の立ち技への旅はまだ終わらない

STAND BY ME second season

第12回

HIROYAに魔裟斗が大人の忠告！ マイティー・モーの息子がデビュー!?の巻

4・4『K−1 MAX』横浜アリーナ大会で、噂の15歳HIROYAがついにプロデビュー。日本人選手がどうにも低迷してしまった大会において見事1ラウンドKO勝利をおさめた。

相手選手のデータがまったくないというのはともかく「1ラウンドKO」という結果をたたき出したのは偉い。恐縮しながら一夜明け会見に登場したHIROYAくんに対し、待っていたのは魔裟斗からの思わぬ〝忠告〟だった。

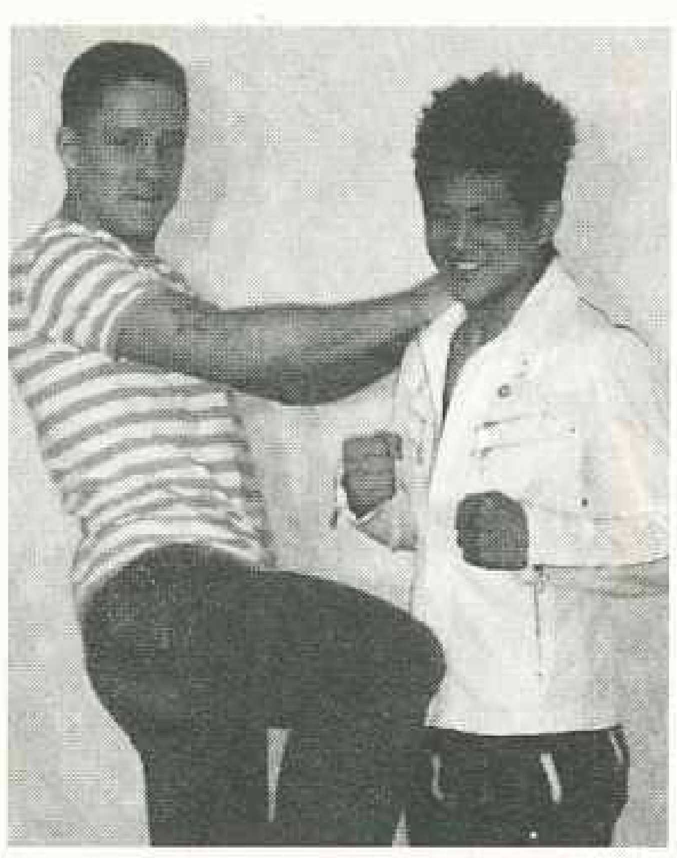
この日会見に登場した魔裟斗は「朝まで飲んでたんで眠い」としながらも、かなりのご機嫌モード。「HIROYAはモテるでしょ？ 俺だったらタイなんか行かないなぁ」と、15歳の少年をからかいつつ「セックスはしてもいいけど、ゴムを使うこと。女の子を泣かさないように」と、大人のアドバイスを送った。

会見には一応HIROYAのお父さんも出席していたのにもかかわらずこの発言。ブアカーオ・ポー・プラムックは「HIROYAはタイの基準から見てもハンサムだよ」とニッコリ。アンディ・サワーは「大人の闘い方ができていた。凄くいい選手になると思うよ」と評価しつつ「15歳なら、まだ彼女を作るのは早い」と忠告。会見は単なるHIROYAくんを囲む会に近いものとなってしまった。

みんながHIROYAくんに優しいのでご機嫌（？）の谷川プロデューサーだったが「世界中のプロモーターから『うちにも強い10代がいる』って売り込みが凄いんですよ〜」と、ちょっぴり頭を痛めている様子も。しかし転んでもただでは起きないのが谷川さん。「次のハワイ大会で10代の選手がデビューします！ 10代なのに超ヘビー級なんですよ！」と、目をきらきらさせて発表した。

10代でしかも「超ヘビー級」。谷川さんの大好物が二つ揃ったその選手の正体は、なんとマイティー・モーの息子！「10代なのにめちゃくちゃ強くて、お父さんとガチンコでスパーリングやってるらしいんですよ」。チェ・ホンマンをKOしたマイティー・モーを本気にさせるということは、この息子の実力は相当なもの。しかしお父さんのマイティー・モーは、いいパンチをもらってスイッチが入り、息子を本気でKOしてしまったという。「倒してから『あ、やばい』って気がついたらしいですよ」。もはやできすぎたコントである。

さらに谷川さんは「HIROYAくんの登場もあるし、K−1 60キロ級をオープニングファイトで組みたい」と発言。「60キロ級の魔裟斗みたいな選手は、ゴロゴロいますからね」と続けた。確かにそれはそのとおりで、キックボクシング界には60キロの注目選手がたくさんいる。キックボクサーたちだけの〝実力〟だけじゃなく、HIROYAくんありきの60キロ級開設になるのは複雑な心境。だけど、やるならしっかり利用して目立っちゃえ。とも思う。やれんのか!?



会見でアンディ・サワーからヒザ蹴りをお見舞いされるHIROYA。アンディは「15歳なら一人で我慢しろ」とアドバイス（？）

せき詩郎のサムライ三昧

シロー

第13回

GBHと『泣いた赤鬼』

天山率いるGBH軍。新日本プロレス、いやプロレス界全体を制圧するために日夜活動を続けている。軍団員も徐々に増え、野望を胸に一丸となって頑張っている。

しかし、目標への階段を確実に登っているとは言えず、どちらかと言えば踊り場で、ずっとたむろしている印象を受ける。過去に存在した数多くの軍団がそうであったように、どこかこぢんまりとまとまってしまい、そこそこの戦績を残しつつフェードアウトしてしまうのではと思わせてしまうのもまた事実だ。このままだと5月6日に『ロックアップ』で行なわれるアパッチ軍との4対4対抗戦に勝利するのも難しいのかもしれない。

アパッチ軍との対抗戦は軍団としてのキーポイントになることは確実であろう。勝てば良い具合に上半期を終え、そのままの勢いで2007年を突っ走ることができる。逆に負けてしまえば尻すぼみになってしまうこと確実だ。この勝負はなんとしても勝たなければいけない。

軍団としては良い人材が揃っている。だが欲を言えば即戦力となる助っ人が欲しいところだ。蝶野率いるnWoにnWoスティングがいたように、あるいは平成維震軍にテリー・ファンクがいたように、GBH軍にも新戦力が必要だろう。

とはいっても、そう簡単に誰かが加わることはないかもしれない。GBHはヒール軍団である。そこがネックとなる。加入しようと思ったとしても、ヒール=「なんか怖そう」と敬遠される可能性大なのだ。

そんな彼らのために存在するような話がある。『泣いた赤鬼』という昔話だ。ご存知の方も多いとは思うが、前半部分を少し紹介すると、むかしむかしあるところに赤鬼がいたのだが、友だちがほしくてたまらなかった。そこで赤鬼は家の前に立て札を立てた。そこにはこう書いてあった。

「心の優しい鬼の家です。どなたでもおいでください。おいしいお菓子がございます。お茶も沸かしてございます」

GBH軍もこの作戦を使わない手はない。新日の道場の前でも天山の家の前でもかまわない。「心の優しいGBH軍の家です」とヒールが持つイメージを払拭しつつ、「どなたでもおいでください」と門戸の広さをアピールし、あとはお菓子とお茶でトドメを刺す。一般人の何倍ものごはんを食べ、いつもお腹を空かせているだろうレスラーを誘い込むのだ。

ただ一つだけ問題がある。『泣いた赤鬼』の話でもそうであったのだが、優しい言葉が並んでいてもヒール、他のレスラーたちは何かの罠ではないかと疑い、誰も来ないことが予想されるのだ。

この時点で先の昔話では赤鬼はあきらめてしまうのだが、天山たちまでその真似をすることはない。赤鬼の失敗から学び、轍を踏むことを避ける。同じ過ちを繰り返さないようほんの少しだけ言葉を付け加えるのだ。

たとえば「マンガ10万冊! インターネット完備!」という言葉を付け加えてみたらどうだろう。

「心の優しいGBH軍の家です。どなたでもおいでください。おいしいお菓子がございます。お茶も沸かしてございます。マンガ10万冊! インターネット完備!」

まるで漫画喫茶のような楽しさにつられて若いレスラーがたくさん押し寄せるだろう。おまけにホームレス予備軍も来るはずだ。あとはその豊富な人材から軍団にふさわしい者を選ぶだけ。

あるいはもっと簡単な言葉でも良い。

「心の優しいGBH軍の家です。どなたでもおいでください。おいしいお菓子がございます。お茶も沸かしてございます。そしてCD高価買取中!」

急なお金が必要となったノゲイラあたりが南米ハードコアのCDを大量に持ってやってくるかもしれない。思わぬ大物助っ人の誕生だ。



ホーガン、蝶野、武藤といったトップレスラーからデニス・ロッドマンまで幅広いメンバーが在籍していたヒール軍団nWo。GBHがnWoのような一大勢力になるために必要なのは、やはり新戦力か。青鬼といえばタイガー戸口……。

「心の優しいGBH軍の家です。どなたでもおいでください。おいしいお菓子がございます。お茶も沸かしてございます。楽天のポイントも貯まります」

GBH軍に加入するだけでなんと楽天のポイントがもらえるというのだ。こんなおいしい話はない。密かに楽天のポイントを集めていたヒョードルの電撃加入も夢ではない。

これでもダメな場合は、赤鬼の話と同様に「青鬼」の出番だ。青鬼は人間の村で大暴れする。そこへ赤鬼が出てきて、青鬼を懲らしめる。すると人間たちは「赤鬼って本当に優しいヤツなんだ!」と思い、こぞって赤鬼の家に遊びに行くようになったのだ。つまり青鬼は自ら悪役を買って出たということだ。

この青鬼役をいったい誰がやるのか。真壁か、石井か、それとも矢野か。あるいは越中なのか。それはわからない。

もしかしたら適任は蝶野なのかもしれない。クレバーな蝶野のことだ。青鬼並みの作戦を立てるなんてお手のものだろう。いま現在、天山と袂を分かった格好となっている蝶野。しかしそれはポーズにすぎず、もうすでに青鬼作戦は始まっているのかもしれない。

などと勝手に話を作って書いていたら、なんだか蝶野のことがより好きになった。思い込みって凄い! ぜひ皆さんもお試しあれ!

椎名基樹の サムライ三昧

第13回

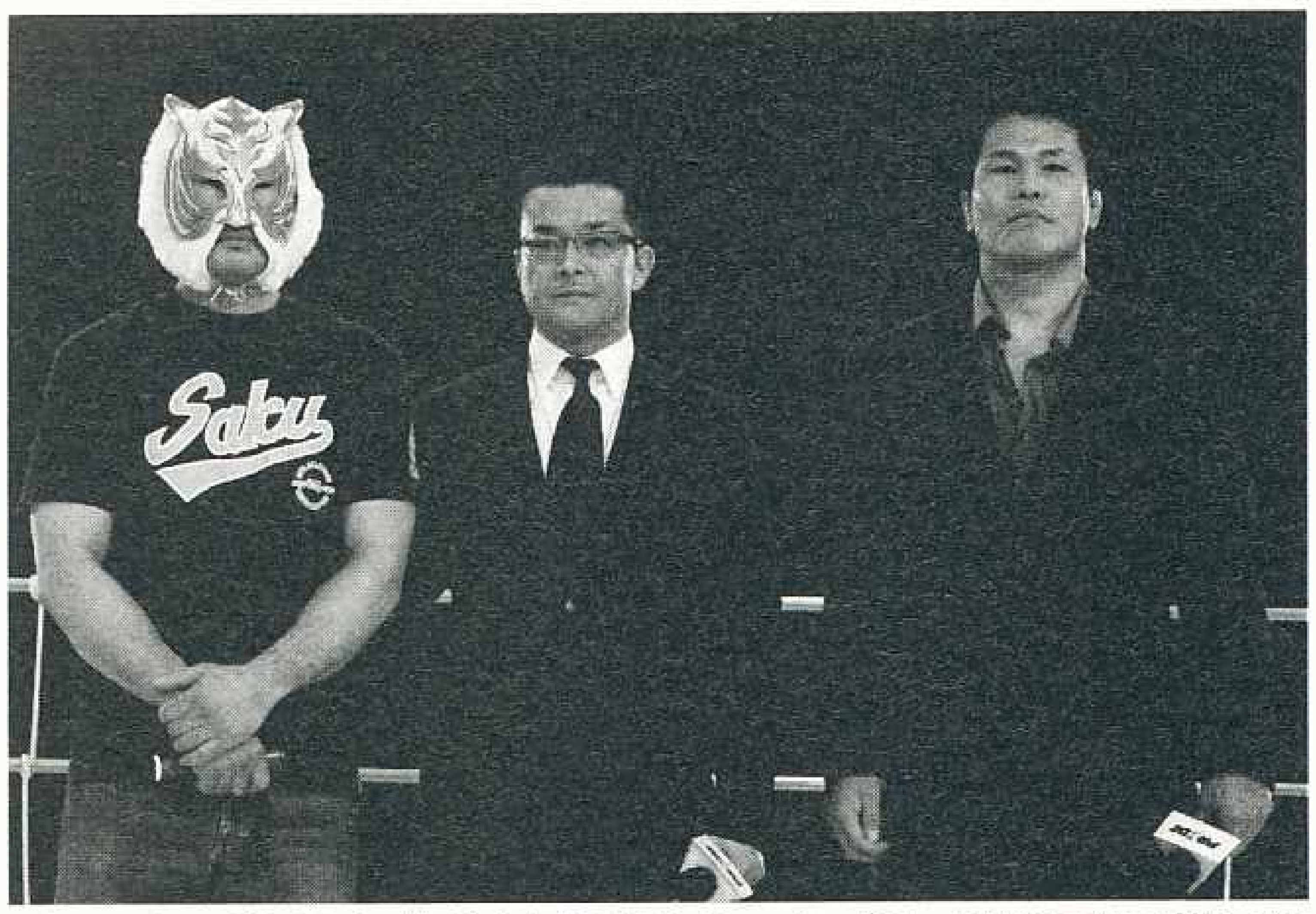
『PRIDE・34』を観て妄想三昧

榊原DSE体制最後の興行となった『PRIDE・34』。UFCのオーナーが『PRIDE』を買収し、榊原社長が辞任するということは確からしいが、『PRIDE』がこれから、どういうかたちで存続し、誰が出場していくのかはっきりせぬまま、しんみりとした各選手のマイクアピールを、どう捉えていいかわからず、どこか取り残された気持ちで観ていた（PPVでね）。

すると『スピード2』のテーマに乗って、サクが登場。スーパー・タイガー・桜庭バージョン（↑ほしい！　スーパー・タイガーはタイガーマスク収集家には最高のアイテム！）を被った下の顔は、入場時から大粒涙ぼろぼろの泣き顔。続いて田村も入場。あの田村まで泣いている。最後はリングで榊原社長と並んで、中年男涙の3ショット！　そして榊原社長は、桜庭vs田村戦を涙のリクエスト、最後のリクエスト。さらにこっちは取り残されて、なぜの嵐。

状況はよく呑み込めぬが、格闘技界の歴史的場面を目撃したであろうことは確信。そして、『PRIDE』の置かれている状況、行き先は見えてこぬが、思ったことは、『PRIDE』とは所詮、所詮という言い方は問題あるな。要するにUWFだったんだな、ということであった。UWFを通った人の夢の力（POWEROFDREAM）で突き動かされていた亡霊船だったんだなということだ。もちろん、筆者もその亡霊の一人だ。と、なれば『PRIDE』の現体制が消滅するのは、当然の成り行きだったのだ。

10年くらい前、本誌から原稿依頼された筆者は、初めて触れるプロレス記者ということで、昔いた編集部員の、のものもに、いま考えると愚かで赤面ものなのだが、開口一番「どーして第2次UWFは消滅したんですか？」と尋ねたのだった。質問も愚問であれば、尋ねる相手も不適当。というか、その質問に明確な回答をできる者などいるはずもない。



こちらが、もらい泣きする人が続出した中年男、涙の3ショット！　桜庭vs田村が『PRIDE』のリングで実現したら、もう20世紀は終わってもいい！　……あ、20世紀はもう終わってましたね。失礼しました！

しかし、当時の筆者、そして多くのプロレスファンも同じだったと思うが、あれほど鮮やかに成功を収めた団体が、あれほどあっけなく崩壊してしまったことが、腑に落ちなくて仕方なかったのだった。

だが、しばらくしてUFCが始まりグレイシーが登場し、本当の真剣勝負がどういうものか見えてきたとき、崩壊は必然の成り行きだと納得できたのだった。あのまま第2次UWFが存続し、隆盛を極めたら、大きなプロレス団体がもう一つできただけで、総合的な真剣勝負に対応できる選手は育たなかっただろう。桜庭も高阪も金原も近藤も美濃輪もいなかったはずだ。そう思うと、第2次UWFの崩壊も歴史の必然だったのだと納得できた。

そして、今回、『PRIDE』の体制の変化も、榊原社長が桜庭vs田村戦の実現が最後の夢であると語った姿を見て、総合格闘技のグローバル化、新スポーツが成り立つ過程において、必然的な現象だったのだと感じる。桜庭vs田村戦の実現を涙ながらに訴えても、世界の人から見たらなんだかわからないもんね。少なくとも、そういう価値観の中に、現在の総合のトップ選手を閉じこめることはもはやできない。しかし、今回のことで、榊原社長がUWFストーリーの中に、あれほど強くモチベーションを見いだしていたことを改めて知って、驚きにも似た気持ちにもなりました。

そう考えると、今回の『PRIDE』の体制の変化も、第2次UWFの崩壊も、フジテレビの撤退も、格闘技の神様の見えざる手によって、そうならざるを得ない運命だったように思える。誰も望んでそうなったわけではないし、UWFもグレイシーの出現を知って、崩壊したわけではないから、神の見えざる手なんて書くとオカルトめいて聞こえるかもしれないが、「誰が一番強いんだ」そんな素朴な疑問から始まり、それが体系化していく機運が、ずっと世界的にあったと考えれば、すべて当然の成り行きに見えてくる。

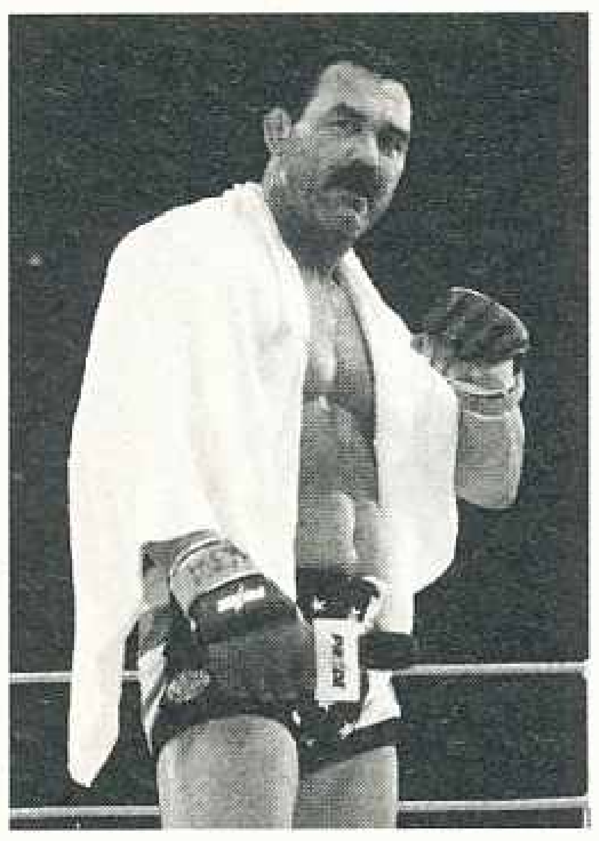
ただ、日本初、日本が主導権を握った新スポーツが世界に発信できたら、それは素晴らしかった。しかし、言葉の壁や、興行形態、放送形態を考えれば、いかんともしがたい。とくに放送形態は新たなスポーツを世界に発信するなどという、壮大な夢を支える体力や根性はからきしないだろう。言葉なんてどーにかなるだろーけど、そもそも言葉がいらない世界だし。

だけど、これは蛇足だが「日本人にはPPVのようなお金を払ってテレビを観る習慣が根づいていない」なんてフザけたことを言う輩もいるが、それは後出しジャンケンの詭弁だ。これはバーリ・トゥードが登場したときに「日本人は寝ている相手の顔面を殴るようなことは民族的に合わない」と言った人（猪木も言った、藤波も言った、ちなみに我らが山口前編集長も言った）と同じく間違っている。

何万円も払ってあの遠いさいたまスーパーアリーナに行く人が何万人といるのに、そんなわけがないじゃん。

PPVが成り立たないのは単にインフラの問題。あんな雨が降ったら受信できなくなるよーなスカパー！で、PPVが発展するわけない。我が家は南西の方角にベランダがないので、いま一つ受信力が乏しい。一度、『PRIDE』のPPVが途中で受信できなくなったので抗議の電話をかけたら「一度、商品をお渡しして、それを開封して、やっぱ返すってことには応じられない」って言われたぞ（↑殺してやる！）。それに対して筆者が言った言葉「そば屋が出前の途中で転んで、泥だらけのそばを買ってくれって言っても、無理だ！」（↑バカだよね）。結局、リピート放送を見られるようにしてもらったけど……。俺はスカパー！開局以来の10年選手だぞ！　雨が降っても184chとかのサッカーは大丈夫だから、設備が不完全なまま商品を売っていると思うぞ、あれは。テレビメディアがもう少し視聴者優先だったら、『PRIDE』も違ったかたちになったかもしれないけど……。もう、孫でもホリエモンでもいーから、インターネットでがんがん放送事業をしてほしいですよ。まあ、よくわからず、俺がこんなこと言ってもしょーがないですが。ごめんなさい。

私怨を語り出してしまったので、冒頭に話を戻しますが、なぜ桜庭はあんなに泣いていたのだろう？　申し訳ない気持ちがあったのだろうか？　なら、なぜ『PRIDE』を離れなければならなかったのだろう？　UWFにまたなぜの嵐だ。日本から世界発信のスポーツを作り出すのは不可能だったと書いてきたが、日本人にしかわからない、人間ドラマを観られたことは幸福だったと確実に言える。今日も妄想で眠れない。



ロード・ウォリアーズTシャツにリベラのジャンパーをはおってご機嫌に入場してきたドン・フライ男塾塾長。試合はもちろん、コスチュームもカッコよすぎ！

イナズマKの ハードコアドージョー Special

"ハードコア界の所英男"は、元・暴走族のヤンキー・レスラー!!



みやもと・ゆうこう■1982年5月25日。広島県廿日市市出身。2003年8月2日vs藤田峰雄戦でデビュー。当時はWMF所属、そのあと666に所属。特攻服を身にまとう"ヤンキーキャラ"として、大日本プロレスなどさまざまな団体に参戦。175cm、80kg。

"宮本裕向"といっても「誰?」ってプロレスファンも少なくないだろう。正直、自分も半年前まではそうでした。広島出身の24歳。高校中退の暴走族あがり。WMFでデビューし、現在はザ・クレイジーSKB社長率いる、暗黒プロレス組織"666"の所属。いまも建設現場、いわゆる鳶の仕事との二足のわらじを履く、キャリア3年半のどインディーな若手選手だ。

その彼がデスマッチ歴わずか半年で、大日本プロレスの"看板"である佐々木貴の持つデスマッチヘビー級に挑戦! 誰をもうならす壮絶な試合をやってしまったんです! さらに掣圏道の総合格闘技トーナメントでの優勝経験もあったりと何気に凄いこの男。まさにハードコア界の所英男"(!?) とでもいうべき才能を持つ宮本に直撃だ!

——まず、3月の大日本プロレスの「廣島大治組プレゼンツ、高所作業につき立体足場建築現場デスマッチヘビー級選手権試合~one night carnival~デスマッチヘビー級選手権試合」という長~いタイトルがついたあの試合は最高でした! コーナーに設置された4メートルの足場はかなり高かったし、お仕事で高さに慣れてるとはいえ、怖さもあったのでは?

宮本 もっと高い現場もあるけど、飛ぶことはないですから(笑)。でも俺は飛び技が得意なんで、「捨て身でやってやろう!」と思ったし、お客さんの声に後押しされましたね。

——足場からフットスタンプもやったし、"高飛び込み"みたいなムーンサルトプレスは着地したときに身体がバウンドしましたし(笑)。

宮本 ちょっと回転しすぎちゃいましたね。でもあれは事前に練習なんかできないですから。

——飛び込み台といえば、自分も豊島園のプールでムーンサルトをやってましたね。

宮本 僕もやってましたよ! 飛び込み台の一番高いとこからファイヤーバード・スプラッシュの練習をしたんですけど……2回転と4分の1回で顔面から落ちたら、目が飛び出そうになって(笑)。それから家でウンウンうなって、1週間何もできませんでした。

——ハハハハ! でも後楽園の照明くらいの高さから飛べちゃう度胸は凄いですよ!

宮本 よく見たら、バルコニーの高さと変わらないんです。だから試合しながら「バルコニーからのムーンサルトも夢じゃないな」と。

——試合中にそんなことを(笑)。ぜひ、松永(光弘)さんから始まるバルコニー伝説に新たな1ページを刻んでほしいです! あと、あの高さから佐々木に抱え上げられて、脳天から机の上に叩き刺され(Dガイスト)ましたよね。

宮本 昔、車に後から追突されたことを思い出しましたけど、それよりも凄い衝撃でしたね。

——ムチ打ち以上! あと地上4メートルの足場を試合直前にあっという間に組み上げた宮本さんのお仲間もいい仕事っぷりでした。

宮本 あれはジワジワ盛り上げようとした、演出的な狙いだったんです。ヤツらはずっと付き合いある地元の仲間で、あの資材を広島から12時間もかけて運んでくれたんです。

——宮本さんのヤンキー・キャラって、ストーリーがリアルなのがしびれますよ。族時代の役職は"特攻隊長"だったそうですが、やっぱり自分の腕っぷしには自信がありました?

宮本 ケンカはやってましたねぇ。小学校から毎日やってましたよ。放課後にスキーのグローブ着けて殴り合ったり。

——小学生からファイト・クラブ状態! あとテレビでも話題になった広島の"えびす講祭り"ではチームと機動隊の乱闘の中に加わっていたとか?

宮本 ええ。しかも先頭にね(笑)。あのときは派手にやりすぎて捕まっちゃったんですよ。普通はチーム同士が威嚇しあうんですけど、あの日は祭りに機動隊が来たことで、チームが結束して、対機動隊になっちゃった。……でも機動隊って強いですよ! 俺が蹴りをかましても、その瞬間にアルミの盾をサッと上げて盾の先で足のスネを攻撃される。タックルすれば、どんどん中に引っぱり込まれて、最後は奥で待ちかまえてる私服警官にボコられるんですもん。

——ダハハハ! ちなみにケンカでプロレス技を使ったことは?

宮本 ありますねぇ。パワーボムとかね(笑)。それを実際にやったのがコンクリートの上だったから、さすがに止められましたけど。

——それは危ない! WWEの「Don't Try This at Home」じゃないけど、よい子はマネしちゃいけないですね。それから、昨年9月にはリアルジャパンプロレスで行なわれた、総合格闘技の『掣圏真陰流トーナメント』で優勝されてますよね。

宮本 ええ。ガチンコってどんなものか一度やってみたくて。で、自分で勝手に試練というか。あえて何も準備せずに「舐めてかかろう!」と思って挑んだんですよ。何も総合の練習をしないヤツがどこまでいけるのかな? って。

——その結果、ストリートファイトとプロレスだけで優勝! と。じゃあ、総合の道も考えたりします?

宮本 いや~。それは全然ないですね。ギャラがよかったのは嬉しかったけど(笑)。僕はプロレスのほうがおもしろいですよ。

——じゃあ今後もプロレスやデスマッチをガンガンやっていくと?

宮本 ええ、デスマッチのベルトも巻きたいし、プロレスもまだまだ知らないことが多いですから。

——最後に宮本さんは、入場テーマとして氣志團の代表曲『ONE NIGHT CARNIVAL』を使ってますよね。

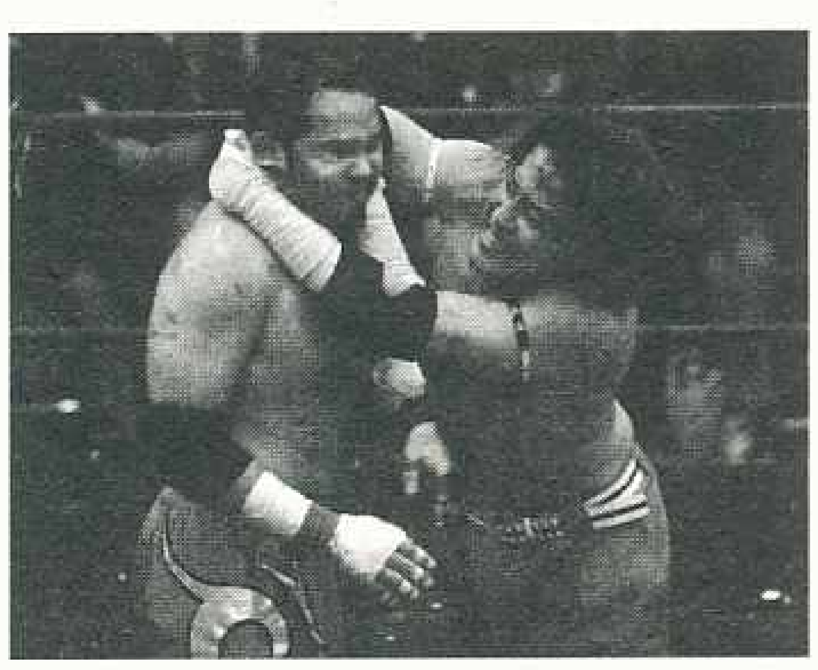
宮本 自分のキャラを考えるとアレがピッタリなんで。まぁ僕もいつかは氣志團の皆さんを会場に呼べるくらいビッグになりたいです。

——とおっしゃるかと思って、じつは先日、取材で会った氣志團の翔やん(綾小路翔)に、僕から宮本さんの試合のDVDを一足先に渡しておきましたよ!

宮本 そうなんですか! じゃあ、僕の名前を知っていただけたんですかね!?(と興奮して)。

——頭の片隅にはメモリーされたでしょうね。

宮本 うぉ~! 何かあったら電話一つで飛んでいきます!! (笑)



見てみぃ! この面構え! 広島で鍛え抜かれた無謀な特攻隊スタイルで大日本の火薬庫となっている宮本。鳶の仕事場でも「プロレスラー」としての認知度がアップ中とか。

掟ポルシェの萌え萌え女々苑



イラスト◎ゴローちゃん

プロレスとハロプロが3度のメシ（＆プロテイン）より大好きな俺が、ハロプロショップと後楽園ホールの往復で土日が終わっていく読者貴兄に贈るヲタヲタしさ満点の悲しい連載『萌え萌え女々苑』。今回のゲストはハロプロヲタのアイドルとして知る人ぞ知る浦えりか！いつの間にかプロレスデビューしていたことに気づき緊急取材です！

掟 俺、ベリーズ工房の握手会のときに浦さんにも握手してもらったことありますよ！

浦 私がベリーズ工房のコスプレしてたときですよね、よみうりランドで。

掟 そうです！で、今回編集から「浦えりかさんでいきましょうか」って言われて驚きましたよ。プロレスやってたとは知りませんでした。俺、ここんとこプロレスには疎くてですね……アイスリボンが、いまどうなってるか気になる程度で。

浦 ウチの友だち、毎週行ってますよ。りほたんのために行ってますから。

掟 あ、小学生の？

浦 「髪切った」ってヘコんでましたから（笑）。

掟 小学生がイメージチェンジしてヘコむ大人が友だちですか。菅谷梨沙子の眉毛がトリミングされて落ち込む俺と同じだなぁ……。で、いつからプロレス好きに？

浦 2年前からハマッたんです。知り合いの人がDDTの人と仲良くて、何回も誘われてたんですけど、ずっと断ってたんですよ。深夜だから全然テレビでも観たことなくて。ただ怖いっていうイメージがあって。

掟 たまたま観たのが永田さんが白目剥いてるところだったら確かに怖いかもです。

浦 そしたら舞台でレスラーさんと共演して、それがきっかけでなぜか一日プロレス入門をDVDの撮影でやって。で、その日の夜に観たら「あれ、おもしろいじゃん」ってなって。そこからガーッとハマッて『週刊プロレス』、『週刊ゴング』、毎週全部買って、端から端まで読んで、もうオタクのあれですよね、わかんないことは全部覚えるっていう。

掟 そのへん、ハロプロヲタの習性が活かされた、と。それから会場まで行くようにもなって。

浦 全日本も両国で初めて観たんです。でもそのときは全然わかんなくて。まず外人が全部同じに見えて「ケアって何？ケアって偉いの？」みたいな。

掟 ケラ（元・有頂天）なら、いまけっこう偉いと思います。しかし知識詰め込み型ですね。

浦 いま、過去のプロレスの知識を詰め込もうと思って。

掟 ガス灯時代のプロレスからさかのぼって。流智美先生の指導で。

浦 いや、力道山ぐらいから（笑）。『プロレススーパースター列伝』はほぼ揃えました。

掟 バイブルですからね。ちなみにあそこに書いてあることは全部本当です！

浦 でも観てるものがおかしいってみんなに言われるんですよ。いきなりリアルジャパン行ったり、ドッグレッグス観たり。

掟 プロレス好きになった途端に身障者プロレスですか！『週プロ』にも情報が載ってない世界から攻めていくのもヲタですね。



第18回 浦えりか（ファインモーション）の巻

うら・えりか■1986年6月2日、神奈川県出身。グラビアアイドル、女優、歌手として多方面で活躍。昨年8月に『レッスル・エキスポ』でプロレスデビュー。その後も橋本友彦自主興行に何度か参戦。海川ひとみと並びグラドルレスラーとして奮闘中。趣味は読書、パソコン、イラスト、作詞。特技は琴（生田流）、和太鼓。163cm、B85、W57、H87。あんな話からこんな話まで!?　本音満載ブログ「浦えりかの裏えりか」アドレスはhttp://yaplog.jp/erika_ura/

で、プロレスデビュー（06・8・20『レッスル・エキスポ』）もして。

浦 でも本格的にプロレスラーにはならないですよ。

掟 いま、プロレスの世界はスター不在ですから、ぜひやってほしいですよ。

浦 いやいや、私はいま『ハッスル』の海川ひとみちゃんに敵対心を剥き出しにしてるぐらいで（笑）。

掟 なんでですか!?（笑）。

浦 勝手に一人で言ってて、でもあっちは私のこと知らないっていう。ファンの人から、『ハッスル』に海川ちゃんが出るときに「どうなの？」って言われて「いや、べつにいいんじゃないですか、私はWWEを目指すんで」って言ったんですけど。

掟 大きく出ましたねえ、さっきまでアイスリボンの話してた人が言うことじゃないですよ！

浦 でも好きなんですよ、WWEも。

掟 好きなのは自由です！

浦 ネタで言ったほうがおもしろいかなって。そういえば私、コラムで書いたことあるんですけど、海川ひとみちゃんがデビューしたとき、私はそれでプロレス好きが増えるのは嬉しいし、でも本人がやらされてるんだったらかわいそうだなって。

掟 海川ひとみはやらされてるだけだ、と。挑発してますね（笑）。

浦 いやいや、でもホントにそれでプロレスにハマッてくれたら嬉しいんですよ、私は。

掟 あ、やらされてること自体は否定しないんだ（笑）。これは『ハッスル』で対戦したいっていう表明ですかね。

浦 そこで決まればおいしいですよね（笑）。

掟 後楽園ホールのリングに立てますよ！「広すぎるなあ」って思いながら。

浦 やっぱり私は板橋グリーンホールが落ち着くなって（笑）。

掟 300人ぐらいの会場が限界ですか（笑）。

浦 いや、100人ぐらいです！

掟 ネタとはいえさっきまでWWEの話してたのに……。プロレスの練習は、体力的に大丈夫ですか？

浦 NEOの道場で練習をしたんですけど、私、過呼吸持ちで、ロープワークして過呼吸起こしちゃって。「よかったね、プロにならなくて」って言われました。だから最初はロープワークできなかったんです。いまは少しは体力ついてできるんですけど。

掟 過呼吸大変だっていいますからね。ところで、最近ハロプロのほうはどうですか？

浦 この頃、私「ハロプロレスヲタ」って言ってるんです。ハロプロの人がプロレスやったらって妄想すると燃えますよね。私、ハロプロに早くプロレス団体やってほしいんですよ。絶対盛り上がると思うんですよね。

掟 フットサルやってますから、さすがにこれ以上、身体壊すのはね。吉澤（ひとみ）なんかもう膝ガタガタで、これ以上動けなくなったら武藤敬司みたいになりますよ。

浦 そしたら武藤キャラしかないですよ！ストーリーとかもどんどん思いつくんですよ、裏切りとか。

掟 「桃子が梨沙子を裏切って雅ちゃんに寝返った！」とか？

浦 そうなんですよ！試合はあんまりなくていいんで、ストーリーだけを観たいじゃないですか。そしたら昔の『ASAYAN』時代っぽくなると思うんですよね！

掟 「モーニング娘。とはプロレスである！」という気の狂ったことを言って『紙プロ』の表紙を娘。にするよう山口日昇に陳情してた、かつての俺たちっぽいなぁ……。



現在、竹書房から絶賛発売中のイメージDVD『胸キュンワルキューレ』では、えりかちゃんのセクシーポーズはもちろん、某女子レスラーとの特別試合も収録されてるぞ。もう買うしかないって！

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）
■5・15（火）、新宿ロフトでロマンポルシェ。ライブ！共演はGOATBED、そしてPerfume!!　チケット前売りでソールドアウトしてる可能性大なので、そうなったらヤフオクでなんとかして！（問）新宿ロフト（TEL.03-5272-0382）その他の出演情報＆詳細は掟ブログを参照！
【http://blog.excite.co.jp/porsche】

ファイター関係者がこだわりの選出！

“俺だけの”なんでもランキング

第4回

デンジャラスK・川田利明

『俺のよく歌う、カラオケベスト5』

俺だけの、俺だけによる、俺だけのためのランキング……このコーナーはジャンルにとらわれない、“俺流のこだわり”をファイターや関係者にうかがって、独自のベスト5を選出！　第4回目のゲストは“モンスターK”として、『ハッスル』でコブクロを熱唱！　テレビでも自慢のノドを披露して話題の川田利明が登場！　十八番のカラオケソングを発表！

今日はチャンピオン・カーニバルの話？……なわけないよなぁ。『kamipro』だもん（笑）。俺の好きなカラオケベスト5でしょ。このあいだも“モンスターK”が『ハッスル・ハウス』のオープニングでコブクロの『桜』を歌ったけど……好きな歌は選ぶのが難しいなぁ。じゃあ、カラオケでよく歌っているベスト5でお願いしますよ。

まず、1位からいこうか。これは全日本プロレスの若手の頃、天龍同盟時代に天龍（源一郎）さんによ～く歌わせられていた曲なんだけど、山本譲二さんの代表曲『みちのくひとり旅』ね。全日本のシリーズ巡業で地方に行くと、若手はプロモーターの接待の席で必ず歌わされるんだけど、昔はどこでも年配の方ばっかりだったから、新しい曲を歌ったってわかりゃしないじゃない？　だから天龍さんから、「演歌を歌え！　演歌！」って強制されるんだよ。

ちなみに、天龍さんは『釜ヶ崎人情』っていう、めちゃくちゃシブイ演歌をいつも歌ってたけどね。

ただ、『みちのくひとり旅』はムリヤリ歌わされてただけじゃなくて、俺がカナダに海外遠征に行ったときもよく口ずさんでた思い出の歌なんだよね……（しみじみと）。

カナダは完全な車社会なんだけど、俺は車がなくってさ。仕方ないから、いつも歩いて片道1時間くらいのジムに歩いて通ってたんだけど。帰りは夜になっちゃうし、歩いてるヤツなんて誰もいないから、心細いじゃない？　自分を勇気づけるために「ここで一緒に～♪」なんて大声で歌いながらよく歩いてたもんだよ。人生の中で歌った回数ではこれがトップなのは間違いないね。

2位は渡辺徹さんの『約束』かな。これも何度もカラオケで歌ってるし、なんたって誰でも歌いやすい曲だからさ。この歌もプロモーターの前でよく歌ってたけど、いつのまにか後輩の小川（良成）の持ち歌にされちゃったんだよ！（笑）。

3位は、わりと最近の歌だけど、中西保志の『最後の雨』。じつはテレビ朝日の歌番組（『朝まで宴会歌合戦2005』）でも、この曲を歌ったの。ああいう番組は最新の流行り歌じゃないと、番組で大きく取り上げてくれないみたいだから、初めてコブクロの『桜』を歌おうかと思ったんだよ。でも、収録日までに覚えきれなくて、結局この『最後の雨』を歌ったんだ。にしきのあきらさんとかキダ・タローさんが審査員だったけど、意外に好評でホッとしたよね。

俺はたまに、カラオケボックスで、あえてマイクを使わないで歌ったりするんだけど、そうやって歌うのが4位の、久保田利伸の『ミッシング』と、5位の尾崎豊の『アイ・ラブ・ユー』。だね。まぁ、俺の場合はマイクを使わなくても声が大きすぎるから、それでも「うるさい！」って注意されるんだけど（笑）。

2曲とも途中で声が裏返る、“裏声”の部分があって、そこがどうしても、声が出ないんだよ！　きれいに出てた時期もあったけど、試合中にノドが潰されて以降は、どうしても高音が出ないんだよ（悔しそうに）。

バラード系が多いって？　いやいや、いまバラードじゃない曲はもの凄いキーが高いんだから！（と力説して）。

B'zなんて普通だったらキーが高すぎて絶対に歌えないよ？　そもそもカラオケボックスっていうのは普通の人がノドを壊さないように、最初から音程のキーが下がってるもんだからさ。でも原曲はそれよりも4段階くらい高いし、そんな歌ばっかり歌ってたら、ノドにポリープできちゃうよ！

そういえば、全日本の超世代軍の時代には、日本テレビのスポーツ選手と女子アナの歌番組で、SMAPの『シェイク』を歌ったこともあるんだよ。メンバーは俺と三沢（光晴）さんと小橋（健太）。SMAPなのになぜか3人だけだったんだけど（笑）。これは、コーチについて踊りと歌を、たった二日間で覚えなきゃいけなかったから、ホントに大変だったよ！　誰のパートだったかって？　無我夢中でやってたから気づかなかったけど、俺はキムタク（木村拓哉）のパートだったから、俺がリードボーカル担当だったのかな？

当時、三沢さんとも飲み会の流れでしょっちゅうカラオケに行ってたけど、三沢さんは必ず、アニメソングの『新造人間キャシャーン』を歌うんだよね。それで俺が対抗して『（科学忍者隊）ガッチャマン』を歌うんだよ。三沢さんはいまCM（『リーヴ21』）でも歌ってるでしょ。……う～ん。コメントしづらいけど、あれをテレビで流すのはなかなか勇気がいるよね（笑）。

カラオケといえば、髙田（延彦）さんとの飲み会の席でのお約束はハウンドドッグ！　髙田さんは『フォルテシモ』なんかも好きだけど、一番よく歌うのは『オンリーラブ』だね。あれが大のお気に入りで、あの曲がかかると髙田さんが一番を歌って、俺が二番を歌うことになってるの（笑）。ハウンドドッグって、大友康平さんの「ウォウ～ウォウ～！」という歌い方が特徴的なんだけど、髙田さんはちゃんと歌い方を完コピして、歌いあげるんだから凄いよね。

カラオケで一番、注意している部分？けっしてシラフで歌わないことじゃない？　シラフじゃあとても歌えないって！　人前で歌を歌うのは、俺にとってなによりも緊張することなんだから。

だから、このあいだの『ハッスル・ハウス』での“モンスターK”もかなり緊張してたみたいだけど（笑）。それに、後楽園ホールって、もともと歌を歌う会場じゃないんだから、自分の声の“返り”や伴奏もほとんど聞こえないし、かなり歌いづらくて困ったみたいだよ。ただ、あれをやっちゃったら、もうこの先に怖いものもないよね。

最後に、俺とっての歌について。本当の歌い手の人には申しわけないけど、お酒を飲むときの一つのストレス発散の手段かな。CDデビューの話は一度も来ていないけど。プロレス界ってなぜか音痴な人ほど、CDやレコードを出したがる傾向もあるから。俺はちょっと遠慮しておこうかな（笑）。

1



『みちのくひとり旅』
山本譲二（ポニーキャニオン）

2



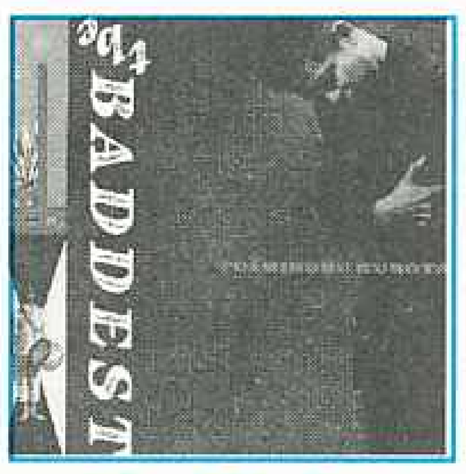
『約束』
渡辺徹（EPIC・ソニー）

3



『最後の雨』
中西保志（コロムビアミュージックエンタテインメント）

4

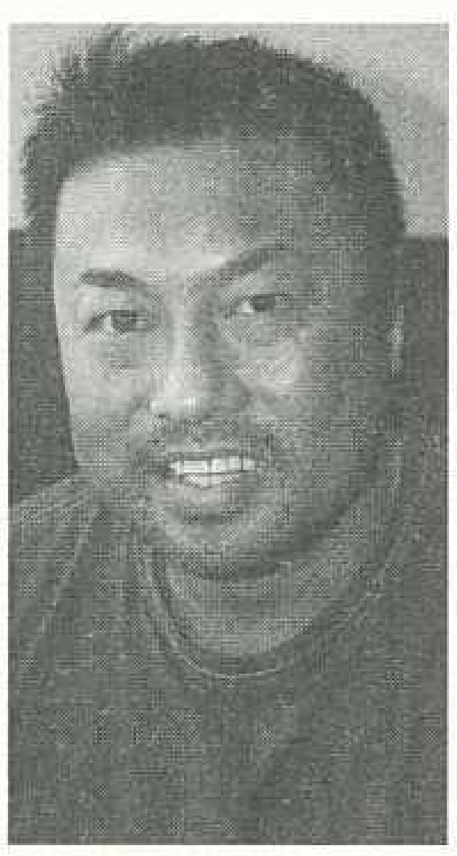


『ミッシング』
久保田利伸（CBS・ソニー）

5



『アイ・ラブ・ユー』
尾崎豊（ソニーミュージックエンタテインメント）



かわだ・としあき■1963年12月8日生まれ。栃木県下都賀郡出身。足利工業大学付属高校時代にアマレスで活躍。82年3月に全日本プロレスに入団。00年には全日本の大量離脱劇にも川田は残留して活躍。05年3月に全日を退団、現在は無所属として『ハッスル』などで活動中。


COLUMN

PRIDE×UFC選手争奪戦はまだまだ続く?

どこでつながり、どこで切れる?

混沌のMMA界 明日はどっちだ?

三日天下のMMAアライアンス?





早くも続々と各団体が連合入りを否定!
MMAアライアンスはいったいなんだったのか!?

『PRIDE』が新オーナー就任の記者会見をし、UFCとの交流戦を発表した3月27日、米国ロサンゼルスでは
FEGとエリートXCを中心とした『Dynamite!! USA』の合同会見が行なわれ、対抗陣営の連合結成が華々しく報じられた。
しかしその後、同陣営からは連合入りを否定する団体が続出。いったい、何が起こっているのか?



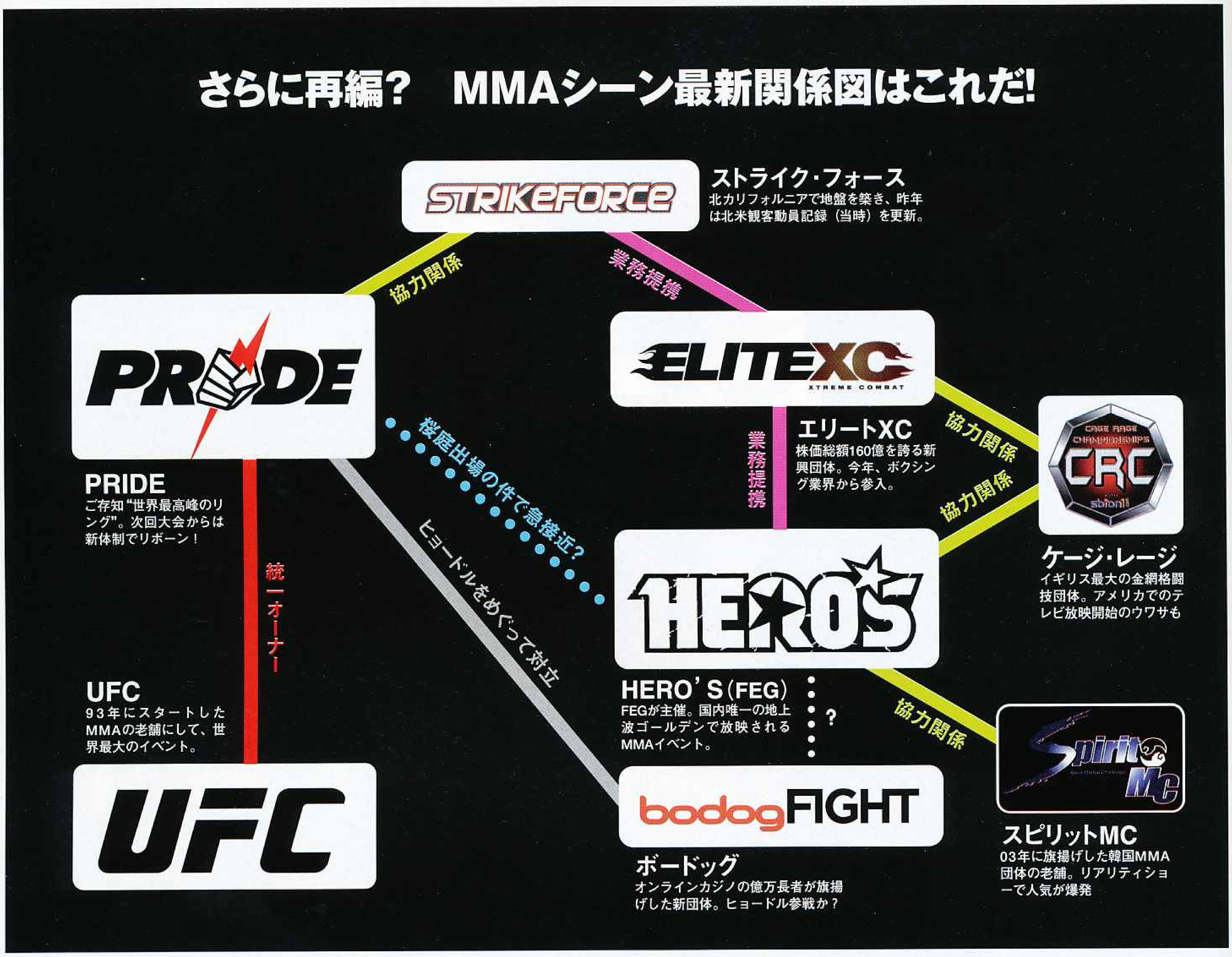
かねてからのウワサどおり、ついにMMAデビューするブロック・レスナー。その実力、そして集客力ともに未知数だ。



英国ケージ・レージのアンディ・ギア氏とデーブ・オードメル氏も渡米。同団体もアメリカでのテレビ放映を計画している。



連合の中心を担うFEG谷川代表とエリートXCのダグ・デルーカ氏。ソフトバンクという大スポンサーをゲッツ!



一枚岩ではないPRIDE&UFC同盟
FEG&エリート連合内外でもパワーゲーム

せーの！　ダイナマイッ!!　と、ばかりに急成長を遂げる米MMAシーンで、6・2『Dynamite!! USA』の開催を大々的に発表したFEG&エリートXC。その強力タッグに他のプロモーションも続々と加わり、一大連合が形成されていたかのように思われていたが……。

そもそも、この連合の存在が公にアナウンスされたのは、3月27日、ロサンゼルスのメモリアム・コロシアムで行なった『Dynamite!! USA』共同記者会見。会見では、元WWEスーパースターのブロック・レスナーのMMAデビューが大々的に発表されたわけだが、もう一つ、この会見で世界の格闘技ファン・関係者を驚かせる発表が行なわれた！　それは、K-1&エリートXCを中心に西海岸のストライク・フォース、カナダのボードッグ、イギリスのケージ・レージ、韓国のスピリットMCが連合を作り、さらにUFCにも声を掛けた上で、MMAの統一機構設置を目標に活動していくというもの。

実際、ケージ・レージのアンディ・ギア氏、スピリットMCからもワン・パク代表らが出席し、連合は豪華な船出を飾ったように見えた。

また時差こそあったものの、日本時間の同日『PRIDE』が記者会見を開催し、UFCのオーナーでもあるロレンゾ・フェティータ氏の資本傘下に入ったことを発表したこともあって、『PRIDE』&UFC同盟vsK-1&エリートXC連合の世界を舞台にした闘いが繰り広げられることが予測された。

ところが、だ。意外にも事態はそうは進まなかった。まずK-1連合側のストライク・フォースが、あくまでエリートXCと提携しているだけだと主張し、連合に名を連ねていることを否定。また、ボードッグも連合にくみしない旨のプレスリリースを発表。さらにスピリットMCも連合への不参加を表明するなど、FEG&エリートXC連合内外でのパワーゲームが見え隠れする。

また一方の『PRIDE』&UFC同盟に目をやると、こちらも一枚岩ではないようだ。統一オーナーというコミッショナーのもと"ルールある紳士的な闘い"を掲げ、選手の引き抜き合戦を停止するよう呼びかけていた『PRIDE』の要望を無視するかのように、UFCは4月8日、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラのオクタゴン参戦を発表！『PRIDE』関係者に冷や水を浴びせた。

利益が一致するビジネスについては共同戦線を張るが、実際には自陣営の中でもナイフを研ぎながら、化かし合っているようなもの。一夜でできた城は、一夜で崩れてもおかしくない！　混沌のMMA界、明日はどっちだ？　ボードッグ、ストライク・フォース、スピリットMCの"非連合軍"は本誌今号で徹底取材済み。この特集から何かが浮かび上がってくるかもしれない。



Lorenzo Fertitta

ロレンゾ・フェティータ

二大MMAメジャーを手にする“首領”とは何者か？　10周年目の決断により、『PRIDE.34』をもってDSE体制は終焉!!　5月よりPRIDE FC WORLD WIDEが運営にあたるが、新生PRIDEのオーナーに就任したのは、UFCのオーナーでもあるロレンゾ・フェティータだ。全米有数のカジノ王として知られるロレンゾ氏は、今後のMMA新世界をどう考える!?

聞き手／ジャン斉藤　撮影／吉場正和　会見撮影／平工幸雄

――3・27 昨日の六本木ヒルズの記者会

ンシャル状況、つまりどこから収入を得

PRIDE、UFCを治めるクールなカジノ王

MMA界の首領



PRIDEの新オーナーに堂々就任!!

——3・27昨日の六本木ヒルズの記者会見で『PRIDE』のオーナーに就任することが発表されましたが、ロレンゾ代表について、日本のファンが知っていることはごくわずかです。ですので、いろいろとおうかがいさせてください。

ロレンゾ (クールに) OK。では、私の生い立ちから話そうか。私はラスベガスで生まれ育ち、サンディエゴの大学に通ったあと、ニューヨークで金融学の修士号を習得したんだ。

——金融学ですか?

ロレンゾ そうだ。私のファミリービジネスはカジノ経営だったからね。だから金融を学ぶのは当然だろう。

——聞くところによると、3代にわたってカジノを手がけているそうで。現在は『ステーションカジノ』というグループをお兄さんのフランク氏と経営されているとか。

ロレンゾ イエス。その『ステーションカジノ』をラスベガスでもっとも大きいカジノグループの一つにまで成長させたんだ。

——当然、年商は相当なんでしょうね。

ロレンゾ そうだな。ざっと13億ドル(1500億円!)くらいあるだろう。

——見当もつきません(笑)。ちなみにお歳のほうは……。

ロレンゾ 36歳だ。

——……本誌・松澤チョロ記者の一つ上ですね。

笹原広報 ……ちなみに私の3つ下になります!

——はあ(笑)。そのカジノの経営者になるためには厳しい審査を通らないといけないと聞いてるんです。

ロレンゾ それは本当に長い長いプロセスを経ないと取得できないものなんだ。具体的に言うと、私個人の経歴や、ファイナンシャル状況、つまりどこから収入を得て、どんな支出があるのかなどを事細かに調査される。この特権を持つにふさわしかどうか? ということ。クリーンな人間であるかどうか? ということもね。もちろん、犯罪歴から何からすべて調べあげる。友人や近所に聞き込みを行なったり、身辺を徹底的に洗い出された。だぶん、世界でもっとも厳しい審査じゃないかな。

——メインの事業はやはりそのカジノになるんですか?

ロレンゾ ご存知のとおり、私はUFCや『PRIDE』のオーナーであり、ビール会社なども経営しているが、カジノが中心だね。公開されている情報を挙げると、私と兄のフランクはいま、株式の大半を持っている『ステーションカジノ』の残りの株式を買い取ろうとしている。『ステーションカジノ』は証券取引所で売買されているパブリックな会社だけど、私たちは残りの株式を買い取って、プライベート企業にしようとしているんだ。それにかかるコストは、90億ドルくらいになるかな。

——90億ドル? ……え〜っと、ざっと計算すると、1兆800億円! 小国の国家予算並みですねえ。

ロレンゾ (眉一つ動かさず) そのプロジェクトはいま、まさに行なっている最中なんだよ。

——だったら、『PRIDE』を手に入れることなんて、さして難しいことではなかったんじゃないですか?

ロレンゾ いやいや、この世界はそんな簡単なもんじゃないことは、あなたたちもわかっているだろう。お金だけで解決できる問題はたかが知れているんだ。いかにこのジャンルに愛着を持って接するかが問われてくる。ただ、あなたの質問に我々が答え

るとすれば、『PRIDE』をより大きくするだけの資金はあるということだね。

——カジノでいうと、いまボードッグというオンライン・カジノ会社がいろいろと影響力を伸ばしていますが、どういった印象をお持ちですか？

ロレンゾ　あまりいい印象はないね（淡々と）。なぜなら、オンライン・カジノでアメリカ人から収入を得る行為は連邦法で禁止されている。つまり彼らはいわば、一年365日間中、法を犯しているわけだからね。ただ、ボードッグの代表のカルビン・エアーはそんな法律などおかまいなしのようだ。でも、彼は二度とアメリカの土は踏めないよ。

——彼らがMMAに進出しようとしていることについても、いい印象は持ってないわけですか？

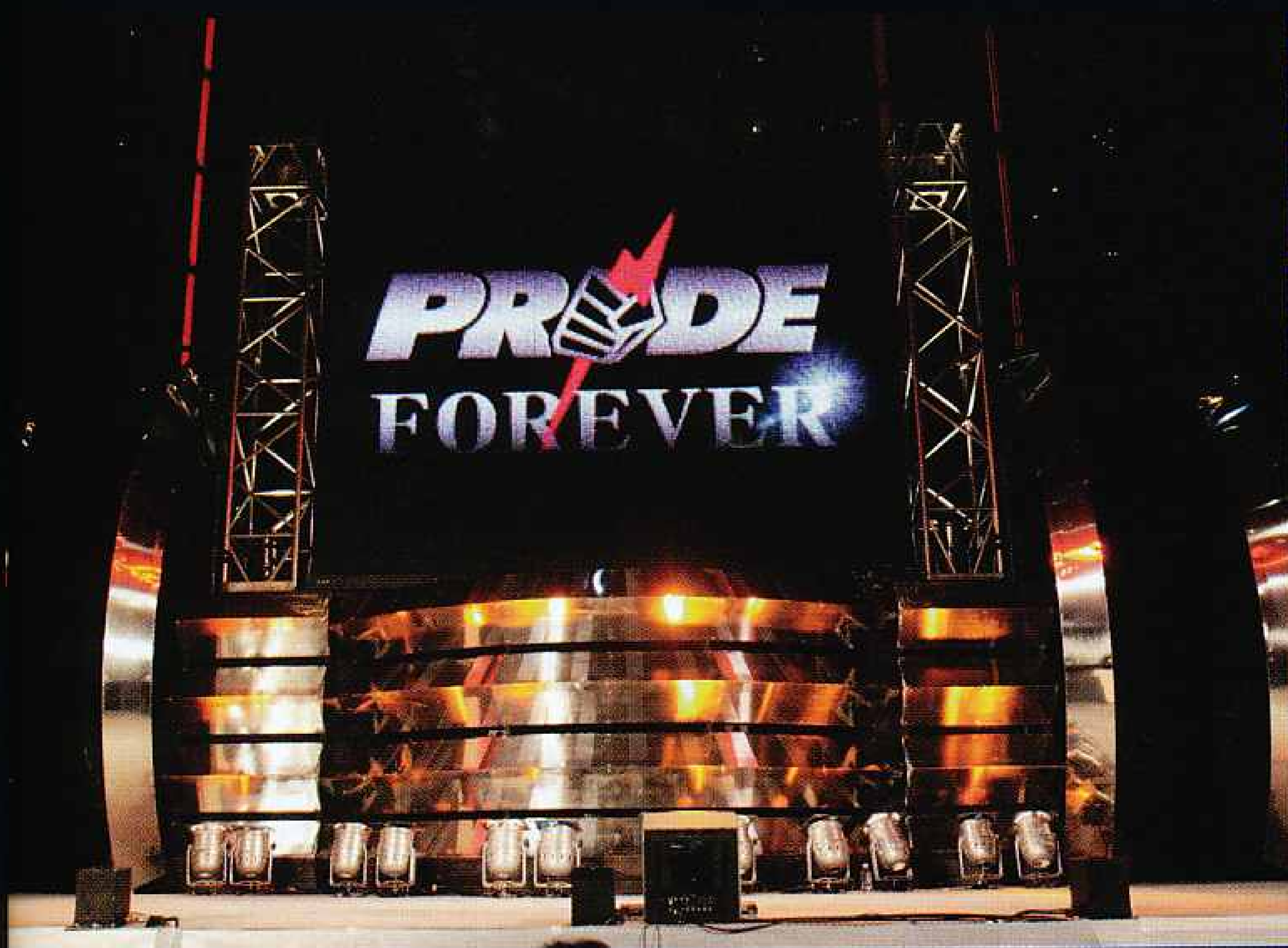
ロレンゾ　そうだ。彼らには、このシーンをもっとよくしようという気持ちがまったく見えないんだ。カルビンがもっと露出しようとするための道具にしか見えない。私たちがこのスポーツにとって、何が正しいのかということを考えてやっているのに比べてね。

——そのボードッグにPRIDEヘビー級王者のエメリヤーエンコ・ヒョードルが出場するという話もありますけど。

ロレンゾ　私にはまったく理解できないな。彼がなぜわざわざレベルの低い舞台に上がろうとするのか。それはいわば、メジャーリーグの選手がマイナーリーグに行くようなものだから。

——なるほど。野球にたとえると、松坂大輔が欽ちゃん球団に入団するようなもんですかね（笑）。

ロレンゾ　（クールに）あなたの言っていることはよく理解できないが、ヒョードルが





非常にクールなロレンゾ氏。今後のPRIDEの運営には積極的には関与しないと思われるが、これまでのマット界には存在しなかったタイプのリーダーだ。

桜庭vsホイス・グレイシー戦を観て私はPRIDEのファンになった

『PRIDE』から離れることは絶対にないだろう。ファンには安心するように強く言いたいね。

——わかりました。で、またそのボードッグの質問なんですが、エリートXC、ストライク・フォース、ケージ・レージ、そしてK—1と手を組んで連合を結成したわけですけども（3月28日取材時点情報。のちにボードッグは連合入りを否定）。『PRIDE』とUFCにとって、その動きは脅威でしょうか？

ロレンゾ　べつに。

——そうですか。感じることもないと？

ロレンゾ　まず言いたいのは、私はK—1というプロモーションはリスペクトしているということだ。ただ、いまほかに名前の挙がった団体については、連合を結成しようが何をしようが、なんの意味もないんじゃないかな。

——そういえば、ダナ・ホワイトUFC代表も「本当に腰を抜かした！　世界中のマヌケが集まったんだからな！」って吠えてましたね。

ロレンゾ　（やっぱり眉一つ動かさず）彼らはまだ何も成し遂げていないわけだからね。『PRIDE』とUFCのコンビネーションから見れば、彼らは同じ土俵にすら上がってないよ。私たちは、ベストファイターたちを抱えているし、そのファイターたちによって最高のマッチメイクを組むことができる。彼らエリートXCやボードッグの連中が束になってかかってきてもかなう相手じゃないことはわかるだろう。

——ところで、代表は『PRIDE』のファンでもあると常々言われてますよね。お気に入りのファイターを挙げるとすると、誰になりますか？

ロレンゾ　（即座に）タカノリ・ゴミ（五味隆典）だね。彼は恐れることを知らず、常に前へ前へ向かっていく。まさしくウォリアーだよ。私はUFCのファイターたちにも、「ゴミのようなファイターになれ！」といつも言っていたんだ。それから、同じ理由でヴァンダレイ・シウバも好きだ。彼の勝っても負けても、試合に向かっていく姿勢は素晴らしいよ。あと、つけ加えるなら、ハヤト・サクライ（桜井〝マッハ〟速人）。彼のヨアキム・ハンセンとの試合は印象的だった。

——現在は『PRIDE』のリングから離れていますが、桜庭和志の大ファンともうかがってます。

ロレンゾ　（この日一番の興奮した表情で）彼は私のオールタイム・ベストファイターなんだ！　なんといってもサクラバのホイス・グレイシー戦を観て私は『PRIDE』のファンになった。そしてUFCをS.E.Gから買い取ったわけだからね。

——そもそも、桜庭の試合を観ることになったきっかけというと？

ロレンゾ　私はUFCと関わる前に、UFCファイターだったジョン・ルイスと柔術のトレーニングをしていたんだ。で、彼を通じてティト・オーティズやチャック・リデル、フランク・シャムロックと知り合い、彼らから『PRIDE』を観るよう

今後のPRIDE？ 心配するな マイナスになることは何もない

に勧められたんだ。そこで私は彼の試合を観て驚かされた。こんなに素晴らしいファイターが日本にいるのか⁉ と。

——というか、代表は柔術を習ってたんですか（笑）。ちなみに帯は何色ですか？

ロレンゾ ……たいしたことはないよ。まだブルーベルトをくれるのを待っている状態だから（苦笑）。

——『PRIDE』には『PRIDEチャレンジ』というアマチュアの大会もありますが、そこでぜひ代表の華麗なるパスカードを観たいんですけど（笑）。

ロレンゾ いや、それは無理だよ。私の身体はそんなに若くないからね。それにじつはムエタイのトレーニングをしているときに足をケガしてしまい手術を受けた（ズボンをめくって、右ヒザを見せると、たしかに手術の傷跡が）。トレーニング中にスパーリングパートナーのヒジをおもいきり蹴ってしまったんだ。

——実際に試合をしたこともあるんですか？

ロレンゾ 試合をしたことはない。でも、アマチュアの試合に出るためにトレーニングをしていてケガをしたんだ（と、言ってさらに2ヵ所のケガを見せる）。

——本格的にやられていたんですね。そういえばロレンゾ代表は、ボクシングやMMAを管轄するアスレチック・コミッション（ネバダ州）の要職にも就かれていたそうですね。

ロレンゾ イエス。私が生まれ育ったラスベガスは、ご存知のとおり、ボクシングのメッカでもある。ボクシングファンになるのは自然のなりゆきだし、そのことを知ったネバダ州からコミッションのバイス・チエアマン（副委員長）の座を打診されたわけだ。それはどういうポジションかというと、私を含めた5人の人間が興行のすべてをコントロールするというもの。そこで私はマイク・タイソンvsイベンダー・ホリフィールド戦などの開催に携わっていたよ。

——へえ～。あの世紀の一戦にも関わっていたんですか。そういう地位にいたなら、UFCを手がけることになるのはうなずける話ですけど、一緒にビジネスをしているダナ・ホワイトとは高校時代の友人だったとか。



Lorenzo Fertitta

ロレンゾ イエス。私とダナは15歳のときにハイスクールで知り合ってからの友人だよ。彼はなんていうか……とてもやんちゃだったね（苦笑）。

——じゃあ、いまの舌峰鋭いスタイルのままなんですね。

ロレンゾ そうだな。彼はたびたびトラブルを起こして、しまいにはハイスクールから追い出されそうになったんだ。

——ハハハハ！ ちなみに代表のそういうトラブルは？

ロレンゾ 私がかい？ ノー。そんなことは一度もなかったね。

——ダナと違って、見るからに冷静沈着ですし。

ロレンゾ ただ、ダナとは本当に仲がよくて、昔からいつか一緒にビジネスをしようと話し合っていたんだ。そしてそれが実現した。彼は毎日、朝から晩まで本当によく働いてくれているよ。常にUFCをベストの団体にしようと意欲的に。彼のその姿には尊敬の念すら覚えるね。私が『PRIDE』のオーナーになったことで、彼はますます張りきるだろうね。『PRIDE』よりUFCのほうが上だということを見せつけるために。

——ところで、いまPRIDEファンがもっとも心配していることは、『PRIDE』の世界観が変わってしまうんじゃないか？ ということなんです。

ロレンゾ いや、『PRIDE』にとってプラスはあってもマイナスになることは何一つないよ。『PRIDE』の世界観を維持しなければ、『PRIDE』ではないわけだしな。

——では、名物の煽りVも変わらず？

ロレンゾ そうだ。

——オープニング・セレモニーも？

ロレンゾ そうだ。

——ついでに高田本部長のふんどし暴れ太鼓の存続もお願いします！

ロレンゾ とにかく心配するな。私は、『PRIDE』が日本のルーツを持つという、いまの『PRIDE』の価値観を残すように最大限の努力をするつもりだよ。ミスター・タカダはもちろん、ほかのすべてのスタッフにも、彼らのクリエイティブ性をこれまでと同じように発揮してほしいと思っている。

——あと、『PRIDE』のアメリカでのメディア露出は変わっていきますか？

ロレンゾ 大きく変わるね。私たちはアメリカでのマーケティングとは何か？ ということをよくわかっている。それは、私たちがUFCを建て直して成功させたことを見てもらえればわかるだろう。そして、その過程で得たナレッジマネジメントを『PRIDE』にも適応できると思うし、『PRIDE』をこれまで以上の大きなイベントにできると思っているよ。

——さしあたっての目標として、今後の『PRIDE』とUFCにどんな計画をお持ちですか？

ロレンゾ まずは階級とルールをどうするかだろうね。『PRIDE』のリングはリングのまま続けるが、UFCと『PRIDE』の王者同士を闘わせて、誰が本当に一番強いのかファンに見せることが自分の使命だと思っているから。

——わかりました。新体制の『PRIDE』、そしてライト級GPシリーズを楽しみしてます！

【07年3月28日／PRIDE道場にて収録】

UFCのドリームマッチ実現前に大予習!!

混沌のMMA界 明日はどっちだ?

選手名鑑

UFC Fighters Complete Files

いよいよ『PRIDE』とUFCの対抗戦が実現へ!? しかーし!
「WOWOWに加入してません」「海外のMMAに興味はなかったとです」と、
いまいちピンときてないファンも多いはず。
そこで、この機会にUFCファイターをまとめて紹介!

HEAVYWEIGHT 皇帝ヒョードルへの刺客は金網から現われる!?

[ヘビー級] 205～265ポンド
(約93～120キロ)



ベラルーシの怪人
アンドレイ・アルロフスキー
Andrei Arlovski

18歳からサンボを習い、たった1年で世界選手権3位になった猛者。鋭い打撃であっという間に王座奪取。UFCにも絶対王者出現かと思われたが、1年であっさり王座陥落。

元・史上最強のデクの坊王者
ティム・シルビア
Tim Sylvia

前UFCヘビー級王者。デカいというだけで長期政権を築いていたが、今年3月、現役復活したクートゥアーに敗退。右のクロスの破壊力は非常に危険。レスリング技術も高い。

PRIDE無差別級GP覇者
ミルコ・クロコップ
Mirko Cro Cop

ご存知、我らが英雄。06年、『PRIDE無差別級GP』に優勝したのち、UFCに電撃移籍。この号が出る頃には結果が出ているが、UFCイギリス大会で勝てば次期王座挑戦者に。

Champion

鉄人
ランディ・クートゥアー
Randy Couture

現UFCヘビー級王者。UFCでライトヘビー＆ヘビー級を制覇した唯一の選手。世界レベルのグレコローマンレスラーであり、パワフルな打撃にも定評あり。

リデル、ジャクソン、オーティズら強豪が集結!! LIGHT-HEAVYWEIGHT

[ライトヘビー級] 185～205ポンド
(約84～93キロ)



Champion

ミスターUFC
チャック・リデル
Chuck Liddell

アメリカMMA界を代表するストライカー。05年にクートゥアーを下してライトヘビー級王座を獲得して以来、2年以上にわたって勝ち続けている。"アイスマン"の異名を持つ。

成り上がる狂犬
クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン
Quinton Rampage Jackson

PRIDEミドル級戦線で活躍したのちに、MMAバブルに沸くアメリカに戦場を移した狂犬。次期ライトヘビー級王座挑戦者。

バッドボーイ
ティト・オーティズ
Tito Ortiz

典型的なグラウンド&パウンドの凶暴ファイター。かつてヴァンダレイ・シウバを破った過去を持つ。ガールフレンドは世界的人気ポルノ女優、ジェナ・ジェマーソン。

TUFスター
フォレスト・グリフィン
Forrest Griffin

リアリティショー『TUF』第1回優勝者であり、人気面ではトップファイターを凌ぐほどになったゴールデン・ルーキー。元警察官でもある。

闘魂の愛弟子
リョウト・マチダ
Ryoto Machida

今年UFCライト級戦線に突如殴り込んだ"アントニオ猪木最後の愛弟子"。空手をベースに総合9戦無敗の実績を誇る。

“格闘技版スーパーボウル” PRIDE vs UFC夢の

誰が誰なの？ UFCファイター選

MIDDLEWEIGHT 激シブのミドル！ 隠れた実力者が勢揃い!!

［ミドル級］170～185ポンド（約77～84キロ）



元パンクラス王者
ネイサン・マーコート
Nate Marquardt

04年、三崎和雄を破ってパンクラスミドル級王者になるも、翌年からUFCに戦場を移したためタイトルを返上。グラウンド・テクニックに優れた技巧派。

ダナのお気に入り
リッチ・フランクリン
Rich Franklin

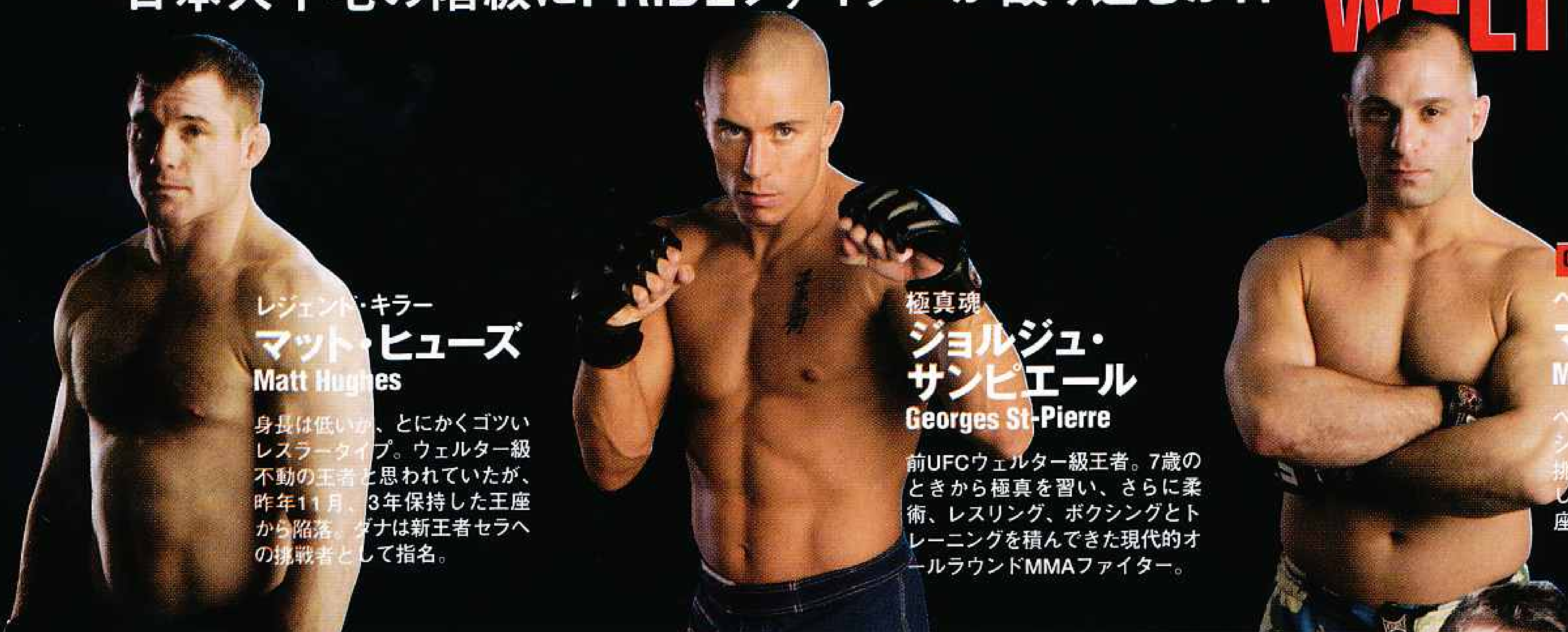
前UFCミドル級王者。もともとライトヘビー級戦線で活躍していたこともあるパワーファイター。レスリングスキルは非常に高い。元高校教師。

Champion
スパイダー
アンデウソン・シウバ
Anderson Silva

『PRIED』で負けが続き日本での評価は低かったが、UFCでは実力を発揮し、頂点に登り詰めた。シュートボクセ仕込みの鋭い打撃は見もの。

WELTERWEIGHT 日本人不毛の階級にPRIDEファイターが殴り込むか!?

［ウェルター級］155～170ポンド（約70～77キロ）



レジェンド・キラー
マット・ヒューズ
Matt Hughes

身長は低いが、とにかくゴツいレスラータイプ。ウェルター級不動の王者と思われていたが、昨年11月、3年保持した王座から陥落。ダナは新王者セラへの挑戦者として指名。

極真魂
ジョルジュ・サンピエール
Georges St-Pierre

前UFCウェルター級王者。7歳のときから極真を習い、さらに柔術、レスリング、ボクシングとトレーニングを積んできた現代的オールラウンドMMAファイター。

Champion
ヘンゾの愛弟子
マット・セラ
Matt Serra

ベテラン選手が出場した『TUFシーズン4』を勝ち抜いて、王座挑戦権を獲得。今月、誰も期待しない中、サンピエールから王座奪取した。柔術黒帯。

LIGHTWEIGHT 世界最激戦区！ ライト級GPに出るのは誰だ!?

［ライト級］140～155ポンド（約63.5～70キロ）



小さな悪魔
ジェンス・パルヴァー
Jens Pulver

ボクシング技術に優れ、徹底的な打撃で対戦相手をKOすることから“粉砕機”の異名を持つ。『PRIDE』にもたびたび参戦している。

天才
BJペン
BJ Penn

ブラジル人以外で初めて柔術黒帯を取得したファイター。03年には五味隆典にKO勝ちした過去を持つ。昨年まではウェルター級で闘っていたが、今年からはライト級に転向。

Champion
ザ・マッスル
ショーン・シャーク
Sean Sherk

UFCライト級王者。レスリング歴20年を超えるパワーファイター。ウェルター級でマット・ヒューズと鎬を削っていたが、昨年ライト級タイトル復活の際に階級を落とし、新王者に。

混沌のMMA界 明日はどっちだ?

グじゃない闘いだ!!

が、正直、　UFCには疎い編集部。ちょっと心許ないので、『PRIDE』とUFCをよく知るスペシャリストたちが、夢の対抗戦で観たいカードを列挙!!

世界のTK

髙阪剛



日本人初のレギュラーとしてUFC出場。現在は後進の育成に励んでいる。5月13日にセミナー開催。詳細はwww.ryuproj.com/a-square/

人間臭い試合ができる選手は限られてます!

チャンピオンとか肩書きとか関係なく選んだら、なんか男臭い試合ばかり選んでしまいました（笑）。まずショーン・シャークはとにかくタフ。ずっとタックルして、5ラウンド攻め続けることができるんです。UFCではテイクダウンからパウンドしても沸かないんです。それなのにシャークはその戦法でお客さんの心をつかむことができる。日本人でそれができるのは石田クンぐらいなので、先鋒戦はこの二人しかないですね。

ニック・ディアズは『PRIDE』に出たけど、自分の中ではUFCの選手ですね。パンチが真っ直ぐ伸びる、どっちかと言うと優等生タイプです。対するマッハは感覚で動いている（笑）。もちろん技術は持っているんですけど。だからニックが距離を取ってのジャブとかで崩そうとしても、マッハは気にしないだろうから、いい意味で噛み合わないというか、妙な緊張感のある試合になると思います（笑）。

サンピエールはいかにも「空手やってました」という打撃を持っていて、軸が強いというか、正面を向いたまま強いパンチを打てる選手。長南も極真で空手をやっていたんですけど、二人なら真っ向からの殴り合いが見られると思います。長南は83キロより77キロぐらいがちょうどいいでしょうね。

藤田vsシルビアは、一般の日本人が思っているデカいアメリカ人と、一般のアメリカ人が思っている体型をした日本人の対決で、15センチの身長差もあるし、わかりやすくていいんじゃないですかね。

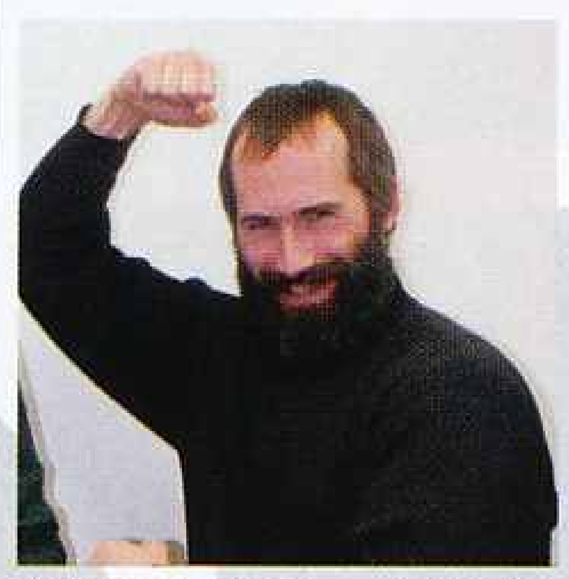
秀彦とランディはオヤジ対決です。不器用なんだけど、小さくまとまってないのがいい。もっとも本人たちは、身体を回転させてパンチを出して、ガードも上げて、カッコよく闘っているつもりなんだろうけど、全然そうなってない（笑）。秀彦は37歳でランディは42歳だけど、格闘技を初めて観た人にも熱が伝わる、スタミナ配分も関係ないガチガチの試合をしますよね。そういう人間臭い試合ができるヤツってそんなにいないんです。UFCや『PRIDE』に上がる選手はトップファイターだし、技術的にも細かいことを言いだしたらキリはないぐらいレベルは高いんですけど、最終的に残るのはハートしかないんです。対抗戦ではそういう男臭い試合を期待してますね。

髙阪剛が選ぶ観たいカード

- 石田光洋 vs ショーン・シャーク
- 桜井“マッハ”速人 vs ニック・ディアズ
- 長南亮 vs ジョルジュ・サンピエール
- 藤田和之 vs ティム・シルビア
- 吉田秀彦 vs ランディ・クートゥアー

米MMAメディアのご意見番

スコット・ピーターソン



本誌コラム『USA cool 宅急便』のナビゲーターで、米格闘技サイト『MMA WEEKLY』の主宰者。UFCからは絶賛取材拒否中

TUFファンの目を覚ませてやりたい!

ヒョードルとUFCヘビー級チャンピオンが闘えば、本当に世界で一番強いのはヒョードルだということを、最近MMAを観るようになったアメリカのファンに、ついに知らしめることになるね。『PRIDE』から来たミルコは例外だけど、本当にUFCトップファイターがヒョードルと互角に渡り合えるのかは興味深いよ。この試合で、もし『PRIDE』とUFCのタイトルが統一されるようなことになれば、このスポーツ全体の成長を考えれば素晴らしいことだね。

93キロ以下級について言うと、ヴァンダレイに変わっていまや、シュートボクセそしてPRIDEミドル級のエース格となったショーグンは〝UFCのエース〟リデルとの対決に期待したいね。エネルギー溢れるショーグンの闘い方はアメリカのファンを喜ばせるだろうし、盛り上がるよ。ただ、新体制の『PRIDE』でUFCとルールが統一され、ショーグンのゲームプランは大きく変化することになると、もったいないね。

UFCミドル級に君臨するアンデウソン・シウバは元シュートボクセだけあって、ショーグンと同じようにダイナミックな選手。PRIDEミドル&ウェルター級二冠王、ヘンダーソンのレスリングスキルとアンデウソンの跳びヒザの激突は見ものだね。二人のファイトスタイルは違うけど、ともにハードヒッターだからいい試合になることは間違いない。あとこの階級では、『TUFシーズン2』のコーチとして人気が出た、前王者リッチ・フランクリンもいる。彼はレスリングベースの試合をするから、ヘンダーソンとのレスリング対決も観てみたいね。

UFCウェルター級では、マット・ヒューズ、ジュルジュ・サンピエール、マット・セラと王者が短いあいだにたびたび変わって、幻想を抱けるような絶対的に強い選手がいない。個人的には近い将来、王者になりそうなカロ・パリジャンと、体重的には77キロ以下級のほうがベスト体重のマッハの元柔道家対決が観たいね。

ライト級で観たいのは、BJペンとアオキの試合。柔術家同士の闘いとして最高のレベルになるだろうね。とにかく『PRIDE』のナンバーワンとUFCのナンバーワンを闘わせて、『TUF』しか知らないアメリカ人の目を覚ませてやってほしいよ!

スコット・ピーターソンが選ぶ観たいカード

- エメリヤーエンコ・ヒョードル vs UFC王者
- マウリシオ・ショーグン vs チャック・リデル
- ダン・ヘンダーソン vs アンデウソン・シウバ
- 桜井“マッハ”速人 vs カロ・パリジャン
- 青木真也 vs BJペン

一番観たいのは、やっぱりヒョードルとミルコの再戦!

PRIDEファン代表
椎名基樹

やっぱり一番観たいのは、ヒョードルとミルコの再戦。とにかく、もう一回やってくれって。それからUFCのヘビー級は、いまどき40過ぎのクートゥアーがチャンピオンでしょ? クートゥアーのことは凄く尊敬してるんだけど、ヒョードルとやってキッパリと引退してほしいね（笑）。あと、ヘビー級だと、テクニシャン対決で、フランク・ミアとジョシュかノゲイラの試合が観たいね。でも、ミアは交通事故以来弱くなったから、どっちにしろミアが負けると思うけど。

いまのUFCライトヘビー級で一番強いと思うのはリデルじゃなくて、ランペイジ。マービン・イーストマン戦のアッパーなんか見ても『PRIDE』時代に比べて格段にレベルアップしてるのがわかるし。なんてったって相手が立ったまま気絶してるんだから凄いよ。あと、いまならショーグンとのリベンジマッチを組んでほしいね。あのときのランペイジはチームでのいざこざがあってかわいそうだったし。

リベンジと言えば、マッハがやられている相手がいまのUFCに二人いるんで、もう一回やってもらいたい。アンデウソン・シウバは、マッハが最初に負けた相手で「最近見ないな～」って思ってたら、いつの間にかUFCのチャンピオンになってた（笑）。もう一人はマット・ヒューズ。その試合のときマッハは腰が悪かったらしいから、もう一回チャンスをあげてほしい。でも『PRIDE』のウェルター級にあたるUFCのミドル級は、なんだかんだ言ってもパウロ・フィリオが世界で一番強いでしょう。フィリオと闘わせるなら、体重が違うけど、顔がおもしろい対決でBJペンがいいよね。〝荒井注顔〟対決というか（笑）。

あと、UFCで連勝してるけど、「岡見って誰だ?」って感じてる人が多いと思うんで、強さのモノサシとして郷野（聡寛）や菊田（早苗）とやってほしい。あの二人は岡見に対して言いたいこともあるだろうし、舌戦も期待できるし、真の実力がわかるんじゃない?

あと最後に、UFCに移籍したヒース・ヒーリングと『PRIDE』に来た中尾〝KISS〟芳広の再戦とかもやったらおもしろいよね。って、ホント、ファンみたいなことばっか言っちゃったね（笑）。



放送作家、構成作家。現在、脚本を担当した、『OH！スーパーミルクチャン』がネット放送GYAOで無料にて配信中。

椎名基樹が選ぶ観たいカード

- エメリヤーエンコ・ヒョードル vs ミルコ・クロコップ
- マウリシオ・ショーグン vs クイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソン
- 桜井〝マッハ〟速人 vs アンデウソン・シウバ or マット・ヒューズ
- 郷野聡寛 or 菊田早苗 vs 岡見勇信
- 中尾〝KISS〟芳広 vs ヒース・ヒーリング

識者、関係者が語る、いますぐ観たいカード

これが、〝ジョーク〟

「UFCと『PRIDE』以外はすべてジョーク」!! ダナ・ホワイトUFC代表の発言の正否はわからないが、正直、 UFC

ジョシュとクートゥアーに決着をつけてほしい!

kamipro編集部
堀江ガンツ

『PRIDE』側のトップバッターは、もちろんミノワマン! そしてミノワマンを出すからには、〝最強のデクの棒〟ティム・シルビアとの無差別級の試合を組むしかないでしょう。シルビアにだったら足関で勝っちゃいそうなところがミソ（笑）。オープニングから盛り上がりますよ。

次は『PRIDE』が誇るグラップラーvsUFC屈指のストライカー対決。五味vsサンピエールでもいいけど、青木のようなタイプはUFCにはいないし、スタイルが対照的でこっちのほうがおもしろいでしょ。

副将戦として、『PRIDE』とUFCの超人気者対決、ジョシュvsクートゥアー。じつは、この二人は因縁があって、ジョシュはかつてランディを破ってUFCヘビー級王者なったんだけど、試合後に薬物陽性反応が出てタイトルを剥奪されて、UFCの公式記録では無効試合になってるんだよね。ランディがヘビー級チャンピオンに返り咲いたいまこそ、真の決着をつけてほしい。

そしてメインは両団体の顔が試合をやるしかない。『PRIDE』のヘビー級の顔はヒョードルだけど、それに対抗できるのは、ミルコぐらいしかいないわけで、それだと対抗戦らしくないので、やはり〝ミスターPRIDE vsミスターUFC〟シウバvsリデルでしょう! シウバはダン・ヘンダーソンに負けたとはいえ、やっぱり『PRIDE』の象徴に変わりはない。試合そのものの興味では、ショーグンvsリデルのほうがあると思うけど、シウバのほうが絶対燃える!

あと、もう一試合ダークマッチとして、〝レジェンド・レフェリー〟対決を組もう。マッカーシーはガタイがよくて、第1回UFCのときから「じつはレフェリーが一番強いんじゃないか?」と言われていて、和田（良覚）さんばりに、〝最強伝説〟を持ってるんだよね。それに対抗するは、かつてプロレスラー、ニンジャ2号としてフロリダを震撼させた男、島田裕二しかいない! なんといっても、島田裕二はああ見えて、フロリダのマレンコ道場出身でカール・ゴッチの直接指導も受けた生粋のキャッチレスラーだからね。ジョシュどころじゃないんだよ（笑）。でも、この試合がホントに実現したら、ゴッチ幻想もキャッチ幻想も木っ端みじんに粉砕されそうだけどね（笑）。



本誌編集部所属。変態的UWF信者～リングスファンを経て、ダブルクロス入り。今年に入りミルコ出場の『UFC67』も現地で取材。

kamipro編集部が選ぶ観たいカード

- ミノワマン vs ティム・シルビア
- 青木真也 vs ジョルジュ・サンピエール
- ジョシュ・バーネット vs ランディ・クートゥアー
- ヴァンダレイ・シウバ vs チャック・リデル
- 島田裕二 vs ジョン・マッカーシー



K-1&エリートXC連合には不参加!?

K-1USA大会のプロモーターがPRIDEと協力!?
MMA世界大戦の鍵を握るイベント

STRIKEFORCE
ストライク・フォース

スコット・コーカー代表

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　通訳／稲垣收

昨年3月にフランク・シャムロックvsシーザー・グレイシーをメインに旗揚げ戦を行ない、当時の米国内MMA観客動員記録を樹立するなど、MMAバブルに沸く米国でもとくに好調を続けるMMAイベント、ストライク・フォース。選手の貸し借りなどで、『PRIDE』と交流があることでも知られる同団体であるが、その代表であるスコット・コーカー氏は、じつはK—1ラスベガス大会のプロモーターでもあるのだ。

そして3月27日にロサンゼルスで行なわれた、『Dynamite!! USA』の会見では、『HERO'S』、エリートXCなどとともにアライアンスを結成したとも発表されたストライク・フォース。現在、再編成が進む世界のMMAにおいて、重要な交差点に位置する状況をコーカー代表はどう考えているのか？

氏のプロモーターとしての歩みとともに、ストライク・フォースの現状と今後についてうかがってみた。（なお、このインタビューは『Dynamite!! USA』の会見前に収録されたものですが、最後に会見後の追加コメントも掲載しております）

——本日はストライク・フォースの代表を務め、K—1 USA大会のプロモーターでもあるコーカーさんに、根掘り葉掘り、いろいろうかがいたいと思います！

コーカー　なんなりと聞いてください（笑）。

——まずはコーカーさん自身の格闘技との関わりからお聞きしたいのですが。

コーカー　私は父がアイルランド人で、母が韓国人なんですけど、韓国に住んでいた7歳のときにテコンドーを始めたんです。そのつながりで、アメリカに移り住んだあと、キックボクシング団体とビジネスをやりだしたのが最初ですね。

——テコンドーつながりでしたか。

コーカー　70年代前半から80年代にかけて、ESPN（米国最大のスポーツ専門チャンネル）で放映されていたPKAというキックボクシングの団体とビジネスをしました。そのあと93年にPKAの放映が終わると、ESPNから自分に「放送枠があるから新しい団体をやらないか」と声がかかったんです。そのショーはいままでも続いていて、ESPNで私のイベントが放映されてますよ。

——その後、K—1との接点が生まれるわけですか？

コーカー　はい。2000年の2月にサミー・ケプチというフランス人のプロモーターが、ジェロム・レ・バンナをメインにした興行をラスベガスでやりたいと話を持ってきたんです。ケプチはフランスのテレビ局の人間だったんですけど、彼がラスベガス大会を開くにあたって、私がプロモーターライセンスの取得など実務面で手助けしたんですね。そのときにバンナの独占契約持っていたK—1から、バンナをサポートする役目で来ていたミスター・イマイ（今井賢一氏）と知り合ったんですけど、彼がミスター・イシイ（石井元館長）を紹介してくれたことから、私とK—1の関係が始まったんです。

——K—1 USA大会自体もそこからスタートしたんですか？

コーカー　いや、K—1がラスベガスに初進出したのは98年で、当初はアート・デイビスという人物がK—1 USAを仕切っていたんですけど、2000年8月から私がプロモートするようになったんですよ。

——コーカーさんは肩書き的にはK—1 USAの代表になるんですか？

コーカー　いや、代表というか、私はフリ

ーのイベンターとしてK―1と契約を結んでいて、ラスベガス大会が開催されるたびに、運営の実務を請け負っているんです。でも、去年まで年に2回開催していたK―1ラスベガス大会を今年はもうやらないみたいなんですよね。K―1はわかりやすいスポーツイベントだから、もっと回数を重ねたらアメリカでも人気が出ると思うんですけど……。まぁ、彼らがアメリカ戦略をどう考えているのかわかりませんけど、もう少し増やしてほしいですね。

――K―1ラスベガス大会といえば、マイク・タイソンを会場に呼んで、ボブ・サップと挑発合戦をさせたことがありましたけど、コーカーさんはタイソン招聘にも関わっていたんですか？

コーカー　そうですね。あのときマイクに関してのいろんな業務は、ほとんど私が行なっていたんですよ。しかし、マイクはクレイジーでしたね。本っっっ当に変わってる人間なんですよ（苦笑）。

――実感がこもってますね（笑）。どのようにしてタイソンとの接点は生まれたんですか？

コーカー　たまたま私とマイクには共通の友人がいたんですよ。その友人を通じて秘密裡にK―1への参戦交渉を進めながら、彼をラスベガス大会に招待したら、本当に来てくれたんです。そして、その場でミスター・イシイに紹介して、サップとの挑発合戦を経て、契約を結ぶことができたんです。

――あ、ちゃんと契約は結んでいたんですね。

コーカー　はい。そして実際、マイク自身は格闘技の大会に出たがっていたんです。ボクシングvsキックボクシングとかね。それで私たちとは、ビジネスの話を進めながら、私生活での友人にもなって、本当に順調だったんですよ。ただ、彼の周りに弁護士やマネージャーが何人もいて、いろいろ吹き込んでコントロールしようとするから、なかなか対戦が実現しなかった。

――やっぱりそうなりましたか。

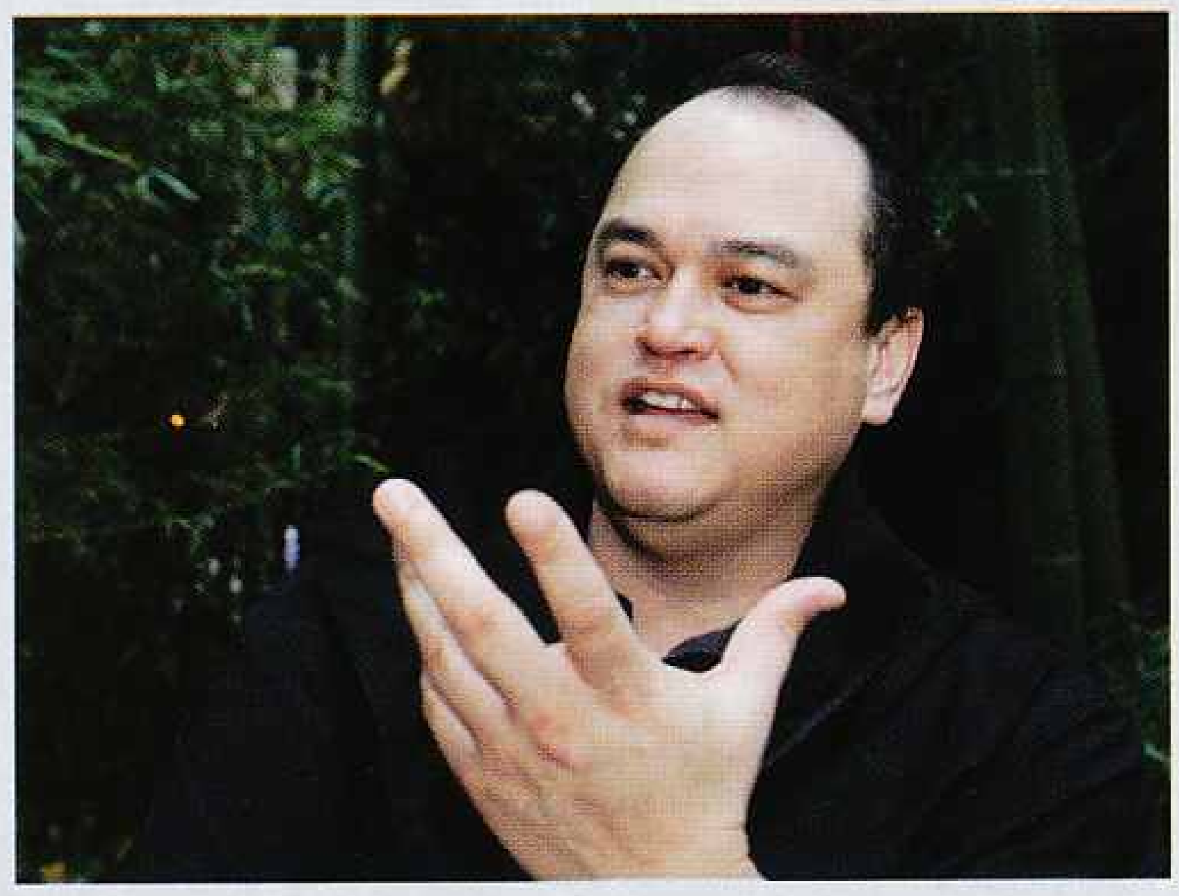
コーカー　そして最終的には、彼の周りの人間がゴチャゴチャとケチをつけてきて、契約を反故にしようとするから、私たちもあきらめて手を引いたんです。

――はぁ～、なるほど。昨年は『PRIDE』とも契約を結んだと発表されましたけど、やっぱり試合実現には至ってませんからね。

コーカー　マイクを『PRIDE』のリングに上げるというのは、想像を絶するほど大変でしょうね（笑）。彼の場合、もし試合が決まっても、リングに上がるまで何があるかわからないですし。

――そこまで難しいですか（笑）。

コーカー　あと彼はアメリカでの人気が低下しているから、仮に試合をしたとしても、そんなに注目を集めないんじゃないかと思いますね。それに彼は事件を起こして、刑務所に行かないといけないですし。



ダナはMMA界のミスター・イシイですね
格闘技界の恩人だし、私は彼らを尊敬してます

――刑務所!?　また何かやりましたっけ？

コーカー　昨年末に車でパトカーに突っ込んだんです（笑）。アリゾナ州のストリップクラブの帰りにね。その結果、車からはコカインが出てきて逮捕。しばらくは刑務所暮らしでしょうね。いまは、麻薬やアルコール中毒者のリハビリ施設にいて、これから裁判を迎えるわけですけど、これまでの経歴から見て厳しい判決になると思います。

――そうですか……。

コーカー　彼はアリゾナに住んでいますから、シャバに残ることができたならインタビューをアレンジしてもいいですけど……1分後に態度が変わる人間だから、どうなるかわかりませんね（笑）。

――期待せずに待っております（笑）。ところでコーカーさんは現在、K―1とストライク・フォースの両方をプロモートされているわけですか？

コーカー　そうですね。K―1はイベントを請け負うだけですけど、ストライク・フォースは私自身が運営しています。以前は、ストライク・フォースもキックボクシングのイベントだったんですけど、一昨年からMMAに変わりました。

――その転換は、やはりMMAの急激な成長によるものですか？

コーカー　それはもちろんありますが、直接のきっかけは、昨年、カリフォルニア州でMMA開催が合法になったとき、HPパビリオン（サンノゼにある大会場）から「MMAのイベントを開催しないか？」と、声がかかったことです。

――会場側からの提案だったんですか。

コーカー　はい。私とHPパビリオンとの付き合いは古く、93年にHPパビリオンができたときからキックボクシングの大会を開催していて、当時はまだ現役だったハビア・メンデス（AKA＝アメリカン・キックボクシング・アカデミー会長）の試合を組んだんです。そして近年はカン・リーをメインにして、キックや散打の試合をやって人気を集めていたので、アリーナ側からは常に「MMAが合法になれば、ぜひ大会を開いてほしい」とオファーされていたんですよ。

――HPパビリオンもMMAには注目していたんですね。

コーカー　そうですね。近年、UFC人気の爆発によってMMAの注目度が増していたし、このエリアにはいい選手やトレーナーがたくさんいるので、MMAイベントを開催する条件は揃っていたと言えます。だから私自身、MMA解禁に向けてロビー活動を続けていたんですよ。アスレ



昨年、ロサンゼルス郊外で開かれた『PRIDE』の記者会見にサプライズ登場をはたしたタイソン。しかし、K－1同様、試合をさせるまでには至らず。コーカー氏の口ぶりからすると、今後もタイソンのMMA参戦は極めて難しそうだ。

チック・コミッションの担当者に「キックボクシングはできるのに、なんでMMAはできないのか？」と詰め寄ったり、逆に「MMAをやったら、州にもかなりの税金が入りますよ」というふうにそそのかしたりもしました。

――うまい！（笑）。

コーカー　こうした地道な活動によって、私はカリフォルニア州で初めてMMAのイベントを開くことができたんです。カリフォルニア州初のMMAは、UFCやKOTCも開催を狙っていたんですが、私はこのエリアでプロモーター・ライセンスを取得してから22年間も興行を行なってきたので、一日の長があったんです。そうしてシーザー・グレイシーvsフランク・シャムロックをメインに大会を開催したところ、アメリカMMAの観客動員記録を更新するほどの大成功を収めることができて、HPパビリオンも今後の定期開催はもちろん、ストライク・フォース以外のMMAイベントには会場を貸さないという約束までしてくれたんです。

――HPパビリオンを独占ですか！　それはかなり大きなことじゃないですか？

コーカー　確かに非常に有利に働いていますね。ここベイエリアにおいては、サンフランシスコには大きなアリーナがないので、ビッグイベントを開催するには、サンノゼのHPパビリオンでやるしかないという状況なんです。実際、マドンナもビリー・ジョエルもHPパビリオンでコンサートをやってますからね。

――HPパビリオンを使えないとなると、UFCがベイエリアに進出したくてもできないわけですね。そうなると、ダナ・ホワイトにかなり恨まれてるんじゃないですか？（笑）。

コーカー　ハッハッハ！　少しは恨まれてるかもしれませんけど、ダナとはいい友だちなんですよ。私はこの業界を大きくした彼のことを尊敬していますしね。ダナがUFCを買うまでは、トップファイターでもたった5万ドルぐらいのファイトマネーで闘わなければならなかった。彼のことを悪く言う人間が多いことも知っているけど、業界の恩人と言っても過言じゃないですよね。

――確かに功績は絶大ですよね。

コーカー　言わば、ダナはMMA界のミスター・イシイなんですよ（笑）。ミスター・イシイが93年にK―1を始める前までキックボクサーは、チャンピオンでも500ドルや1万ドルといった、信じられないほど安いファイトマネーで闘わなければならなかった。彼ほど先見の明がある経営者はいませんよ。だから、私はいまでもミスター・イシイのことを尊敬しているんです。

――コーカーさんは、K―1 USAのプロモーターをやりながら、ストライク・フォースでは『PRIDE』とも交流しているんですよね？

コーカー　はい。『PRIDE』からはビクトー・ベウフォートやアリスター・オーフレイムなど選手を貸し出してもらっています。また逆に、カン・リーを貸し出す話もありますしね。

――日本の感覚からすると、K―1 USAのプロモーターが『PRIDE』と協力関係にあるというのは、不思議なんですけど……。

コーカー　先ほども言いましたけど、キックとMMAは自分の中では別ものなんですよ。K―1とは立ち技ルールでのK―1としての付き合いだし、『PRIDE』とはK―1から独立してミルコ・クロコップ



サンノゼの市街地、ど真ん中に建っているHPパビリオン。アメリカでは珍しい駅前立地で、空港にも近く、多くの人が訪れやすくなっている。

UFCの侵入を阻む大会場

ストライク・フォースの本拠地 HPパビリオンとは何か？

ストライク・フォースが、他のMMAイベントに比べて優位なことの一つに、有力な本拠地会場を持っていることが挙げられる。それがカリフォルニア州サンノゼにある大会場、HPパビリオンだ。

HPパビリオンは、北カリフォルニアのサンフランシスコ、サンノゼを中心とするベイエリア最大の多目的イベントホール。ベイエリアは多くの人口を抱えているにも関わらず、ビッグイベントが開催できる大会場はHPパビリオンだけということもあり、93年にオープン以来、その稼働率はニューヨークのマジソン・スクエア・ガーデン（MSG）に次いで、アメリカ国内で第2位を記録しているのだという。

しかも、使用されるイベントはメジャーなエンターテインメントばかり。NHL（アイスホッケー）のサンノゼ・シャークスの本拠地として使用されることを中心に、テニス、ラクロス、ボクシング、WWE、アイスショー、そしてメジャーな歌手のコンサートなどが、ベイエリアで興行を開く場合は、必ずHPパビリオンが使用されているのだ。逆に言えば、ここで開催できるものが、アメリカの〝メジャーイベント〟であるということだ。

そんなHPパビリオンで、ストライク・フォースは、昨年、1万8000人以上の観客を動員。これだけを見ても、アメリカでMMA人気の高まりが、〝メジャー〟な位置に到達しつつあることがわかるだろう。

また、HPパビリオンのもう一つの特徴は、VIP専用スペースや、高級レストラン、バーなどが併設されていること。ここサンノゼは、アメリカでも有数の裕福な地域であるため、リッチ層が多数訪れる会場でもある。つまり、高いチケットがさばきやすい会場でもあるのだ。こうしたところも、MMAイベントを行なうには有利に働くだろう。

ストライク・フォースは地元サンノゼのイベントということで、HPパビリオンとMMAの独占使用契約を締結。このようにしてUFCの侵入を防いでいるのである。

また、現在ストライク・フォースとHPパビリオンは、イベントと会場というだけの関係であるが、今後は会場側がイベントの経営に参入する計画もあるとのこと。

ストライク・フォースは、このように地元密着という独自の方法によって、MMAイベントとしての地固めをしているのである。



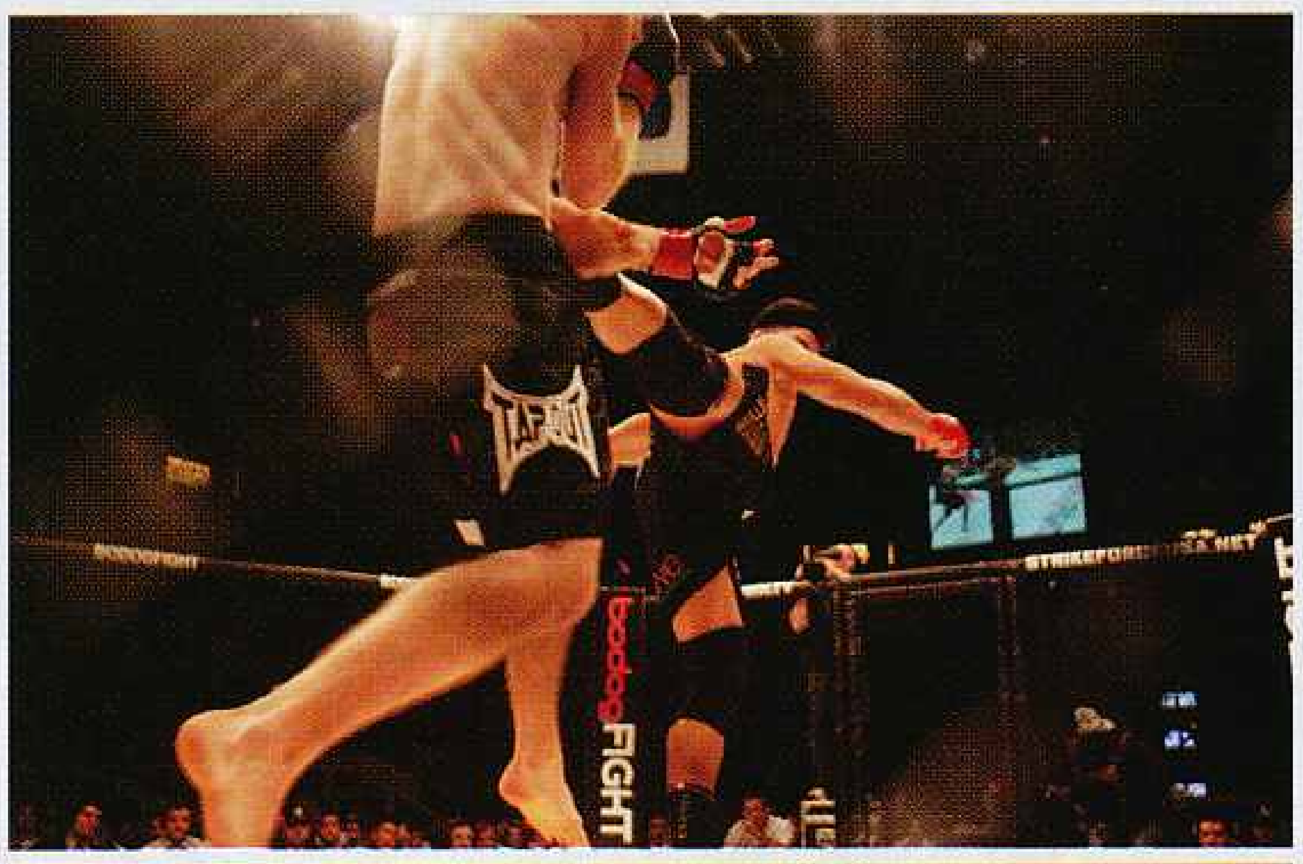
これが、VIPルームから見たHPパビリオン内部。傾斜がキツく、2階スタンド席からでも非情に見やすそうだ。格闘技で使用する場合、最大で2万人を収容できるのだという。

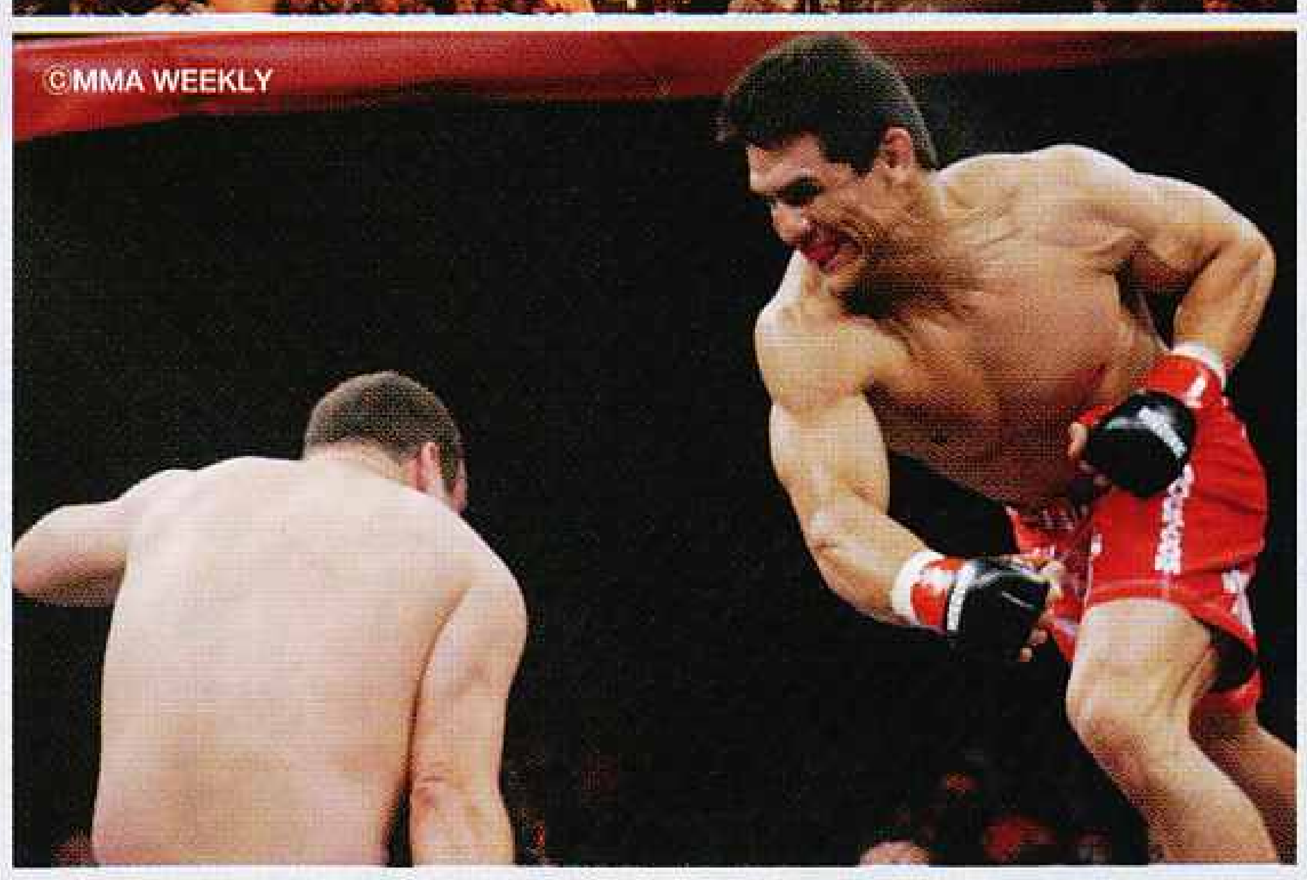
のマネージャーとなったミスター・イマイを通じて、選手の貸し借りに関して契約を結んでいるわけですから。
——棲み分けしているということですね。
コーカー　そうなんです。だから私はK—1 USA大会のプロモーターですけど、K—1のMMA部門、『HERO'S』のアメリカ大会は、ほかの人間がやるみたいですからね。かといって、『HERO'S』とケンカをするつもりもありません。やっぱりミスター・イシイはマーシャルアーツ・ビジネスでいえばキングですよ。それに比べたら、ストライク・フォースはまだまだベイビー。だけど赤ん坊は成長するのが早いでしょう。これから大きくしていきたいですね。それにUFCが成長したとはいえ、アメフトをはじめとしたメジャースポーツに比べたら、MMAはまだまだ小さい。だから、誰が誰と仲良くないからとか、仲違いしている場合ではないと思うんですよ。私としては、ほかのイベントと協力しながら、業界全体でMMAを育てていきたいですね。
——ストライク・フォースには、あの『ボードッグ・ファイト』もスポンサーについているんですよね？
コーカー　そうなんですよ。競合するMMAイベントがスポンサーにつくなんて、不思議な感じがしますよね？（笑）。
——極めて不思議かつ不気味ですね（笑）。
コーカー　これは代理店を通じて広告を募ったところ、ボードッグが出稿してきたんでスポンサーについてもらったんですけど、最初はただのオンライ・カジノの広告

エリートXCとの提携関係と今回のアライアンスへの加入は別問題です

だと思ってたんですよ。だから、しばらくして、この格闘技界に参入してきたときにはビックリしました。
——まさか競合相手になるとは（笑）。
コーカー　でもまぁ、ちゃんと広告費を払ってくれるならいいやって感じで、そのままやってもらってるんですけどね（笑）。
——では、コーカーさんは、これからストライク・フォースをどうしていきたいですか？
コーカー　いまは、いくつか新たにテレビ契約のオファーも舞い込んできていますし、HPパビリオンからは資本面でもバックアップしてくれるという話もあります。こういった追い風が吹いている中で、団体を成長させていきたいですね。そのためにも、ストライク・フォースにはフランク・シャムロック、カン・リー、ジョシュ・トムソンといったタレントがいますけど、有望な若手をもっと増やして戦力をアップさせたいです。そして、アメリカ中で大会を開催させたいですね。そうなれば、UFC、『PRIDE』の次にストライク・フォースが残るのではないかと。また、じつは3つの大きな団体からM&Aの話も来ているので、どこかの団体の傘下でイベントを成長させるのもいいかもしれませんね。
——未来は明るそうですね。では、長い時間ありがとうございました！
［07年2月24日／米国ネバダ州ラスベガス、ベラージオ・ホテル＆カジノにて収録］

こうして、K—1 USA大会のプロモーターを務めながら、『PRIDE』と協力関係にあるMMAイベント、ストライク・フォースを主宰する、自らの状況を説明してくれたコーカー代表。





（写真・上）本誌前号に登場したストライク・フォースのスター、カン・リーのバックキック。後ろのケージには、大会の冠スポンサーでもある「bodogFIGHT」の文字も見える。（写真・下）昨年、旗揚げ戦で当時のアメリカMMA観客動員記録を達成したフランク・シャムロックvsシーザー・グレイシー戦。フランクは今年6月の大会でもメインに登場する予定だ。

しかし、このインタビュー後、FEGがロサンゼルスで『Dynamite!! USA』の会見を開き、そこで『HERO'S』、エリートXC、ケージ・フォース、ボードッグらとともに、ストライク・フォースがアライアンスを組んだと発表したのだ。ストライク・フォースは『PRIDE』との関係を解消し、『HERO'S』と協力していくことになるのだろうか？

これを受けて、本誌はコーカー代表にメールを送付し、あらためて今回のアライアンス結成のいきさつについてコメントを求めた。するとコーカー代表から意外な返答が返ってきた。

「K—1とプロエリートが中心となって、格闘技のアライアンスを組むという話は私のほうにも伝わっていましたが、そこに我々ストライク・フォースの名前も入っていることに、私自身、大変驚きました。
確かにK—1サイドから、このアライアンスに加入してほしいというオファーはいただきましたし、3月27日にロサンゼルスで行なわれた会見の招待状もいただいておりましたが、口頭および文書にて、すでに参加する意思がないことを伝えておりました。にも関わらず、会見にてアライアンスのメンバーとしてストライク・フォースの名前を出されたことについては非常に驚きましたし、同時に遺憾に思います。
我々、ストライク・フォースはフランク・シャムロックの契約をめぐり、プロエリートと提携関係にありますが、それと今回のアライアンスへの加入は別問題です。
現状といたしましては、ストライク・フォースは、6月22日にHPパビリオンで、『PRIDE』の協力のもと、フランク・シャムロックvsフィル・バローニをメインイベントにして大会を開催いたします。この『PRIDE』との協力関係は、オーナーがロレンゾ・フェティータ氏に変わっても大切にしていく考えは変わっておりません。誤解なきよう、よろしくお願い致します」

まさに先が見えぬ、MMA世界新秩序。しかしながら、このストライク・フォースが、今後、鍵を握るイベントとなっていくことは間違いなさそうだ。

『PRIDE』とUFCの共通オーナー就任が発表された翌日（07年3月27日）、K―1を主催するFEGは、米カリフォルニア州ロサンゼルスのメモリアル・コロシアムで会見し、UFC×『PRIDE』同盟に対抗する組織としてFEGを中心としたネットワークの結成を発表した。

会見によれば、この組織に賛同しているのはFEG以外に、エリートXC、米国のストライク・フォース、カナダのボードッグ・ファイト、英国のケージ・レージ、韓国のスピリットMCの6団体であるという。今回はそのスピリットMCを紹介しながら、揺れ動く世界格闘技界の影響が韓国にどのような影響を与えるか紹介していきたい。

スピリットMCとは？

K-1&エリートXC連合の一翼を担うかたちで紹介されたスピリットMCとは、どんな大会なのだろうか。格闘技マニアの人ならばデニス・カーンが主戦場としていた団体として認識しているかもしれない。

韓国格闘技の歴史は2003年4月26日、スピリットMCの旗揚げとともに始まった。これまでスピリットMC以外に韓国でプロ大会を開催した総合格闘技団体には、ネオファイト（スピリットMCから派生）、CMAとDEEPが協力してできたグラジエイターFC（第2回大会を実現できずに消滅）、日本の新興団体MARS（韓国では活動停止中）、レッドデビルのMFC（第2回大会の開催を計画中）、FEGの『HERO'S』（当分韓国での大会はなし）、リー・ガクスーのWXF（ゲノムの熱に侵され地下に潜伏中）などがあったが、継続的に活動を続けているのはネオファイトとスピリットMCしかない。

好評連載！ 第14回『インサイドコリア』

韓国にも飛び火するMMAウォーズ!!

PRIDE vs K-1 IN KOREA

韓国No.1プロモーション スピリットMCの選択がすべてを変える!?

文/大川"隊長"義之

過去も現在も常に韓国格闘技界の中心に座り続けるスピリットMCの歩みは、まさに韓国総合格闘技の歴史そのものと言っても過言ではない。

スピリットMCは年間約4～6大会のプロ興行と、12大会のアマチュア大会で運営されている。大会は『PRIDE』の影響が強く、ラウンド構成（5分3ラウンド）以外は、ほぼ『PRIDE』のレギュレーションを用いている。一方、アマ大会を熱心に開催しているという点では、組織の構造は修斗に近いとも言える。

03年に大会を発足させてからの3年間は、あえて層の薄い韓国人選手の育成に専念し、経験を積ませるために外国人選手はほとんど招聘せず、国内選手中心のマッチメイクを行なっていた（例外としてスター不足を解消するために、カナダでプロ選手として活躍していたデニス・カーンがスピリットMCの看板選手に起用されている）。

徐々に韓国人ファイターのレベルが向上するにつれ、国際戦も行なわれるようになる。日本からはCMA、DEEP、九州の眞武館空手、アメリカからはBJペンアカデミー、デニス・カーン所属のアメリカン・トップチームから選手が参戦した。07年4月22日に開催されるスピリットMC11ではアメリカ対韓国の5vs5の対抗戦が行なわれる。

また一昨年からはXTMというケーブルテレビと協力して韓国版『TUF』とも言うべき『GO！　スーパーコリアン』というリアリティショーが放送されるようになり、一般層からの支持も多く受けるようになった。

とくに07年3月11日に開催された大会では、デニス・カーンの保持する無差別級のタイトルマッチや各階級の挑戦者決定戦などを売りにして、スピリットMC史上最高の視聴率を獲得した。驚くべきは、このと

韓国スピリットMCも、K−1&エリートXC連合入りを否定!!

きの視聴率が同時期にあった2月の『PRIDE・33』ラスベガス大会の2倍近い数字を記録したことだ。いまやスピリットMCは韓国で『PRIDE』と肩を並べるコンテンツに成長しているのだ。

FEG同盟とスピリットMCとの関係は？

FEG側の壮大な世界戦略計画とは裏腹に記者会見から数日後、ボードッグとストライク・フォース側から同盟に合意した事実はないとのプレスリリースが出され、早くもFEGの構想は「張子の虎」状態に陥った。

この記事を書くにあたり、スピリットMCがFEG側とどのような交渉を持ったのかを聞こうとインタビューを申し込んだ。しかし！　スピリット側から返されてきた答えはなんと、「FEG関連の質問に関しては一切お答えできません。スピリットMCのことについてならいくらでもお答えします」というものだった。

取材拒否されて「はい、そうですか」と引き下がるわけにもいかないので、食い下がって聞いてみると、「我々はK−1側と一緒にやって行くと決めたわけでもありませんし、現時点でFEGの傘下に入ったわけでもありません」という答えを引き出すことに成功！

やはりというかなんというか、スピリットMCもFEGとの関係で決まっているものは何もなく、結局ボードッグやストライク・フォースと同じ状態にあるようなのだ。

しかし、「ではなぜスピリットMCの社長は、わざわざアメリカまで出向いていったのか？」という疑問が湧く。このことに関してはこれ以上スピリットMCの関係者に聞くことはできなかったが、代わりにスピリットMCの事情に詳しいある格闘技記者が、彼らを取り巻く状況について答えてくれた。



スピリットMCが生んだスター、デニス・カーン。所属するアメリカントップームと関係が深いボードッグへの魔の手が忍び寄っているという噂もある。『PRIDE』韓国進出には欠かせない人材だが……。



チェ・ホンマン、キム・ミンス、秋山成勲など、韓国スターファイターを抱えるFEG。サダハルバセンス炸裂の大会を何度も手掛けており、現地の基盤では『PRIDE』を一歩も二歩もリードしている。

「スピリットMCがアメリカまで行ったのは、現在スピリットMCを放送するXTM（スポーツ専門のケーブルテレビ）の強い勧めがあったのではないか。XTMはこれまで数年間にわたって『PRIDE』の生中継をして人気を得てきた新興のテレビ局だが、今年になって『PRIDE』からK−1に鞍替えし、2010年までのすべてのK−1系大会（K−1ワールドGPや本戦、MAX、『HERO'S』、『Dynamite!!』など）の放映権を総額310億ウォン（約39億円）で買い取った。

XTM側にしてみればFEG側とスピリットMCが協力体制をとれば、K−1系大会に多くの韓国人選手が出場可能となり、高視聴率が望める。だからスピリットMC側にアメリカ行きを働きかけたのでは？

もともとスピリットMCはデニス・カーンを『PRIDE』に送ったり、常々うちの優秀な選手はいつか『PRIDE』に上げると宣言したりするなど、『PRIDE』志向の強い団体だったが、一方で最近スピリットMCの株式の51パーセントがXTMの親会社であるCJメディアに渡ったという噂もある。

だから、実際にスピリットMC側もそういうテレビ局や自分たちの方向性の狭間で揺れていて、いまは『PRIDE』とK−1が自分たちにどんな条件を出すか見守っているところではないか」

スピリットMCが記者会見にまで出向きながら、いまだに態度を保留しているのは、自分たちを取り巻く国内的な事情があるためだという。

『PRIDE』韓国上陸の噂

またつい最近、07年4月6日のニュースで「07年中に『PRIDE』が韓国で大会を開き、今後も韓国で年間4回の『PRIDE』ローカル大会やナンバーシリーズを開催していく」という報道がなされた。その『PRIDE』コリアの韓国側の主催者として名乗りを上げているのがMLB、WWE、『PRIDE』などのメジャースポーツの放映権販売を一手に引き受けるIBスポーツである。IBスポーツは資金力豊富な会社であるため、この情報の信憑性は決して低くないと見られている。

こうしたニュースは、長年『PRIDE』との関係を持とうと努力してきたスピリットMC側にとっては非常に大きなショックであったに違いない。それを裏づけるようにFEGとの同盟体制が結ばれたかのような報道がなされているにもかかわらず、依然としてスピリットMCが『PRIDE』韓国大会の受け皿になることをあきらめていないという噂も消えてはいない。

現在、韓国における『PRIDE』やK−1の放映権料は数年前の数十倍にも膨れ上がっており、日本と同じように韓国でも『PRIDE』vsK−1を核にした格闘技コンテンツの視聴率競争が過熱している。また今年の夏あたりに韓国で新団体が旗揚げされるという情報もあり、まだまだ韓国内におけるK−1、『PRIDE』を取り巻く勢力図は予断を許さない状況だ。はたしてスピリットMCはどこへ行くのか？

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールなUSAニュースをお届け!!

Vol.13

USA Cool! 宅急便

『HERO'S』の海外進出だと思いきや『Dynamite!!』ブランドに変わっていたFEGの海外MMA戦略。とにかく一発目の大会を約10万人規模の巨大スタジアムで開くとあっては、関心が湧くというか、心配にすらなるところ。成功の鍵は何か？ またアライアンスの行方は？

聞き手／デューク東郷　助手／ターザン上杉！

PROFILE

Scott Petersen【すこっと・ぴーたーそん】格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』（http://www.mmaweekly.com/）を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居を構え、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「NOVA方式は認められません」。

ついに動き出したFEG海外MMA戦略『Dynamite!! USA』成功の鍵は？

―スコット、最近、団体サイドから食事に招待されるようになったんだってね？ この有名人！ この連載のおかげってことじゃないの？

スコット　いやいや、違うよ。たまたま広報担当の人間と会場で知り合ったんだよ。最近は海外でのイベントが多いだろ？ だからパブリシティのために、これまで以上に積極的に海外メディアの取材を誘致しているみたいだよ。エッヘン!!

―でも、彼らは知らないんじゃない、『MMA WEEKLY』を見ている人がそんなにいないってことを（笑）。

スコット　失礼な！ これでも有料会員だってけっこういるんだからね。それにもう一つの老舗MMAネットメディア『シャードッグ』は広告会社に買われたから、ウチだけが、どこにも配慮せずに自由な報道ができる、唯一の老舗独立系ネットメディアだよ（偉そうに）。





（写真上）元NFL49ersのワイドレシーバー、ジョニー・モートン。（写真下）レスナーよりもはるかにデカい チェ・ホンマン。ロスの韓国人社会での彼の人気が集客の鍵か？

アメリカで成功させるには、知名度のある元PRIDEの選手を起用するのがてっとり早い

―ふ～ん、最近はやたらボードッグからの広告出稿が増えているみたいだけど、それでボードッグの記事が増えてるように思えるのは、気のせいだよね（笑）。

スコット　それは大会が近いからでしょ！

―しかし『シャードッグ』とかMMAサイトを買う企業が出てきたのも、アメリカMMAバブルの賜物ってわけだよね。逆に『MMA WEEKLY』は、誰も買ってくれない、つまり、魅力的じゃないサイトってことでしょ？（笑）。

スコット　本当にいつも失礼なことばっか言うな！ ウチもケーブルテレビ局から買収の話があったり、MMAがブームになってからはいろいろあったんだよ。もう、そんな、どうでもいい話はいいとして、今日はいったい何について話すんだよ？（怒）。

―はいはい。まずはスコットが前々から言っていたとおり、総合格闘技でアメリカに初進出するFEGが、そのパートナーとして、エリートXCを選んだね。

スコット　エリートXCの実態については、前号でも、経営面について、いろいろと話

したけど、実際の大会の運営面については、
リアルファイトじゃないと（笑）。
ーも開始と本格的に市場に乗り込んでき

したけど、実際の大会の運営面については、ハワイのランブル・オン・ザ・ロックのスタッフが移行したかたちで携わっている。だから、もともと同団体とはBJペンの『HERO'S』出場などで交流があったFEGがエリートXCと手を組んだのは、驚きでもなんでもないよ。

——『Dynamite!! USA』第一弾の目玉は、元WWEスーパースター、ブロック・レスナーのMMAデビューだということだけど、これって、アメリカ人にとってはどうなの?

スコット レスラーの総合挑戦にロマンを感じたり、夢を持っているのは、プロレスと格闘技の業界構造が地続きになっている日本人だけ。

——♪チャチャ、チャチャチャ!! チャチャチャチャチャ!! まあ、田村潔司のテーマ曲に合わせて手拍子するのが日本の国民性だからね。

スコット それは『kamipro』を読んでる変態読者だけだよ!! アメリカのプロレスファンと総合ファンは、まったく層が違う。アメリカのMMAファンにいたっては、プロレスラーが格闘技をすることで、



アメリカで、もっとも知名度のあるPRIDEファイターと言えば、移籍したいまでも桜庭！ ロサンゼルス大会出場か?

イギリスに乗り込んで来るUFCに対抗すべくケージ・レージもアメリカ市場を攻めようとしている

リアルファイトじゃないと思われることを嫌がるぐらいだからね。

——成功は難しいと?

スコット もしくは、タニカワ・マジックで、まったく新しいプロレスファンを格闘技に取り込むことができるかもしれないけど、その可能性は厳しいなあ。

——もう一つの目玉が元アメリカン・フットボール選手の出場だけど。

スコット NFL名門チーム『49ers』のジョニー・モートンだね。でも彼の出場で、お客が集まるかどうかと言われると微妙だね。それより、ミスター・タニカワ本人に聞いた話だと、ホイス・グレイシーとマット・ヒューズの試合を組もうとして、ダナ(・ホワイトUFC代表)に連絡を取ったんだって。

——知っているよ、その情報はもうすでに日本のメディアで語られているから(笑)。

スコット (憮然と)あ、そう。

——ダナにメールを送ったんでしょ? ホイスvsヒューズ戦で協力したんだから、そのお返しとして男気を見せてほしいって感じで。そしてそれをわざわざ「『シャードッグ』と『MMA WEEKLY』のインタビューでも答えてダナにはメッセージを伝わっているはず」と会見で言ったらしい。その二つの媒体がUFCからは取材拒否されているのも知らずにね(笑)。

スコット いまは少しずつ取材できるようになってきたんだって! 読者に余計な情報を与えないでほしいな。ちなみにFEGはサクラバ(桜庭和志)も『HERO'S』に出場させたいらしいよ。彼なら向こうでもお客さんを呼べるからね。なんといっても、『HERO'S』はアメリカでの人気が、というより認知がまったくない。だから、サクラバもそうだけど、『PRIDE』に出ていた選手を大会に起用するのが、一番てっとり早いかもね。

——なるほどね。しかし大会まで2ヵ月ないけど、現地の反応はどうなのさ? 成功しそうなの? 『Dynamite!! USA』が開催されるメモリアム・コロシアムは、なんといっても9万2000席もあるんでしょ。

スコット ズバリ、厳しい。しかも、エリートXCと提携しているショータイム局はケーブルテレビで放映するし、メインカードについては、PPVも行なうんだから、ますます、わざわざ会場に行く人はいなくなるね。

——あ、結局、エリートXCもPPV放映に討って出るんだ?

スコット そう。これまでは、ショータイムの契約者にはフリーで見られる仕組みだったけど、今回は前座の試合を撒き餌にして、PPVで収益を狙う仕組みにしている。

——やっぱり、なんだかんだ言っても、アメリカのMMAはPPVビジネスだね。そういえば、イギリスのケージ・レージもアメリカで放映を開始するんでしょ?

スコット そうなんだ。彼らはイギリスでは一大ブランドだけど、いまやUFCがイギリスに支社を開設して、リアリティショーも開始と本格的に市場に乗り込んできた。だから、このままずーっと守るよりも、逆にPPV市場の大きいアメリカに攻めていこうというアイデアなんだ。彼らはすでにケーブルテレビとは話がついていると言っていて、そこで認知を得て、アメリカで大会を開催して、PPV収益を上げようという考えだろうね。

——へ〜。やっぱり、アメリカのパイを取らないと、生き残れないんだね。そしてそれが、そもそもジェームス・トンプソンを派遣したり、松井大二郎を受け入れたりと『PRIDE』と近い関係にあったケージ・レージが今回FEG&エリートXCとシェイクハンドした理由と考えていいのかな。

スコット そうだろうね。もしかしたら、ストライク・フォースがエリートXCと接近して、ショータイムの放映枠を獲得したように、ケージ・レージも……。ただ、それについて首脳陣はハッキリと言及してない。それに、彼らと話した印象だと文化的にイギリスは、アメリカほど契約書社会じゃないから、テレビディールもまだ口約束とって感じで固まってないんじゃないかな。

——FEG&エリートXCの連合から当初、アライアンスのメンバーとして発表されたボードッグ、ストライク・フォース、スピリットMCは次々と不参加を表明している。もしケージ・レージがショータイムの放送枠で釣られて連合入りして、テレビ環境などでまとまらなければ、またしても離脱団体が出る可能性もあるってわけだ。

スコット 予断は許さないよ。ちょっとこれがどうなるか注目だね。

混沌のMMA界 明日はどっちだ?

た"ヒョードル"

MMA

"60億分の1"がついにボードッグ登場！はたしてその先にあるものとは――!?

昨年秋頃からボードッグ（当時MFC）参戦が噂されていたエメリヤーエンコ・ヒョードルが、4月14日ついにそのリングに登場した。本大会では驚くべきファイトマネーでヒョードルと契約したといわれるボードッグだが、驚くべきことはそれだけではない！　なんと、当日会場には、ロシアのプーチン大統領、そしてイタリアのベルルスコーニ前首領も来場するという、カルビン・エアーも霞むほどのとんでもないサプライズまで勃発!!（残念ながら写真に収めることはできなかったが）。もはや制御不能とも思われるMMA界、皇帝のボードッグ参戦の先にはいったい何があるのか――。

文／高崎計三　写真協力／bodog.com　構成／松下ミワ

現地潜入徹底リポート!!





4.14
bodogFIGHT
in サンクトペテルブルグ

皇帝、ボードッグに流出!?
そしてプーチン露大統領まで来場！

怪物化してしまった

「ヨーロッパに妖怪が現われている。共産主義という名の妖怪が」

こう書いたのはマルクス・エンゲルスの『共産党宣言』だが、これにならうと「ロシアに怪物が現われた。MMAという名の怪物が！」となる。遠くロシアの地で、いままで慣れ親しんできたMMAが、まさに怪物となる瞬間を目撃した！

レーザービームが飛び交い、火柱が吹き上がる中を耳慣れないロックの曲（たぶん、ボードッグ・ミュージック所属バンドのものだろう）に乗って花道に登場する"皇帝"エメリヤーエンコ・ヒョードルの姿を見ていると、とてもここがロシアとは思えない。だが、ヒョードルに大歓声を送っているのは間違いなく、"同郷人"であるロシア人たちなのだ。

昨年10月の『PRIDE』ラスベガス大会のときには、アメリカ人観客から熱狂的な歓迎を受けるヒョードルを見て、「ああ、やっぱり強ければ国は関係ないんだな」との感慨に至ったものだが、この日、チーム・クエストのマット・リンドランドを迎え撃ったヒョードルを見て思ったことはまた違う。「MMAは、もはや国や地域を越えたものになったのか」ということだ。

昨年12月にヒョードル出場が発表された、このボードッグ・ロシア大会。ボードッグのフォーマットの上では、2月から始まったテレビシリーズ『ボードッグ・ファイト・シーズン2』のフィナーレということになる。もちろん、世界中のMMAファンの注目がヒョードルの出場に集まったことは言うまでもない。「ヒョードル『PRIDE』離脱か?」との憶測も飛んだが、ボードッグ側はこの大会をレッドデビルの興行『M-1』との共催というかたちにすることによって、引き抜きではないことの説明とした。それがどれだけ効果があったかは別として。





遠くロシアの地で、いままで慣れ親しんできたMMAが"怪物"になる瞬間を目撃した

とにかく、この大会には「ヒョードルが出場すること」が必要だった。ボードッグの力をMMA界全体に見せつけること、そのことでボードッグの知名度を大幅に引き上げること。大会タイトルであり、テレビシリーズのテーマだった「ロシアvsアメリカ」は、そのためのお膳立てにすぎない。そして、「何よりもヒョードル本人が、祖国での試合を楽しみにしている」というエクスキューズができる。こう言っちゃ悪いが、ボードッグにとっては対戦相手は誰でもよかったに違いない。リンドランドはUFCにも出場していて、そこそこ知名度のある選手。ヒョードル登場のお膳立てとしては、これで充分だった。だから体格差があろうが、関係ないのである。

会場のアイスパレスはアイスホッケー用に作られた会場で、コンサートなども頻繁に行なわれている。全開放すれば1万6000ほどのキャパらしいが、この日は2・3階席をふさいで約7000の席数で使用。それでも、チケットは事前に完売しているというから驚く。午後6時に本戦前のアンダーカード3試合が始まる頃には、本当に客席は埋めつくされていた。客層はまさに老若男女。子どもがほとんどいなくてやっぱり男性が多い傾向はあるが、日本やアメリカよりは明らかに幅広い。

アンダーカードが終わってPPV本戦に入ると、いよいよロシア人選手の登場だ。開催地であるサンクトペテルブルグ出身のローマン・ゼンツォフ、アンドレイ・シモノフあたりにはもの凄い声援が飛んでいる。試合で劣勢になると声を揃えて「ロシア！ロシア！」の大コール。だが、ほかの国の選手も極端に敵視されるわけでもなく、またテイクダウンや腕十字の体勢になっただけで大きく沸くなど、反応自体は悪くない。何より、観客がこのイベントを楽しんでいることがよく伝わってくる。

この大会、サプライズもふんだんに仕込

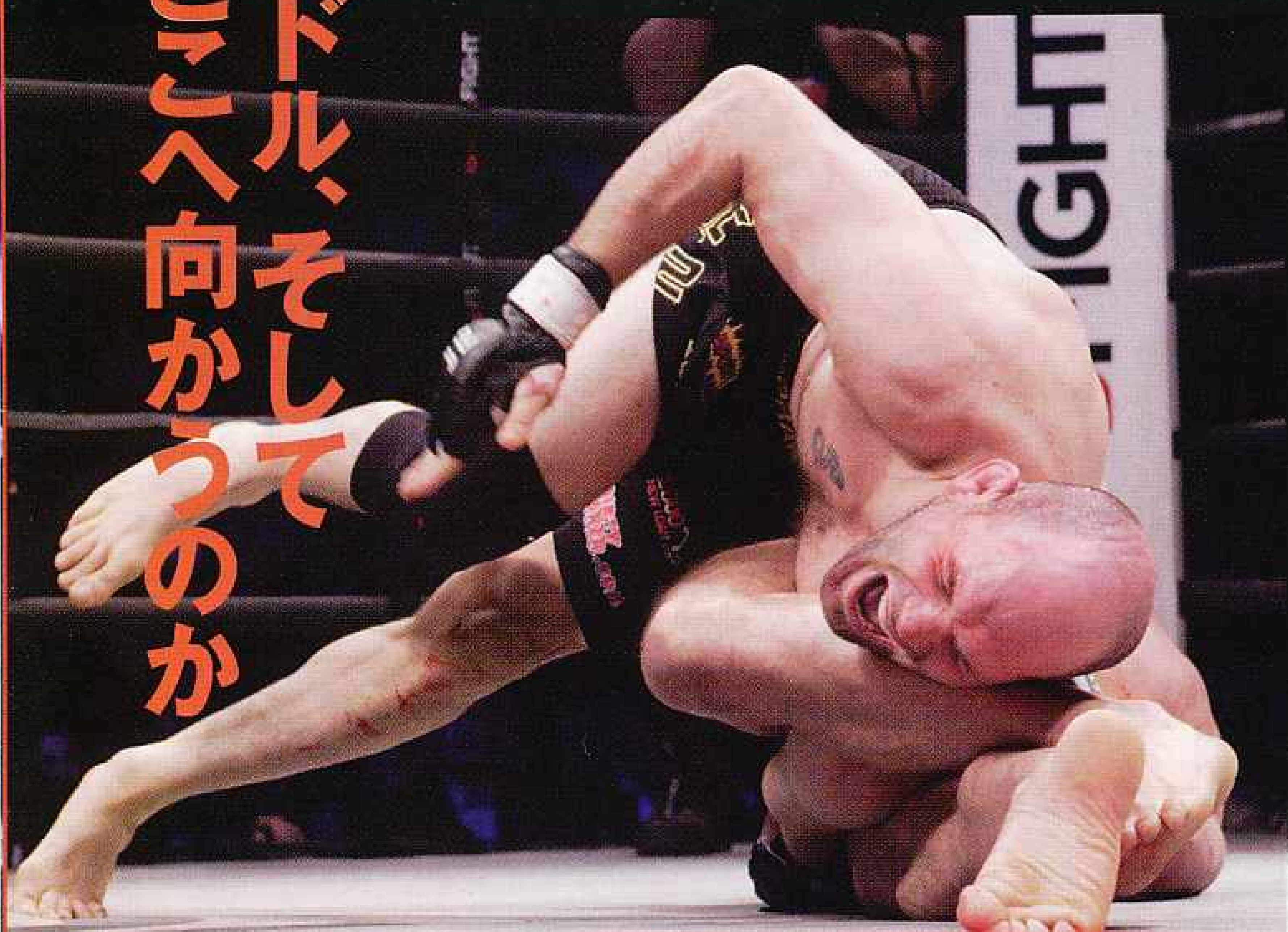


[ボードッグ・ファイト in サンクトペテルブルグ]
○エメリヤーエンコ・アレキサンダー vs エリック・ペレ×
(1R 4分07秒 TKO)
ヒョードルの二つ前の試合で、弟アレキサンダーは昨年末アントニオ・シウバを破ったペレと対戦。豪快な左フックで倒れたペレをアレキはグランドパンチで一気にトドメ！文句ナシのTKO勝利を勝ち取った。

まれていた。まずPPV本戦6試合のうち2試合目が終わると、ジャン＝クロード・ヴァン・ダムがリングに登場してメッセージ！　さすがハリウッドの超大物アクションスター、ロシアでの反応も上々。だが、問題はこのあと。なんと、プーチン・ロシア大統領がリングサイドに現われたではないか！　このために急遽、リングサイドカメラマンの大半が立ち退きを命じられ、会場中に物々しい警備が張り巡らされる。それほどの厳戒態勢が敷かれるビッグサプライズが勃発したのだ！　リングアナに紹介されると大歓声が起こり、ここでも大ロシア・コールが起こった。だが、あとからニュースで知ったところでは、同じ14日、モスクワではプーチン政権に反対する市民約3000人の大デモ行進が行なわれていたとか。そんな状況の中で、本人はMMAの大会に招かれていたわけだ。セミの前にはK－1からの転出も噂されるピーター・アーツ、メインの前にはベルルスコーニ・イタリア前首相も紹介。どんだけスケールがデカいんだ！

試合のほうは、ヒョードルの弟エメリヤーエンコ・アレキサンダーがアメリカ人のエリック・ペレを豪快なパンチで下して小爆発を迎え、アメリカ人同士のセミ（エディ・アルバレスがニック・トンプソンに敗れてボードッグ・ウェルター級王座を失った試合は、北米では注目度は高かったことだろう）を経て、いよいよメイン。煽り映像にヒョードルが登場するだけで、観客は大歓声だ。そしてリンドランドに続いて本人が登場すると、アリーナは総立ちでスタンディング・オベーション！　「おまえを観に来た！」とばかりに盛り上がりまくる客席。花道に姿を現わしたヒョードルは赤のサンボ着で、腰にはPRIDEヘビー級のベルト！　リングアナからは「MMAヘビー級世界王者」と紹介された。

怪物化したヒョードル、そしてMMAはいったいどこへ向かうのか





［ボードッグ・ファイト in サンクトペテルブルグ］
○エメリヤーエンコ・ヒョードル vs マット・リンドランド×
（1R 2分38秒 アームバー）

昨年秋頃から騒がれていたヒョードルのボードッグ参戦がついに実現！　ヒョードルは地元ロシアの大歓声の中、リング上に登場。試合は、序盤リンドランドの強打を受けてヒョードルは右目上をカットすると、今度はロープをつかんでリンドランドのテイクダウンを阻止するなど、危なっかしいシーンもあったが、終わってみれば完勝！　変則的なアームバーでリンドランドは苦悶の表情。プーチン大統領の目の前で、ヒョードルは完璧すぎる勝利を収めた!!

試合は、この一戦のために96・5kgまで身体を作ってきたリンドランドが低い構えからの左のパンチから仕掛けた。104・5kgのヒョードルとは8kg差。最初に放った左2発、そしてそのままコーナーに押し込んだところまでは、リンドランドの作戦は完璧に当たった。ヒョードルはこのパンチで、右眉のあたりをカットしてもいる。しっかりとクラッチして、リンドランドはテイクダウンに持ち込もうとする。

だが、ここでリンドランドには大きな誤算が生じた。ヒョードルがつかんだりヒジを引っかけたりとロープを利用して、テイクダウンを阻止したのだ。あの皇帝ですら、ロープをつかまなければならないほどリンドランドの圧力が強かったということか。直後、勢いよく身体を翻して、逆にヒョードルが上のポジションをゲット。アキレス腱固めはリンドランドのカカト蹴りで脱出されたが、すぐにマウントを奪うと体勢を崩しながらも腕を取る！　あとから写真などで確認したところでは、これはやや崩れた腕十字と見るべきだろう。リンドランドは苦痛に顔をゆがめてタップ、わずか2分38秒で、勝敗は決した。

勝利の瞬間、ロシア人観客は今度こそ大爆発。あらためてPRIDEヘビー級のベルトを巻いたヒョードルがロシア語でリング上から挨拶すると、もの凄い歓声が起こった。とりあえずこの一点だけを取っても、今回の大会は成功に終わったと言える。

MMA市場としては未開のロシアという土地で、大統領までが来場する中で行なわれた今回の大会。これはボードッグの資金力うんぬんだけで実現できるものではない。この大会は、MMAが単なる競技とかショーから、世界中の経済や政治に関わる〝怪物〟へと変化した象徴とも言えるのではないだろうか。その意味で、間違いなくこの大会は、MMAの歴史に刻まれるべきである。昨年10月の『PRIDE』ラスベガス大会は、『PRIDE』の運命を変えた。そして今回のボードッグ・ロシア大会は、MMAそのものの運命を変えかねない要素を含んでいる。そしてそこにいるのは、常にエメリヤーエンコ・ヒョードル、その人なのである。

UFCと『PRIDE』が〝合体〟し、K－1が世界の各団体とアライアンスを結んだ（カルビン・エアーは前日会見で、やはりこのアライアンスへの加入を否定）。MMAの世界のスケールは確実に大きくなり続けている。そして、このロシア。〝怪物〟と化したMMAは、いったいどこへ行こうとしているのか？　そしてその動きとともに注目されるのがヒョードルの今後だ。試合後はプーチン大統領官邸でのパーティに直行し、もはや我々の手の届かないところまで行ってしまったヒョードル。その動き次第で、この世界はさらに大きな激動に見舞われる可能性もある。今回のリンドランド戦は、その序曲にすぎないのではないか。怪物化した〝ヒョードル〟は、いったいどこへ向かおうとしているのか……!?



kamipro特派員・
高崎計三の
場外乱闘レポート！

スーダラロシア紀行

皇帝ヒョードル、ボードッグ参戦の舞台裏ではもう一つの闘いが行なわれていた。そう、本誌特派員・高崎氏の“ロシア”との闘いである。編集部に原稿をせっつかれながらも、まったく勝手がわからない遠くロシアでドタバタ走り回った特派員の奮闘ぶりを、どうぞ、お読みください。

（この原稿は『kamipro Hand』スペシャルコラム・ボードッグ取材日記をもとに制作されたものです）

★ついにロシア潜入！前日会見でヒョードルが……!?

来ちゃったよ、ロシア。サンクトペテルブルグって、日本とは正反対のはじっこなのね。そりゃあボードッグの二度目のPPV大会、しかもヒョードルが出るっつーんだったら、注目せざるを得んわな。

そもそも、ヒョードルには何度かインタビューしたことがあるけど、エキサイティングな話になったことがほとんどない。ロシア人選手に多く見られるような「誰が相手でも全力で頑張ります」的なことを、あの薄～い微笑とともに言われるのがほとんどなのである。

だけど、そんなヒョードルも人の子。地元での凱旋試合ともなれば、ちょっとは気も緩んで普段とはまったく違った「心の声」を聞かせてくれるかもしれない。そう思って、はるばるやって来たってわけですよ。

しかし、現地入りしたはいいが、じつはボードッグスタッフと連絡を取る術があまりない。そもそも、スタッフや選手たちが泊まっているホテルが近いのかどうかもよくわからない。不安な中、とりあえず「着いたよ」とメールだけして、寝た。翌13日は前日会見&公開計量とは聞いていたものの、おそらく午後始まりだろうと思ってたし。

翌朝、朝食から戻ってメールを開いたのが10時15分頃。そしたら広報から返事が来ていて、「会見は11時からだよ！」と書いてるではないか！　遅いって！（泣）。とにかくバタバタと準備をしてホテルに到着。

ホテル最上階のカンファレンスルームでの会見では、今回も守秘義務契約書にサインする。北米でのPPVは試合から8時間後なので、それまでは結果を漏らしません、という誓約書だ。うーん、このへんがいつもながらボードッグ。

会場にはアレキサンダーは先に来ていたんだが、ヒョードルは開始ギリギリ。セコンド陣では、リンドランドのチームメイトであるダン・ヘンダーソン、ソクジュあたりが目立つ。待ってるあいだに、アレキサンダーとダンヘンのツーショットを撮ったりして。



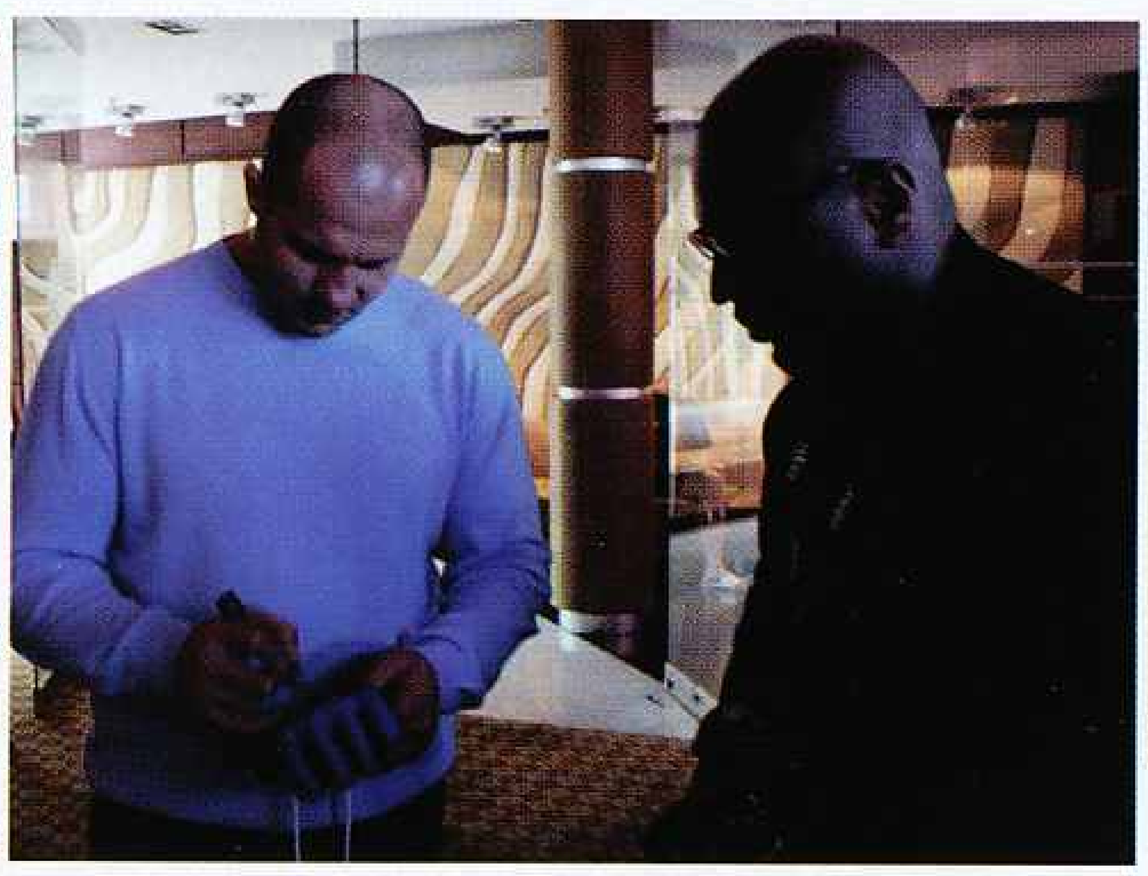
なんと！　ダンヘンがボードッグに登場!?……と思いきや、チーム・クエストのリンドランドのセコンドとしてロシアにやってきただけでした～。アレキとバッチリ、ツーショット！

さて、いよいよ会見。いつもどおり、ヒョードルのコメントはここでも当たり障りない感じ。質疑応答では『kamipro』でもおなじみ『MMAWeekly』のスコット・ピーターソンが契約問題に切り込むも、「官僚が下書きしたんかい！」と思うような無難な発言に終わる。うーん、やっぱりこのロシアでも、ヒョードルは変わらないのだろうか？

そういえば、おもしろい現象が一つ。関係者がヒョードル兄弟にサインをもらおうとしていたのだが、用意していたのが『PRIDE』のオープンフィンガー・グローブ（笑）。すると、アレキサンダーは「これにはちょっと……」とやんわり拒否。



「私は最も強いファイターと出会いたいだけです（微笑）」と、いつもの調子で記者の質問に答えるヒョードル。隣にいるカルビンさまの顔がなぜか真剣。



ボードッグの会見場で『PRIDE』のグローブを差し出され、なんなくサインする皇帝ヒョードル。お人好しなのかそうでないのかまったくわからない……。

でもヒョードルは、なんらかまわずスイスイとサインするではないか！　まあ、アレキは彼なりに、ボードッグに気を遣ったんだろう。だからどうってことはないのだが……。

★いよいよ大会当日、なぜかリングサイドで撮影できず……。その理由とは!?

さあ、いよいよ迎えた大会当日！　開場前に関係者へのインタビューなども取り、リングサイドでの撮影場所などを確認して、あとは大会開始を待つだけ。さあ、早く来いヒョードル！　……などと威勢がよかったのは、じつはここまで。このあと、ロシアの真の恐ろしさをまざまざと体感させられることになる！

会場のアイスパレスは、もともとはフィギュアスケートやアイスホッケー用に作られた会場（だと思う）。ボードッグは2・3階席を潰して、約7000席での使用（アリーナ込み）。これでチケットは完売しているというから驚かざるを得ない。



7000席を完売させたというボードッグ。ここアイスパレスは、オジー・オズボーン、イエス、ディズニー・オン・アイスなども行なわれる会場らしい。

さて、18時になってイベント開始。PPV本戦は19時からで、最初3試合は番組の時間調整用に組まれた「アンダーカード」。第1試合では、昨年10月に日本での「MARS BODOG FIGHT 01」でもヘロヘロの姿を見せてくれたフィンランドのヤルノ・ヌールミネンが登場。1ラウンドから、二人ともスタミナが切れるってどういうこと？ 相手のアメリカ人はトランクスがユルユルで半ケツ見せてるし。こんなんが最初の試合で、ロシアのお客さんは大丈夫なんかしら。

で、その試合がどうにか終わって第2試合の入場を……と、場所を変えた瞬間！ うしろからスーツを着たロシア人の男がオレの手首をつかんで、何やら言っている。どうやら、「リストバンドは？」と聞いているらしい。さらにロシア男は何人も集まって来やがって、「ちょっと向こうまで来い」と腕をつかんだまま連れて行こうとするじゃないか！いやホント、身の危険を感じるというのはこのことですよ。「いや撮影はOK出てるから！ スタッフに聞け！ 試合が始まるじゃねーか！」とどんだけ言っても関係なし。

特派員はロシアの真の恐ろしさを身をもって体感させられることに！

すると、その一団で英語がわかるらしい女性が駆けつけてきて、「リストバンド、いまから出すから来てくれ」と一言。ああ、そうか。勘違いして悪かった、じゃあ行こう……などと思ったのは甘かった！

連れてこられたカメラマンはオレ含めて4人。ボードッグ側は「間違いなく6人のカメラマンの氏名を事前申請してある！」と言うのに対し、向こうは「カメラマンは二人しかリストになかった。リングサイド撮影を許可できるのは二人だけ。あとはダメ！」の一点張り。

結局、どれだけ粘ってもダメ……。くそー、なんでこんなことに！

しかし、どうしてこんなことが起こったのかは何試合かあとにわかることになる。

PPV本戦2試合目が終わったあと、ジャン＝クロード・ヴァン・ダムに続いて紹介されたのは、なんとプーチン・ロシア大統領！ 結局、プーチン警備のモロモロで、単にとばっちりを食っただけらしい。くそー、プーチンめ。ロシアめ。ヒョードルの心の声どころか、その試合すら国家権力のせいで遠のいてしまった……。

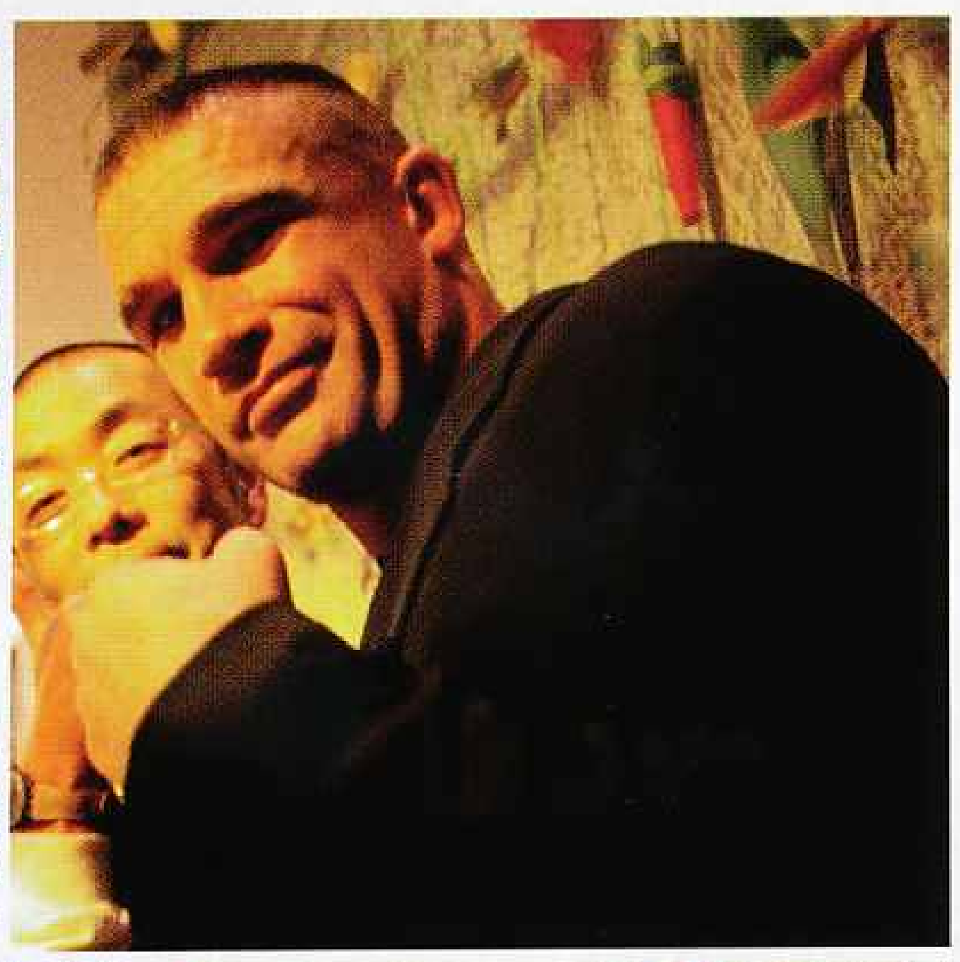
衝撃の大会後はボードッグおなじみのどんちゃん騒ぎ！★

大会後、スタッフや一部選手たちは打ち上げパーティに突入！ 川に浮かぶ船上クラブ「フライング・ダッチマン」は一般客も入れるようになっているため、人・人・人で満杯！ そんな中にカルビンさまやダンヘン、ピーター・アーツなんかもいるんだからたまらない。たまらないといえば、ボードッグのロゴを身体にペイントしたトップレスのオネーちゃんたちがリング型の舞台で踊り狂う意味不明のショーも凄い！ ほかの部屋では中世王族の仮装をした一団がいるし、とにかく〝狂乱〟の一言。なんでも前回のロシアでのパーティがもの足りなかったカルビンさまが、「もっと徹底的にやれ！」と指示したんだとか。プーチン大統領官邸に招かれた選手たちもあとから合流、宴はいつまでも続いていくのだった……。

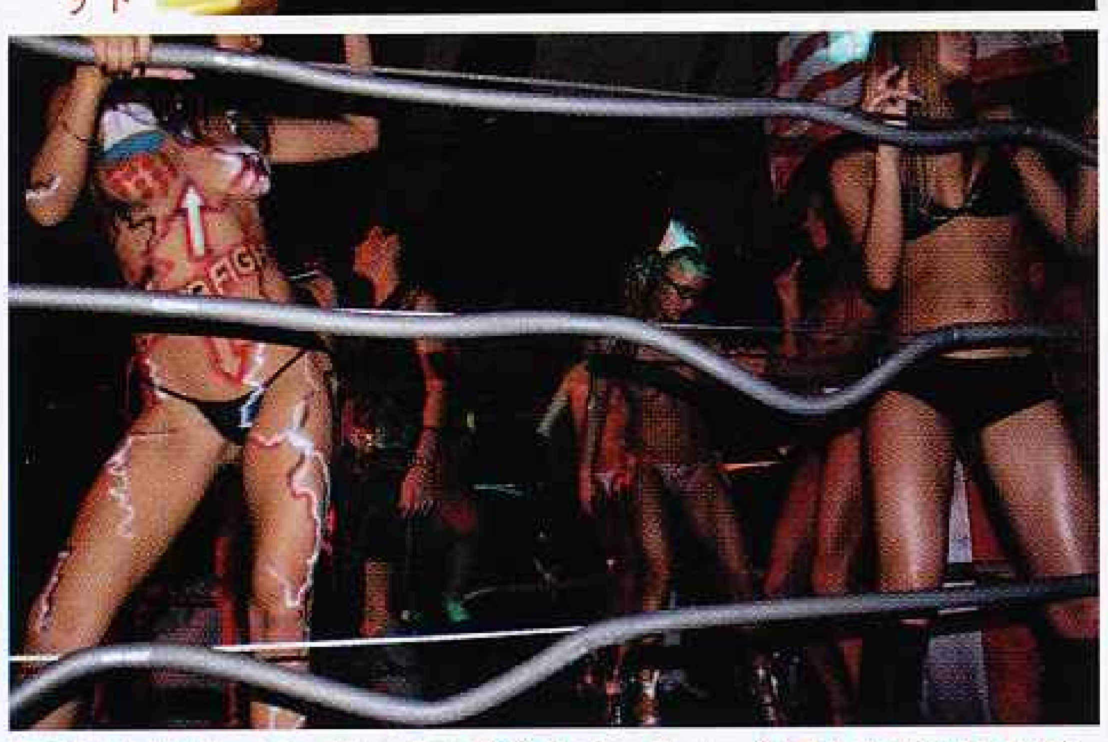
締め切りの都合上、今号ではボードッグ・ロシア事情はここまでしかお伝えできないが、『kamipro』特派員としては例によってカルビン・エアーのインタビューも収録済！（今回はなんとしょっぱなに収録できた！）。というわけで、ボードッグ・ロシア大会の続報はぜひ111号にご期待を!!



ボードッグ・ガールズ、バンザ〜イ！ というわけで、前回コスタリカのエキゾチックな人選とはうって変わって、今回は“アク”の抜けたようなスマートな人選に。



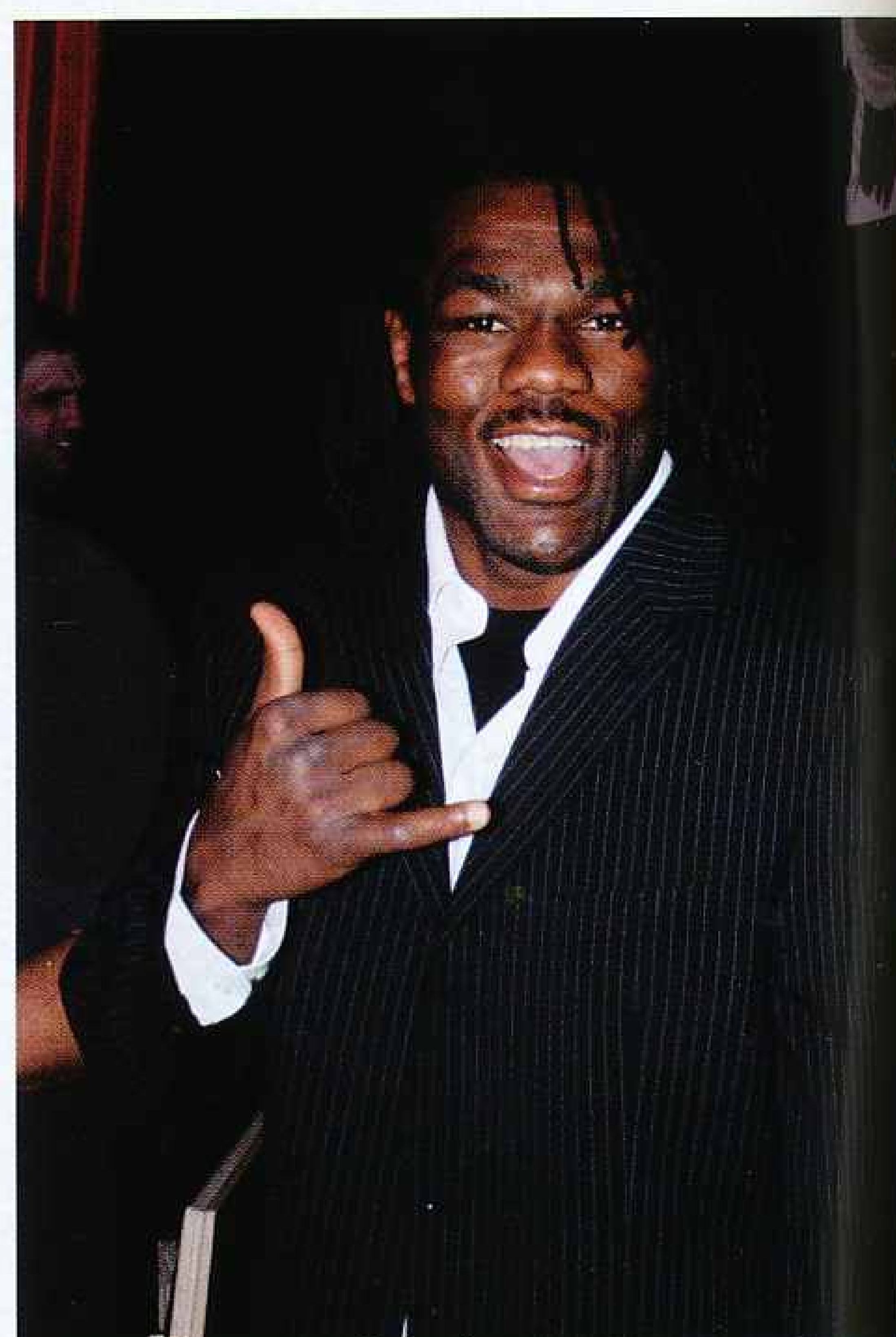
K-1転出が噂されているピーター・アーツを堂々ボードッグの会場で発見！ 大会後のパーティにも参加したそうだが……。どうなる、K-1!?



毎度おなじみ、ボードッグ大会後のパーティ。今回もなぜか裸のダンサーたちが仮設リング上でセクシーダンスだー!! 相変わらず、まったくわけがわからない！



今回はプーチン露大統領、ベルルスコーニ伊前首相らの来場など“サプライズ”の陰に隠れていたカルビンさまだが、このとおり！ オネーちゃんと一緒にバッチリ健在ぶりをアピール!!



なんと！『PRIDE.34』でアローナと闘ったばかりのソクジュを発見!! ダンヘン同様、リンドランドのセコンドについたソクジュも日本からロシアへ直行したそうだ。

“闇の新興勢力”ボードッグ、FEGとの連合を否定!

やっぱりわからない

ボードッグは闇の中

photo／FightSport

やっぱりなんだか、ボードッグ周辺が熱い！ のである。3月27日は日本で「UFC-PRIDE同盟軍」（と言っていいのかも微妙なところだが）が全貌を現わし、アメリカではK-1が『Dynamite!! USA』開催にあたり世界の格闘技団体とアライアンスを結んだという、いわゆる「K-1／FEG連合」の存在が明らかにされた画期的な一日となった。そして奇しくも、その両方の会見で主催者の口から〝ボードッグ〟の名前が出たのである。

『PRIDE』会見では、代表の座を降りることとなった榊原信行氏が「ボードッグに代表されるアメリカの新興勢力」と、わざわざ一つだけ名前を挙げて説明。そしてK-1会見では、彼らが実現した総合格闘技アライアンスの中に「カナダの『ボードッグ・ファイト』」も含まれていると発表された。

今号には結果も出ているが、4・14ロシアでのPPV大会で「エメリヤーエンコ・ヒョードルvsマット・リンドランド」なんてカードを組むボードッグを、U／P側が敵視するのは当然の話。契約違反を承知で出場させる「引き抜き」ではないものの、ファンからすれば「あれ？ ヒョードルはボードッグに移籍したの？」となる。それに加えてリンドランドなどの元UFCファイターを起用するボードッグは、やろうとしていることの規模も大きいだけに、できるだけ早く叩いておきたい存在だろう。たとえそれが、ダナ・ホワイトの言うように「ジョーク」だとしてもだ。

新興勢力の一例としてただ名前を出したにすぎない『PRIDE』会見と違って、K-1側の会見は「アライアンスに参加する」というものだから、ボードッグにとっては直接的に関わりのある話。だが、じつはこの発表はボードッグの知らないところで行なわれていた！ とボードッグは主張。（この一連の経緯については谷川貞治FEG代表も語っているので、18ページも読んでみよう！）。

そもそも、この会見にボードッグ関係者が列席していなかったことが象徴的でもあったわけだが、3月31日、ボードッグはプレス向けにこんなリリースを発表した。

「ボードッグ・ファイトからの声明『Dynamite!!』記者会見について。（前略）ボードッグは過去にK-1／FEGを含む多くの組織とコミュニケーションを取ってきましたが、私たちはK-1／FEGとはいかなる同意にも至っておりません。したがって、3月27日にロサンゼルスで行なわれたK-1／FEGの記者会見で配布された会見資料にはボードッグの名前は記載されておりません。（後略）」

このリリース、後半は「4月27日からパンクラスの会場その他でボードッグのオフィシャルグッズを販売する」ことを発表し、「パンクラスとのコラボレーションはMMAの未来のために私たちが築こうとしている世界規模の重要なアライアンスです」と結んでいる。正直、グッズ販売の件は唐突な気がするが（笑）、ここで強調されているのは言うまでもなく「K-1／FEG連合に入った覚えはないよ」ということだ。

実際問題、アメリカでの会見で配られた英文の会見資料には、ボードッグの名前は入っていない。ではなぜ、一連の報道でボードッグが登場していたかといえば、日本のマスコミ向けに出されたリリースにのみ、ボードッグの名前が含まれていたからだ。日本のマスコミ各社はその内容を報じただけだが、そもそもここに名前が入っていたのはどういうわけなのだろう。

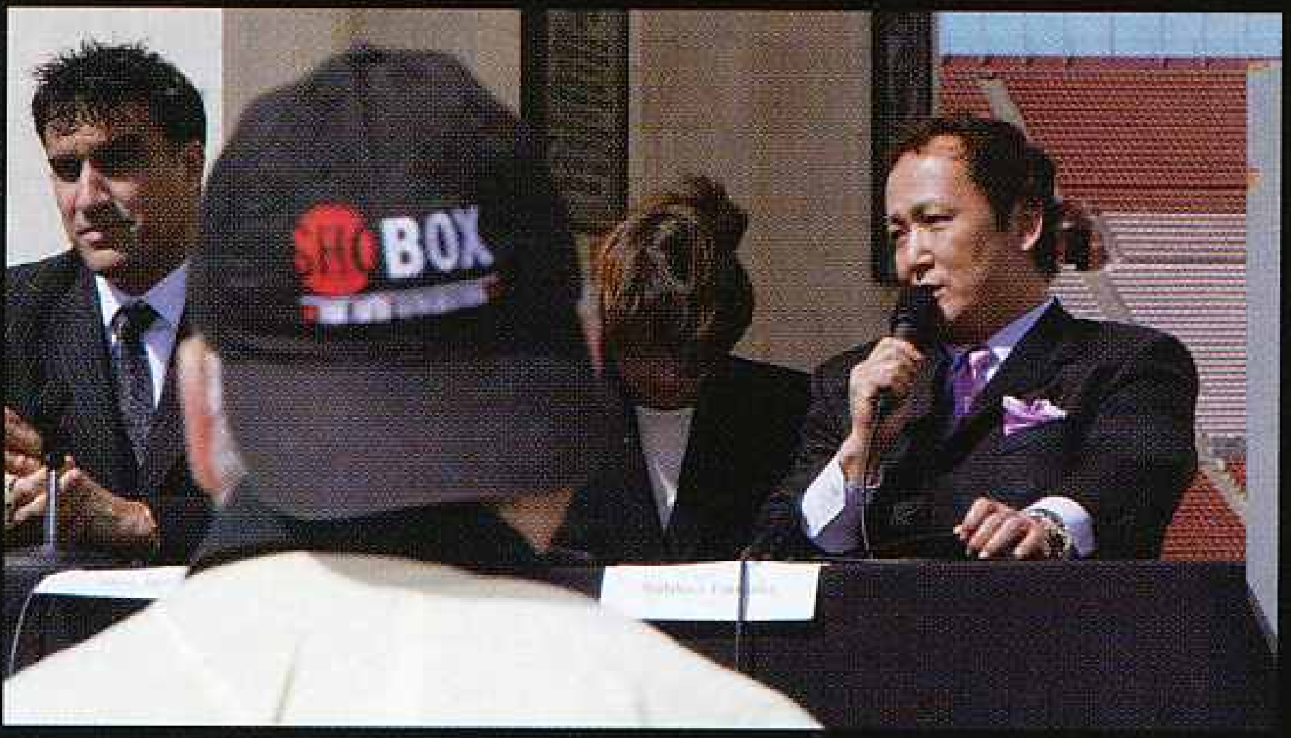
いまなお独自路線を行くボードッグ ジョークで終わるか？ それとも……!?

ボードッグスタッフによれば、上記の声明でも認めているとおり、K-1とのあいだでコンタクトがあったことは事実だ。だがそれは、「会見の二日前に突然、『航空券を送るから出てくれ』という電話がかかってきた」という一方的なもの。この時点でボードッグにはこの会見に出席する意思がないこと、そして会見でボードッグの名前を出すのであれば事前にリリースを見せて承認を得るように、という旨を伝えているという。だがその後、航空券は〝予定どおり〟送られてきて（当然、使われなかった）、日本語版のみとはいえリリースには名前があった。そこでボードッグは急遽、前記の声明を発表したというわけである。

このことからもわかるとおり、ボードッグは現時点で、ロレンゾ・フエティータ率いる「UFC-PRIDE同盟」にも、「K-1／FEG連合」にも、参加するつもりはない。彼らは独自の道から、この世界規模のMMA戦争に打って出ようとしている。そしてその戦略のパートナーとして、ロシアにはレッドデビル、日本にはパンクラスが存在するという図式だ。これまでもさんざん紹介しているとおり、ボードッグの手法はあまりに突拍子もないものなので、この選択がはたして正しいのかどうか、彼らに勝ち目があるのかどうかは、現時点ではなんとも予測できない。

だが一つ言えるのは、世界が大きく二分されるかに見える情勢の中「ちょっと待った！」と独自路線を強調するあたり、やっぱりボードッグはユニークな存在だということ。これまではその資金面ばかりが取り沙汰されてきたが、弱点とされてきた競技面、運営面での改善も着々と進めている。大規模な計画もいくつか進んでいるという話もあるし、彼らが本腰を入れてくるのはいよいよここから、ということらしい。

いろんな意味で、これまでの〝巨頭〟たちから見ても見すごすことのできない存在であるらしいボードッグ。彼らが本当に「ジョーク」で終わるか、それとも彼らにしかできないやり方で大きな成果を挙げるかによって、世界のMMA界全体が影響される……と言ったら言いすぎ!? いずれにしても、いまはその動向から目を離さないほうがいいことは確かだ。



3月27日、アメリカ・ロサンゼルスにてアライアンス宣言を行なった谷川FEG代表。日本向けのリリースにはアライアンスの中にボードッグの名前も入っていたが……。現状、この件に関しては両者の主張はズレが生じているようである。









ボードック・ロシア大会詳報から
IGF旗揚げ、ザ・グレート・サスケの岩手県知事選速報まで!
携帯サイト「kamipro Hand」はいつだってWORLD WIDEです!!

月額 315円 (税込)

携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1 QRコードでクイック・アクセス!!

2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス

3 hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

DoCoMo (※もしくは「kamipro」で一発検索!!)	iMenu ▶	メニュー/検索 ▶	スポーツ ▶	格闘技/大相撲 ▶
au/TU-KA	トップメニュー ▶	カテゴリで探す ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
Softbank	メインメニュー ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
WILLCOM	趣味&スポーツ ▶	スポーツ ▶	総合 ▶	
	エンターティメント ▶	TV・メディア・本 ▶	本 ▶	

kamipro Hand

[QRコード]

ゴールデンウィークは大会ラッシュ! Handは休みなく追いかけまくります!!

[お問い合わせ] (株) ダブルクロス TEL.03-5368-1795

kamipro SHOPPING



ケータイサイトは
もちろん
24時間受付OK!
非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo	iMenu ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技／大相撲 ▶
※もしくは「kamipro」で一発検索!!				
au/TU-KA	トップメニュー ▶	カテゴリで探す ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
SoftBank	メインメニュー ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
WILLCOM	趣味&スポーツ ▶	スポーツ ▶	総合 ▶	
	エンターティメント ▶	TV・メディア・本 ▶	本 ▶	

kamipro Hand

[QRコード]

アターエフ欠場……、ハリTを着て、ロシアン・トップチームの復活を待て!!

kamipro ハリトーノフ Goods



ハリトーノフ スポーツタオル
¥3,150(税込)



ハリトーノフ パラシュートパーカー[★]
[M·L·XL アッシュグレー／ネイビー] ¥6,300(税込)



ハリトーノフ ジャージ
[M·L·XL ホワイト&レッド] ¥7,350(税込)





ハリトーノフFACE Tシャツ[★]
[S·M·L·XL カーキ／ホワイト／レッド] ¥3,990(税込)



ハリトーノフ "死神" Tシャツ
[S·M·L·XL ホワイト] ¥4,200(税込)



ハリトーノフSTAR Tシャツ
[S·M·L·XL レッド] ¥3,990(税込)

アンタ! 言うちゃ悪いけど、売れてますよ!!(ドンッ!)



I編集長 "殺し" Tシャツ
[S·M·L·XL ブルー] ¥3,990(税込)

母親が母乳を出してもニューリン様グッズは販売中!! ハッスル&kamipro Collaboration Goods

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]



(単位はcmです)

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24



ニューリン様 "SIGN" スウェット トートバッグ
[ブラック(プリント:ピンク)、ブラック(プリント:シルバー)]
¥2,100(税込)
※バックサイズ:24×11×35cm (持ち手のぞく)



ニューリン様 "SIGN" Tシャツ
[Lady's M ブラック] ¥3,990(税込)



ニューリン様 "SIGN" Tシャツ
[M·L·XL ブラック] ¥3,990(税込)



ニューリン様 "SIGN" パーカー
[Lady's M アッシュグレー] ¥6,300(税込)



ニューリン様 "BERO" Tシャツ
[Lady's M ブラック] ¥3,990(税込)
(身丈57cm、身巾38cm,袖丈13cm)



ニューリン様 "BERO" Tシャツ
[M·L·XL ブラック] ¥3,990(税込)



ニューリン様 "SIGN" パーカー
[M·L·XL ブラック] ¥6,300(税込)

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

★全国どこでも送料一律500円です。(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せください)

★代引き手数料は315円です。(代引き金額によって異なります)

「kamipro Hand」でご注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合

平日13:00〜19:00
(株)ダブルクロス
TEL.03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送りください。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承ください)。
販売元／(株)ダブルクロス

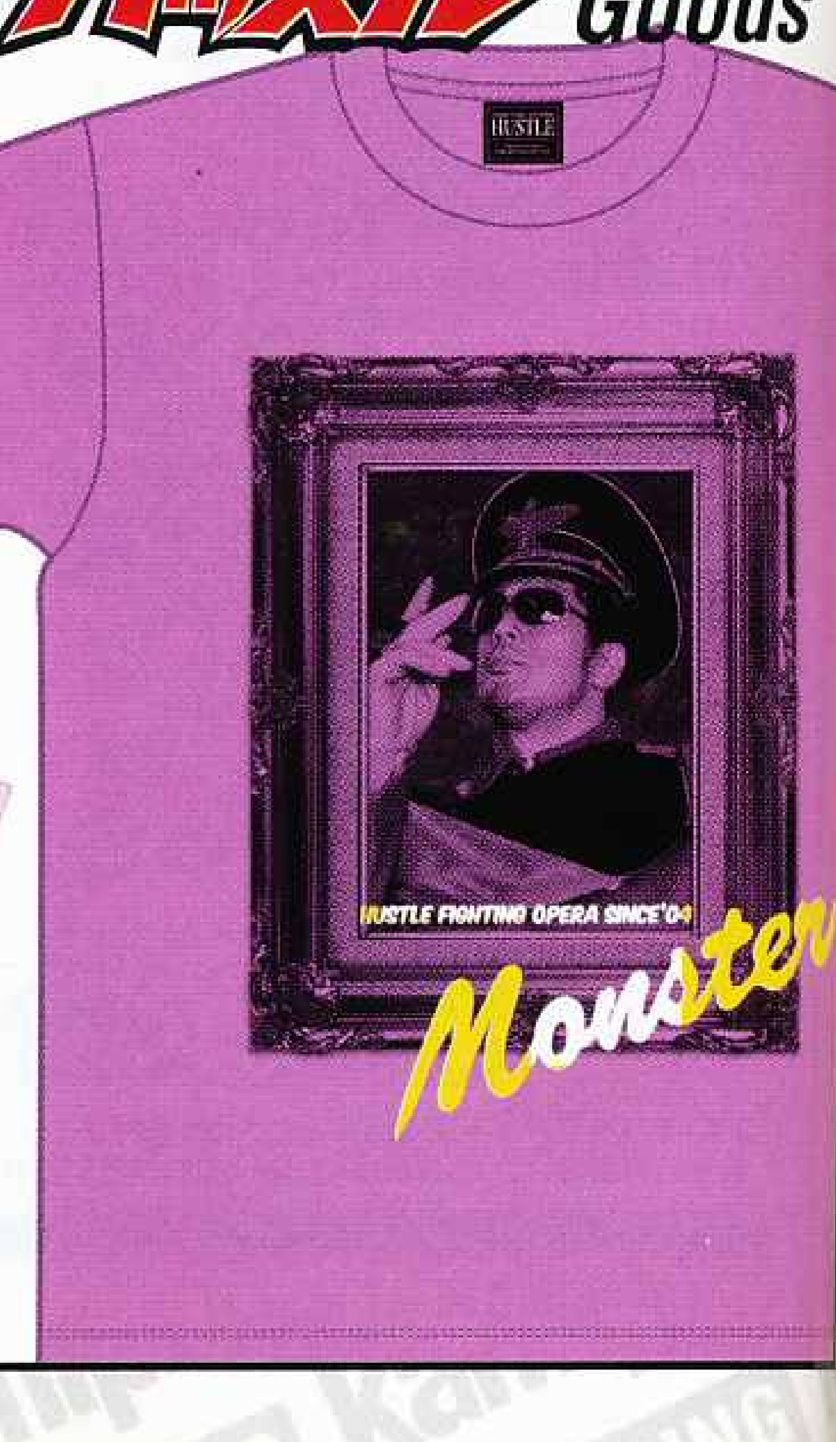
『PRIDE』DSE体制終焉! されどハッスルは続くよ、どこまでも〜! ハッスル Goods



HG PHOTO Tシャツ
[S·M·L·XL シルバーグレー]
¥3,990(税込)



MONSTER K PHOTO Tシャツ
[S·M·L·XL ライトイエロー]
¥3,990(税込)



高田総統 PHOTO Tシャツ
[S·M·L·XL ラベンダー]
¥3,990(税込)



GMW PHOTO Tシャツ
[S·M·L·XL ライトブルー]
¥3,990(税込)



司令長官&二等兵 PHOTO Tシャツ
[S·M·L·XL ライム]
¥3,990(税込)



ニューリン様 PHOTO Tシャツ
[S·M·L·XL ライトピンク]
¥3,990(税込)

※価格はすべて税込みです [★]の商品は在庫終了次第、販売終了となります

バラちゃん、お疲れさま!!（髙田本部長調）

プレゼントコーナーも“新体制”!?

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（賞品は5月22日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦PRIDE vs UFCに期待することは?⑧こんな読者プレゼントがほしい!

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス「kamipro」編集部「ビーストコールですねぇ〜!」係まで
※締切は2006年5月21日（月）当日消印有効

kamipro 110 応募券
パンク塾に入りた〜い(by江)

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

PRIDE



サイン入り

3名様

榊原代表サイン入り『PRIDE FOREVER』CD

いよいよ、この4月でDSEの代表を勇退する“バラちゃん!”（髙田本部長調）こと榊原氏が、4.8『PRIDE.34』で来場者に配布された『PRIDE FOREVER』のCDにサイン入りで3名様にプレゼント！　内容は聴いてみてのお楽しみダン！　ダン!!　ダダン!!!

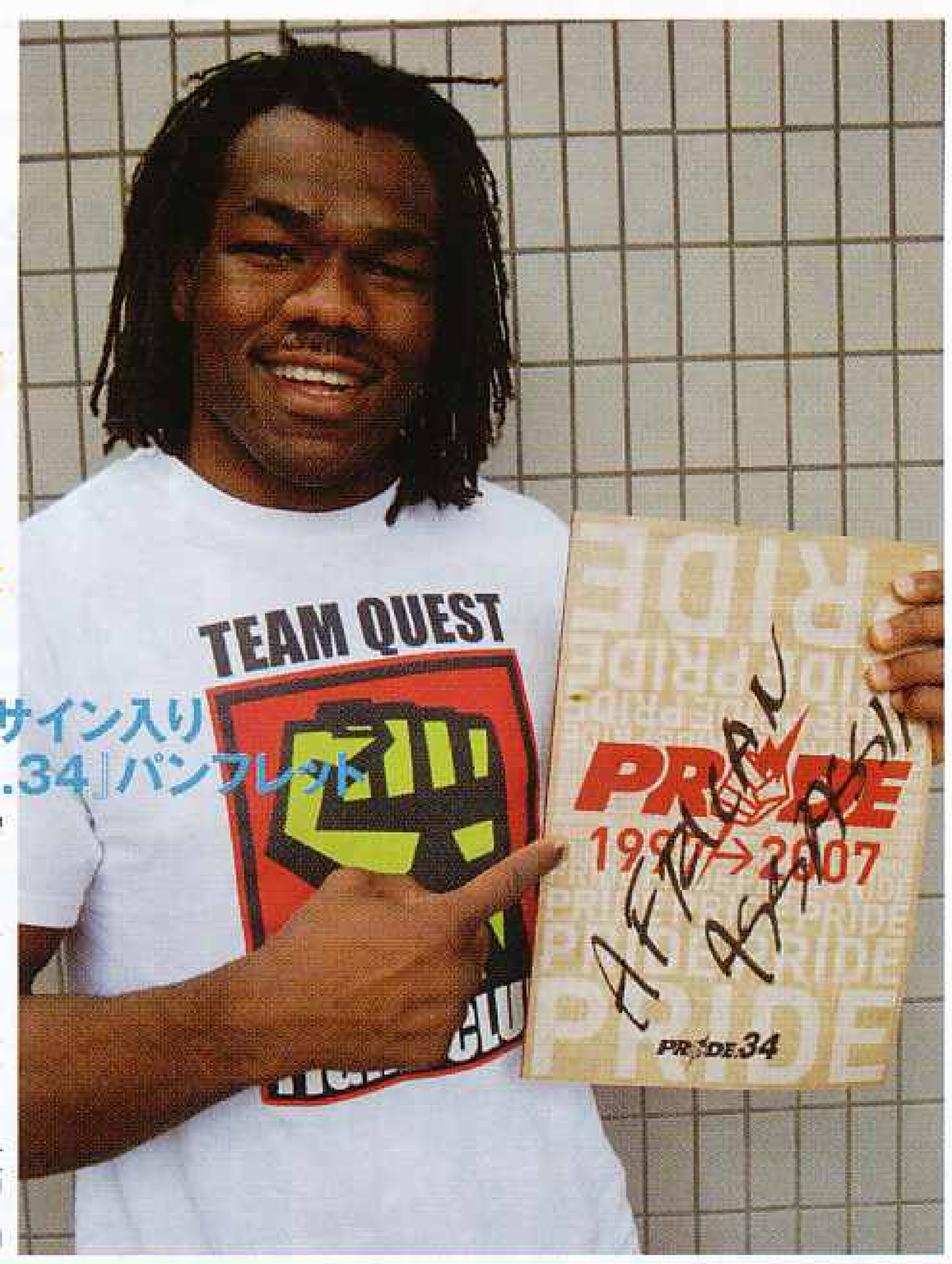


サイン入り

1名様

田村潔司サイン入りオープンフィンガーグローブ

『PRIDE・34』へ登場し、ひさびさに本誌の表紙をゲット!!　した“誰よりも自分の値打ちの上げ方を知っている男”田村がサイン入りのオープンフィンガーグローブを大盤振る舞い！　この気前のよさの裏にはいったい何が……!



サイン入り

1名様

ソクジュ サイン入り『PRIDE.34』パンフレット

「ドン！　ドン!!　ドドン!!」（胸を叩く音）とついに日本初上陸！　キリンもたじろぐ絶好調男、ソクジュの“アフリカン・アサシン”なサイン入りパンフレットを1名様に。『PRIDE』とソクジュの“メモリアル・デー”が君の手に。



各1名様

PRIDE 10th ANNIVERSARY Tシャツ

ホワイト、ブラック／¥4,200（税込）

三度のメシより『PRIDE』ラブ！　な貴方にぜひとも送りたい、『PRIDE』10周年記念Tシャツ。DSE体制ではラストグッズ？　な可能性もあるこのシャツを着れば、伝説の10年間がフラッシュバック！

PRIDE■http://www.prideofficial.com/

WEAR





武藤敬司サイン入り スパイダーマン vs グレートムタ ドリームマッチTシャツ

¥4,000（税込）／ホワイト

「面倒くせえなぁ……」とボヤキながら、今回の凸凹大学校では、極上の『プロレスLOVE論』をGK&ミワにブチかましてくれた武藤社長。そんな武藤社長率いる全日本プロレスからは、「いまー押し!」のムタとスパイダーマンのコラボシャツをご提供!

全日本プロレスリング株式会社■http://www.all-japan.co.jp/



越中詩郎&ケンドーコバヤシ サイン入り 「やってやるって!」Tシャツ

¥3,000（税込）

1 名様

「会ってやるって!!」とついに実現してしまった越中詩郎&ケンドーコバヤシ対談を記念して、新日本プロレスから発売中の“やってやるって!”TシャツをWサイン入りでプレゼント! 本隊ぶっ潰すつもりで応募してこいって!



東京愚連隊シャツ

本誌No.107で“流転のプロレスラー人生”を語ってくれたNOSAWA論外の東京愚連隊シャツがこのたび編集部の読プレジャングルの一角から発掘!



ダイヤモンド・キッズ・カレッジTシャツ

※サイズはXS です。

「運動好きなキッズたち、出てこいや〜!」と高田道場主催、キッズレスリング&ボクシング教室『ダイヤンド・キッズ・カレッジ』のTシャツはサイズ的にキッズ限定で!

高田道場■http://www.takada-dojo.com/



復刻 IWGP Tシャツ

¥3,000（税込）

いいか、よ〜く見ろ、これがIWGPのTシャツだ! 新日本プロレス黄金時代の熱狂を彷彿させる、80年代前半のデザインをリバイバル! バックのムキムキのライオンちゃんと胸に輝くIWGPマークにオールドファンは昇天確実?



オープニングシリーズ パンフレット・Tシャツ

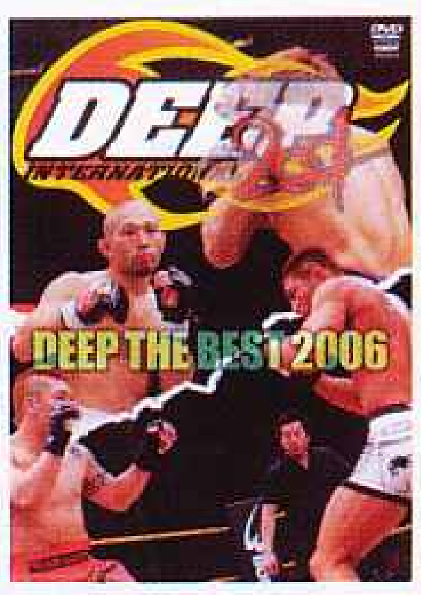
¥3,000（税込）

「あの頃はパンフも、ポスターも俺が作ってた!」という“鬼軍曹”山本小鉄の証言からすると、このデザインも小鉄作!? な可能性もある新日本プロレスのオープニングシリーズパンフレットの表紙がTシャツになって新発売。

新日本プロレスリング株式会社■http://www.njpw.co.jp/ 闘魂SHOP■http://shop.njpw.co.jp/

DVD











全日本プロレス コンプリートファイル 2006 2ndステージ

本編61分+特典148分／¥6,300（税込）③

森喜朗前首相もパイプイス片手にブチキレ!? 両国を揺るがした馳浩の引退興行から、鈴木みのるの三冠ロード、さらに神奈月&原口あきまさも登場した究極の“ものまねプロレス”まで! 06年後半の全日本を完全パッケージ!

全日本キック 2006 BEST BOUTS

195分／¥5,880（税込）①

先日、引退したエース小林聡を筆頭に、激闘のタイ遠征など、老舗・全日本キックの06年の名勝負23試合を厳選して収録!

DEEP THE BEST 2006

245分／¥5,880（税込）①

長南亮vs桜井隆多、“足関十段”今成のフェザー級タイトルマッチなどを収録した06年『DEEP』の総決算がこの一枚に!

芦原空手 サバキテクニック 西山道場篇

87分／¥5,880（税込）①

“美少女空手家”小林由佳ら、数々の有力選手を輩出する芦原会館東京本部西山道場。その強さの極意があきらかに!

糸洲流空手道型大鑑（二）

123分／¥5,880（税込）①

空手道とは何か? 学校体育に空手を取り入れ、空手普及に貢献した糸洲安恒師が糸洲流“型”のすべてを紹介!



愛しのOYAJI

93分／¥3,701（税込）②

原作者であり、劇中で見事な演技を披露している真樹日佐夫先生も「平成の寅さん!」と太鼓判の義理人情劇がDVDドラマ化! エンセン井上や藤原組長の演技も見逃すな!

①QUEST■http://www.queststation.com/ ②GPミュージアムソフト■http://www.gp-museum.com/ ③ユークス■http://www.yukes.co.jp/

OTHERS

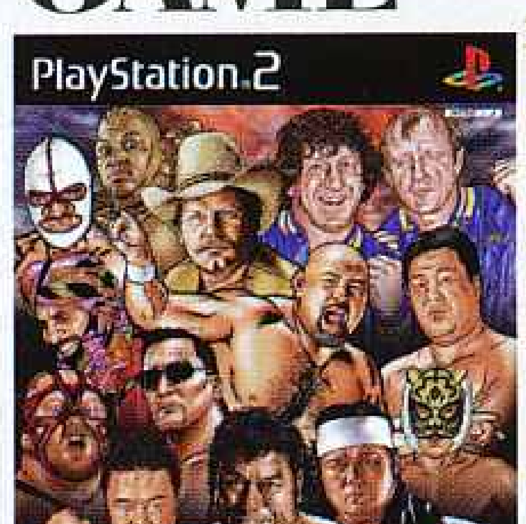


デヴィ夫人サイン入り著書『社交界への誘い』

リヨン社／¥1,575（税別）

まさかの本誌初登場! “芸能界一のセレブ”デヴィ・スカルノ夫人から、ヒマでモテない本誌読者に少しでも気品を持ってもらうため、セレブマナー満載の著書をご提供いただいた。若き日のデヴィ夫人の写真も盛り沢山だって!

GAME



1 名様

レッスルキングダム2 プロレスリング世界大戦

プレイステーション2／¥7,140（税込）③

ハンセンに鶴田にブッチャー、シン。そしてあの船木誠勝まで参戦!! プロレス殿堂入り決定なスーパー・レジェンドが勢揃いした『レッスルキングダム』の最新作は、プロレスゲーム界の究極のキラーソフト!（5月10日発売）。





ザ・グレート・サスケ サイン入り岩手県知事選挙ポスター&名刺

セットで 1 名様

「バンザ〜イ、なしよ」と岩手県知事選挙に“屈辱の落選”をしてしまったザ・グレート・サスケ。だが事務所内の重い空気にもめげずに本誌・松澤チョロが選挙ポスターと名刺をゲットしてきた。これはレアものだ!

kamipro 紙のプロレス
No.110
2007年5月7日 発行

発行人
浜村弘一
編集人
斉藤慎一
青柳昌行
編集統括本部長
ジャン斉藤
編集スタッフ
堀江ガンツ
松下ミワ
真下義之
ターザン上杉!
八木賢太郎（階段落ち恐怖症のため非番）
電気部
さざきぃ
松澤チョロ
企画制作部
坂井ノブ
終身名誉バイザー
吉田 豪
助っ人
ジャイ子
編集次長（闇の御意見番）
松林 貴
デザイン大将
出田さん（TwoThree）
デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）
デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上、さおとめの事務所）
カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
丸山剛史
平工幸雄
山口比佐夫
松本 崇
黒田史夫
吉場正和
平 専英
お勘定&衣料部
ニュー林様
スーパーヒーロー？
入江ンジャー（TwoThree）
雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠
助っ人営業
上野宏樹
業務部
割石“新宿で待ってまぁ～す”芳司
新弟子編集庶務
原 正典
終身名誉編集庶務
高木由美子
編集チアガール
金川奈津子
広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）
発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）
印刷
図書印刷株式会社
協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00～17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

“夢の懸け橋”実現!?



※自分のブログにアップするためか、サク・タイガー＋タムラ・ボディという謎の組み合わせを撮影する田村潔司さん

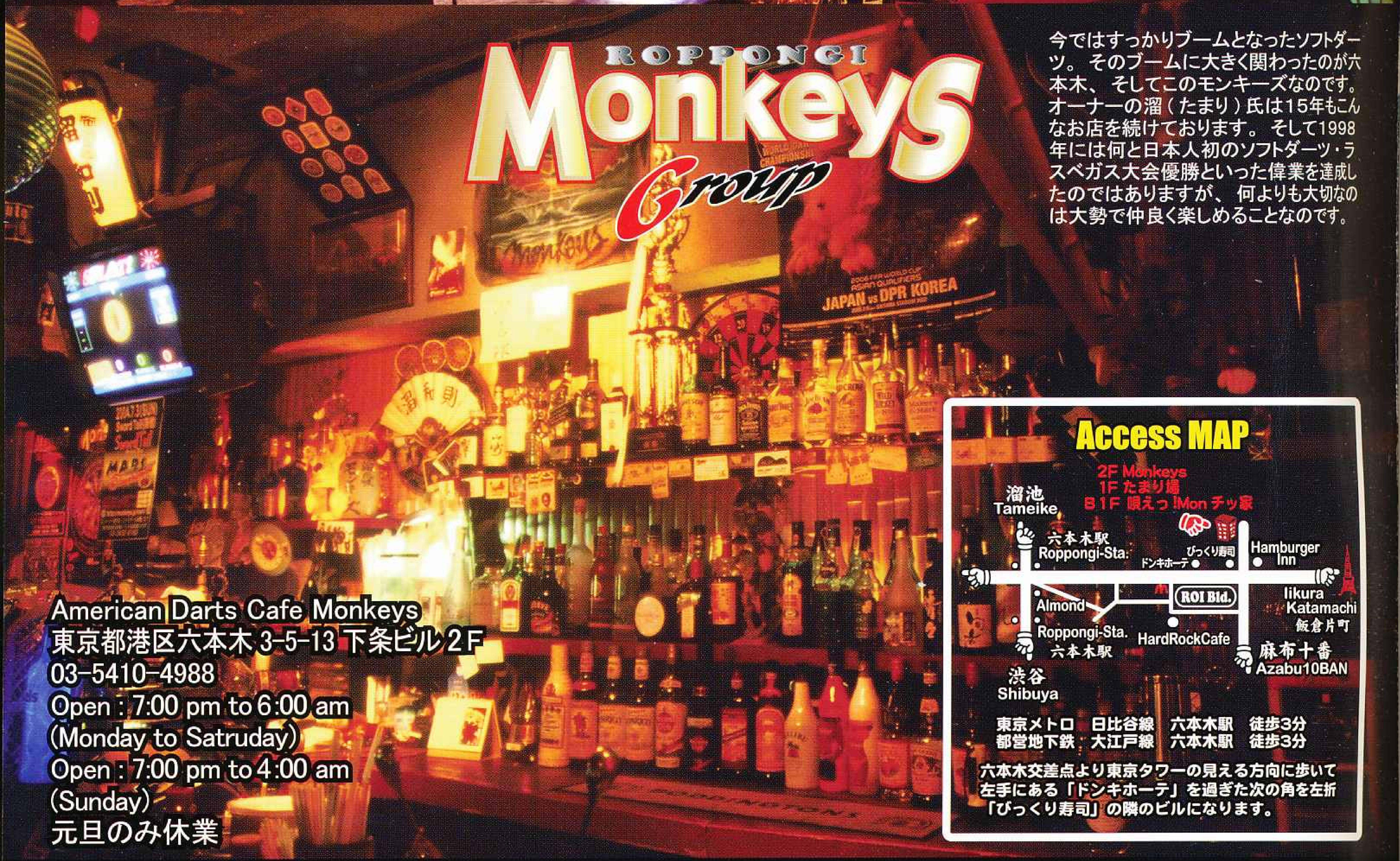
NEXT ISSUE

覇王ミルコ、オクタゴン第2戦はどうなった!?
4.21 UFCイギリス上陸徹底詳細、
6.2『Dynamite!! USA』直前大特集号？

次号No.111は
5月22日(火)発売予定!

※地域によっては多少発売日が遅れます。





今ではすっかりブームとなったソフトダーツ。そのブームに大きく関わったのが六本木、そしてこのモンキーズなのです。オーナーの溜（たまり）氏は15年もこんなお店を続けております。そして1998年には何と日本人初のソフトダーツ・ラスベガス大会優勝といった偉業を達成したのではありますが、何よりも大切なのは大勢で仲良く楽しめることなのです。

American Darts Cafe Monkeys
東京都港区六本木 3-5-13 下条ビル 2F
03-5410-4988
Open : 7:00 pm to 6:00 am
(Monday to Satruday)
Open : 7:00 pm to 4:00 am
(Sunday)
元旦のみ休業

URL http://monkeys.jp/



姉妹店その1（同ビル1階）
炭焼き・奄美料理 居酒屋
「たまり場」 03-5474-5101
その居心地の良い空間と酒の肴は格別！奄美出身のオーナーが直接仕入れる黒糖焼酎も40種程度を常備。自称「和風スポーツバー」とあって店内にはダーツの逸品やスポーツ中継も行われている。
6:00 pm 〜 7:00 am



姉妹店その２（同ビル地下１階）
ステージカラオケ & ダーツ
「唄えっ !Mon チッ家」 03-3401-1095
今では定番となったカラオケ。大勢の前で唄って盛り上がれるお店が意外と減ってきたと思いませんか？そんな時代にモンキーズが新たな空間をこの六本木にプロデュース。プロ並みの機材の中で唄うカラオケは気持ちがいい事間違いなし！各種パーティーにも使えるお店です。
9:00 pm 〜 9:00 am 日曜定休

Tamari Darts Design LAB.
Tamari
Original Darts

MARS
Tournament & Rating Systems

MONKEYS FACTORY
Apparel & Original Goods

Monkeys Company Ltd.

有限会社 たまり（飲食店経営）
有限会社 モンキーズ
(ダーツマシンリース / オリジナルダーツ作成販売 / 雑誌
MARS Tournament & Rating System / アパレル関連
オリジナルグッズ / LION BEER 販売 / イベント運営)
東京都港区六本木 4-5-13 岩渕ビル 1F
TEL. 03-3478-5260 FAX. 03-5785-4244



ダーツをするならこの一杯！
LION
Monkeys Brand BEER
深い味わいの黒「STOUT」
さらっと飲みやすい「LAGER」
当店お勧めのビールです！
各店舗にて好評販売中！
原産国 : スリランカ 輸入元 :SHAKTHI Corp. 販売 : (有) モンキーズ

ライオンビール取り扱い店募集中！詳しくは（有）モンキーズまで。

kamipro 110 2007
ジャパニーズ・スタイルを守れ! 夢の懸け橋、必要ですよ!!
2007年5月7日
発行人／浜村弘一　編集人／斉藤慎一、青柳昌行　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社 ©2007 ENTERBRAIN,INC. ©2007 DOUBLECROSS
enterbrain



定価：本体838円＋税
雑誌61954-94 Ⓗ2007.8
Printed in Japan 図書印刷
ISBN978-4-7577-3474-6
C9476 ¥838E
9784757734746
1929476008381